

青森県埋蔵文化財調査報告書 第264集

野木遺跡Ⅱ

— 青森中核工業団地整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

(第1分冊)

1999年3月

青森県教育委員会



野木遺跡全景（南から）



調査区空中写真



第356号・第357号・第358号竪穴住居跡

序

本報告書は、青森中核工業団地整備事業の実施に先立ち、当該地区に所在する野木遺跡の記録保存のため、平成9年度の発掘調査の成果をまとめたものです。

調査によって野木遺跡は、多数の竪穴住居跡や土坑などが見つかかり、平安時代の大規模な集落跡であることが判明いたしました。さらに、県内で初めて検出された水場遺構や便所遺構などのほかに土器製作や製鉄関連の遺構が調査され、当時の集落の全体構造を知る手がかりとなりました。

本報告書を刊行するにあたり、今後の郷土史の究明、文化財の保護・活用に役立てれば幸いです。

最後にこの調査の実施及び報告書の作成にあたり、関係機関並びに各位からの御指導、ご協力を賜りまして厚くお礼を申し上げます。

平成11年3月

青森県教育委員会

教育長 松森 永祐

例 言

- 1 本報告書は、青森県埋蔵文化財調査センターが平成9年度に発掘調査した青森中核工業団地整備事業に伴う野木遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 本報告書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集作成した。なお、執筆者名は依頼原稿については文頭に、その他は文末に付した。
- 3 挿図の縮尺は、各図ごとにスケールを付してある。なお、遺物写真の縮尺は統一していない。
- 4 土層等の色調観察には1996版農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帖（小山正忠・竹原秀雄1996）」を使用した。
- 5 資料の鑑定及び同定、分析については、次の方々に依頼した（順不同・敬称略）

石質の鑑定	松山 力（八戸市文化財審議委員）
土師器の蛍光X線分析	三辻 利一（奈良教育大学教授）
放射性炭素年代測定	(株)地球科学研究所
花粉・珪酸体分析	(株)パレオ・ラボ

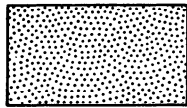
- 6 本書に掲載した地図は、建設省国土地理院発行の2万5千分の1の地形図を複写したものである。
- 7 引用・参考文献については巻末に収めた。文中に引用した文献名については著者名と西暦年で示した。
- 8 調査における出土遺物・実測図・写真等は現在青森県埋蔵文化財調査センターで保管している。
- 9 発掘調査及び本報告書作成にあたり、次の機関並びに諸氏から御教示、御指導を受けた。

（アイウエオ順、敬称略）

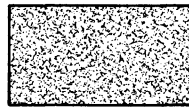
青森県総合学校教育センター、青森県立郷土館、青森市教育委員会、秋田県埋蔵文化財センター、秋田市教育委員会、岩手県立博物館、八戸市教育委員会、八戸市立博物館、平泉教育委員会、北海道開拓記念館、

伊藤武士、植村圭介、右代啓視、宇部則保、上屋真一、遠藤正夫、大渡賢一、小笠原雅之、奥山一絵、小野貴之、小山彦逸、葛西励、菊地勝一、北林八洲晴、木村淳一、工藤清泰、工藤大、日下和寿、小池伸彦、甲田美喜雄、児玉大成、小谷地肇、斎藤淳、榊原滋高、佐々木浩一、佐々木真理子、佐野忠史、設楽政健、鈴木徹、瀬川滋、泉田友紀、高橋潤、田澤淳逸、田中寿明、津田嘉章、椿坂恭代、永井治、長尾正義、成田和世、沼宮内陽一郎、能城修一、羽柴直人、藤原弘明、古屋敷則雄、三浦圭介、村木淳、柳澤和明、吉崎昌一、与野珠美

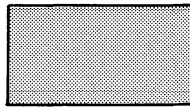
遺構



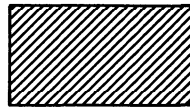
貼床



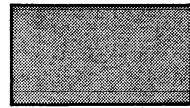
焼土



炭化材

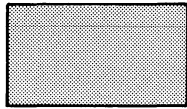


地山

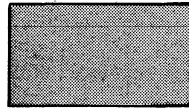


火山灰

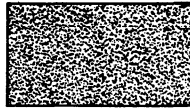
遺物



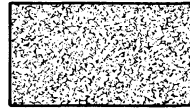
内面黒色処理



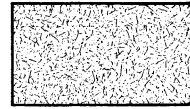
火ダスキ痕



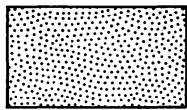
スス状炭化物



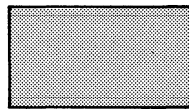
粘土付着物



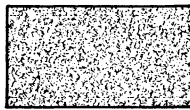
赤色顔料付着



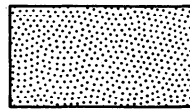
石タキ



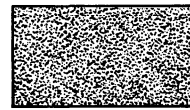
石スリ



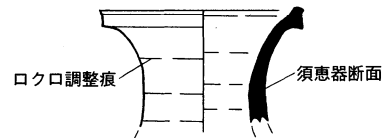
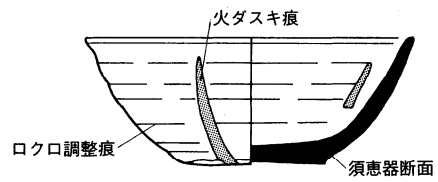
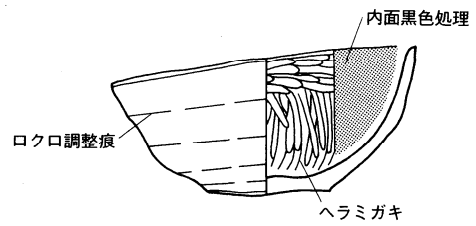
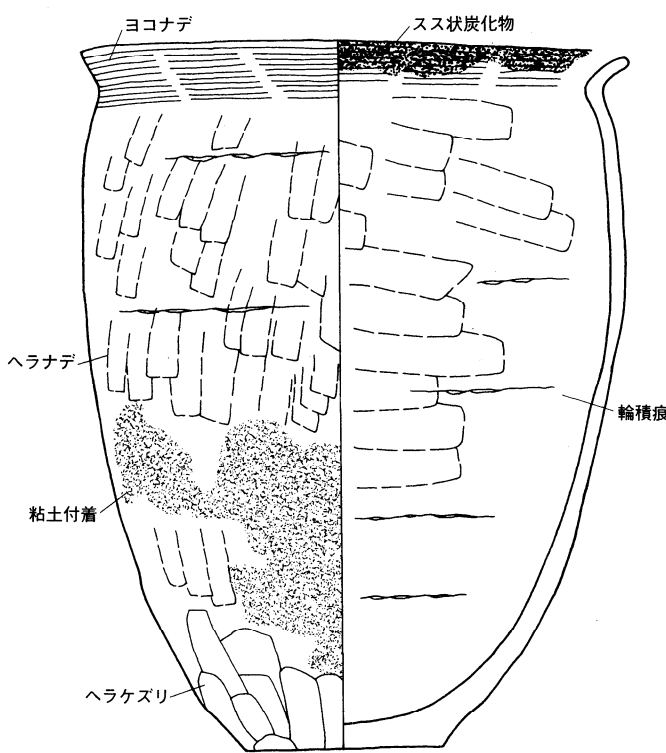
溶着物(羽口)



加熱痕(羽口)



スス炭(羽口)



目 次

(第1分冊)

序

例 言

目 次

第1章 調査の概要 (第1分冊～第3分冊)

第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査の要項	3
第3節 調査の方法	4
第4節 調査の経過	4

第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置	5
第2節 基本層序	6

第3章 東 区

第1節 古代の遺構と出土遺物	16
1 竪穴住居跡 (301H～365H)	16

(第2分冊)

1 竪穴住居跡 (367H～497H)	233
---------------------------	-----

(第3分冊)

2 土坑	521
3 その他の遺構	597
(1) 焼土状遺構	597
(2) 溝状遺構	603
(3) 畝状遺構	621
(4) 掘立柱建物跡	624
第2節 遺構外出土遺物	625
(1) 土師器	625

(2) 須恵器	637
(3) その他の遺物	637

(第4分冊)

第4章 西 区

第1節 検出遺構とその出土遺物	657
1 竪穴住居跡	657
2 土坑	703
3 その他の遺構	
(1) 溝状遺構	713
(2) 焼土状遺構	720
第2節 遺構外の出土遺物	723

写真図版	723
------------	-----

(第5分冊)

第5章 自然科学分析

第1節 土師器の蛍光X線分析	745
第2節 放射性炭素年代測定	752
第3節 プラント・オパール分析、花粉分析	758

第6章 まとめ	777
---------------	-----

写真図版	779
------------	-----

引用参考文献	1133
--------------	------

報告書抄録	1135
-------------	------

第1章 調査の概要

第1節 調査に至る経過

青森県商工労働部工業振興課は、青森県における産業構造の高度化ならびに人口定住の促進を図ることを目的として、青森テクノポリス開発計画に基づき、青森市野木・合子沢地区を、産業振興の拠点として、地域振興整備公団と県との共同事業により青森中核工業団地の予定地とした。

これに伴い平成5年度及び平成6年度の県教育委員会が実施した分布調査に基づく登録遺跡である野木遺跡と新町野遺跡の調査が必要となった。

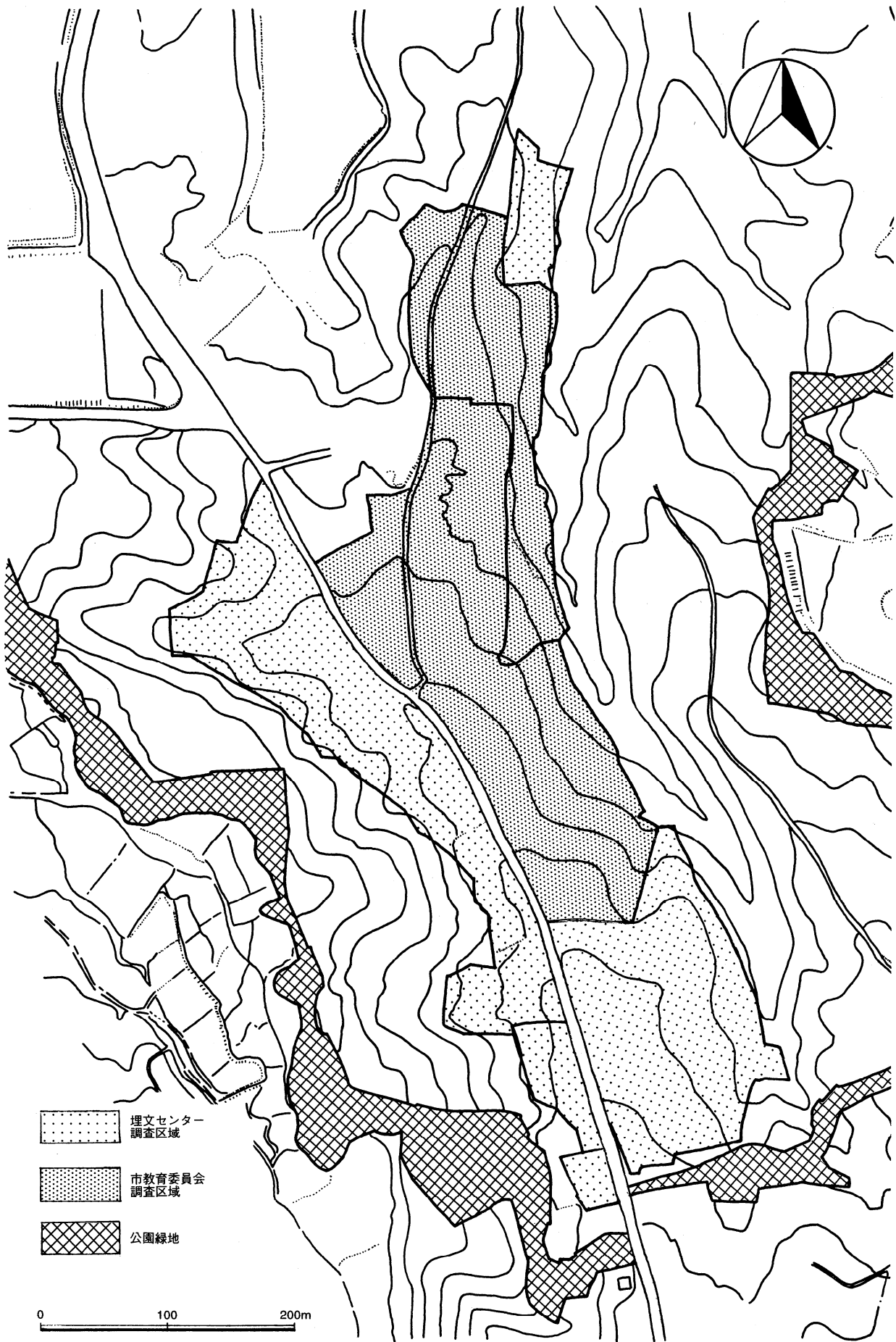
新町野遺跡は縄文時代・平安時代の遺跡として以前から知られており、平成5年度に青森県教育委員会が実施した県内遺跡詳細分布調査において、その遺跡範囲が拡大された。野木遺跡も、平成5年度の分布調査において、縄文時代・平安時代の遺跡として登録されている。

平成7年度からの青森中核工業団地の造成工事着手を予定していることから、開発予定者である地域振興整備公団と県工業振興課及び県教育庁文化課との間で、その対策について協議が行われた。

協議の結果、発掘調査に先立ち、遺跡の範囲等を確定するために平成7年度に試掘調査を実施することとなった。この試掘調査において、縄文時代と平安時代の竪穴住居跡や土坑などの遺構と縄文時代や平安時代の土器や石器など遺物を確認した。また、調査対象面積が27万5千平方メートルから約17万5千平方メートルに縮小された。

平成8年度には、試掘調査の結果を基に、地域振興整備公団から中核工業団地の造成において最優先部分の発掘調査の依頼があり、県教育委員会はこれを受託し、青森県埋蔵文化財調査センターが平成8年5月9日から10月30日までの期間で、新町野遺跡の幹線道路部分（下水道設置場所）及びポンプ場予定地、野木遺跡の幹線道路部分及び配水池の4ヶ所の発掘調査を実施した。

平成9年4月に、当初調査終了年度が平成11年度の予定が、地域振興整備公団および県工業振興課の要望により平成10年度終了に変更になり、その協議の段階で青森市教育委員会が加わり話し合いが行われた。その結果、青森市教育委員会と県埋蔵文化財調査センターが発掘調査区を分担して実施することになり、平成9年度は、新町野遺跡の幹線及び補助幹線道路部分、野木遺跡の南側の遺構密集地（東区）の発掘調査と西側（西区）の試掘調査を青森県埋蔵文化財調査センターが、野木遺跡の北側の幹線道路部分を青森市教育委員会が発掘調査を行った。



調査区域図

第2節 調査要項

1 調査目的

青森中核工業団地整備事業の実施に先立ち、当該地区に所在する青森市野木遺跡の発掘調査を行い、その記録保存を図り、地域社会の文化財の活用に資する。

2 発掘調査期間

野木遺跡	東区	平成9年5月2日から同年11月14日まで
	西区	平成9年9月24日から同年11月14日まで

3 遺跡名及び所在地

野木遺跡 青森市大字合子沢字松森378-4、外（県遺跡番号 01-210）

4 調査面積

野木遺跡	東区	13,800平方メートル	西区	2,900平方メートル
------	----	--------------	----	-------------

5 調査委託者

地域振興整備公団

6 調査受託者

青森県教育委員会

7 調査担当機関

青森県埋蔵文化財調査センター

8 調査協力機関

青森市教育委員会・東青教育事務所

9 調査参加者

調査指導員	村越 潔	青森大学教授（考古学）
調査協力員	池田 敬	青森市教育委員会教育長
調査員	高島 成侑	八戸工業大学教授（建築学）
	北林 八洲晴	元青森県埋蔵文化財調査センター副参事（考古学）
	赤沼 英男	岩手県立博物館主任専門調査学芸員（化学）
	工藤 一彌	青森県社会教育センター指導主事（地質学）

調査担当者 青森県埋蔵文化財調査センター

次長・調査第一課長 成田 誠治

東区	主査	中嶋 友文・奈良岡 淳
	主事	斎藤 由美子・田中 珠美
	調査補助員	古舘 晃彰・長谷川 浩平・北山 輝也・高田 麻紀子 外崎 梨佳・高橋 五十美・中村 敦子・斎藤 奈穂子 伊藤 理絵・小山 愛・飯田 裕子・浜田 恵・今 直子 西谷 久美子
西区	主事	神 康夫・赤羽 真由美
	調査補助員	盛田 英人・田中 美鈴・三上 静香・小島 由記子

第3節 調査の方法

昨年度に引き続き、重機による表土処理後、ジョレンによる遺構確認及び精査を行った。

調査の方法は、平成8年度と同様に、野木遺跡に隣接する新町野遺跡にまたがった基準線から、4×4mのグリッドを設定して用いた。グリッドは南北方向に算用数字、東西方向にアルファベットを付し、その呼称は北西隅の杭番号を使用し、例えばMA-150と呼称した。南北の基準線はほぼ磁北である。

標準原点は、新たに近辺に設置されていた工事用原点からレベル移動を行い、調査区内に数カ所設置した。

遺構の精査は、原則として住居跡は四分法で、その他は二分法で行うこととしたが、遺構によっては、必要に応じて適宜セクションベルトを設けた。精査の結果、遺構と判断できない風倒木跡、抜根跡などの落ち込みは、精査から除外した。(欠番となる。)

実測は、簡易遣り方測量を用い、縮尺は20分の1を原則としたが、必要に応じて10分の1を採用した。土層の注記には、『標準土色帖』を採用した。

写真の撮影にあたっては、35mmのモノクローム・カラーリバーサルの各フィルムを併用して必要に応じて行った。

第4節 調査の経過

平成9年5月2日に発掘調査機材を野木遺跡に運搬し、グリッドの杭打ち及びベンチ・マークの移動、並びに遺構確認を行った。

5月6日、本格的に遺構精査を開始した。

5月27日、調査区南側の立木の伐採が始まり、終了次第、重機による遺構確認を行う。

6月18日、調査区南側を重機を用いた表土処理を開始した。

8月28日、地域整備公団、青森県工業振興課、青森県教育庁文化課、青森市企業推進室、青森市教育委員会、青森県埋蔵文化財調査センターの関係者による中間報告会が開催された。

9月24日、野木遺跡西区の調査を開始した。

10月1日、発掘担当者と調査員の出席のもと青森市教育委員会と合同で調査打合会議を開催した。

調査は、9月下旬から雨天の日が多く、また、遺構の重複も激しいため、当初の10月31日終了の予定であったが、期間を11月15日まで2週間延長して、調査を行うこととした。

11月1日、発掘関係者を対象とした現地説明会を開催し、約50人が見学した。

11月14日、今年度の野木遺跡の発掘調査を終了した。

11月28日、報道機関を含めた現地説明会を開催し、60人程の見学者が訪れた。

第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置

青森市の地形は、北側に陸奥湾に面した北側の平野部と、それを囲むように位置する東・西・南側の山岳丘陵地帯からなっている。特に南方には八甲田連峰がそびえ、その裾野付近からは、青森平野に向かって幾条もの細長い低丘陵が突き出ている。

野木遺跡は、市街地から南方およそ10km離れた荒川支流の牛館川と合子沢川に挟まれた低丘陵地上に位置している。遺跡周辺の地形は、北から南にかけてなだらかな斜面で、東西方向はやや急な斜面になっており、遺跡が所在する丘陵はほぼ全域が山林で、北側一帯は水田が広がっている。標高は、50～90m前後である。



遺跡位置図

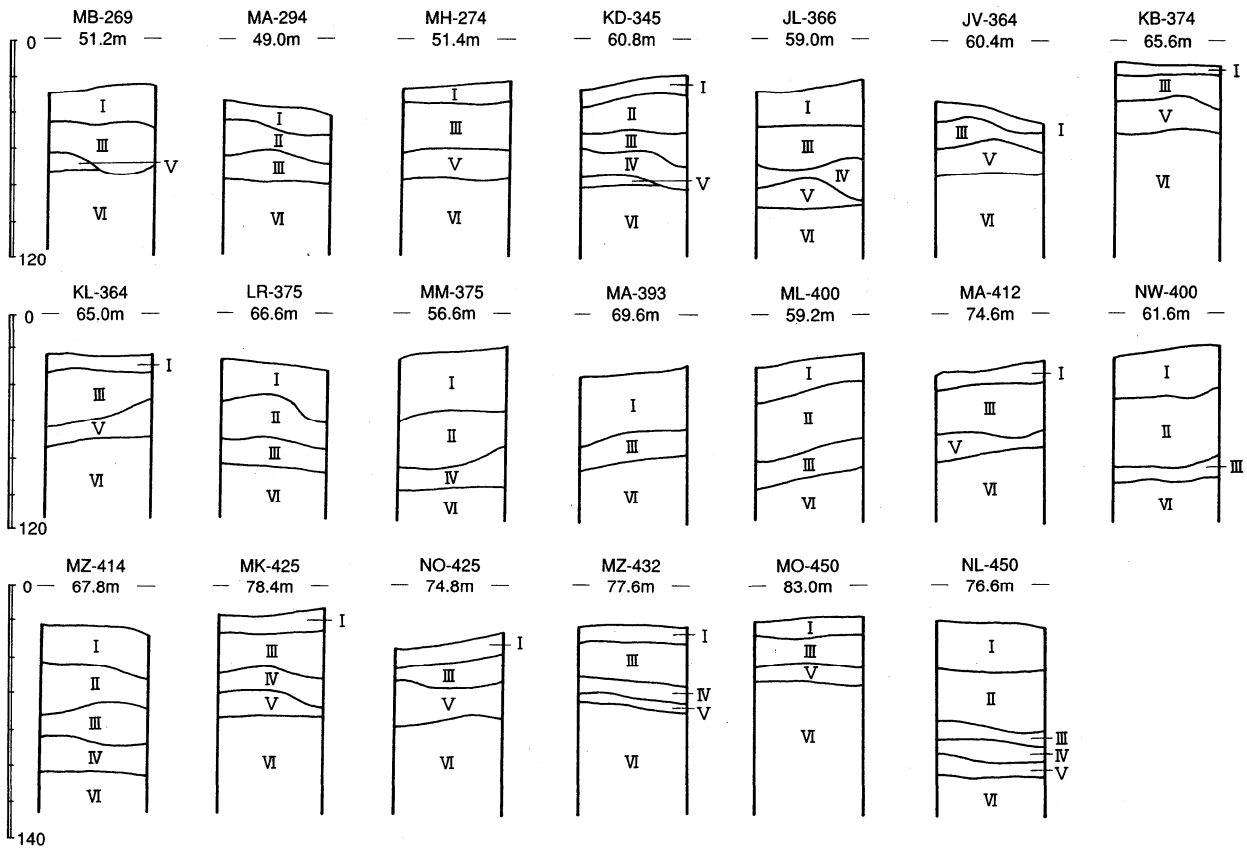
第2節 基本層序

調査区が広範囲に及ぶため試掘のトレンチを基本層序とし、場所により欠落している層もみられるが、概ね6層に分層され粘土質のにぶい黄褐色の土壌を地山とする。また、基本層序中に火山灰の堆積はみられない。

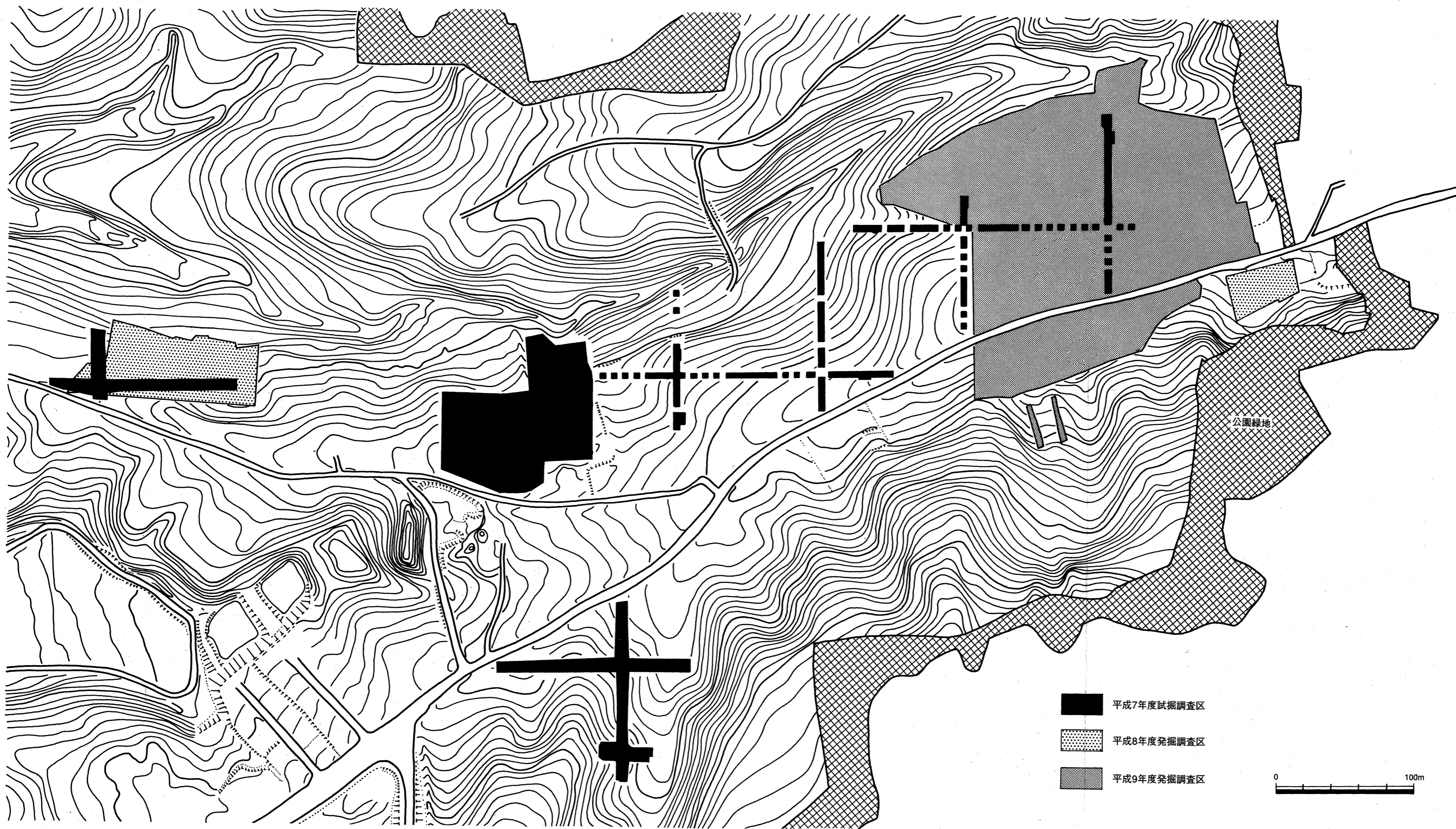
野木遺跡では、大部分が植林された山林で、地山まで30～110cmの黒褐色系の土壌の堆積がみられる。以前畑地であった部分では、30cm程度の耕作土がみられる。

調査地域内の基本層序は次のとおりである。

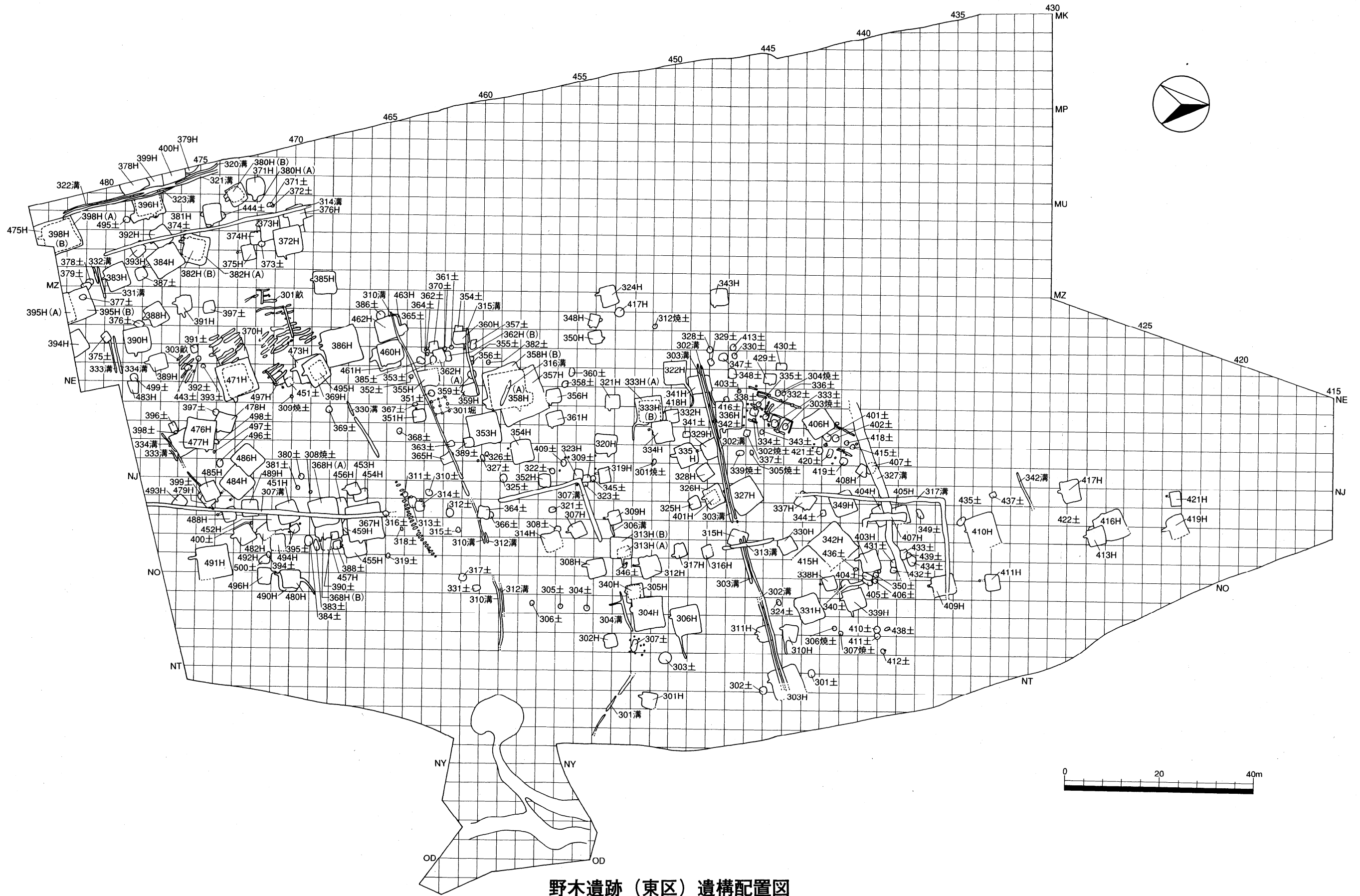
- 第Ⅰ層 黒褐色土主体 (10YR2/2) 表土・耕作土
- 第Ⅱ層 黒褐色土主体 (10YR2/3) 平安時代の遺物の包含層
- 第Ⅲ層 暗褐色土主体 (10YR3/3)
- 第Ⅳ層 黒褐色土主体 (10YR3/1) 縄文時代の遺物の包含層
- 第Ⅴ層 褐色土 (10YR4/4) ロームをかなり含む漸移層
- 第Ⅵ層 にぶい黄褐色土 (10YR5/4)



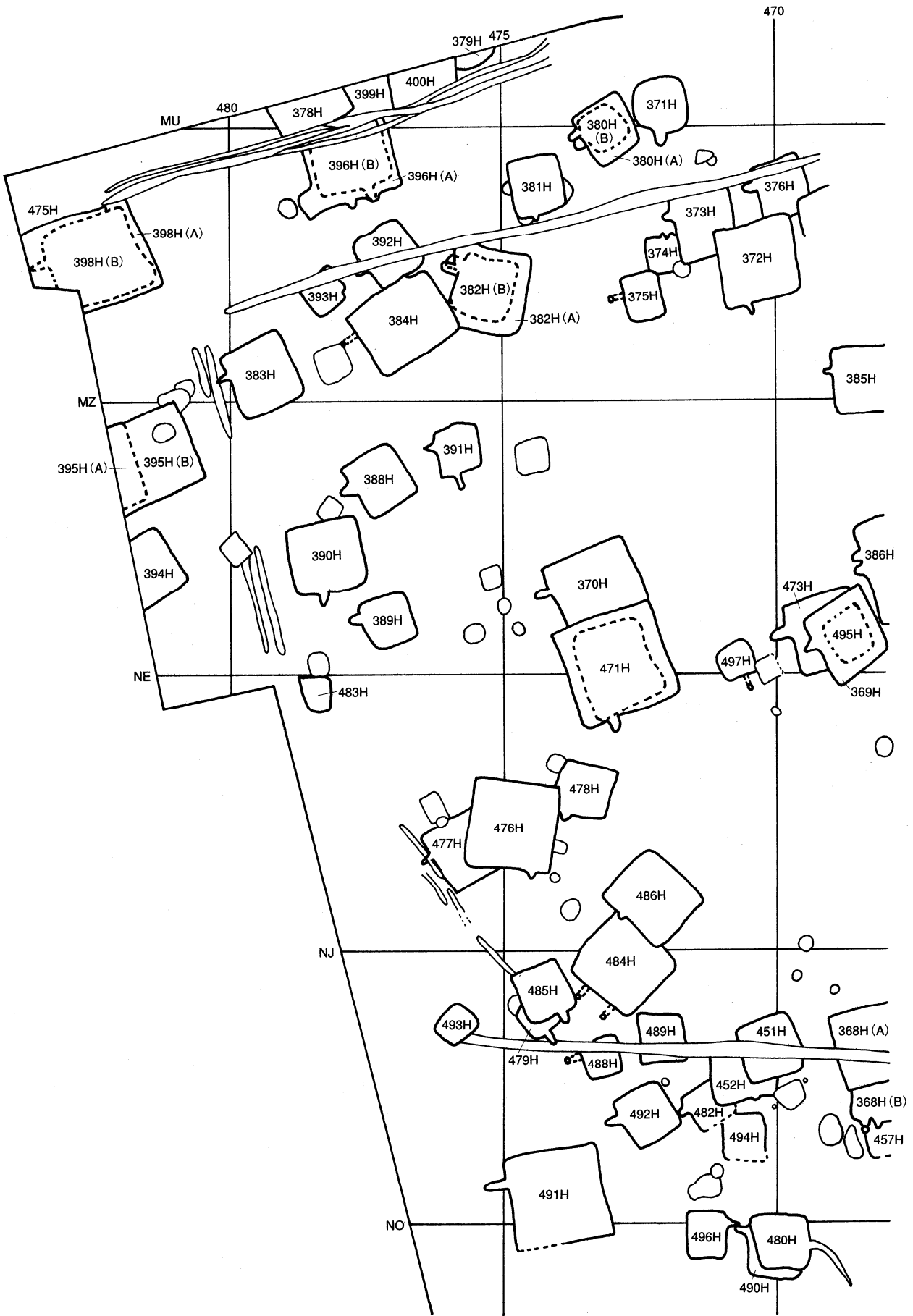
野木遺跡基本層序



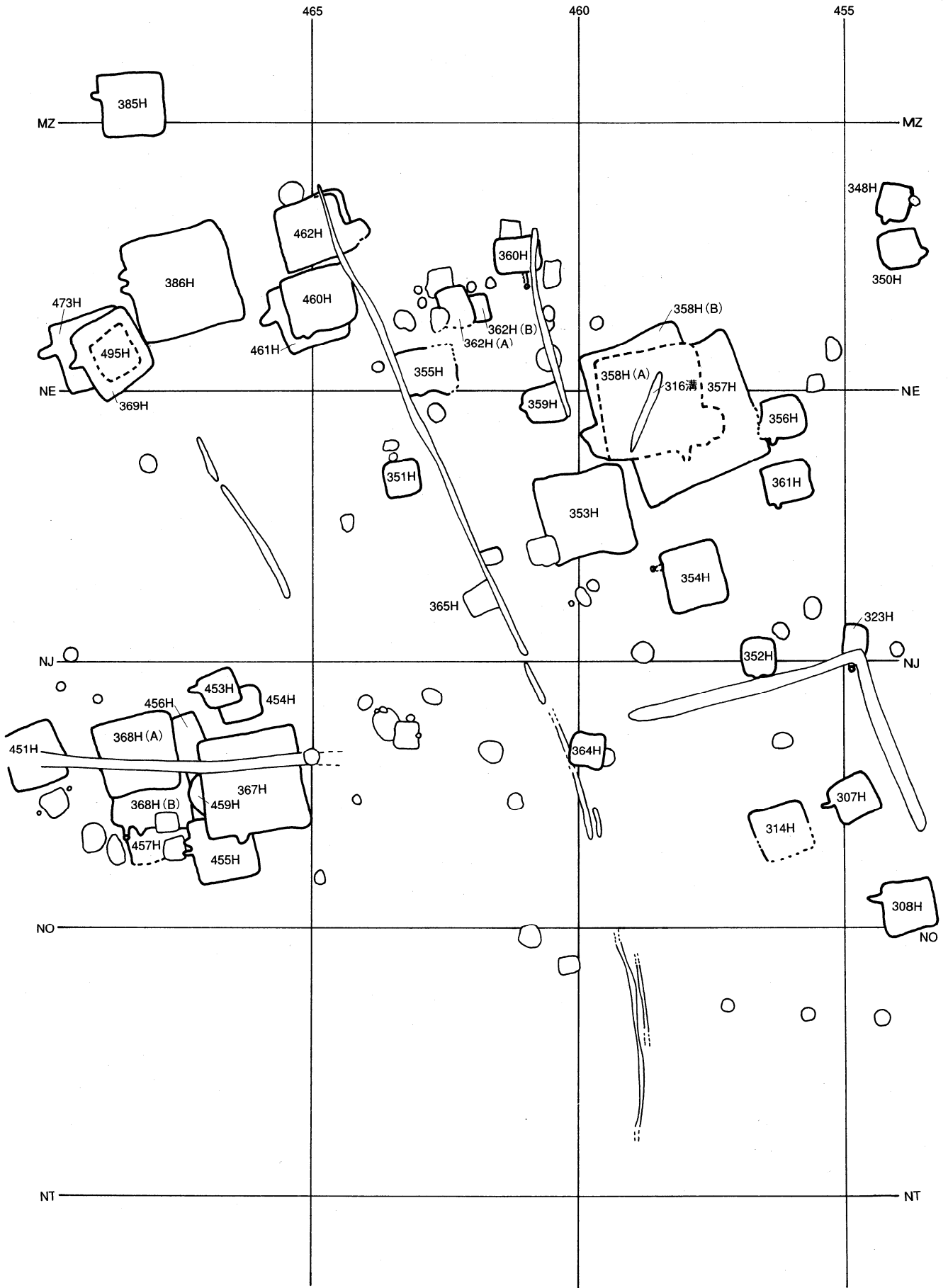
野木遺跡調査区域図



野木遺跡(東区)遺構配置図



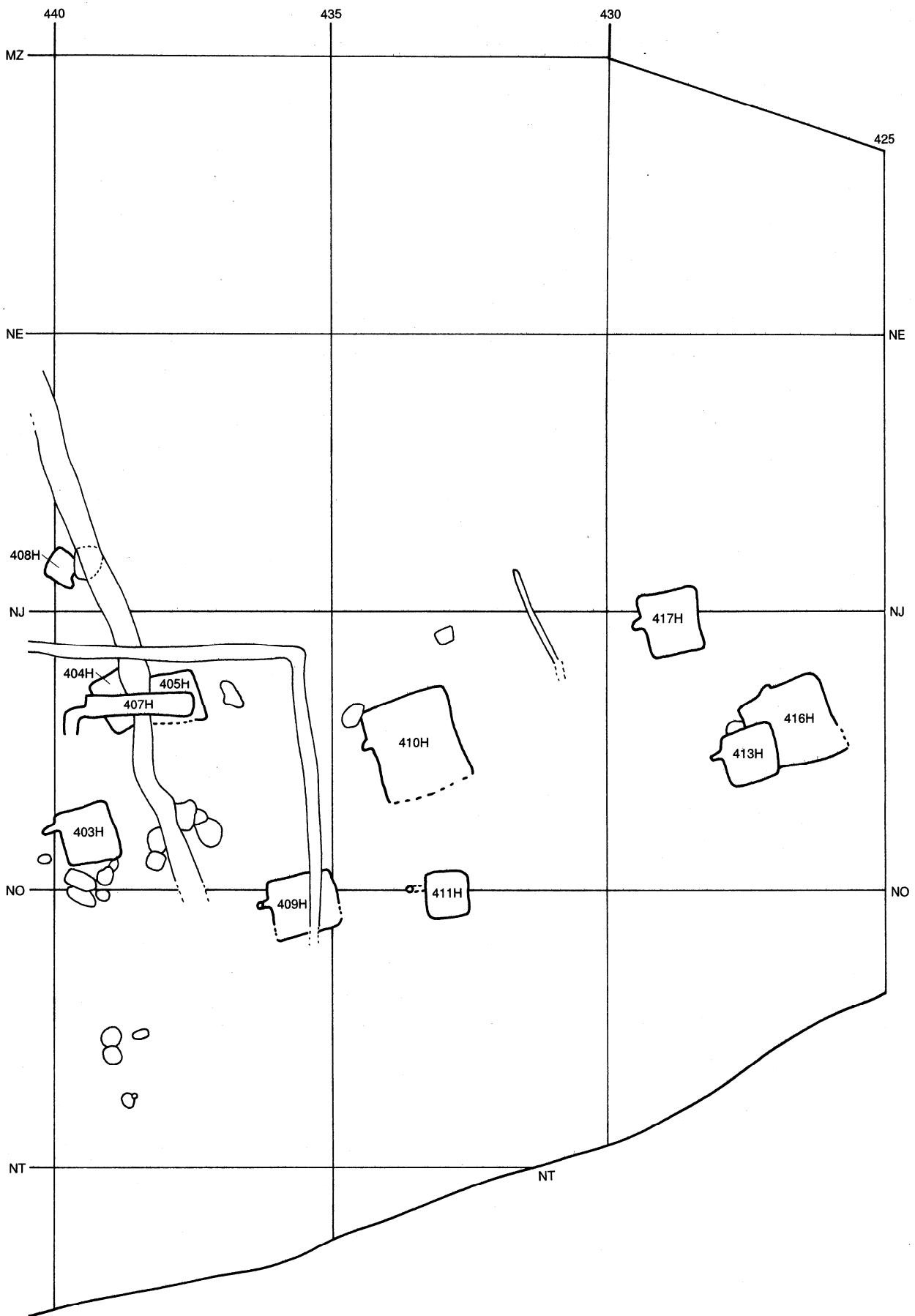
遺構配置図 (住居跡1)



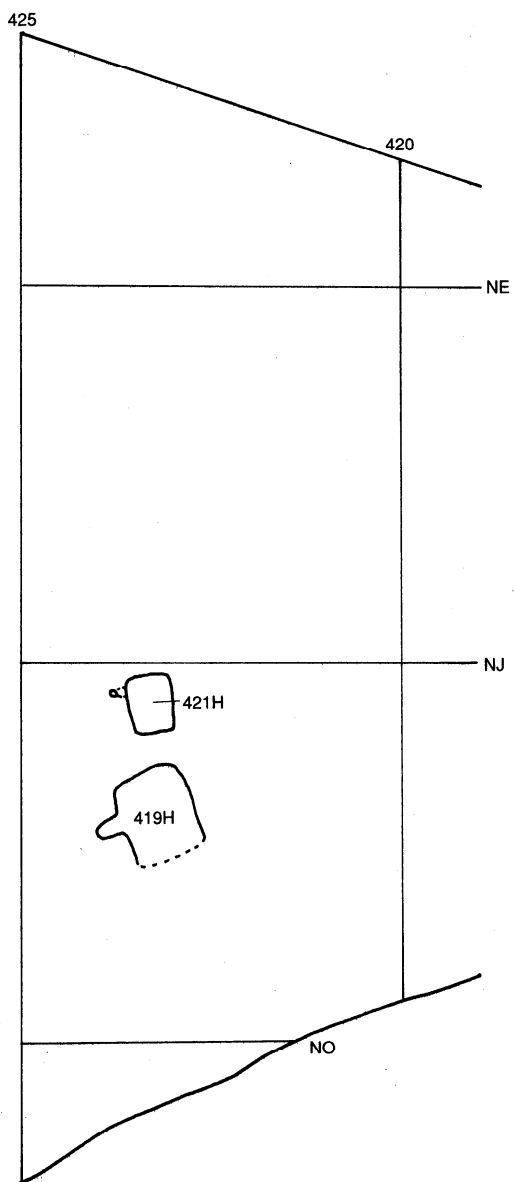
遺構配置図（住居跡 2）



遺構配置図 (住居跡 3)



遺構配置図 (住居跡 4)



遺構配置図（住居跡5）

第3章 東 区

第1節 古代の遺構と出土遺物

野木遺跡東地区で平成9年度に検出された遺構には、300～400の番号をつけている。検出した遺構は、竪穴住居跡149軒、土坑140基、焼土状遺構10基、溝状遺構22条、畝状遺構3ヶ所、掘立柱建物跡1棟である。

1 竪穴住居跡

第301号竪穴住居跡（図1）

〔位置〕 調査区東側のNU・NV-450・451グリッドに位置する。

〔重複〕 認められなかった。

〔平面形・規模〕 北東隅が削平されているが、東壁（2m50cm）、西壁3m25cm、南壁2m94cm、北壁（2m10cm）である。平面形は北側がやや広がるがほぼ方形と考えられる。床面積は約9.59㎡で、主軸方位はN-173°-Wである。

〔壁・床面〕 壁は、上部が削平されており、残存する壁高は、8～15cmほどで床面から緩やかに立ち上がると思われる。床面はやや起伏がみられ、全体として堅く締まった貼り床とは言えない。

〔周溝〕 幅11～29cm、深さ5～22cmの周溝がカマド部分を除いて一巡し、東側と北側に深さ約10cmのピットがみられる。

〔ピット〕 周溝内のピットを除いて検出されなかった。

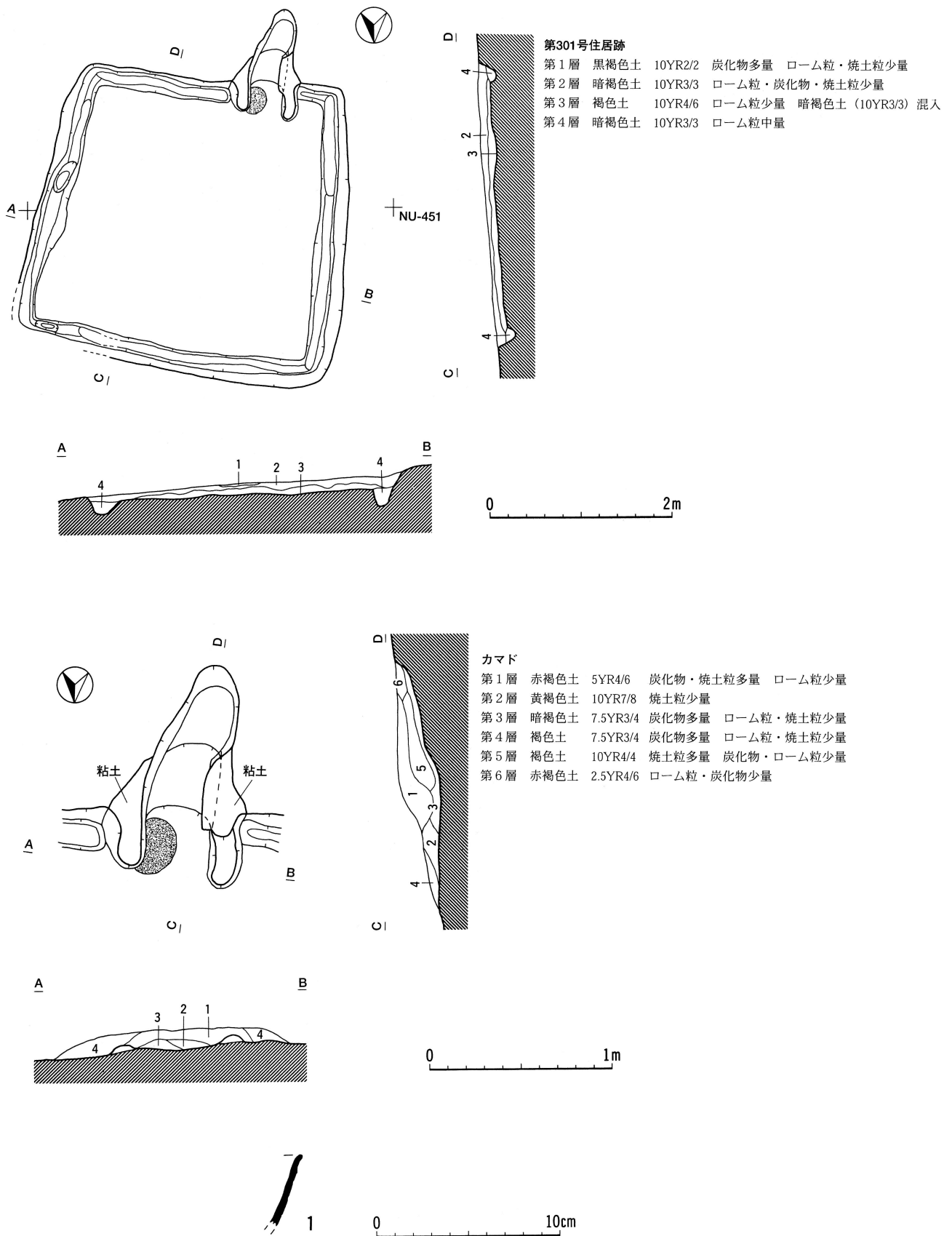
〔カマド〕 南壁西側に黄褐色の粘土を用いて構築されている。煙道は半地下式で住居跡外に80cmほど延びる。煙道底面は煙出部に向けて緩やかに立ち上がる。

〔堆積土〕 堆積土は4層に分層され、1層に炭化物が多量に含まれている。

〔出土遺物〕 遺物として、須恵器の破片が3層から出土している。

〔時期〕 出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

（中嶋友文）



図版 番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	須恵器	坏	3層	—	(3.8)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	

図1 第301号竪穴住居跡・出土遺物

第302号竪穴住居跡（図2）

〔位置〕 調査区東側のNR・NS-453・454グリッドに位置する。

〔重複〕 認められなかった。

〔平面形・規模〕 南東隅が削平されているが、東壁（2 m70cm）、西壁2 m30cm、南壁（2 m50cm）、北壁2 m25cmで東側がやや広がるが方形と考えられる。床面積は約6.03m²で、主軸方位はN-7°-Wである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁6cm、西壁27cm、南壁12cm、北壁18cmで、床面からやや急に立ち上がる。床面はやや起伏がみられる。

〔周溝〕 検出されなかった。

〔ピット〕 検出されなかった。

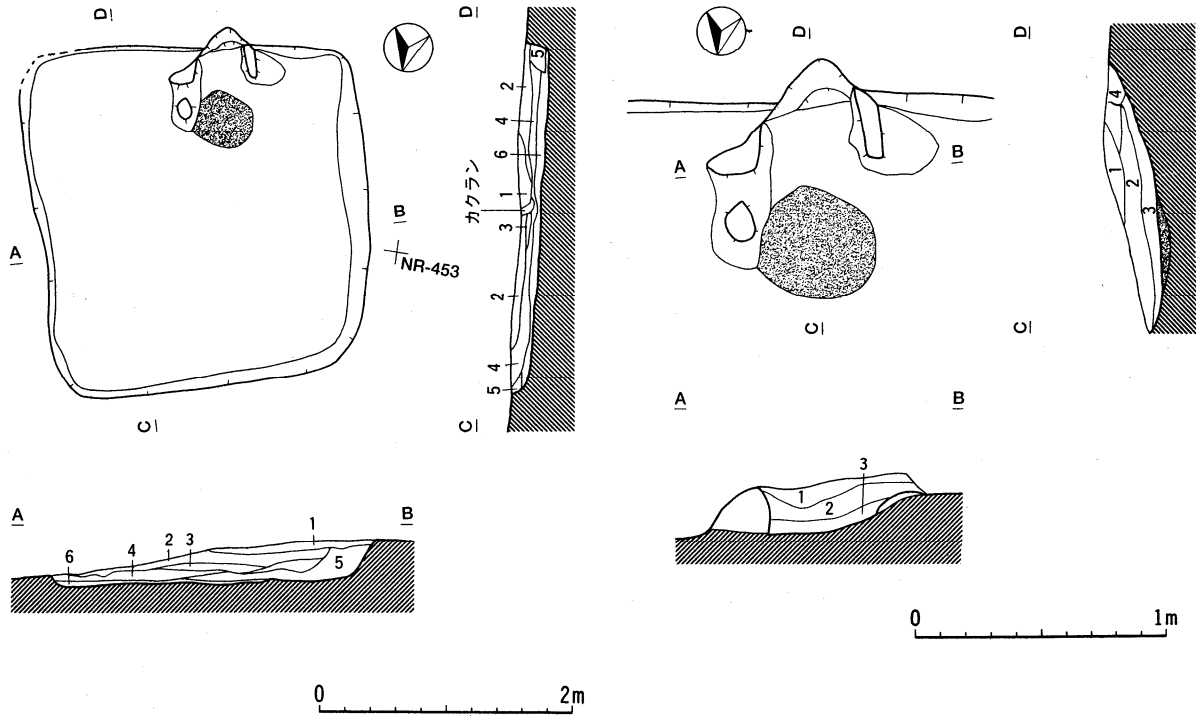
〔カマド〕 カマドは、南壁西側に構築されている。煙道は半地下式で住居跡外に30cmほどのびる。煙道底面は煙出部に向かって緩やかに立ち上がる。

〔堆積土〕 堆積土は6層に分層される。

〔出土遺物〕 床面から土師器の坏が出土している。

〔時期〕 出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

（齋藤由美子）

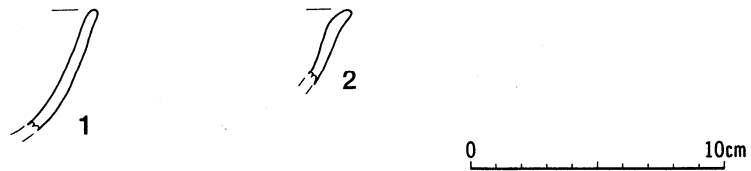


第302号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物少量
- 第2層 黒褐色土 10YR3/1 炭化物 焼土 ローム少量
- 第3層 褐灰色土 10YR4/1 ローム粒 焼土 パミス
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒多量 炭化物
- 第5層 にぶい黄褐色土 10YR5/3 ローム粒
- 第6層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒

カマド

- 第1層 褐灰色土 10YR4/1 焼土 炭化物多量
- 第2層 暗褐色土 7.5YR3/3 焼土粒
- 第3層 褐色土 7.5YR4/3 焼土粒多量 炭化物多量
- 第4層 にぶい橙色土 7.5YR6/4 ローム粒



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	床面	—	—	—	ロクロ?	—	—	ロクロ?	—	—	—	B II	P-1
2	土師器	坏	床直	—	—	—	ロクロ?	—	—	ロクロ?	—	—	—	B II	P-2

図2 第302号 竪穴住居跡・出土遺物

第303号竪穴住居跡（図3～図7）

〔位置〕 調査区東側のNS～NU-442～444グリッドに位置する。

〔重複〕 第302号溝、第303号溝と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 東壁（6 m25cm）、西壁6 m05cm、南壁6 m15cm、北壁6 m40cmのほぼ方形である。床面積は約36.66㎡で、主軸方位はN-158°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁が斜面のため削平されているが西壁51cm、南壁24cm、北壁29cmを測り、床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦で堅く締まっている。

〔周溝〕 幅14～30cm、深さ2～38cmの周溝がカマド部分を除いて一巡する。

〔ピット〕 検出されたピットは10個である。柱穴は、ピット3（23cm）、ピット5（40cm）、ピット7（47cm）、ピット9（52cm）と考えられ、その他のピットの用途等については不明である。

〔カマド〕 南壁西側に構築されている。芯材を使わず、粘土を用いて構築している。火床面の煙道部寄りに、土師器の甕を伏せて支脚としている。煙道は半地下式で、住居跡外に80cmほどのびる。煙道底面は煙出部に向けて緩やかに立ち上がる。

〔堆積土〕 堆積土は、6層に分層され、黒色土主体である。

〔出土遺物〕 床直から土師器の坏、甕のほか砥石や羽口などが出土している。また、用途不明の焼成粘土板もカマドから出土している。

〔時期〕 重複関係、出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

（中嶋友文）

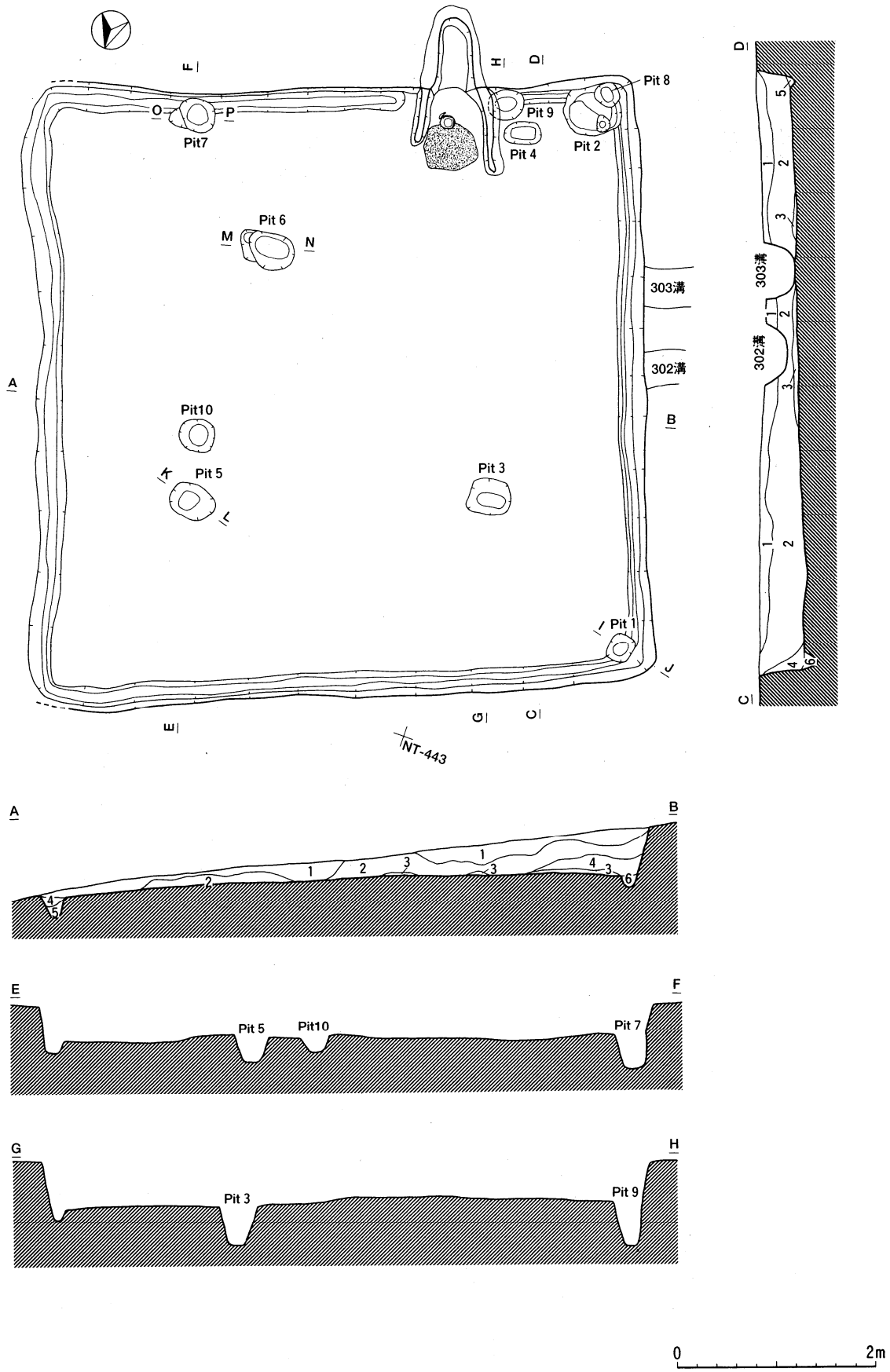
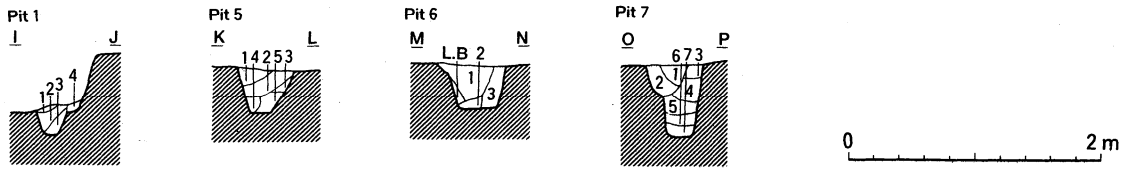


図3 第303号竪穴住居跡(1)



第303号住居跡

- | | | | |
|-----|------|-----------|--------------------------------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム粒・炭化物・焼土粒微量 |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 黒色土(10YR2/1)混入 ローム粒少量 |
| 第3層 | 黒色土 | 10YR1.7/1 | 黒色土(10YR2/1)混入 ローム粒微量 |
| 第4層 | 黒色土 | 10YR1.7/1 | 褐色土(7.5YR4/4)混入 ローム粒微量 |
| 第5層 | 黒色土 | 10YR2/1 | 褐色土(7.5YR4/4)混入 ローム粒・炭化物・焼土粒微量 |
| 第6層 | 黒色土 | 10YR1.7/1 | 暗褐色土(10YR3/4)混入 ローム粒微量 |

Pit 1

- | | | | |
|-----|------|-----------|---------------|
| 第1層 | 黒色土 | 10YR2/1 | ローム粒微量 |
| 第2層 | 黒色土 | 10YR1.7/1 | 粘土質土混入 ローム粒微量 |
| 第3層 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 粘土質土混入 |
| 第4層 | 黒色土 | 10YR2/1 | 掘り方 |

Pit 5

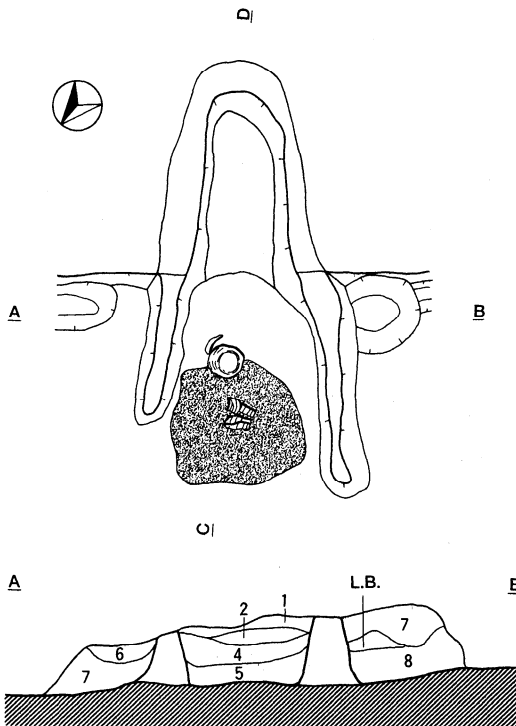
- | | | | |
|-----|------|---------|------------------------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム粒微量 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | L.B.・ローム粒微量 |
| 第3層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 暗褐色土(10YR3/4)混入 ローム粒微量 |
| 第4層 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | 粘土ブロック混入 ローム粒微量 |
| 第5層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | L.B.・ローム粒微量 |

Pit 6

- | | | | |
|-----|------|---------|------------------------|
| 第1層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | ローム粒・焼土粒微量 |
| 第2層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 黄褐色土(10YR5/6)混入 ローム粒微量 |
| 第3層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 褐色土(10YR4/4)混入 ローム粒微量 |

Pit 7

- | | | | |
|-----|------|----------|------------------------|
| 第1層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 明褐色土(10YR5/6)混入 ローム粒微量 |
| 第2層 | 褐色土 | 10YR4/6 | 黄褐色土(10YR5/8)混入 ローム粒微量 |
| 第3層 | 褐色土 | 10YR4/6 | ローム粒極微量 |
| 第4層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | 褐色土(10YR4/6)混入 LB微量 |
| 第5層 | 褐色土 | 10YR4/6 | 黒褐色土(10YR3/1)混入 |
| 第6層 | 黄褐色土 | 10YR5/6 | ローム粒極微量 |
| 第7層 | 明褐色土 | 7.5YR5/6 | 粘土質土層 |



カマド

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第2層	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒微量
第3層	褐色土	7.5YR4/4	焼土粒微量
第4層	暗褐色土	10YR3/4	焼土ブロック混入
第5層	暗褐色土	10YR3/3	黒褐色土(10YR3/2)混入 焼土粒微量
第6層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒・焼土粒微量
第7層	黒色土	10YR2/1	L.B.・ローム粒・焼土粒微量
第8層	黒褐色土	10YR3/2	L.B.・ローム粒微量

図4 第303号 竪穴住居跡(2)

遺物出土状況

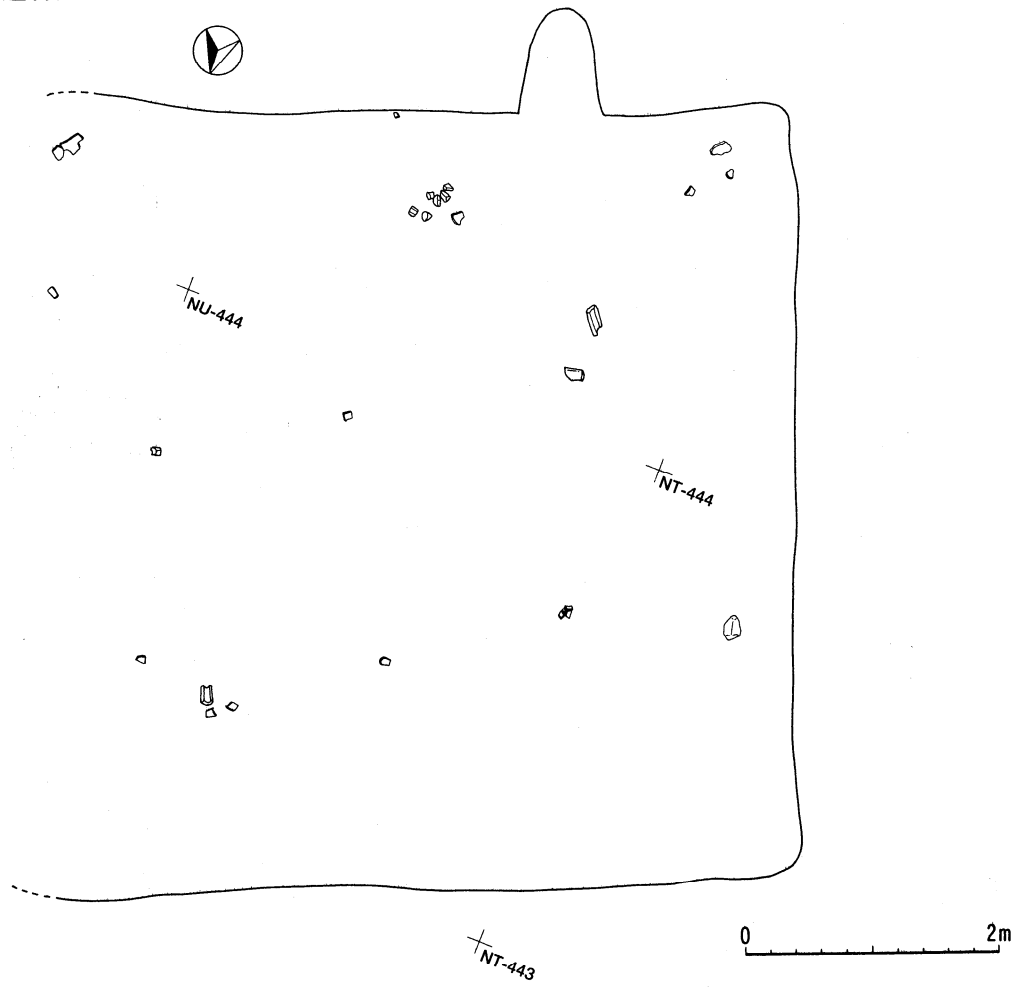
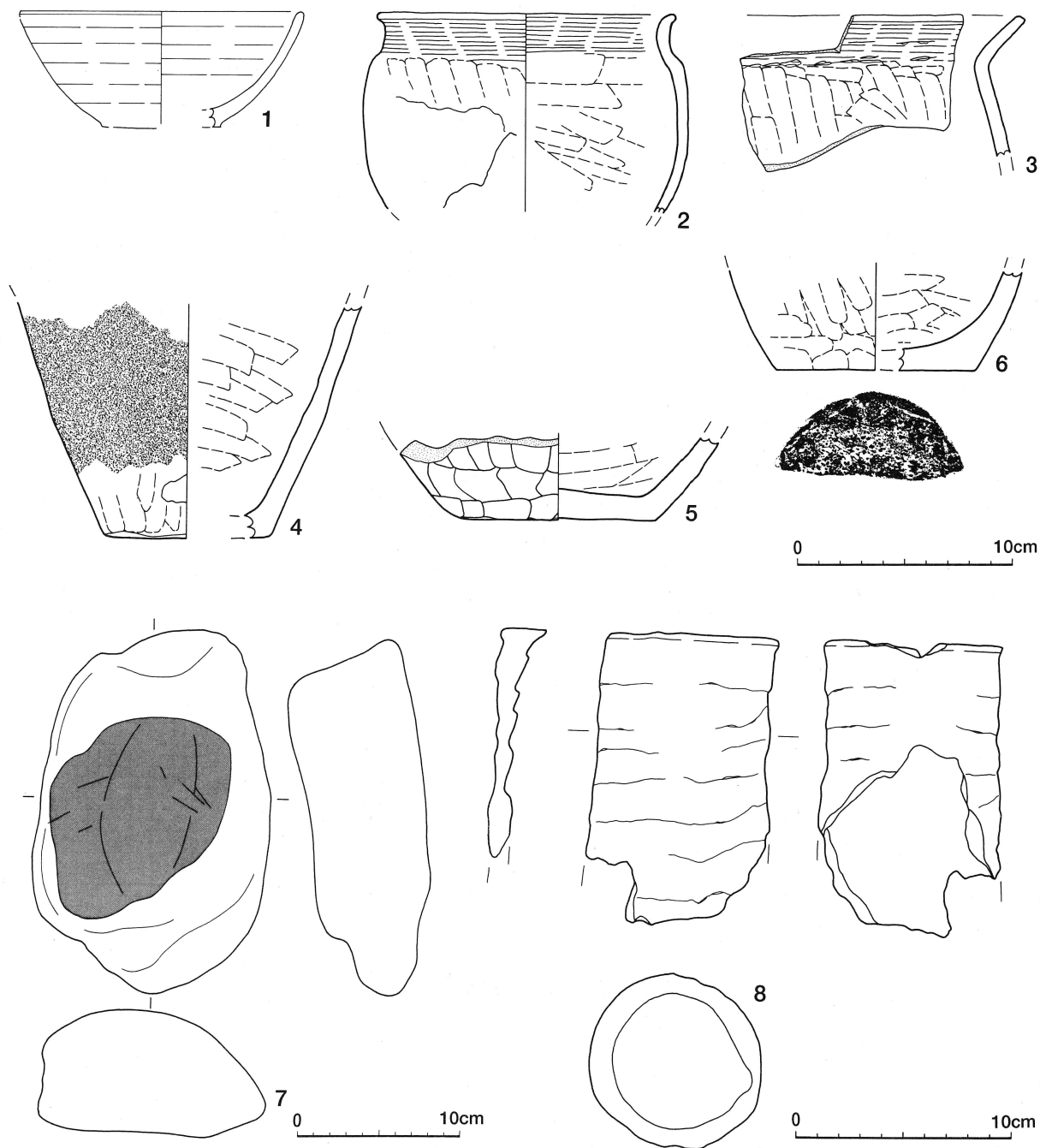


图5 第303号竖穴住居跡 (3)

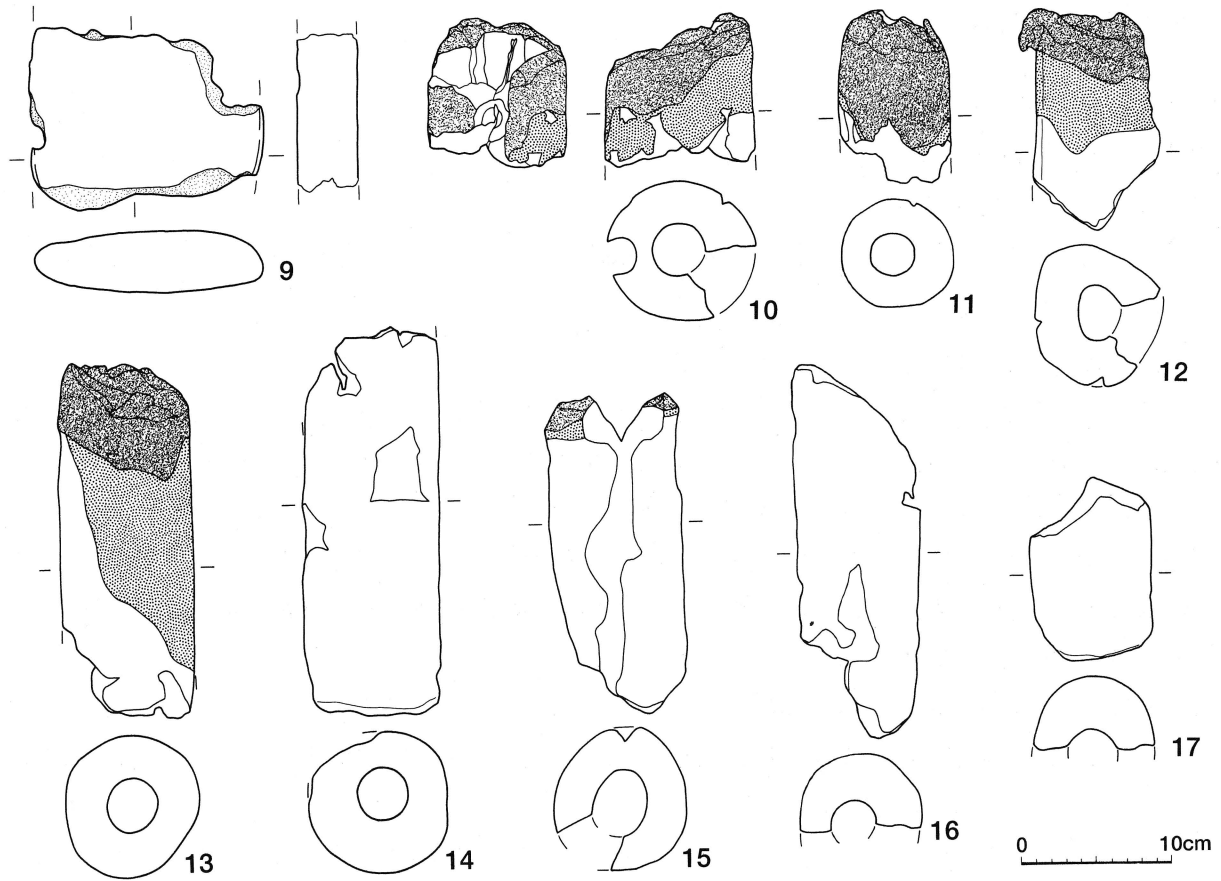


図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	床直 Pit9	(6.6)	(5.4)	—	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	—	B II b	P-13、P-18、P-19 P-20、P-21、P-29
2	土師器	甕	床直	(6.9)	(9.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ (一部剥落)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A II d	P-5
3	土師器	甕	2層	—	—	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A I	P-1、P-2
4	土師器	甕	床直	—	(10.9)	(7.6)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	A I	P-3 外面粘土付着
5	土師器	甕	カマド フク土	—	(3.9)	9.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	支脚
6	土師器	甕	床直	—	(4.6)	(4.7)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底 (一部ヘラナデ)	A	P-7

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	外径	内径				
7	床直	22.2	14.0	7.5	3.480	流	砥石	S-1、炭化物付着

図版番号	種類	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	特徴	備考
			長さ	幅	厚さ			
8	支脚	カマドフク土	13.2	7.0	1.2	365.5	輪積痕	

図6 第303号竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	種類	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	特徴	備考
			長さ	幅	厚さ			
9	焼成粘土板	カマド床直	(11.8)	15.2	4	728	ヘラで調整	
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
10	フク土	(9.8)	(9.8)×9.2	—	(460)	不明		羽口-3
11	カマドフク土	(11.5)	7.4×7.2	3.0	(435)	B		支脚-4
12	カマドフク土	(14.6)	9.5×(8.3)	—	(710)	C		羽口-4
13	カマドフク土	(23.6)	8.9×9.4	3.6	(1,780)	B	ナデ	羽口-7
14	フク土	(25.7)	9.2×9.4	3.5	(1,718)	B	ナデ	羽口-10
15	カマド床直	(21.2)	8.9×(9.4)	—	(1,060)	B		羽口-10、砂粒多量
16	床直	(24.8)	8.1×(5.2)	—	(700)	B		羽口-11
17	カマドフク土	(12.1)	(8.0)×(5.0)	—	(482)	不明	ケズリ	

図7 第303号竪穴住居跡出土遺物(2)

第304号竪穴住居跡（図8～図11）

〔位置〕 調査区東側のNO～NQ-450～452グリッドに位置する。

〔重複〕 第305号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 東壁6 m35cm、西壁6 m50cm、南壁6 m80cm、北壁6 m65cmの方形である。床面積は約42.54㎡で、主軸方位はN-171°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁8cm、西壁28cm、南壁18cm、北壁15cmで床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 幅6～17cm、深さ3～24cmの周溝が一巡する。

〔ピット〕 床面から確認したピットは4個であるが、貼り床下から多数のピットを検出した。主柱穴は、ピット1（53cm）、ピット3（74cm）、ピット5（33cm）、ピット6（37cm）と考えられる。また壁際にピット（深さ6～25cm）は壁柱穴と考えられる。

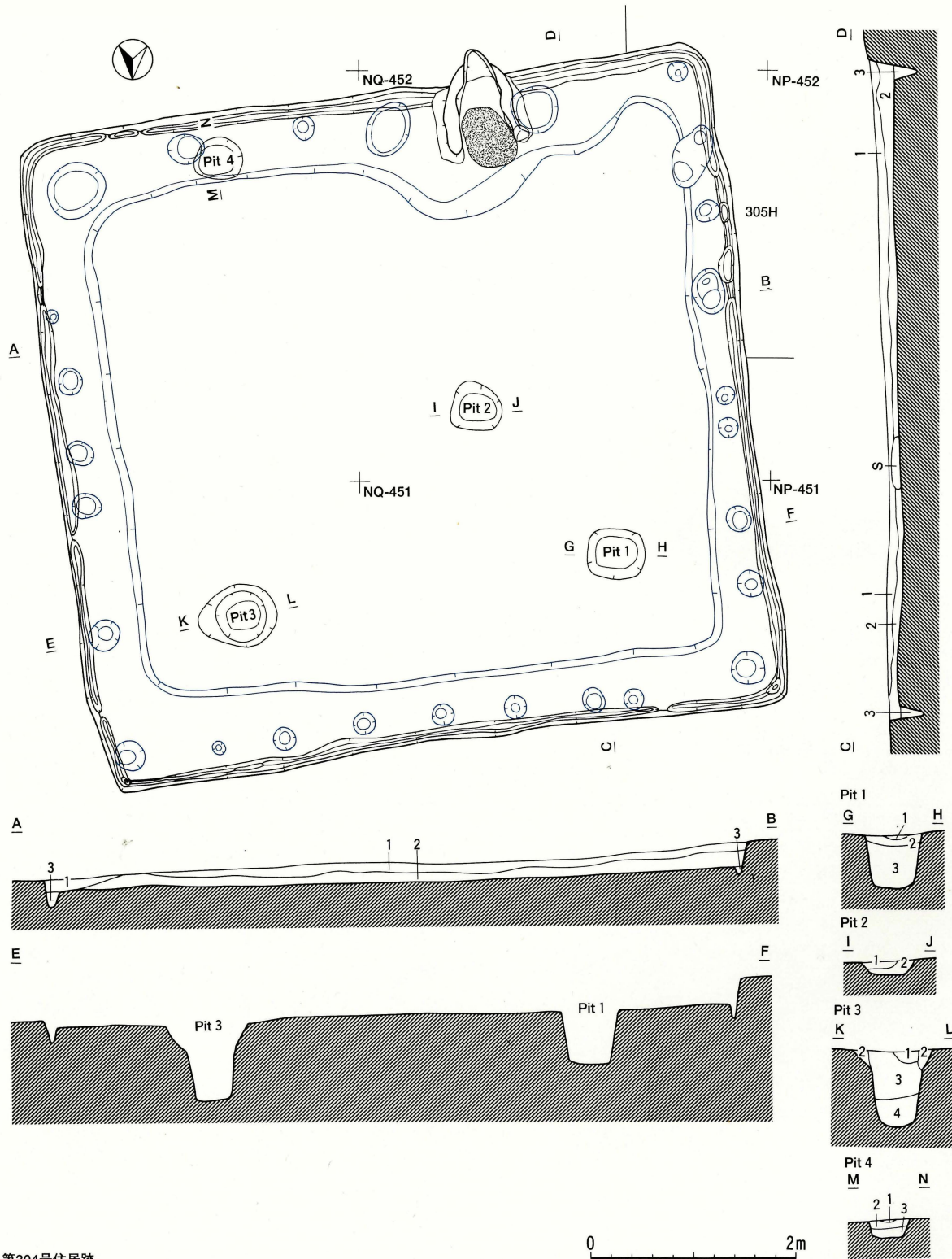
〔カマド〕 カマドは、南壁西側に礫を芯材として黄褐色粘土を用いて構築している。焚口部には土師器の甕を伏せた状態にして支脚としている。煙道は半地下式で短く、住居跡外に30cmほどのびている。煙道底面は煙出部に向けてやや急な勾配で立ち上がる。

〔堆積土〕 堆積土は、3層に分層され、1層にB-Tm火山灰が混入している。

〔出土遺物〕 覆土中から多量の遺物（図9）が出土し、土師器や須恵器の破片を中心に、灯明皿（図10-2・4）、砥石などがみられる。

〔時期〕 火山灰の堆積状況や出土遺物から、10世紀中葉に構築されたと考えられる。

（中嶋友文）



第304号住居跡

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 B-Tm混入 ローム粒・炭化物少量 焼土粒微量
- 第2層 褐色土 10YR4/4 ローム粒・炭化物少量
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量
- Pit 1**
- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・炭化物少量
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒少量
- 第3層 暗褐色土 10YR5/8 ローム粒少量
- Pit 2**
- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒多量 炭化物・焼土粒少量
- 第2層 褐色土 10YR4/4 ローム粒少量

Pit 3

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量 炭化物微量
- 第2層 黄褐色土 10YR4/4 ローム粒少量
- 第3層 褐色土 10YR4/4 ローム粒少量
- 第4層 褐色土 10YR4/6 ローム粒少量 L.B

Pit 4

- 第1層 褐色土 10YR4/4 暗褐色土 (10YR3/3) 混入
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
- 第3層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 炭化物・焼土粒少量

図8 第304号竪穴住居跡 (1)

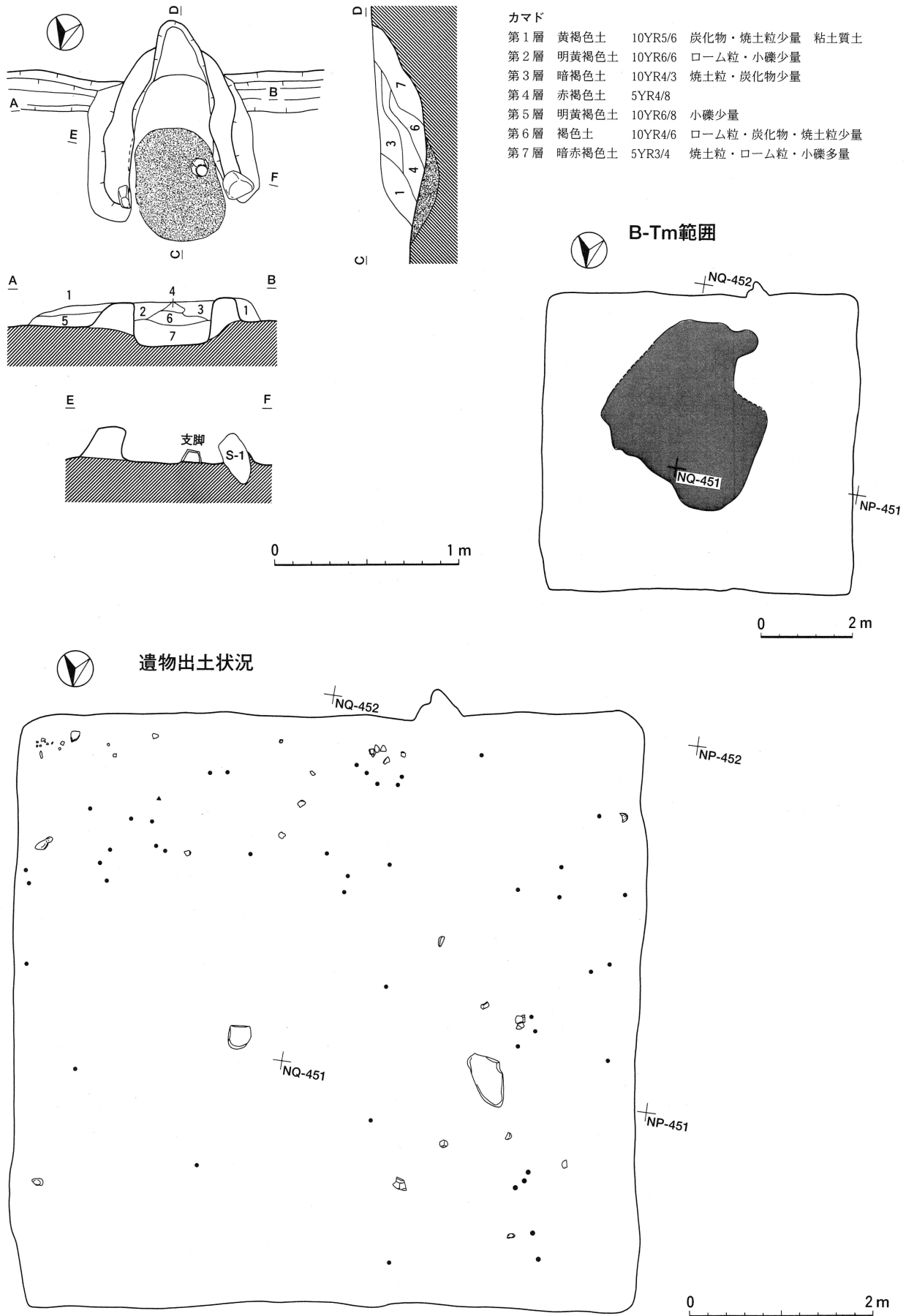
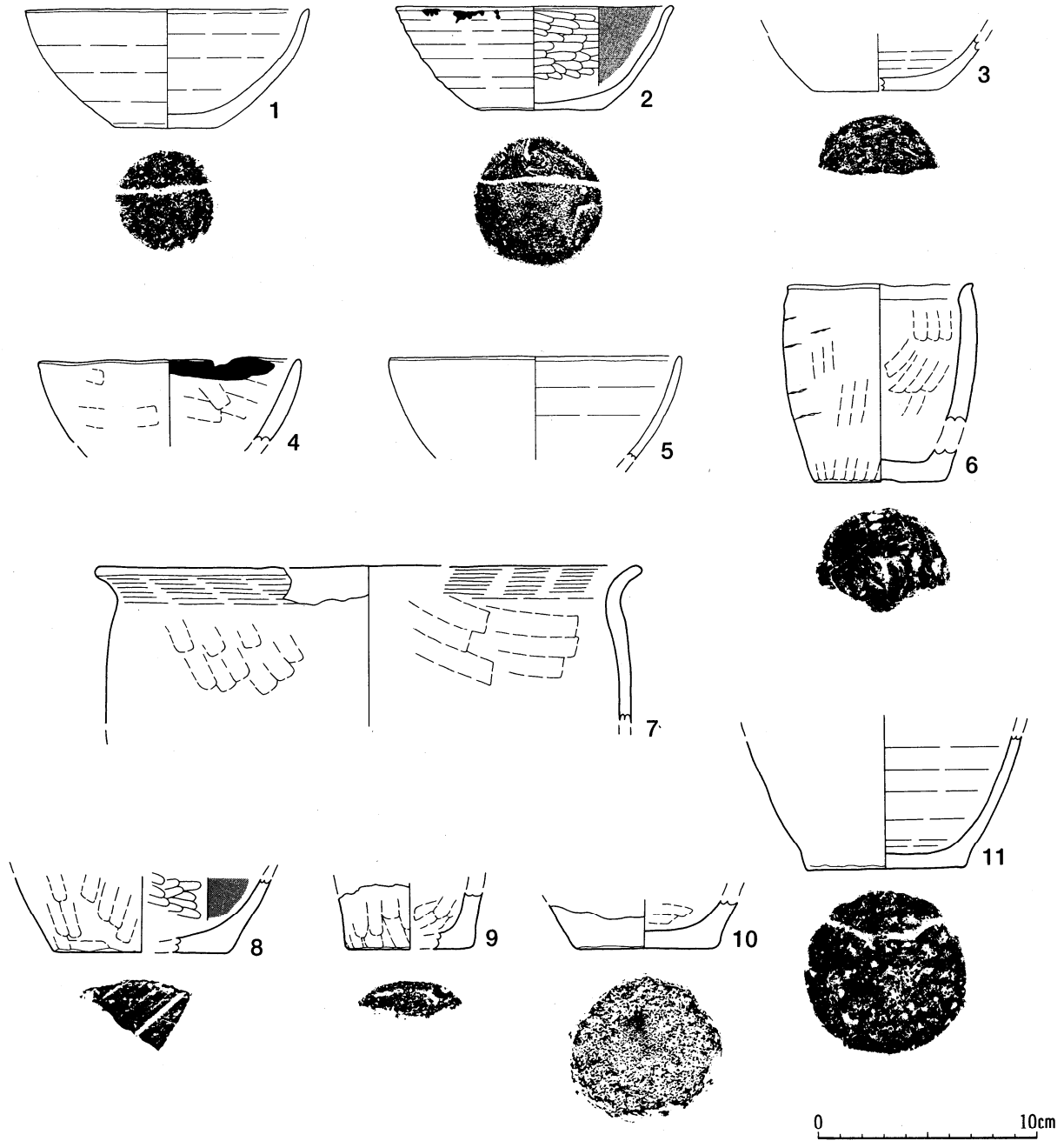
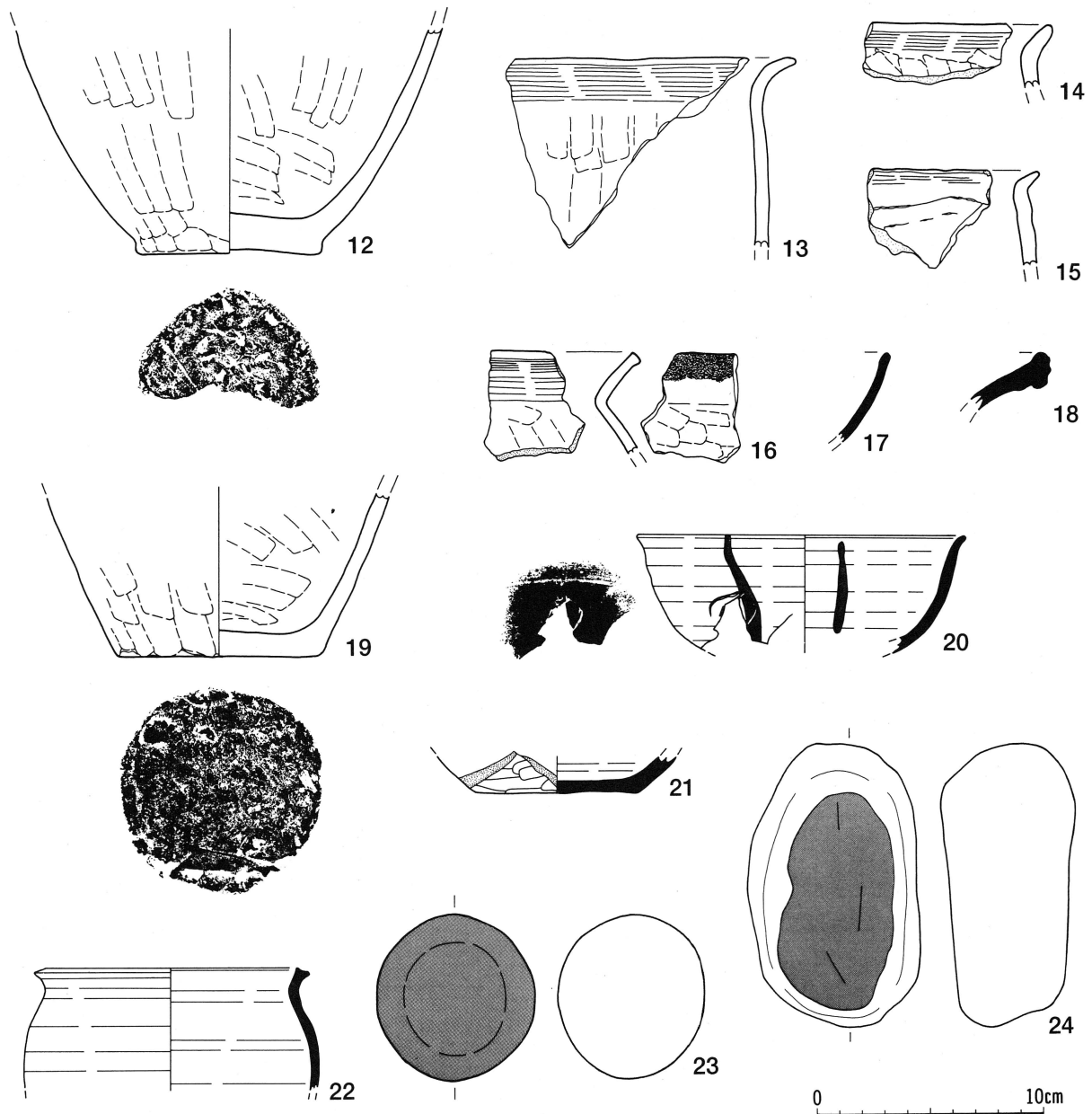


図9 第304号竪穴住居跡(2)



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	貼床下	(13.6)	5.2	4.6	ロクロ?	ロクロ?	ロクロ?	ロクロ	ロクロ	ロクロ	糸切り?	B II b	P-1
2	土師器	坏	床面	6.4	4.8	3.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転糸切り	B I b	P-16 内面黒色処理 口縁部 タール付着
3	土師器	坏	貼床	(4.7)	(2.6)	(2.8)	—	不明	不明	—	ロクロ	ロクロ	不明	B II	P-69
4	土師器	坏	フク土 貼床	(12.0)	(3.9)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A II	外面火熱に剥落あり P-47 内面タール付着
5	土師器	坏	貼床下Pit	(12.0)	(4.8)	—	ロクロ?	ロクロ?	—	ロクロ?	ロクロ?	—	—	B II	外面磨減 P-37
6	土師器	鉢	床面	(8.4)	(9.0)	6.0	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	A II	輪積痕
7	土師器	甕	床面	(25.0)	(7.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A I	P-4
8	土師器	甕	床面 床直	—	(3.5)	(9.1)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラミガキ	木葉痕?	A	P-6 内面黒色処理 P-33
9	土師器	小型土器	床面	—	(2.8)	(6.4)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底?	—	P-4、23、24
10	土師器	甕	床面	—	(2.3)	(6.5)	—	不明	不明	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	A	P-25 一部剥落
11	土師器	坏	カマド	—	(6.3)	7.4	—	不明	不明	—	ロクロ	ロクロ	不明	B	外面磨減

図10 第304号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
12	土師器	甕	床面、フク土貼床	—	(10.0)	(4.0)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ?	A I	P-22、P-30
13	土師器	甕	貼床	(22.6)	(8.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ナデ	ナデ	—	—	A I	輪積痕 P-62
14	土師器	甕	Pit 2 フク土	(17.2)	(2.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A I	輪積痕 P-27
15	土師器	甕	床面	(18.0)	(4.5)	—	ヨコナデ	不明	—	?	不明	—	—	A I	輪積痕 P-27
16	土師器	甕	貼床	(15.6)	(4.7)	—	ヨコナデ ナデ	ヘラナデ	—	?	ヘラナデ	—	—	A II	内面ス状炭化物付着
17	須恵器	坏	貼床	(11.4)	(3.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	P-51
18	須恵器	甕	貼床	—	(2.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
19	土師器	甕	カマド床面	—	(7.5)	9	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ナデ	ナデツケ	A I	P-1
20	須恵器	坏	貼床下	(14.4)	(5.2)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	外面 刻書 火だすき痕P-2
21	須恵器	壺	床直	—	(1.5)	(7.0)	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ→ヘラナデ	—	—	P-12
22	須恵器	甕	貼床下 Pit 5	(11.2)	(5.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	—

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	外径	内径				
23	貼床下 Pit 4	7.3	7.0	6.5	375	安	磨石	
24	貼床	12.4	7.5	5.7	540	安	砥石	S-10

図11 第304号竪穴住居跡出土遺物 (2)

第305号竪穴住居跡 (図12～図14)

[位置] 調査区東側のNO・NP-451・452グリッドに位置する。

[重複] 第304号住居跡、第340号住居跡と重複し、第304号住居跡より古く、第340号住居跡より新しい。

[平面形・規模] 東側部分を第304号住居跡に切られているため東壁のと北壁の一部が削平されている。残存する西壁3m45cm、南壁3m66cm、北壁(3m10cm)を測り、平面形は方形と推定される。床面積は約(10.97㎡)で、主軸方位はN-170°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、西壁25cm、南壁16cmで床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面は東側の一部が削平されているがほぼ平坦で堅く締まっている。

[周溝] 削平されている東壁を除いて幅5～20cm、深さ6～16cmの周溝がほぼ一巡すると思われる。

[ピット] 検出されなかった。

[カマド] カマドは、南壁西側に粘土を用いて構築している。焚き口部には、土師器の甕を2つ重ねて伏せた状態で支脚としていた。煙道は半地下式で短く住居跡外に20cmほどのびる。煙道底面は煙出部に向けてやや急な勾配で立ち上がる。

[堆積土] 堆積土は上部を削平されているため黒褐色土の層と周溝の堆積土の2層にされ、1層にTo-a火山灰がブロック状に混入している。

[出土遺物] 床直から土師器の甕、坏などが出土している。

[時期] 火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

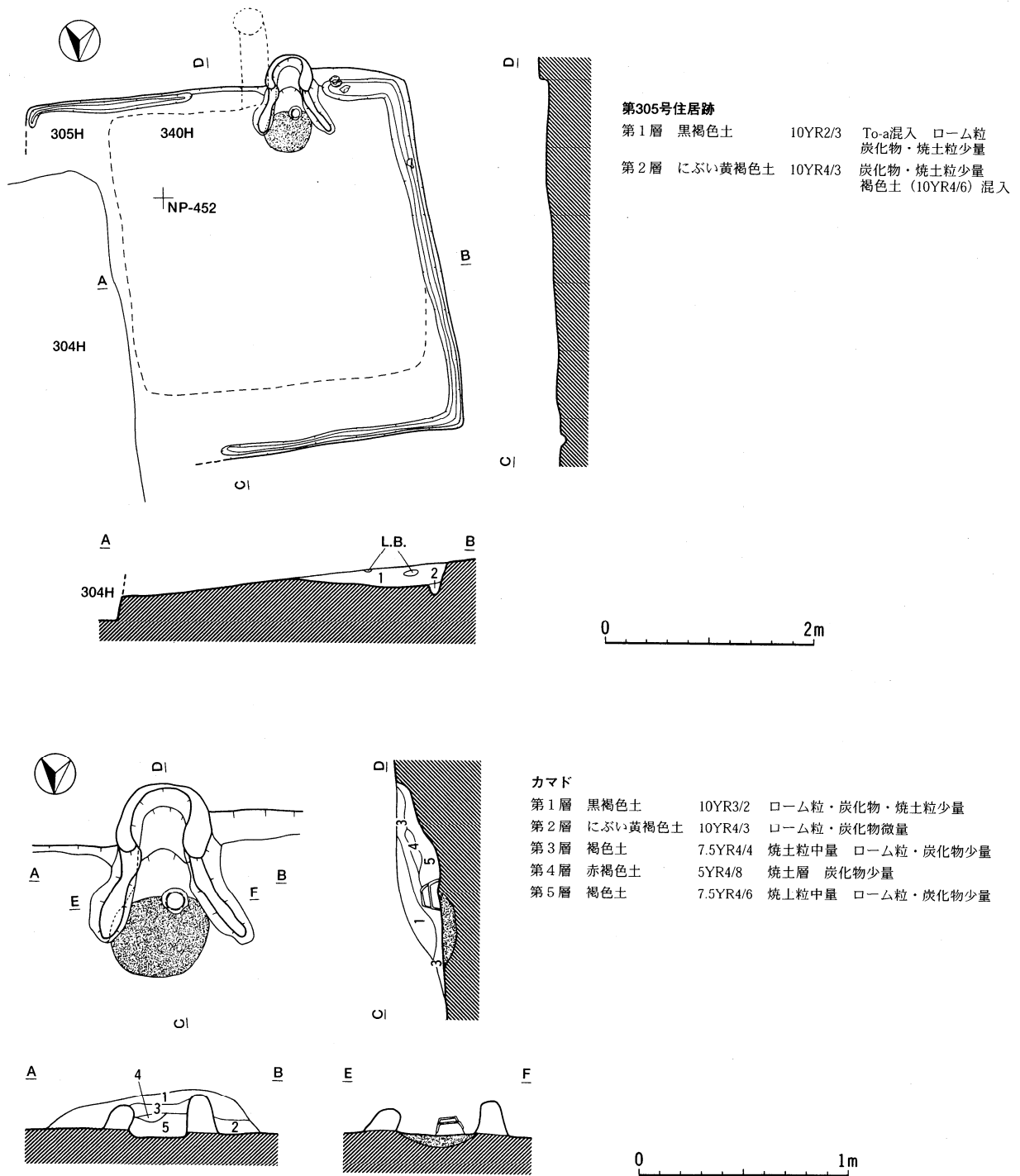
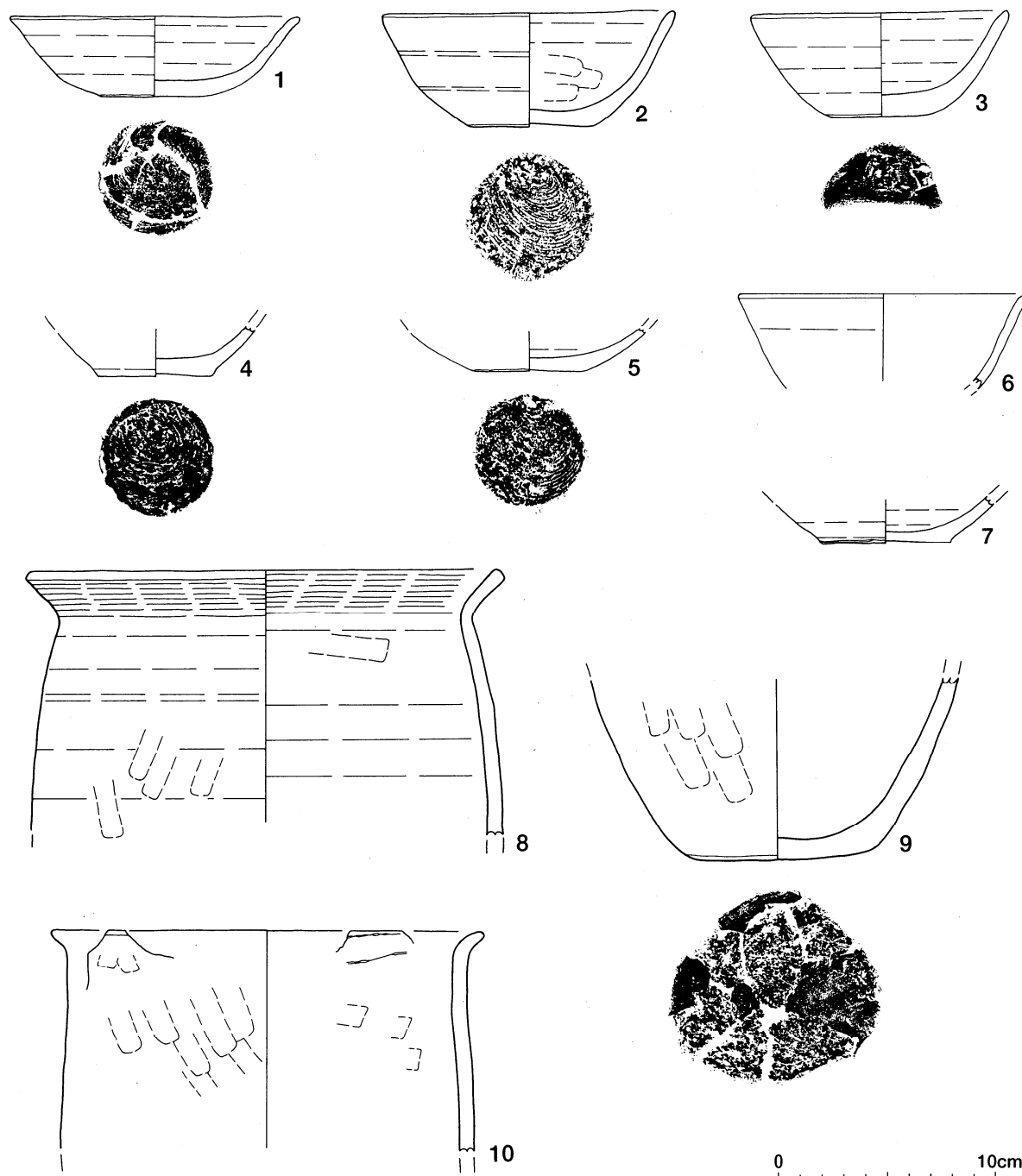
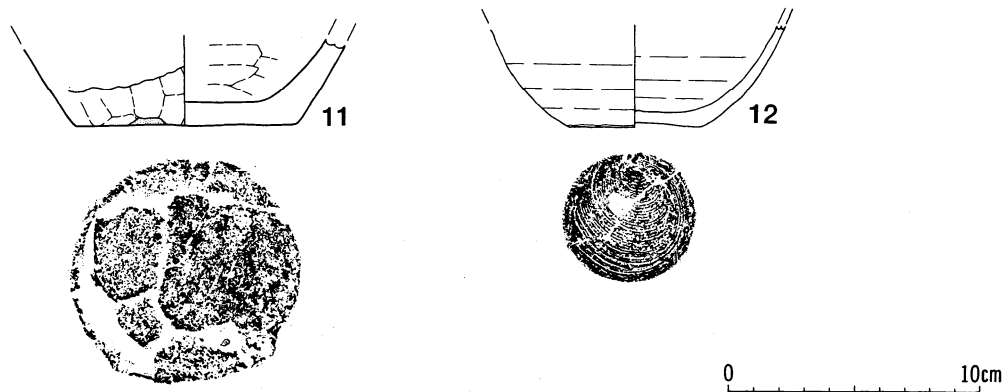


図12 第305号竪穴住居跡



図版 番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	皿?	カマド床面	(13.1)	3.8	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II b	P-4、P-5、P-6
2	土師器	坏	床直	(13.4)	5.2	5.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラナデ	ヘラナデ	回転糸切り	B II	P-19 ロクロ整形→ナデ調整
3	土師器	坏	床面	(12.0)	4.8	(5.0)	ロクロ	ロクロ	不明	ロクロ	ロクロ	ロクロ	?	B II b	P-5
4	土師器	坏	フク土	—	(2.4)	(5.2)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り?	B	底部糸切り底あり 内外面磨減激しい
5	土師器	坏	床面 カマド床面	(5.5)	(1.9)	2.5	—	不明	不明	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B	P-9 磨減が激しい
6	土師器	坏	カマド床面	(13.4)	(4.3)	—	ロクロ?	ロクロ?	—	ロクロ?	ロクロ?	—	—	B	断面のみ磨減している P-18?
7	土師器	坏	周溝内	—	(2.3)	(6.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B	P-1
8	土師器	甕	カマド 周溝内	(18.0)	(12.4)	—	ヨコナデ	ロクロ (一部ヘラナデ)	—	ヨコナデ	ロクロ	—	—	B I	P-2、P-15、P-22
9	土師器	甕	カマド床面	(8.3)	(8.3)	(4.0)	—	ヘラナデ	不明	—	不明	不明	ナデツケ	A I	P-5、P-6、P-7 磨減が激しい
10	土師器	甕	カマド床面	(18.0)	(10.2)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A I	P-2、P-3、P-4 輪積痕

図13 第305号竪穴住居跡出土遺物(1)



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
11	土師器	甕	カマド床面	—	(3.6)	(9.0)	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ナデ	ナデ	砂底	A	
12	土師器	坏	フク土	—	(4.0)	5.4	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	P4

図14 第305号竪穴住居跡出土遺物（2）

第306号竪穴住居跡（図15～図21）

〔位 置〕 調査区東側のNP～NR-448・449グリッドに位置する。

〔重 複〕 認められなかった。

〔平面形・規模〕 東壁5m42cm、西壁5m77cm、南壁5m92cm、北壁6m7cmの南側がやや広がるほぼ方形である。床面積は約32.38㎡で、主軸方位はN-161°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁23cm、西壁43cm、南壁43cm、北壁25cmを測り、床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦で堅く締まり、北壁寄りの中央部に床面が焼けた範囲が確認されている。

〔周 溝〕 幅10～20cm、深さ6～33cmの周溝がカマド部分を除いて一巡する。

〔ピット〕 検出されたピットは11個である。柱穴はピット1（72cm）、ピット2（58cm）、ピット8（56cm）、ピット9（54cm）と考えられる。その他のピットについての用途等については不明である。

〔カマド〕 カマドは、粘土を用いて南壁西側に構築されている。焚口部に土師器の甕を支脚として転用している。煙道は半地下式で住居跡外に60cmほどのび、煙道底面は煙出部に向かってやや急に立ち上がる。

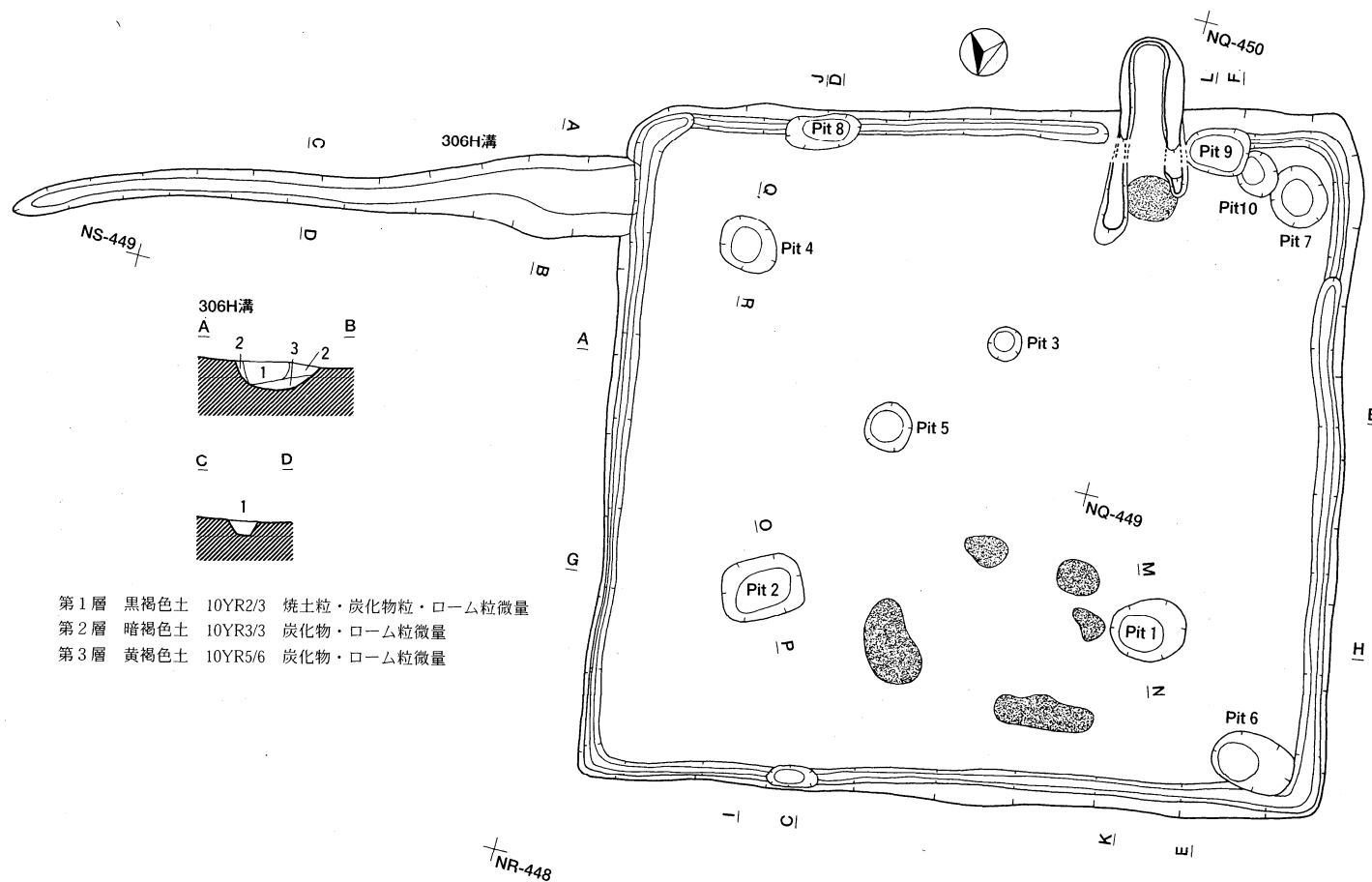
〔その他の施設〕 東壁の南寄りに、長さ5m、幅20～60cm、深さ10～20cmの溝を検出した。住居跡南東隅から斜面に沿って東側に向かって造られており、堆積土からは、水が流れた痕跡等は見られないが、形態から排水溝と考えられ住居跡に伴うものと考えられる。

〔堆積土〕 堆積土は8層に分層され、5層上面にB-Tm火山灰が堆積している。

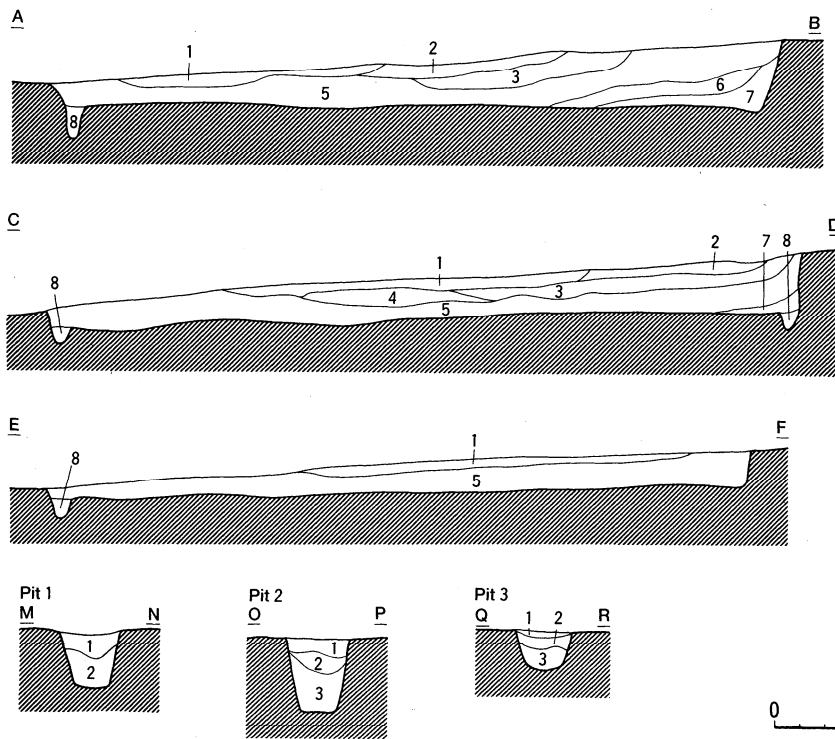
〔出土遺物〕 覆土中から多量の遺物（図17）が出土し、土師器や須恵器のほか焼成粘土板や鉄滓などがみられる。

〔時 期〕 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（中嶋友文）



- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 焼土粒・炭化物粒・ローム粒微量
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物・ローム粒微量
 第3層 黄褐色土 10YR5/6 炭化物・ローム粒微量

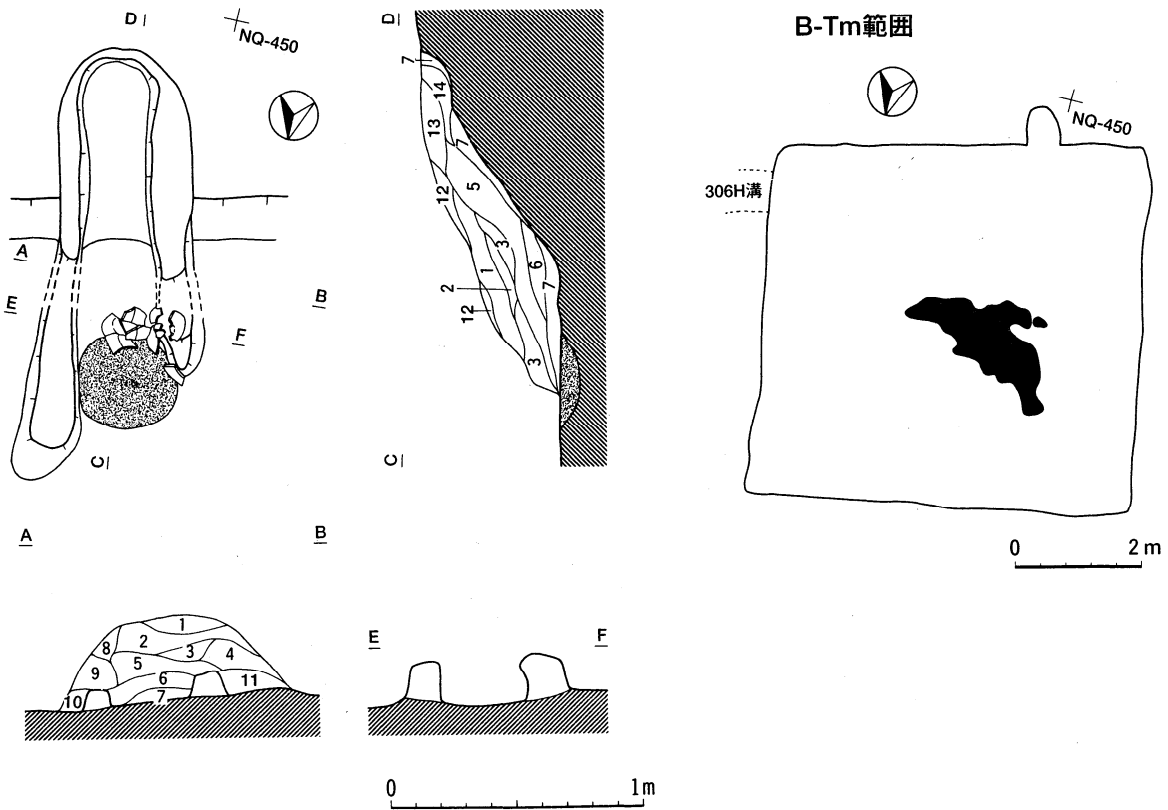
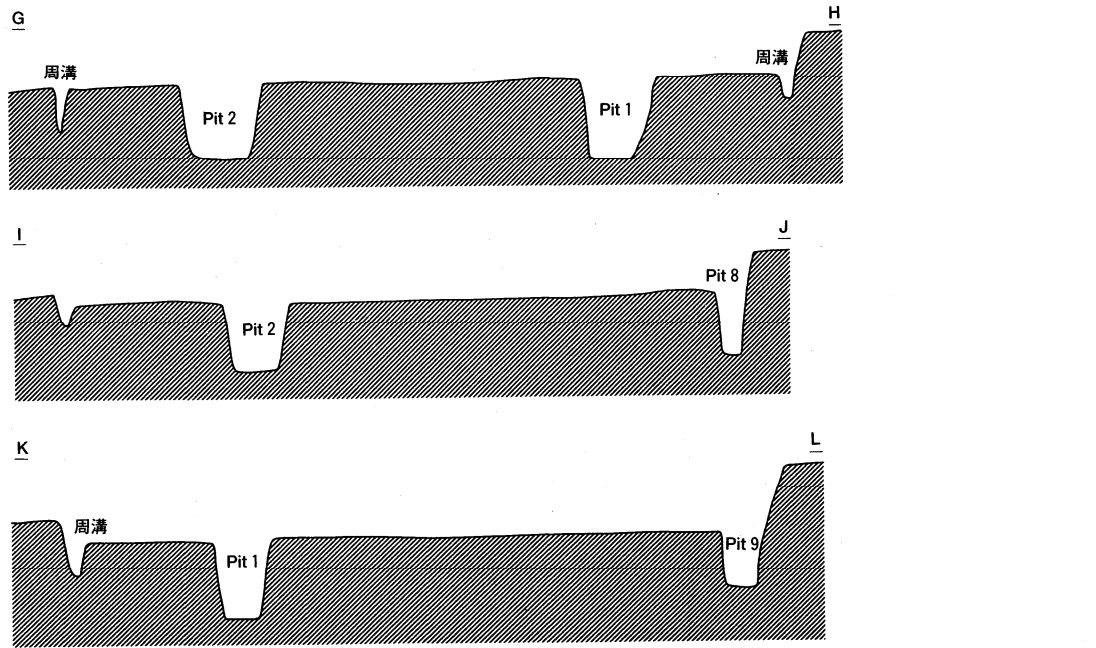


第306号住居跡

- | | | | | | |
|--------------|---------|-----------|--------|--------|------------|
| 第1層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 焼土粒微量 | 炭化物微量 | 浮石微量 |
| 第2層 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | 焼土微量 | 炭化物微量 | |
| 第3層 | 黄褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物微量 | 焼土微量 | |
| 第4層 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | 黄褐色土多量 | 浮石微量 | 焼土微量 炭化物微量 |
| 第5層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 炭化物少量 | 焼土粒少量 | B-Tm混入 |
| 第6層 | 黒色土 | 10YR1.7/1 | 炭化物微量 | 焼土微量 | 黄褐色土少量 |
| 第7層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 褐色土 | |
| 第8層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 炭化物微量 | ローム粒微量 | |
| Pit 1 | | | | | |
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 焼土粒微量 | 炭化物微量 | |
| 第2層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 浮石微量 | | |
| Pit 2 | | | | | |
| 第1層 | 黒色土 | 10YR1.7/1 | 炭化物微量 | 焼土粒微量 | |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 焼土粒微量 | | |
| 第3層 | 黄褐色土 | 10YR2/3 | 褐色土多量 | | |
| Pit 3 | | | | | |
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 炭化物 | 焼土粒微量 | |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物微量 | | |
| 第3層 | 褐色土 | 10YR4/4 | ローム粒 | | |

0 2m

図15 第306号竪穴住居跡 (1)

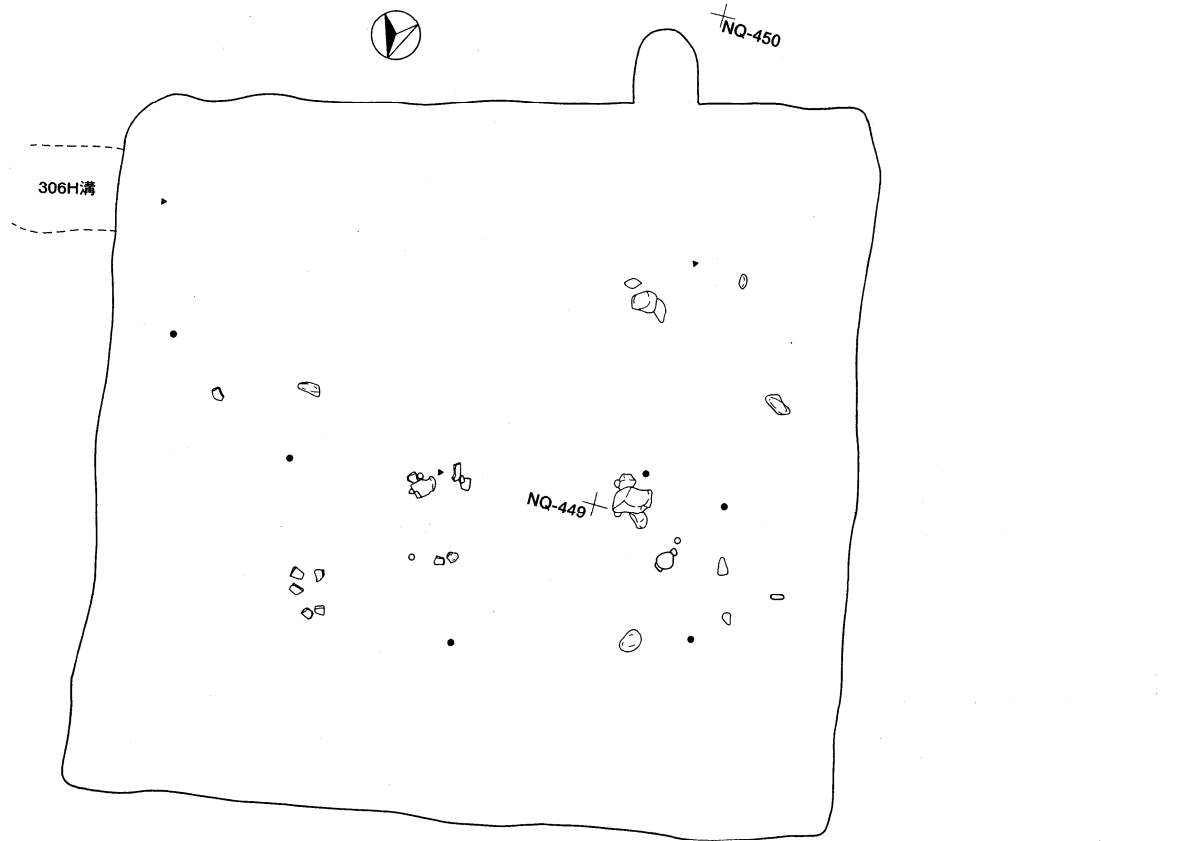


カマド

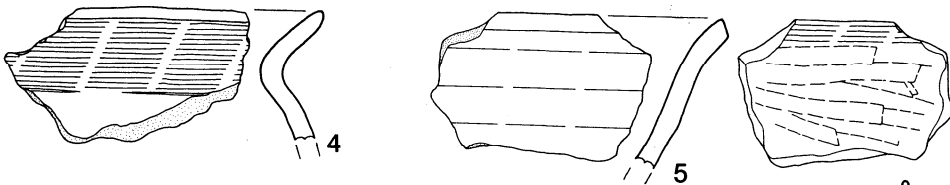
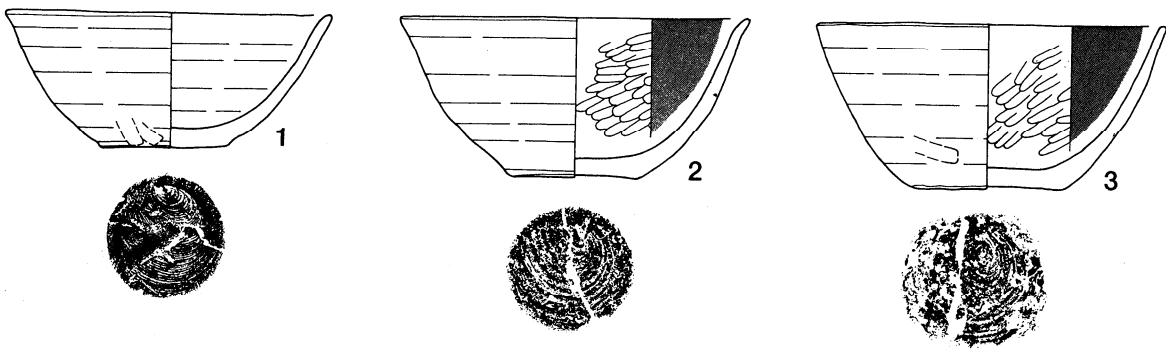
- | | |
|------------------------------|-------------------------------------|
| 第1層 暗褐色土 10YR3/4 焼土少量 炭化物微量 | 第8層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒微量 焼土微量 B-Tm混入 |
| 第2層 黒褐色土 10YR2/3 焼土微量 炭化物微量 | 第9層 黄褐色土 10YR3/4 炭化物微量 浮石微量 |
| 第3層 褐色土 10YR4/4 B-Tm混入 | 第10層 暗褐色土 10YR3/4 焼土微量 |
| 第4層 黄褐色土 10YR5/6 炭化物微量 浮石微量 | 第11層 褐色土 10YR5/6 炭化物微量 焼土微量 |
| 第5層 赤褐色土 | 第12層 暗褐色土 10YR3/4 焼土微量 |
| 第6層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒微量 | 第13層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒微量 |
| 第7層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒微量 焼土微量 | 第14層 暗褐色土 10YR3/4 |

図16 第306号竪穴住居跡 (2)

遺物出土状況



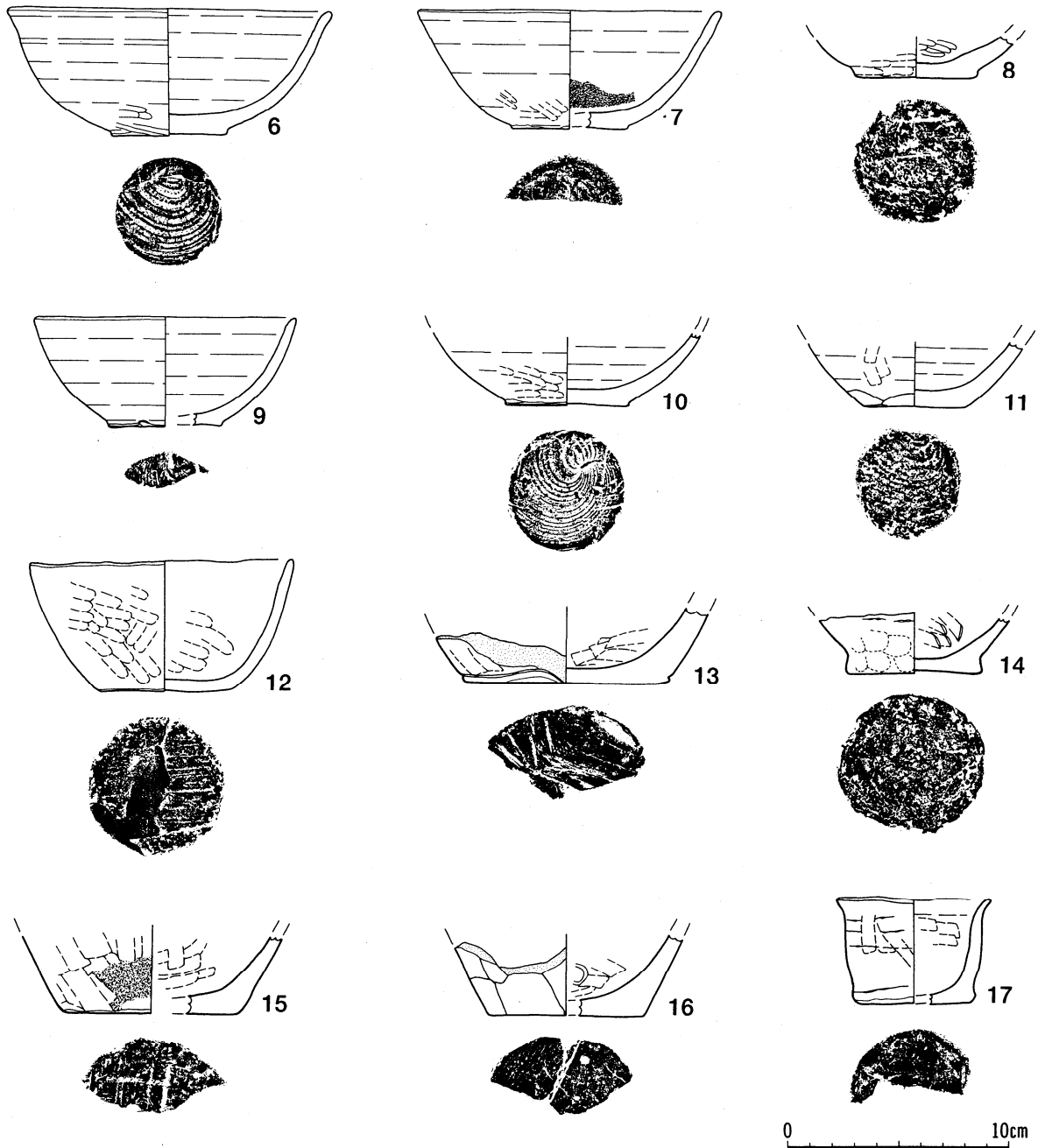
0 2m



0 10cm

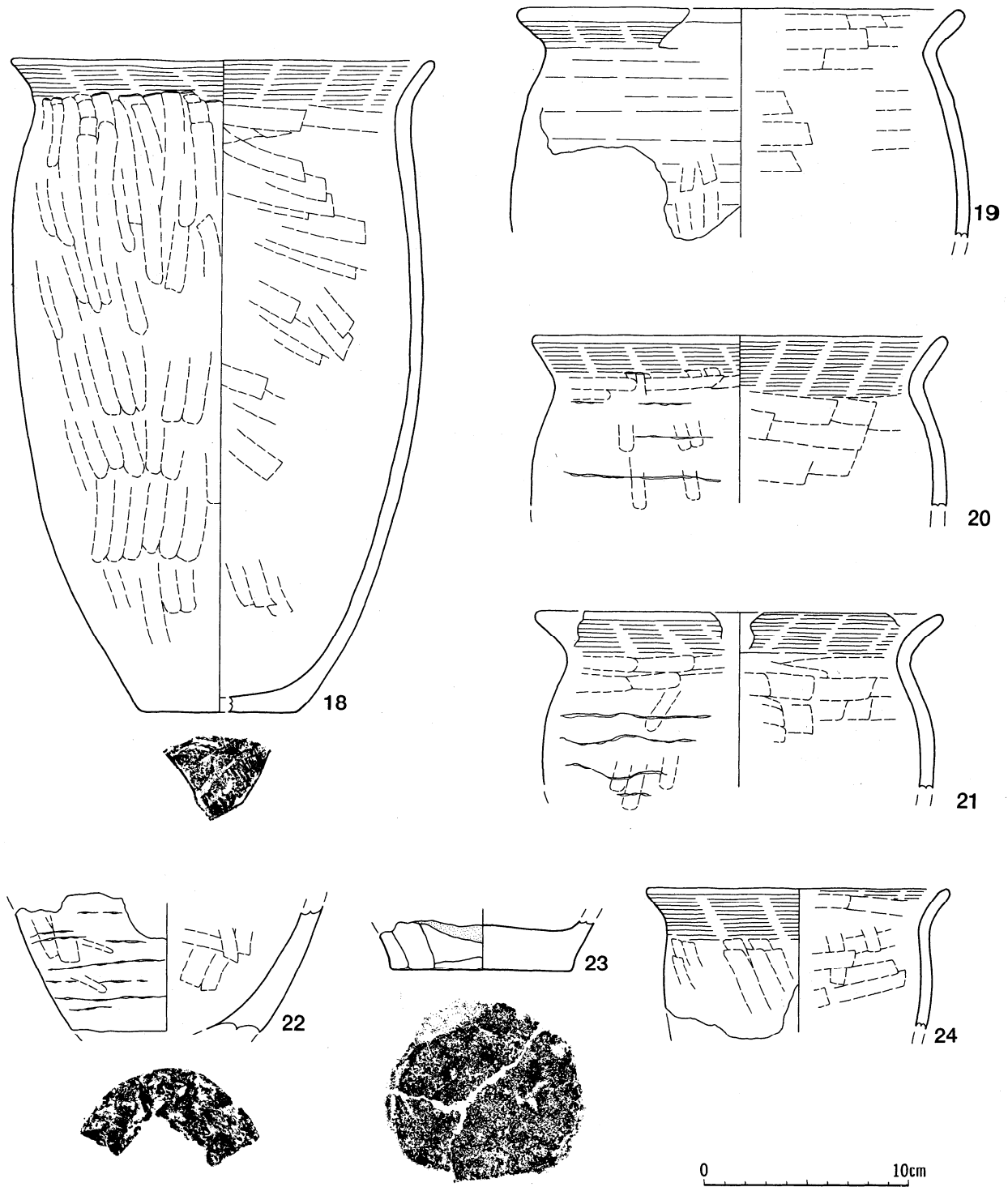
図版 番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	カマド床面 カマド、フク土	(13.0)	(5.3)*	4.8	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II a	P-1
2	土師器	坏	カマド床直	(13.8)	(6.3)	(5.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転糸切り	B I b	内面黒色処理 P-1, P-2, P-3
3	土師器	坏	床直	(13.9)	(6.5)	(5.5)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転糸切り	B I a	内面黒色処理 P-9
4	土師器	甕	フク土	(23.8)	(5.1)	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
5	土師器	埴	フク土	(24.0)	(6.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	—	

図17 第306号竪穴住居跡(3)・出土遺物(1)



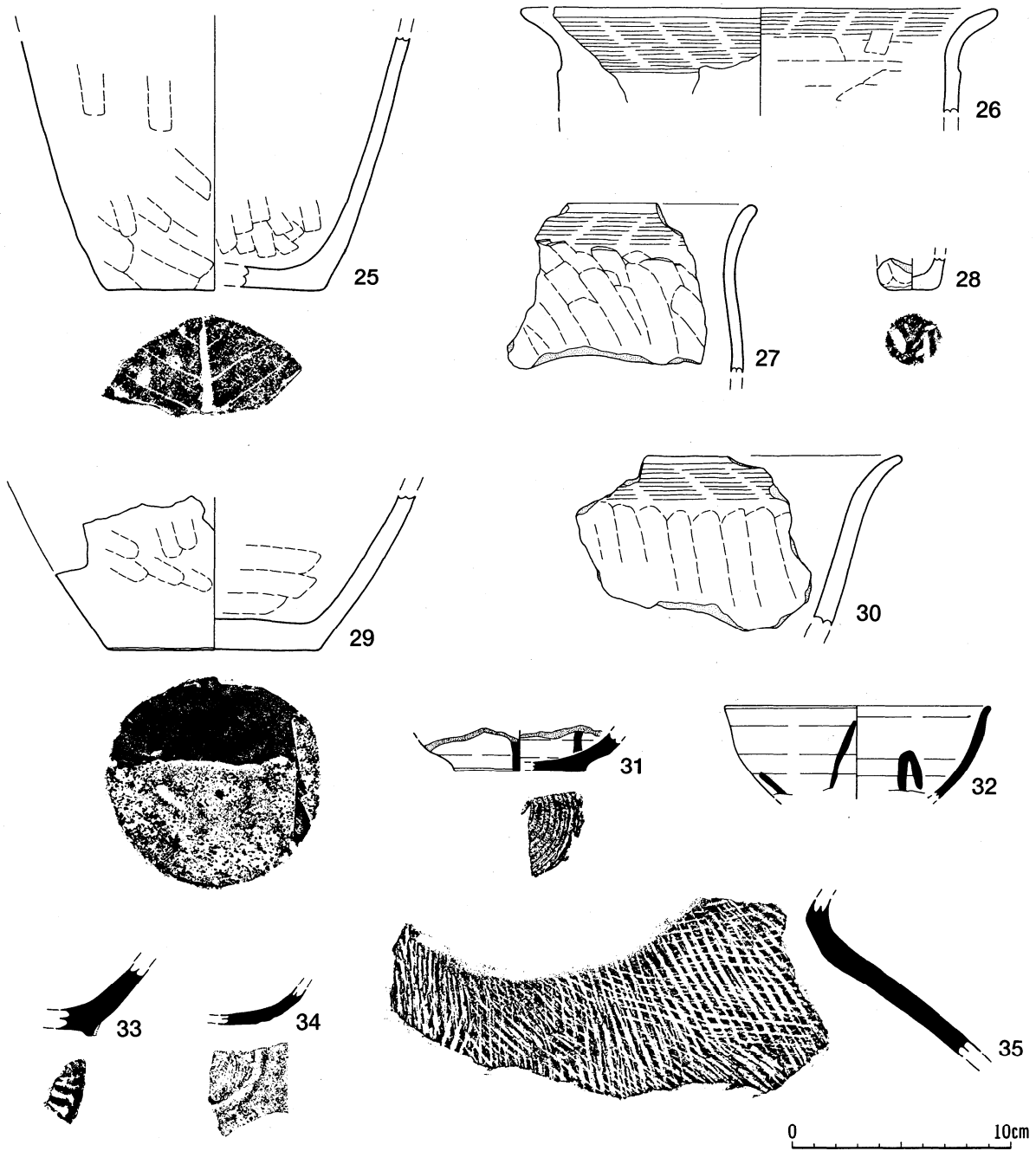
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
6	土師器	坏	フク土床直	14.8	5.9	5.2	ロクロ	ロクロ	ロクロ (一部ヘラナデ)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	糸切り?	B II a	P-8
7	土師器	坏	床直	(7.0)	5.4	(5.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ (一部ヘラナデ)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II a	内面にスス状炭化物付着 P-6
8	土師器	甕	床直	(9.0)	(1.9)	(5.5)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラミガキ	ナデツケ	A	
9	土師器	坏	フク土	(12.0)	5.0	(5.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II b	
10	土師器	坏	カマド床直 フク土	(14.6)	(3.2)	5.4	—	ロクロ	ヘラナデ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II a	P-1
11	土師器	甕	床直	—	(2.8)	(4.8)	—	ロクロ	ヘラケズリ	—	ロクロ	ロクロ	糸切り	B	P-4
12	土師器	坏	カマド床直	(12.0)	6.0	(6.0)	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラ切り	A I c	P-10
13	土師器	甕	2層	—	(2.8)	(9.3)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	木葉痕	A	
14	土師器	甕	フク土	(9.0)	(2.5)	6.2	—	—	ユビ圧痕	—	—	ヘラナデ	砂底	A	輪積痕
15	土師器	甕	カマド床直	(12.8)	(4.3)	(8.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラ切り?	A	外面粘土付着
16	土師器	甕	床直	—	(3.7)	(7.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
17	土師器	小型土器	カマド床直	7.0	4.8	(5.6)	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	—	輪積痕 P-13

図18 第306号竪穴住居跡出土遺物 (2)



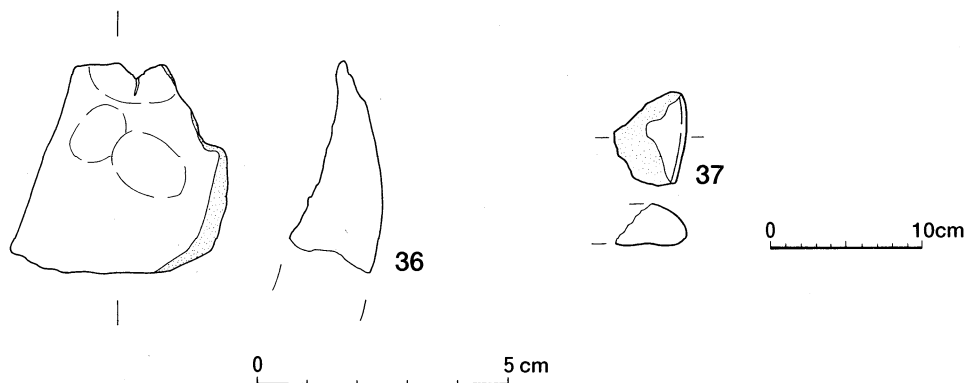
図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
18	土師器	甕	カマド床直 カマドフク土	20.8	32.0	(7.8)	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	A I b	
19	土師器	甕	フク土	(22.0)	(11.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	B I	
20	土師器	甕	フク土	(20.4)	(8.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕
21	土師器	甕	フク土	(20.0)	(8.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕
22	土師器	甕	床直	—	(9.0)	(6.3)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	A	輪積痕 P-2
23	土師器	甕	床面	—	(2.5)	(9.6)	—	ヘラケズリ	ナデ	—	ナデ	ナデ	砂底	A	P-18
24	土師器	甕	フク土	(15.0)	(7.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A II	P-12

図19 第306号堅穴住居跡出土遺物 (3)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
25	土師器	甕	フク土	(18.0)	(11.8)	(10.0)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	木葉痕	A	
26	土師器	甕	床直	(22.0)	(5.0)	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-8
27	土師器	甕	床直	(23.0)	(7.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-1
28	土師器	小型土器	フク土	—	(1.6)	(2.5)	—	—	ユビ圧痕	—	—	ユビ圧痕	ユビ圧痕	—	
29	土師器	甕	床直	(18.4)	(7.3)	(9.6)	—	ヘラナデ	不明	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	A	
30	土師器	埴	フク土	—	(8.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	—	
31	須恵器	坏	カマド	—	(1.8)	(6.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	—	内面火だすき痕
32	須恵器	坏	床直	(7.0)	5.4	(5.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	—	内面にスス状炭化物付着 P-6
33	須恵器	壺	床面	—	(3.4)	—	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	菊花文	—	
34	須恵器	坏	床直	—	(1.7)	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	—	
35	須恵器	甕	フク土	—	(6.9)	—	—	タタキ目	—	—	あて具痕	—	—	—	

図20 第306号竪穴住居跡出土遺物 (4)



図版 番号	種 類	出土層位	計 測 値 (cm)			重さ(g)	特 徴	備 考
			長 さ	幅	厚 さ			
36	不 明	フク土	(4.2)	(4.1)	1.8	21.0	ヘラナデで調整	
37	焼成粘土板	フク土	(6.0)	(4.6)	2.8	52.0	ヘラナデで調整	

図21 第306号竪穴住居跡出土遺物(5)

第307号竪穴住居跡 (図22・図23)

[位 置] 調査区東側のNL・NM-454・455グリッドに位置する。

[重 複] 確認されなかった。

[平面形・規模] 東壁3m2cm、西壁3m20cm、南壁2m95cm、北壁2m15cmで北西隅がやや広がる方形である。床面積は約8.52㎡で、主軸方位はN-150°-Eである。

[壁・床面] 壁高は東壁20cm、西壁61cm、南壁38cm、北壁42cmで、床面から急に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

[周 溝] 幅18~34cm、深さ2~23cmの周溝が南東隅を除いてほぼ一巡する。

[ピット] 検出されたピットは2個である。いずれも柱穴とは考えられない。

[カマド] カマドは、南壁西側に構築される。煙道は半地下式で、住居跡外に90cmほどのびる。煙道底面は煙出部に向かってやや急に立ち上がる。

[堆積土] 堆積土は、6層に分層され、1層に炭化物が多量に含まれる。

[出土遺物] 覆土から土師器の坏や甕のほか、羽口が出土している。

[時 期] 出土遺物から、9世紀中葉に構築されたと考えられる。

(齋藤由美子)

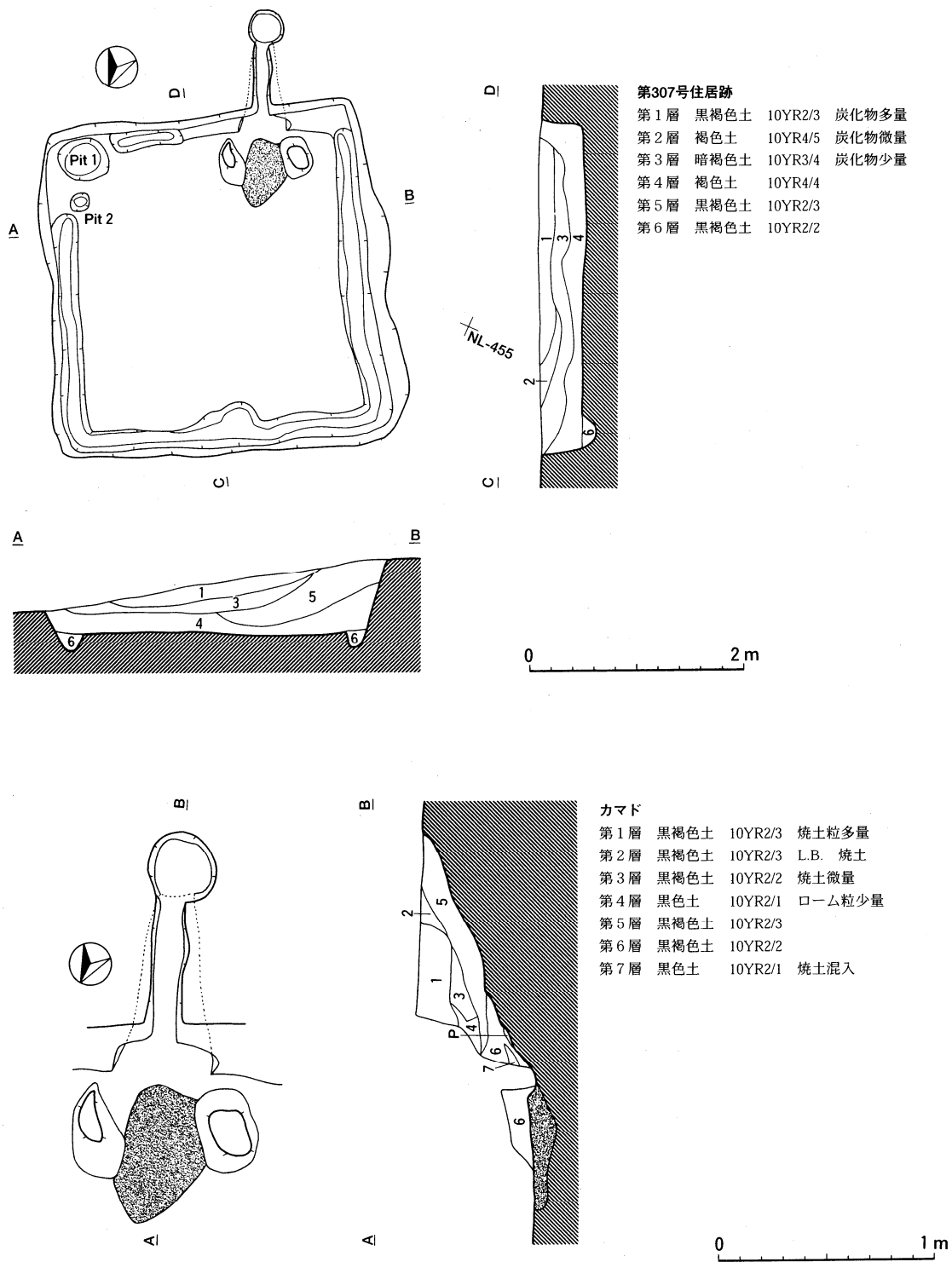
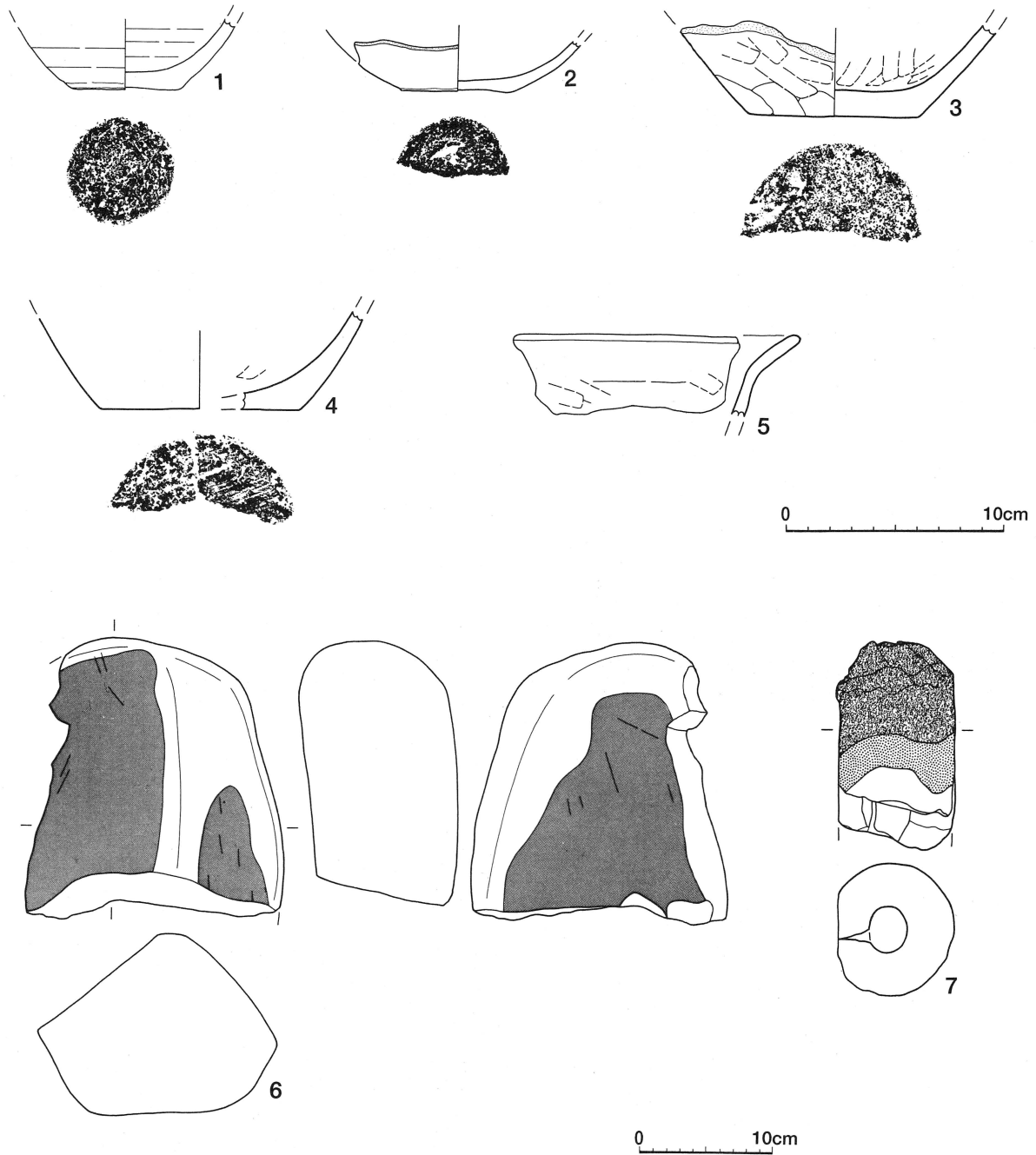


図22 第307号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	カマド フク土	(10.0)	(3.3)	(5.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BII	
2	土師器	坏	カマド フク土	(11.4)	(5.0)	(2.4)	—	不明	不明	—	不明	不明	糸切り?	—	磨滅 P-1
3	土師器	甕	フク土	(14.8)	(4.5)	(7.6)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	A	磨滅
4	土師器	甕	フク土	—	—	—	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	—	磨滅
5	土師器	埴?	フク土	—	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	—	—	—	—	

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
6	フク土	20.5	19.5	13.5	8,070	石安	磨石 炭化物付着	

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
7	カマドフク土	(15.9)	10.1×8.9	2.9×3.5	(1,010)	B	砂粒多量	

図23 第307号竪穴住居跡出土遺物

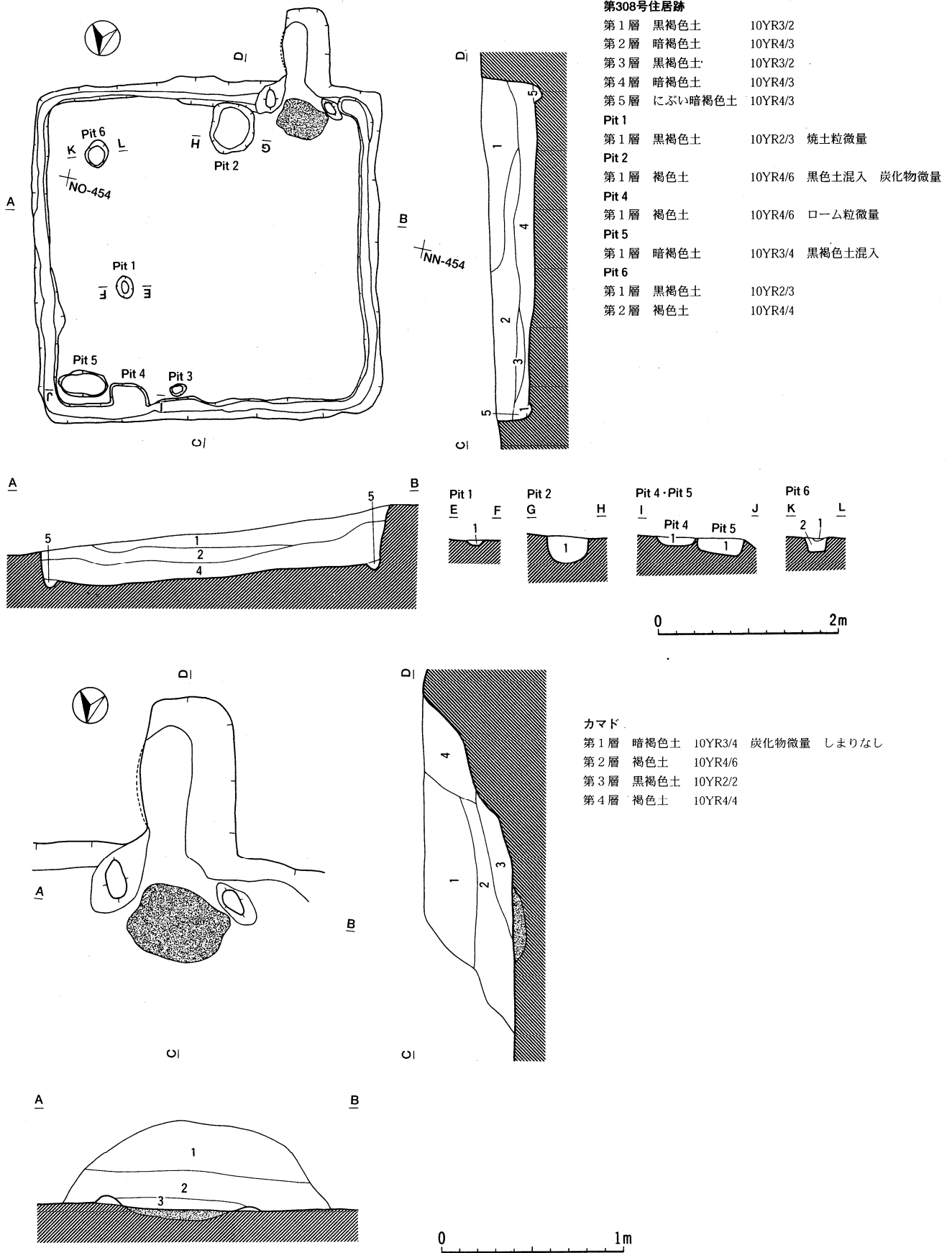


図24 第308号竪穴住居跡

第308号竪穴住居跡 (図24・図25)

[位置] 調査区東側のNN～NP-455・456グリッドに位置する。

[重複] 確認されなかった。

[平面形・規模] 東壁3m64cm、西壁3m58cm、南壁3m78cm、北壁3m72cmを測りほぼ方形である。床面積は12.71㎡である。主軸方位はN-18°-Wである。

[壁・床面] 壁高は、東壁32cm、西壁64cm、南壁58cm、北壁38cmで床面からやや急に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 幅8～34cm、深さ6～12cmの周溝が一巡する。

[ピット] 検出されたピットは6個である。いずれも柱穴とは考えられない。

東壁北側付近に長軸26cm、短軸18cm、深さ6cmの楕円形のピット (ピット1)、南壁西側に長軸56cm、短軸46cm、深さ30cmのピット (ピット2)、北壁東側に長軸18cm、短軸14cmの楕円形のピット (ピット3)、北壁東側に径42cm、深さ10cmのピット (ピット4)、北東隅に長軸56cm、短軸30cm、深さ18cmの楕円形のピット (ピット5)、南東隅付近に、長軸32cm、短軸24cm、深さ14cmのピット (ピット6) を検出した。

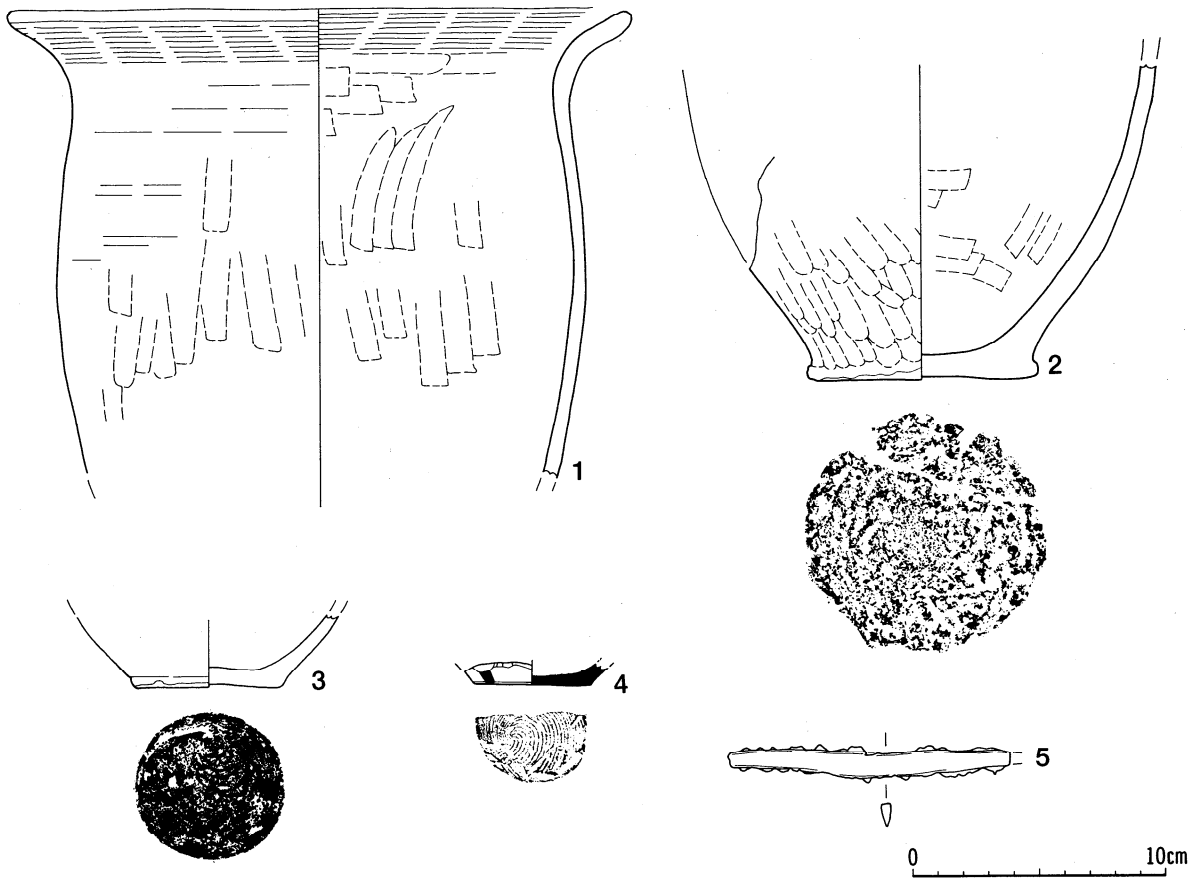
[カマド] カマドは、南壁西側に構築されている。煙道は半地下式で、住居跡外に80cmほどのびる。煙道底面は煙出部に向かって緩やかに立ち上がる。

[堆積土] 堆積土は、5層に分層される。

[出土遺物] 覆土から土師器の坏、甕、須恵器の坏、床面から鉄製の刀子が出土している。

[時期] 出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

(齋藤由美子)



図版番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	カマド床直 フク土	(24.8)	(2.8)	—	ナデ	ロクロ ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	B I	Pit1
2	土師器	甕	カマドフク土 フク土	—	(13.4)	(9.2)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	A	
3	土師器	坏	フク土	—	(18.9)	6.1	—	—	不明	—	—	不明	糸切り?	—	器形のみ
4	須恵器	坏	フク土	—	(0.9)	4.6	—	—	ロクロ	—	—	—	回転糸切り	—	内面剥離

図版番号	出土層位	計 測 値 (cm)			重さ(g)	種 類	備 考
		長 さ	幅	厚 さ			
5	床直	11.4	0.9	0.4	8.8	刀子	Fe-2

図25 第308号竪穴住居跡出土遺物

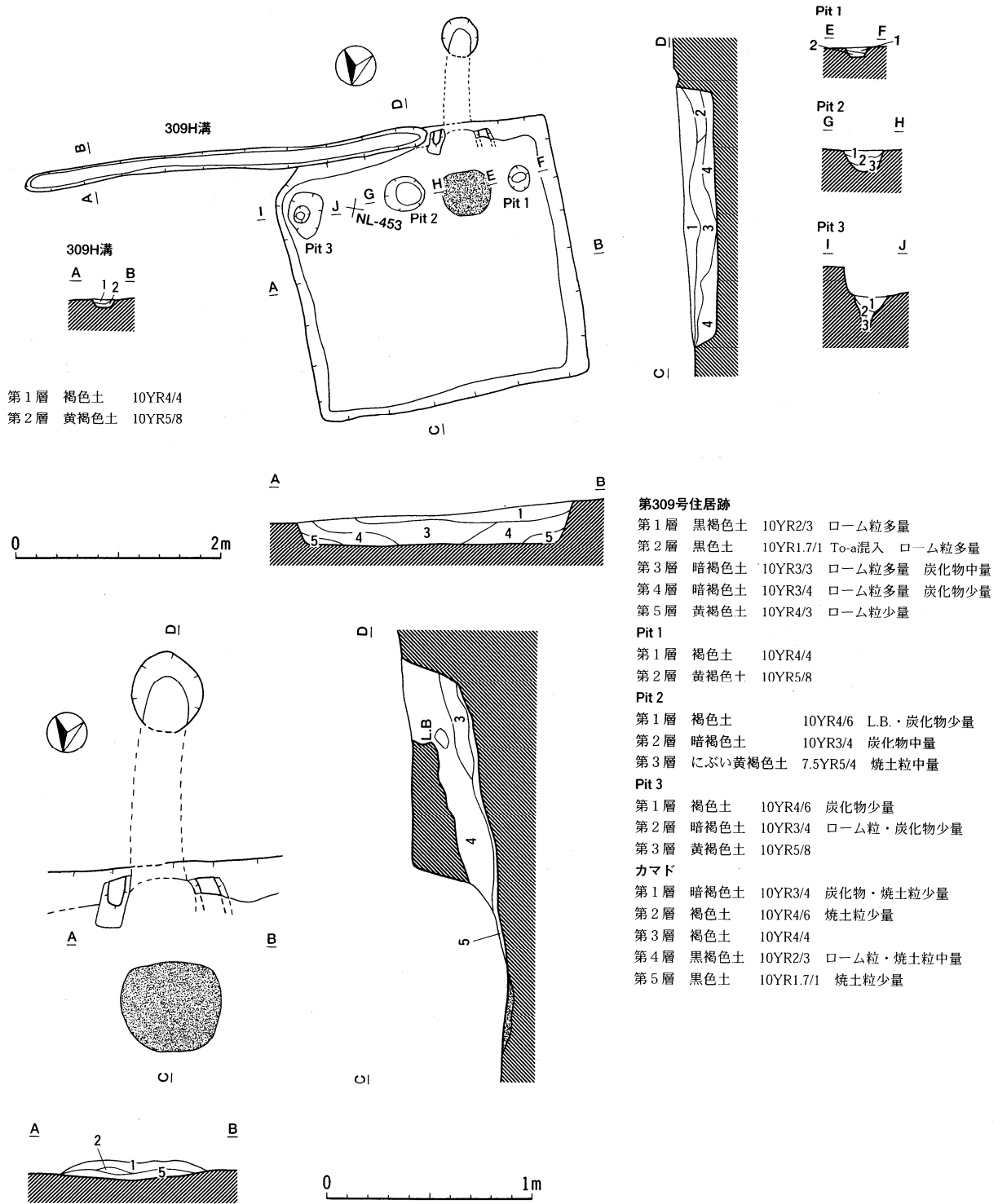
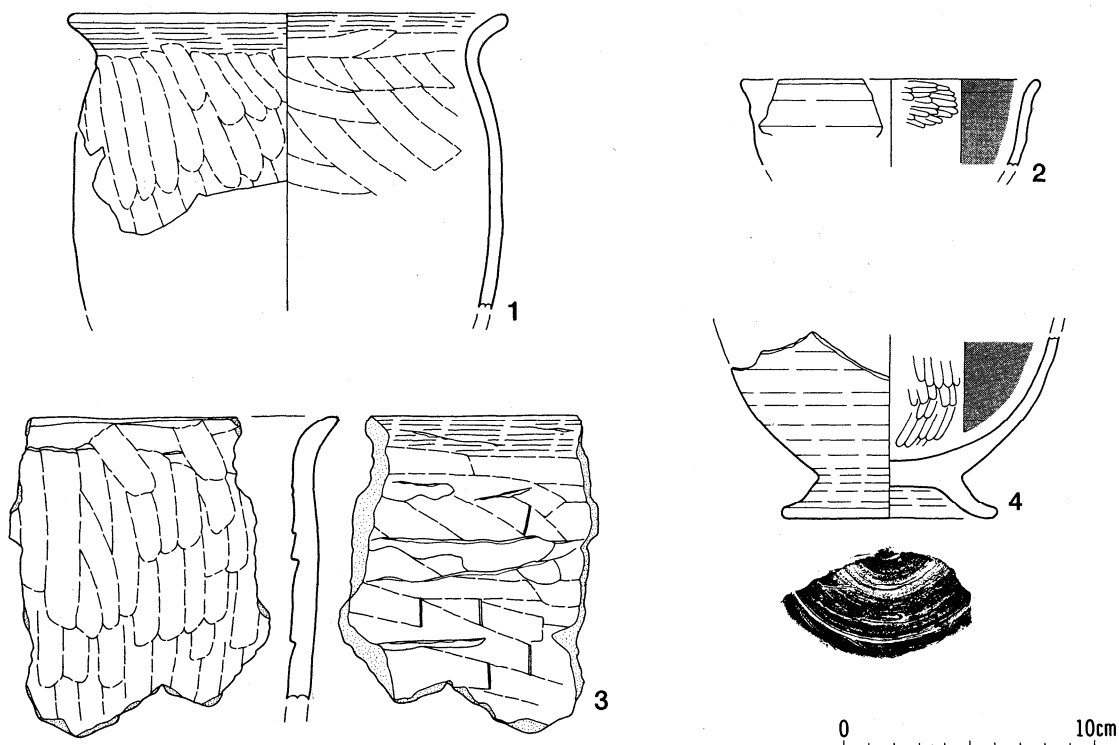


図26 第309号竪穴住居跡

第309号竪穴住居跡 (図26・図27)

[位置] 調査区東側のNK・NL-452・453グリッドに位置する。

[重複] 認められなかった。



図版 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	カマド	(17.6)	(11.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-2、P-5
2	土師器	坏	フク土	(14.0)	—	(3.7)	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	B I	内面黒色処理
3	土師器	甕	フク土	—	(13.7)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-2
4	土師器	高台付坏	フク土	—	(7.4)	(8.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	B	内面黒色処理 高台付

図27 第309号竪穴住居跡出土遺物

〔平面形・規模〕 東壁2m45cm、西壁2m55cm、南壁2m72cm、北壁2m65cmで、南東隅に溝が造られているがほぼ方形と考えられる。床面積は約5.67㎡で、主軸方位はN-164°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁23cm、西壁45cm、南壁42cm、北壁27cmで床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

〔周溝〕 検出されなかった。

〔ピット〕 検出されたピットは3個である。いずれも柱穴とは考えられない。

〔カマド〕 南壁西側に構築されており、焚口部は火床面及びソデの一部が残存するのみである。煙道は地山を掘った地下式で住居跡外に100cmほどのびる。煙道底面は煙出部に向かって緩やかに上がり、煙出部で、急に立ち上がる

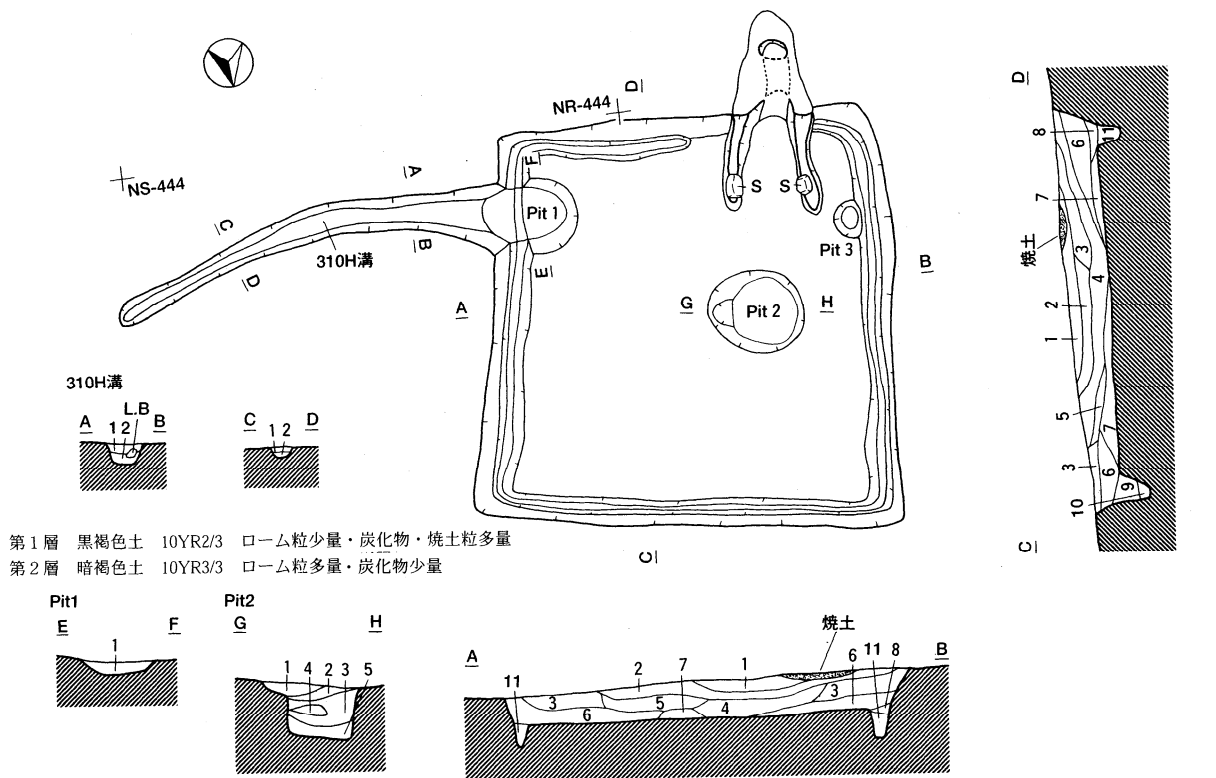
〔その他の施設〕 南壁のカマド脇から壁際を沿って東側に向かって、長さ4m、幅20cm、深さ10~15cmの溝を検出した。堆積土からは、水が流れた痕跡等は見られないが、形態から排水溝と考えられ住居跡に伴うものと考えられる。

〔堆積土〕 堆積土は5層に分層され、2層にT o - a火山灰がブロック状に混入している。

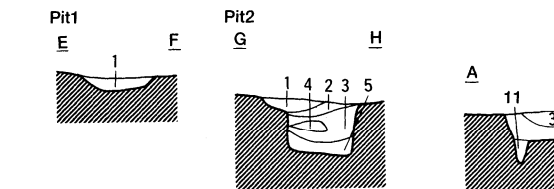
〔出土遺物〕 覆土から土師器の坏や甕などが出土している。

〔時期〕 火山灰の堆積状況や出土遺物から9世紀中葉~後半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)



第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量・炭化物・焼土粒多量
 第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒多量・炭化物少量

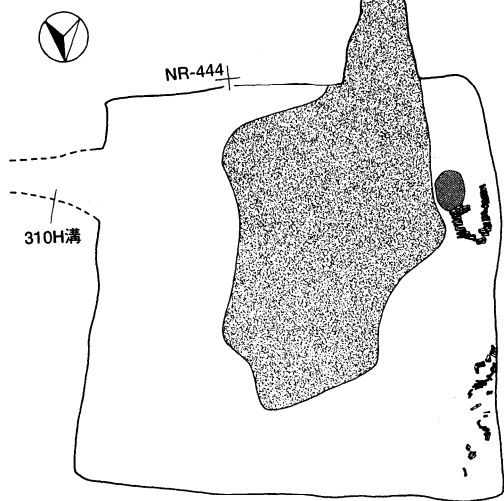


第310号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・炭化物・焼土粒微量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒多量 炭化物・焼土粒微量
- 第3層 黒褐色土 10YR3/2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 混入 ローム粒中量 炭化物・焼土粒微量
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒多量 炭化物・焼土粒少量
- 第5層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒中量 焼土粒少量 炭化物微量
- 第6層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・焼土粒中量 炭化物少量
- 第7層 橙色土 7.5YR6/8 焼土層
- 第8層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
- 第9層 褐色土 7.5YR4/6 炭化物・焼土ブロック少量
- 第10層 黒色土 10YR2/1 ローム粒・炭化物少量
- 第11層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量 炭化物微量

- Pit 1
- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物多量 ローム粒・焼土粒中量
- Pit 2
- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・炭化物・焼土粒微量
 - 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒多量 炭化物少量 焼土粒微量
 - 第3層 黒褐色土 10YR3/2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 混入 ローム粒中量 炭化物・焼土粒微量
 - 第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒多量 炭化物・焼土粒微量
 - 第5層 暗褐色土 10YR3/4

炭化材・焼土出土状況



遺物出土状況

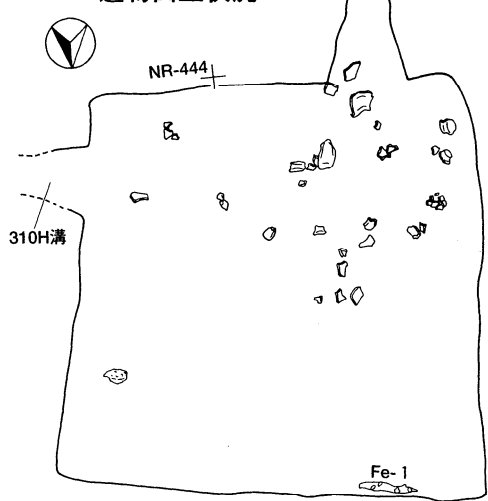
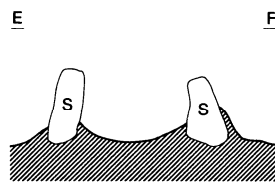
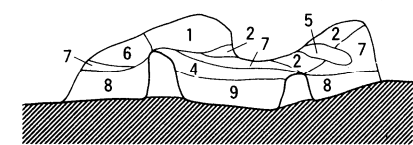
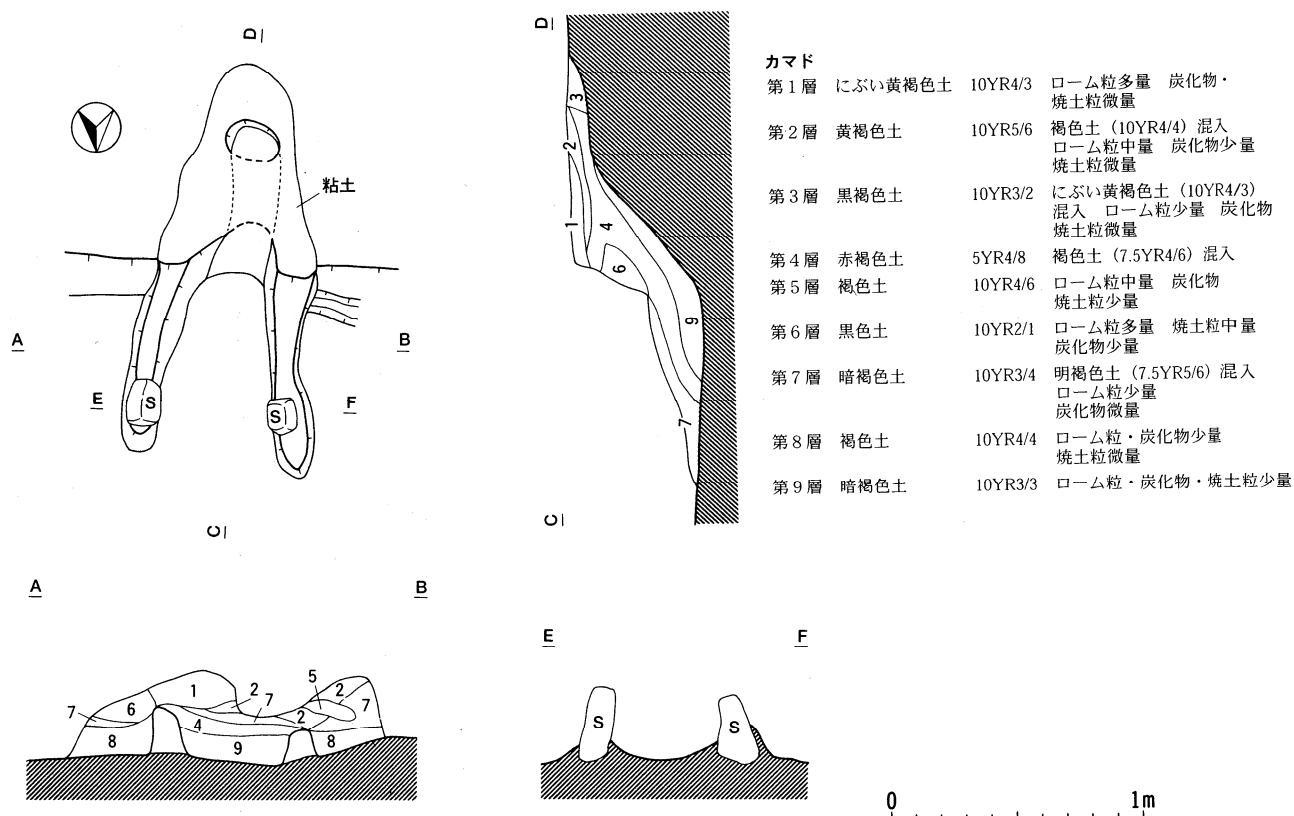
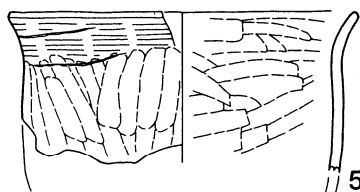
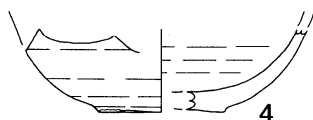
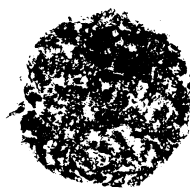
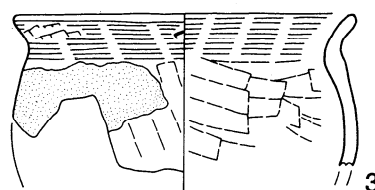
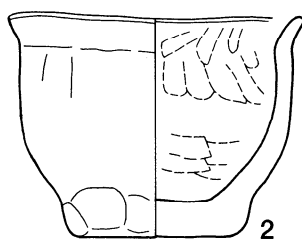
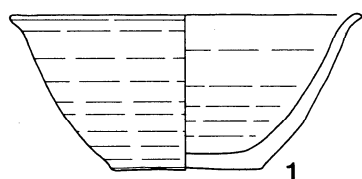


図28 第310号竪穴住居跡(1)



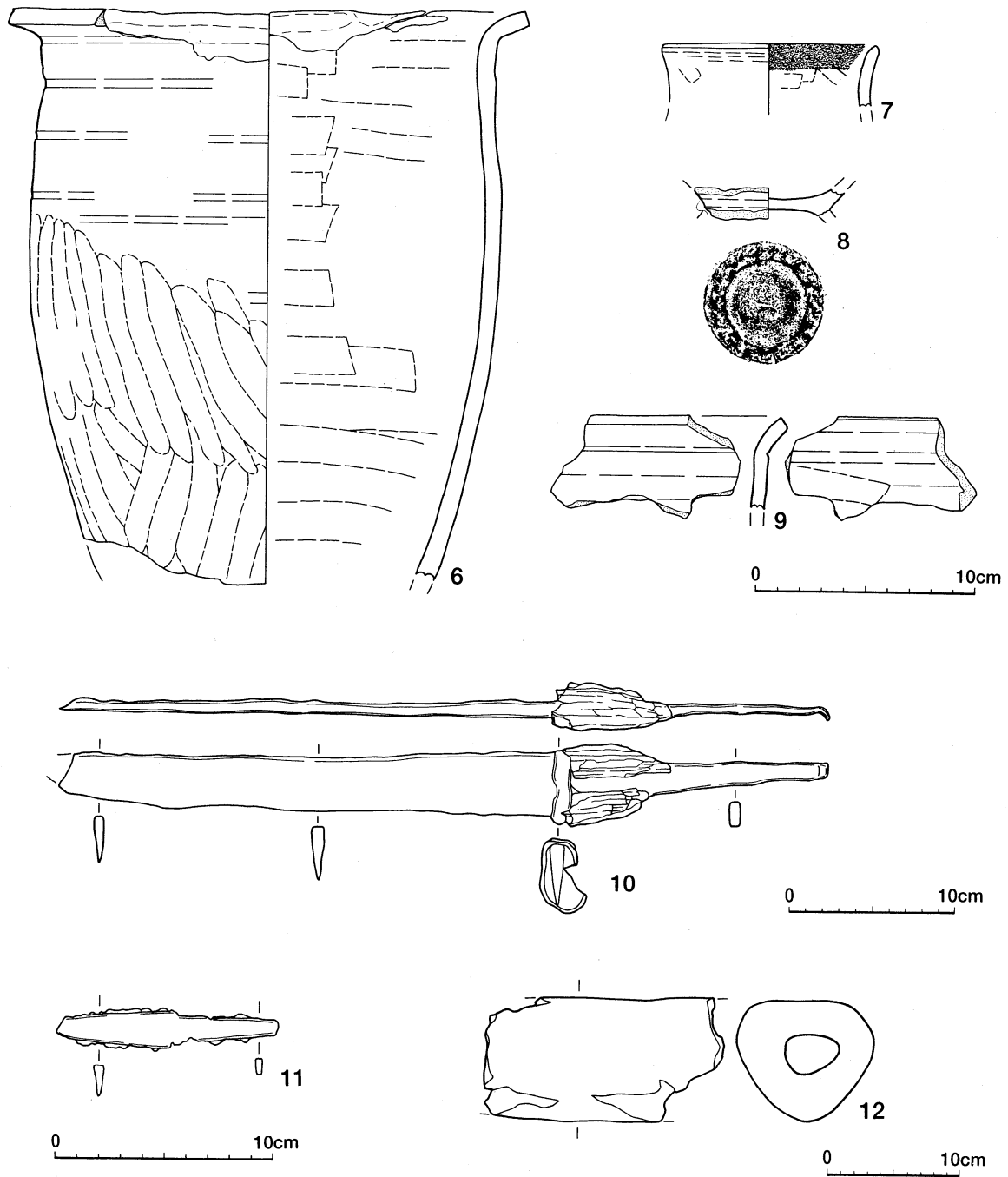
0 1m



0 10cm

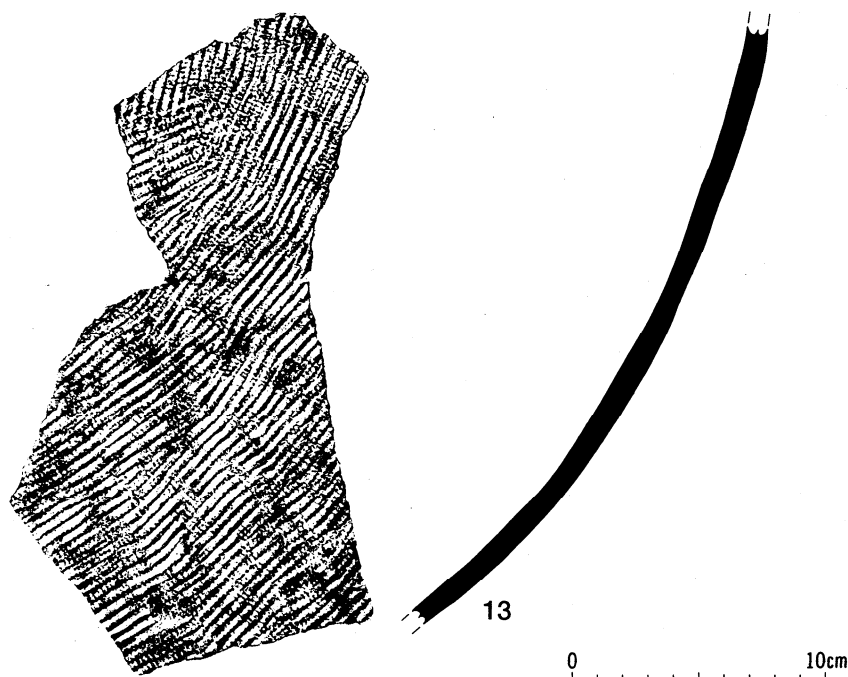
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	14.0	6.2	5.8	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II b	P-4
2	土師器	鉢	Pit3 フク土	(12.4)	8.9	6.8	不明	不明	不明	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	—	剥落 P.2、P.5、P.6
3	土師器	甕	フク土 床直	(13.6)	(6.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 P.2、P.3
4	土師器	坏	フク土	—	(3.3)	(4.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B	—
5	土師器	甕	フク土	(13.6)	(6.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 P.3

図29 第310号竖穴住居跡出土遺物(2)・出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
6	土師器	甕	床直	(23.6)	(26.4)	—	ロクロ	ロクロ ヘラナデ	—	ロクロ	ヘラナデ	—	—	BI	口縁部に補修の痕跡あり P-1、2、11、14
7	土師器	鉢?	Pit3 フク土	(14.0)	(3.2)	—	ヨコナデ	—	—	ヘラナデ	—	—	—	A	内面黒色処理、スス状炭化物付着 磨滅 P-18 磨滅
8	土師器	高台付杯	フク土	(6.4)	(1.3)	4.6	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	—	—	—	
9	土師器	甕	Pit3 フク土	—	(4.7)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	B	
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考								
		長さ	幅	厚さ											
10	壁面	47.3	3.8	0.8	356.0	刀	Fe-1 木質部残存								
11	壁面	10.3	1.4	0.4	11.8	刀子	Fe-1								
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考								
		長さ	幅	厚さ											
12	床直	(18.4)	9.2×10.4	3.1×4.2	(1,120)	D1	被熱痕、羽口-1								

図30 第310号竪穴住居跡出土遺物 (2)



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
13	須恵器	甕	フク土	—	(0.9)	4.6	—	タタキ目	—	—	あて具痕	—	—	—	P-8、P-10

図31 第310号竪穴住居跡出土遺物(3)

第310号竪穴住居跡(図28～図31)

[位置] 調査区東側のNQ・NR-443・444グリッドに位置する。

[重複] 認められなかった。

[平面形・規模] 東壁3m、西壁3m35cm、南壁2m95cm、北壁3m42cmで北側がやや広がる方形である。床面積は約9.16㎡で、主軸方位はN-177°-Wである。

[壁・床面] 壁高は、東壁16cm、西壁31cm、南壁35cm、北壁16cmで床面からやや急に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 幅10～21cm、深さ11～25cmの周溝がカマド部分を除いてほぼ一巡する。

[ピット] 検出されたピットは3個である。いずれも柱穴とは考えられない。

[カマド] 南壁西側に礫を芯材として粘土を用いて構築している。焚口部に火床面は検出されなかった。煙道部は住居外に80cmほど延びる半地下式である。煙道底面は煙出部に向かって急に立ち上がり、煙出部は粘土で覆われている。

[その他の施設] 東壁の南寄りに、長さ3m30cm、幅15～40cm、深さ10～20cmの溝を検出した。住居跡南東隅から斜面に沿うように東側へ向かって延びており、堆積土からは、水が流れた痕跡等は見られないが、形態から排水溝と考えられ住居跡に伴うものと考えられる。

[堆積土] 堆積土は11層に分層され、1層に多量の炭化材が堆積しており、7層は焼土層である。

[出土遺物] 覆土から土師器や須恵器の坏、甕のほかに床直から羽口、北壁際から直刀などが出土している。

[時期] 堆積状況や出土遺物から、9世紀中葉に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

第311号竪穴住居跡 (図32)

[位置] 調査区東側のNQ・NR-444・445グリッドに位置する。

[重複] 第302号溝、第303号溝と重複し、本住居跡が古い。

[平面形・規模] 東壁・西壁・北壁の一部が第302号溝と第303号溝に切られているが、東壁(2m85cm)、西壁(3m5cm)、南壁3m15cm、北壁(3m32cm)で、方形と考えられる。床面積は約8.95㎡で、主軸方位はN-164°-Eである。

[壁・床面] 壁高は東壁11cm、西壁30cm、南壁23cm、北壁18cmで床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦で、カマドのある南壁付近に炭化材がみられた。

[周溝] 東壁に幅17~23cm、深さ25~32cmの周溝を検出した。

[ピット] 検出されたピットは4個である。中央部のピット4(32cm)は柱穴の可能性が考えられるが、ほかのピットは柱穴とは考えられない。

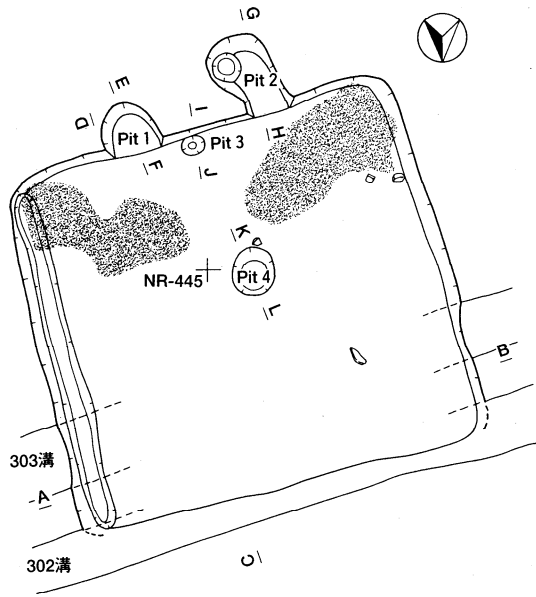
[カマド] 火床面等は検出されなかったが、南壁に煙道部分の可能性が考えられるピット1とピット2が検出されている。いずれも底面は緩やかに立ち上がる。

[堆積土] 堆積土は4層に分層され、焼土粒と炭化物を含んでいる。

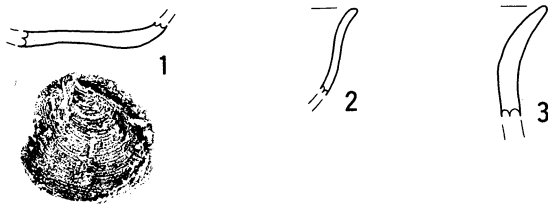
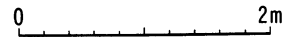
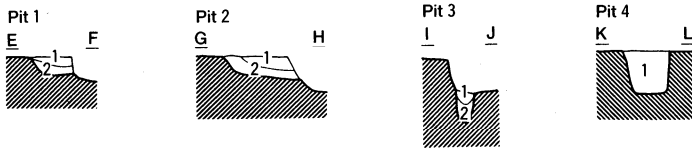
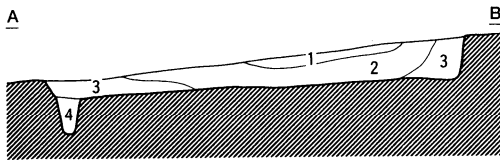
[出土遺物] 覆土から土師器の破片が出土している。

[時期] 重複関係や出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

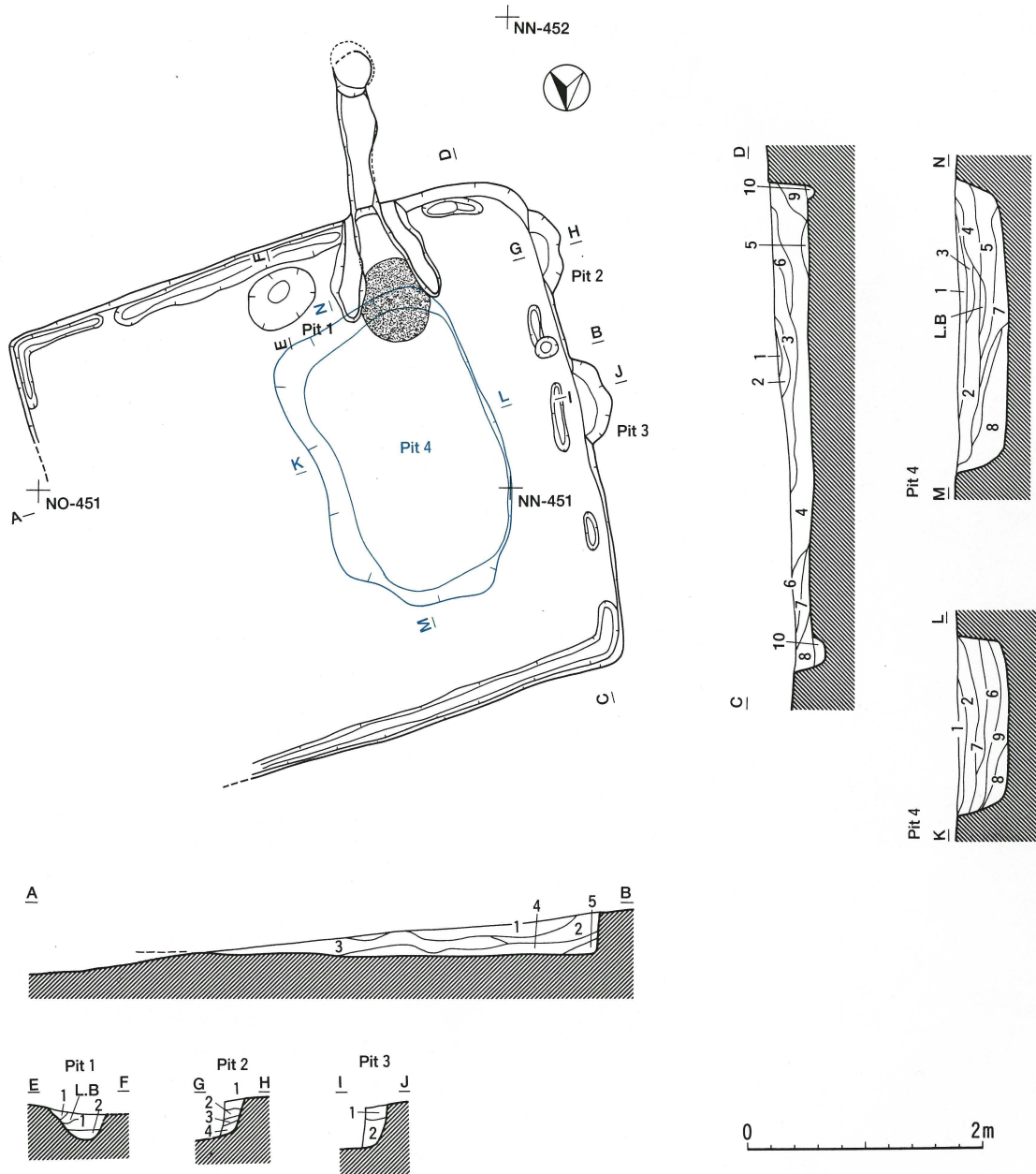


- 第311号住居跡**
- 第1層 黒色土 10YR2/1 □-△粒・炭化物・焼土粒少量
 - 第2層 黒褐色土 10YR2/3 暗褐色土(10YR3/4)混入 □-△粒中量 炭化物 焼土粒少量
 - 第3層 黒褐色土 10YR2/2 黒褐色土(10YR2/3)混入 □-△粒中量 炭化物多量 焼土粒微量
 - 第4層 暗褐色土 10YR3/3 黒褐色土(10YR2/3)混入 □-△粒中量 炭化物 焼土粒少量
- Pit 1**
- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 □-△粒・炭化物・焼土粒微量
 - 第2層 黒褐色土 10YR2/3 □-△粒・炭化物・焼土粒微量
- Pit 2**
- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 □-△粒・炭化物・焼土粒微量
 - 第2層 暗褐色土 10YR3/3 暗褐色土(10YR3/3)混入 □-△粒・炭化物・焼土粒微量
- Pit 3**
- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 □-△粒混入
 - 第2層 暗褐色土 10YR3/4 □-△粒混入
- Pit 4**
- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 □-△粒少量 炭化物微量



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
1	土師器	杯	フク土	—	—	—	—	—	—	ロクロ?	—	—	ロクロ?	回転糸切	B	
2	土師器	甕?	フク土	—	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	—	—	—	—	—	
3	土師器	甕	フク土	—	—	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	—	A	

図32 第311号竪穴住居跡・出土遺物



第312号住居跡

- | | | | | |
|-----|-------|---------|-------------------|------------------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム粒中量 | 炭化物・焼土粒少量 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | To-A混入 | ローム粒・L.B.中量 |
| 第3層 | 黄褐色土 | 10YR5/6 | To-A混入 | L.B.混入 |
| 第4層 | 明黄褐色土 | 10YR6/6 | ローム粒 | ・焼土粒少量 |
| 第5層 | 黒色土 | 10YR2/1 | ローム粒少量 | |
| 第6層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | To-A混入 | ローム粒中量 炭化物・焼土粒少量 |
| 第7層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 黒褐色土 (10YR2/2) 混入 | L.B.混入 |
| 第8層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム粒・L.B.中量 | |
| 第9層 | 明赤褐色土 | 5YR3/4 | 焼土粒ブロック状に混入 | ローム粒・炭化物少量 |

Pit 1

- | | | | | |
|-----|------|---------|--------|-----------|
| 第1層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | ローム粒多量 | 炭化物・焼土粒少量 |
| 第2層 | 褐色土 | 10YR4/4 | ローム粒多量 | |

Pit 2

- | | | | | |
|-----|------|---------|-------|--------|
| 第1層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒 | ・炭化物少量 |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム粒 | ・焼土粒少量 |
| 第3層 | 褐色土 | 10YR4/6 | 焼土粒中量 | ローム粒少量 |
| 第4層 | 赤褐色土 | 5YR4/8 | 焼土層 | 炭化材混入 |

Pit 3

- | | | | | |
|-----|---------|---------|--------|------------------------|
| 第1層 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | ローム粒少量 | |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | To-A混入 | L.B.・ローム粒
炭化物・焼土粒少量 |

図33 第312号竪穴住居跡 (1)

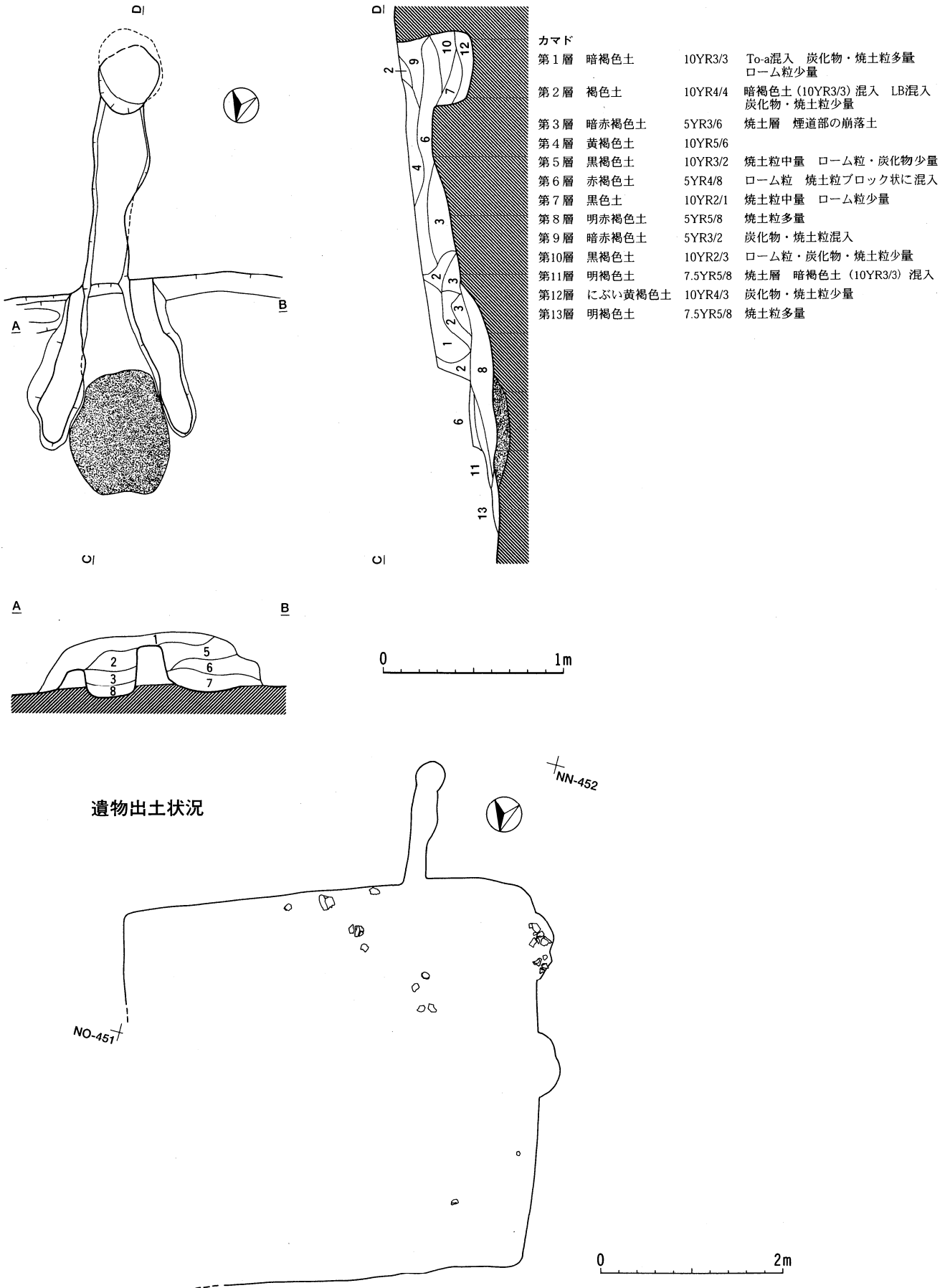
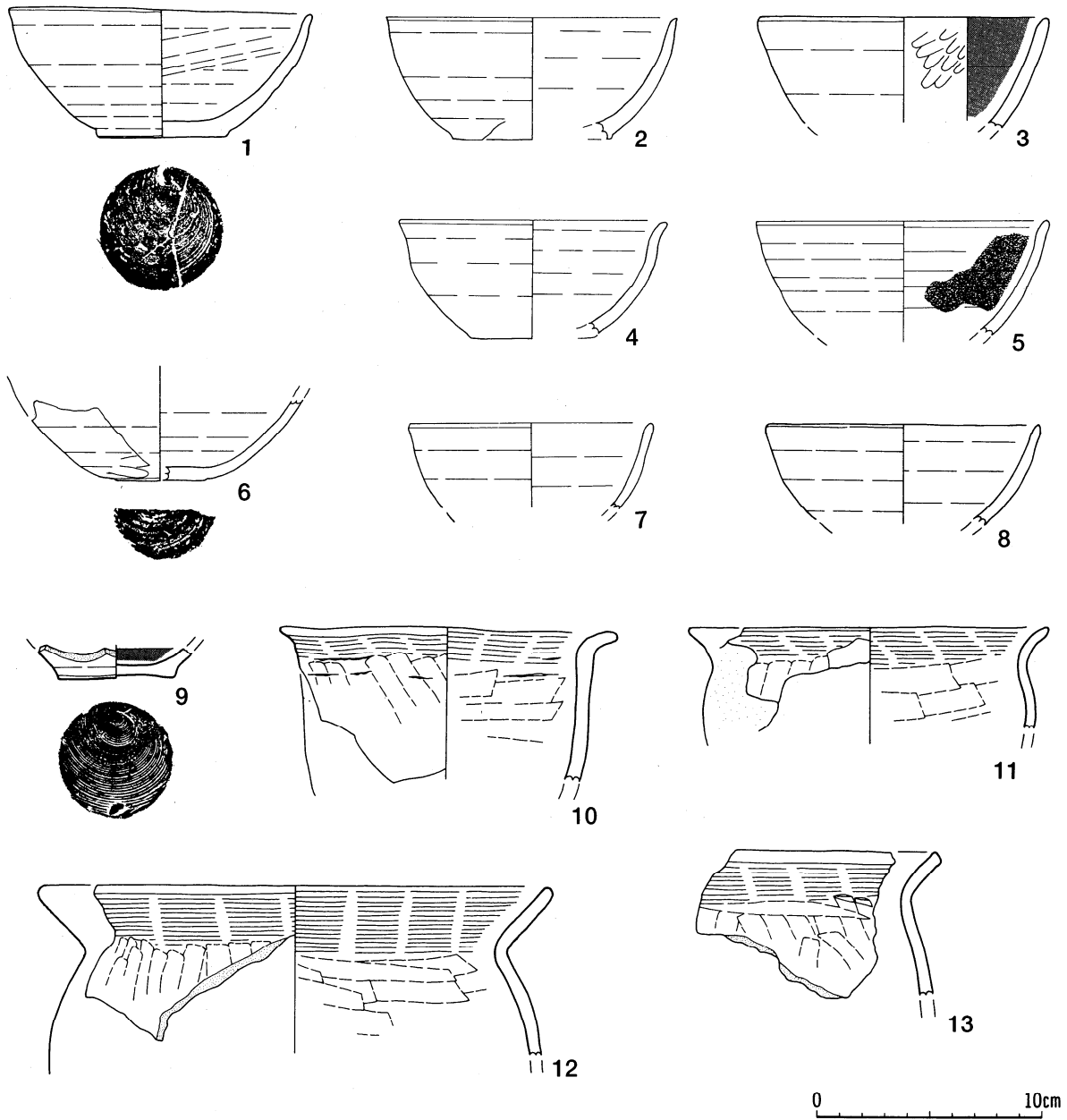
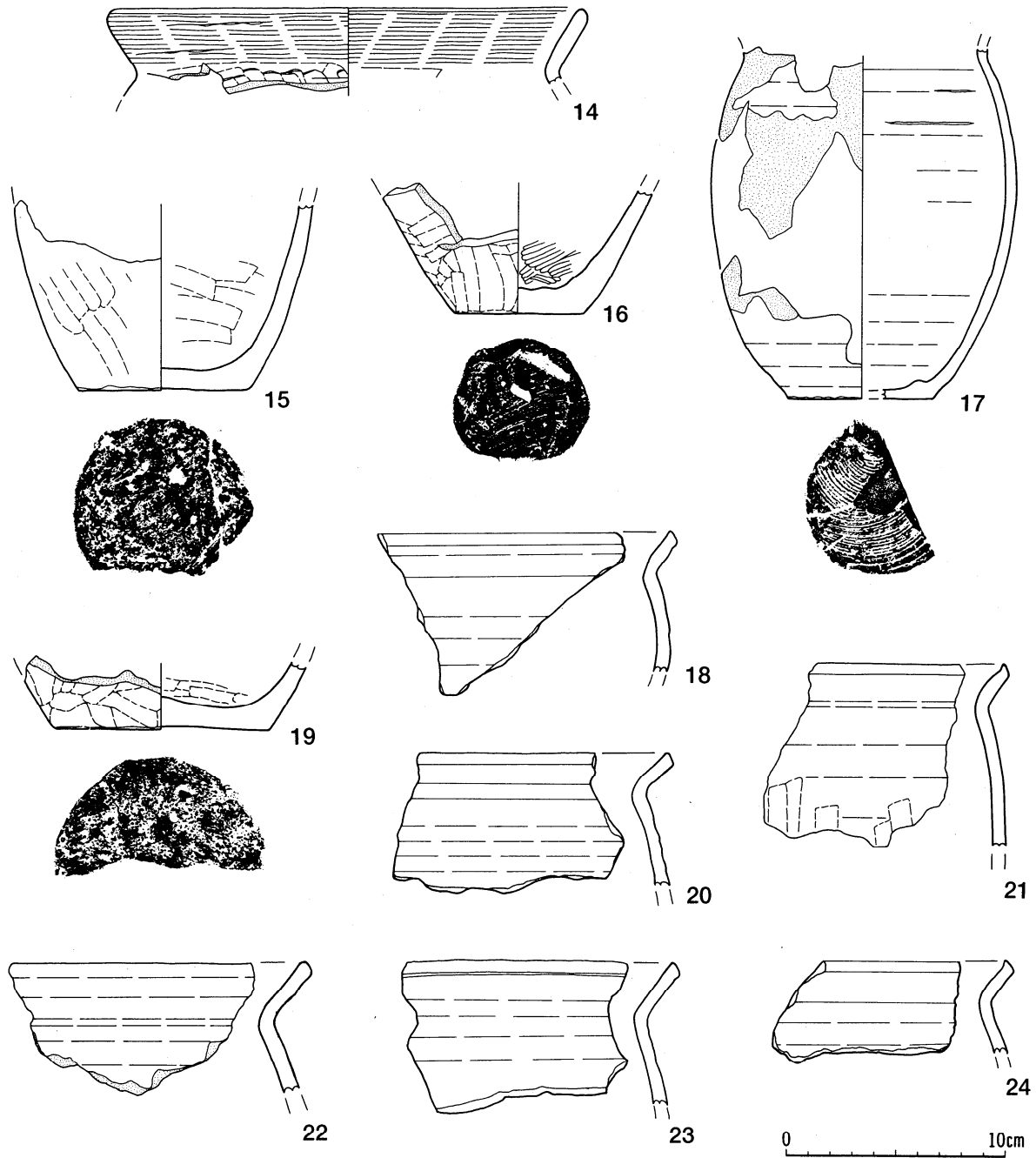


図34 第312号竪穴住居跡(2)



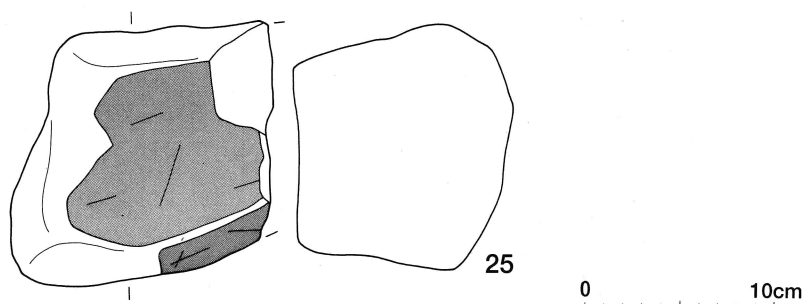
図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	P12 畑道部底面	13.6	5.6	5.8	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	P-2、3、8、26
2	土師器	坏	カマド	(12.8)	(5.5)	—	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ?	ロクロ	ロクロ	—	BⅡ	P-17、19
3	土師器	坏	床面	(13.0)	(4.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅠ	P-29、30 内面(黒色処理)
4	土師器	坏	床直	(12.0)	(5.2)	—	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	—	BⅡ	P-16、17
5	土師器	坏	フク土	(13.0)	(5.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	煤状炭化物付着
6	土師器	坏	フク土	—	(4.5)	(4.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	糸切り	BⅡ	P-13
7	土師器	坏	カマド フク土	(11.0)	(3.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	P-16、25
8	土師器	坏	カマド フク土	(12.0)	(4.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	P-5、12
9	土師器	坏	カマド フク土	—	(1.3)	5.0	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	回転糸切り	BⅡ	P-14 内面(黒色処理)
10	土師器	甕	カマド フク土	(15.0)	(6.8)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 P-23、28
11	土師器	甕	床 面 P12	(16.1)	(4.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-1、22、23、25 外面剥落あり
12	土師器	甕	カマド 床 面	(22.0)	(3.5)	—	ヨコナデ (ヘラナデ)	—	—	ヨコナデ (ヘラナデ)	—	—	—	A	
13	土師器	甕	カマド 床 面	—	(6.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-2

図35 第312号竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
14	土師器	甕	フク土	(22.0)	(3.5)	—	ヨコナデ (ヘラナデ)	—	—	ヨコナデ (ヘラナデ)	—	—	—	A	
15	土師器	甕	Pit 2 フク土	—	(8.6)	8.0	—	ヘラナデ?	ヘラナデ?	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	A	外面磨滅
16	土師器	甕	床面	—	(6.0)	6.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラミガキ	ヘラナデ	A	P-16、P-19
17	土師器	甕	フク土	—	(16.1)	(3.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	糸切り	B II	外面剥落あり P-9
18	土師器	甕?	カマド フク土	—	(7.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	P-29
19	土師器	甕	煙道	—	(3.1)	(10.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-6
20	土師器	甕	カマド フク土	—	(6.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	
21	土師器	甕	Pit 2 フク土	—	(8.4)	—	ロクロ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	B	P-5
22	土師器	甕	カマド フク土	—	6.0	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラナデ?	ヘラナデ?	—	—	B	P-10
23	土師器	甕	カマド フク土	—	(7.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	
24	土師器	甕	床直	—	(4.7)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	P-15

図36 第312号竪穴住居跡出土遺物 (2)



図版 番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	外径	内径				
25	フク土	13.8	13.3	11.3	2.620	安山岩質 溶岩	砥石	S-3 被熱

図37 第312号竪穴住居跡出土遺物 (3)

第312号竪穴住居跡 (図33～図37)

[位置] 調査区東側のNM～NO-450・451グリッドに位置する。

[重複] 認められなかった。

[平面形・規模] 斜面のため東壁の大半が削平され、西壁4 m25cm、南壁4 m50cm、北壁(3 m60 cm)を測る。残存部分から南西隅がやや張り出す方形と考えられる。床面積は約(18.06㎡)で、主軸方位はN-162°-Eである。

[壁・床面] 壁高は残存する西壁30cm、南壁16cm、北壁9cmを測り、床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 削平されている東壁を除いて、幅10～20cm、深さ5～13cmの周溝が断片的に検出されている。

[ピット] 床面から検出されたピットは1個で、柱穴とは考えられない。また、西壁を掘り込んでピット2、ピット3がつくられている。いずれも用途などについては不明である。

[カマド] 南壁西側に粘土を用いて構築している。煙道は半地下式で、住居跡外に200cmほど延びる煙道底面は煙出部に向かって緩やかに上がり、煙出部のピット(深さ40cm)につながり垂直に立ち上がる。カマド上面も削平されており、煙出部にピットをもつことから粘土で構築した地下式の可能性も考えられる。

[堆積土] 堆積土は9層に分層され、2層・3層・6層にT o - a火山灰がブロック状に混入している。また、全体的に炭化材や焼土粒が含まれている。

[その他の施設] 貼り床下からピット4を検出した。長軸2 m50cm、短軸1 m50cm、深さ42cmで、用途などについては不明である。

[出土遺物] 覆土から床面にかけて、土師器の坏や甕のほかに砥石などが出土している。

[時期] 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

第313号 (A) 竪穴住居跡 (図38・図40)

[位置] 調査区東側のNM・NN-451・452グリッドに位置する。

[重複] 第313号 (B) 住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

[平面形・規模] 東壁3m30cm、西壁2m98cm、南壁2m12cm、北壁2m30cmで、東壁が広がる長方形である。床面積は約6.71m²で、主軸方位はN-79°-Eである。

[壁・床面] 残存する壁高は、東壁13cm、西壁16cm、南壁15cm、北壁11cmで、床面からやや急に立ち上がる。床面はやや起伏がみられる。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] ピットは8個検出された。ピット1 (深さ12cm) の覆土中にB-Tmが混入している。その他のいずれも柱穴とは考えられない。

[カマド] 東壁北側に構築され、焚口部には土師器の甕を伏せて支脚としている。煙道部の形態については不明である。

[堆積土] 堆積土は5層に分層され、4層・5層にB-Tm火山灰が混入している。

[出土遺物] 覆土から土師器などが出土している。

[時期] 出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

第313号 (B) 竪穴住居跡 (図39・図40)

[位置] 調査区東側のNL~NN-451~453グリッドに位置する。

[重複] 第313号 (A) 住居跡と重複し、本住居跡が古い。

[平面形・規模] 東壁4m63cm、西壁4m87cm、南壁4m65cm、北壁4m52cmの方形である。床面積は、約13.05m²で、主軸方位はN-92°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁37cm、西壁28cm、南壁28cm、北壁16cmを測り、床面はほぼ平坦である。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] 南東隅にピット (深さ20cm) が検出されたが、用途などについては不明である。

[カマド] 東壁中央に構築され、焚口部は、第313号 (A) 住居跡に削平されているため、煙道部のみ残存している。上部も斜面のため削平されているが、煙道は住居跡外に110cmほどのび、底面は煙出部に向かってほぼ水平に延び、煙出部のピット (深さ約20cm) につながり急に立ち上がる。形態から地下式の可能性が考えられる。

[堆積土] 堆積土は4層に分層される。

[出土遺物] 覆土から土師器や須恵器の土器破片が出土している。

[時期] 出土遺物から、9世紀前半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

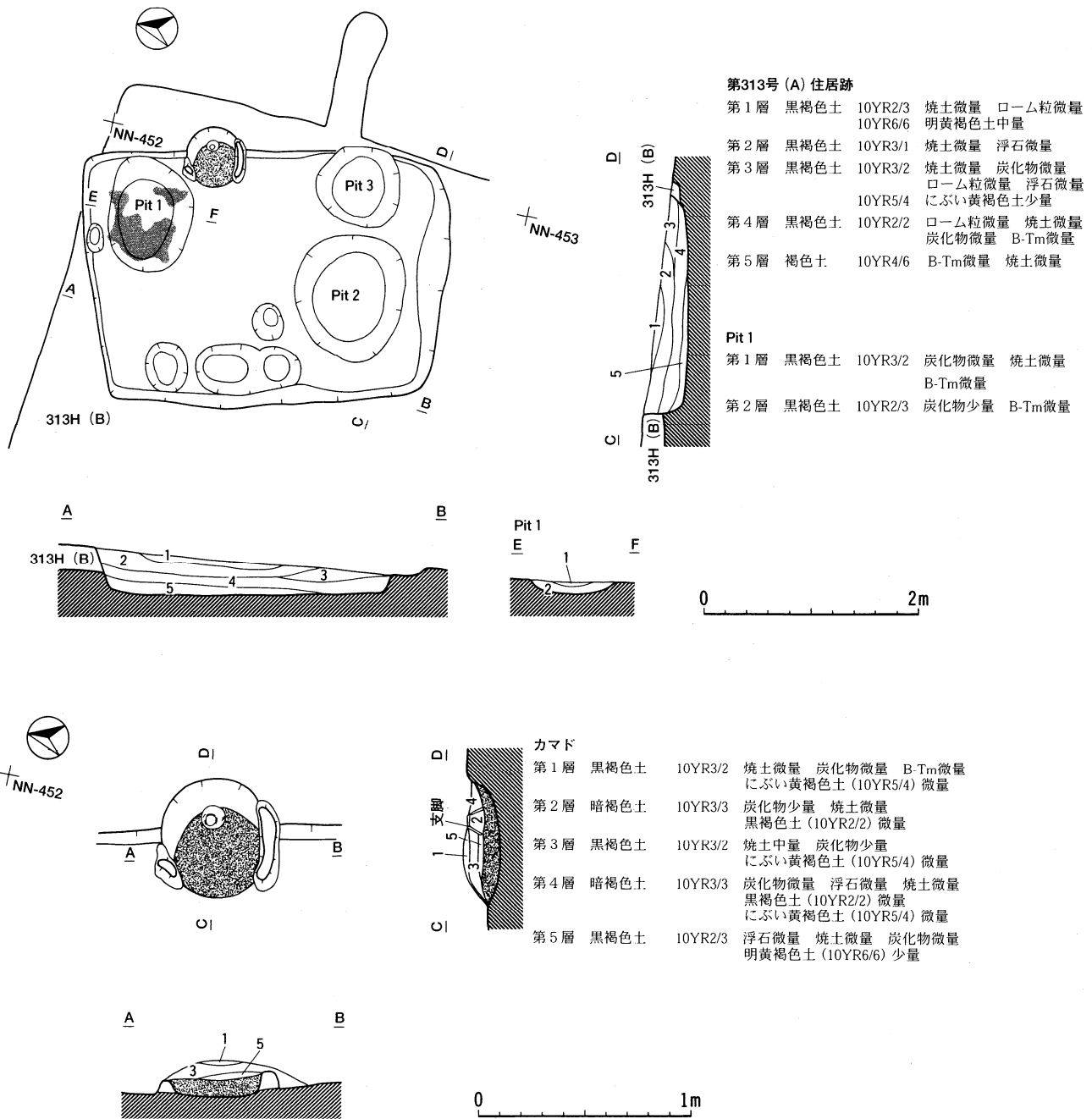
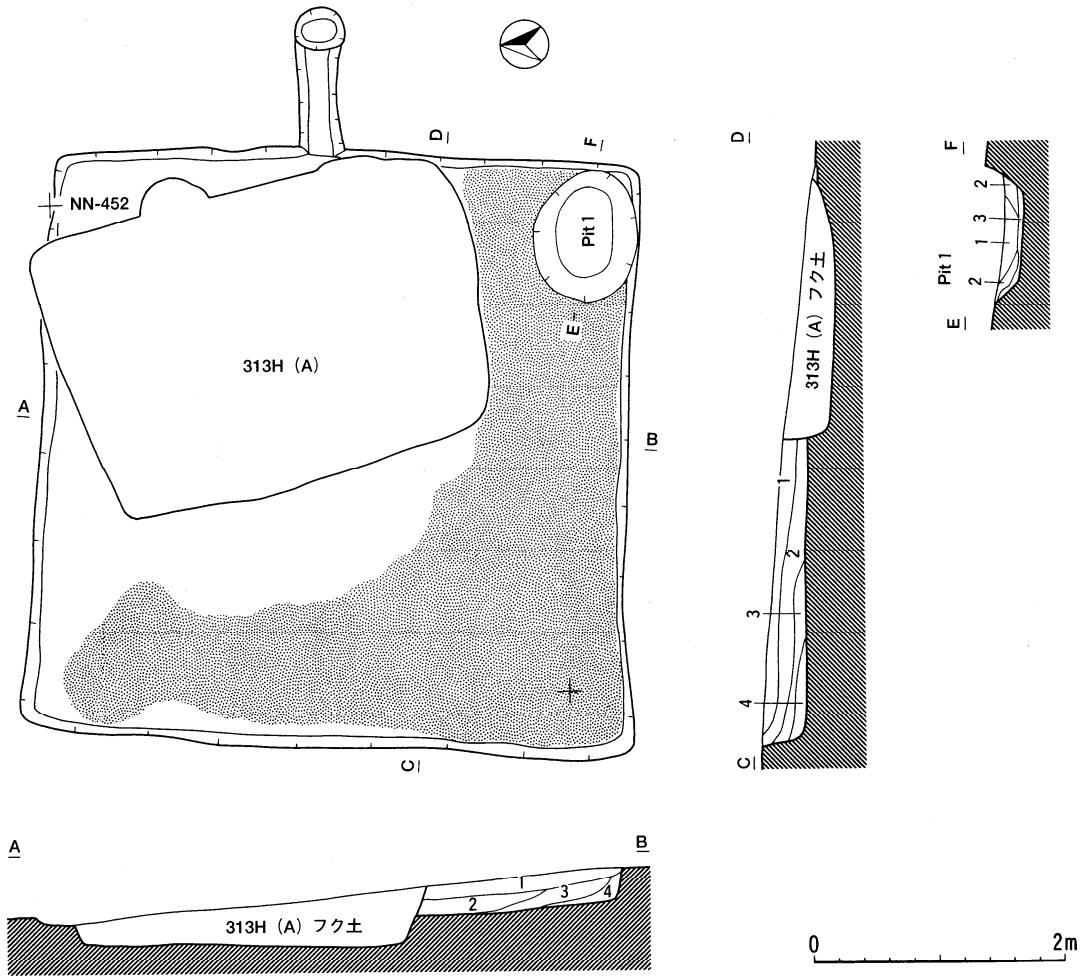


図38 第313号 (A) 竪穴住居跡

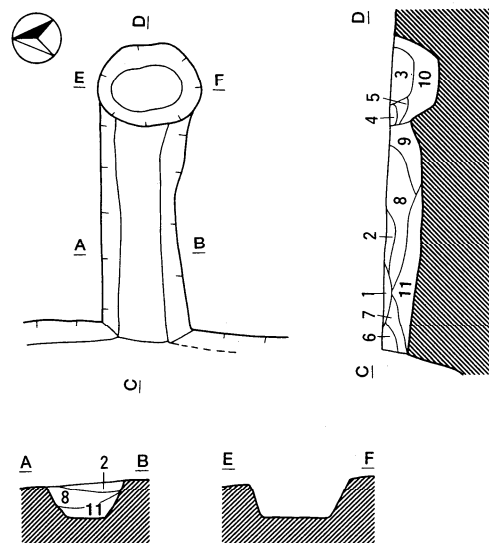


第313号 (B) 住居跡

第1層	黒褐色土	10YR2/3	焼土微量	炭化物微量	ローム粒微量
第2層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物微量	ローム粒微量	
第3層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物微量	ローム粒微量	焼土微量
第4層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒微量	浮石微量	

Pit 1

第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物微量	焼土微量	ローム粒微量	浮石微量
第2層	黒褐色土	10YR2/3	焼土微量	炭化物少量	ローム粒微量	
第3層	暗褐色土	10YR3/3	褐色土(10YR4/6)中量			浮石微量 炭化物微量

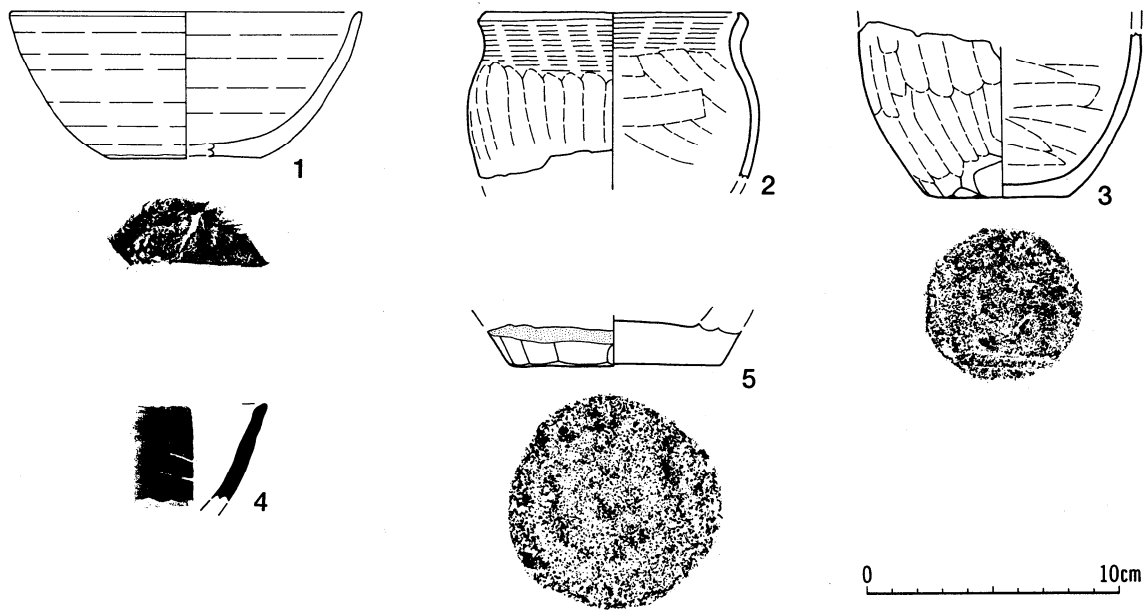
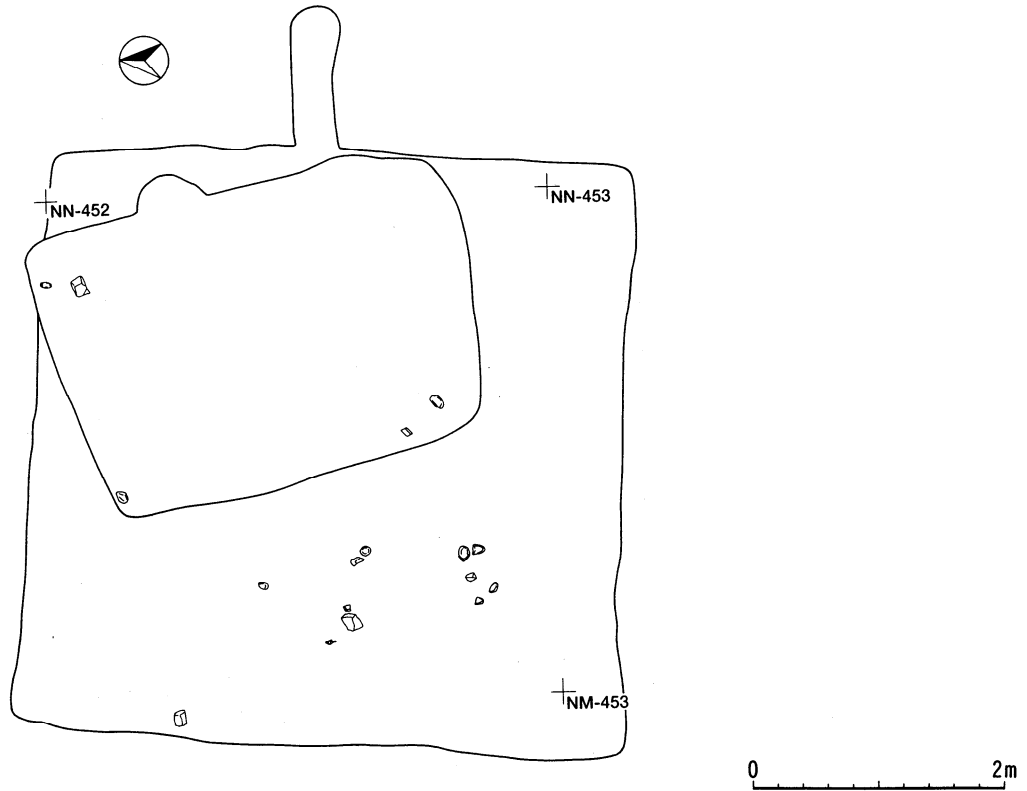


カマド

第1層	黒褐色土	10YR3/1	焼土多量	炭化物微量	B-Tm微量
第2層	暗褐色土	10YR3/3	にぶい黄褐色土(10YR5/4)多量	B-Tm微量	焼土微量 炭化物微量
第3層	褐色土	10YR4/4	炭化物微量	B-Tm微量	焼土少量
第4層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物微量	B-Tm微量	焼土少量
第5層	褐色土	10YR4/6	B-Tm微量	焼土少量	炭化物少量
第6層	黒褐色土	10YR2/2	黒色土(10YR1.7/1)少量	焼土多量	B-Tm微量 炭化物微量
第7層	褐色土	7.5YR4/3	焼土多量	B-Tm微量	
第8層	黒褐色土	10YR2/2	褐色土(7.5YR4/5)多量	炭化物微量	B-Tm微量
第9層	黒褐色土	10YR2/2	褐色土(10YR4/4)少量	B-Tm微量	炭化物微量
第10層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	炭化物微量	焼土微量	
第11層	黄褐色土	10YR5/6	褐色土(10YR4/6)少量	B-Tm微量	炭化物微量
第12層	にぶい黄褐色土	10YR2/4	炭化物微量	B-Tm微量	
第13層	褐色土	10YR4/6	B-Tm微量	灰黄褐色土(10YR4/2)少量	

図39 第313号 (B) 竪穴住居跡

遺物出土状況



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	カマドフク土 Pit.1	(12.0)	5.8	(4.0)	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	ナデツケ?	B II b	
2	土師器	甗	カマドフク土 Pit.1	(10.6)	(6.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
3	土師器	甗	カマドフク土	—	(7.0)	5.4	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	A	支脚
4	須恵器	坏	フク土	—	(3.9)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	外面刻書
5	土師器	甗	床直	—	—	(8.6)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-1

図40 第313号(A)・(B)竪穴住居跡出土遺物

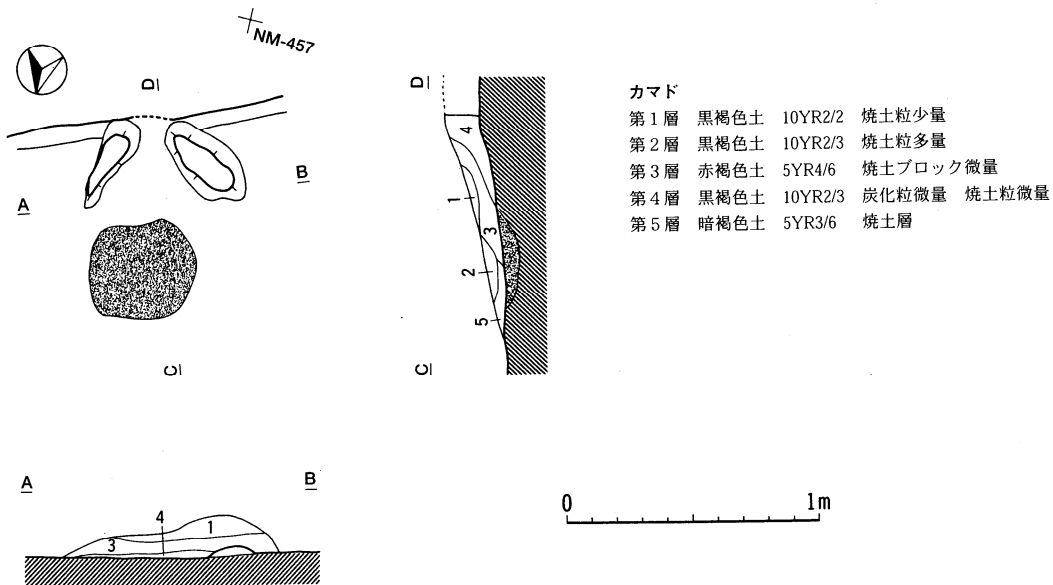
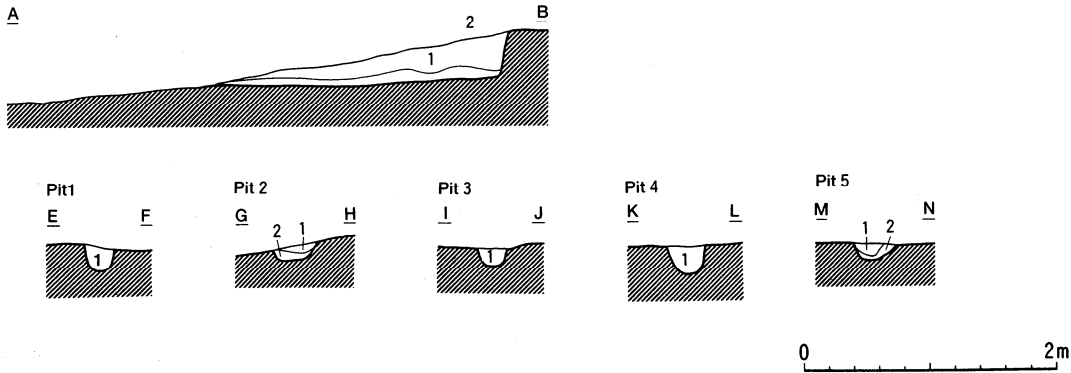
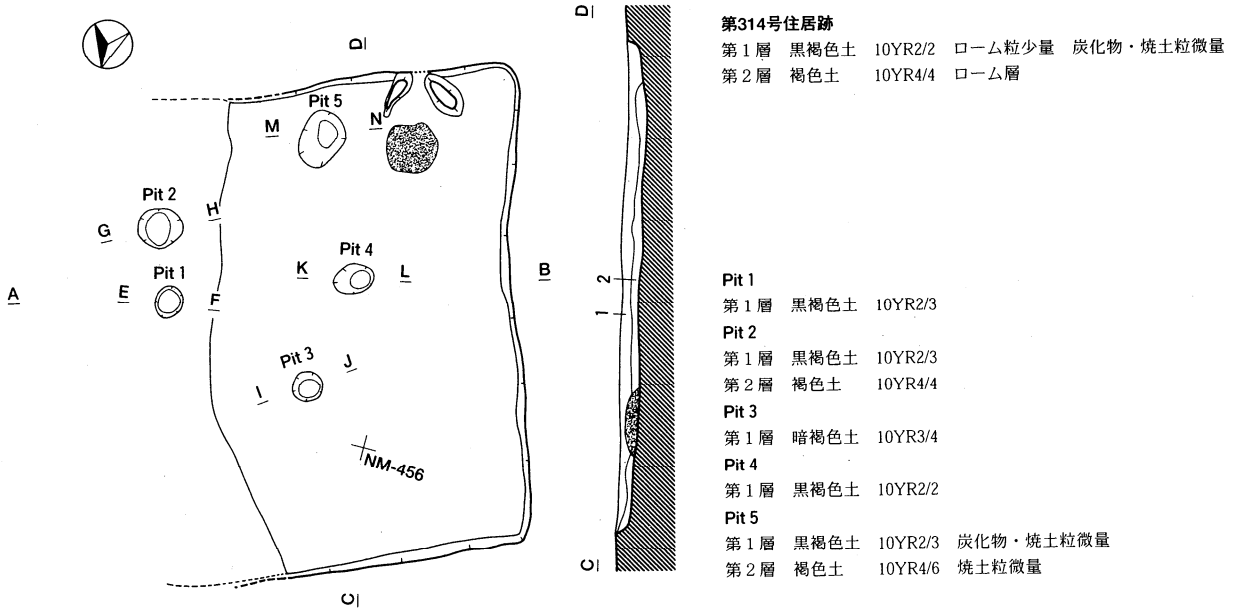
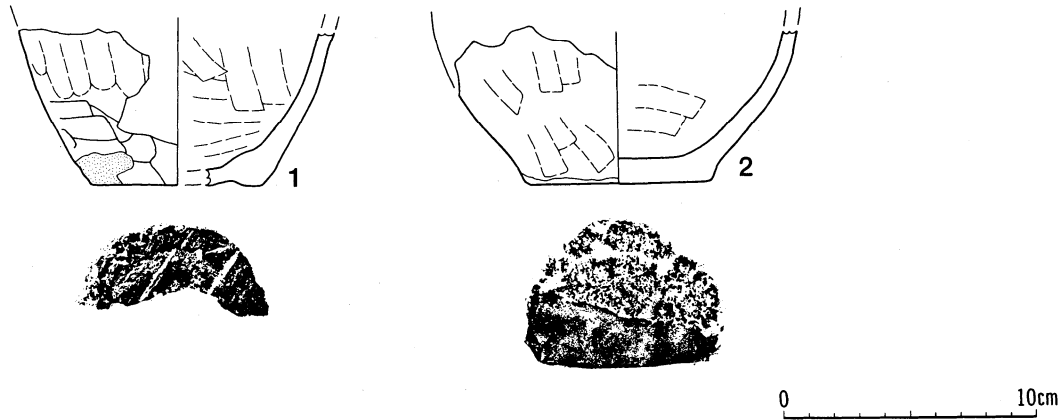


図41 第314号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	—	(6.2)	(6.8)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	A	
2	土師器	甕	床直	—	(6.1)	(7.4)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	A	内外面磨減 P-1, 2, 4

図42 第314号竪穴住居跡出土遺物

第314号竪穴住居跡 (図41・図42)

[位置] 調査区東側のNL・NM-456・457グリッドに位置する。

[重複] 認められなかった。

[平面形・規模] 斜面のため東側の半分が削平されており、西壁3m80cm、北壁(1m95cm)、南壁(2m30cm)を測る。残存する床面積は約8.38㎡で、主軸方位はN-158°-Eである。

[壁・床面] 壁高は西壁38cmで床面から急に立ち上がり、残存している南壁と北壁は10cmほどである。床面はほぼ平坦で堅く締まっている。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] 検出されたピットは5個である。住居跡中央から東側に、長軸24cm、短軸20cm、深さ20cmのピット(ピット1)、南壁東側に長軸34cm、短軸30cm、深さ12cmのピット(ピット2)、住居跡中央から北側に、長軸24cm、短軸22cm、深さ14cmのピット(ピット3)、住居跡中央から西側に、長軸32cm、短軸22cm、深さ22cmのピット(ピット4)、南壁西側に、長軸46cm、短軸32cm、深さ14cmのピット(ピット5)である。いずれも柱穴とは考えられず、用途などは不明である。

[カマド] 南壁西側に構築され、焚口部に火床面とソデの一部が残存している。煙道部の構造は不明である。

[堆積土] 堆積土は、2層に分層される。

[出土遺物] 覆土から土師器の甕が出土している。

[時期] 出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

(齋藤由美子)

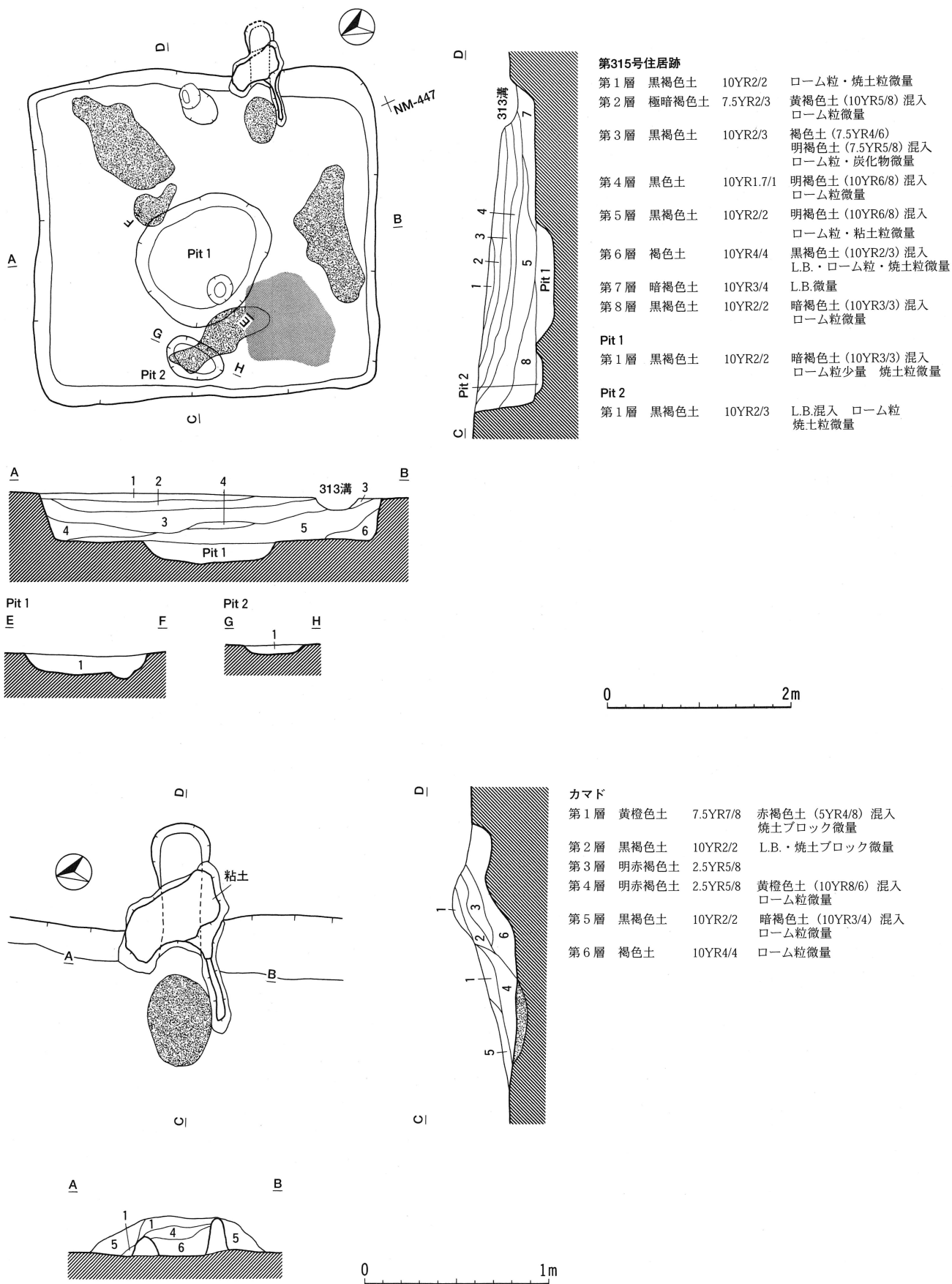


図43 第315号竪穴住居跡 (1)

第315号竪穴住居跡（図43～図46）

〔位置〕 調査区東側のNL・NM-446・447グリッドに位置する。

〔重複〕 第302号溝、第303号溝、第313号溝と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 東壁3m70cm、西壁3m60cm、南壁3m40cm、北壁3m38cmで、南東隅が丸い方形である。床面積は約10.98㎡で、主軸方位はN-110°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁12cm、西壁66cm、南壁49cm、北壁37cmで床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦で、焼土及び炭化材が検出されている。

〔周溝〕 検出されなかった。

〔ピット〕 ピットは、住居跡中央に長軸148cm、短軸132cm、深さ22cmのピット1、西壁中央に長軸62cm、短軸42cm、深さ10cmのピット2、東壁中央にピット3を検出した。いずれも柱穴とは考えられない。

〔カマド〕 東壁南側に粘土を用いて構築されている。煙道は半地下式で上部を粘土で覆い、住居跡外に60cmほど延びる。煙道底面は煙出部に向かって緩やかに立ち上がり、煙出部に浅いピット（深さ25cm）がみられる。

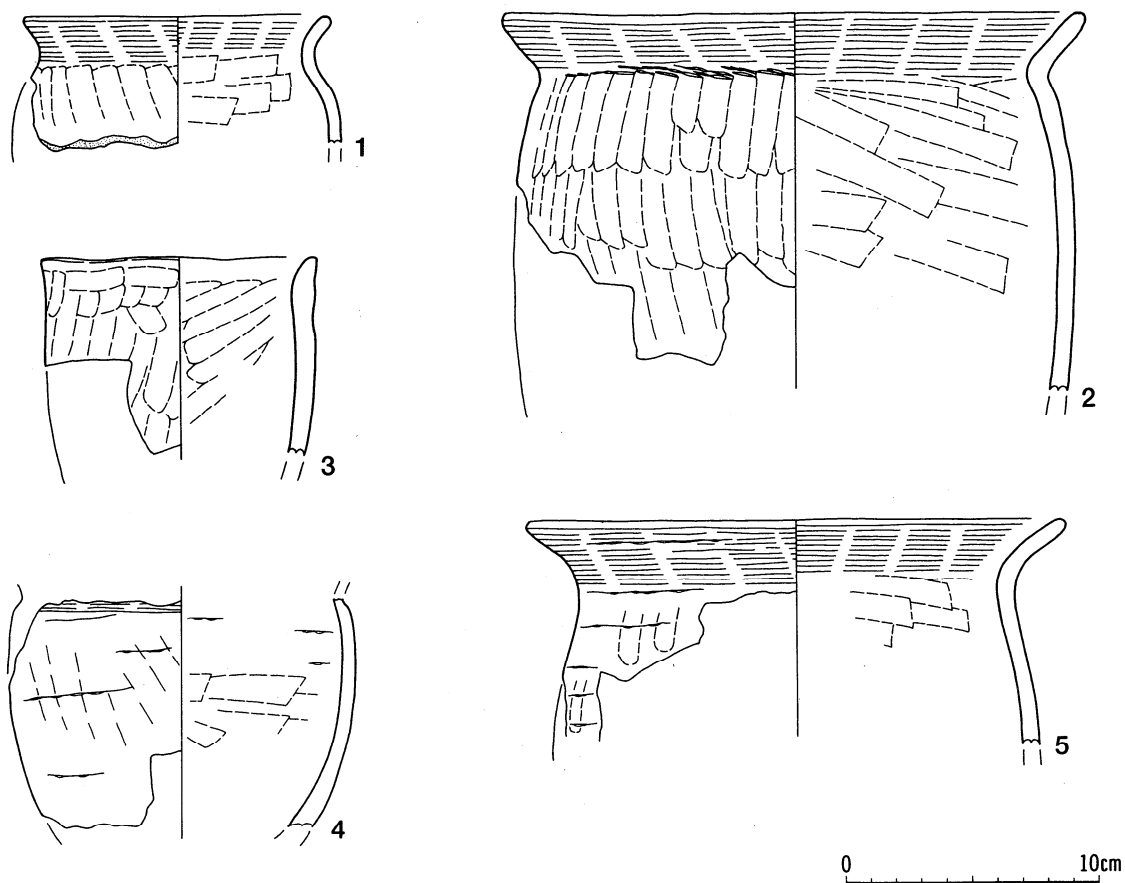
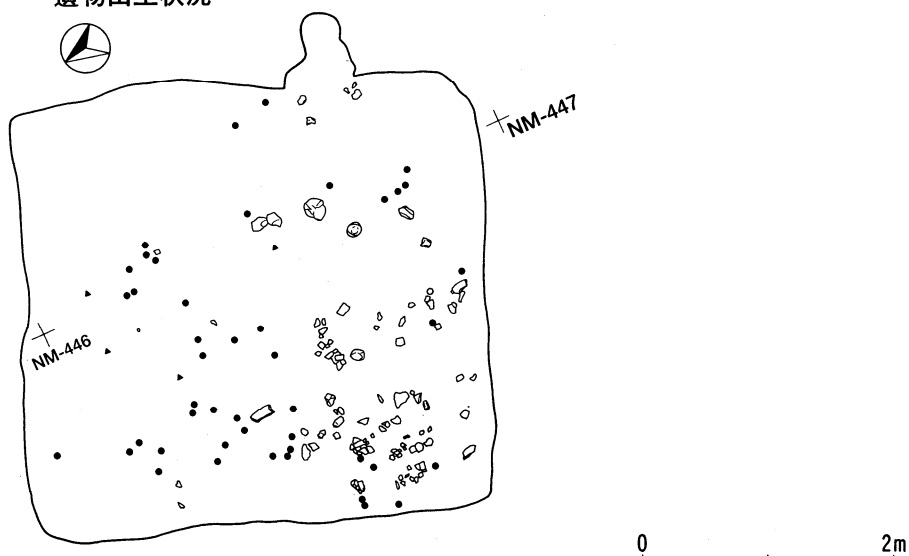
〔堆積土〕 堆積土は8層に分層される。

〔出土遺物〕 多量の遺物（図44）が出土した。土師器や須恵器のほか、羽口、土玉類が覆土から出土している。

〔時期〕 出土遺物から、9世紀前半に構築されたと考えられる。

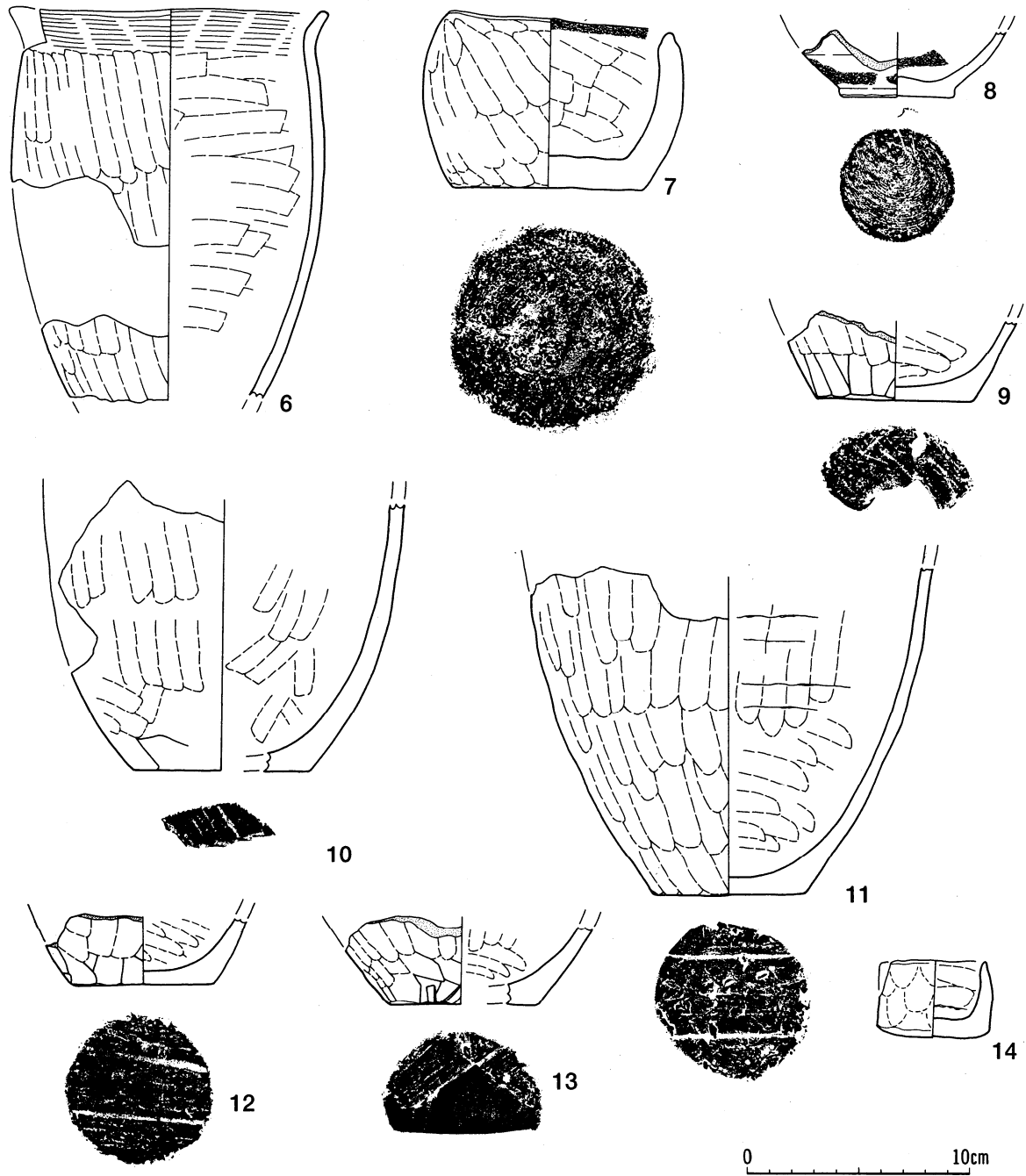
（中嶋友文）

遺物出土状況



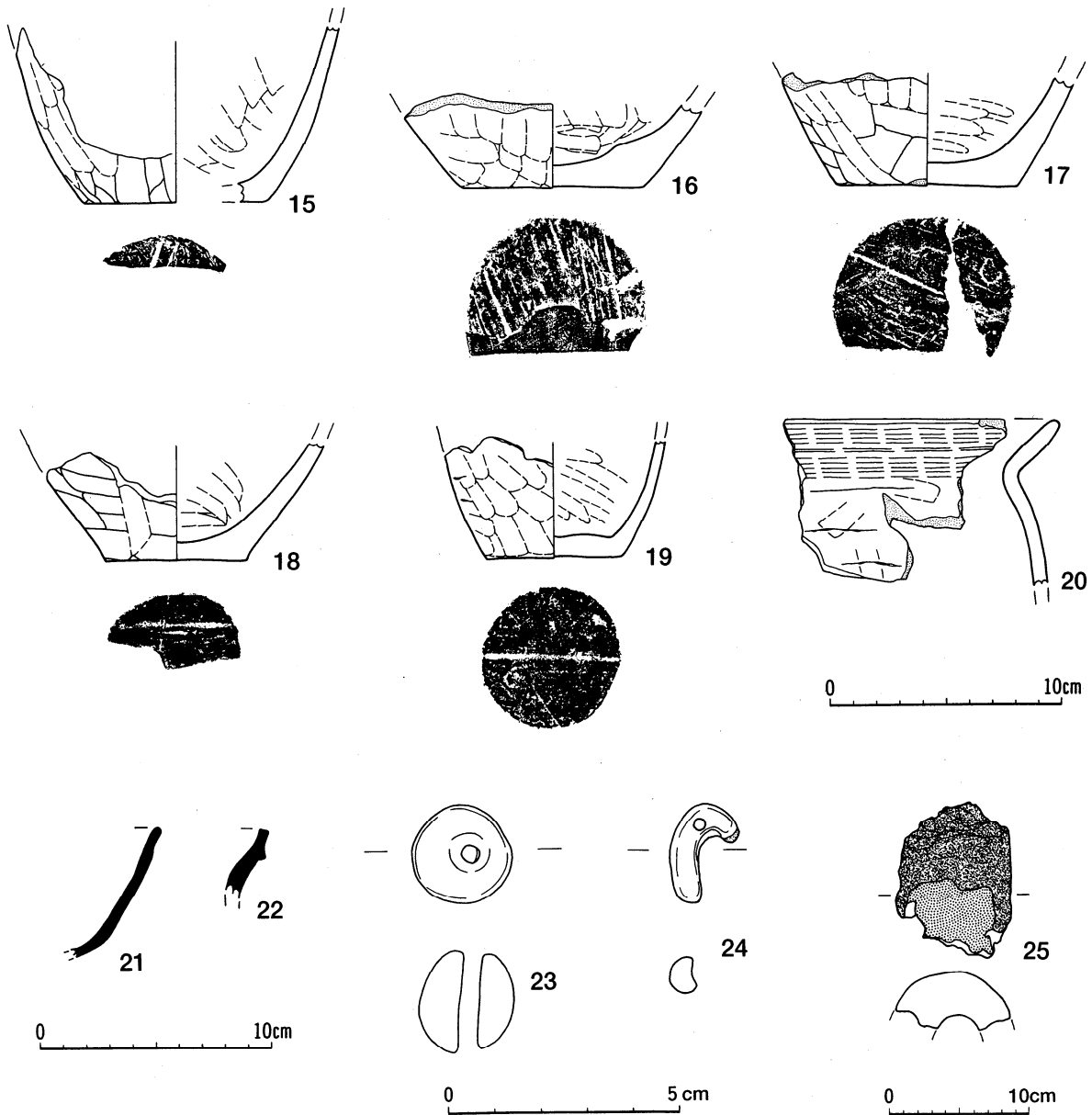
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	カマド フク土	(13.2)	(5.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-1, 3
2	土師器	甕	床面・床直	(23.6)	(15.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A I	P-10, 12, 13, 25 44, 45
3	土師器	鉢	フク土	(11.0)	(7.7)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-24
4	土師器	甕	カマド フク土	—	(9.0)	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ	—	—	A	輪積み痕 P-1, 68, 91
5	土師器	甕	床直	(21.4)	(8.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積み痕 P-13, 14

図44 第315号竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
6	土師器	甕	フク土 床直	(14.6)	(17.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A II	P-7、9、10、21
7	土師器	鉢	フク土	—	(3.5)	(8.0)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-58
8	土師器	坏	フク土	—	(3.0)	(5.2)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	B	内外面スス状炭化物付着
9	土師器	甕	カマドフク土 焼土	—	(3.7)	(7.2)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-1、87
10	土師器	甕	床直	—	(13.0)	(4.0)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-5、70
11	土師器	甕	フク土	—	(14.8)	(7.0)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	A	内面に輪積痕 P-90
12	土師器	甕	床直	—	(3.0)	6.4	—	—	ヘラケズリ ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラ切り?	A	P-16
13	土師器	甕	床直 フク土	—	(3.6)	(7.0)	—	ヘラナデ ヘラケズリ	ヘラナデ ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-55
14	土師器	小型土器	床直	(5.0)	3.5	5.1	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ナデ	ナデ	ナデ	ナデツケ	—	輪積痕

図45 第315号竪穴住居跡出土遺物(2)



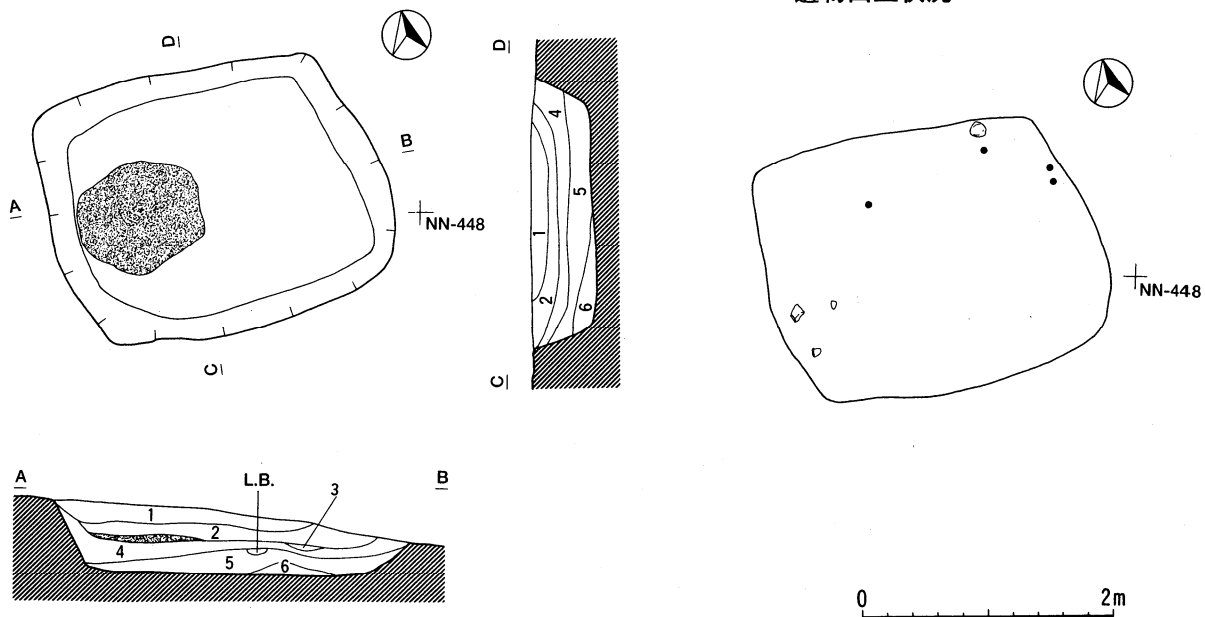
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
15	土師器	甕	床直	—	(7.5)	(7.6)	—	ハラナデ	ハラケズリ	—	ハラナデ	ハラナデ	ハラナデ	A	P-57
16	土師器	甕	フク土	—	(3.5)	(8.0)	—	ハラナデ	ハラナデ	—	ハラナデ	ハラナデ	ハラナデ	A	P-58
17	土師器	甕	フク土 床直	—	(4.6)	7.8	—	ハラナデ	ハラケズリ	—	ハラナデ	ハラナデ	ハラナデ	A	P-75
18	土師器	甕	床直 フク土	—	(4.9)	(6.0)	—	ハラナデ	ハラケズリ	—	ハラナデ	ハラナデ	ハラナデ	A	P-7、51、62
19	土師器	甕	床直	—	(4.9)	6.0	—	ハラナデ	ハラナデ	—	ハラナデ	ハラナデ	ハラナデ	A	輪積痕 P-17
20	土師器	甕	フク土	(21.6)	(7.1)	—	ヨコナデ	ハラナデ?	—	ヨコナデ	ハラナデ	—	—	A	輪積痕 P-30、32
21	須恵器	坏	フク土	(13.0)	(5.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	—
22	須恵器	壺	フク土	—	(3.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—

図版番号	種類	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	特徴	備考
			長さ	幅	厚さ			
23	土玉	フク土	—	2.1	2.0	9.4	せん孔あり 球形	
24	勾玉	床面	2.1	0.8	0.92	2.2	せん孔あり	

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
25	カマ土フク土	(11.2)	(8.2) × (4.2)	—	(262)	不明		羽口-1

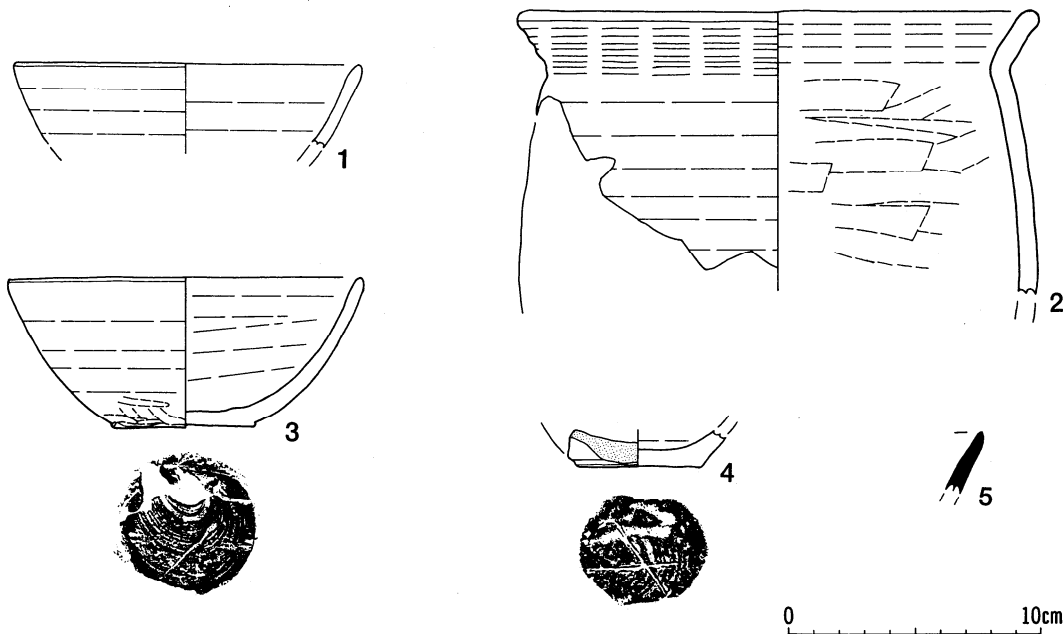
図46 第315号竪穴住居跡出土遺物 (3)

遺物出土状況



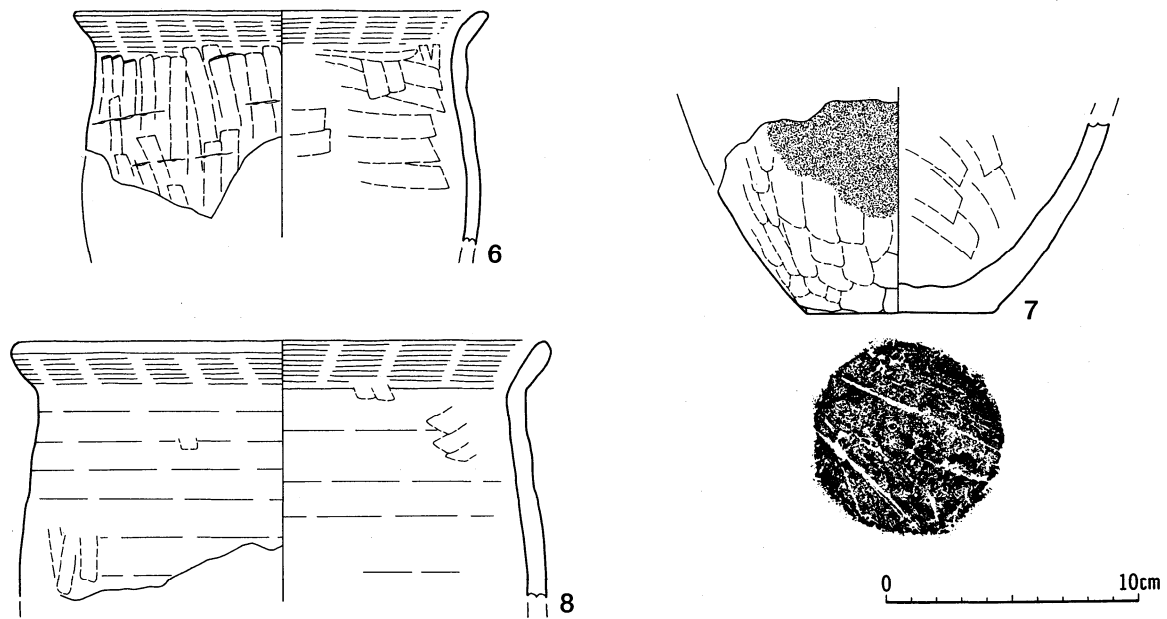
第316号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物・焼土粒微量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物少量 焼土粒微量
- 第3層 黒色土 10YR2/1 炭化物少量
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 明黄褐色土(10YR6/8)混入 焼土粒微量
- 第5層 黒褐色土 10YR2/2 明黄褐色土(10YR6/8)混入 焼土粒少量 炭化物微量
- 第6層 褐色土 10YR4/4 暗褐色土(10YR3/4)混入



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土床直	(15.2)	(3.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	
2	土師器	甕	フク土床直	(20.8)	(11.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	P-2, 3
3	土師器	坏	フク土床直	(14.2)	5.9	5.4	ロクロ	ロクロ	ヘラナデ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BIIa	
4	土師器	坏	フク土	—	(1.5)	(5.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	糸切り(ヘラナデ)	B	(刻書)
5	須恵器	坏	フク土	—	(2.3)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	

図47 第316号竪穴住居跡出土遺物(1)



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
6	土師器	甕	床直	(15.6)	(9.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 P-1, 5
7	土師器	甕	床直	—	(8.0)	7.8	—	ヘラケズリ	ヘラナデ	—	ヘラケズリ	ヘラナデ	ヘラナデ	A	外面粘土付着 P-3
8	土師器	甕	床直	(21.0)	(10.3)	—	ヨコナデ	ロクロ	—	ヨコナデ	ロクロ	—	—	B	P-1

図48 第316号竪穴住居跡出土遺物（2）

第316号竪穴住居跡（図47・図48）

[位 置] 調査区東側のNM-447・448グリッドに位置する。

[重 複] 認められなかった。

[平面形・規模] 東壁1 m75cm、西壁1 m94cm、南壁2 m37cm、北壁2 m33cmで南東隅がやや広がる長方形である。床面積は約3.44m²である。主軸方位はN-69°-Wである。

[壁・床面] 壁高は、東壁13cm、西壁29cm、南壁44cm、北壁20cmで床面からやや急に立ち上がる。床面はやや起伏がみられ、堅く締まっている。

[周 溝] 検出されなかった。

[ピット] 検出されなかった。

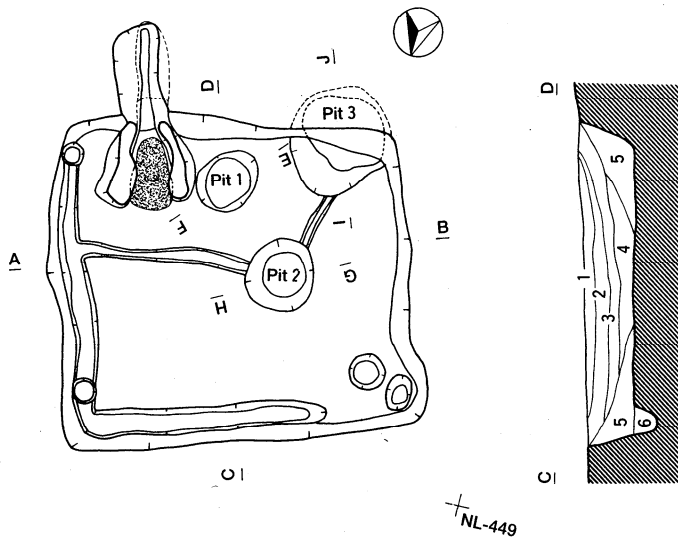
[カマド] 検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は6層に分層される。2層と4層の間に焼土が堆積している。

[出土遺物] 土師器の坏、甕ほか須恵器の坏が覆土から出土している。

[時 期] 出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)



第317住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 焼土粒微量 To-a微量
- 第2層 黒褐色土 10YR3/1 焼土粒微量 ローム粒微量
To-a微量 炭化粒微量
- 第3層 黒色土 10YR2/1 パミスブロック微量 焼土粒微量 炭化粒微量
- 第4層 黒色土 10YR2/1 L.B.多量
- 第5層 黒色土 10YR2/1 焼土粒多量 炭化材微量
- 第6層 褐灰色土 10YR4/1 L.B.多量 ローム粒少量

Pit 1

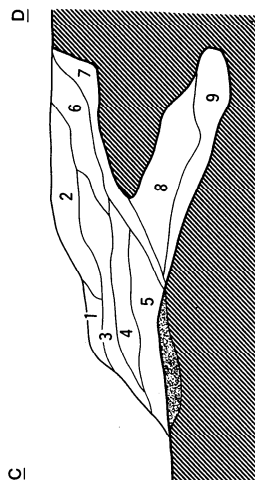
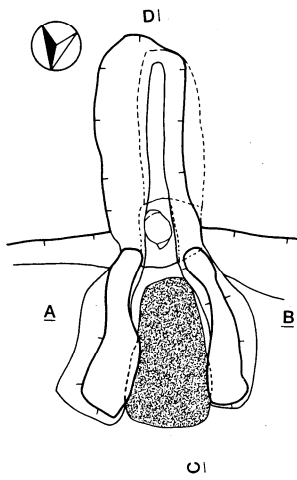
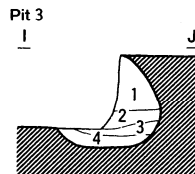
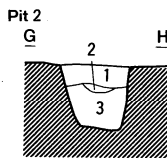
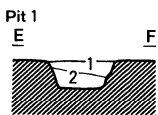
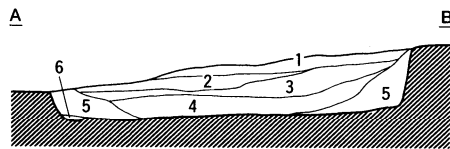
- 第1層 にぶい赤褐色土 5YR4/4 焼土粒少量 炭化粒微量 パミス微量
L.B.微量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/1 L.B.微量 炭化粒微量

Pit 2

- 第1層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 パミス微量
- 第2層 黄褐色土 10YR5/6
- 第3層 にぶい赤褐色土 2.5YR4/3 パミス多量

Pit 3

- 第1層 黒褐色土 10YR2/1
- 第2層 灰黄褐色土 10YR4/2
- 第3層 黒褐色土 10YR3/2
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2



カマド

- 第1層 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒微量 焼土粒微量
- 第2層 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒微量 焼土粒微量
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒微量
- 第4層 にぶい黄褐色土 10YR4/3 焼土ブロック
- 第5層 暗赤褐色土 5YR3/6 焼土ブロック
- 第6層 明褐色土 7.5YR7/1
- 第7層 黒褐色土 10YR3/2
- 第8層 褐色土 10YR4/6 焼土粒微量
- 第9層 明褐色土 7.5YR5/6

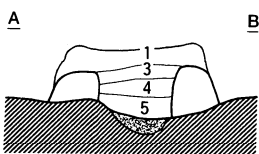


図49 第317号竪穴住居跡

第317号竪穴住居跡（図49～図52）

[位置] 調査区東側のNM・NN-449・450グリッドに位置する。

[重複] 認められなかった。

[平面形・規模] 東壁2m60cm、西壁2m28cm、南壁2m16cm、北壁2m56cmでほぼ方形である。床面積は5.97㎡で、主軸方位はN-168°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁20cm、西壁48cm、南壁42cm、北壁36cmで床面からやや急に立ち上がる。床面はやや起伏がみられる。

[周溝] 幅12～22cm、深さ4～18cmの周溝が東側と北側に検出された。また、東側の周溝から床面中央のピット2からピット3につながる溝（幅10cm・深さ4～18cm）が検出された。用途などについては不明である。

[ピット] ピットが7個検出された。南壁中央から、長軸54cm、短軸44cm、深さ22cmのピット（ピット1）、住居跡中央から長軸58cm、短軸56cm、深さ30cmのピット（ピット2）、南東隅に径76cm、深さ14cmのピット（ピット3）を検出した。ピット3は、南壁を掘り込む横穴である。

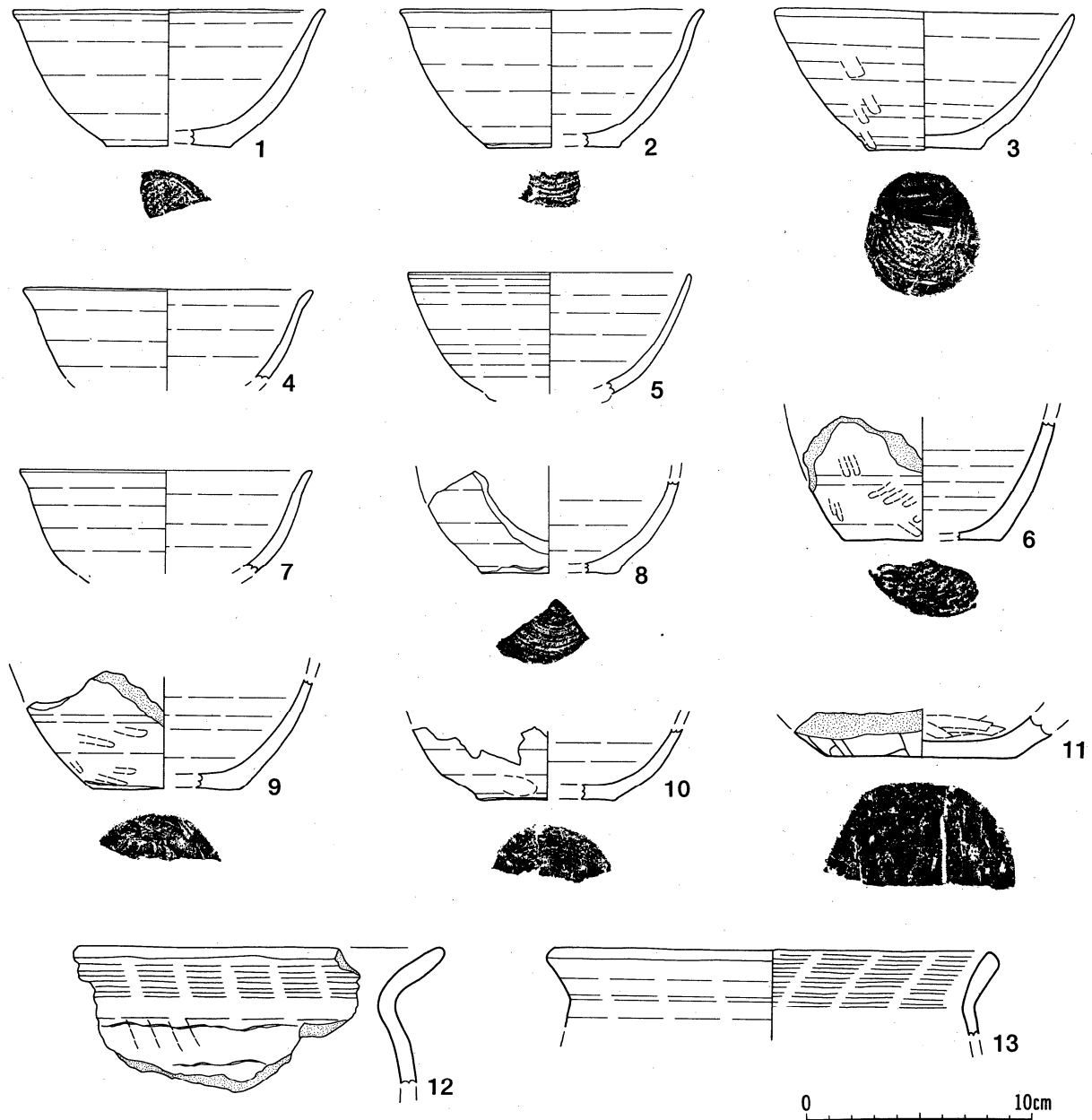
[カマド] 南壁東側に粘土を用いて構築されている。煙道は半地下式で住居跡外に80cmほど延びる。煙道底面は煙出部に向かって緩やかに上がり煙出し部で急に立ち上がる。また煙道部の床面から90cmほど落ち込む掘り込みを検出し、地下式の煙道を構築する途中に廃棄され、半地下式のカマドに変更されたものと思われる。

[堆積土] 堆積土は6層に分層され、1、2層にT o - a火山灰がブロック状に混入している。

[出土遺物] 覆土から多量の土師器の坏や甕のほか、鉄製の刀子が出土している。

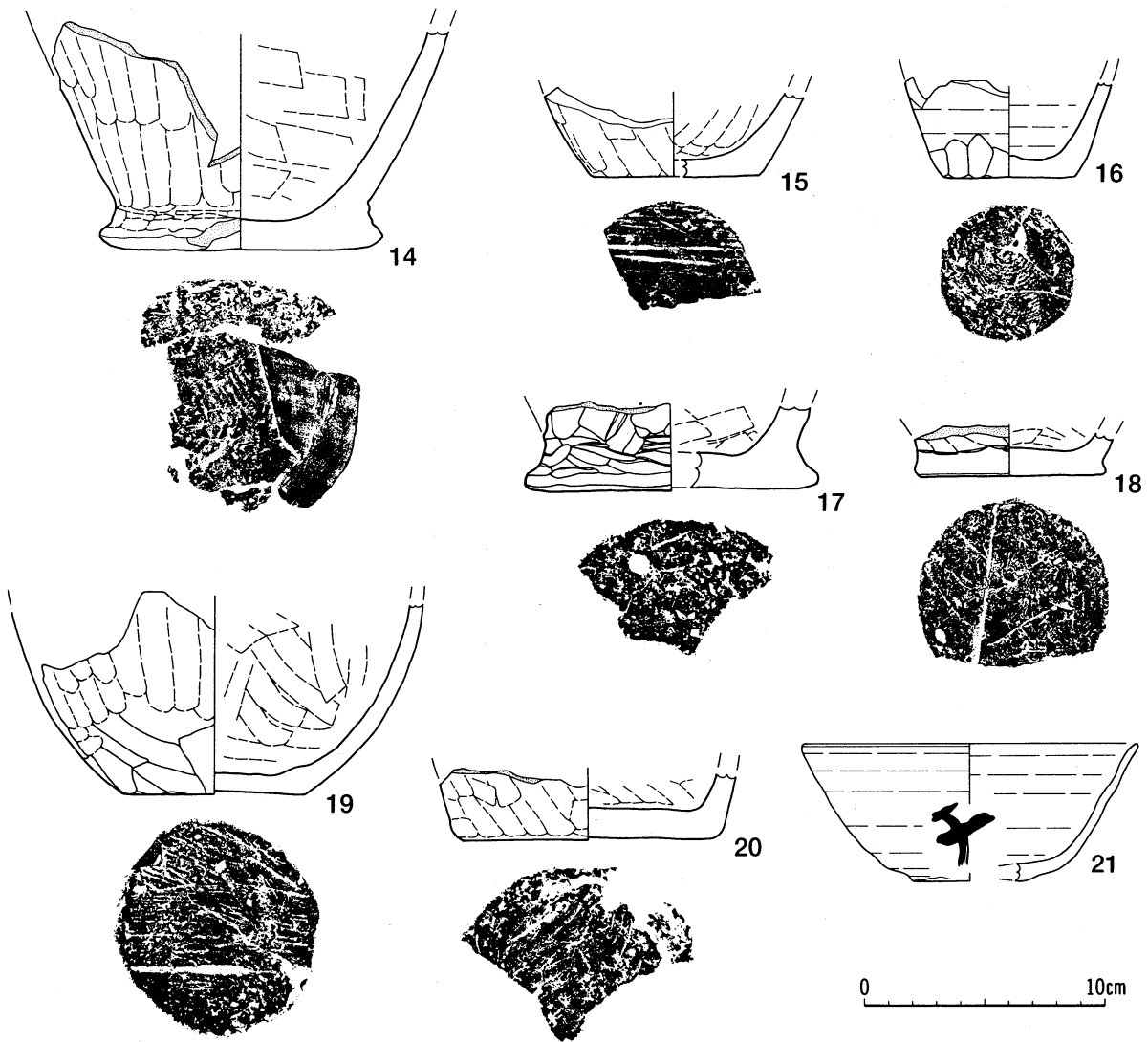
[時期] 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（齋藤由美子）



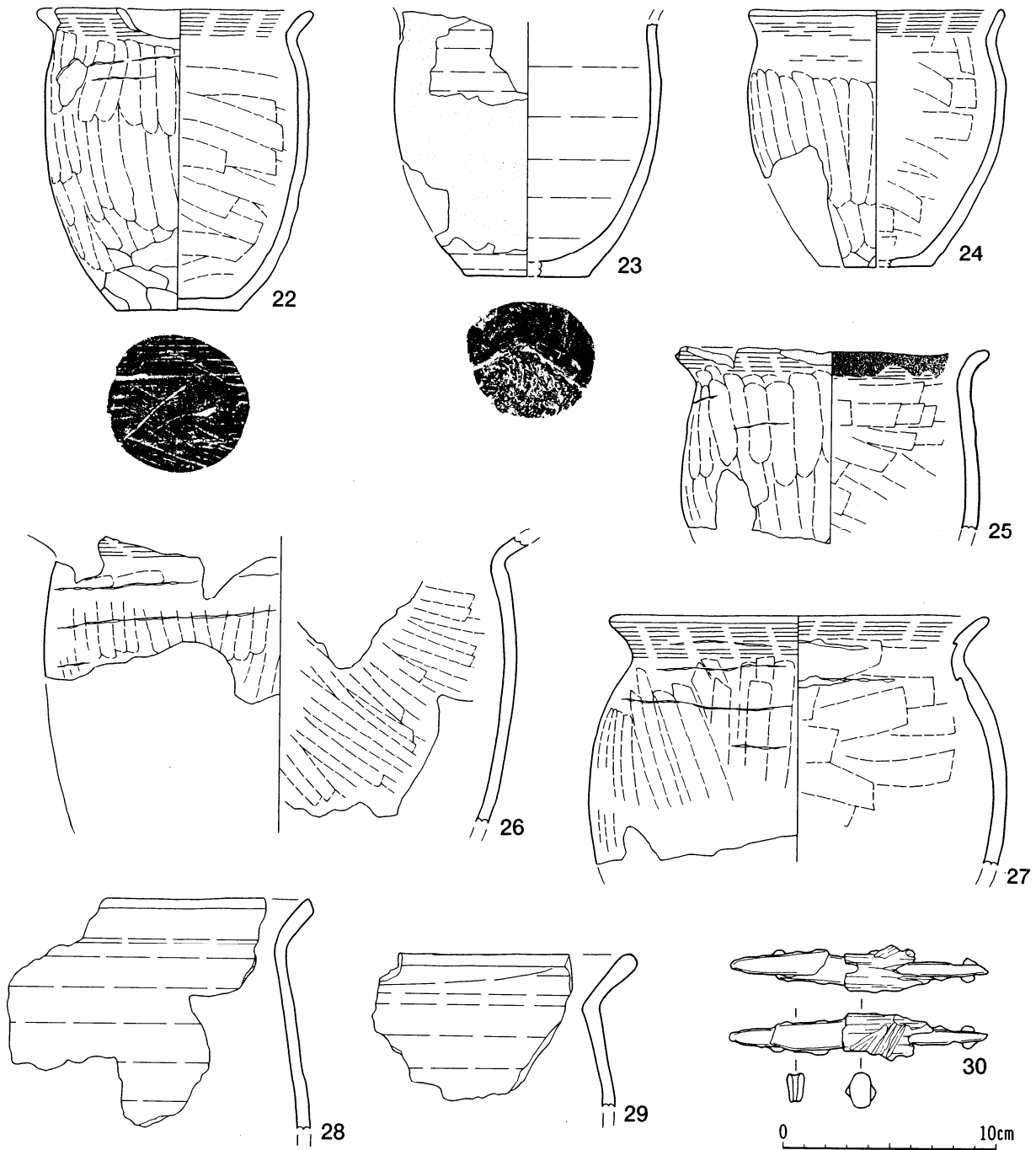
図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	(14.0)	6.1	(5.6)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	糸切り	BⅡb	P-63
2	土師器	坏	フク土	(13.5)	6.2	(6.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	糸切り	BⅡb	P-16
3	土師器	坏	フク土	13.3	6.3	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	糸切り	BⅡa	P-71
4	土師器	坏	フク土	(12.8)	(4.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	P-50
5	土師器	坏	フク土	(12.0)	(5.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅡ	P-5
6	土師器	鉢?	床直 Pit3 1層	(13.0)	(4.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	BⅠ	P-75
7	土師器	坏	フク土	—	(4.1)	(6.1)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	P-34
8	土師器	甕	フク土	—	(5.5)	(7.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	糸切り	B	
9	土師器	甕	床直 Pit3 1層	—	(5.9)	—	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	糸切り	B	P-12
10	土師器	坏	床直	—	—	(5.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	ヘラナデ	B	指痕 P-64
11	土師器	甕	フク土	—	(2.1)	(8.4)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-11
12	土師器	甕	フク土	(26.0)	(6.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-4
13	土師器	甕	フク土	(19.0)	(3.7)	—	ロクロ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	B	P-76

図50 第317号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
14	土師器	甕	フク土	—	(9.4)	(11.6)	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	砂底	A	P-54、73
15	土師器	甕	フク土	—	(3.7)	(7.0)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	A	
16	土師器	鉢?	Pit1 4層	—	(4.2)	5.6	—	ロクロ	ヘラケズリ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B	P-81
17	土師器	甕	フク土	—	(3.4)	(12.2)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-35
18	土師器	甕	4層	—	(2.1)	8.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	木葉痕	A	P-80
19	土師器	甕	Pit3 3層	—	(8.4)	(7.6)	—	ヘラナデ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラ切り?	A	P-3、47、76、78
20	土師器	甕	カマド フク土	—	(3.0)	(11.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-61
21	土師器	坏	フク土	(14.0)	(5.7)	—	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	—	BII	P-14 墨書「丈」?

図51 第317号竪穴住居跡出土遺物 (2)

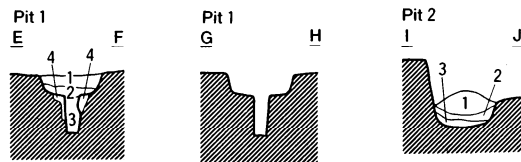
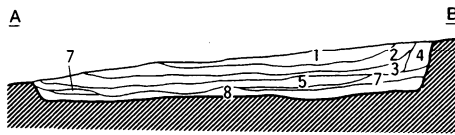
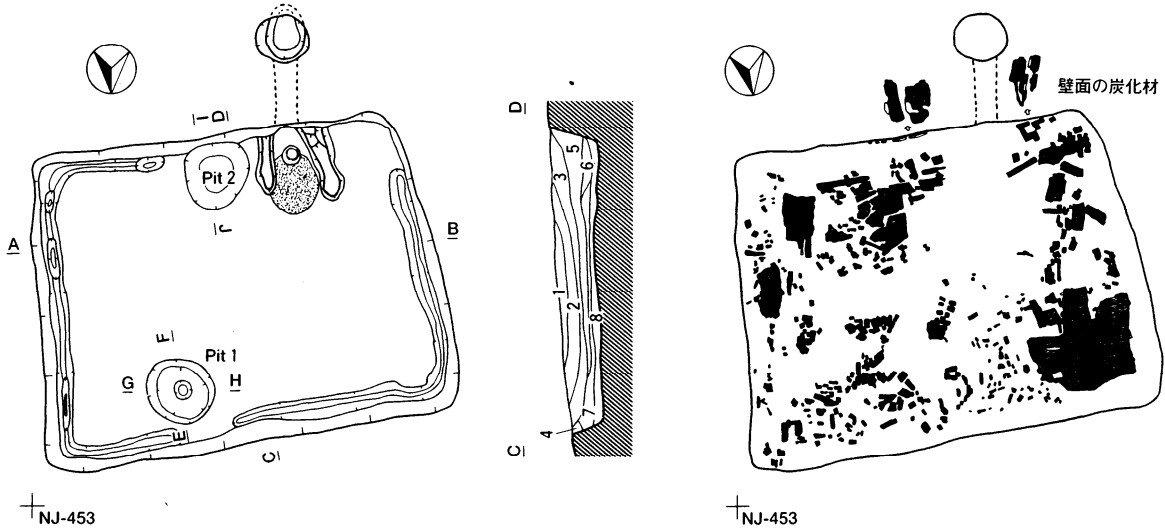


図版番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
22	土師器	甕	床面 カマト火床面	(13.0)	14.2	5.8	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラケズリ	A II b	P-1
23	土師器	甕	フク土	—	(11.9)	(6.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	ナデツケ	B II	外面剥落 P-45
24	土師器	甕	フク土	(12.2)	(12.1)	(5.4)	ヨコナデ?	ヘラナデ	ヘラナデ ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ?	A III d	P-39
25	土師器	甕	フク土	(14.8)	(9.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	内面口縁部煤状炭化物付着 P-44
26	土師器	甕	フク土	—	(13.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 P-2, 4, 8, 17, 19
27	土師器	甕	フク土	(18.4)	(11.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	内外両輪積痕 P-19, 60
28	土師器	甕	フク土 Pit3 3層	—	10.8	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	B	P-56, P-59 P-2
29	土師器	甕	床面	—	(6.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	B	P-77

図版番号	出土層位	計測値(cm)			重さ(g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
30	フク土	12.3	1.7	1.4	19.2	刀子	木質部残存 2個体

図52 第317号竪穴住居跡出土遺物(3)

炭化物出土状況



第319号住居跡

第1層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒・炭化物少量 To-a混入
第2層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物・ローム粒少量 To-a混入
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒微量 焼土粒・炭化物多量
第4層	褐色土	10YR4/4	ローム粒・炭化物少量
第5層	明赤褐色土	5YR5/8	ローム粒・炭化物少量
第6層	橙色土	5YR6/8	焼土ブロック 炭化物少量
第7層	黒色土	10YR1.7/1	焼土粒・ローム粒微量
第8層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒 L.B. 小礫少量 To-a混入

Pit 1

第1層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量 炭化物・小礫少量 To-a混入
第2層	黒褐色土	10YR2/1	
第3層	褐色土	10YR4/4	ローム粒 L.B.少量

Pit 2

第1層	赤褐色土	5YR4/6	焼土粒微量 炭化物少量
第2層	黒色土	10YR1.7/1	焼土粒・ローム粒微量
第3層	褐色土	10YR4/4	炭化物微量 ローム質土

カマド

第1層	褐色土	7.5YR4/4	炭化物微量 ローム粒少量 焼土粒中量
第2層	赤褐色土	5YR4/8	炭化物・ローム粒少量 焼土粒多量
第3層	褐色土	7.5YR4/6	焼土粒・炭化物少量
第4層	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒・炭化物多量
第5層	暗褐色土	7.5YR3/4	ローム粒・炭化物少量 焼土粒中量
第6層	明黄褐色土	10YR3/6	炭化物微量 ローム粒・L.B.
第7層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第8層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・L.B.・焼土粒・炭化物
第9層	褐色土	10YR4/4	ローム粒少量
第10層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第11層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・炭化物・焼土粒少量
第12層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒・L.B.
第13層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・炭化物少量
第14層	暗赤褐色土	5YR3/6	

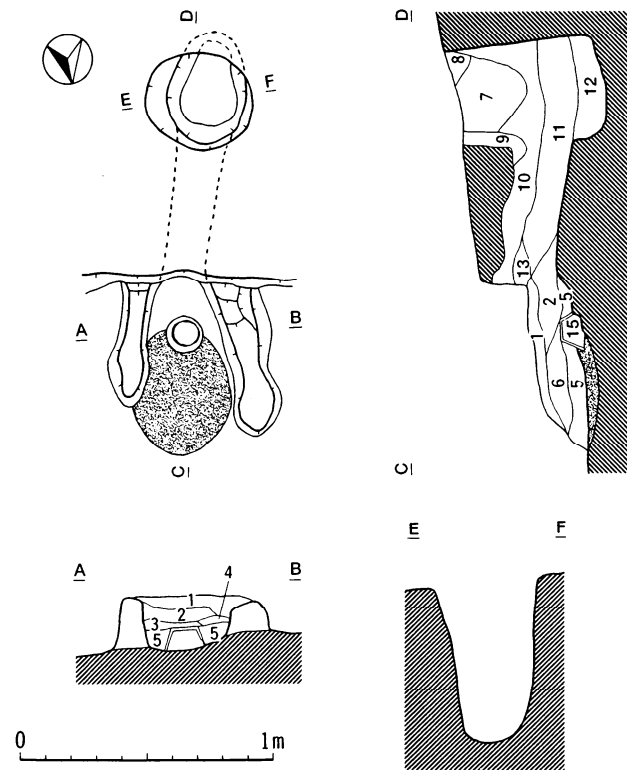
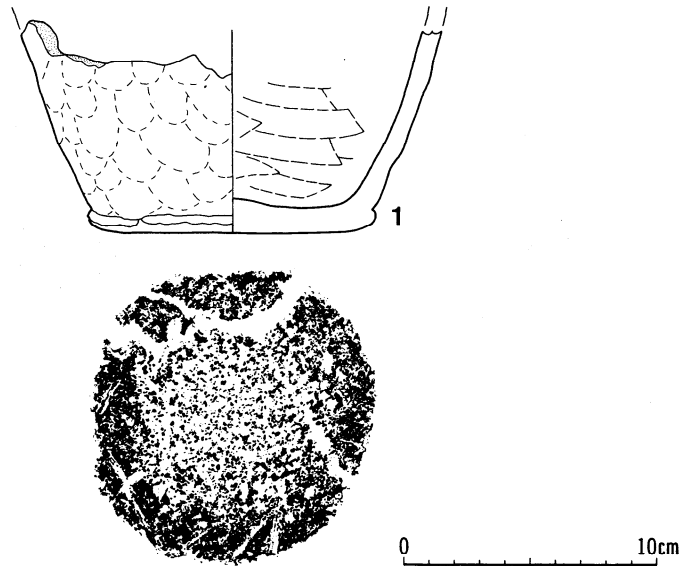


図53 第319号竪穴住居跡



図版 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	カマド	—	(8.5)	(11.4)	—	—	ユビ圧痕	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	支脚

図54 第319号竪穴住居跡出土遺物

第319号竪穴住居跡 (図53・図54)

〔位置〕 調査区中央部のN I・N J-453・454グリッドに位置する。

〔重複〕 認められなかった。

〔平面形・規模〕 東壁2 m50cm、西壁2 m45cm、南壁2 m85cm、北壁3 m30cmのやや不正な長方形である。床面積は約6.83㎡で、主軸方位はN-172°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁11cm、西壁36cm、南壁30cm、北壁18cmで床面からやや急に立ち上がる。床面はやや起伏がみられる。

〔周溝〕 幅9~17cm、深さ1~14cmの周溝が、南西隅を除きほぼ一巡する。

〔ピット〕 検出されたピットは2個である。ピット1は北壁東側に径50cm、深さ15cmで中央に径15cm、深さ30cmの落ち込みがあり、形態から「ロクロピット」と考えられる。ピット2は、南壁中央あり径50cm、深さ25cmで、底面から焼土と多量の炭化材が確認された。

〔カマド〕 南壁西側に粘土を用いて構築されている。焚口部には、土師器の甕を伏せた状態で置き、支脚としている。煙道は地山を掘り込んだ地下式で、住居跡外に100cmほどのびる。煙道底面は煙出部に向かって緩やかに落ち込み、煙出部で深さ約60cmのピットにつながり、ほぼ垂直に立ち上がる。また、カマドの西側部分の床面に用途不明の細かい砂利が確認されている。

〔堆積土〕 堆積土は8層に分層され、1層と2層にT o-a火山灰がブロック状に堆積している。また、床面のほぼ全面に炭化材や焼土が検出されていることから、焼失家屋と思われ、カマド両脇の壁には腰板と思われる炭化材がみられる (図53)。

〔出土遺物〕 土師器の土器破片が覆土から出土している。

〔時期〕 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀中葉~後半に構築された土師器の製作に関わる遺構と考えられる。

(中嶋友文)

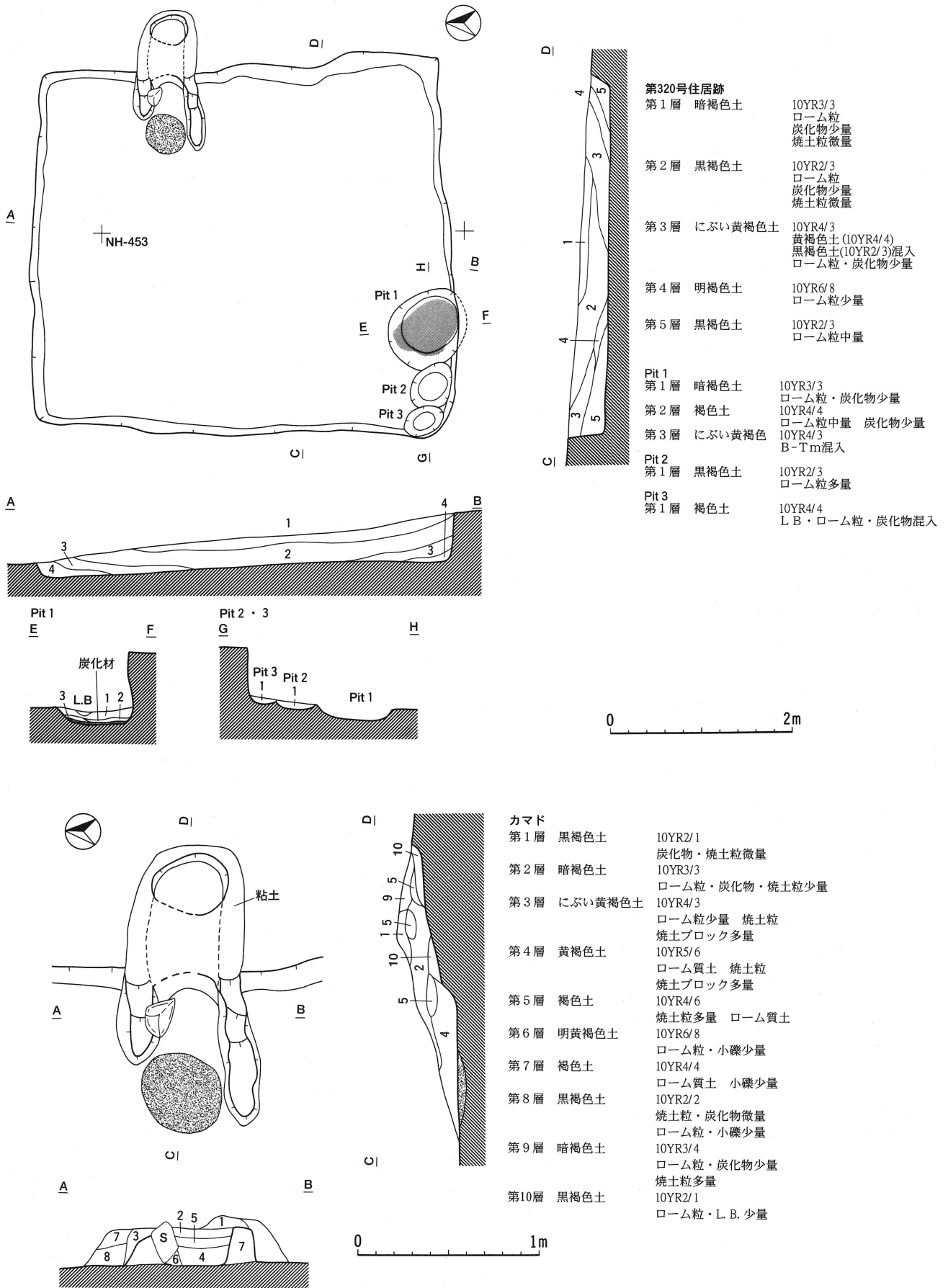
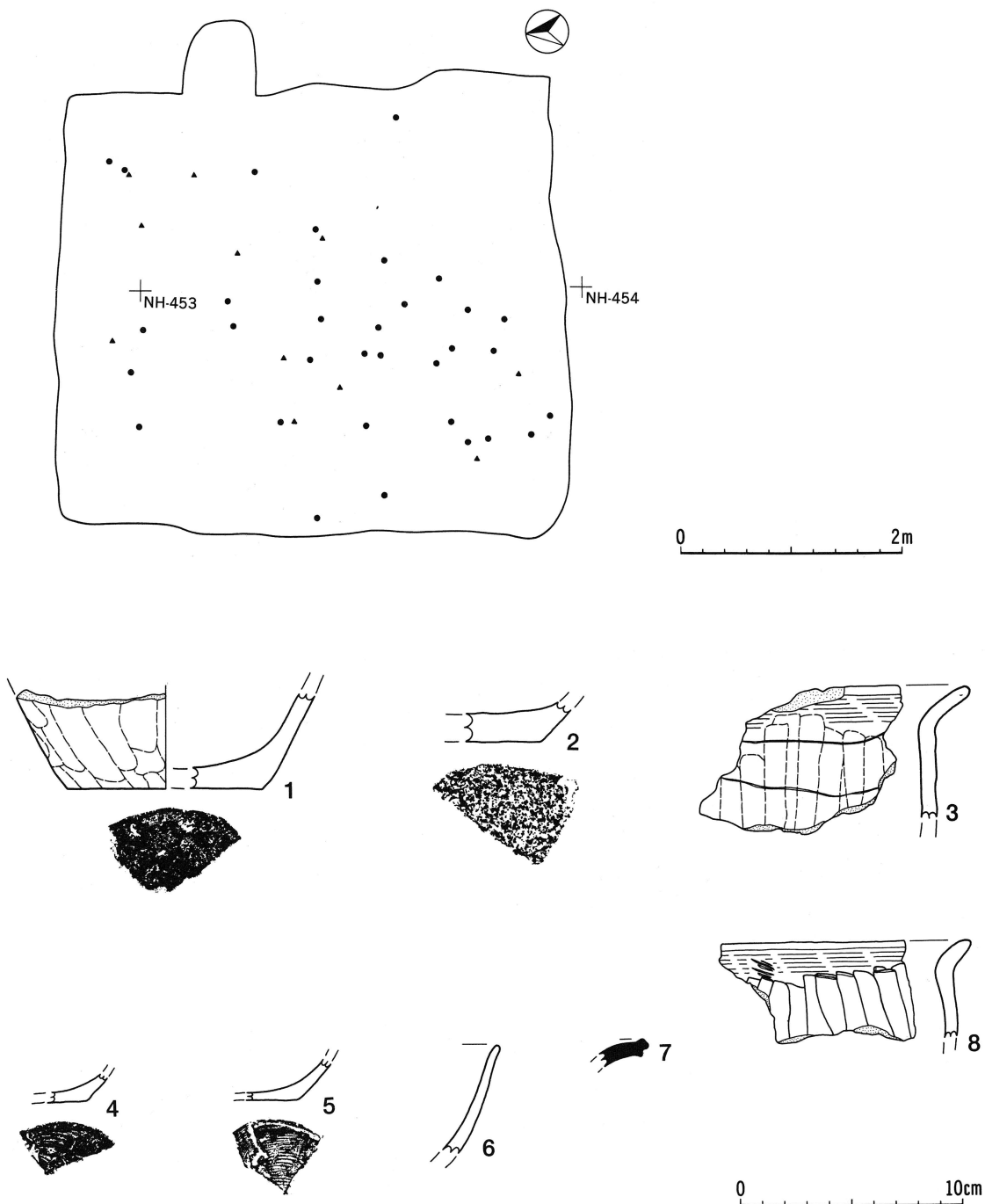


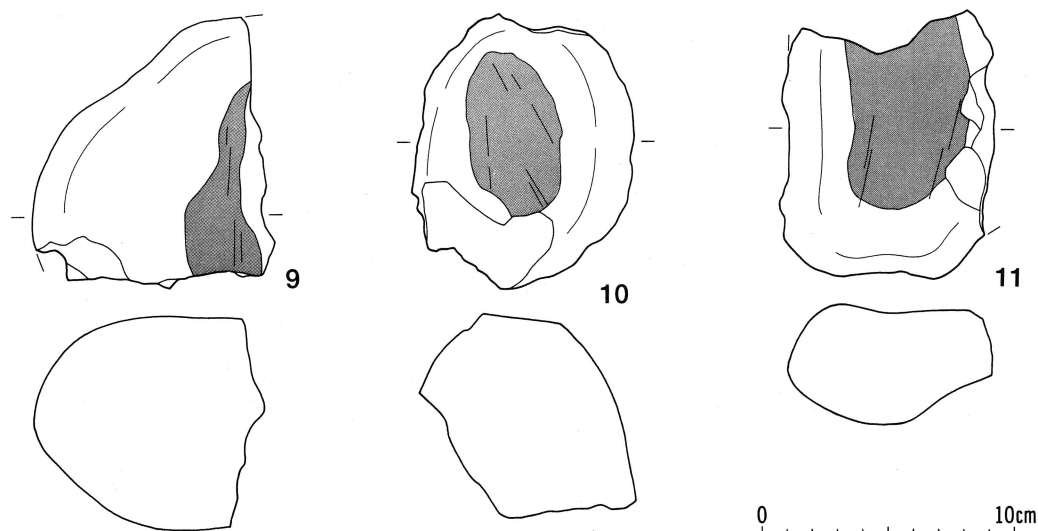
図55 第320号竪穴住居跡出土遺物（1）

遺物出土状況



図版 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	—	(4.3)	—	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-18
2	土師器	甕	床直	—	—	—	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-15
3	土師器	甕	フク土	—	(5.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-36 輪積痕
4	土師器	坏	フク土	—	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	糸切り	B II	P-17
5	土師器	坏	フク土	—	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	B II	P-20
6	土師器	坏	フク土	—	(4.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ミガキ	ミガキ	—	—	B I	内面黒色処理
7	須恵器	壺	フク土	—	(1.2)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	—
8	土師器	甕	床直	—	(4.3)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-31

図56 第320号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版 番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
9	床直	10.3	9.2	8.5	860	凝	砥石	S-3
10	床直	10.5	8.6	8.0	830	凝	砥石	S-4 炭化物付着
11	フク土	10.2	8.1	5.0	550	流	砥石	S-8 炭化物付着

図57 第320号竪穴住居跡出土遺物（2）

第320号竪穴住居跡（図55～図57）

〔位置〕 調査区中央部のNG・NH-452・453グリッドに位置する。

〔重複〕 認められなかった。

〔平面形・規模〕 平面形は、西壁4m40cm、東壁4m55cm、南壁4m20cm、北壁3m90cmのほぼ方形である。床面積は、約16.83㎡で、主軸方位はN-88°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁23cm、西壁36cm、南壁55cm、北壁19cmで床面からやや急に立ち上がり、北壁は黒色土層を掘り下げて構築されている。床面はほぼ平坦で、堅く締まっている。

〔周溝〕 検出されなかった。

〔ピット〕 検出されたピットは3個で、いずれも南壁西側に集中している。ピット1は、南壁を若干掘り込んで造られており、底面近くに不明の火山灰と炭化材が多量に堆積している。用途などについては不明である。

〔カマド〕 東壁北側に礫を芯材として粘土を用いて構築しており、煙道部上面も粘土で覆われている。煙道は半地下式で、住居跡外に80cmほどのびる。煙道底面は煙出部に向かって緩やかに立ち上がる。

〔堆積土〕 堆積土は5層に分層され、ローム粒を含んだ黒褐色土が主体である。

〔出土遺物〕 覆土から土師器や須恵器の破片とともに床面から砥石が出土している。

〔時期〕 出土遺物から、9世紀前半に構築されたと考えられる。

（中嶋友文）

第321号竪穴住居跡 (図58・図59)

[位置] 調査区中央部のNE・NF-452・453グリッドに位置する。

[重複] 認められなかった。

[平面形・規模] 東壁2m88cm、西壁2m72cm、南壁2m80cm、北壁2m90cmではほぼ南東隅が方形と考えられる。床面積は約7.13m²で、主軸方位はN-87°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁32cm、西壁57cm、南壁52cm、北壁32cmで、床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はやや起伏がみられる。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] 検出されたピットは床面から3個、貼り床下から6個で確認され、東壁に集中する。いずれも柱穴とは考えられず、用途などは不明である。

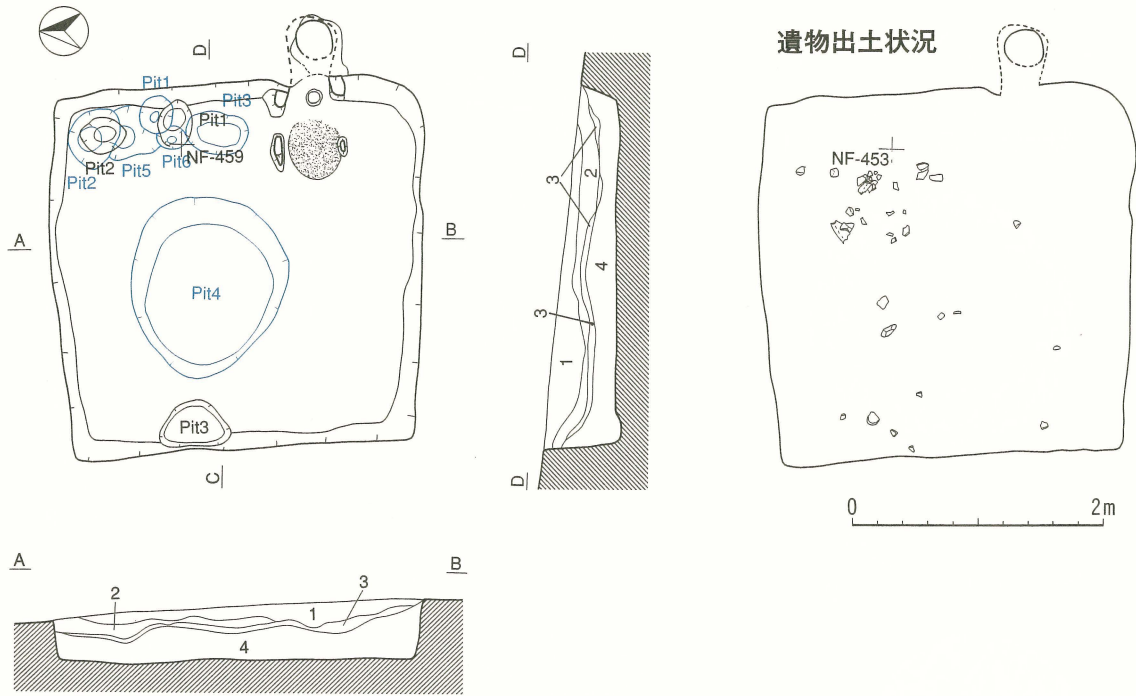
[カマド] 東壁南側に粘土を用いて構築され、焚口部には土師器の甕を伏せて支脚としている。煙道は半地下式で上面を粘土で覆っており、住居跡外に50cmほどのびる。煙道底面は煙出部に向かってほぼ水平に進み、煙出し部で急に立ち上がる。

[堆積土] 堆積土は4層に分層され、3層と4層にT o - a火山灰が堆積している。

[出土遺物] 土師器の坏、甕が出土している。

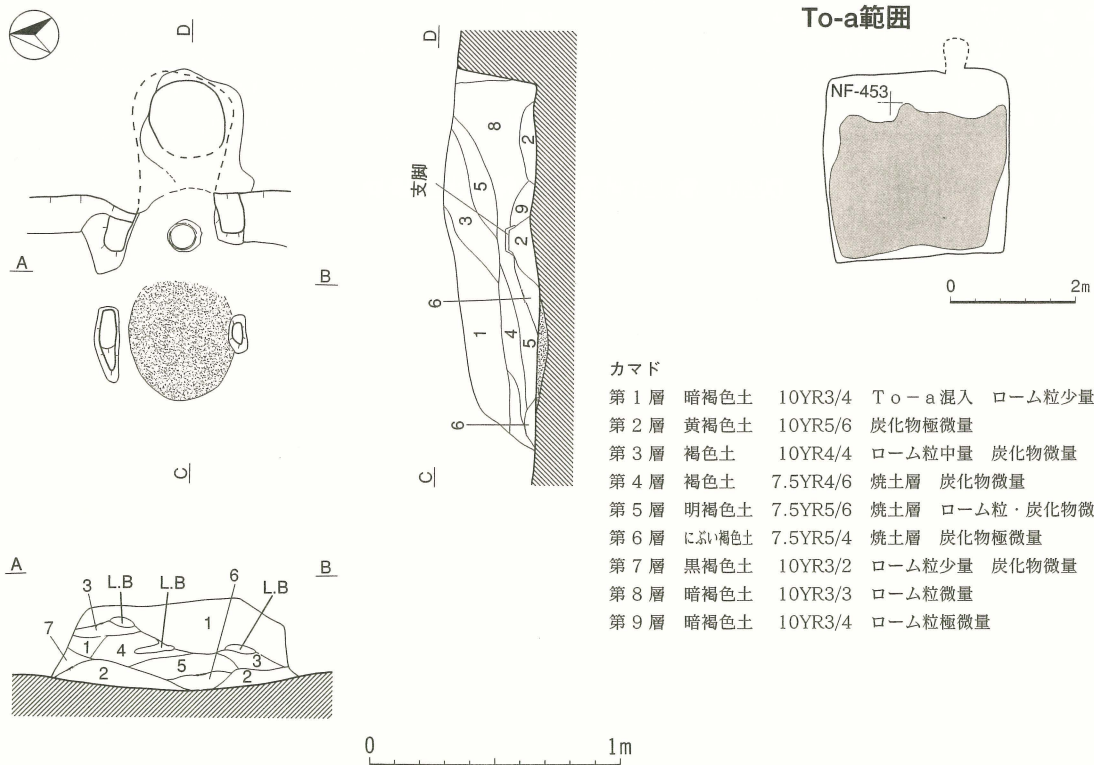
[時期] 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀前半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)



第321号住居跡

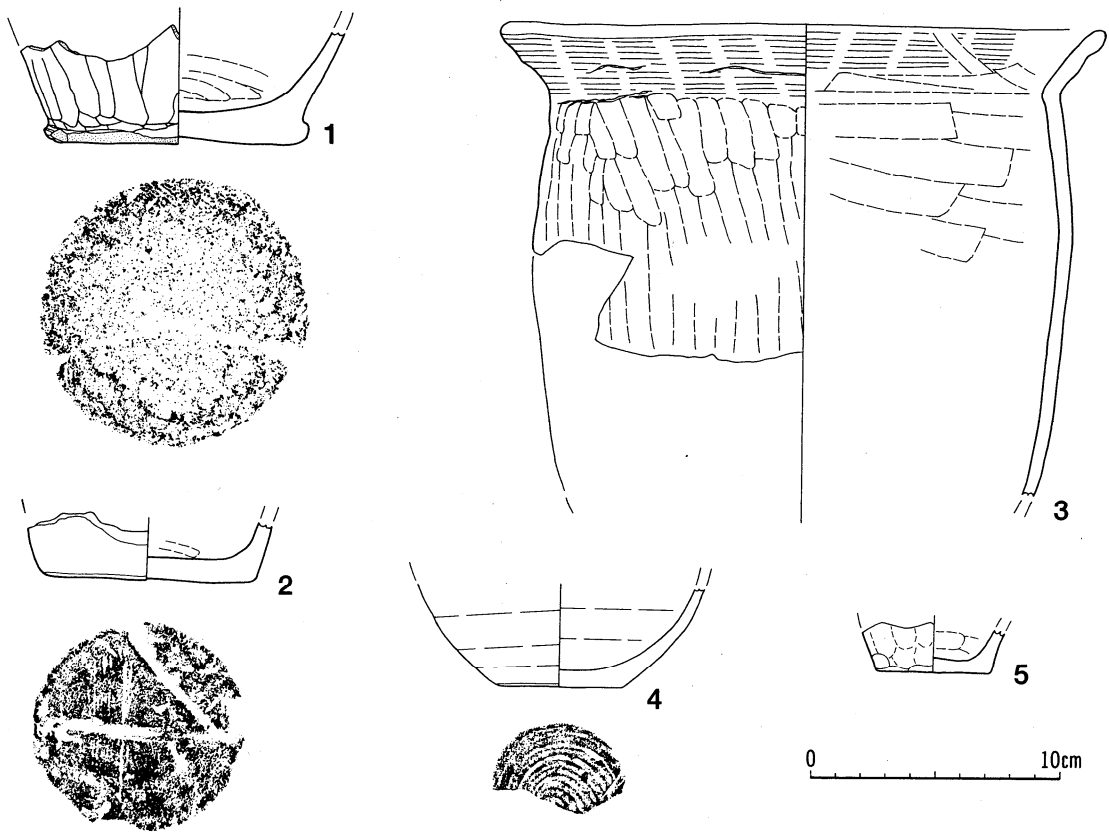
- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒・炭化物微量
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物微量
- 第3層 灰黄褐色土 10YR4/2 T o - a 混入 炭化物微量
- 第4層 にい漬褐色土 10YR4/3 T o - a 混入・炭化物少量 ローム質土



カマド

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 T o - a 混入 ローム粒少量 炭化物微量
- 第2層 黄褐色土 10YR5/6 炭化物極微量
- 第3層 褐色土 10YR4/4 ローム粒中量 炭化物微量
- 第4層 褐色土 7.5YR4/6 焼土層 炭化物微量
- 第5層 明褐色土 7.5YR5/6 焼土層 ローム粒・炭化物微量
- 第6層 にい漬褐色土 7.5YR5/4 焼土層 炭化物極微量
- 第7層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量 炭化物微量
- 第8層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒微量
- 第9層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒極微量

図58 第321号竪穴住居跡



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計測値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	カマド	—	(4.7)	(10.6)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
2	土師器	甕	床直 カマド	—	(2.4)	8.6	—	—	不明	—	—	ヘラナデ?	ヘラナデ?	A	P-23
3	土師器	甕	カマド 床直	(24.2)	(18.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-2, 7, 8, 11, 13, 17, 19, 外面輪痕
4	土師器	坏	フク土	—	(4.0)	(5.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	
5	土師器	小型土器	フク土	—	(2.0)	(4.6)	—	—	ユビ圧痕	—	—	ナデ	ナデツケ	—	

図59 第321号竪穴住居跡出土遺物

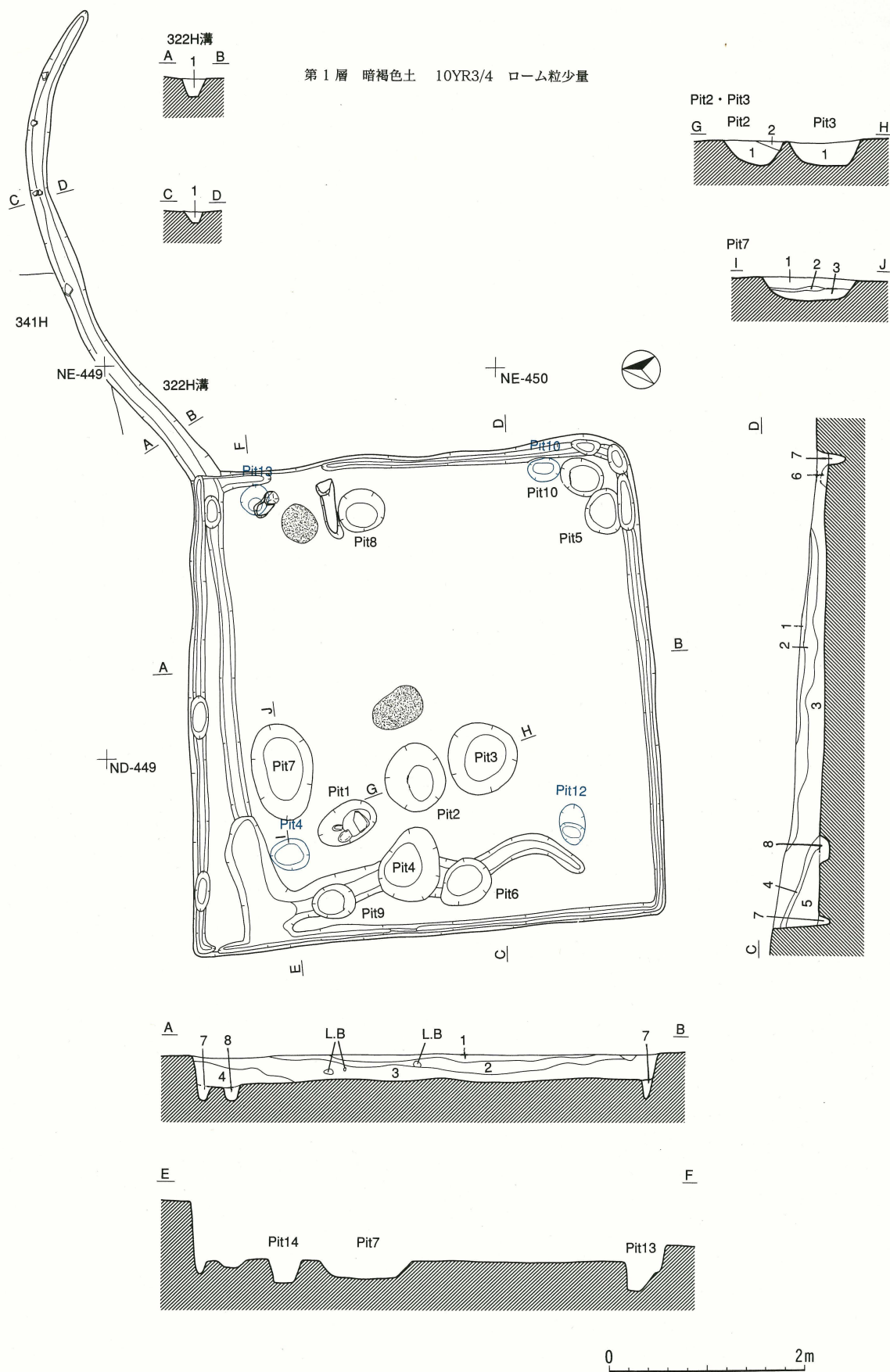


図60 第322号竪穴住居跡 (1)

第322号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・炭化物極微量
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 B-Tm ローム粒少量 炭化物微量
- 第3層 にぶい黄褐色 10YR4/3 ローム粒多量 炭化物少量
- 第4層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量 炭化物微量
- 第5層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒多量 炭化物少量
- 第6層 黄褐色土 10YR5/6 炭化物少量
- 第7層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量 炭化物極微量
- 第8層 褐色土 10YR4/6 ローム粒少量

Pit2

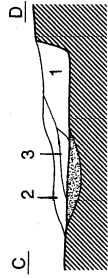
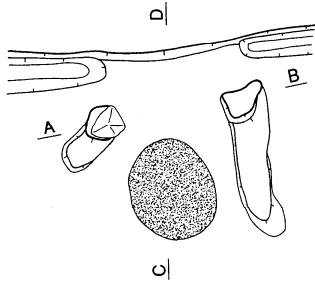
- 第1層 にぶい黄褐色 10YR4/3 T o - a 混入 ローム粒・炭化物少量
- 第2層 黄褐色土 10YR5/6 ローム粒少量 炭化物極微量

Pit3

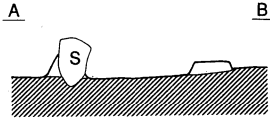
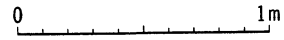
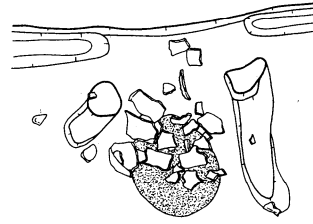
- 第1層 にぶい黄褐色 10YR4/3 T o - a 混入 ローム粒・炭化物少量

Pit7

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・炭化物微量



カマド遺物出土状況



カマド

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒微量 炭化物極微量
- 第2層 にぶい赤褐色 5YR4/4 焼土層 炭化物極少量
- 第3層 明褐色土 10YR5/8 焼土層

遺物出土状況

NE-450

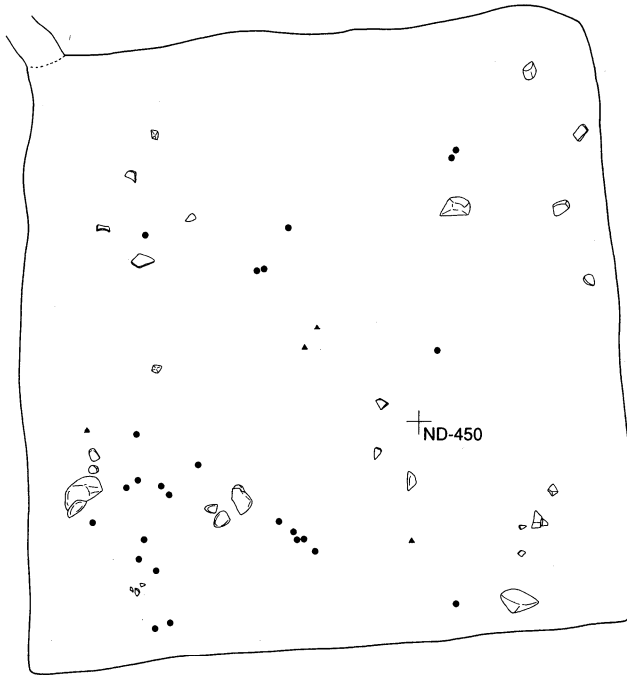
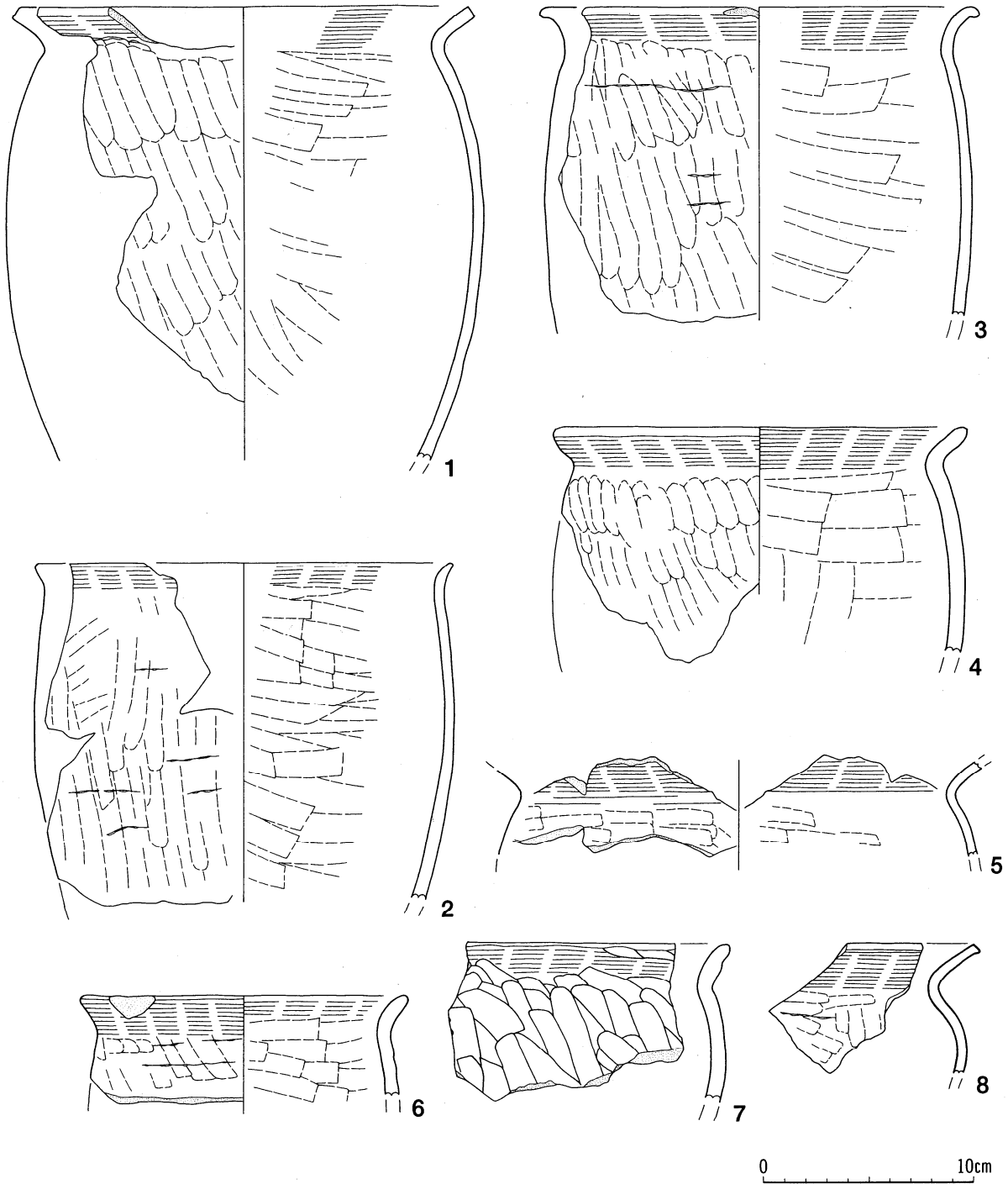
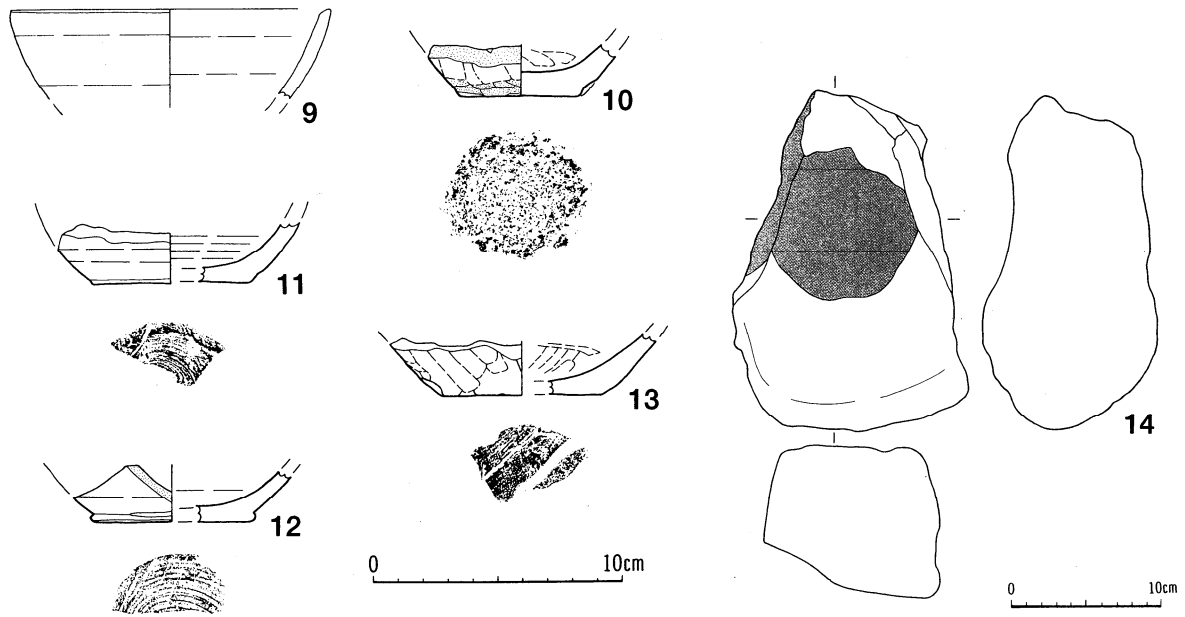


図61 第322号竪穴住居跡 (2)



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計測値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	カマドフ土	(21.4)	(21.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AI	
2	土師器	甕	カマドフ土	(20.0)	(16.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AI	輪襷痕 P-5, 22
3	土師器	甕	カマドフ土	(21.0)	(15.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AI	
4	土師器	甕	Pl7ク土 カマドフ土	(19.7)	(11.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AI	P-8
5	土師器	甕	フク土	(23.0)	(4.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AI	P-23
6	土師器	甕	フク土	(14.8)	(4.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-2
7	土師器	甕	床直	—	(7.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-32
8	土師器	甕	カマドフ土	—	(6.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪襷痕 P-12

図62 第322号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
9	土師器	坏	フク土	(12.8)	(3.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	P-4
10	土師器	甕	カマド	—	(2.1)	5.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-1, 7
11	土師器	甕	フク土	—	(2.1)	(6.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転系切り	B	P-26
12	土師器	坏	フク土	—	(2.1)	(5.6)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転系切り	B II	P-18
13	土師器	甕	フク土	—	(2.0)	(5.6)	—	—	ヘラナデ ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ?	A	P-16, 24, 28

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
14	床面	22.2	16.4	9.9	3837	溶凝	砥石	S-5 被熱

図63 第322号竪穴住居跡出土遺物 (2)

第322号竪穴住居跡 (図60～図63)

[位置] 調査区中央部のNC・ND-449・450グリッドに位置する。

[重複] 第341号竪穴住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

[平面形・規模] 東壁4m45cm、北壁4m85cm、南壁4m85cm、西壁4m95cmで南東隅が丸い方形である。主軸方位はN-85°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁12cm、西壁50cm、南壁28cm、北壁40cmで床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はやや起伏がみられる。

[周溝] 幅6～14cm、深さ6～34cmの周溝がカマド部分を除いてほぼ一巡する。

[ピット] 検出されたピットは14個である。柱穴は、貼り床下から検出したピット10 (42cm)、ピット12 (27cm)、ピット13 (35cm)、ピット14 (30cm) と考えられる。ピット2とピット3の覆土中に僅かだがT o - a火山灰が含まれている。

[カマド] 東壁北側に、礫を芯材としてこの上に粘土を覆って構築している。上部を削平されているため煙道などの構造については不明である。

[その他の施設] 住居内南西隅から周溝と平行して北東隅を通り東に延びる溝を検出した。長さ約12m40cm (住居外約5m)、幅15～40cm、深さ10～20cmで、の溝が検出された。堆積土からは、水が流れた痕跡等は見られないが、形態から排水溝と考えられ住居跡に伴うものと考えられる。

[堆積土] 堆積土は8層に分層され、2層にB-Tm火山灰が混入している。

[出土遺物] 遺物は、覆土から土師器の坏、甕のほかに床面から砥石が出土している。(図61)

[時期] 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

第323号竪穴住居跡 (図64・図65)

[位置] 調査区中央部のNI・NJ-444・455グリッドに位置する。

[重複] 認められなかった。

[平面形・規模] 東壁1m70cm、西壁1m80cm、南壁2m27cm、北壁2m10cmで東壁の両端が丸くなる長方形である。床面積は約3.50㎡で、主軸方位はN-84°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁46cm、西壁60cm、南壁52cm、北壁38cmで床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面は平坦で堅く締まっている。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] ピットは2個検出された。いずれも柱穴とは考えられない。

[カマド] 東壁中央に構築される。焚口部に土師器の坏 (図65-2) が伏せて支脚としている。ソデは芯材をつかわず、粘土にスサを混ぜて構築している。煙道は地山を掘り込んだ地下式で、住居跡外に100cmほど延び、煙道底面は煙出部に向かって緩やかに落ち込み、煙出部で垂直に立ち上がる。

[堆積土] 堆積土は6層に分層され、3層と4層にB-Tm火山灰が混入している。また、床面から焼土や炭化材が多量に確認されていることから焼失家屋と考えられる。

[出土遺物] 覆土から土師器の坏や甕などが出土している。

[時期] 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀前半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

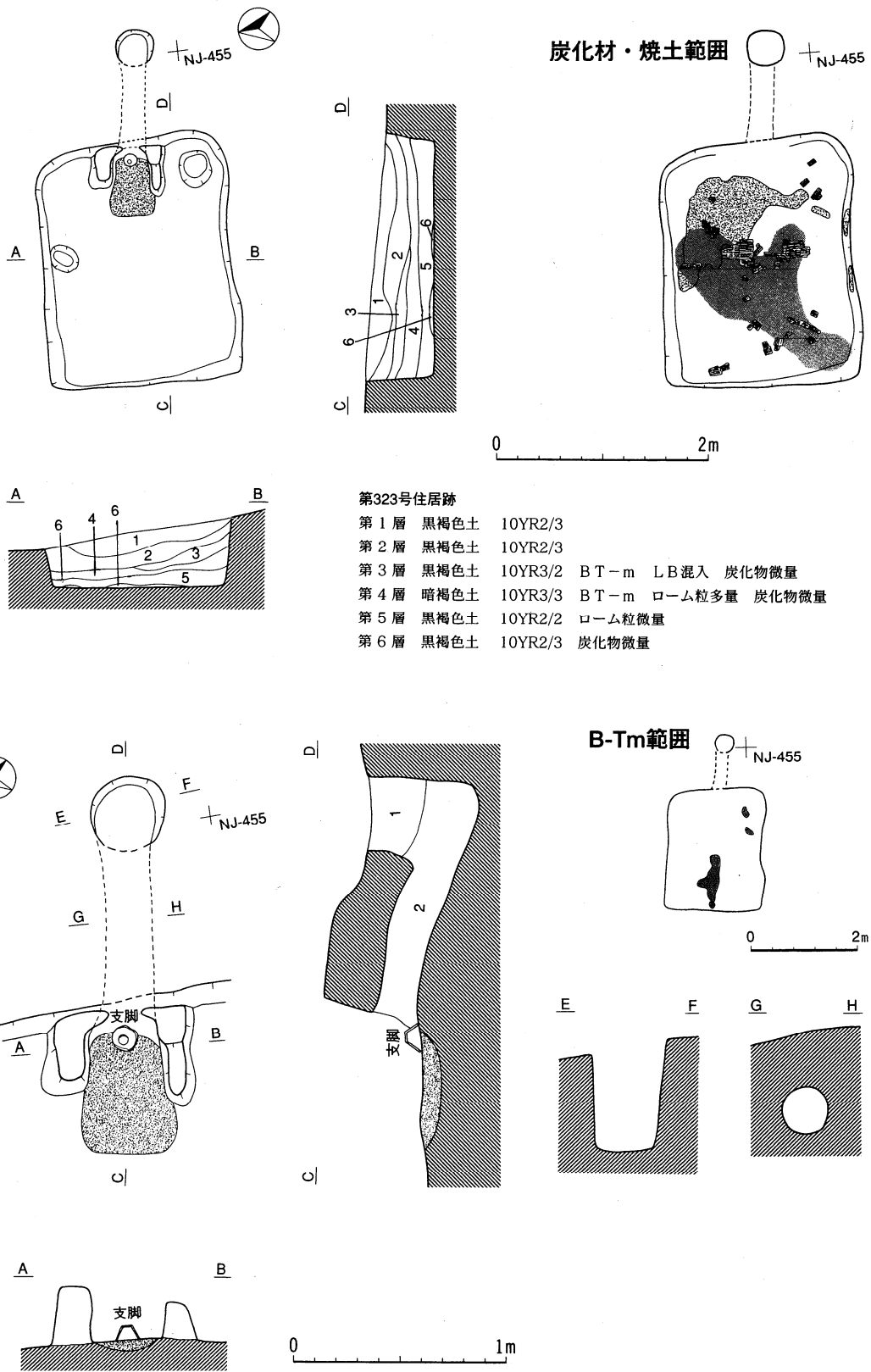
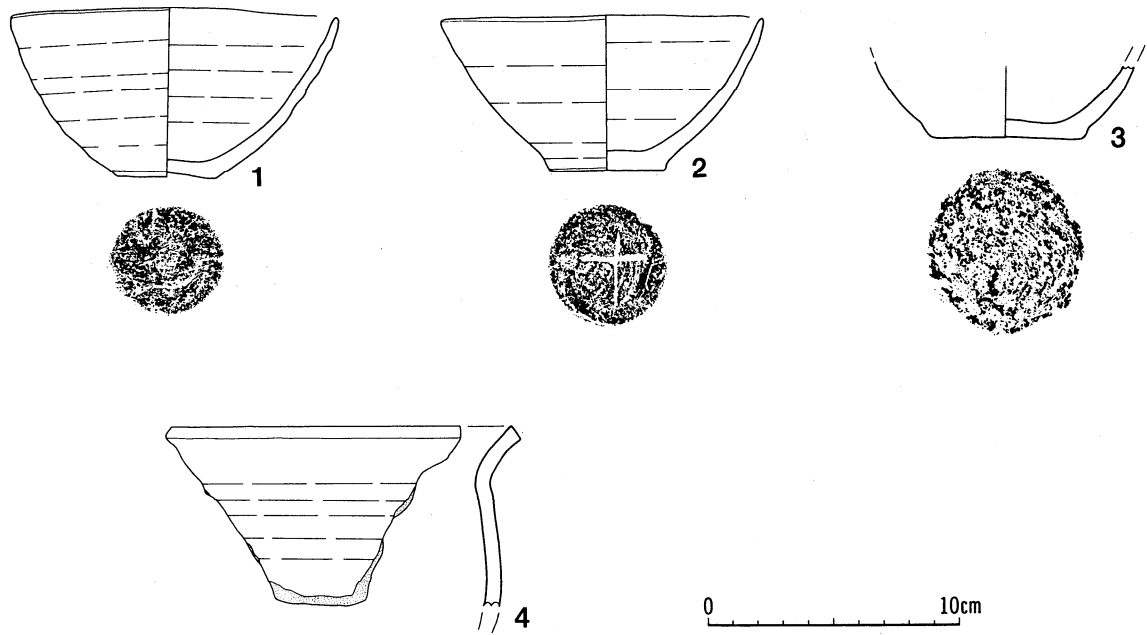
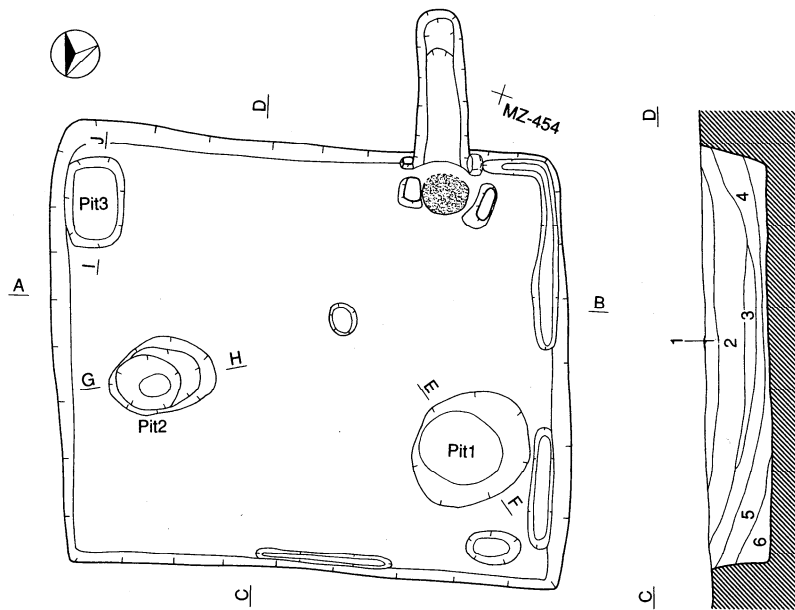


図64 第323号竪穴住居跡



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	かたけ7社	13.0	6.8	4.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	不明	B II b	全体に磨円状に歪んでいる P-1
2	土師器	坏	かたけ7社	12.8	4.8	6.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転系切り	B II b	P-支脚 刻書「×」
3	土師器	甕	フク土	(10.4)	(3.0)	(6.0)	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	—	内外面剥落のため調整不明 P-24
4	土師器	甕	フク土	—	(7.2)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	

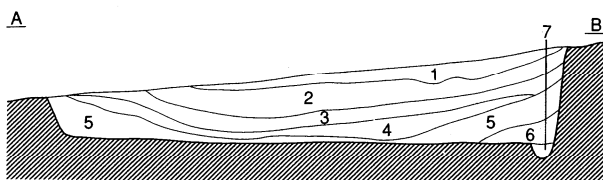
図65 第323号竪穴住居跡出土遺物



第324号住居跡

第1層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒・炭化物 焼土粒微量
第2層	褐色土	10YR4/4	黒褐色土(10YR3/2)混入 L.B少量 炭化物・焼土粒微量
第3層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒・炭化物少量 焼土粒少量 粘土粒微量
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量 焼土粒微量
第5層	にぶい黄褐色	10YR5/4	褐色土(10YR4/4)混入 しまりかなりあり
第6層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒少量
第7層	黒褐色土	10YR3/2	

0 2m

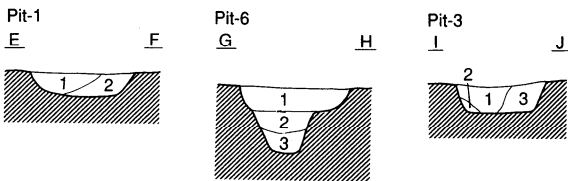


Pit1

第1層	黒褐色土	10YR2/3	焼土粒中量 炭化物少量 黄褐色土(10YR5/6)微量
第2層	黒色土	10YR2/1	黒褐色土(10YR2/2)少量 黄褐色土(10YR5/6)中量

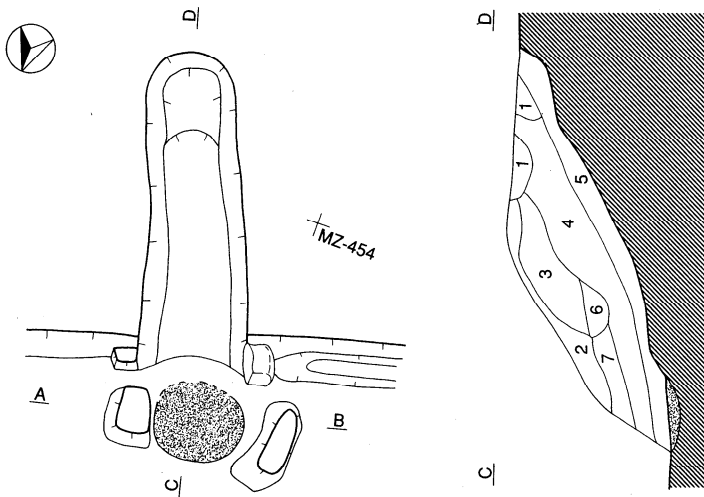
Pit2

第1層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物微量
第2層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/6)混入
第3層	褐色土	10YR4/6	(黄褐色土)微量



Pit3

第1層	暗褐色土	10YR3/4	褐色土(10YR4/6)・明黄褐色土(10YR6/8)混入 炭化物微量
第2層	黄褐色土	10YR5/6	にぶい黄褐色土(10YR5/4)混入 焼土粒微量
第3層	にぶい黄褐色	10YR5/3	黒褐色土(10YR2/2)・暗褐色土(10YR3/4)・ 黄褐色土(10YR5/6)混入

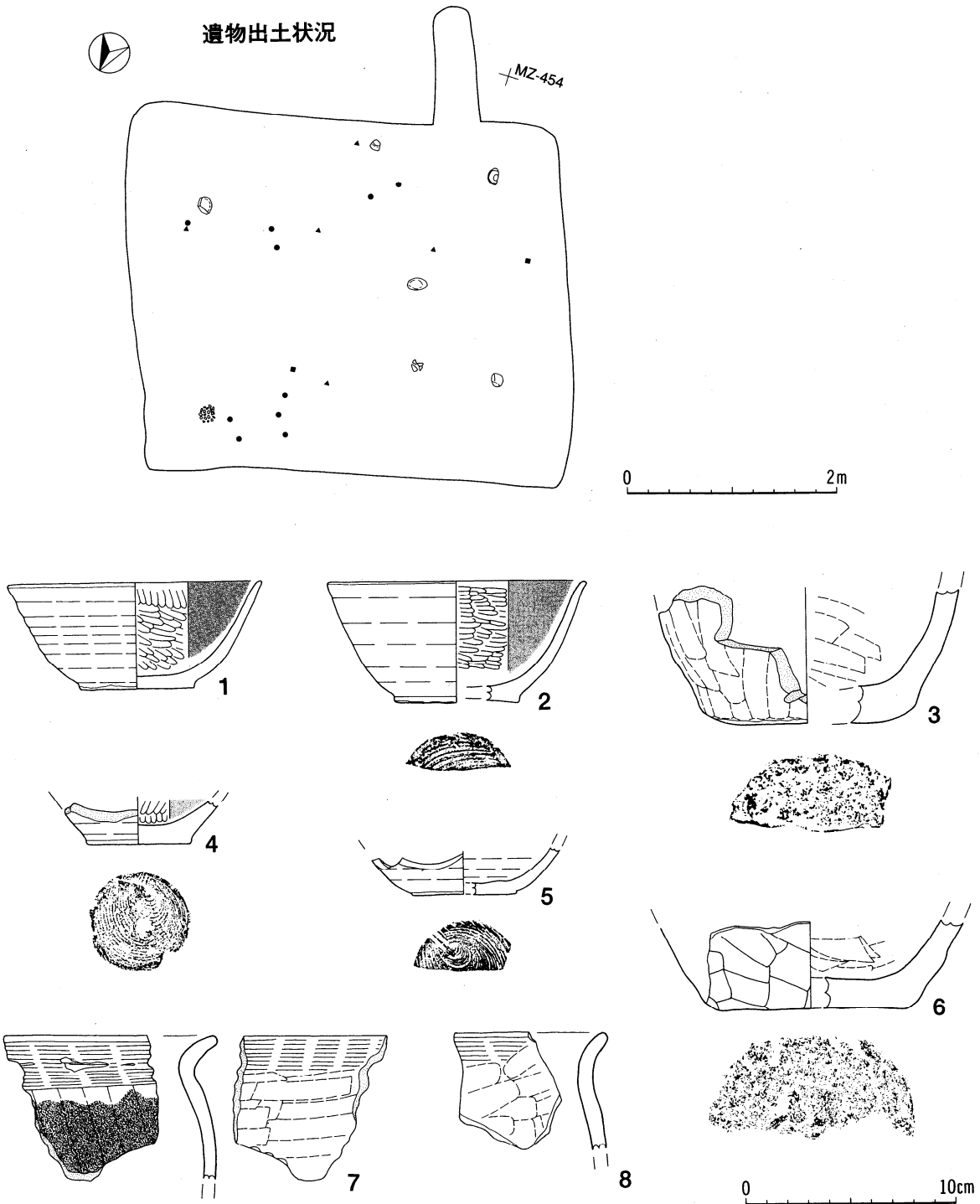


カマド

第1層	黄褐色土	10YR5/8	粘土層 焼土粒中量
第2層	暗褐色土	10YR3/4	炭化物微量
第3層	明黄褐色土	10YR6/8	
第4層	黒褐色土	10YR2/3	黒褐色土(10YR2/2)混入
第5層	黒褐色土	10YR2/2	焼土粒微量
第6層	黄橙色土	10YR7/6	黒褐色土(10YR2/2)混入
第7層	黒褐色土	10YR2/2	黄褐色土(10YR7/6)混入
第8層	明黄褐色土	10YR6/6	粘土層 黒褐色土(10YR2/2)混入

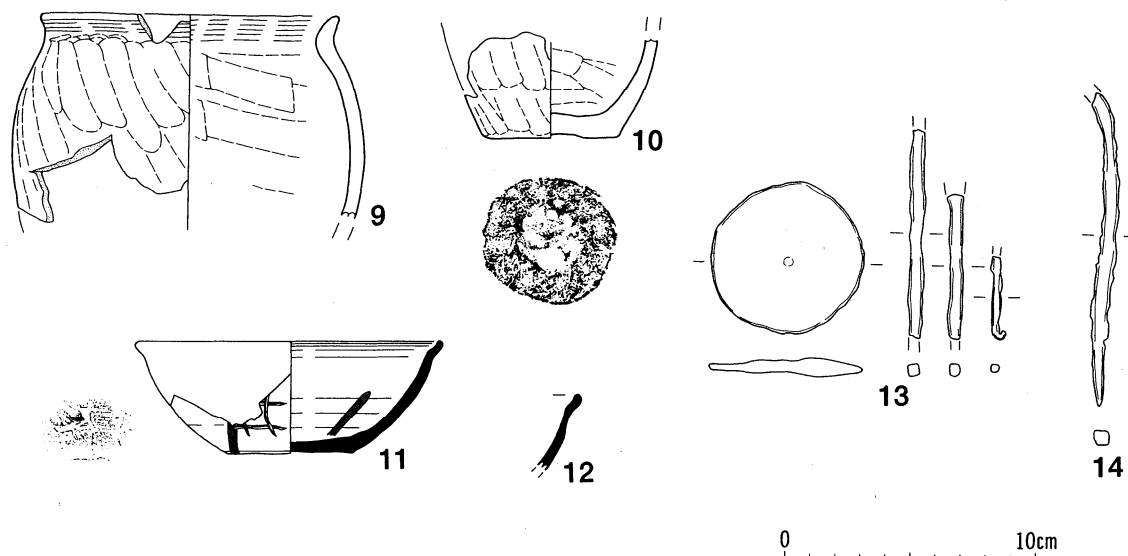
0 1m

図66 第324号竪穴住居跡(1)



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	床面	12.2	5.1	5.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転糸切り	B I b	内面黒色処理 P-16
2	土師器	坏	床直	(12.4)	(5.8)	(5.8)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	回転糸切り	B I b	内面黒色処理 P-9
3	土師器	甕	床面	—	(6.6)	(10.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	輪積痕 P-12, 13
4	土師器	坏	フク土	—	(2.0)	5.0	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	回転糸切り	B I	黒色処理
5	土師器	坏	床直	—	(2.2)	5.0	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II	P-11
6	土師器	甕	Pit1.1層 Pit1.2層	—	—	(9.8)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-14
7	土師器	甕	フク土	—	(6.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
8	土師器	甕	フク土	—	(5.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	

図67 第324号竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
9	土師器	甕	床面	(12.0)	(8.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-7
10	土師器	甕	床直	—	(4.2)	5.4	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ナツケ	A	P-6
11	須恵器	坏	床直	(12.0)	4.5	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	—	外面刻書 火だすき痕
12	須恵器	坏	貼床下 Pit1ク土	—	(3.1)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
13	床面	6.0	6.2	0.8	25.8	紡錘車	Fe-1
14	4層	14.0	0.8	0.6	5.0	棒状	Fe-1

図68 第324号竪穴住居跡出土遺物 (2)

第324号竪穴住居跡 (図66～図68)

[位置] 調査区中央部のMY・MZ-452～454グリッドに位置する。

[重複] 認められなかった。

[平面形・規模] 東側3m54cm、西壁3m45cm、南壁4m、北壁3m97cmで南東にややひろがる長方形ある。床面積は約12.68㎡で、主軸方位はN-166°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁44cm、西壁75cm、南壁45cm、北壁42cmで床面からやや急に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 西壁と北壁の一部に幅8～22cm、深さ3～7cmの周溝が検出された。

[ピット] 検出されたピットは5個である。いずれも柱穴とは考えられない。

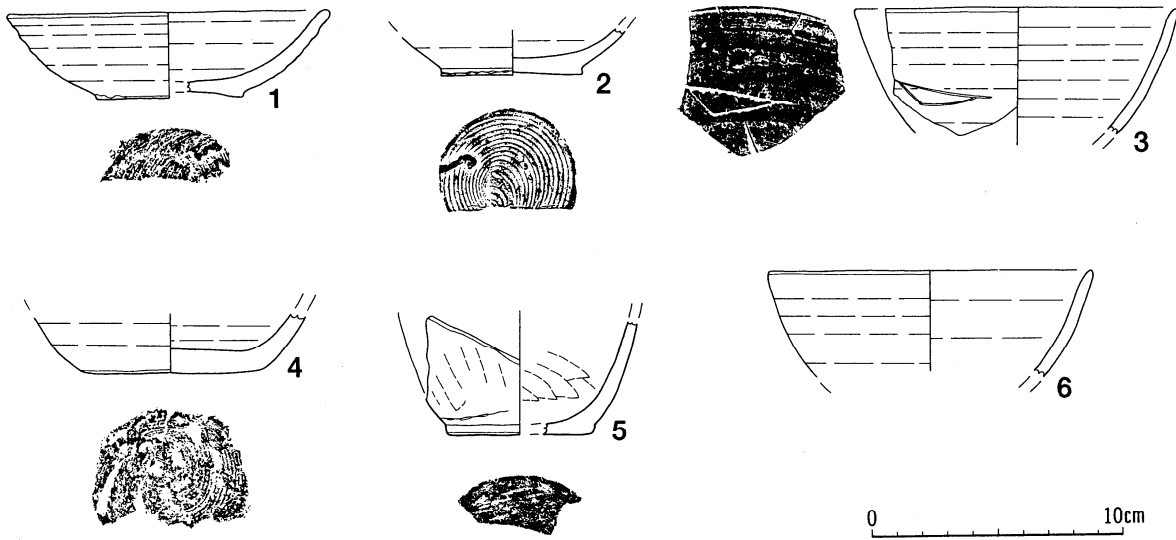
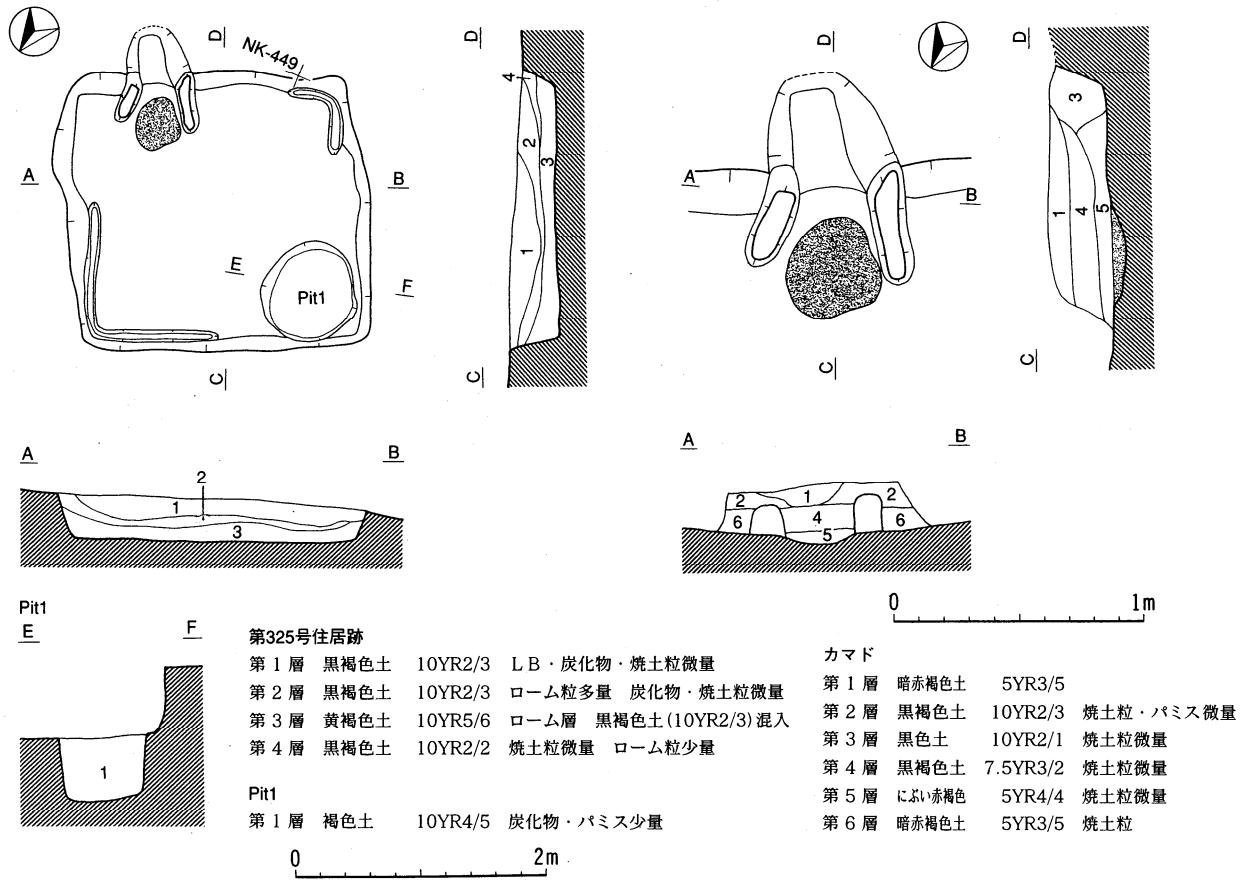
[カマド] 南壁西側に構築されている。煙道は半地下式で、住居跡外に120cmほど延び、煙道底面は煙出部に向かってやや急勾配に立ち上がる。

[堆積土] 堆積土は7層に分層され、黒褐色土主体の層である。

[出土遺物] 覆土から土師器や須恵器の坏、甕などのほか、床面から鉄製の紡錘車出土している。

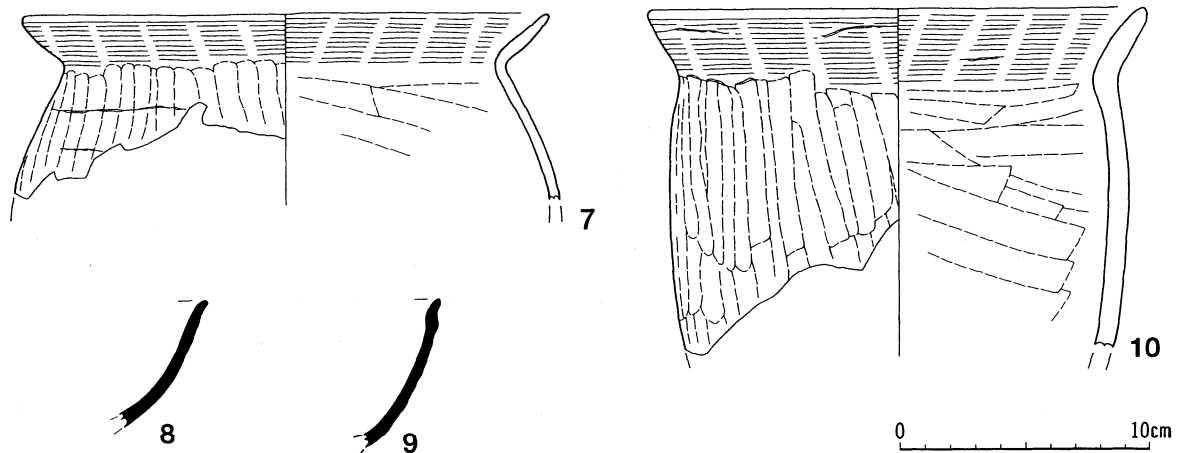
[時期] 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀中葉に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	皿	フク土	(13.0)	(3.4)	(5.9)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	糸切り	B II b	P-1
2	土師器	坏	フク土	—	(1.8)	(5.6)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	B II	
3	土師器	坏	フク土	(13.0)	(5.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	刻書
4	土師器	坏?	フク土	—	(2.4)	(6.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II	
5	土師器	鉢?	フク土	—	(4.8)	(4.8)	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ	ヘラ切り	A	
6	土師器	坏	フク土	(13.8)	(4.2)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ ヘラナデ	—	—	B II	

図69 第325号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
7	土師器	甕	フク土	(21.2)	(7.4)	—	ヨコナア	ヘラナア	—	ヨコナア	ヘラナア	—	—	AI	
8	須恵器	坏	フク土	—	(5.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	AI	内面 火だすき痕
9	須恵器	坏	フク土	—	(5.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	
10	土師器	甕	フク土	(20.0)	(13.6)	—	ヨコナア	ヘラナア	—	ヨコナア	ヘラナア	—	—	—	

図70 第325号竪穴住居跡出土遺物（2）

第325号竪穴住居跡（図69・図70）

〔位 置〕 調査区中央部のN J・NK-448・449グリッドに位置する。

〔重 複〕 認められなかった。

〔平面形・規模〕 東壁2 m10cm、西壁2 m12cm、南壁2 m16cm、北壁2 m32cmで、ほぼ方形である。床面積は4.39㎡で、主軸方位はN-142°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁25cm、西壁46cm、南壁26cm、北壁42cmでやや急に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

〔周 溝〕 幅8～12cm、深さ3～12cmの周溝が北東隅と南西隅に検出された。

〔ピット〕 検出されたピットは、北西隅に長軸80cm、短軸74cm、深さ50cmの1個で用途などについて不明である。

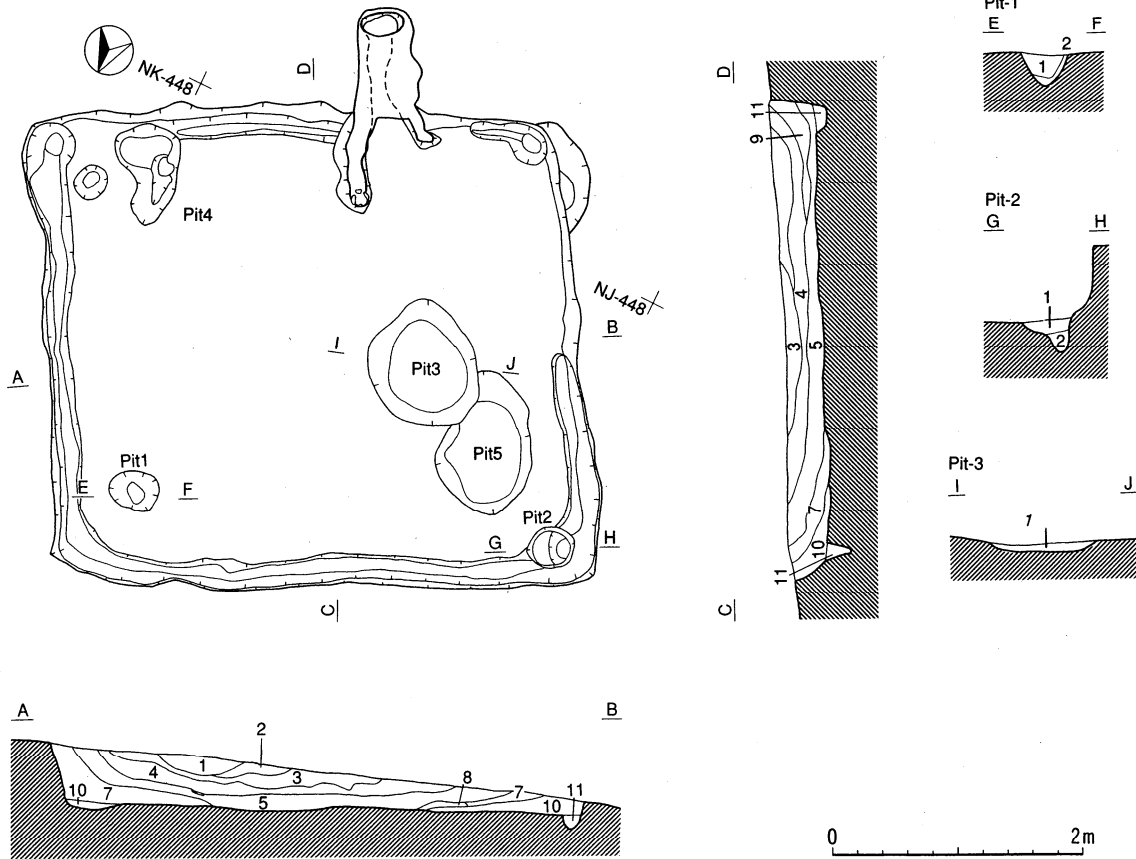
〔カマド〕 南壁東側に粘土を用いて構築されている。煙道は半地下式で住居跡外に40cmほど延びる。煙道底面は煙出部に向かって水平に掘り込まれ煙出部で急に立ち上がる。

〔堆積土〕 堆積土は黒褐色主体で、4層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から、土師器や須恵器の甕、坏などが出土している。

〔時 期〕 出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

（齋藤由美子）



第326号住居跡

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 火山灰混入 炭化物・焼土粒微量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物極微量
- 第3層 濃い黄褐色土 10YR4/3 砂質ローム層
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
- 第5層 黒褐色土 10YR3/2 炭化物・焼土粒微量
- 第6層 黒褐色土 10YR2/2 火山灰混入 炭化物・焼土粒微量
- 第7層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物少量 ローム粒・焼土粒微量
- 第8層 黄褐色土 10YR5/8 粘土質ローム層
- 第9層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物・焼土粒微量
- 第10層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物極微量
- 第11層 黒褐色土 10YR2/3 砂質ローム混入

Pit1

- 第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒中量
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 砂質ローム中量

Pit2

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒多量 しまりあり
- 第2層 褐色土 10YR4/4 粘土層 しまりあり

Pit3

- 第1層 黄褐色土 10YR5/6 暗褐色土(10YR3/3)混入 ローム粒多量

カマド

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物・焼土粒少量 しまりあり
- 第2層 明黄褐色土 10YR6/6 黒色土(10YR2/1)混入 焼土粒微量 しまりややあり
- 第3層 赤褐色土 5YR4/8 焼土層
- 第4層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・焼土粒少量 炭化物微量 しまりあり
- 第5層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒少量 焼土粒微量 しまりあり
- 第6層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・炭化物微量 しまりあり
- 第7層 褐色土 10YR4/4 炭化物・焼土粒少量
- 第8層 暗褐色土 10YR3/4 焼土粒少量
- 第9層 濃い黄褐色土 10YR4/3 炭化物・焼土粒微量
- 第10層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物・焼土粒微量

図71 第326号竪穴住居跡(1)

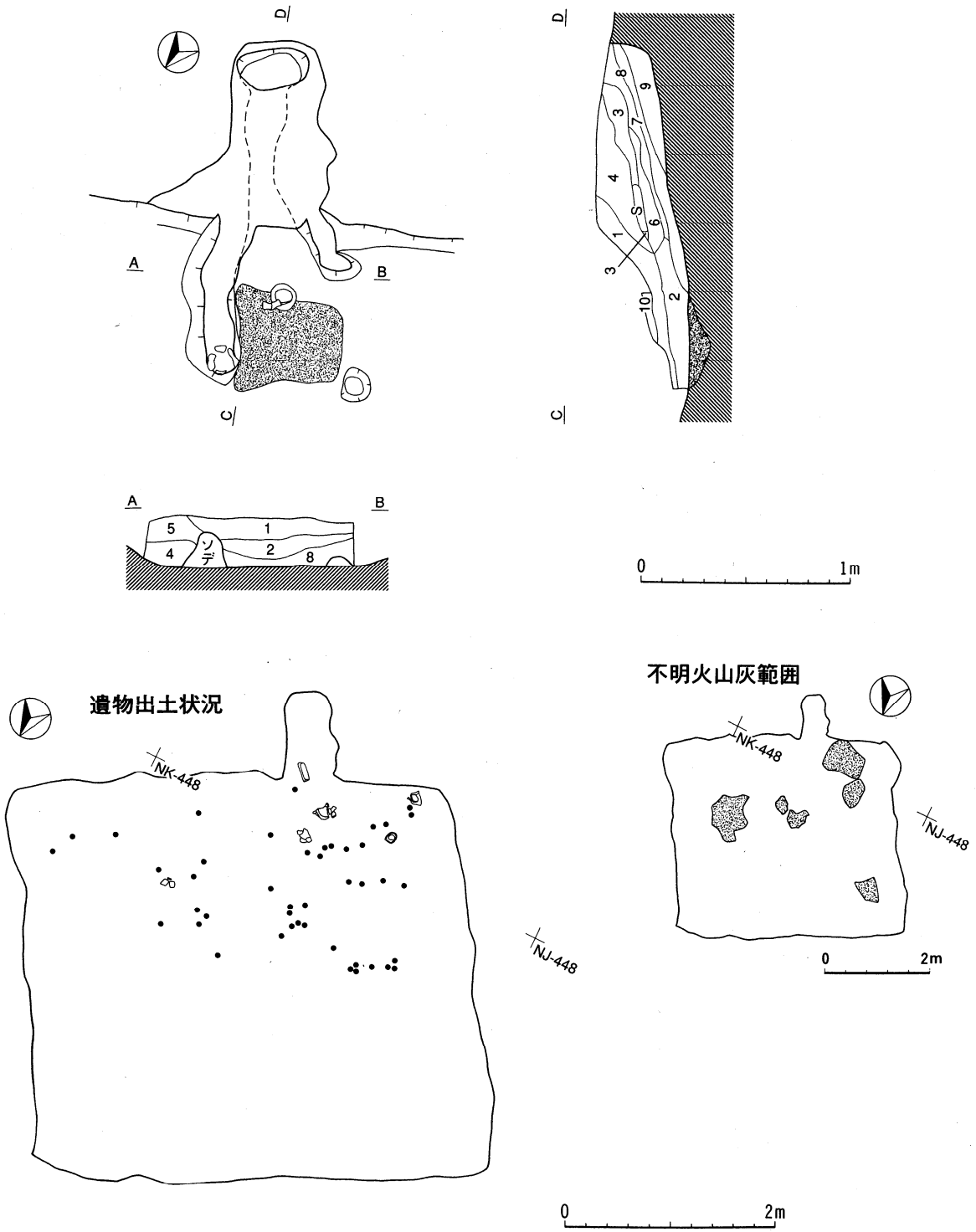
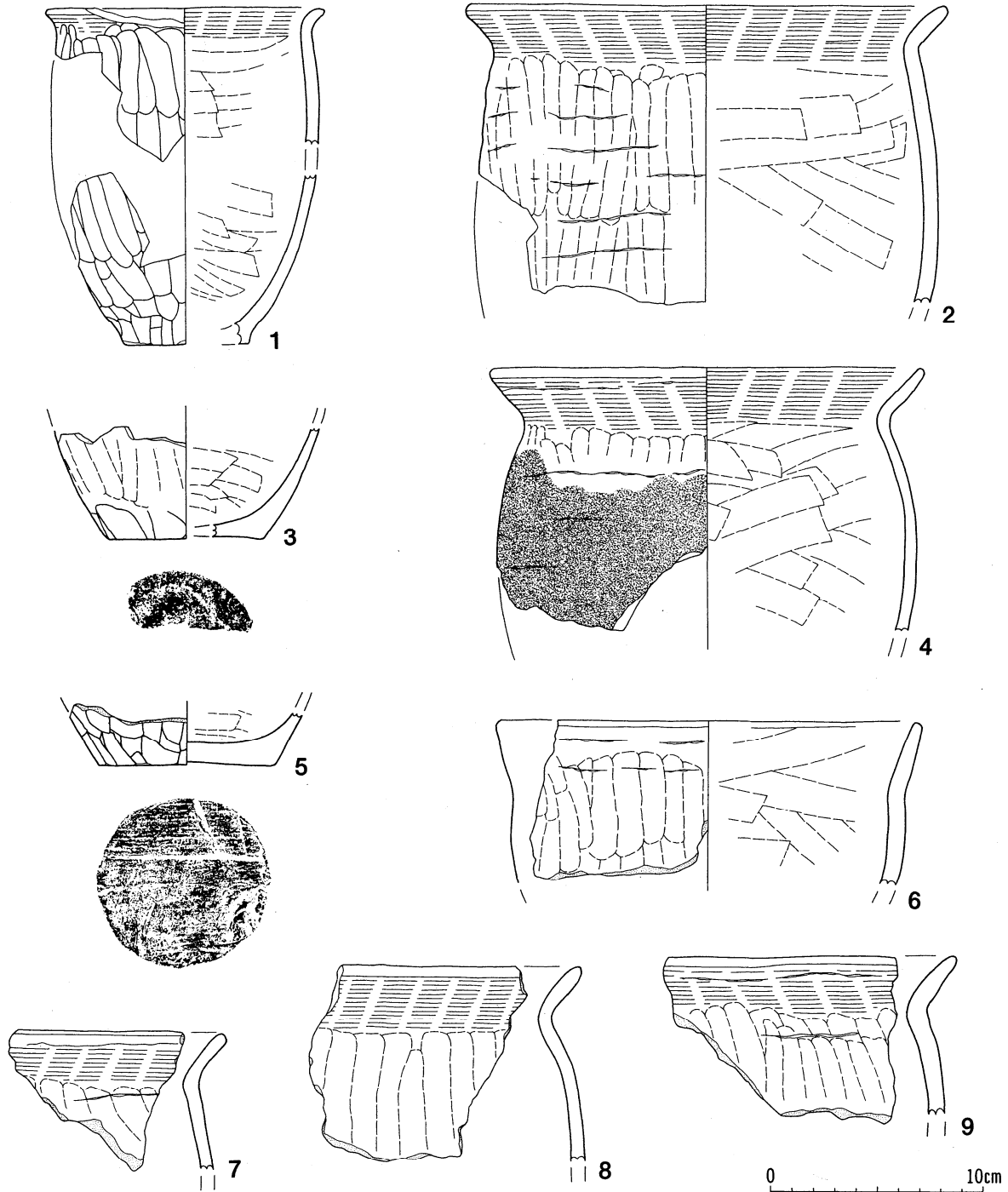
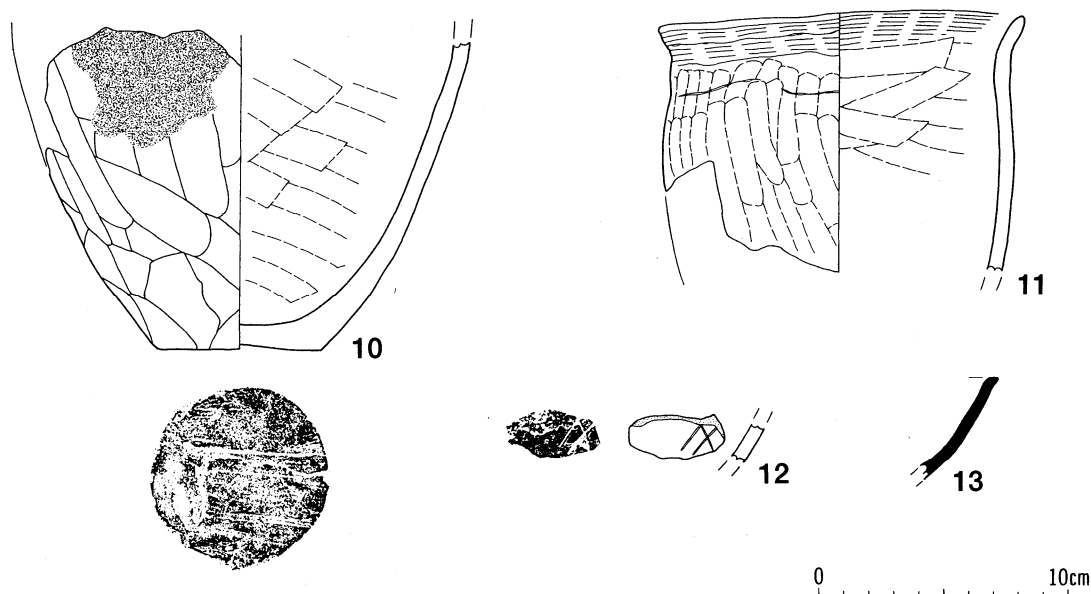


図72 第326号竪穴住居跡（2）



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	(15.0)	(15.6)	(6.4)	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	AIIe	P-9
2	土師器	甕	フク土	(22.6)	(13.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AI	P-35
3	土師器	甕	カドツ土	—	(5.3)	(7.0)	—	—	ヘラナデ ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラケズリ後 ナテツケ	A	磨減が激しい
4	土師器	甕	フク土	(20.4)	(12.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AI	外面粘土付着 P-47
5	土師器	甕	床面	—	(2.8)	8.4	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラケズリ後 ヘラナデ	A	P-4
6	土師器	甕	カドツ土	(20.0)	(7.5)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 P-2
7	土師器	甕	フク土	—	6.5	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 P-1
8	土師器	甕	フク土	—	(9.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-61
9	土師器	甕	フク土	—	(7.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-54

図73 第326号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計測値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
10	土師器	甕	カマド7社	—	(13.8)	6.8	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナア	ナデツケ	A	外面粘土付着 P-1, 6
11	土師器	甕	カマド7社	(14.5)	(10.0)	—	ヨコナア	ヘラナア	—	ヨコナア	ヘラナア	—	—	A	外面輪轍痕
12	土師器	坏	カマド7社	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	BII	刻書
13	土師器	坏	フク土	—	(4.1)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	P-3

図74 第326号竪穴住居跡出土遺物 (2)

第326号竪穴住居跡 (図71～図74)

[位置] NI・NK-447・448グリッドに位置する。

[重複] 認められなかった。

[平面形・規模] 東壁3m55cm、西壁3m70cm、南壁4m40cm、北壁4m35cmでほぼ長方形である。床面積は15.49㎡で、主軸方位はN-15°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁7cm、西壁52cm、南壁36cm、北壁26cmで床面から急に立ち上がる。床面はやや起伏がみられる。

[周溝] 幅14～31cm、深さ3～25cmの周溝が、西壁中央部の一部を除き、ほぼ一巡する。

[ピット] ピットは8個検出された。北東隅に長軸40cm、短軸30cm、深さ22cmのピット (ピット1)、北西隅に長軸36cm、短軸32cm、深さ26cmのピット (ピット2)、住居中央から西側に長軸100cm、短軸84cm、深さ8cmのピット (ピット3) を検出した。柱穴はピット1、2、6、8と考える。

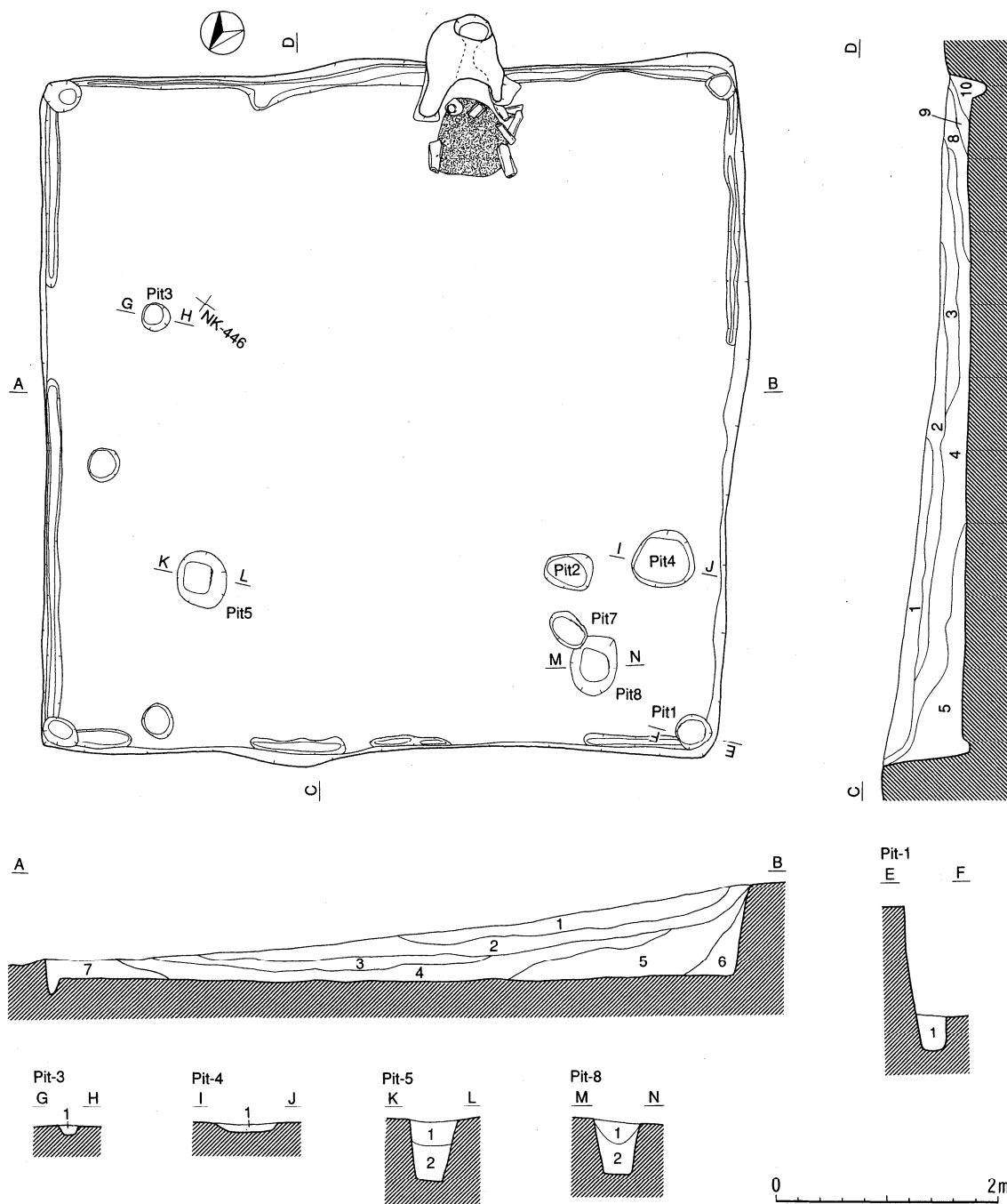
[カマド] カマドは、南壁西側に構築されている。土師器を芯材としてこの上に粘土を覆って本体を築いている。焚口部には土師器を伏せた状態に置き、支脚としている。煙道は半地下式で住居跡外に84cmほど延びる。煙道底面は煙出部に向かって緩やかに立ち上がる。

[堆積土] 堆積土は11層に分層され、1、6層に火山灰 (不明) が堆積する。

[出土遺物] 覆土から土師器の甕や坏が出土している。

[時期] 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考える。

(齋藤由美子)

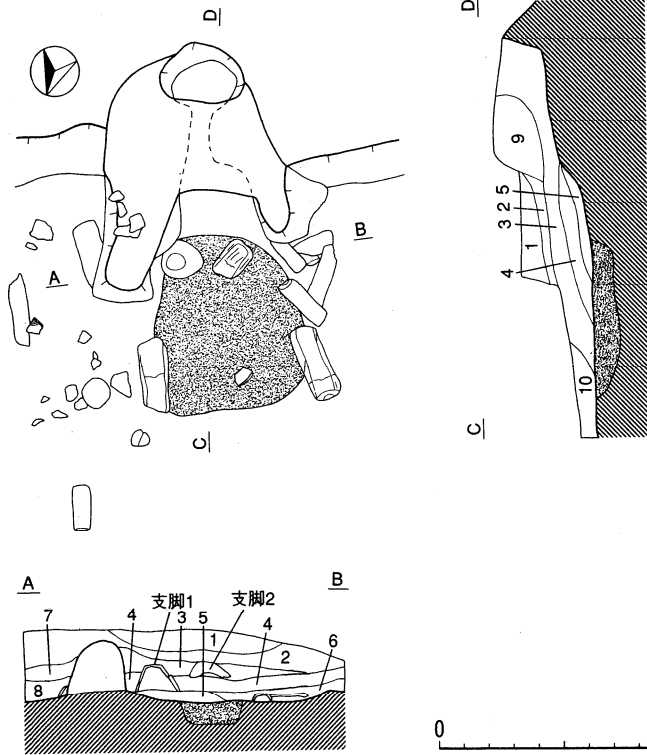


第327号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・炭化物微量 しまりあり
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 にぶい黄褐色土(10YR5/4)混入 炭化物微量 しまりあり
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 にぶい黄褐色土(10YR5/4)混入 ローム粒・炭化物微量
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・炭化物微量 しまりあり
- 第5層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・炭化物微量 しまりあり
- 第6層 黒褐色土 10YR2/3 暗褐色土(10YR3/4)混入
- 第7層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒微量
- 第8層 黒褐色土 10YR2/3 パミス・炭化物・焼土粒微量 しまりあり
- 第9層 褐色土 10YR4/4 パミス微量 しまりあり
- 第10層 黒褐色土 10YR2/2 パミス・炭化物・焼土粒微量 しまりあり

- Pit1 第1層 黒褐色土 10YR2/3
- Pit3 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・炭化物微量
- Pit4 第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒微量
- Pit5 第1層 褐色土 10YR4/4 炭化物微量
第2層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒微量
- Pit8 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・炭化物微量
第2層 褐色土 10YR4/5

図75 第327号竪穴住居跡(1)



カマド

第1層	褐色土	10YR4/4	パミス・炭化物・焼土粒微量
第2層	褐色土	10YR4/5	パミス・炭化物微量
第3層	褐色土	10YR4/5	パミス・炭化物・焼土粒微量
第4層	暗赤褐色土	5YR3/5	ローム粒少量 炭化物微量
第5層	褐色土	10YR4/5	ローム粒・炭化物・焼土粒微量
第6層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒・炭化物微量
第7層	褐色土	10YR4/5	焼土粒微量
第8層	黒褐色土	10YR2/3	黄褐色土(10YR5/5)混入
第9層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物微量
第10層	暗褐色土	10YR3/4	パミス微量

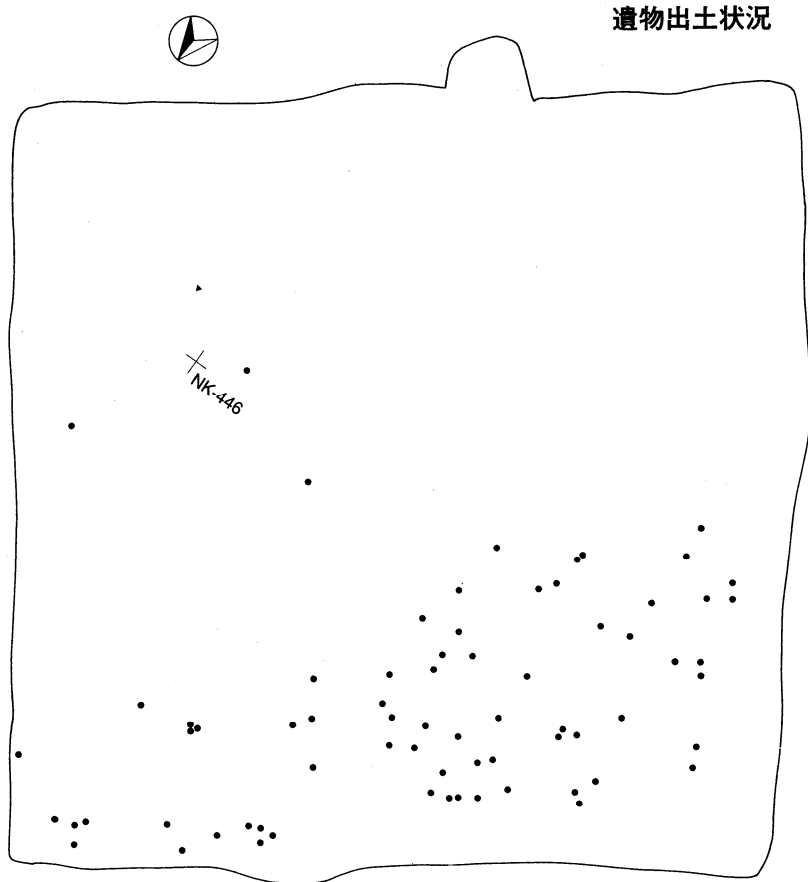
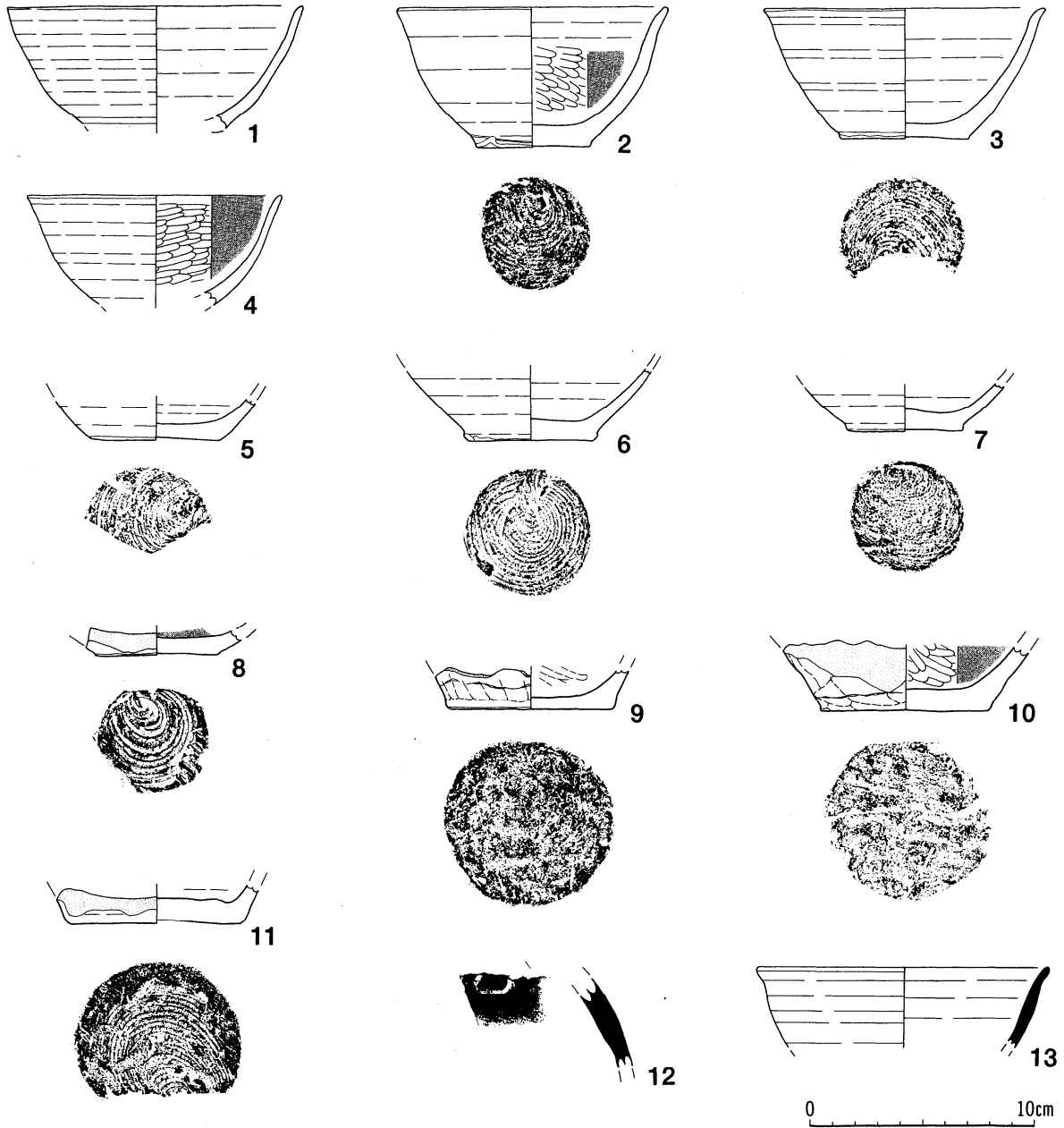
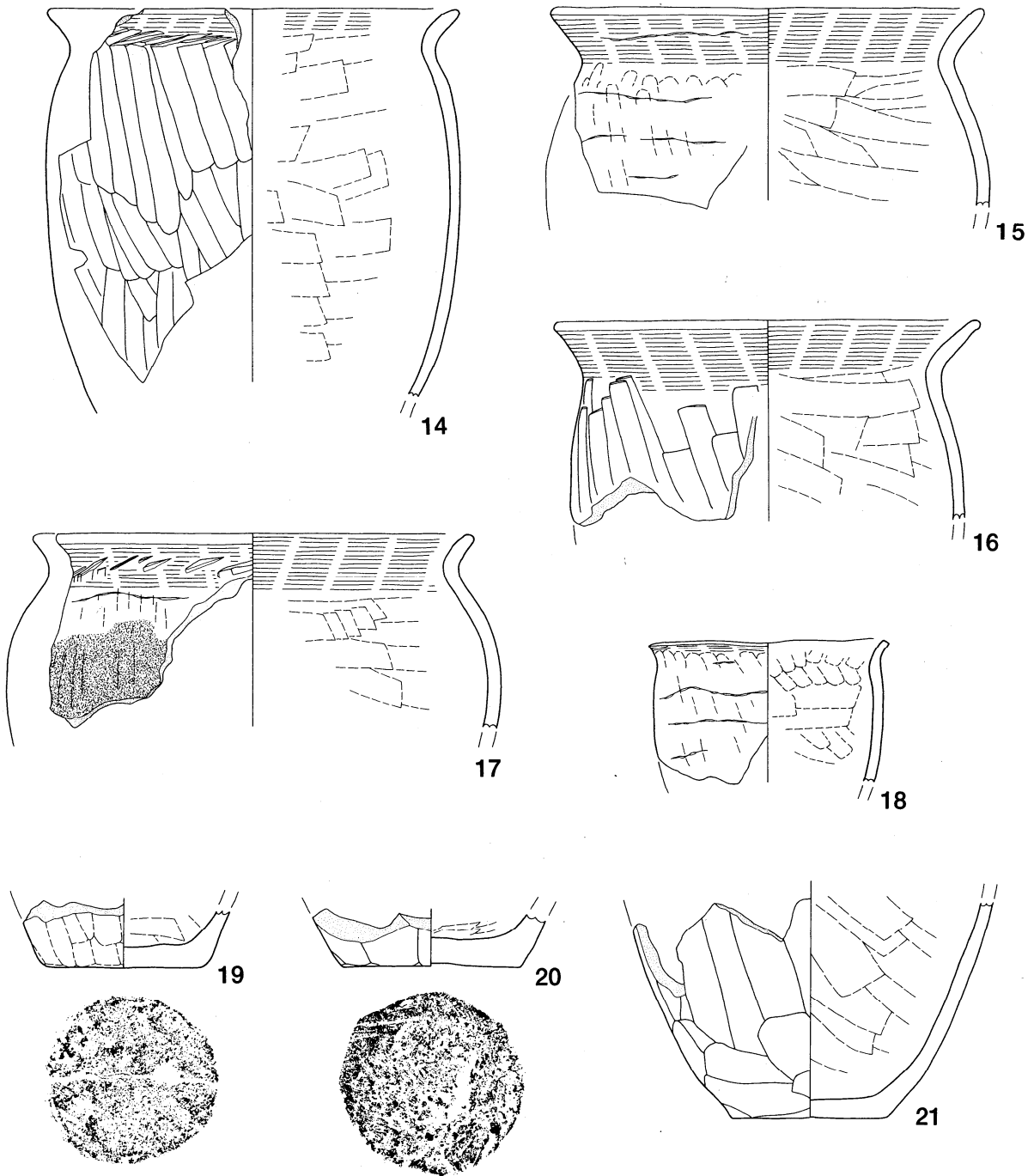


図76 第327号竪穴住居跡(2)



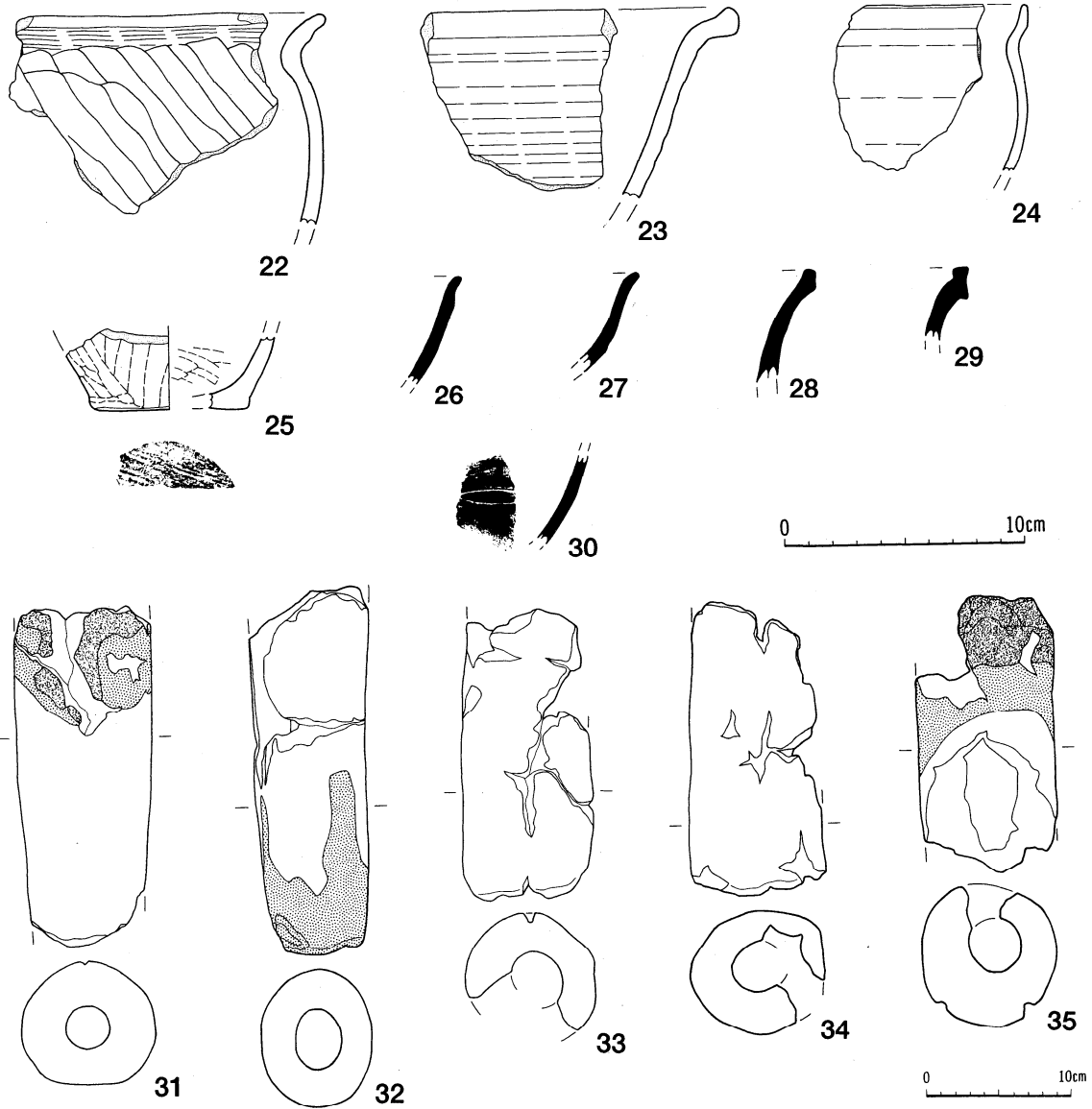
図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計測値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	ピット ³ フク土	(13.4)	(5.6)	—	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	—	B II	
2	土師器	坏	フク土	12.0	5.0	6.2	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転糸切り	B I a	P-2
3	土師器	坏	フク土	(12.6)	5.9	(5.6)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II b	P-104
4	土師器	坏	フク土	(11.4)	—	(5.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	B I	内面黒色処理 P-7
5	土師器	坏	フク土	—	(1.8)	(5.6)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	B II	P-45
6	土師器	坏	フク土	—	5.6	(3.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II	P-2
7	土師器	坏	フク土	—	(2.2)	5.2	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II	
8	土師器	坏	フク土	—	(6.0)	(1.1)	—	—	—	—	—	ヘラミガキ	回転糸切り	B I	内面黒色処理
9	土師器	壺	フク土	—	(1.8)	7.4	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラ切り後 ナデツケ	A	
10	土師器	壺	フク土	—	(3.1)	7.4	—	—	ヘラナデ	—	—	ミガキ	ナデツケ	A	外面輪痕, 内面黒色処理 P-103, 外面剥落
11	土師器	壺	フク土	—	(1.7)	(7.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り後 ヘラナデ	B	
12	須恵器	壺	床直	—	(4.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	外面刻書
13	須恵器	坏	フク土	(13.0)	(3.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	

図77 第327号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計測値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
14	土師器	甕	カマドノ土 床直	(19.2)	(18.2)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AI	輪痕み痕 P-128
15	土師器	甕	フク土	(20.2)	(9.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AI	P-111
16	土師器	甕	フク土	(20.0)	(9.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AI	P-6
17	土師器	甕	カマドノ土	(20.6)	(9.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AI	外面粘土付着
18	土師器	甕	床直	(11.2)	(6.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	AIII	P-125
19	土師器	甕	フク土	—	(3.1)	7.4	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
20	土師器	甕	フク土	—	(2.7)	(8.4)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底→ ナデツケ	A	P-64
21	土師器	甕	カマドノ土	—	(10.0)	7.0	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	A	支脚

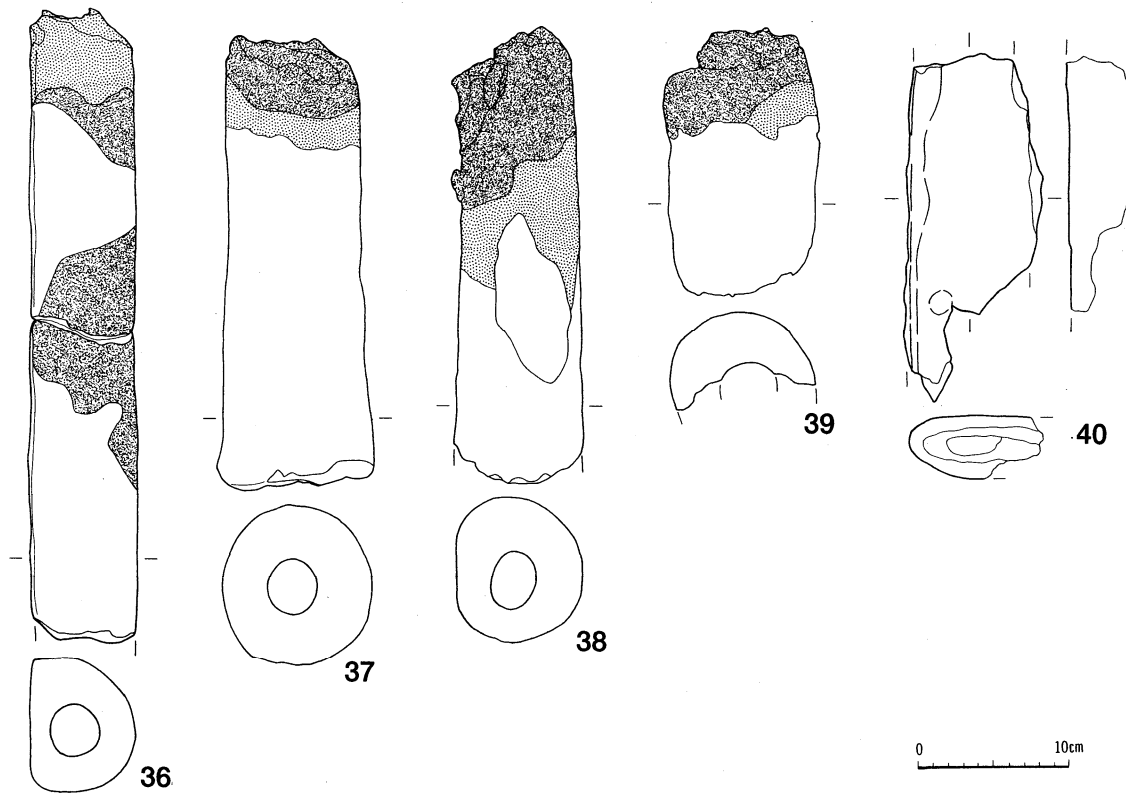
図78 第327号竪穴住居跡出土遺物(2)



図版番号	種 類	器 種	出土層位	計測値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
22	土師器	甕	カマド7社	—	(8.3)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-22
23	土師器	鳩?	フク土	—	(7.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	P-6
24	土師器	甕	フク土	—	(6.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	
25	土師器	甕	フク土	—	(3.1)	7.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-72
26	須恵器	坏	フク土	—	(4.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	外面火だすき痕
27	須恵器	坏	フク土	—	(4.1)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	
28	須恵器	壺	フク土	—	(4.6)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
29	須恵器	壺	床直	—	(3.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
30	須恵器	坏	フク土	—	(3.8)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	外面刻書、火だすき痕

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分 類	調 整	備 考
		長さ	外径	内径				
31	カマドフク土	(23.5)	9.3×8.6	3.1	(1580)	B		羽口-3
32	カマドフク土	(25.5)	7.7×9.5	3.3×4.3	(1470)	B	ナデ、ケズリ	羽口-1・2・9 砂粒多量
33	カマドフク土	(20.1)	(9.0)×(8.1)	—	(864)	B	ナデ	羽口-7
34	フク土	(20.4)	(9.3)×8.6	—	(880)	C		P-10
35	カマドフク土	(19.2)	9.4×(9.7)	—	(912)	B		羽口-10

図79 第327号竪穴住居跡出土遺物 (3)



図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
36	カマドフク土	(42.1)	9.0×7.0	3.3×3.6	(2,575)	C	ナデ	P-6, 9
37	カマドフク土	30.2	10.0×10.5	3.3	2,810	B	ヘラキズ	羽口-4 砂粒多量
38	カマドフク土	(30.5)	8.5×9.6	3.0×3.9	(2,022)	B		羽口-5 砂粒多量
39	カマドフク土	(17.8)	(9.7)×(6.5)	—	(650)	B		支脚-2

図版番号	種類	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	特徴	備考
			長さ	幅	厚さ			
40	焼成粘土板	カマドフク土	(22.5)	(9.1)	4.1	710	粘土を重ねて ヘラで調整	

図80 第327号竪穴住居跡出土遺物 (4)

第327号竪穴住居跡 (図75～図80)

[位置] NI～NK-445～447グリッドに位置する。

[重複] 認められなかった。

[平面形・規模] 東壁5m98cm、西壁6m32cm、南壁6m20cm、北壁6m2cmのほぼ方形である。床面積は37.18㎡で、主軸方位はN-142°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁13cm、西壁55～100cm、南壁28cm、北壁67cmでほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 幅6～14cm、深さ3～25cmの周溝が断片的に検出された。

[ピット] 検出されたピットは12個である。

[カマド] カマドは、南壁西側に構築されている。羽口を芯材としてこの上に粘土を覆って築いている。焚口部には土師器の坏が2つ伏せた状態で置かれ、支脚としている。煙道は半地下式で住居跡外に36cmのびる。煙道底面は、煙出部に向かって緩やかに立ち上がる。

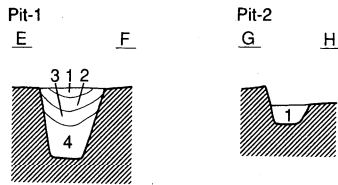
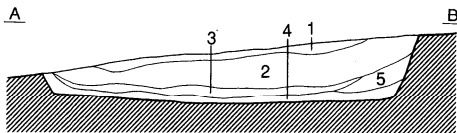
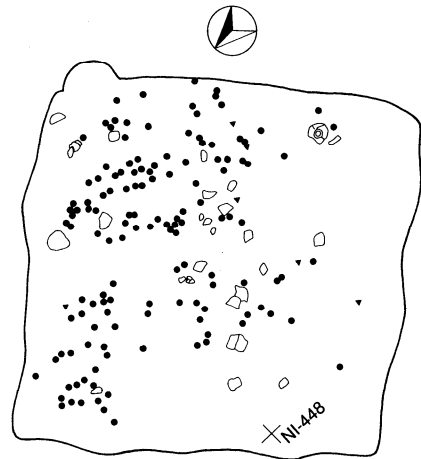
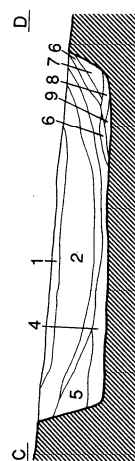
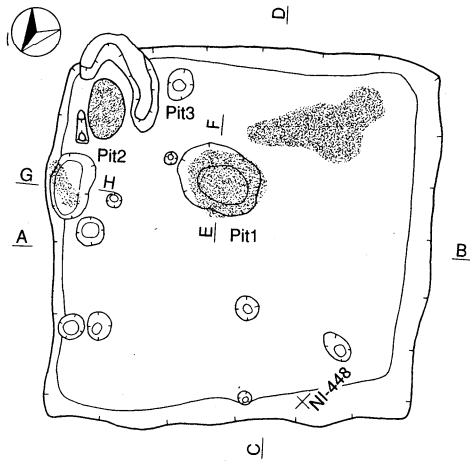
[堆積土] 堆積土は10層に分層される。

[出土遺物] 覆土から土師器の甕や坏、埴、須恵器の坏、壺、羽口、焼成粘土板（図80-40）などが出土している。

[時 期] 出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

(齋藤由美子)

遺物出土状況



0 2m

第328号住居跡

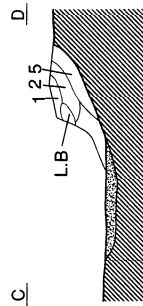
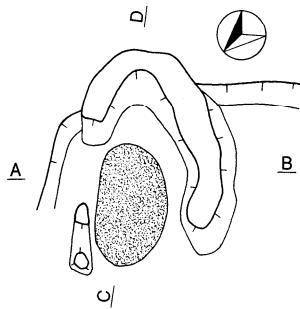
- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量
- 第2層 黒褐色土 10YR3/1 T o - a 混入 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物・焼土粒多量 ローム粒少量
- 第4層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・炭化物・焼土粒中量
- 第5層 褐色土 10YR4/4 ローム粒中量
- 第6層 黄褐色土 10YR5/8 ローム粒少量
- 第7層 黒色土 10YR2/1 ローム粒・炭化物少量
- 第8層 赤褐色土 10YR4/3 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
- 第9層 黄褐色土 5YR4/6 焼土層 ローム粒少量

Pit1

- 第1層 赤褐色土 5YR4/8 焼土層 ローム粒・炭化物少量
- 第2層 黒色土 10YR2/1 炭化物中量 ローム粒・焼土粒少量
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
- 第4層 褐色土 10YR4/4 ローム粒・L B・炭化物・焼土粒少量

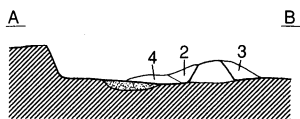
Pit2

- 第1層 暗褐色土 7.5YR3/3 焼土粒中量 ローム粒・炭化物少量



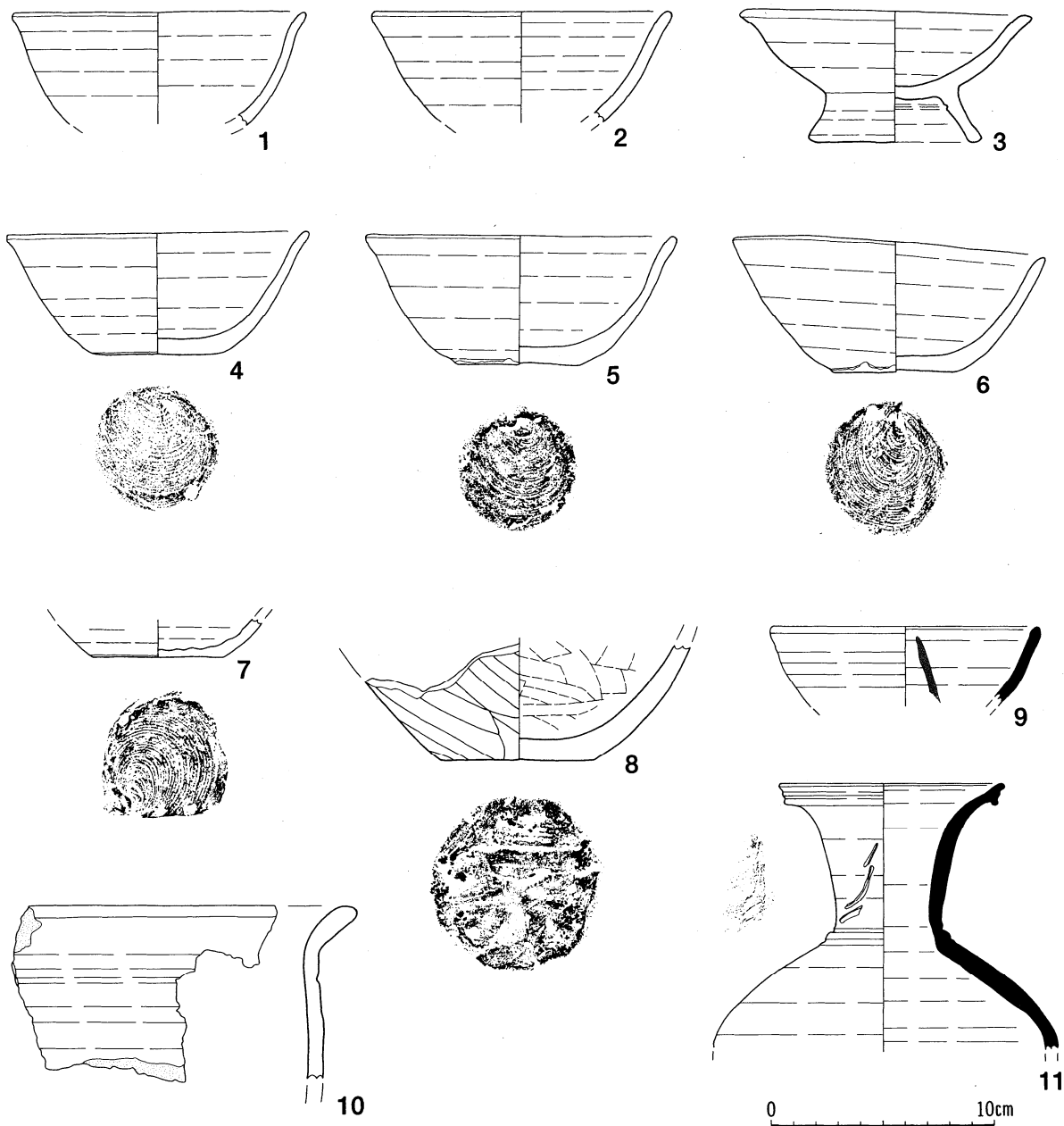
カマド

- 第1層 明黄褐色土 10YR6/6
- 第2層 赤褐色土 5YR4/8 焼土層 ローム粒少量
- 第3層 暗褐色土 10YR3/4 焼土粒多量 ローム粒・炭化物少量
- 第4層 暗赤褐色土 5YR3/6 暗褐色土(10YR3/4)混入
ローム粒・炭化物少量
- 第5層 暗褐色土 10YR3/3 焼土粒多量 ローム粒少量



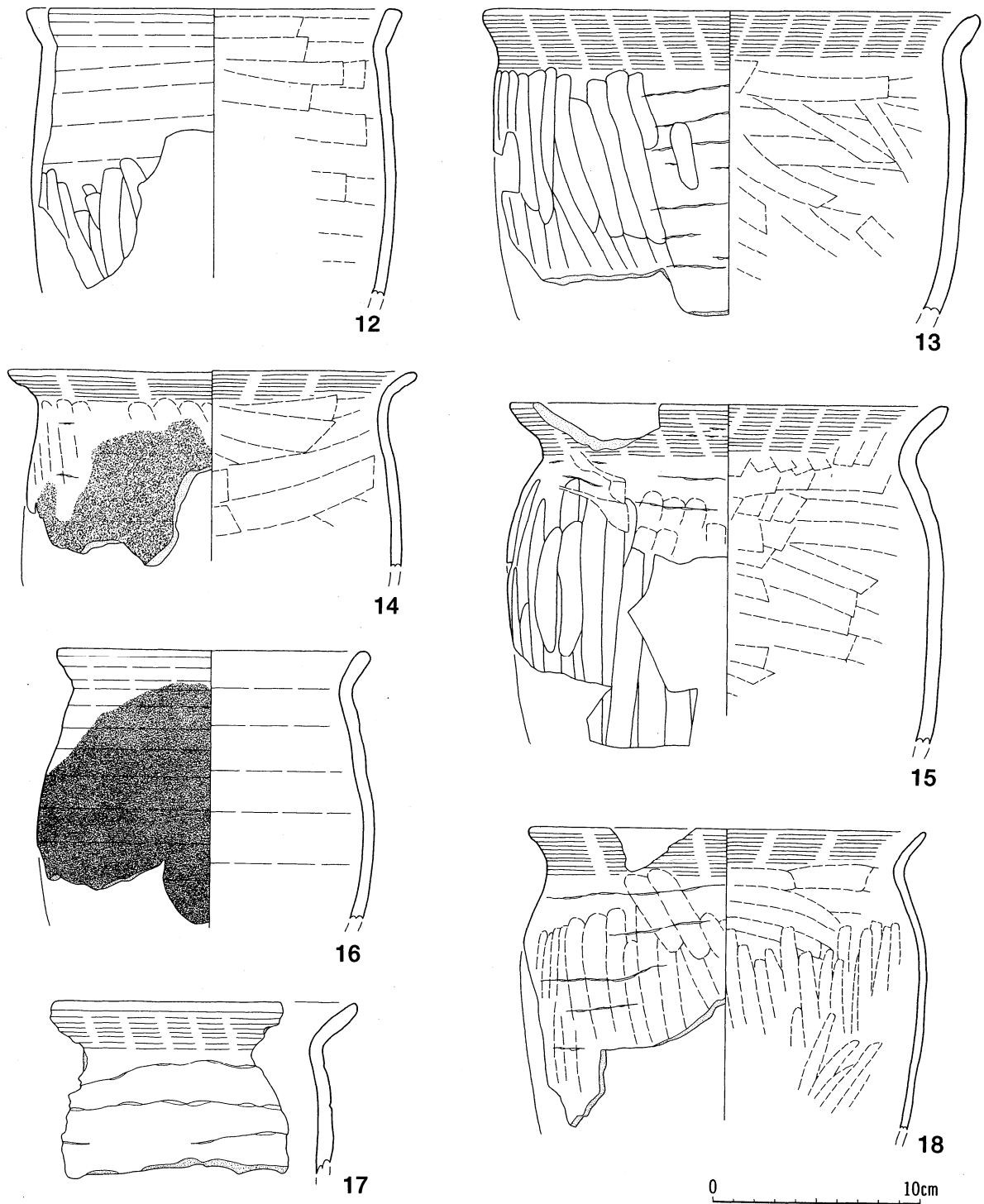
0 1m

図81 第328号竪穴住居跡



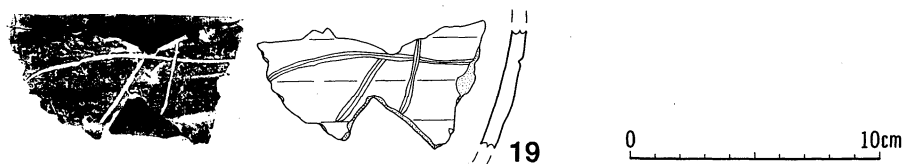
図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土床面	(12.8)	(4.7)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	P-142
2	土師器	坏	フク土	(13.6)	(5.2)	—	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	—	B II	P-82, 158, 168
3	土師器	高台付坏	床面	(13.3)	7.6	5.6	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	—	—	口縁部と内面底部に粘土澱が付いたまま焼成 P-186
4	土師器	坏	フク土	13.6	5.4	5.8	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II b	P-70
5	土師器	坏	フク土床面	(14.0)	(5.8)	5.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II b	P-138, 142
6	土師器	坏	フク土	(14.1)	6.1	5.7	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II b	P-122, 123
7	土師器	坏	フク土	—	(1.7)	(6.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II	
8	土師器	埴	フク土	(24.0)	(14.4)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	—	輪積み痕 P-46, 56, 80, 167
9	須恵器	坏	カマド	(12.0)	(3.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内面火だすき痕 P-190
10	土師器	埴	フク土	—	(7.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	P-133
11	須恵器	長頸壺	フク土	(10.0)	(11.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	外面刻書 肩部に陸帯

図82 第328号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
12	土師器	甕	フク土	(19.2)	(13.6)	—	ロクロ	ロクロ ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	B	P-21, 40, 146, 203
13	土師器	甕	フク土	(24.0)	(14.4)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積み痕 P-46, 56, 80, 162
14	土師器	甕	フク土	(19.8)	(9.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面粘土付着 P-77, 81, 101, 126
15	土師器	甕	フク土	(20.2)	(15.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積み痕 P-62, 86, 162, 143
16	土師器	甕	フク土	(16.0)	(13.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	外面剥離炭化物多量付着 P-152, 161
17	土師器	甕	フク土	—	(8.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積み痕 P-165
18	土師器	甕	フク土	(19.0)	(14.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積み痕 P-133

図83 第328号竪穴住居跡出土遺物 (2)



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計測値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
19	土師器	甕	フク土	—	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	BⅡ	ヘラ書き刻書 P-181

図84 第328号竪穴住居跡出土遺物（2）

第328号竪穴住居跡（図81～図84）

〔位 置〕 調査区中央部のNH・NI-447・448グリッドに位置する。

〔重 複〕 認められなかった。

〔平面形・規模〕 東壁2m97cm、西壁2m93cm、南壁2m75cm、北壁2m79cmでほぼ方形である。床面積は約7.19㎡で、主軸方位はN-137°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁20cm、西壁50cm、南壁30cm、北壁50cmで、床面からやや急に立ち上がる。床面はやや起伏がみられる。

〔周 溝〕 検出されなかった。

〔ピット〕 検出されたピットは11個である。ピット1は住居跡のほぼ中央に長軸70cm、短軸52cm、深さ56cmの楕円形のピットで、覆土中に焼土を含んでいる。ピット2は、東壁際に長軸52cm、短軸32cm、深さ16cmの楕円形である。いずれも柱穴とは考えらず、用途などについては不明である。

〔カマド〕 南壁東側に構築されている。煙道は短い半地下式で、住居跡外に20cmほど延び、底面は緩やかに立ち上がる。

〔堆積土〕 堆積土は9層に分層され、2層にT o - a火山灰がブロック状に混入している。

〔出土遺物〕 覆土から床面にかけて遺物が多量に出土している。（図81）土師器の坏や甕のほか須恵器の坏などが主なものである。

〔時 期〕 火山灰の堆積状況や出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

（中嶋友文）

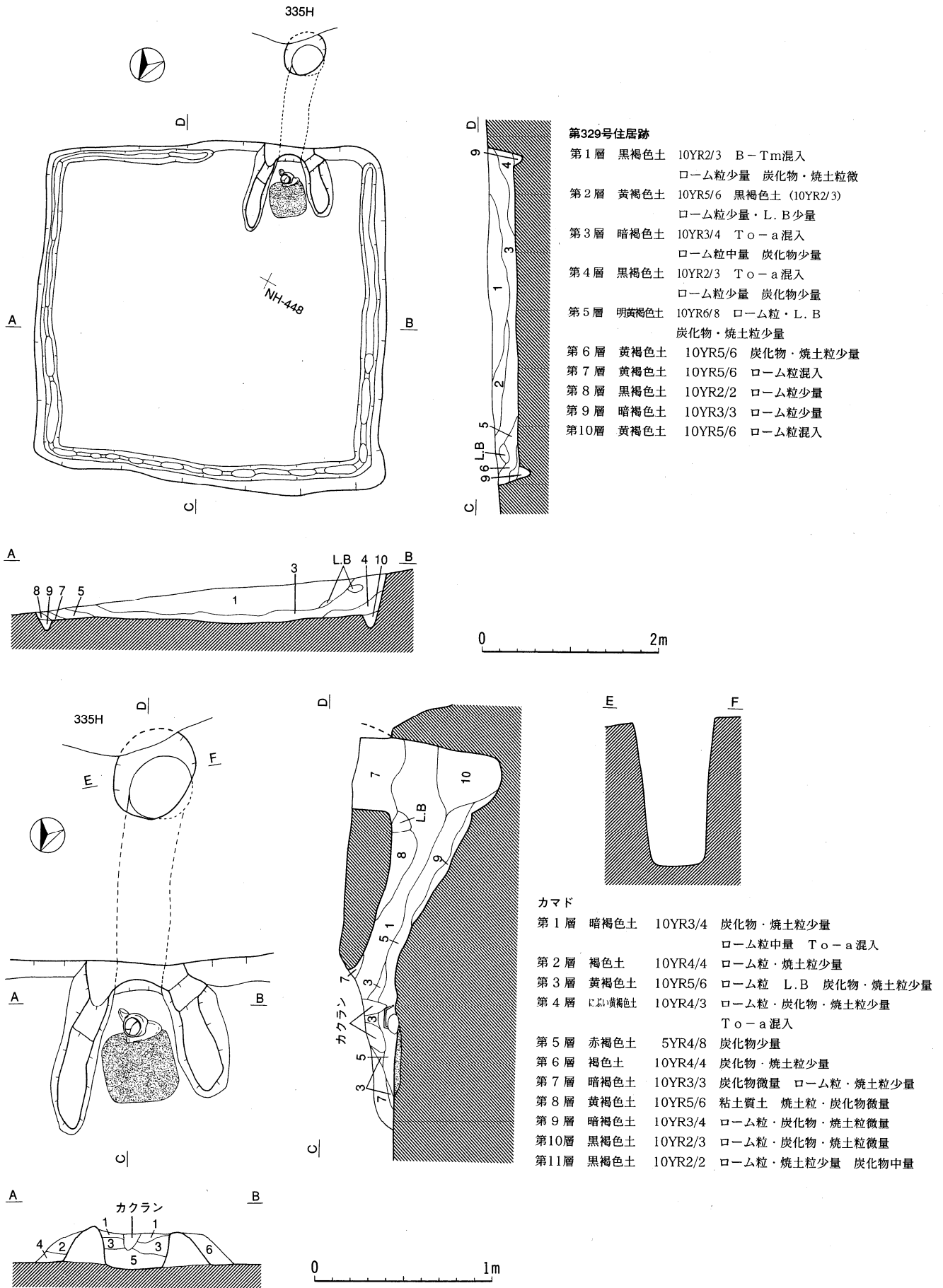
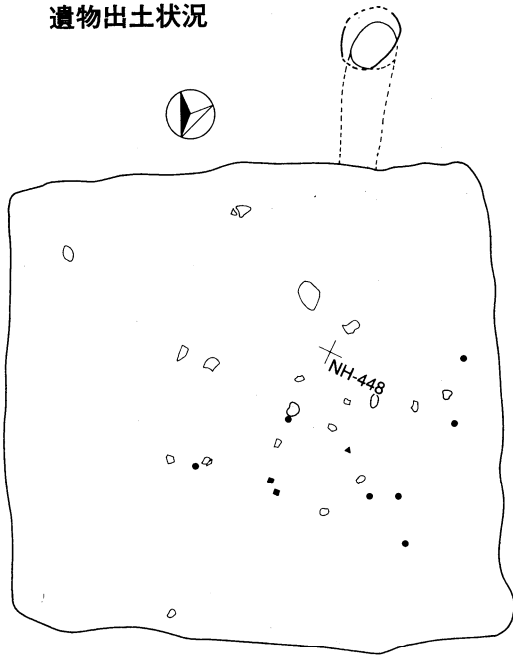
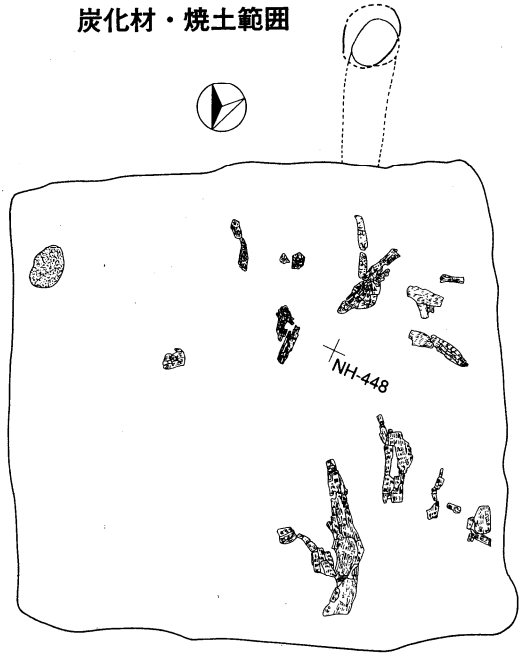


図85 第329号竪穴住居跡 (1)

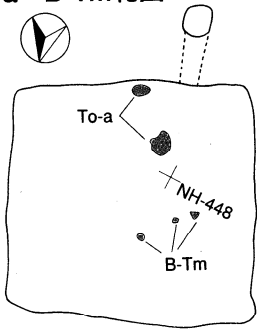
遺物出土状況



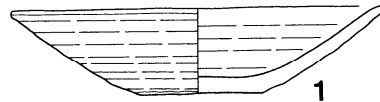
炭化材・焼土範囲



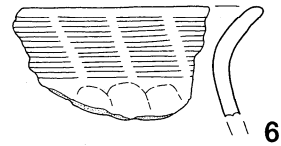
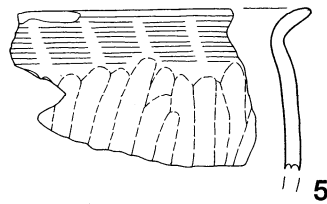
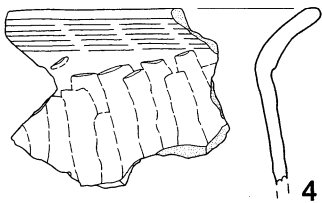
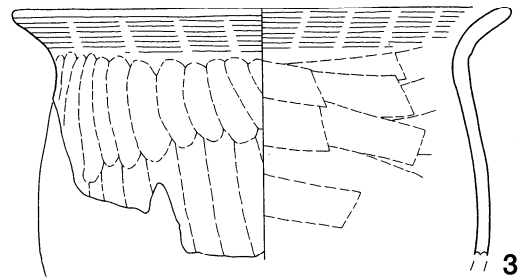
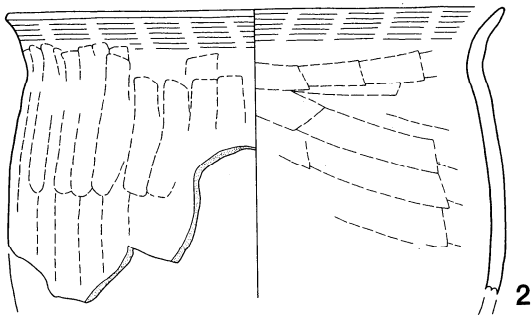
To-a・B-Tm範囲



0 2m

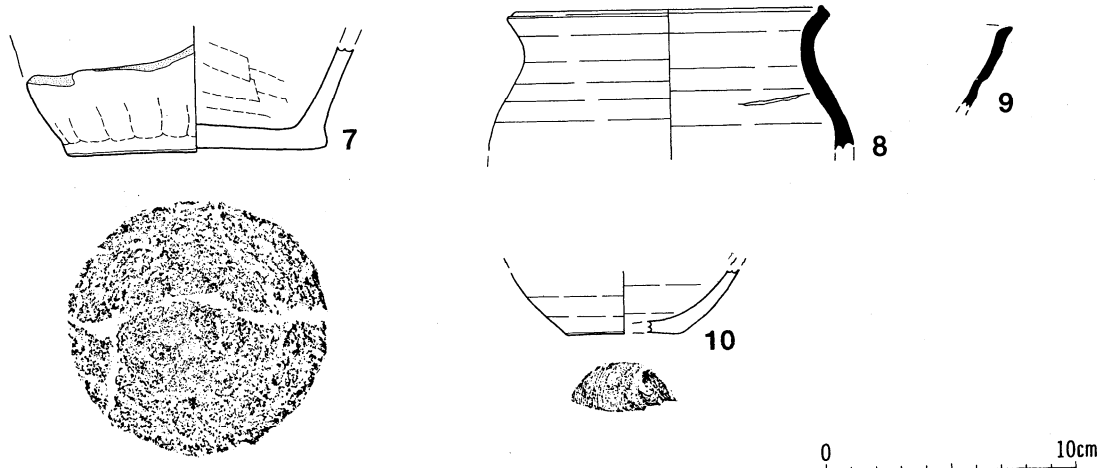


0 2m



0 10cm

図86 第329号竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	—	(2.5)	(4.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡb	P-14
2	土師器	甕	フク土	(20.0)	(11.4)	—	ナデ	ヘラナデ	—	ナデ	ヘラナデ	—	—	AⅠ	P-10
3	土師器	甕	フク土	(20.0)	(9.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	AⅠ	P-21
4	土師器	甕	床直	(24.0)	(7.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-11, 15
5	土師器	甕	フク土	(18.0)	(6.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-2
6	土師器	甕	フク土	—	(4.5)	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	P-23
7	土師器	甕	フク土	—	(4.3)	10.5	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-23
8	須恵器	甕	床直	(12.0)	(5.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-10 内面輪轆痕
9	須恵器	坏	カマド	—	(3.3)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	外面火だすき痕
10	土師器	坏	フク土	—	(2.5)	(4.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	BⅡ	P-14

図87 第329号竪穴住居跡出土遺物（2）

第329号竪穴住居跡（図85～図87）

【位置】 調査区中央部のNG・NH-447・448グリッドに位置する。

【重複】 第302号溝、第303号溝、第335号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

【平面形・規模】 東側3m43cm、西壁は3m75cm、南壁3m76cm、北壁3m97cmで東側がやや狭い方形である。床面積は約13.28㎡で、主軸方位はN-158°-Eである。

【壁・床面】 壁高は、東壁7cm、西壁が49cm、南壁8～20cm、北壁30～50cmで床面からやや急に立ち上がる。床面は、西側がやや起伏がみられる。

【周溝】 幅10～19cm、深さ8～32cmの周溝がカマド部分を除いてほぼ一巡し、所々にやや深い部分がみられる。

【ピット】 検出されなかった。

【カマド】 煙出しの一部が第335号住居跡に切られているが、残存状態は良好である。南壁西側に粘土を用いて構築し、芯材等は検出されなかった。焚口部には礫の上に土師器の甕を伏せた状態で置き、支脚としている。煙道は地山を掘り込む地下式で、住居跡外へ130cmほど延びる。煙道底面は煙出部に向かって落ち込み、煙出部分で深さ約70cmのピットにつながり、ほぼ垂直に立ち上がる。

【堆積土】 堆積土は10層に分層され、1層にB-Tm火山灰、3層と4層にT o - a火山灰が混入

している。また、床面から炭化材（図86）が検出され、焼失家屋と可能性がある。

〔出土遺物〕 土師器の坏や甕のほか、須恵器の坏などが出土している。

〔時 期〕 火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、9世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（中嶋友文）

第330号竪穴住居跡（図88～図90）

〔位 置〕 NL・NM-443・444グリッドに位置する。

〔重 複〕 認められなかった。

〔平面形・規模〕 東壁3 m28cm、西壁2 m76cm、南壁3 m、北壁3 m32cmのほぼ方形である。床面積は8.88㎡で、主軸方位はN-2°-Wである。

〔壁・床面〕 壁高は東壁42cm、西壁32cm、南壁26cm、北壁54cmで床面からやや急に立ち上がる。床面は中央がややくぼむ。

〔周 溝〕 検出されなかった。

〔ピット〕 検出されたピットは幅1個である。

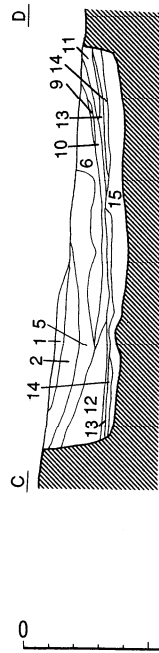
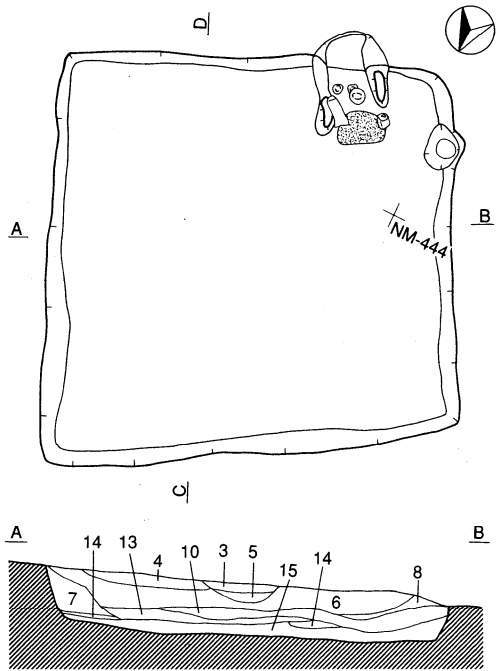
〔カマド〕 南壁西側に構築されている。羽口を芯材として転用し、粘土で覆って本体を築いている。煙道は半地下式で、住居跡外に28cmほどのびる。煙道底面は煙出部に向かってやや急に立ち上がる。

〔堆積土〕 堆積土は15層に分層される。

〔出土遺物〕 土師器の甕、坏、皿のほか、須恵器の坏、石製品、砥石、羽口などが出土している。

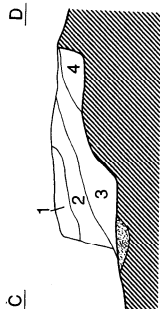
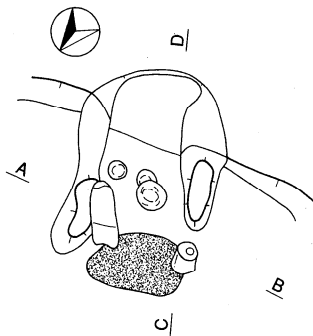
〔時 期〕 出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

（齋藤由美子）



第330号住居跡

- | | | | |
|------|---------|----------|--------------------------|
| 第1層 | にじみ赤褐色土 | 7.5YR5/3 | ローム粒多量 |
| 第2層 | 黒色土 | 10YR2/1 | 炭化物・パミス微量 |
| 第3層 | 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | ローム質土 |
| 第4層 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | ローム・パミス粒少量 |
| 第5層 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 粘土粒・パミス粒微量 |
| 第6層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | パミス粒・炭化物微量
T o - a 混入 |
| 第7層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | パミス粒・炭化物微量 |
| 第8層 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | ローム粒微量 |
| 第9層 | 灰白色土 | 10YR7/1 | 炭化物・焼土粒少量 |
| 第10層 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | ローム粒・パミス粒・焼土粒
炭化物少量 |
| 第11層 | 黒色土 | 10YR2/1 | 焼土粒・パミス粒微量 |
| 第12層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | パミス粒微量 |
| 第13層 | 黒色土 | 10YR2/1 | パミス粒・焼土粒少量 |
| 第14層 | 黒色土 | 7.5YR2/1 | ローム粒少量 |
| 第15層 | 暗赤褐色土 | 2.5YR3/2 | パミス粒微量 |



カマド

- | | | | |
|-----|---------|----------|-----------|
| 第1層 | 黒色土 | 7.5YR2/1 | パミス粒少量 |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 炭化物微量 |
| 第3層 | にじみ赤褐色土 | 5YR4/4 | 炭化物微量 |
| 第4層 | 灰黄褐色土 | 10YR4/2 | 炭化物・焼土粒少量 |
| 第5層 | 黒色土 | 7.5YR2/1 | |

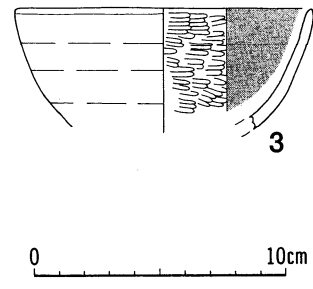
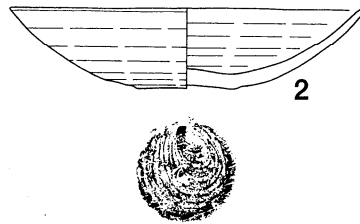
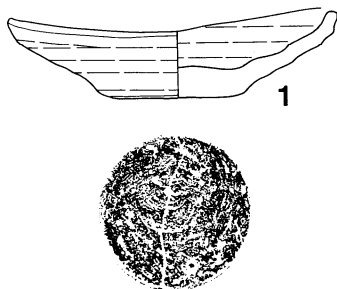
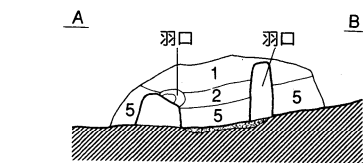
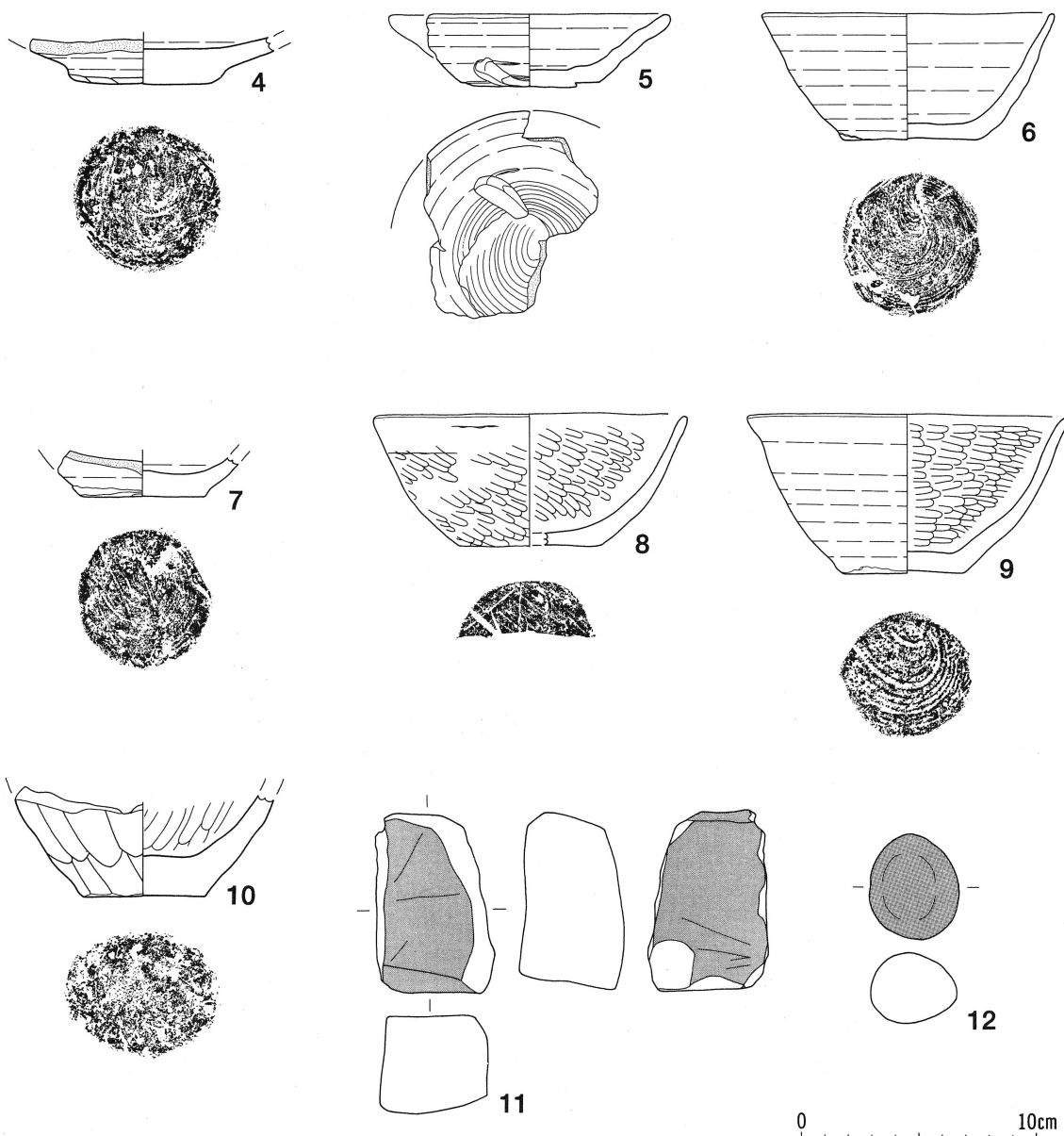


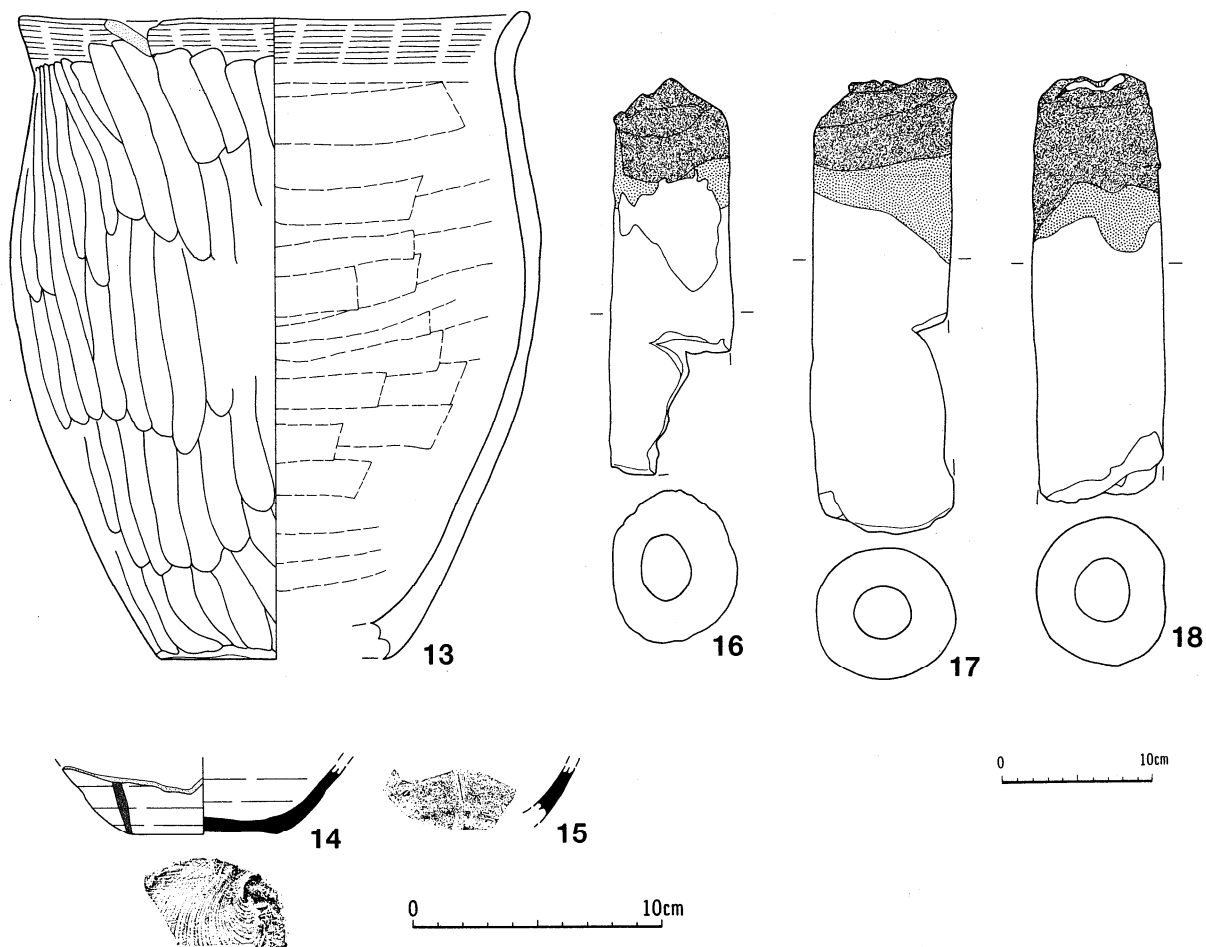
図88 第330号竪穴住居跡・第330号竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	種 類	器 種	出土層位	計測値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏(皿)	カマド床直	13.2	3.4	4.6	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	糸切り後 ヘラケズリ	B II b	P-1
2	土師器	坏(皿)	フク土	(14.2)	3.2	4.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II b	P-6
3	土師器	坏	Pit1フク土 床直	(12.0)	(4.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	B I	内面黒色処理 P-6
4	土師器	坏(皿)	床直	—	(1.9)	(6.4)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	糸切り後 ヘラナデ	B II	P-22
5	土師器	坏(皿)	床直	(12.0)	3.0	(6.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II	底面に糸切り後の粘土付着 P-4
6	土師器	坏	カマドフ土	(12.5)	5.4	5.8	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II	P-2
7	土師器	坏?	カマド床直	—	—	5.8	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II	P-3
8	土師器	坏	フク土	(13.4)	5.6	(6.0)	ナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ナデ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラ切り	A II d	外面輪痕 P-9
9	土師器	坏	カマド 床直	(13.4)	5.2	6.3	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転糸切り	B II a	P-支脚4
10	土師器	甕	床直	—	(4.5)	5.3	—	—	ヘラケズリ?	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-5

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石 質	分 類	備 考
		長さ	外径	内径				
11	フク土	7.5	4.7	4.1	262	流	砥石	S-8
12	床面	4.4	3.8	2.9	38.9	凝	石製品	

図89 第330号竪穴住居跡出土遺物 (2)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
13	土師器	甕	かマド7社	(20.6)	(25.8)	(9.4)	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	A I d	P-18
14	須恵器	坏	フク土	—	(2.7)	(6.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転系切り	—	外面火だすき痕、P-10
15	須恵器	坏	フク土	—	(2.1)	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	外面刻書

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
16	カマドフク土	26.4	8.3×10.2	3.3×4.4	(1,422)	B	羽口-4、砂粒多量	
17	床直	30.5	8.8×9.2	3.5	(2,075)	B	ナデ 羽口-1.2	
18	床直	(28.5)	8.7×9.8	3.7×4.3	(1,920)	B	ナデケズリ 羽口-3	

図90 第330号竪穴住居跡出土遺物 (3)

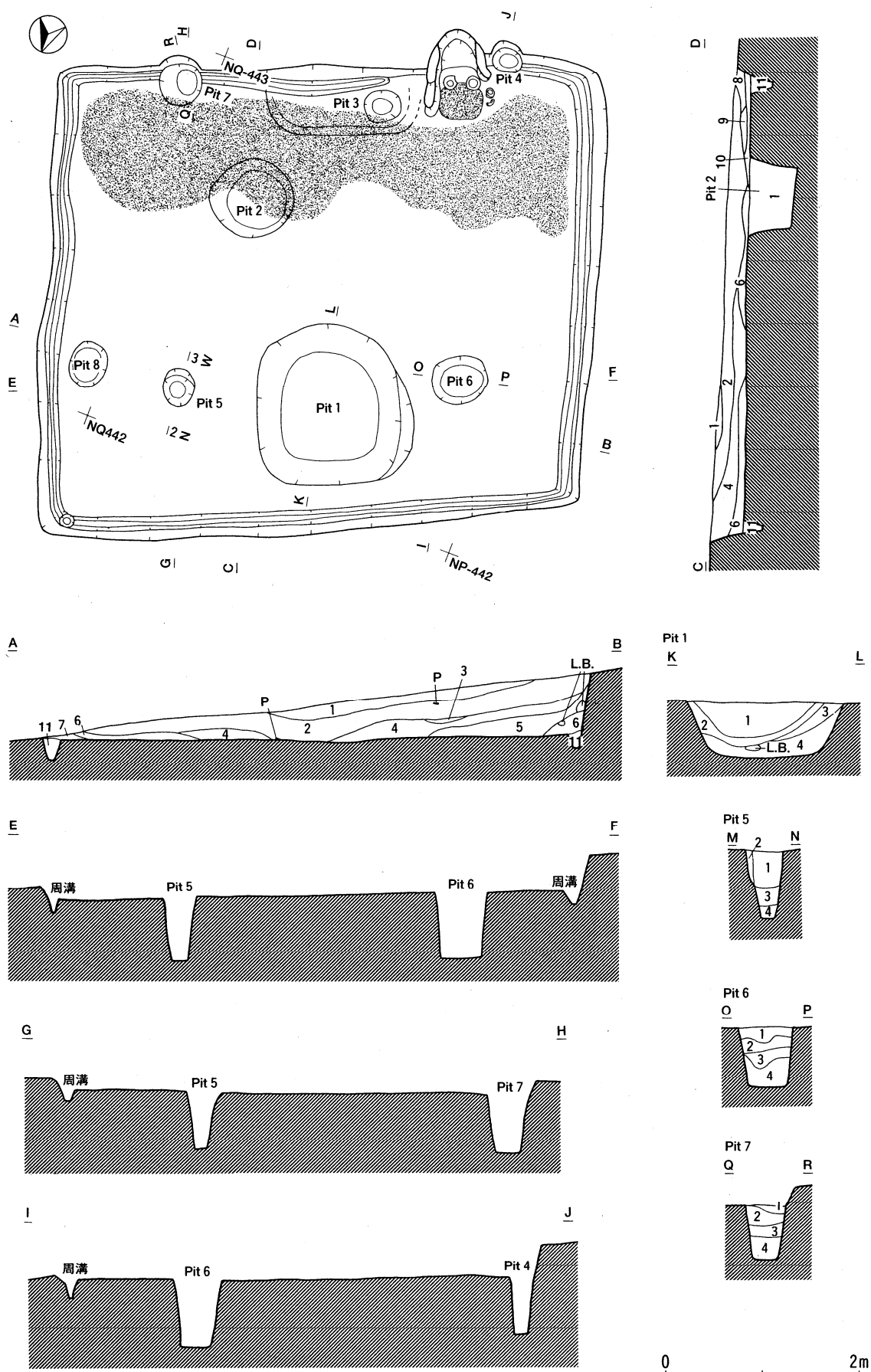


图91 第331号竖穴住居跡 (1)

第331号住居跡

第1層	暗褐色土	10YR3/3	黒褐色土 (10YR2/2) 混入 炭化物・焼土粒微量	ローム粒少量
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒・炭化物・焼土粒少量	
第3層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量	
第4層	黒褐色土	7.5YR3/2	褐色土 (10YR4/6) 混入 炭化物中量 ローム粒少量	
第5層	黒褐色土	10YR2/2	黒褐色土 (10YR3/2) 混入 ローム粒中量炭化物・焼土粒少量	
第6層	黒褐色土	10YR3/1	黒褐色土 (10YR2/2) 混入 ローム粒多量 L.B.中量	
第7層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒中量 炭化物少量 焼土粒微量	
第8層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒少量	
第9層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒・炭化物少量・焼土粒微量	
第10層	黄褐色土	10YR5/8	暗褐色土 (10YR3/4) 混入	
第11層	暗赤褐色土	5 YR3/6	褐色土 (7.5YR4/6) 混入 ローム粒少量	

Pit 1

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量 炭化物少量 焼土粒微量
第2層	黒褐色土	10YR3/2	ローム粒多量 炭化物・焼土粒微量
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・炭化物少量
第4層	黒褐色土	10YR3/2	黒色土 (10YR1.7/1) 混入 ローム粒中量 炭化物・焼土粒少量

Pit 2

第1層	褐色土	10YR4/6	炭化物・焼土微量 ローム粒中量
-----	-----	---------	-----------------

Pit 5

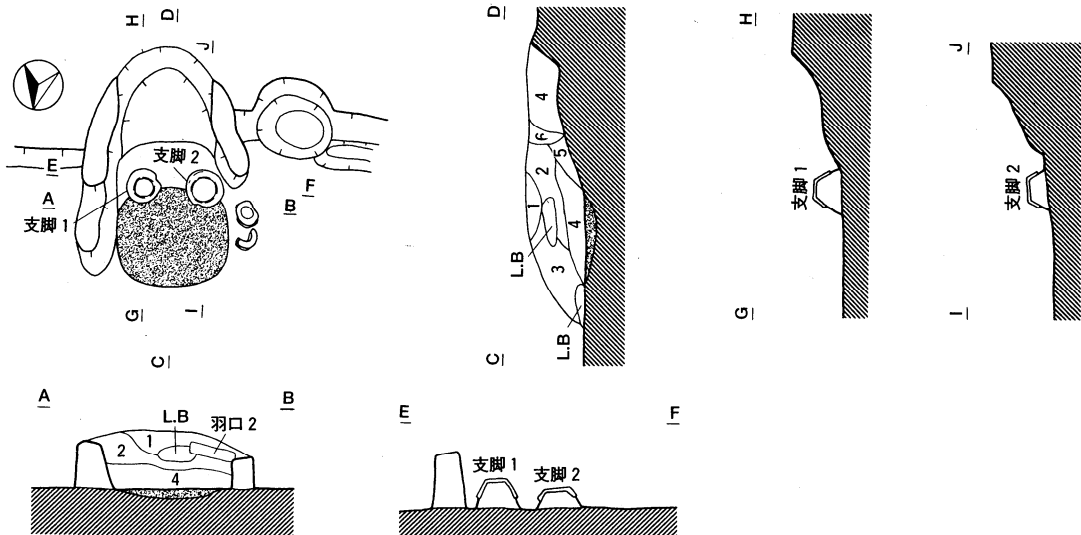
第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒・炭化物少量 焼土粒微量
第2層	褐色土	10YR4/4	黒褐色土 (10YR2/2) 混入 ローム粒少量
第3層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量 炭化物微量
第4層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	ローム粒少量 炭化物微量

Pit 6

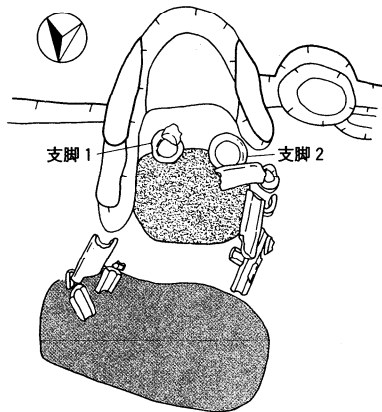
第1層	黒色土	10YR2/1	ローム粒中量 炭化物少量 焼土粒微量
第2層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
第3層	黒褐色土	10YR2/2	暗褐色土 (10YR3/3) 混入 ローム粒多量 炭化物少量
第4層	黒色土	10YR1.7/1	ローム粒少量

Pit 7

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
第2層	黒褐色土	10YR2/3	ローム粒中量 炭化物・焼土粒少量
第3層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
第4層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒多量 炭化物少量 焼土粒微量



カマド遺物出土状況



カマド

第1層	灰黄褐色土	10YR4/2	褐色土 (10YR4/6) 混入 ローム粒中量 炭化物微量
第2層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒中量 炭化物・焼土粒微量
第3層	黄褐色土	10YR5/6	ローム粒・焼土粒少量
第4層	褐色土	10YR4/4	明黄褐色土 (10YR6/6) 混入 焼土粒中量 ローム粒少量
第5層	明赤褐色土	5 YR5/8	炭化物多量
第6層	黒色土	10YR2/1	

0 1m

図92 第331号竪穴住居跡 (2)

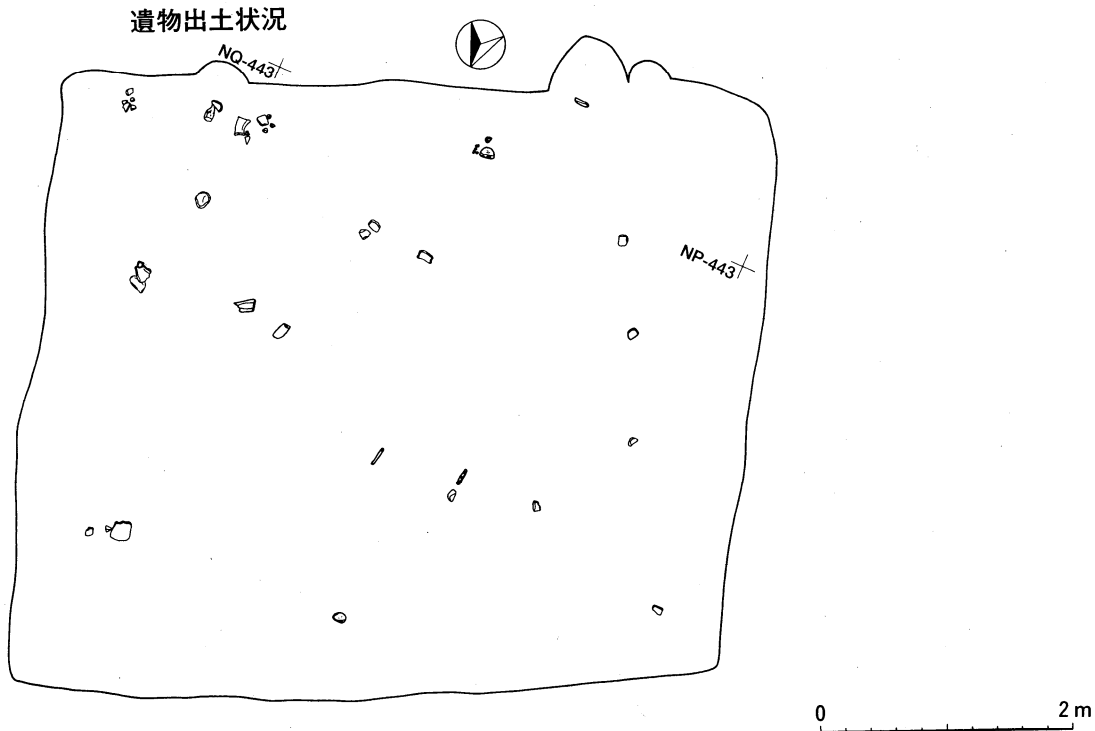


図93 第331号竪穴住居跡（3）

第331号竪穴住居跡（図91～図95）

〔位置〕 調査区東側のNO～NQ-442～444グリッドに位置する。

〔重複〕 認められなかった。

〔平面形・規模〕 東壁4 m85cm、西壁は4 m55cm、南壁5 m62cm、北壁5 m56cmの長方形である。床面積は約25.44㎡で、主軸方位はN-158°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁8 cm、西壁57cm、南壁5～35cm、北壁40cmで床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦で堅く締まっている。

〔周溝〕 幅9～17cm、深さ8～32cmの周溝がカマド部分を除いて一巡する。

〔ピット〕 検出されたピットは8個で、そのうち主柱穴はピット4（60cm）、ピット5（62cm）、ピット6（65cm）、ピット7（69cm）である。ピット4とピット7はやや外側に張り出してつくられている。また、北壁中央に径185cm、深さ58cmのピット1を検出した。用途などについては不明である。

〔カマド〕 南壁西側にカマボコ状（大口径）の羽口を芯材として粘土を用いて構築している。焚口部には土師器の甕を2個伏せた状態で支脚としている。煙道は半地下式で住居跡外に40cmほど延び、煙道底面は煙出部に向かってやや急に立ち上がる。

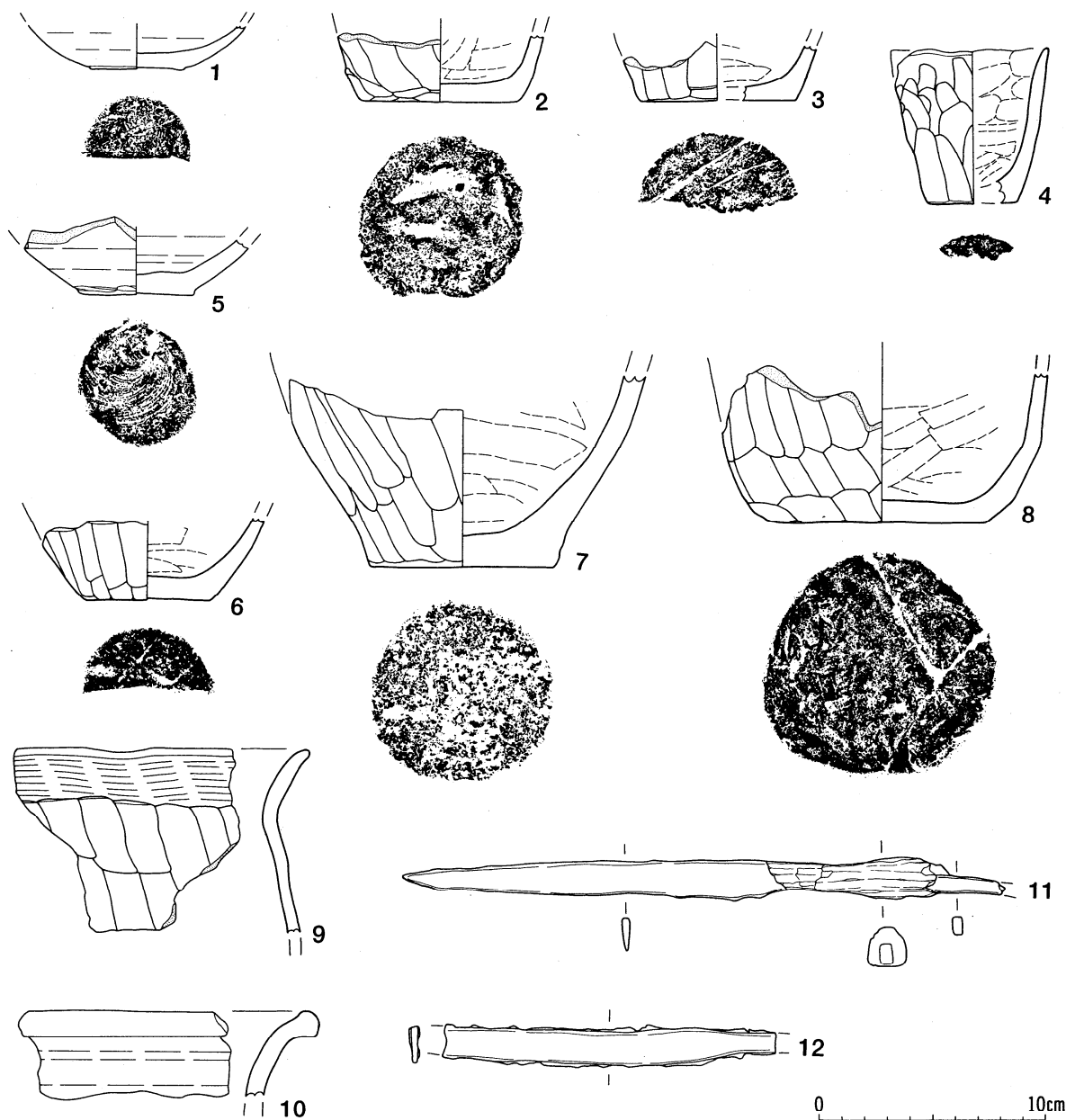
〔その他の施設〕 カマド脇の南壁の中央に長さ約160cm、幅約40cm、深さ10cmの落ち込みを検出した。用途などについては不明である。

〔堆積土〕 堆積土は11層に分層される。また、南壁付近の床面一帯広がる焼土を検出している。

〔出土遺物〕 覆土から土師器や須恵器の坏、甕のほか、刀子などが出土している。（図93）

〔時期〕 出土遺物から、9世紀後半に構築したと考えられる。

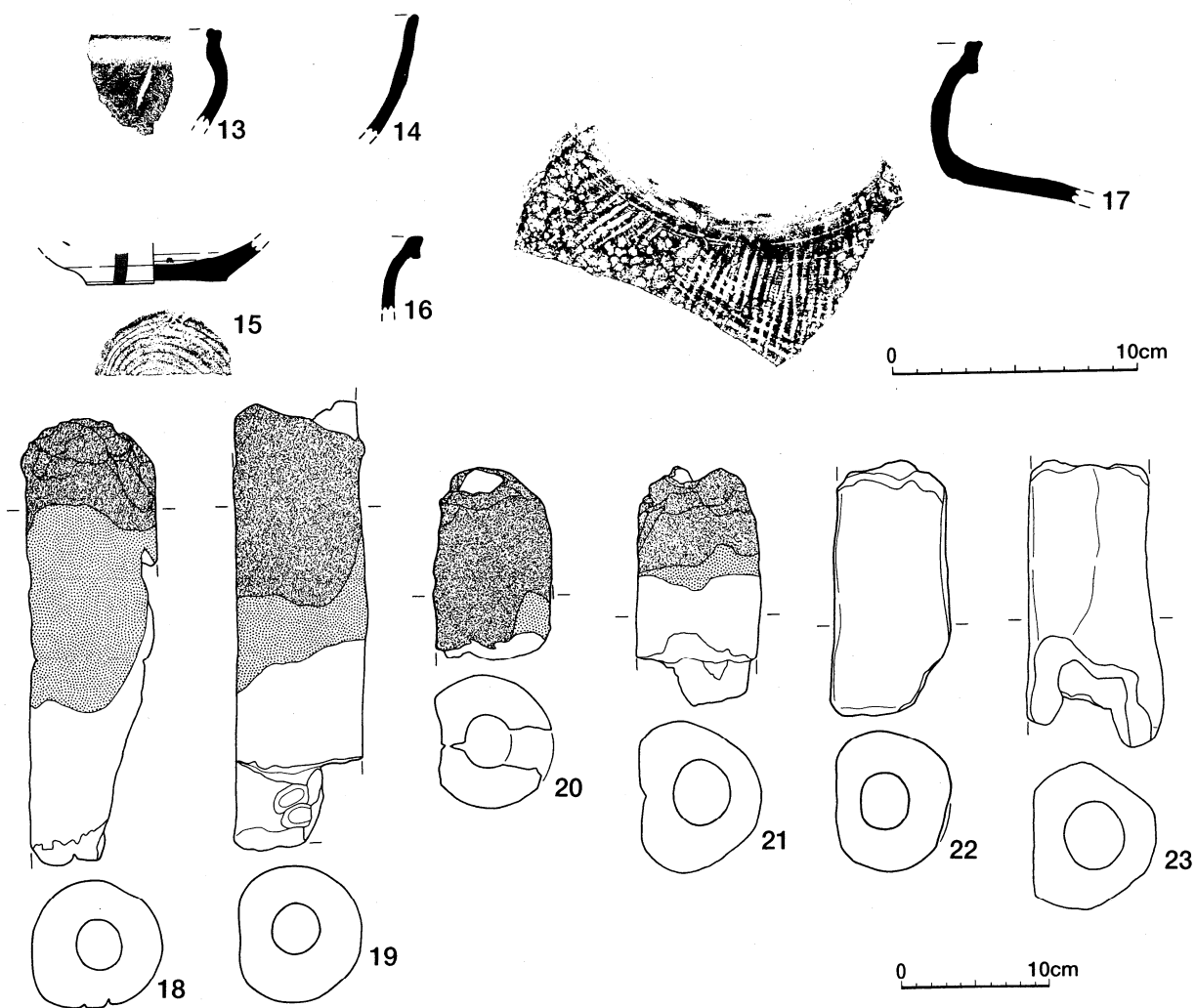
（中嶋友文）



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	—	(2.0)	(5.2)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	B II	
2	土師器	甕	フク土	—	(3.0)	7.0	—	—	ハラケズリ	—	—	ハラナデ	ナデツケ	A	P-4
3	土師器	甕	フク土	—	(2.6)	(7.0)	—	—	ハラケズリ	—	—	ハラナデ	ハラナデ	A	P-2
4	土師器	小型土器	床直	(7.0)	6.7	(4.0)	ナデ	ハラケズリ	ハラケズリ	コビオサエ	ハラナデ	ハラナデ	ナデツケ	—	P-5
5	土師器	壺	床直	5.5	(3.2)	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	B	内面および胎土が黒色 P-12
6	土師器	甕	床直	—	(3.5)	(5.9)	—	—	ハラケズリ	—	—	ハラナデ	ナデツケ	A	P-11
7	土師器	甕	カマド床直	—	(8.5)	8.0	—	ハラケズリ	ハラケズリ	—	ハラナデ	ハラナデ	砂底	A	P-2 支脚1
8	土師器	甕	カマド底面	—	(6.6)	9.5	—	—	ハラケズリ	—	—	ハラナデ	ナデツケ	A	P-3 支脚2
9	土師器	甕	カマド底面	—	8.1	—	ハラナデ	ハラナデ	—	ハラナデ	ハラナデ	—	—	A	
10	土師器	甕	床直	—	(3.7)	—	ロクロ	—	—	—	ロクロ	—	—	B	

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
11	Pit1フク土	26.5	1.8	0.5	37.7	小刀	F-2 木質部残存
12	Pit1フク土	14.5	1.7	0.4	29.2	小刀	F-1

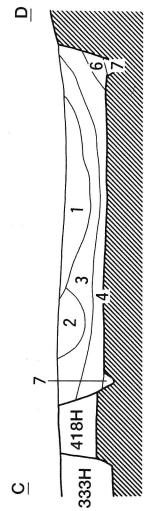
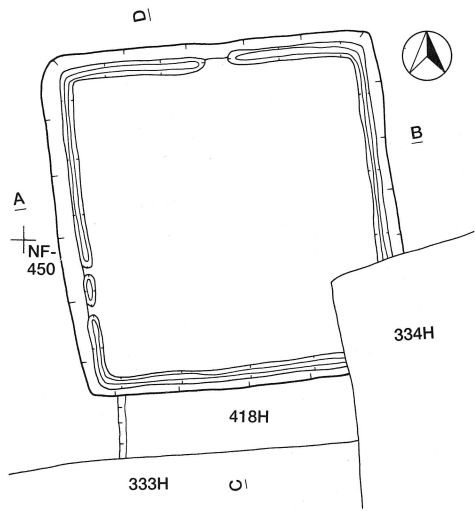
図94 第331号竪穴住居跡出土遺物 (1)



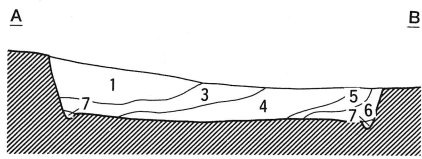
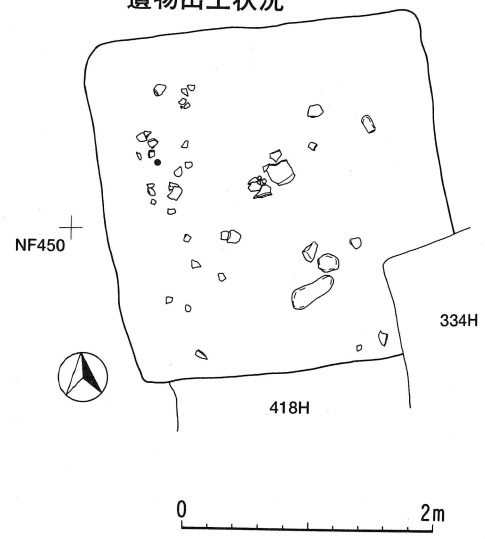
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
13	須恵器	甕	フク土	—	(3.9)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	外面 刻書
14	須恵器	坏	フク土	—	(4.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	外内面火だすき痕
15	須恵器	坏	フク土	—	(1.5)	5.6	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	外内面火だすき痕
16	須恵器	壺	フク土	—	(3.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
17	須恵器	甕	床直	—	(6.7)	—	ロクロ	平行タタ目	—	ロクロ	あて具痕	—	—	—	P-11

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
18	カマド床直	(30.1)	8.8×8.6	3.3×3.1	(1,100)	C	羽口-2、7、9	
19	カマド床直	(23.8)	9.2×8.2	3.5×3.2	(1,722)	B	ケズリ、指痕 羽口-1、3	
20	カマド床直	(13.1)	(7.9)×9.0	—	(560)	C	羽口-12 砂粒多量	
21	カマド床直	(16.3)	8.3×10.3	3.8×4.5	(722)	D ₁	羽口-4、6、11 砂粒多量	
22	カマド床直	(17.2)	7.8×9.5	3.4×4.0	(960)	D ₂	羽口-1 砂粒多量	
23	カマド床直	(19.5)	8.4×10.0	4.1×4.7	(1,150)	D ₁	ケズリ 羽口-5 砂粒多量	

図95 第331号竪穴住居跡出土遺物 (2)

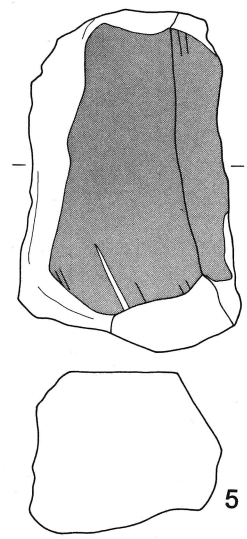
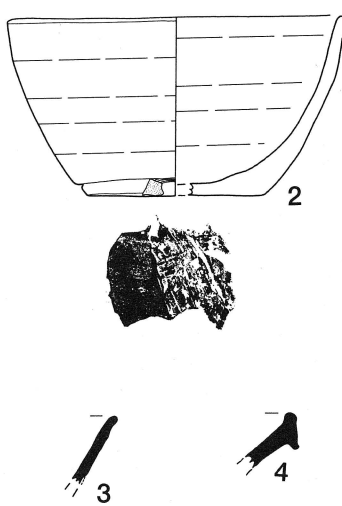
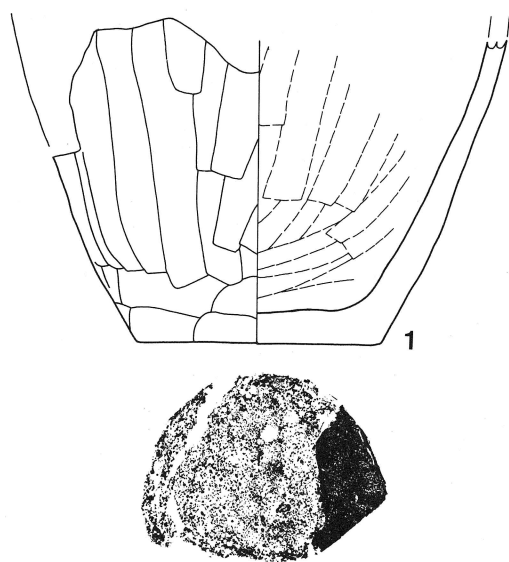


遺物出土状況



第332号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
- 第2層 褐色土 10YR4/6 L.B.・ローム粒多量
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量 炭化物・焼土粒微量
- 第4層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量
- 第5層 褐色土 10YR4/4 ローム粒少量
- 第6層 黒褐色土 10YR3/3 ローム粒少量 炭化物微量
- 第7層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量

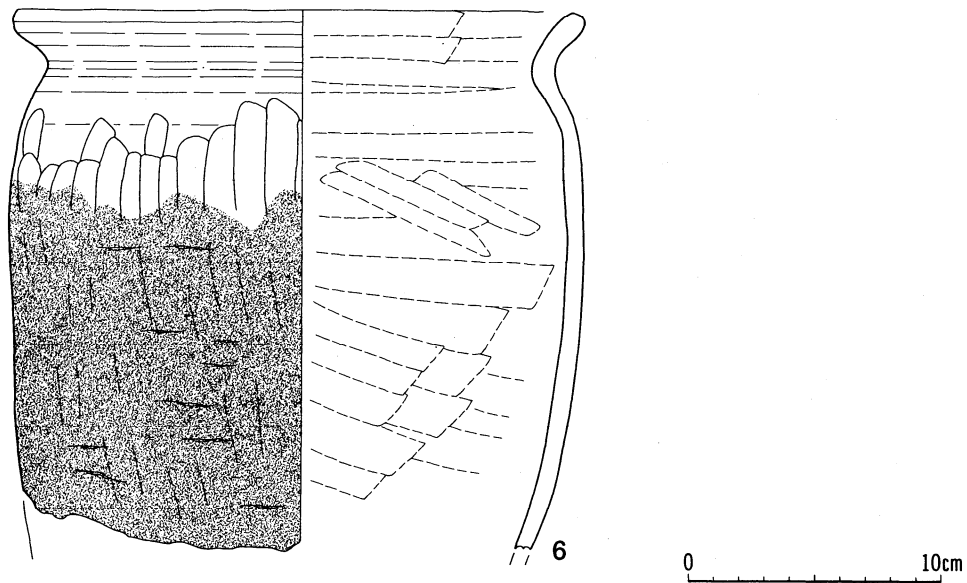


0 10cm

0 10cm

図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	NF-450 床直	—	(12.2)	(9.8)	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	A	P-4, 14
2	土師器	坏	Pit 1 フク土	(13.6)	(6.8)	(6.8)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転系切り後 ヘラナデ	B II b	P-3, 5, 7, 8, 11
3	須恵器	坏	フク土	—	(2.7)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-13
4	須恵器	壺	フク土	—	(2.6)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考							
		長さ	幅	厚さ											
5	フク土	18.0	10.2	8.2	2,560	凝	砥石	S-1 炭化物付着							

図96 第332号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
6	土師器	甕	床直	22.6	(21.5)	—	ロクロ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	B1	P-2、3

図97 第332号竪穴住居跡出土遺物（2）

第332号竪穴住居跡（図96・図97）

〔位 置〕 調査区中央部のNF-449・450グリッドに位置する。

〔重 複〕 第334号住居跡、第418号住居跡と重複し、本住居跡は、第334号住居跡より古く、第418号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 南東壁を第334号住居跡に切られているが、東壁（1 m78cm）、西壁 2 m70cm、南壁（2 m8cm）、北壁 2 m60cmからほぼ方形と考えられる。床面積は約5.96㎡で、主軸方位は不明である。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁24cm、西壁48cm、南壁38cm、北壁38cmで床面からやや急に立ち上がる。床面はやや起伏がみられるが堅く締まっている。

〔周 溝〕 幅9～12cm、深さ5～16cmの周溝がほぼ一巡する。

〔ピット〕 検出されなかった。

〔カマド〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 堆積土は7層に分層される。

〔出土遺物〕 覆土から土師器や須恵器の坏、甕のほかに砥石などが出土している。

〔時 期〕 重複関係や出土遺物から、9世紀前半に構築されたと考えられる。

（中嶋友文）

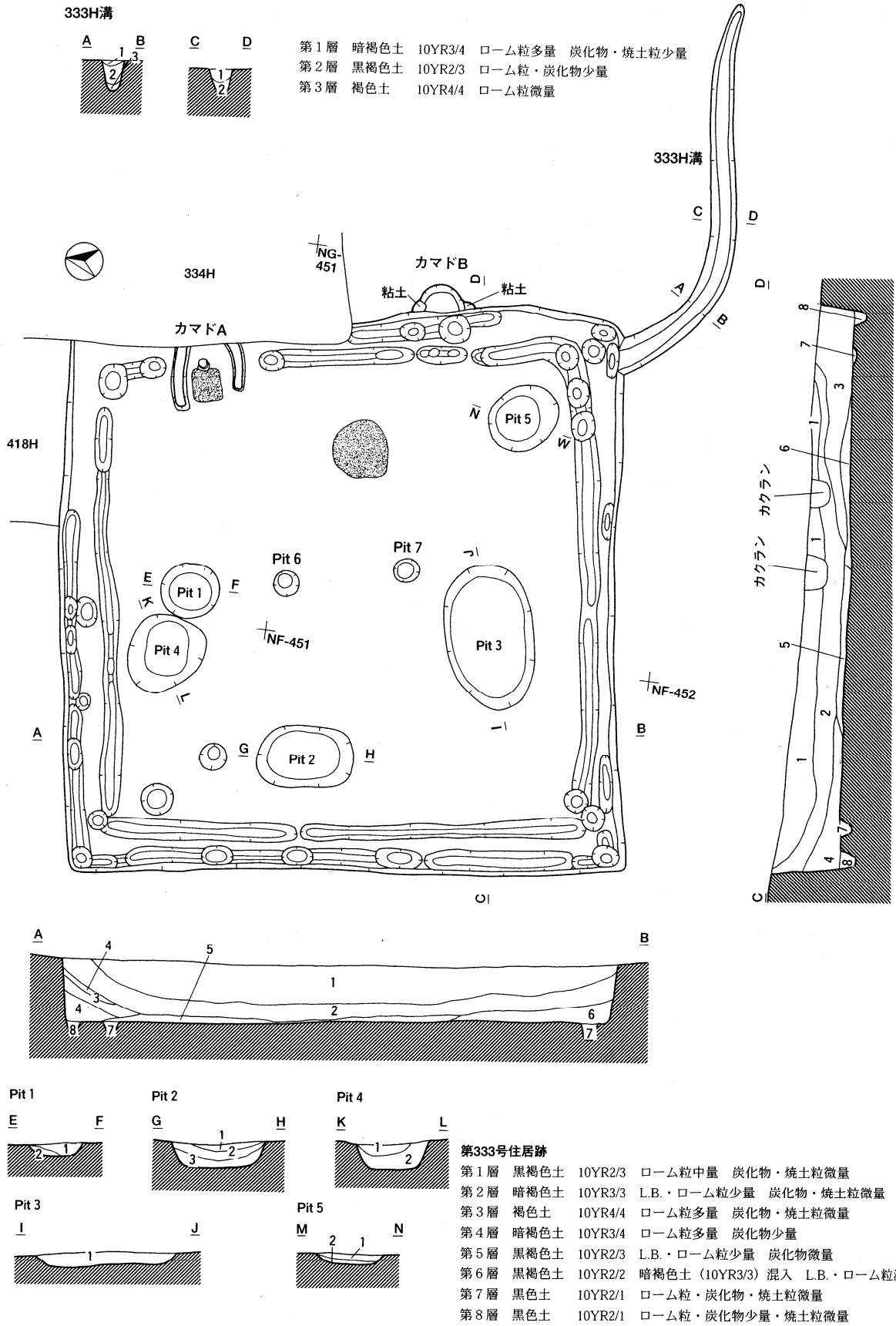


図98 第333号竪穴住居跡

Pit 1

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
- 第2層 黄褐色土 10YR5/6 ローム粒少量

Pit 2

- 第1層 黄褐色土 10YR5/8 ローム粒 L.B
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒 炭化物少量
- 第3層 暗褐色土 10YR3/2 ローム粒 L.B中量 粘土質土

Pit 3

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 焼土粒・炭化物微量 ローム粒・L.B中量

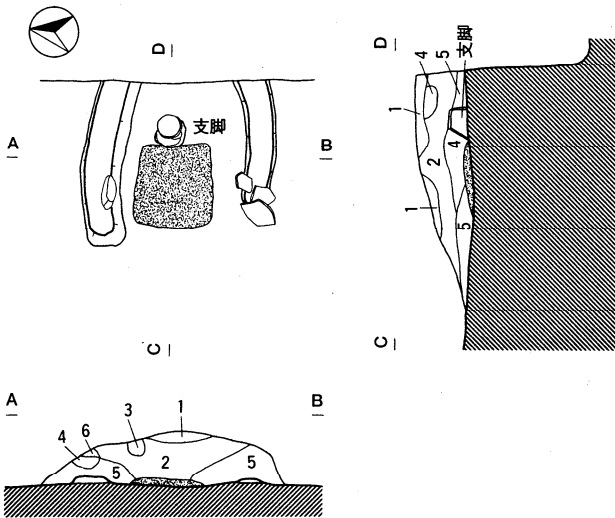
Pit 4

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 炭化物・焼土粒微量 ローム粒・L.B中量
- 第2層 暗褐色土 10YR3/3 炭化物・焼土粒微量粘土質土
ローム粒・L.B中量

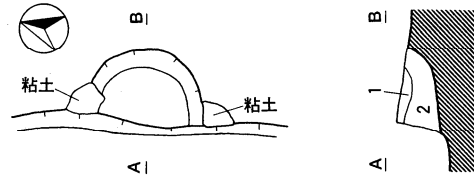
Pit 5

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 炭化物・小礫・ローム粒・L.B少量
- 第2層 暗褐色土 10YR4/4 ローム粒・L.B少量

カマドA



カマドB



カマドA

- 第1層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
- 第2層 褐色土 10YR4/4 焼土粒中量 ローム粒・炭化物少量
- 第3層 赤褐色土 5YR4/6 焼土ブロック
- 第4層 にぶい黄褐色土 10YR5/3 ローム粒 焼土粒中量 炭化物微量
- 第5層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・炭化物・焼土粒少量

カマドB

- 第1層 明褐色土 7.5YR5/3
- 第2層 暗褐色土 10YR3/4 ローム粒中量 炭化物・焼土粒微量

遺物出土状況

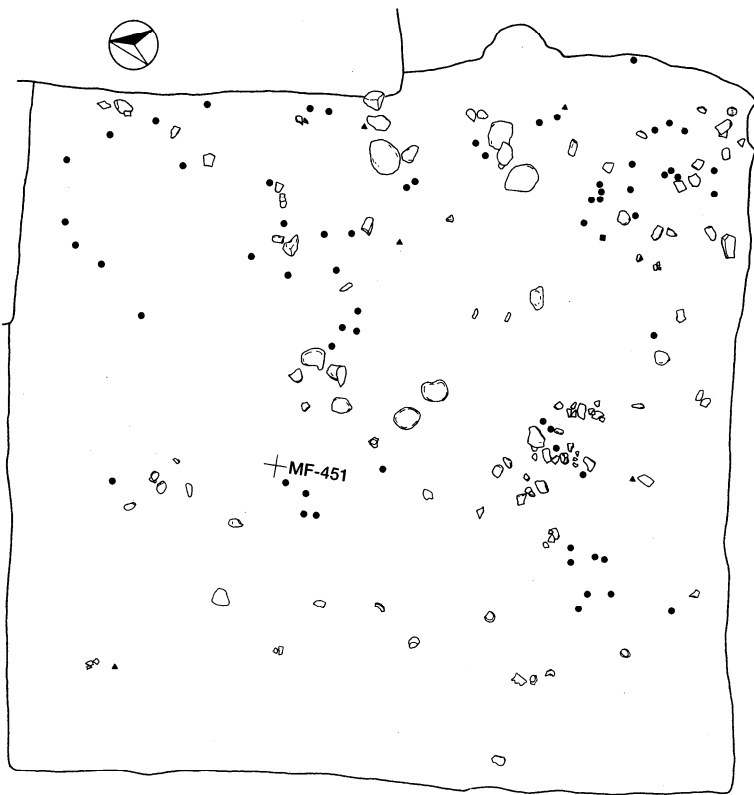
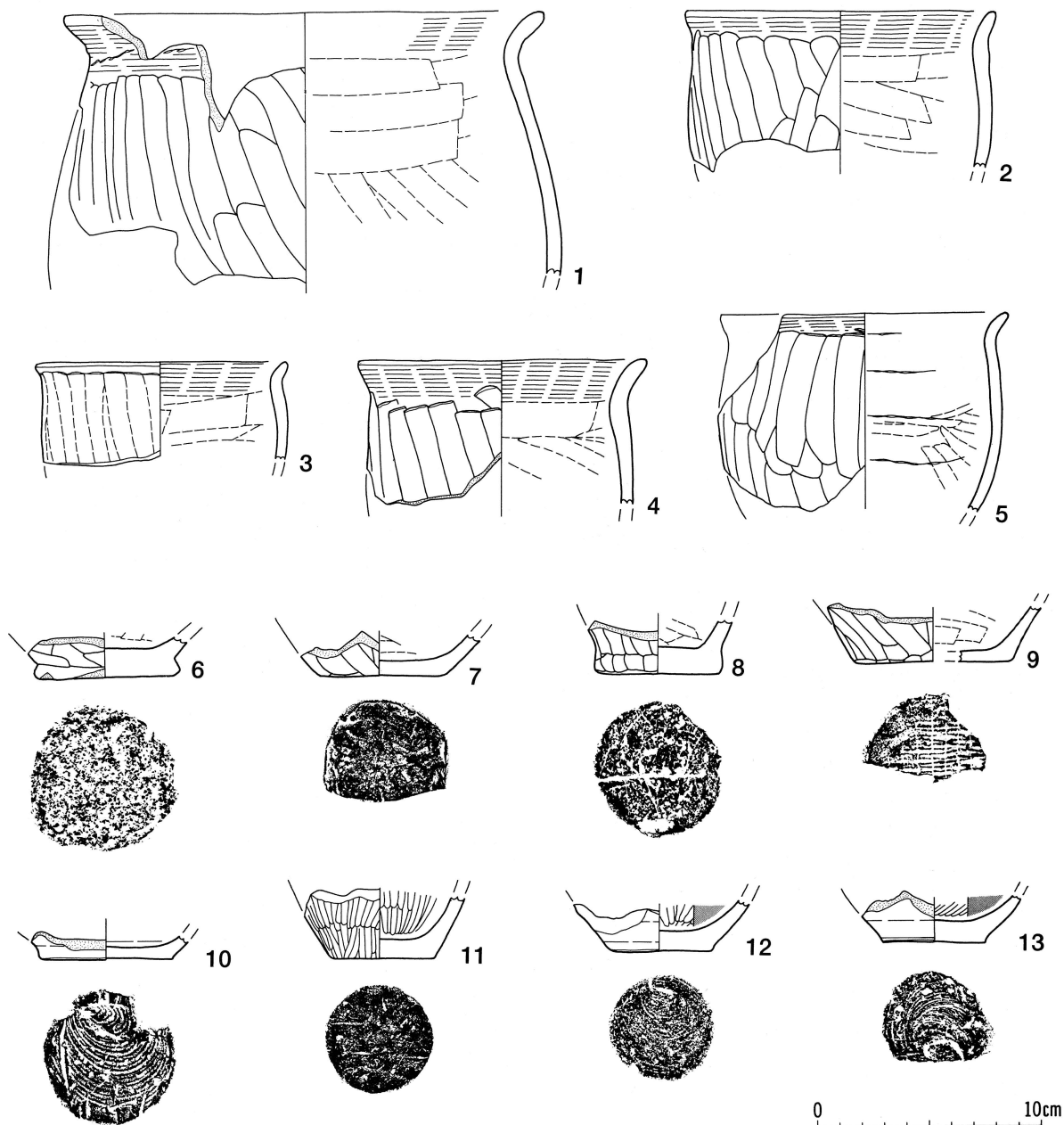
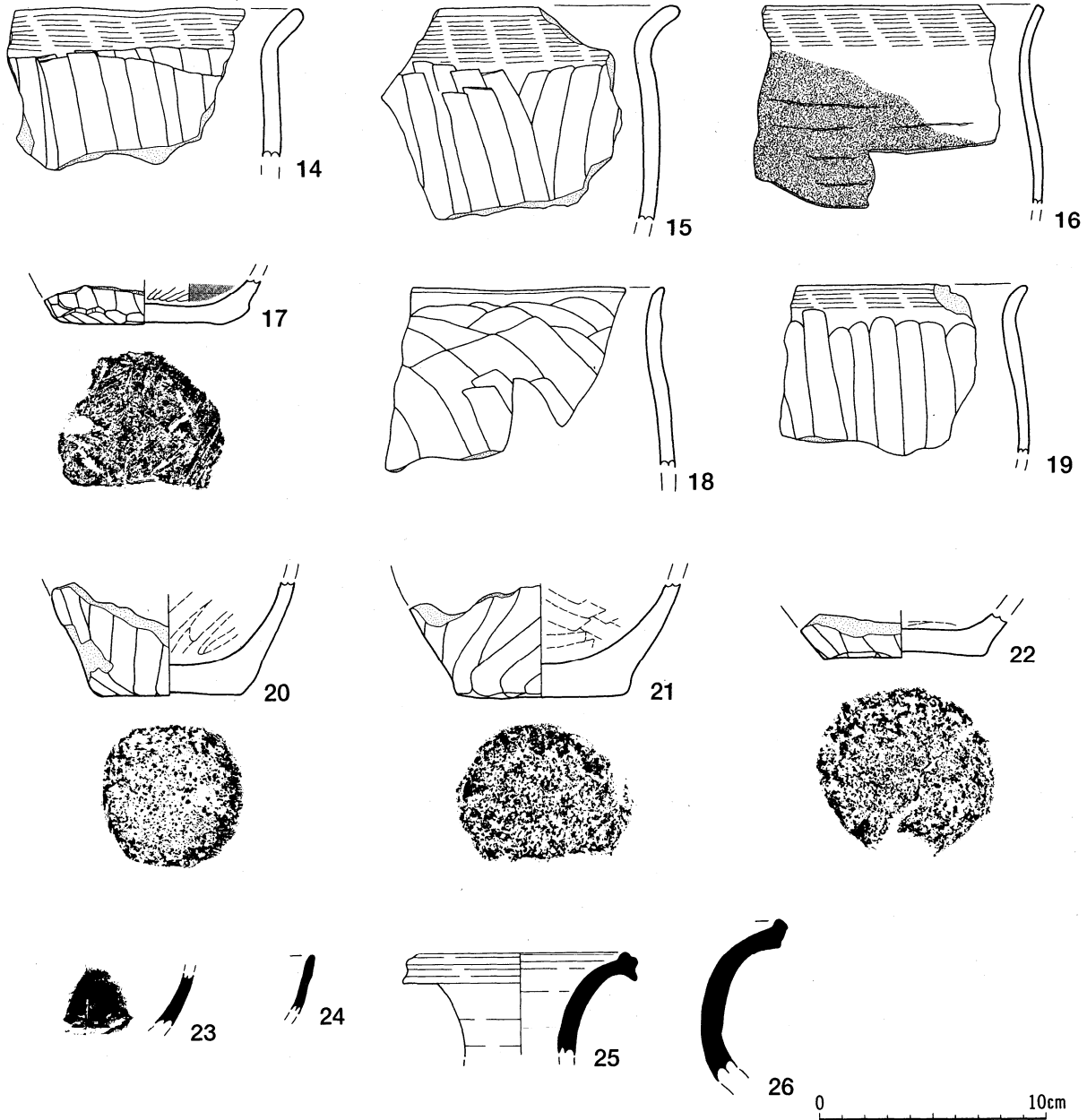


図99 第333号竪穴住居跡 (2)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	カマドA	(21.4)	(12.1)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A I	P-21、22
2	土師器	甕	カマド フク土	(14.0)	(7.2)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-1、2、5、6
3	土師器	甕	床面 Pit 3 フク土	(11.2)	(4.6)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-7、31
4	土師器	甕	周溝フク土	(13.0)	(6.5)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-36
5	土師器	甕	床直	(13.0)	(8.8)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ナデ?	ヘラナデ?	—	—	A	内面輪積痕 P-39
6	土師器	甕	床直	—	(1.5)	(6.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-42
7	土師器	甕	貼床下	—	(2.0)	(5.6)	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ?	ナデツケ	A	P-1
8	土師器	甕	床下	—	(2.5)	5.6	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	木葉痕	A	P-10
9	土師器	甕	フク土	—	(2.7)	(7.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	藤編み圧痕	A	P-18
10	土師器	杯	床面	—	(1.3)	6.0	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	B II	P-36
11	土師器	鉢	床直	—	(3.1)	4.8	—	—	ヘラミガキ	—	—	ヘラミガキ	ナデツケ	A	P-54
12	土師器	杯	フク土	—	(2.2)	(4.6)	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	回転糸切り	B I	内面黒色処理 P-21
13	土師器	杯	フク土	—	(2.2)	(4.6)	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	回転糸切り	B I	内面黒色処理

図100 第333号竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考	
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半				
14	土師器	甕	床面 P13、フク土	(21.0)	(7.1)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-26	
15	土師器	甕	貼床下 P13、フク土	—	(9.4)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-16	
16	土師器	甕	カマド	(22.0)	(9.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	内外面輪積痕 外面粘土付着 P-10、13	
17	土師器	甕	床面	—	(2.0)	7.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラミガキ	ヘラナデ	A	内面黒色処理 P-55	
18	土師器	甕	フク土	—	(7.7)	—	ヘラケズリ	ヨコナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-7	
19	土師器	甕	フク土	(11.5)	(7.6)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A		
20	土師器	甕	フク土	—	4.5	7.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底→ ヘラナデ	A		
21	土師器	甕	床下	—	5.0	(7.6)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-26	
22	土師器	甕	フク土	—	(2.0)	7.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A		
23	須恵器	坏	貼床下	—	(2.3)	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	外面 刻書火ダスキ痕	
24	須恵器	坏	フク土	—	(2.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内外面 火ダスキ痕	
25	須恵器	長頸壺	フク土	(9.0)	(4.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-27	
26	須恵器	甕	フク土	—	(7.0)	—	ロクロ	肩部 タタキ目	—	ロクロ	肩部 ヘラナデ	—	—	—	—	

図101 第333号竪穴住居跡出土遺物(2)

第333号 (A) 竪穴住居跡 (図98～図101)

[位置] 調査区中央部のNE～NG-450～452グリッドに位置する。

[重複] 第334号住居跡、第418号住居跡と重複する。本住居跡は、第334号住居跡より古く、第418号住居跡より新しい。また、本住居跡は、第333号 (B) 住居跡を拡張したものと考えられる。

[平面形・規模] 東壁の一部を第334号住居跡に切られているが、残存する東壁 (2 m74cm)、西壁 5 m75cm、南壁 5 m63cm、北壁 (5 m45cm) から方形と考えられる。床面積は約30.76㎡で、主軸方位はN-82°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁36cm、西壁72cm、南壁60cm、北壁64cmで床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はやや起伏がみられる。

[周溝] 幅11～21cm、深さ12～18cmの周溝が西側以外、断片的に検出された。

[ピット] 床面からのピットは検出できなかったが、周溝に沿って多くのピット (深さ10～20cm) が確認されている。周溝内のピットは、壁柱穴と思われる。

[カマド] 東壁南側に礫を芯材として、粘土を用いて構築している。焚口部には、土師器の甕を伏せて支脚としている。煙道部は第334号住居跡に切られているため不明である。

[その他の施設] 南壁東寄りに、長さ4 m20cm、幅20～30cm、深さ20～30cmの溝を検出した。住居跡南東隅から斜面に沿って東側に向かって延びており、堆積土からは、水が流れた痕跡等は見られないが、形態から排水溝と考えられ住居跡に伴うものと考えられる。

[堆積土] 堆積土は8層に分層される。

[出土遺物] 覆土から多くの土師器や須恵器の坏、甕のほか羽口、砥石などが出土している。(図99)

[時期] 重複関係や出土遺物から、9世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

第333号 (B) 竪穴住居跡 (図98～図101)

[位置] 調査区中央部のNE・NF-450・451グリッドに位置する。

[重複] 第333号 (A) 住居跡は本住居跡を拡張したものである。

[平面形・規模] 残存する周溝から東壁 (4 m94cm)、西壁 (5 m32cm)、南壁 (5 m10cm)、北壁 (4 m82cm) のほぼ方形である。床面積は、約26.66㎡で、主軸方位はN-80°-Eである。

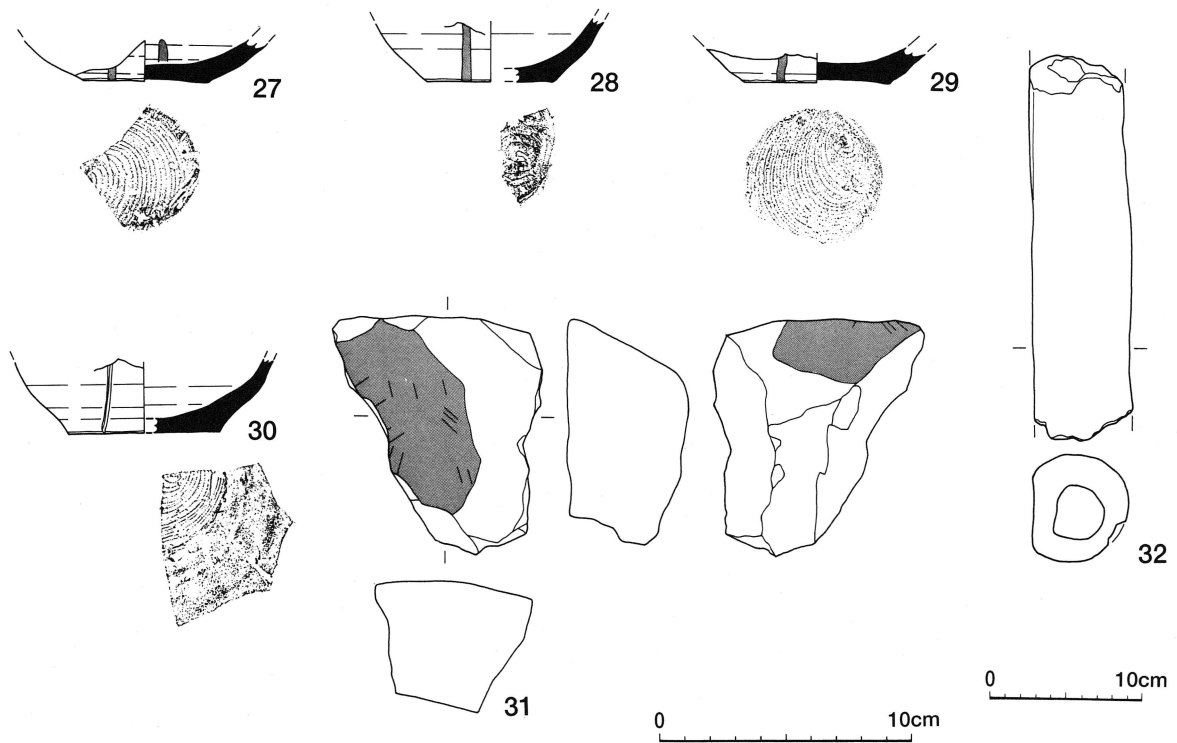
[壁・床面] 拡張のため、壁は残存していない。床面はやや起伏がみられる。

[周溝] 幅12～25cm、深さ12～16cmの周溝がほぼ一巡する。

[ピット] 貼床から検出されたピットは9個で、その他に周溝に沿って多くのピットが確認されている。周溝内のピット (深さ17～41cm) は、壁柱穴と思われる。また、ピット6 (44cm)、ピット7 (52cm) も柱穴の可能性が考えられる。

[カマド] 東壁南側に構築されているが、第333号 (A) 住居跡に削平されているため、煙道の一部のみが残存する。煙道は、半地下式で、煙道底面は煙出部に向かってやや急に立ち上がる。

[堆積土] 第333号 (A) 住居跡は、本住居跡の床面と同じレベルで拡張したものとみられたため、堆積土は認められなかった。



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
27	須恵器	坏	フク土	—	(1.7)	(5.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	—	内外面 火ダスキ痕
28	須恵器	坏	フク土	—	(2.5)	(5.2)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	—	外面 火ダスキ痕
29	須恵器	坏	床直	—	(1.4)	5.8	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	—	内外面 火ダスキ痕 P-26
30	須恵器	坏	フク土	—	(2.9)	(6.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	—	外面 刻書

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	外径	内径				
31	貼床下Pit4 フク土	9.0	7.9	4.9	390	流	砥石	S-1

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
32	カマド	(25.5)	6.4×7.1	3.3	(1,000)	C	ナデ	支脚

図102 第333号竪穴住居跡出土遺物 (3)

[出土遺物] 遺物は確認できなかった。

[時期] 重複関係から、9世紀前半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

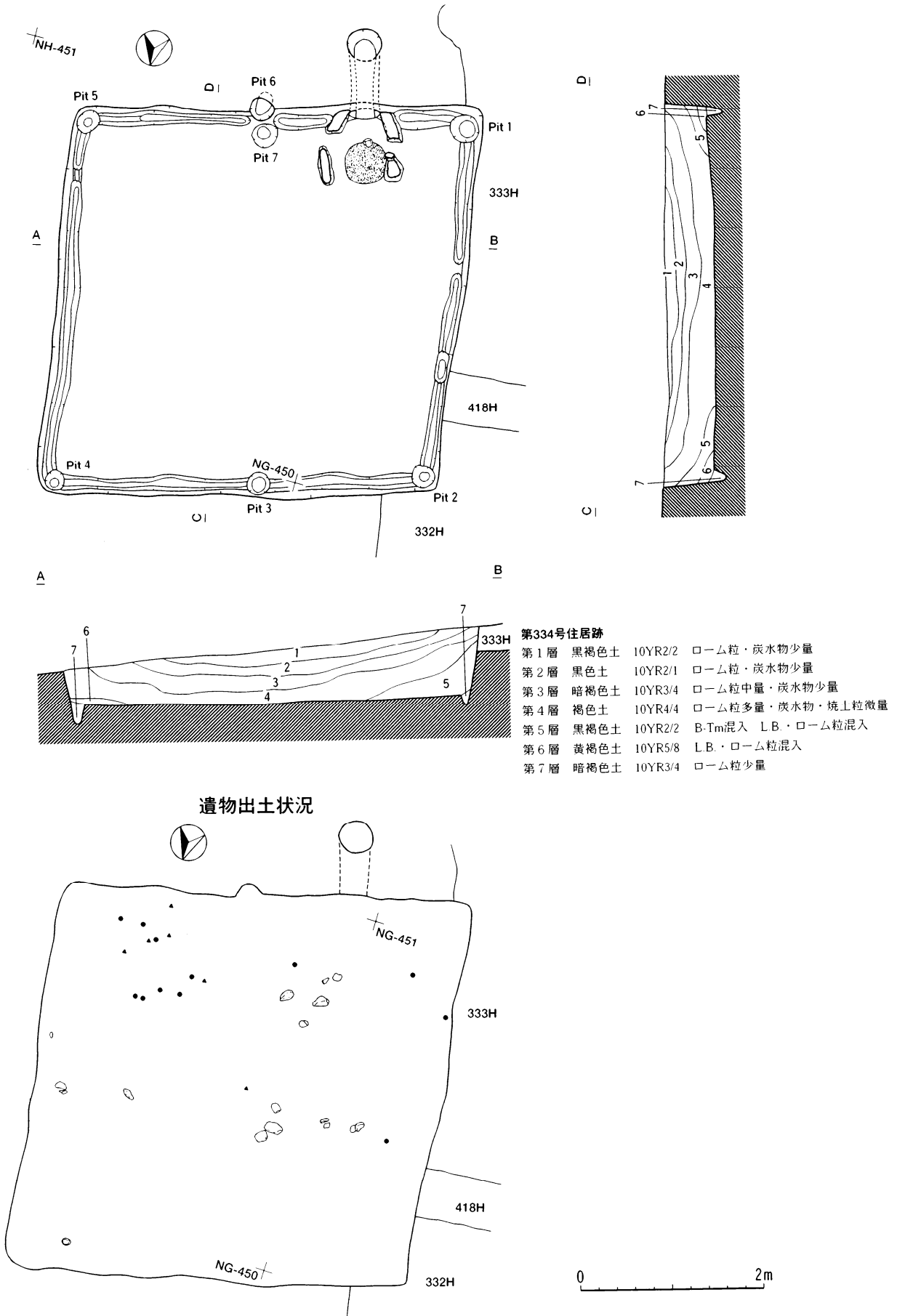


図103 第334号竪穴住居跡（1）

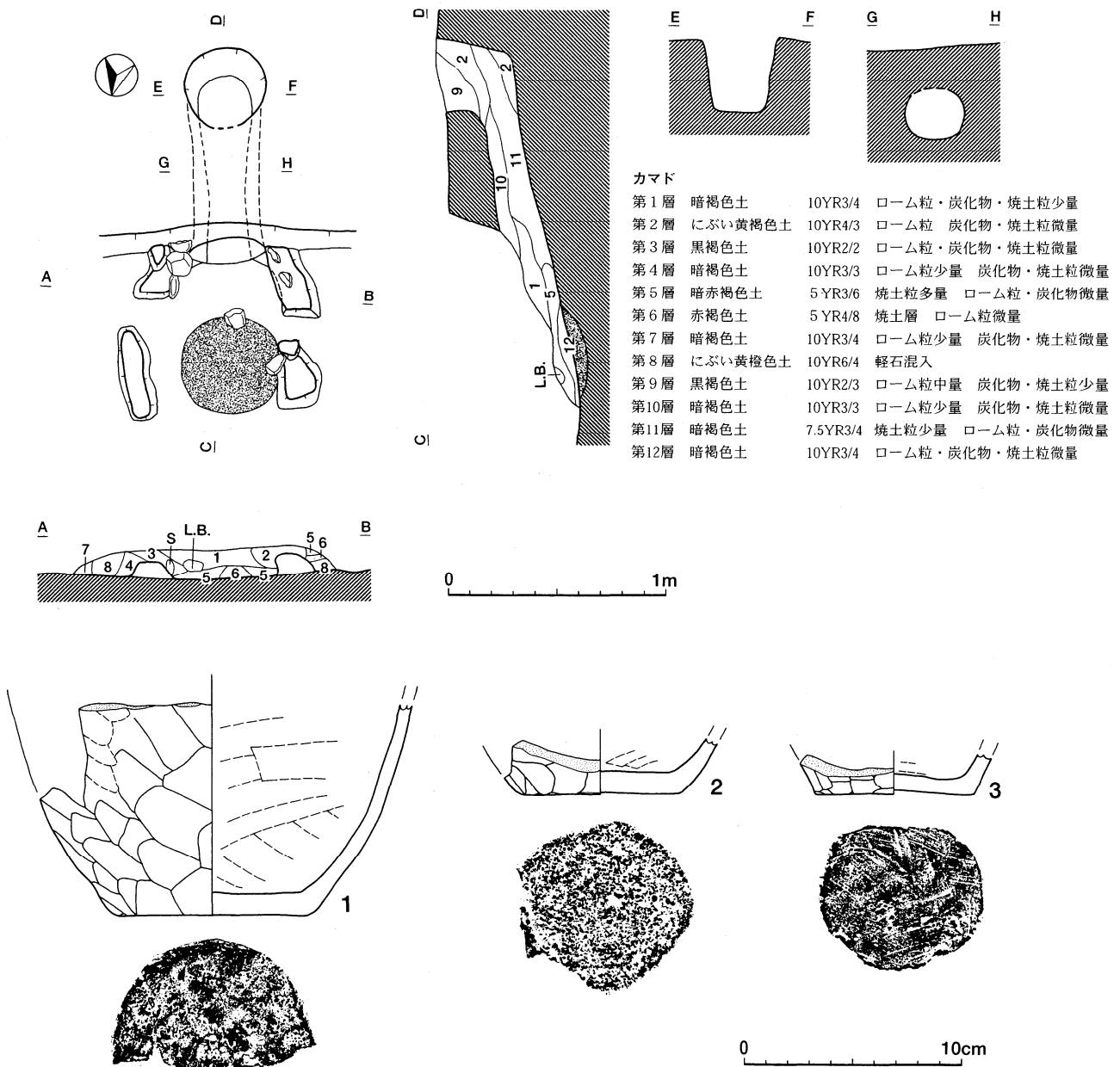


図104 第334号竪穴住居跡（2）・出土遺物

第334号竪穴住居跡（図103・図104）

〔位置〕 調査区中央部のNG・NH-450・451グリッドに位置する。

〔重複〕 第332号住居跡、第333号住居跡、第418号住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 東壁4m27cm、西壁4m23cm、南壁4m45cm、北壁4m35cmで北壁がやや東側に傾いた方形である。床面積は約17.83㎡で、主軸方位はN-168°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁38cm、西壁68cm、南壁43cm、北壁59cmで床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦で、堅く締まっている。

[周溝] 幅10～21cm、深さ8～24cmの周溝が一巡する。

[ピット] ピットは8個検出された。柱穴は、ピット1(29cm)、ピット2(20cm)、ピット3(32cm)、ピット4(35cm)、ピット5(43cm)、ピット6(33cm)の壁際の6本と考えられる。

[カマド] 南壁西側に、粘土を用いて構築している。焚口部には、支脚と思われる礫がみられる。煙道は地山を掘り込んだ地下式で、住居跡外に80cmほど延び、煙道底面は煙出部に向かって緩やかに上がり、煙出部でほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 堆積土は7層に分層され、5層にB-Tm火山灰が混入している。

[出土遺物] 覆土から土師器の甕などが出土している。

[時期] 火山灰の堆積状況や重複関係、出土遺物から、9世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

第335号竪穴住居跡 (図105～図108)

[位置] 調査区中央部のNG～NI-448・449グリッドに位置する。

[重複] 第329号住居跡と重複し、本住居跡が古い。また、南西部分は風倒木痕を切って構築されている。

[平面形・規模] 東壁3m85cm、西壁3m98cm、南壁4m85cm、北壁4m47cmを測り、平面形は、北壁が約60cm北方向に膨らんだ長方形である。床面積は17.92㎡で、主軸方位はN-161°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁30～45cm、西壁67cm、南壁45cm、北壁57cmで床面から急に立ち上がる。床面はやや起伏がみられる。

[周溝] 幅11～26cm、深さ1～15cmの周溝がカマド部分と北側の一部を除いてほぼ一巡する。

[ピット] ピットは床面から3個、貼り床下から3個検出され、いずれも柱穴とは考えられない。

[カマド] 南壁西側に羽口を芯材として粘土を用いて本体を構築している。煙道は地山を掘り抜き、粘土を貼った地下式で、住居跡外に120cmほどのびる。煙道底面は多少起伏を持ちながら煙出部に向かって緩やかに下がり煙出部でほぼ垂直に立ち上がる。

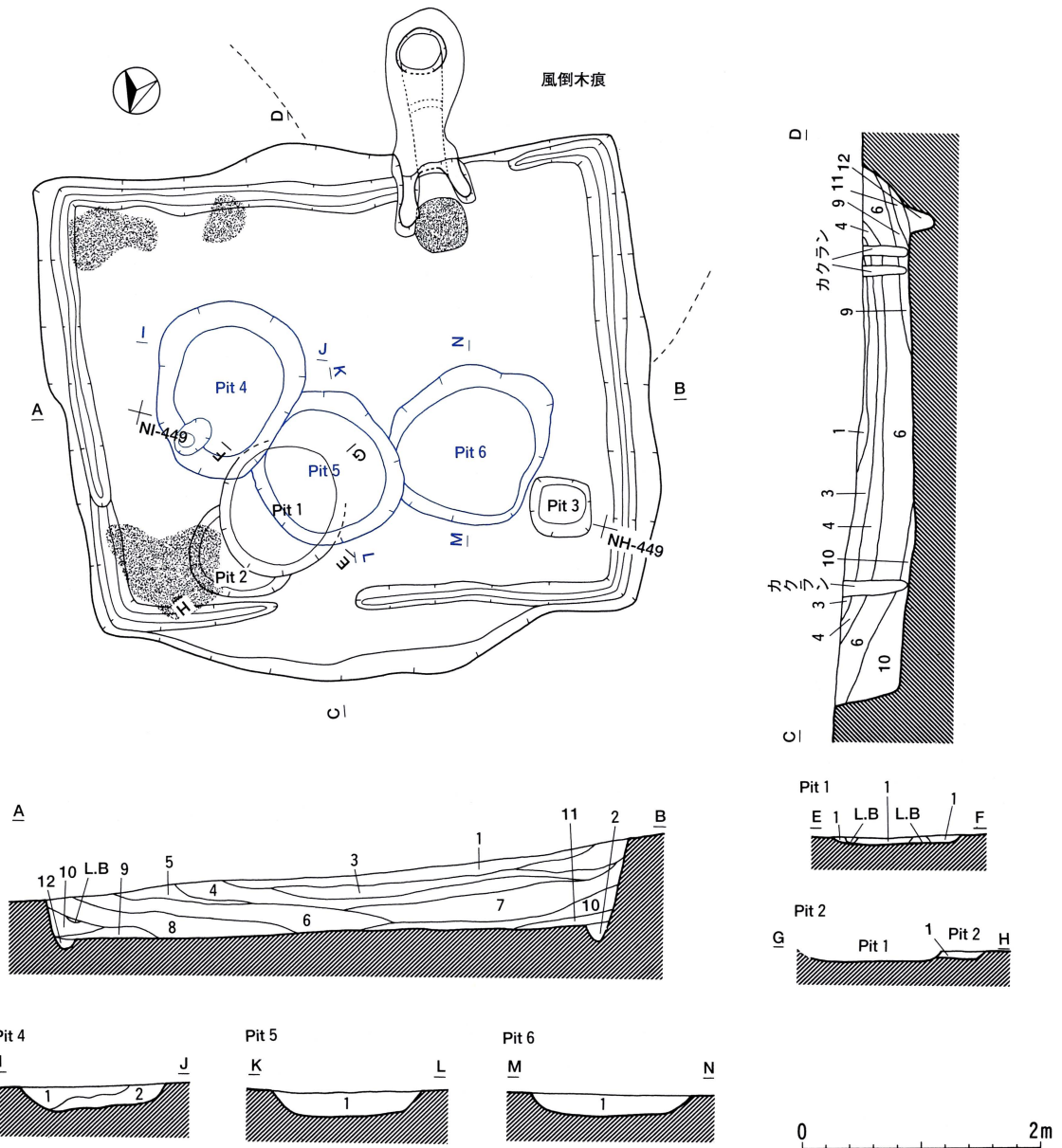
[その他の施設] 北壁が周溝から50cmほど外側に張り出している。用途等については、不明である。

[堆積土] 堆積土は12層に分層され、1層にB-Tm火山灰、7層・8層にT-o-a火山灰が混入している。

[出土遺物] 覆土から土師器や須恵器の坏、甕のほかに羽口、砥石、椀形鉄滓、鍛造薄片などが出土している。また、カマドの煙道部の掘り方から銅椀の口縁部破片が出土している。(図106)

[時期] 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)



第335号住居跡

- | | | | | |
|--------------|---------|---------|-----------|-----------------------|
| 第1層 | にぶい黄褐色土 | 10YR5/4 | B-Tm混入 | ローム粒・炭化物少量 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | L.B. | ローム粒・炭化物少量 |
| 第3層 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 炭化物中量 | ローム粒少量 |
| 第4層 | 明黄褐色土 | 10YR6/6 | L.B. | ローム粒混入 |
| 第5層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム粒少量 | 炭化物微量 |
| 第6層 | 暗褐色土 | 10YR5/4 | L.B. | ローム粒混入 炭化物少量 しまりかなりあり |
| 第7層 | 褐色土 | 10YR4/4 | To-A混入 | L.B.混入 炭化物・焼土粒少量 |
| 第8層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | To-A混入 | L.B.混入 炭化物・焼土粒少量 |
| 第9層 | 褐色土 | 10YR4/4 | L.B.混入 | 炭化物・焼土粒少量 |
| 第10層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒 | 炭化物少量 |
| 第11層 | 褐色土 | 10YR4/6 | ローム粒 | 炭化物少量 |
| 第12層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒混入 | |
| Pit 1 | | | | |
| 第1層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | To-a混入 | ローム粒・炭化物少量 |
| Pit 2 | | | | |
| 第1層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒 | 炭化物少量 |
| Pit 4 | | | | |
| 第1層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒・L.B. | 炭化物・焼土粒少量 |
| 第2層 | 褐色土 | 10YR4/4 | | |

カマド

- | | | | | |
|-----|---------|----------|-------------|----------------|
| 第1層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | L.B.・ローム粒多量 | 炭化物・焼土粒少量 |
| 第2層 | 明褐色土 | 7.5YR5/8 | 焼土粒多量 | ローム粒・炭化物少量 |
| 第3層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム粒 | 炭化物少量 |
| 第4層 | 褐色土 | 10YR4/4 | 焼土粒中量 | ローム粒少量 |
| 第5層 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | L.B.・ローム粒多量 | |
| 第6層 | 明黄褐色土 | 10YR6/6 | 粘土質土 | ローム粒・炭化物・焼土粒少量 |
| 第7層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | 焼土粒中量 | ローム粒少量 |
| 第8層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 炭化物混入 | ローム粒・焼土粒少量 |

Pit 5

- | | | | | |
|-----|------|---------|-----------|-----------|
| 第1層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | ローム粒・L.B. | 炭化物・焼土粒少量 |
|-----|------|---------|-----------|-----------|

Pit 6

- | | | | | |
|-----|---------|---------|-----------|-------------|
| 第1層 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | 炭化物・焼土粒微量 | ローム粒・L.B.少量 |
|-----|---------|---------|-----------|-------------|

図105 第335号竪穴住居跡 (1)

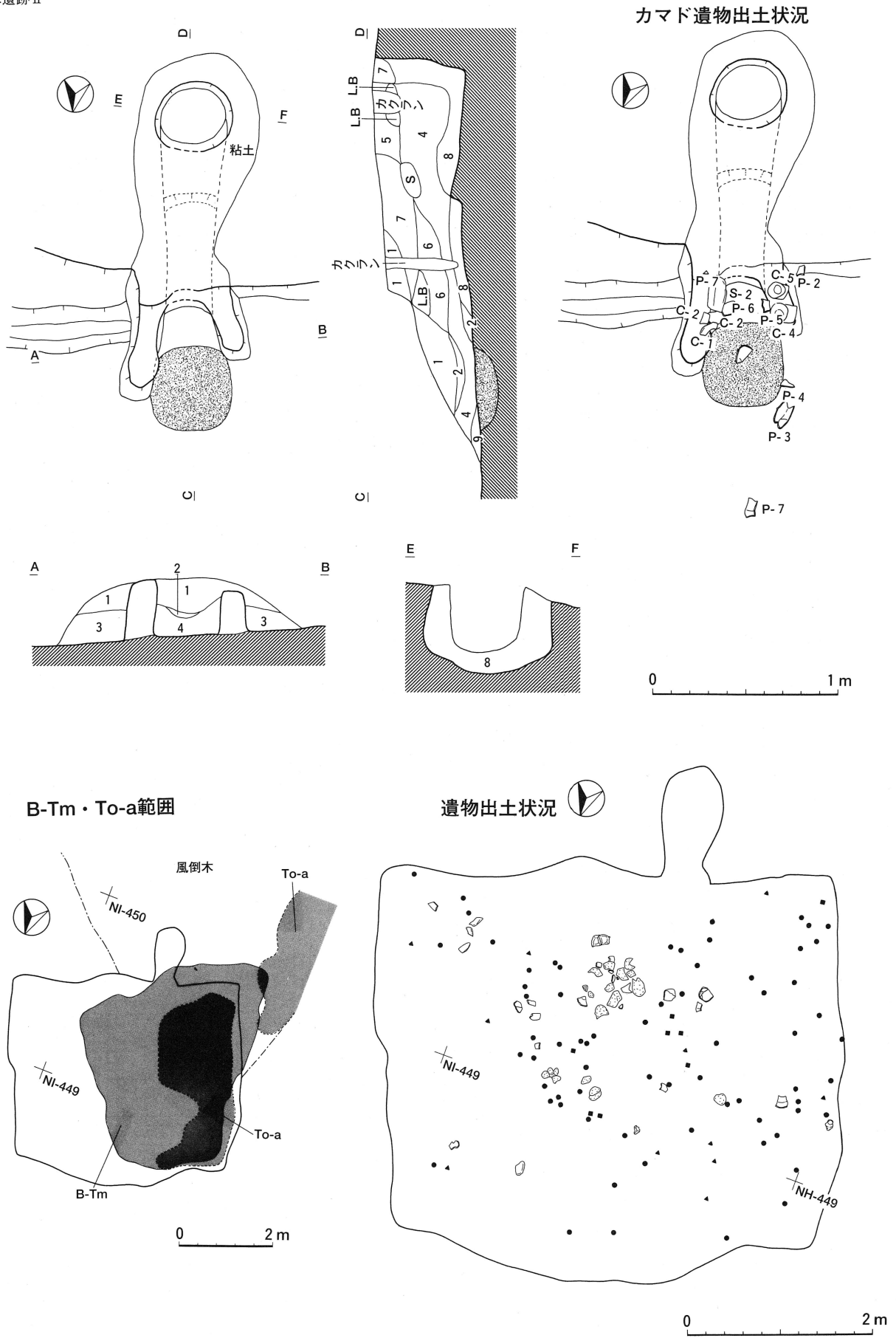
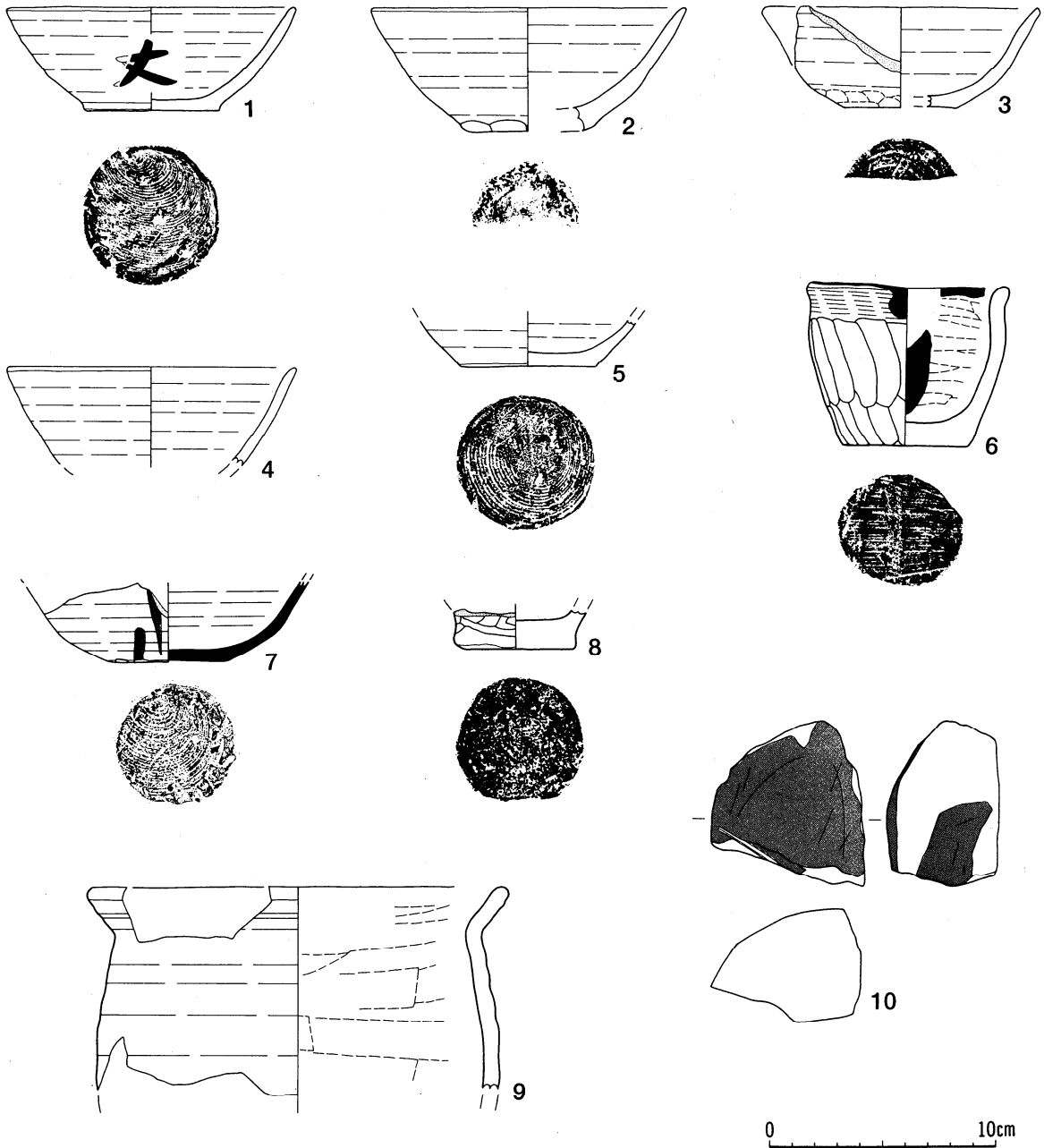


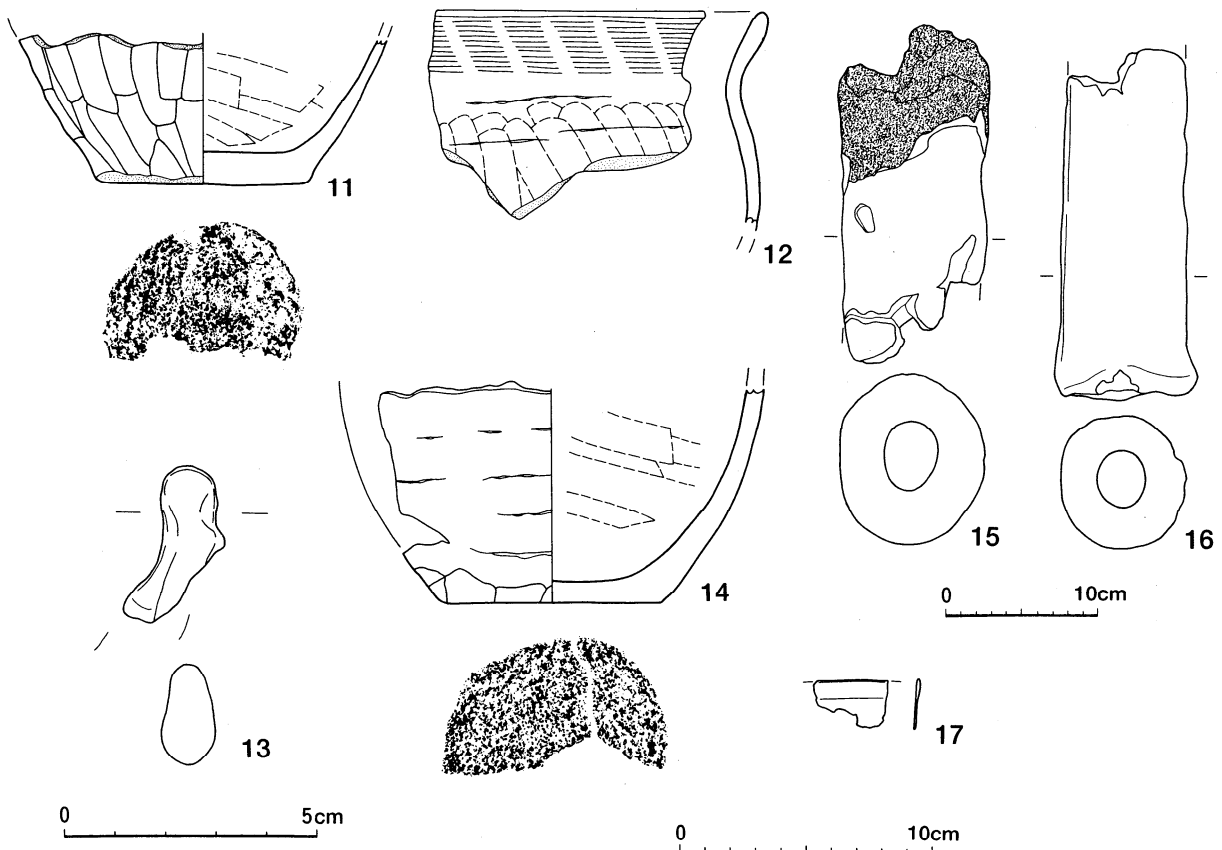
図106 第335号竪穴住居跡(2)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	(12.8)	4.6	6.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II b	P-28 墨書「丈」
2	土師器	坏	カマド	(14.0)	(5.5)	(5.0)	ロクロ	ロクロ	ヘラケズリ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	—	B II a	P-8
3	土師器	坏	床面	(12.4)	4.5	(5.0)	ロクロ	ロクロ	ヘラナデ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II a	P-87
4	土師器	坏	フク土	(12.8)	(4.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	P-38、39
5	土師器	坏	フク土	—	(2.2)	6	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り後 ヘラ切り	B II	P-75
6	土師器	鉢	床直	(9.0)	7.2	5.6	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラ切り	A II	内外面にタール状炭化物付着 P-1 灯明器?
7	須恵器	坏	フク土	—	(3.5)	5.2	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り 一部ケズリ	—	外面火だすき痕 内面滑面有
8	土師器	小型土器	床直	—	(1.8)	5.4	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	—	P-55
9	土師器	甕	フク土	(18.8)	(9.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	B	P-1、3、24

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
10	フク土	7.0	6.8	4.8	270	流	砥石 S-3	

図107 第335号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
11	土師器	甕	床直 フク土	—	(6.0)	(8.2)	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	A	P-14
12	土師器	甕	フク土	—	8.5	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 P-79
14	土師器	甕	フク土	—	8.5	(9.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-47、50

図版番号	種類	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	特徴	備考
			長さ	幅	厚さ			
13	不明	カマドフク土	(3.0)	2.3	1.1	8.5	手づくね	

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
15	カマドフク土	(22.5)	9.7×11.4	3.6×4.6	(1,585)	B		羽口-5 砂粒多量
16	カマドフク土	(33.3)	8.3×8.8	3.3×3.7	(1,630)	B		羽口-4

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
17	フク土	2.9	2.0	0.1	※1.4	銅 椀	

図108 第335号竪穴住居跡出土遺物 (2)

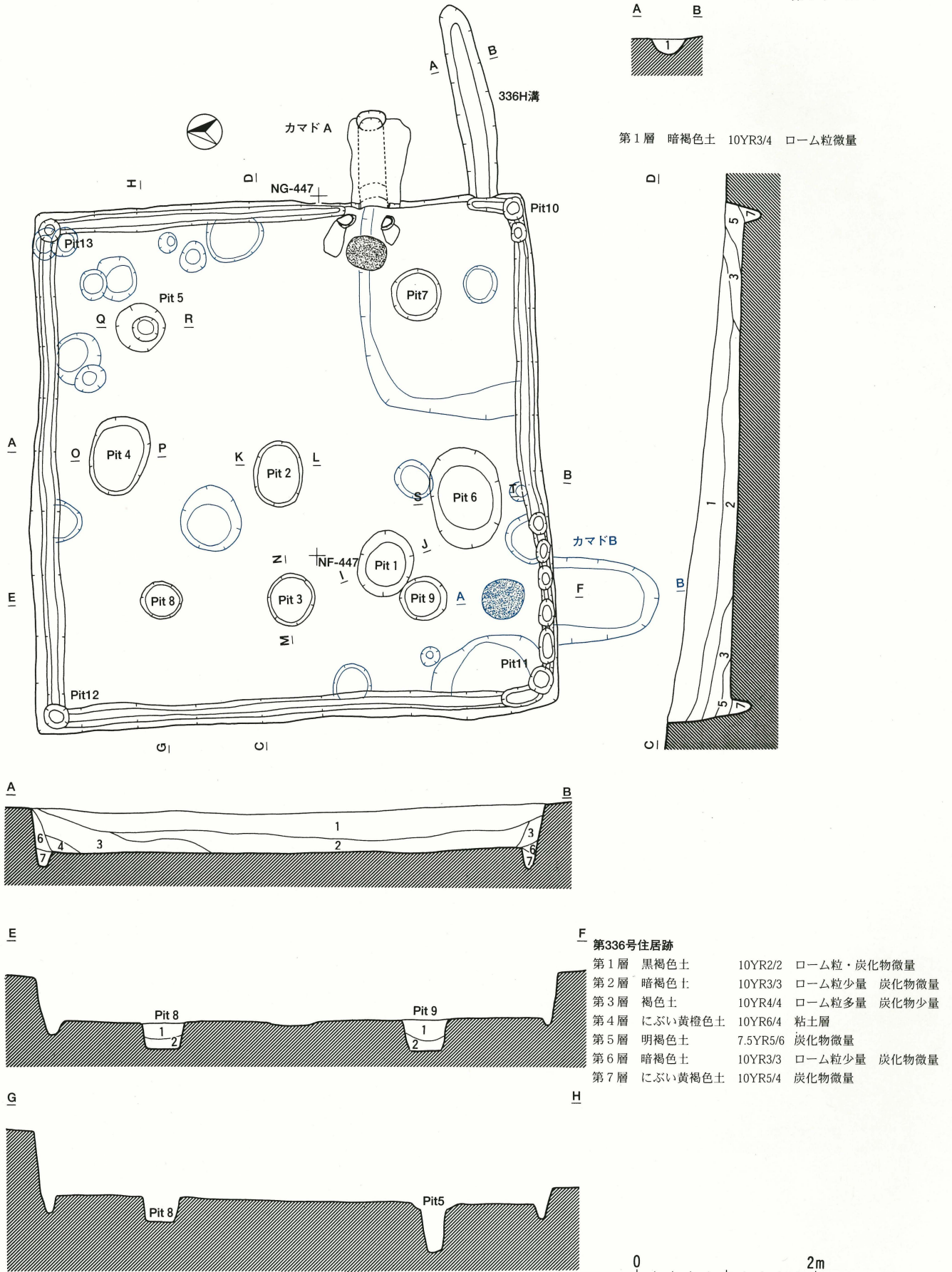
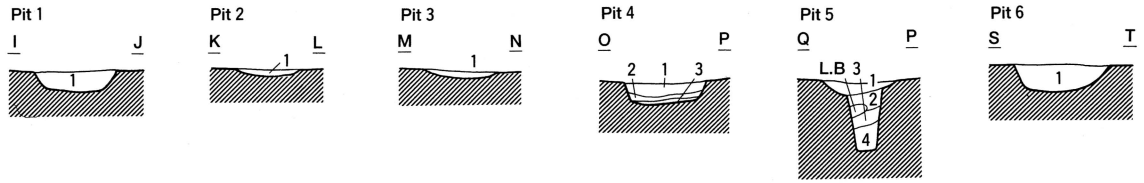
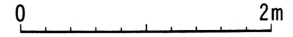


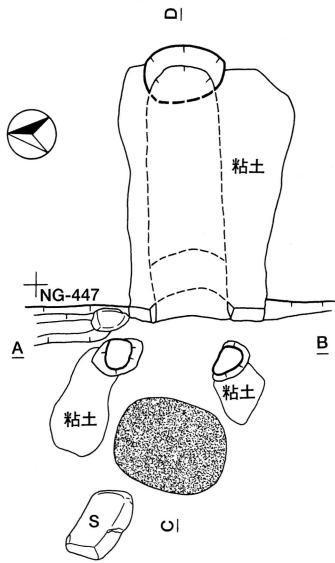
図109 第336号竪穴住居跡 (1)



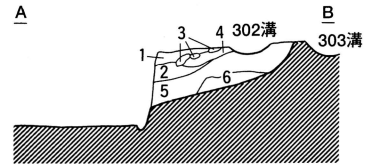
- Pit 1**
第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・炭化物少量
- Pit 2**
第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒多量 炭化物・焼土粒少量
- Pit 3**
第1層 黒褐色土 10YR3/2 ローム粒多量 炭化物・焼土粒少量 軽石微量
- Pit 4**
第1層 黒色土 10YR2/1 ローム粒多量
第2層 にぶい黄褐色土 10YR5/4 ローム粒多量
第3層 黒褐色土 10YR3/2 炭化物微量
- Pit 5**
第1層 褐色土 10YR4/4 ローム粒多量
第2層 灰黄褐色土 10YR4/2 ローム粒少量 炭化物微量
第3層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物少量 ローム粒・焼土粒微量
第4層 にぶい黄褐色土 10YR5/4 炭化物少量 ローム粒・焼土粒微量
- Pit 6**
第1層 黒褐色土 10YR3/1 炭化物多量 ローム粒少量



カマド A



カマド B



- カマド A**
- | | | | |
|------|---------|----------|------------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR3/2 | ローム粒微量 |
| 第2層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | L.B混入 |
| 第3層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | ローム粒少量 |
| 第4層 | にぶい黄褐色土 | 10YR5/4 | 炭化物混入 |
| 第5層 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | ローム粒少量 |
| 第6層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム粒・炭化物微量 |
| 第7層 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | 焼土粒多量 |
| 第8層 | 灰白色土 | 10YR8/1 | 粘土質土 |
| 第9層 | 褐色土 | 7.5YR4/6 | 焼土層 炭化物少量 |
| 第10層 | にぶい黄褐色土 | 7.5YR5/4 | 炭化物微量 |
| 第11層 | にぶい黄褐色土 | 10YR4/3 | 焼土粒微量 |

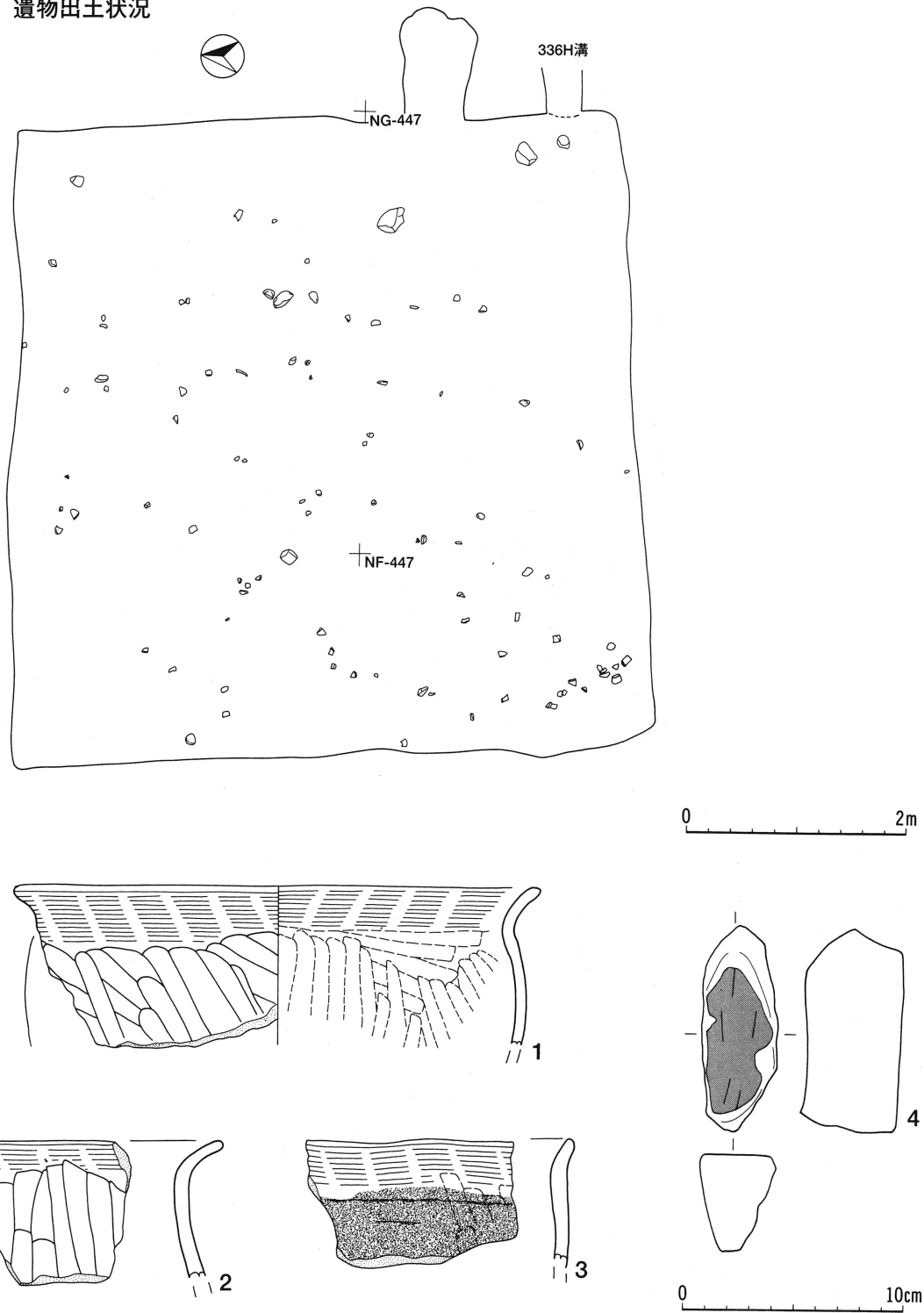
カマド B

- | | | | | |
|-----|------|----------|------------|--------------------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | L.B.・炭化物微量 | ローム粒少量 |
| 第2層 | 褐色土 | 10YR2/2 | 炭化物・焼土微量 | |
| 第3層 | 暗褐色土 | 7.5YR3/4 | L.B.微量 | ローム粒少量 焼土粒微量 炭化物少量 |
| 第4層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | 焼土ブロック | |
| 第5層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | 炭化物・L.B.微量 | 焼土ブロック |
| 第6層 | 暗褐色土 | 7.5YR3/3 | 焼土ブロック少量 | L.B.中量 ローム粒多量 |
| 第7層 | 褐色土 | 10YR4/6 | ローム | |



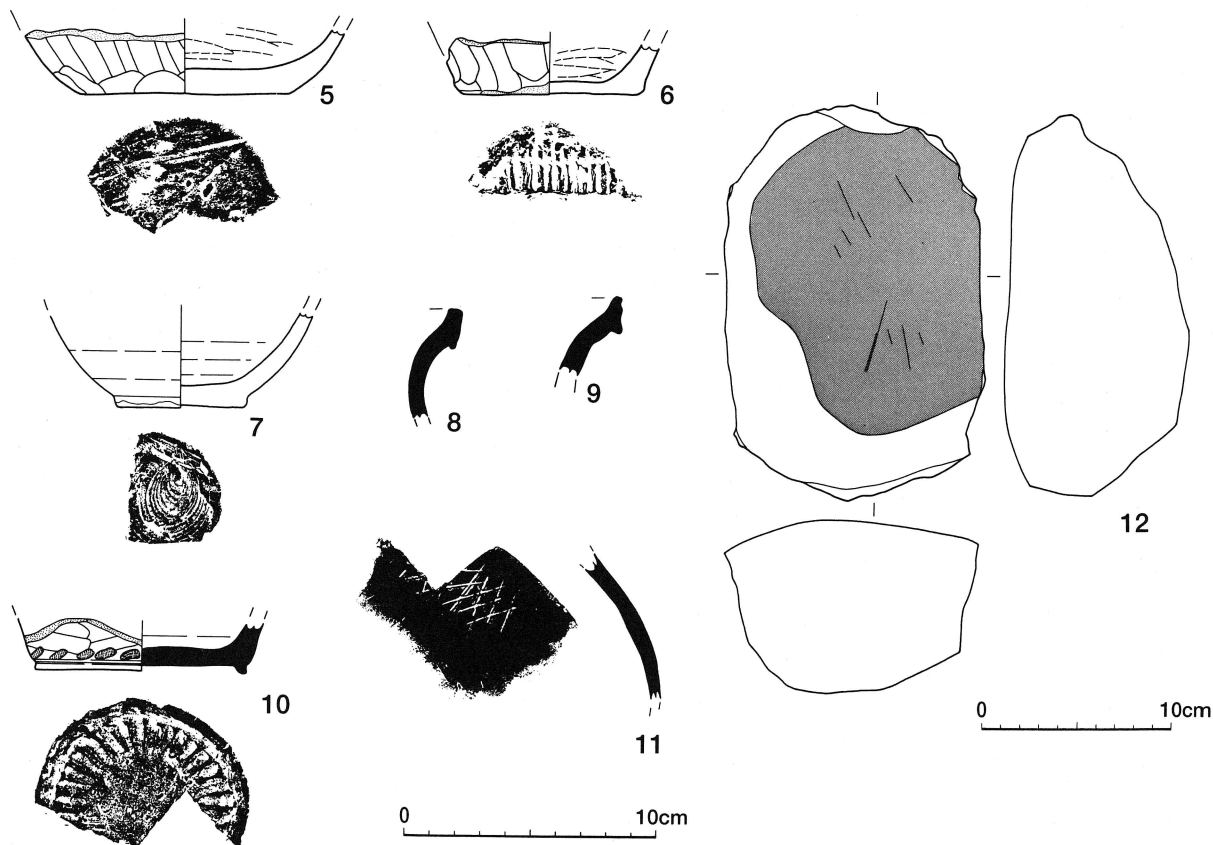
図110 第336号竪穴住居跡 (2)

遺物出土状況



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	カマドフク土	(24.0)	(7.3)	—	ヨコナデ	ハラケズリ	—	ヨコナデ	ハラナデ	—	—	A I	P-1
2	土師器	甕	フク土	—	(6.2)	—	ヨコナデ	ハラケズリ	—	ヨコナデ	ハラナデ	—	—	A	内面輪積痕
3	土師器	甕	Pit16	—	(5.9)	—	ヨコナデ	ハラナデ	—	ハラナデ	ハラナデ	—	—	A	粘土付着 外面輪積痕
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考							
		長さ	外径	内径											
4	床面	9.4	3.4	4.4	140	凝	砥石	S-11							

図111 第336号竪穴住居跡 (3) ・出土遺物 (1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
5	土師器	甕	床直	—	(2.6)	(8.4)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-47
6	土師器	甕	フク土	—	(2.2)	(7.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	善編み圧痕	A	P-15
7	土師器	坏	フク土	—	(3.8)	(5.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II	P-28
8	須恵器	甕	床直	—	(4.3)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-34
9	須恵器	壺	フク土	—	(3.1)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
10	須恵器	壺	フク土	—	(2.0)	8.4	—	—	ケズリ →指圧痕	—	—	ロクロ	菊花紋	—	P-30
11	須恵器	壺	フク土	—	(5.6)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	外面刻書

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	外径	内径				
12	床面	20.9	13.3	9.2	3,730	凝	砥石 S-7、炭化物付着	

図112 第336号竪穴住居跡出土遺物 (2)

第336号竪穴住居跡 (図109～図112)

[位置] 調査区中央部のNE～NG-446～448グリッドに位置する。

[重複] 第302号溝と重複し、本住居跡が古い。

[平面形・規模] 東壁5 m50cm、西壁5 m85cm、南壁5 m75cm、北壁5 m80cmでほぼ方形である。床面積は約31.33㎡で、主軸方位はN-88°-Eである。

[壁・床面] 東壁31cm、西壁70cm、南壁45cm、北壁48cmを測り床面からやや急に立ち上がる。床面はやや起伏がみられる。

[周溝] 幅11～24cm、深さ8～27cmの周溝がカマド南側を除いてほぼ一巡する。

[ピット] ピットは、9個検出された。柱穴は、ピット5 (55cm)、ピット7 (38cm)、ピット8

(25cm)、ピット9 (34cm) と各壁隅のピット10 (34cm)、ピット11 (27cm)、ピット12 (46cm)、ピット13 (29cm) と考えられる。

[カマド] カマド (A) は東壁南側に、ソデ部の一部が残存している。煙道は上面を粘土で覆った半地下式で、住居跡外に100cmほど延び、煙道底面は起伏を持ちながら、煙出部に向かって緩やかに立ち上がる。カマド (B) は南壁西側の貼床下から火床面が検出された。煙道部は半地下式で、住居跡外に60cm延び、煙道底面は煙出部に向かって緩やかに立ち上がる。

[その他の施設] 東壁の南隅に長さ2 m10cm、幅30～42cm、深さ12～20cmの溝を検出した。住居跡の南東隅から東側に向かって延びており、堆積土からは、水が流れた痕跡等は見られないが、形態から排水溝と考えられ住居跡に伴うものと考えられる。

[堆積土] 堆積土は7層に分層される。

[出土遺物] 覆土から土師器や須恵器の坏、甕のほか、床面から砥石が出土している。(図111)

[時期] 重複関係や出土遺物から、9世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

第337号竪穴住居跡 (図113・図114)

[位置] NK・NL-442・443グリッドに位置する。

[重複] 認められなかった。

[平面形・規模] 東壁3 m56cm、西壁3 m72cm、南壁2 m90cm、北壁2 m98cmの長方形である。床面積は10.50㎡で、主軸方位はN-118°-Eである。

[壁・床面] 壁高は東壁77cm、西壁80cm、南壁55cm、北壁60cmでほぼ垂直に立ち上がる。床面は、西側に緩やかに傾斜する。

[周溝] 南壁中央部に幅6～20cm、深さ10～20cmの周溝を西壁、南壁、北壁に検出した。

[ピット] ピットは12個検出された。東壁北側に、長軸74cm、短軸58cm、深さ16cmのピット (ピット3) を検出した。柱穴は各隅のピットと考える。

[カマド] 東壁南側に構築され、礫を芯材に転用して粘土を覆って築いている。焚き口部に検出されたピットは支脚の抜き取り痕と考えられる。煙道は半地下式で、住居跡外に22cmほどのびる。煙道底面は煙出部に向かって水平に掘り込まれている。

[堆積土] 堆積土は6層に分層され、2層と6層にT o - a火山灰が堆積している。

[出土遺物] 覆土から土師器の甕が出土している。

[時期] 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

(齋藤由美子)

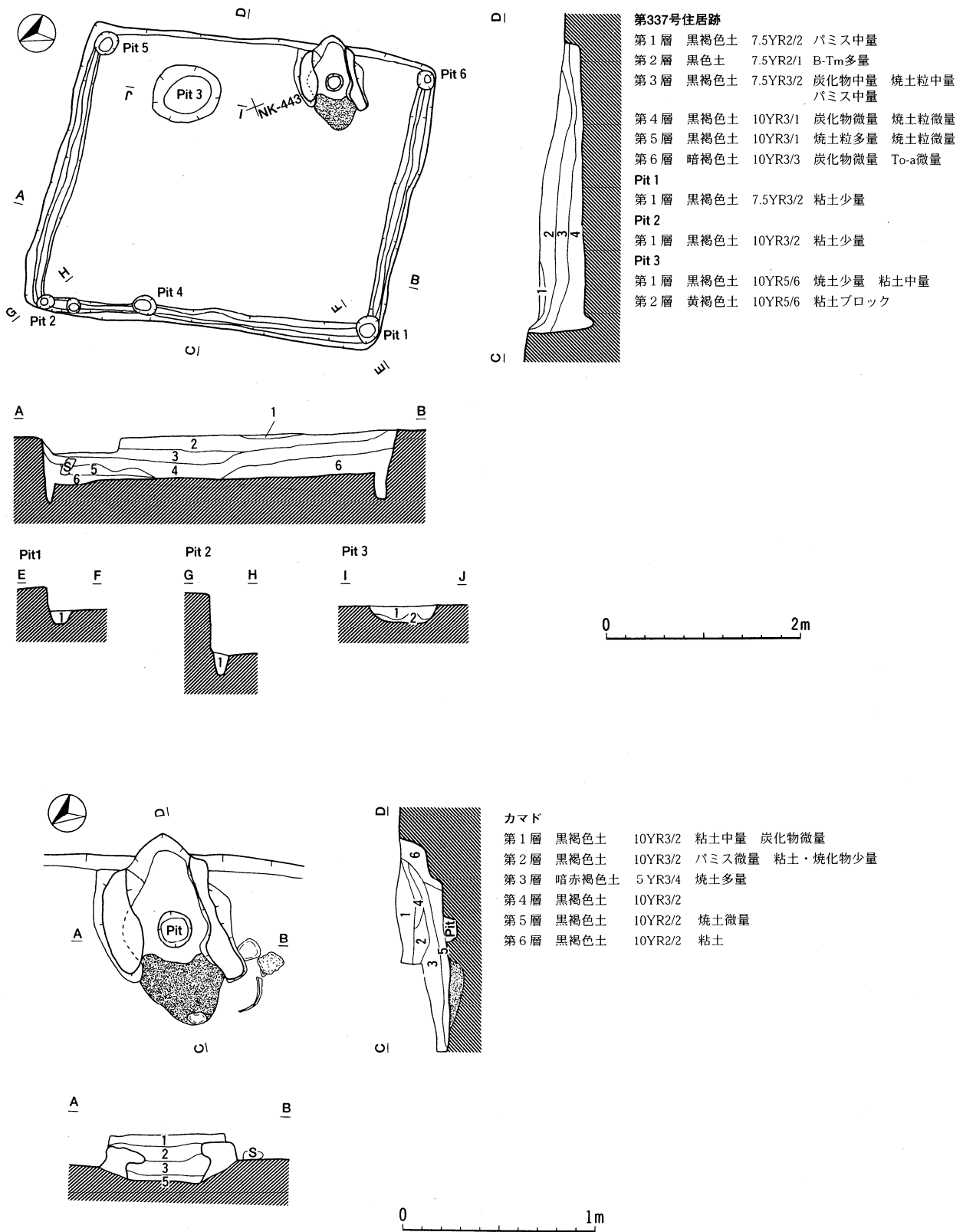
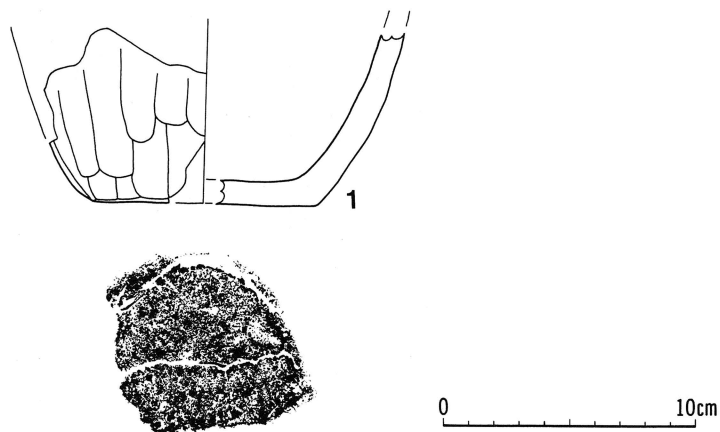


図113 第337号竪穴住居跡



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	カマド フク土	—	(6.9)	(9.0)	—	ハラケズリ	ハラケズリ	—	不明	不明	ナデツケ	A	P-1

図114 第337号 竪穴住居跡出土遺物

第338号竪穴住居跡 (図115・図116)

[位 置] 調査区北東部のNN・NO-441・442グリッドに位置する。

[重 複] 認められなかった。

[平面形・規模] 東壁2m43cm、西壁2m95cm、南壁2m90cm、北壁2m85cmで、南西隅やや拡がる方形である。床面積は約7.10㎡で、主軸方位はN-157°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁12cm、西壁40cm、南壁28cm、北壁30cmで床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面は、ほぼ平坦で、床面に焼土と炭化材を検出している。

[周 溝] 幅10~18cm、深さ13~35cmの周溝が一巡する。

[ピット] 検出されなかった。

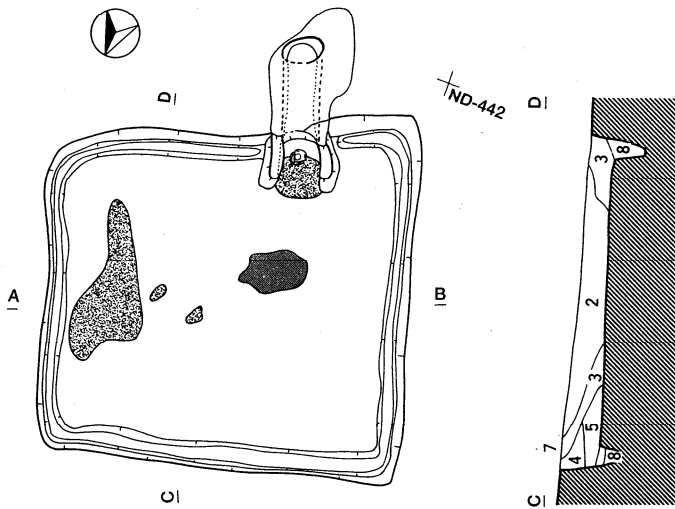
[カマド] 南壁西側に羽口を芯材としてこの上に粘土を用いて本体を構築している。焚口部には土師器の坏と甕を2つ重ね支脚としている。煙道は半地下式で、住居跡外に70cmほど延び、煙道底面は煙出部に向かって緩やかに上がり煙出部でやや落込みほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 堆積土は8層に分層され、炭化物と焼土が含まれている。

[出土遺物] カマドから土師器の坏や甕のほか、羽口などが出土している。

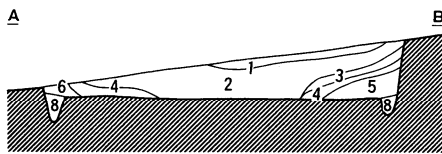
[時 期] 出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

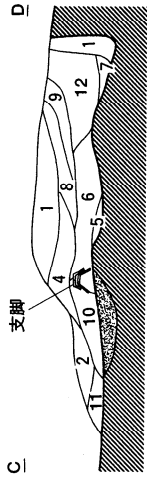
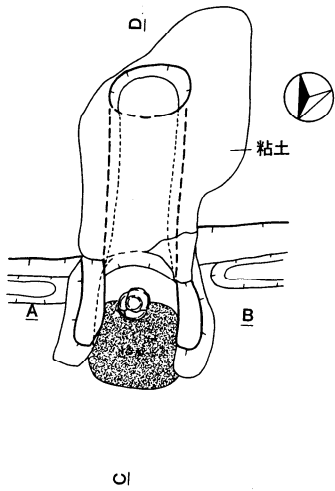


第338号住居跡

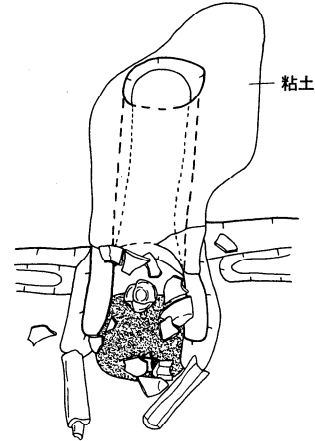
第1層	黒褐色土 10YR3/2	褐色土(10YR4/4)混入 炭化物・焼土粒少量	ローム粒中量
第2層	黒褐色土 10YR2/2	褐色土(10YR4/4)混入 炭化物・焼土粒少量	ローム粒中量
第3層	黒褐色土 10YR3/2	ローム粒中量 炭化物・焼土粒少量	
第4層	暗褐色土 10YR3/3	褐色土(10YR4/4)混入 焼土粒微量	ローム粒・炭化物少量
第5層	黒褐色土 10YR2/2	ローム粒・炭化物・焼土粒少量	
第6層	暗褐色土 10YR3/3	ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量	
第7層	黒褐色土 10YR2/2	ローム粒・炭化物・焼土粒少量	
第8層	暗褐色土 10YR3/3	ローム粒多量 炭化物少量 焼土粒微量	



0 2m

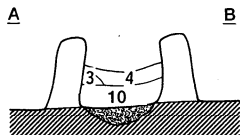


カマド遺物出土状況



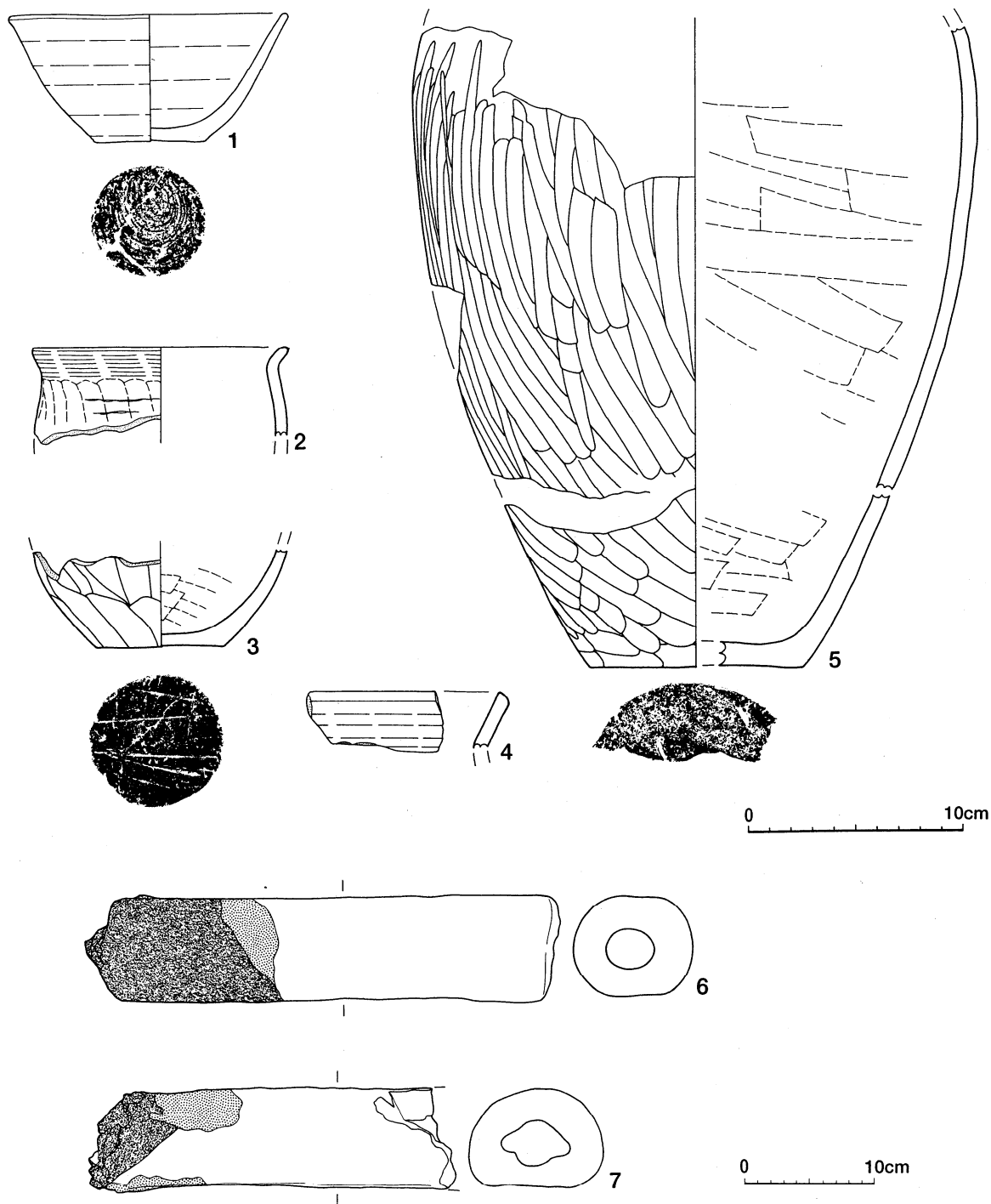
カマド

第1層	にぶい褐色土 10YR4/3	ローム粒・炭化物中量 焼土粒微量
第2層	黒褐色土 10YR3/1	ローム粒中量 炭化物少量 焼土粒微量
第3層	明褐色土 7.5YR5/6	
第4層	褐色土 10YR4/4	ローム粒・焼土粒少量 炭化物微量
第5層	暗褐色土 10YR3/4	焼土粒中量 ローム粒少量 炭化物微量
第6層	暗褐色土 7.5YR3/4	焼土粒多量 ローム粒・炭化物中量
第7層	明褐色土 7.5YR5/6	
第8層	赤褐色土 5YR4/4	暗褐色土(7.5YR3/4)混入 ローム粒・炭化物少量
第9層	褐色土 7.5YR4/6	明褐色土(7.5YR5/8)混入 ローム粒少量
第10層	褐色土 7.5YR4/4	焼土粒中量 ローム粒・炭化物少量
第11層	明褐色土 7.5YR5/8	焼土粒中量 ローム粒・炭化物少量
第12層	褐色土 10YR4/4	



0 1m

図115 第338号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	カマドフク土	(13.0)	6.0	5.2	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転系切り	B II b	P-2 支脚
2	土師器	甕	カマドフク土	(12.0)	(4.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	不明	不明	—	—	A	外面輪稜痕、磨減激しい P-46, 87
3	土師器	甕	カマドフク土	—	(4.4)	(6.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-1 支脚
4	土師器	甕	カマドフク土	—	(2.9)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	B	
5	土師器	甕	カマドフク土	—	(30.0)	(10.0)	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	A I	P-1, 2, 3, 5, 6, 8, 10, 11, 14, 19

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
6	カマド床直	37.0	(8.3) × (5.1)	3.8 × 3.1	(1,660)	B	羽口-1	
7	カマド床直	(28.6)	7.6 × 10.3	3.5 × 5.4	(1,770)	C	ナデ 羽口-2	

図116 第338号竪穴住居跡出土遺物

第339号竪穴住居跡（図117～図120）

〔位置〕 調査区北東部のNO・NP-439・440グリッドに位置する。

〔重複〕 認められなかった。

〔平面形・規模〕 東壁3m86cm、西壁4m05cm、南壁4m35cm、北壁4m15cmのほぼ方形である。床面積は約16.32㎡で、主軸方位はN-159°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁20cm、西壁60cm、南壁30cm、北壁50cmで床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面にはやや起伏がみられる。

〔周溝〕 幅10～24cm、深さ9～25cmの周溝が一巡する。

〔ピット〕 ピットが4個検出されたが、いずれも柱穴とは考えられない。ピット3（深さ20cm）から多量の焼土とともに土師器などの遺物が出土している。（図118）

〔カマド〕 南壁西側に粘土を用いて構築されている。煙道は半地下式で、住居跡外に70cmほどのびる。煙道底面は煙道中央付近までやや急に上がり、煙出部で少し下がってから急に立ち上がる。

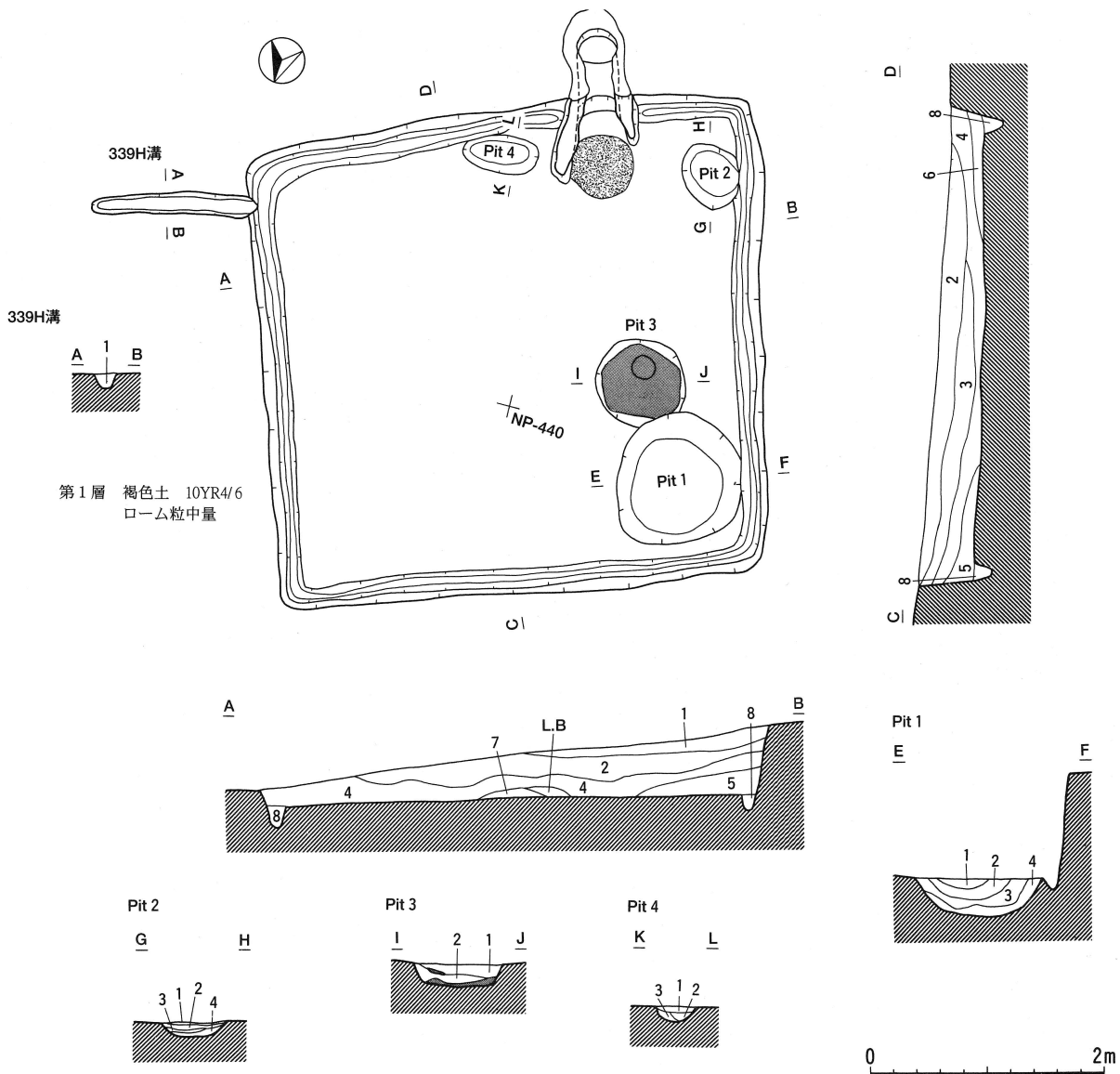
〔その他の施設〕 東壁の南隅に長さ1m40cm、幅15～20cm、深さ14cmの溝を検出した。住居跡の南東隅から東側に向かって延びており、堆積土からは、水が流れた痕跡等は見られないが、形態から排水溝と考えられ住居跡に伴うものと考えられる。

〔堆積土〕 堆積土は8層に分層される。

〔出土遺物〕 土師器の坏、甕のほか、土玉（図120-18）、羽口、砥石などが出土している。（図118）

〔時期〕 出土遺物から、9世紀中葉に構築されたと考えられる。

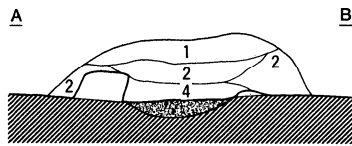
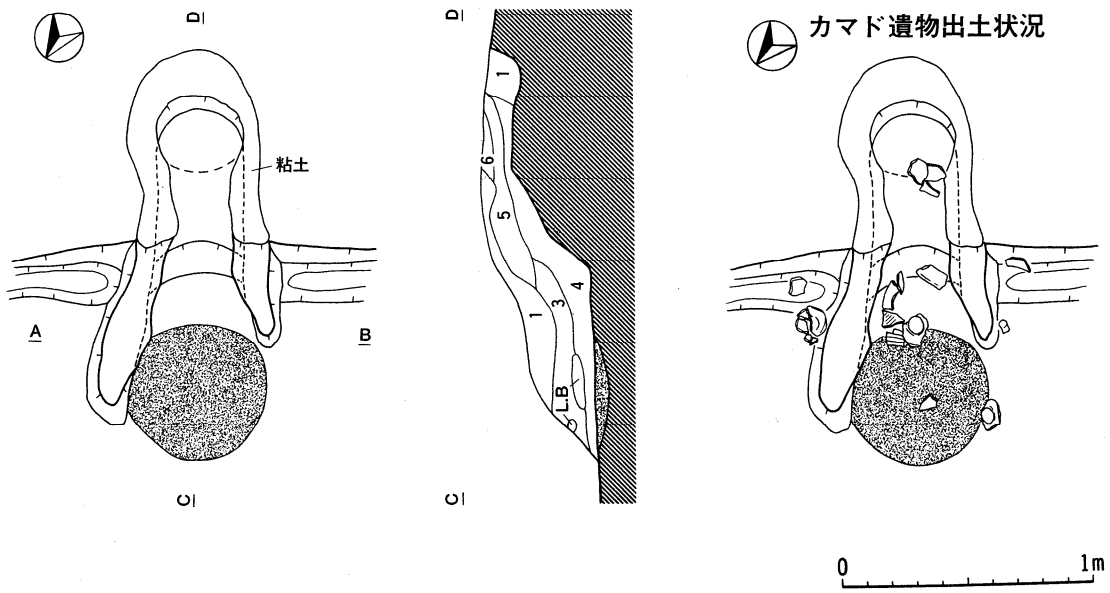
（中嶋友文）



第339号住居跡

第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒中量 炭化物・焼土粒少量
第2層	黒褐色土	10YR2/3	褐色土(10YR4/4)混入 ローム粒多量 炭化物・焼土粒少量
第3層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒多量 L.B・炭化物少量 焼土粒微量
第4層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量 炭化物・焼土粒微量
第5層	暗褐色土	10YR3/3	黒色土(10YR2/1)混入 ローム粒中量 炭化物・焼土粒微量
第6層	褐色土	10YR4/6	
第7層	黒色土	10YR2/1	ローム粒少量
第8層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒中量 ローム粒少量
Pit 1			
第1層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物中量 焼土粒微量
第2層	黒褐色土	10YR2/3	褐色土(10YR4/6)混入 ローム粒・炭化物中量 焼土粒微量
第3層	黒褐色土	10YR3/2	炭化物中量 ローム粒少量 焼土粒微量
第4層	暗褐色土	10YR3/3	L.B中量 ローム粒・炭化物少量 焼土粒微量
Pit 2			
第1層	黒褐色土	7.5YR2/2	ローム粒・炭化物粒少量 焼土粒多量
第2層	赤褐色土	5YR4/8	ローム粒・炭化物少量
第3層	褐色土	7.5YR4/6	ローム粒・炭化物粒・焼土ブロック少量 焼土粒中量
第4層	褐色土	7.5YR4/4	ローム粒少量 焼土ブロック・炭化物中量 焼土粒多量
Pit 3			
第1層	黄褐色土	5YR5/6	
第2層	褐色土	10YR4/4	ローム粒・炭化物粒少量
Pit 4			
第1層	暗褐色土	10YR3/3	ローム粒少量 炭化物・焼土粒中量
第2層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	炭化物粒少量 ローム粒中量
第3層	褐色土	10YR4/6	

図117 第339号竪穴住居跡(1)



カマド

- | | | |
|-----|---------------|---------------------------------|
| 第1層 | 暗褐色土 10YR3/3 | ローム粒・炭化物・焼土粒微量 |
| 第2層 | 黒褐色土 10YR3/2 | 黒土(10YR2/1)混入 ローム粒中量 炭化物・焼土粒微量 |
| 第3層 | 黒褐色土 7.5YR3/2 | L.B.・炭化物・焼土ブロック少量 |
| 第4層 | 褐色土 7.5YR4/4 | 焼土粒多量 炭化物中量 L.B.少量 |
| 第5層 | 赤褐色土 5 YR4/8 | 黒褐色土(7.5YR 3/2)・褐色土(7.5YR4/6)混入 |
| 第6層 | 黒褐色土 10YR2/2 | 炭化物・焼土粒微量 |

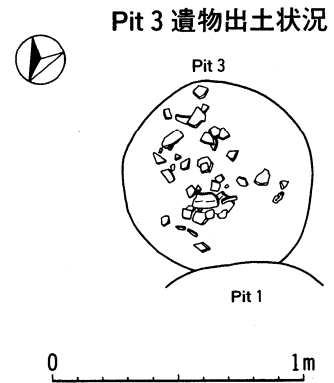
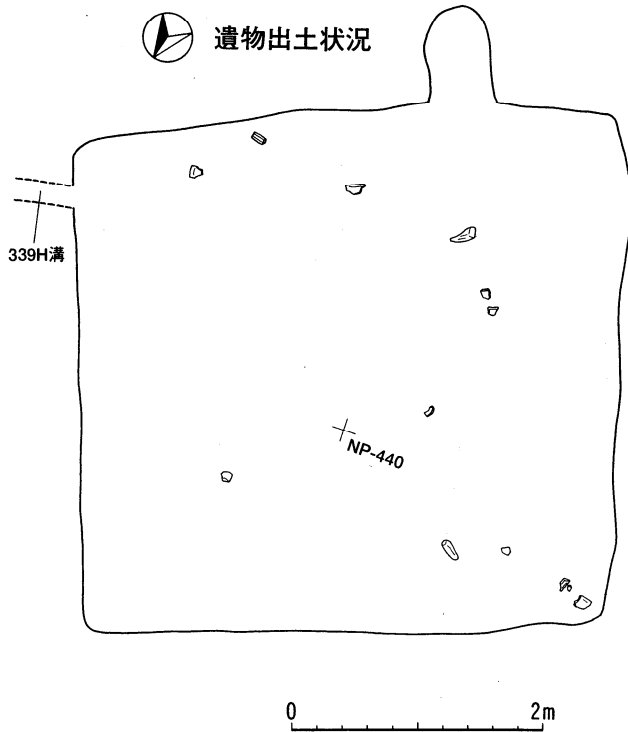
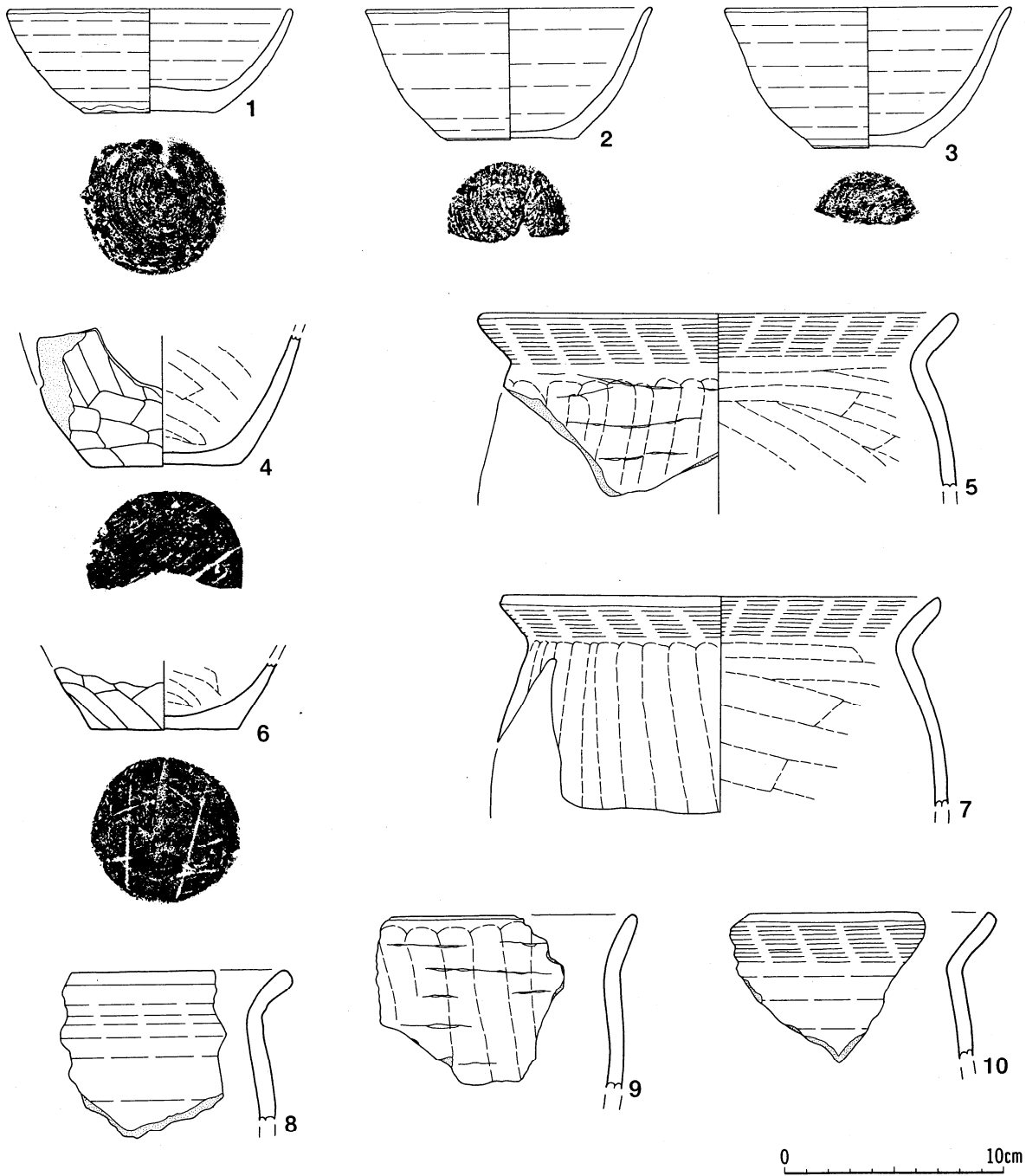
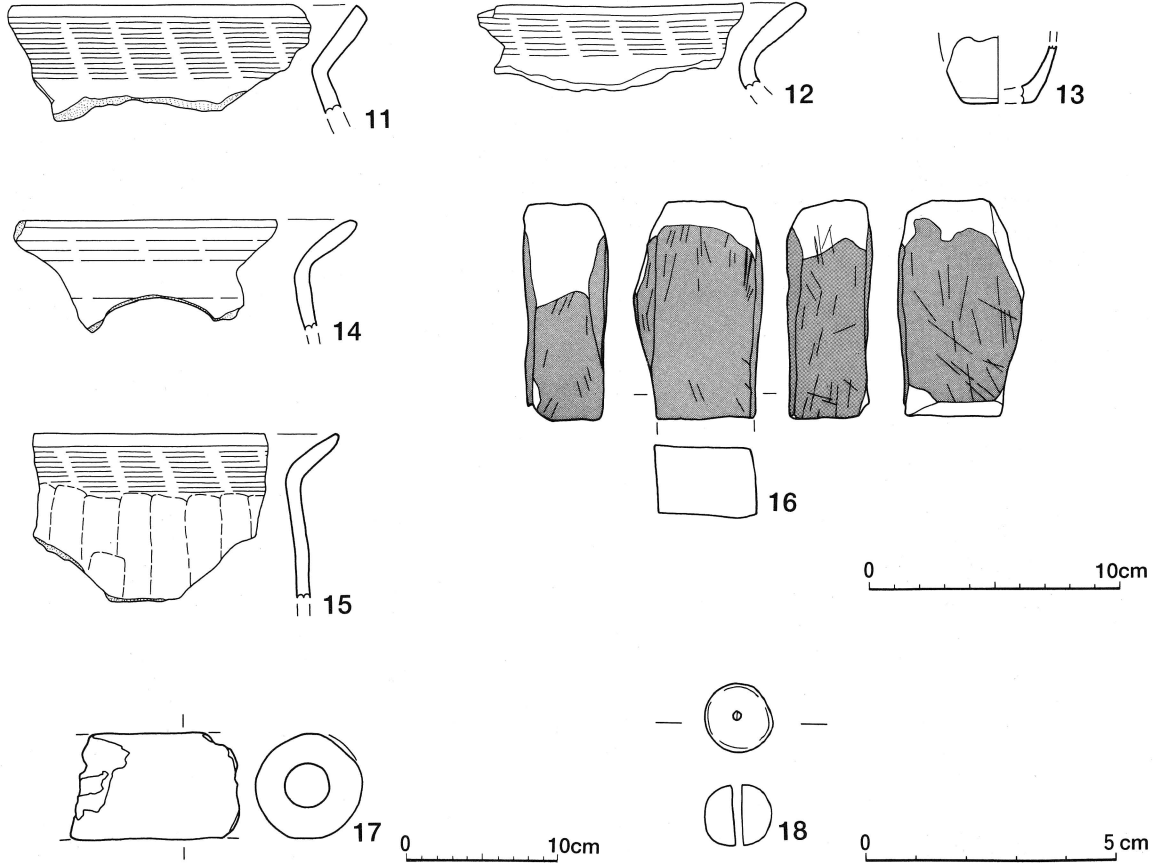


図118 第339号竪穴住居跡(1)



図版 番号	種類	器種	出土層位	計測値(cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	カマド フク土	(13.0)	4.8	6.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II b	P-3
2	土師器	坏	Pit 2 フク土	13.0	6.1	(6.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II b	P-19、20、22、34
3	土師器	坏	カマド フク土	(13.2)	6.5	(5.0)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II b	P-5
4	土師器	甕	フク土	(6.3)	7.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラ切り	ヘラ切り	A	外面剥落 P-4
5	土師器	甕	フク土	(22.0)	(8.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-7
6	土師器	甕	カマド フク土	—	(3.2)	7.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-4
7	土師器	甕	フク土	(20.0)	(10.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-1
8	土師器	甕	フク土	(26.0)	(6.9)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	B	P-6
9	土師器	甕	Pit 2 フク土	(22.0)	(7.9)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪痕 P-26
10	土師器	甕	カマド フク土	—	6.8	—	ヨコナデ	ロクロ	—	—	—	—	—	B	P-9

図119 第339号竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
11	土師器	甕	Pit2 フク土	—	4.4	—	ヨコナデ	—	—	—	—	—	—	B?	P-19
12	土師器	甕	カマド フク土	—	(4.2)	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ?	—	—	—	A?	P-10
13	土師器	小型土器	カマド フク土	—	(2.6)	(2.8)	—	—	不明	—	—	不明	ナデ?	—	
14	土師器	甕	フク土	(20.2)	(4.4)	—	ロクロ	—	—	ヨコナデ?	—	—	—	B	P-2
15	土師器	甕	フク土	(20.2)	(6.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	不明	不明	—	—	A	P-8

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ(g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
16	貼床	8.7	5.1	2.7	240	細凝	砥石	S-3

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ(g)	分類	調整	備考
		長さ	幅	厚さ				
17	カマドフク土	(11.2)	7.0	3.0	(480)	B	羽口-2	

図版番号	種類	出土層位	計測値 (cm)			重さ(g)	特徴	備考
			長さ	幅	厚さ			
18	土玉	フク土	1.4	1.4	1.2	2.9	穿孔あり 球形	

図120 第339号竪穴住居出土遺跡 (2)

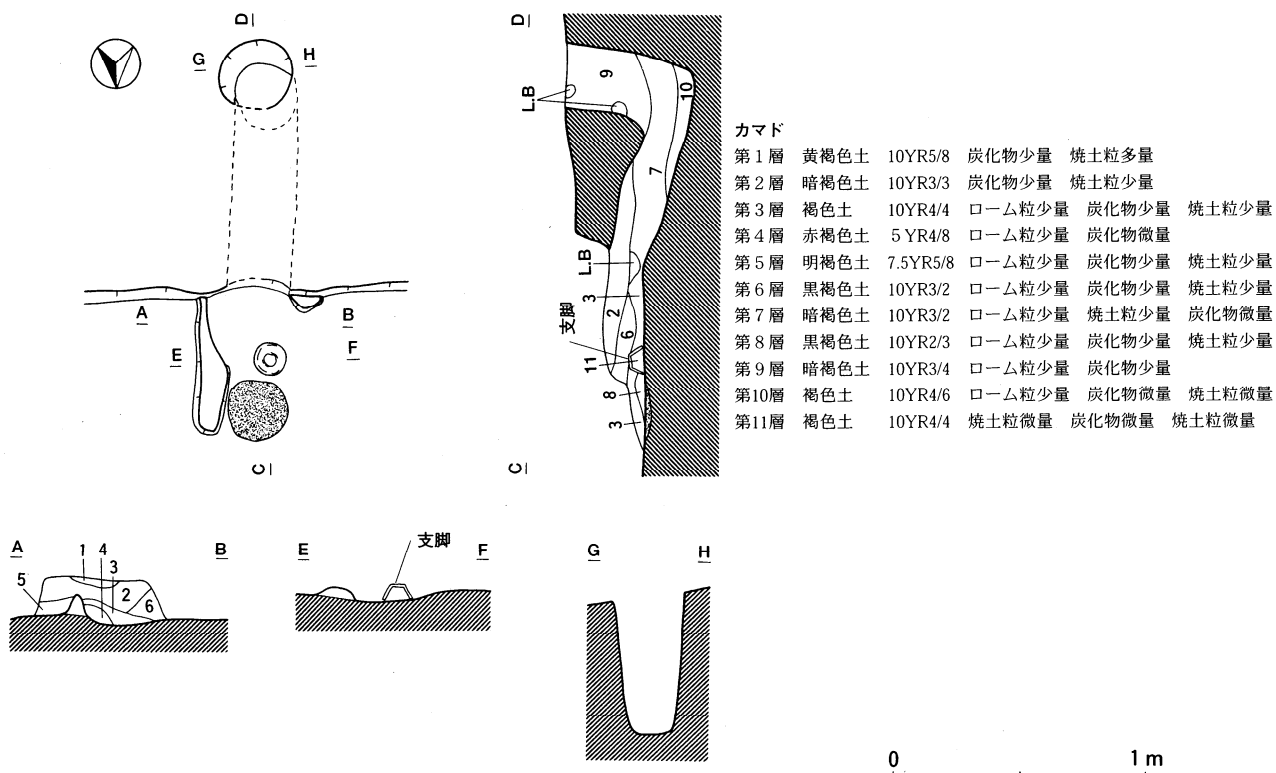
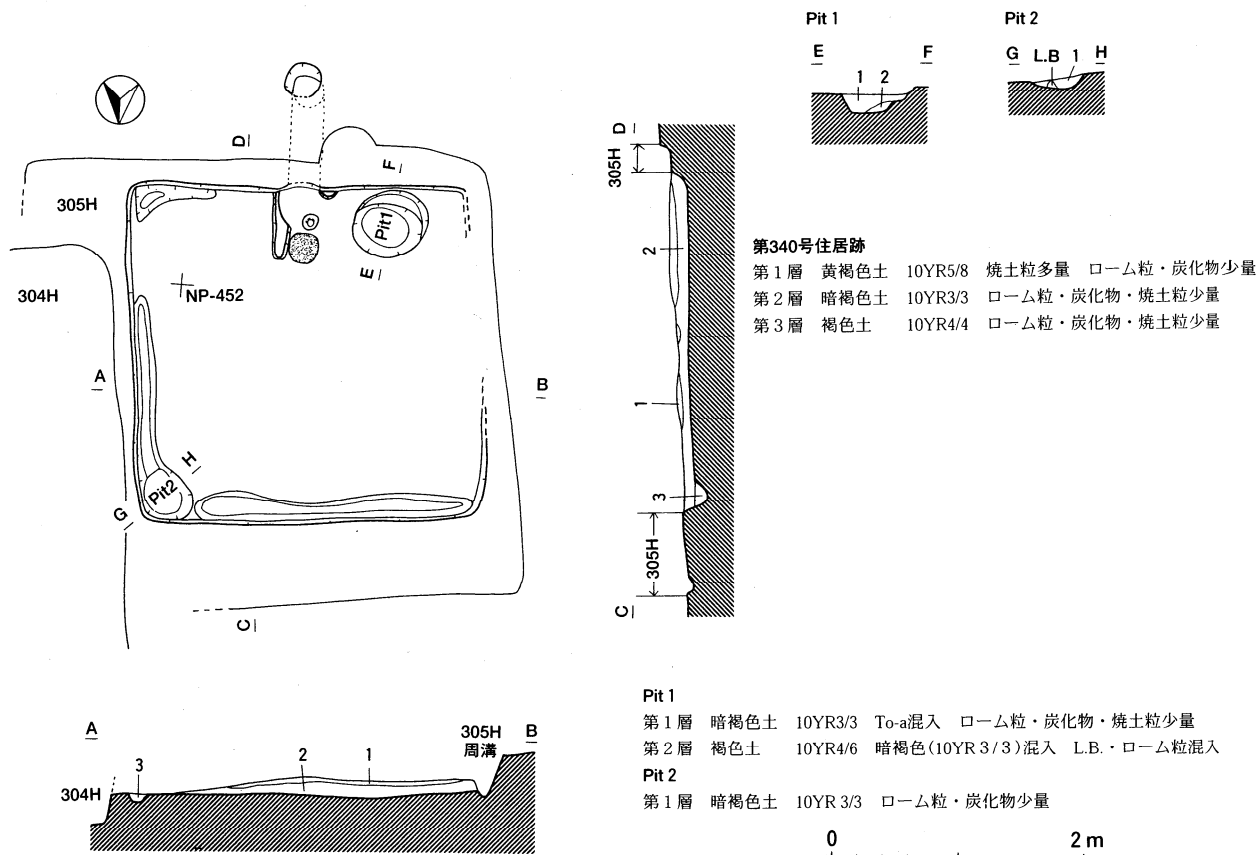
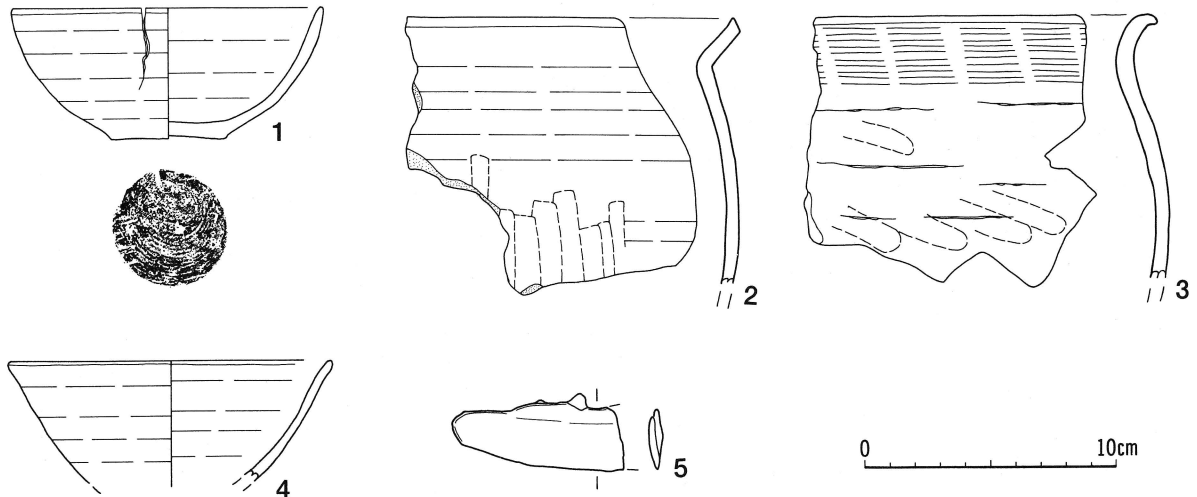


図121 第340号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	カマド床面	12.4	5.2	4.4	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II b	P- 支脚
2	土師器	甕	カマドフク土	—	(10.7)	—	ロクロ	ロクロヘラナデ	—	ロクロ	ロクロヘラナデ	—	—	B	P-4
3	土師器	甕	床面・床直	(20.0)	(10.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 P-1, 2, 3
4	土師器	坏	床直	13.0	(5.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	外面磨減が激しい P-4, 5
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考								
		長さ	幅	厚さ											
5	床面	6.7	2.4	0.6	21.6	刀子?	Fe-1 2個体								

図122 第340号 竪穴住居跡出土遺物

第340号 竪穴住居跡 (図121・図122)

[位置] 調査区東側のNO・NP-451・452グリッドに位置する。

[重複] 第305号住居跡と重複し、本住居跡が古い。

[平面形・規模] 上部を第305号住居跡によって削平されているが、東壁2m70cm、西壁2m58cm、南壁2m66cm、北壁2m70cmを測り、ほぼ方形と考えられる。床面積は約7.07㎡である。主軸方位はN-173°-Eである。

[壁・床面] 上部が削平されているため、壁高は不明である。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 幅10~24cm、深さ6~12cmの周溝が北側と東側に検出された。

[ピット] ピットが2個検出され、ピット1はカマドの西側に径55cm、深さ15cmで、1層にT o - a火山灰が堆積している。用途等については不明である。

[カマド] 南壁中央に構築されている。焚口部には土師器の坏を伏せて支脚としている。煙道は地山掘り抜いた地下式で、煙道底面は煙出部に向かって緩やかに下り、煙出部のピット(深さ100cm)につながりほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 堆積土は3層に分層され、1層に焼土が多量に含まれている。

[出土遺物] 覆土から土師器の坏や甕などのほか、鉄製の刀子が床面から出土している。

[時期] 重複関係や出土遺物から、9世紀中葉~後半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

第341号竪穴住居跡（図123～図125）

〔位置〕 調査区中央部のND・NE-447～449グリッドに位置する。

〔重複〕 第302号溝、第303号溝、第322号竪穴住居跡溝、第336号竪穴住居跡と重複し、本住居跡が一番古い。

〔平面形・規模〕 東壁4m45cm、西壁4m54cm、南壁3m60cm、北壁3m40cmを測り、平面形は長方形である。床面積は約15.87㎡で、主軸方位はN-80°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁52cm、西壁91cm、南壁56cm、北壁90cmで床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦で堅く締まっている。

〔周溝〕 幅7～15cm、深さ5～15cmの周溝が、カマドのある東壁を除いて断片的に検出されている。

〔ピット〕 検出されたピットは15個である。西側の壁際に深さ7～12cmのピットが並んでいる。用途などについては不明である。

〔カマド〕 東壁北側に粘土を用いて構築している。焚口部には土師器を支脚とし、煙道は半地下式で、住居跡外に60cmほど延び、煙道底面は煙出部に向かってやや急に立ち上がる。

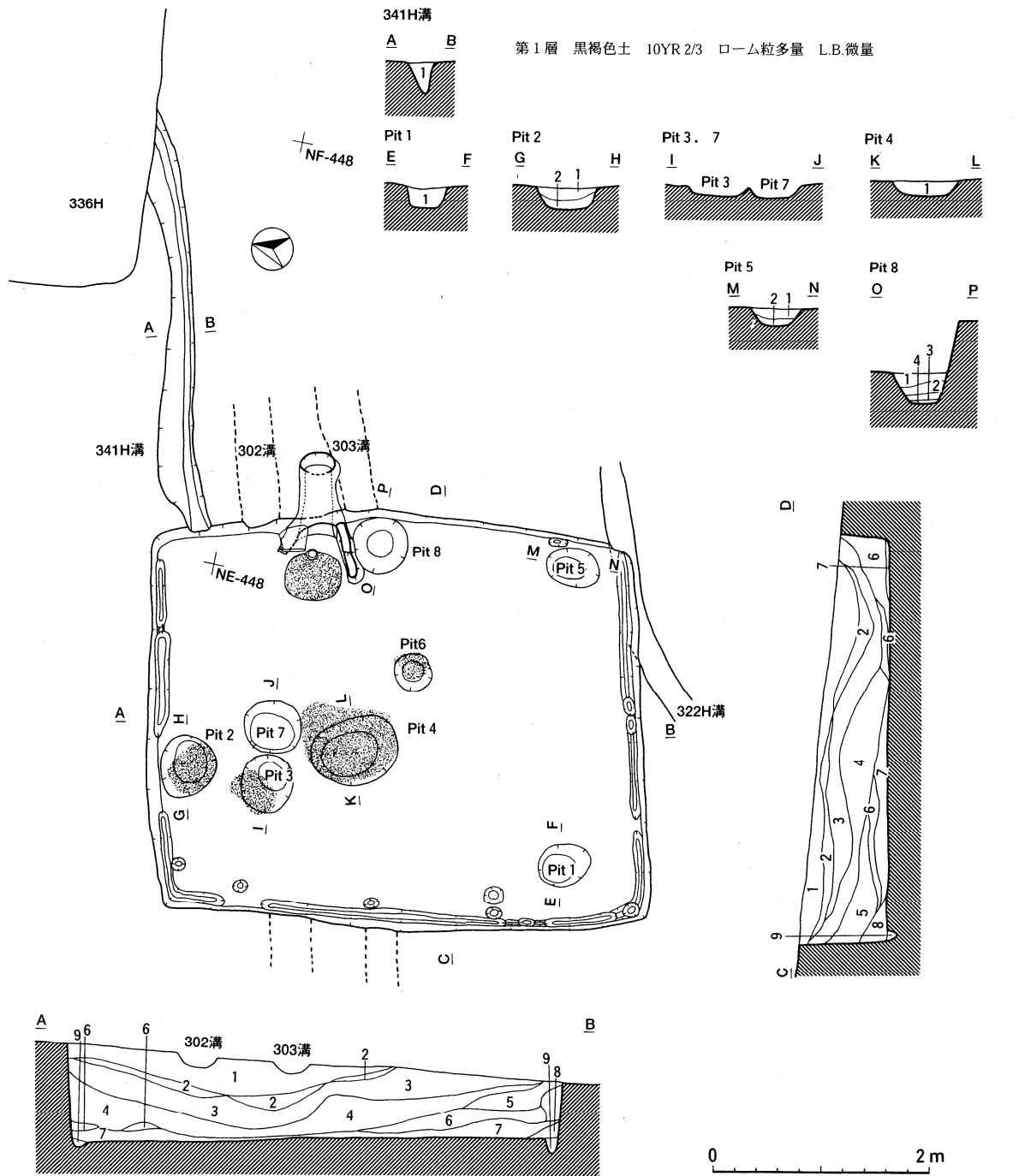
〔その他の施設〕 東壁の北隅に長さ3m80cm、幅20～38cm、深さ20～34cmの溝を検出した。住居跡の北東隅から東側に向かって延びており、堆積土からは、水が流れた痕跡等は見られないが、形態から排水溝と考えられ住居跡に伴うものと考えられる。

〔堆積土〕 堆積土は9層に分層され、4層と6層にB-Tm火山灰が混入している。

〔出土遺物〕 覆土から土師器や須恵器の坏、甕などが出土している。

〔時期〕 火山灰の堆積状況、重複関係、出土遺物から、9世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（中嶋友文）



第341号住居跡

- | | | | |
|-----|--------|---------|-----------------------|
| 第1層 | 褐色土 | 10YR4/4 | ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量 |
| 第2層 | 明黄褐色土 | 10YR6/6 | ローム粒多量 炭化物微量 |
| 第3層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | ローム粒中量 炭化物微量 |
| 第4層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | B-Tm混入 ローム粒少量 |
| 第5層 | にぶい黄褐色 | 10YR4/3 | L.B.・ローム粒多量 |
| 第6層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | B-Tm混入 ローム粒・炭化物・焼土粒少量 |
| 第7層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | L.B.・ローム粒多量 炭化物・焼土粒少量 |
| 第8層 | 暗褐色土 | 10YR3/3 | 炭化物多量 ローム粒・焼土粒少量 |
| 第9層 | 褐色土 | 10YR4/6 | 粘土質土 ローム粒混入 |

Pit 1

- | | | | |
|-----|------|---------|--------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム粒少量 |
|-----|------|---------|--------|

Pit 2

- | | | | |
|-----|------|---------|----------------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR3/1 | 褐色土(10YR4/6)混入 |
| 第2層 | 黒褐色土 | 10YR2/2 | ローム粒少量 |

Pit 4

- | | | | |
|-----|------|---------|-------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR3/4 | 焼土粒多量 |
|-----|------|---------|-------|

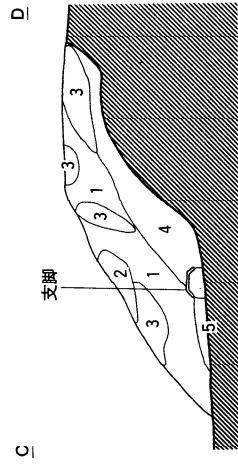
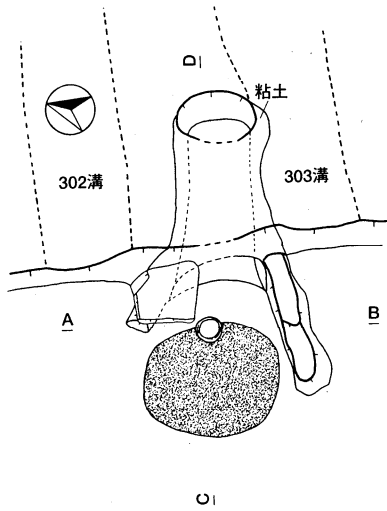
Pit 5

- | | | | |
|-----|------|---------|--------|
| 第1層 | 黒褐色土 | 10YR2/3 | ローム粒少量 |
| 第2層 | 褐色土 | 10YR4/6 | |

Pit 8

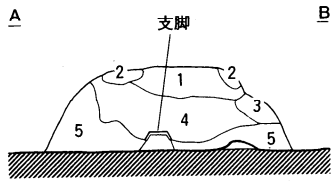
- | | | | |
|-----|-------|---------|-------------|
| 第1層 | 暗褐色土 | 10YR3/4 | 焼土粒多量 炭化物少量 |
| 第2層 | 黄褐色土 | 10YR5/8 | しまりかなりあり |
| 第3層 | 黄褐色土 | 10YR5/6 | ローム粒多量 |
| 第4層 | 明黄褐色土 | 10YR6/8 | ローム粒多量 |

図123 第341号竪穴住居跡(1)



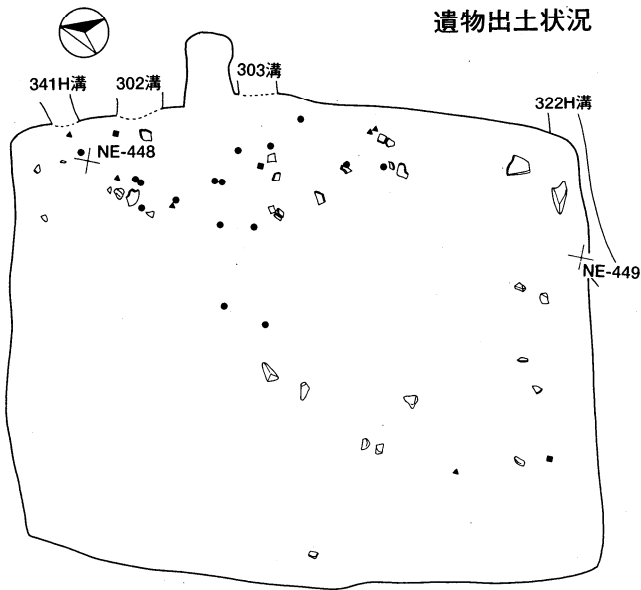
カマド

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒中量
第2層	褐色土	10YR4/6	ローム層 しまりかなりあり
第3層	暗褐色土	10YR3/4	ローム粒多量
第4層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	
第5層	黒褐色土	10YR3/1	ローム粒中量



0 1 m

遺物出土状況



0 2 m

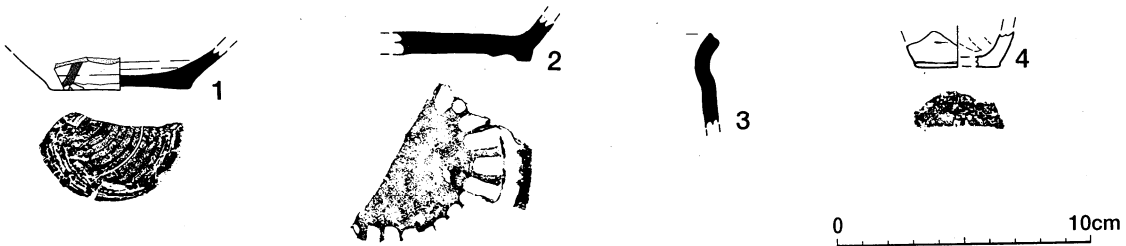
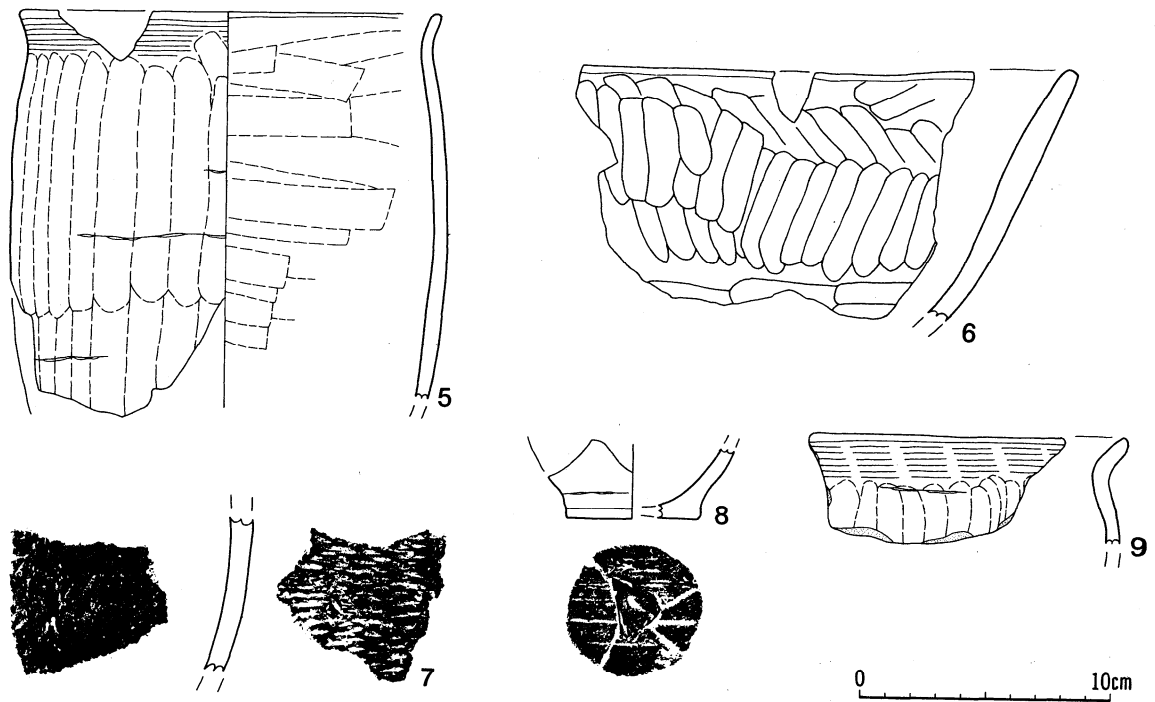


図124 第341号竪穴住居跡(2)・出土遺物(1)



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	須恵器	坏	フク土	—	(1.4)	5.6	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転系切り→ 一部ケズリ	—	外面火だすき痕
2	須恵器	壺	フク土	—	(1.8)	—	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	菊花文	—	P-6
3	須恵器	甕	フク土	—	(3.5)	—	ロクロ	—	—	—	—	—	—	—	—
4	土師器	小型土器	フク土	—	(1.5)	(4.0)	—	—	ナデ?	—	—	ヘラナデ	ナデ?	—	外面輪積痕
5	土師器	甕	Pit4床上 カマドフク土	(17.0)	(15.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 P-9、11、15
6	土師器	埴?	カマド フク土	(29.0)	(10.0)	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	—	P-27、28、29
7	土師器	甕	フク土	—	(5.6)	—	—	タタキ目	—	—	タタキ目	—	—	—	—
8	土師器	坏?	Pit3 フク土	—	(2.8)	(5.2)	—	不明	不明	—	不明	不明	ヘラケズリ	—	内外面に輪積痕
9	土師器	甕	フク土	—	4.3	—	ヨコナデ	ナデ	—	ヨコナデ	ナデ	—	—	A	輪積痕 P-8

図125 第341号竪穴住居跡出土遺物 (2)

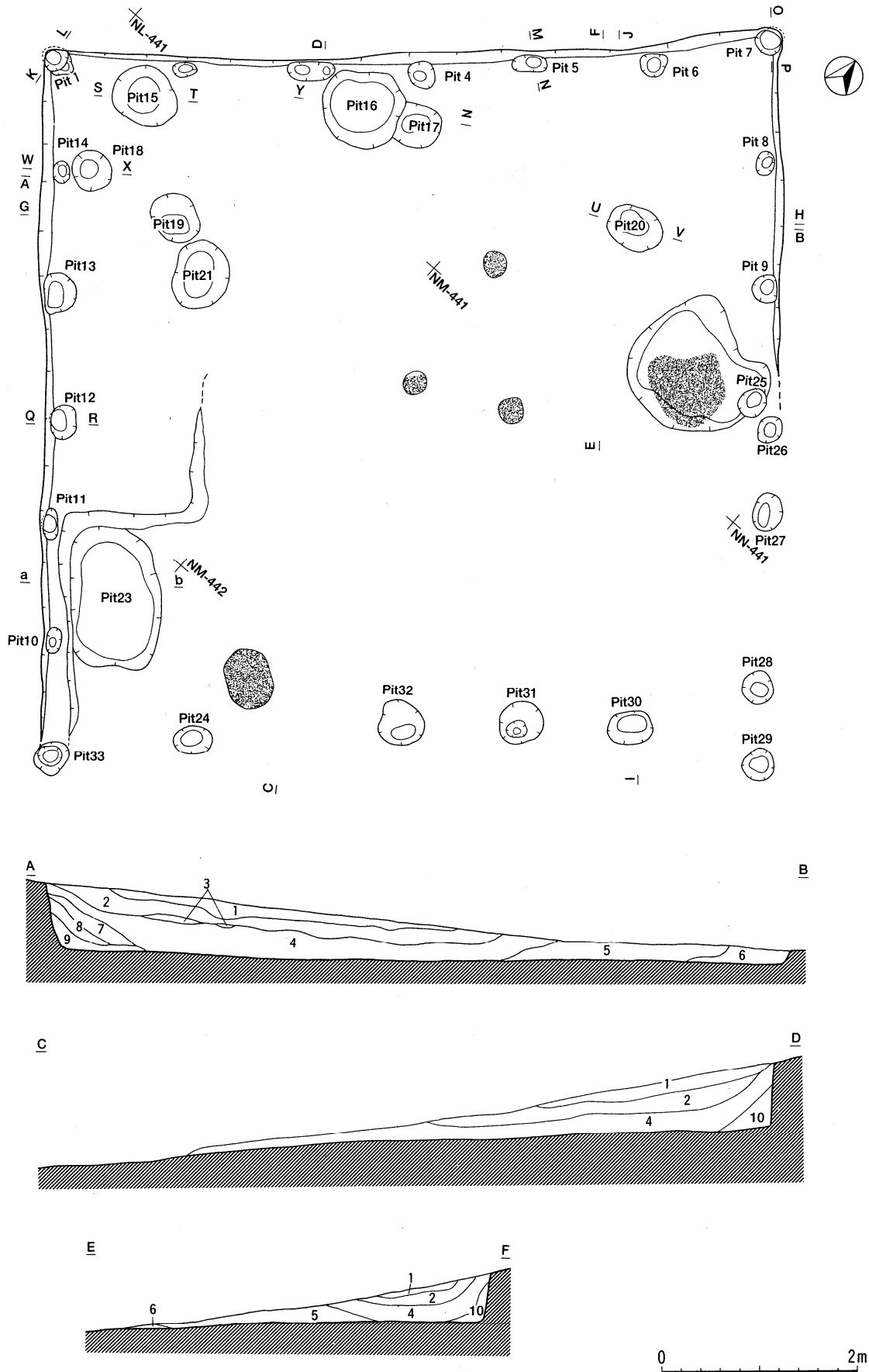


图126 第342号竖穴住居跡 (1)

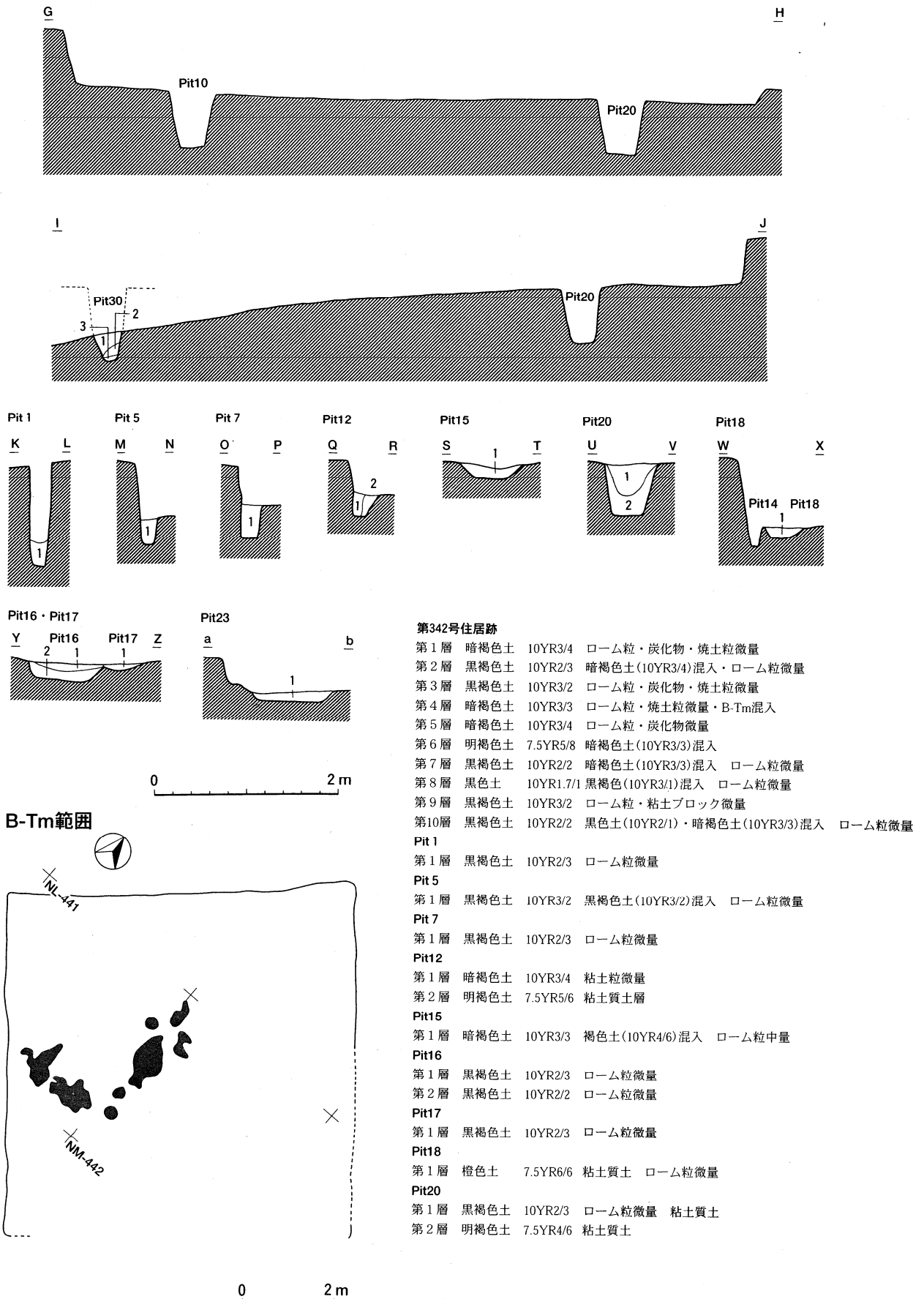


図127 第342号竪穴住居跡(2)

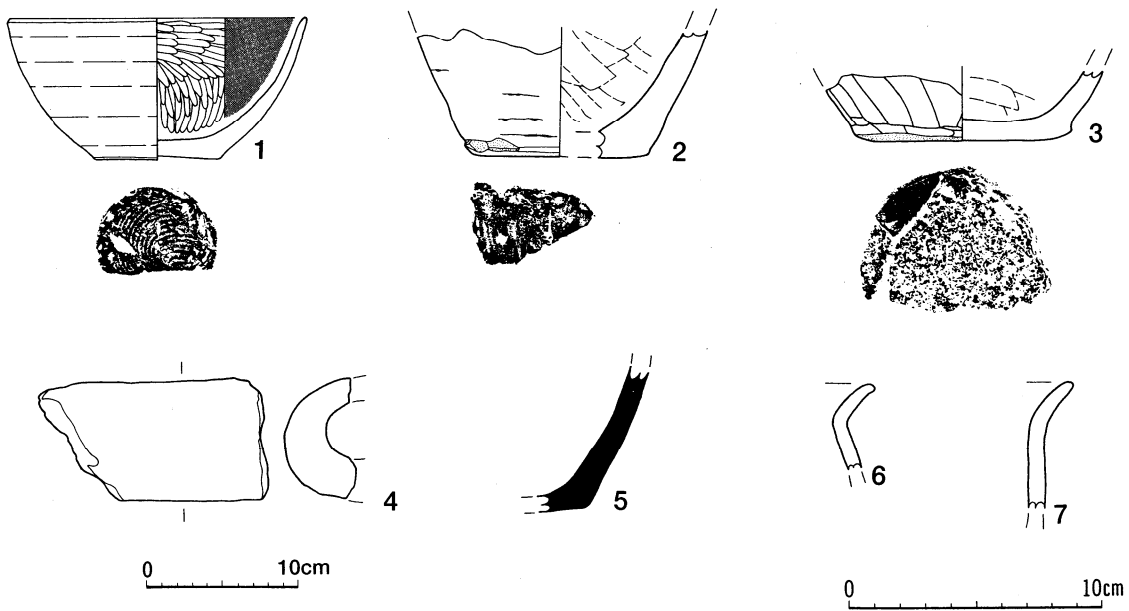
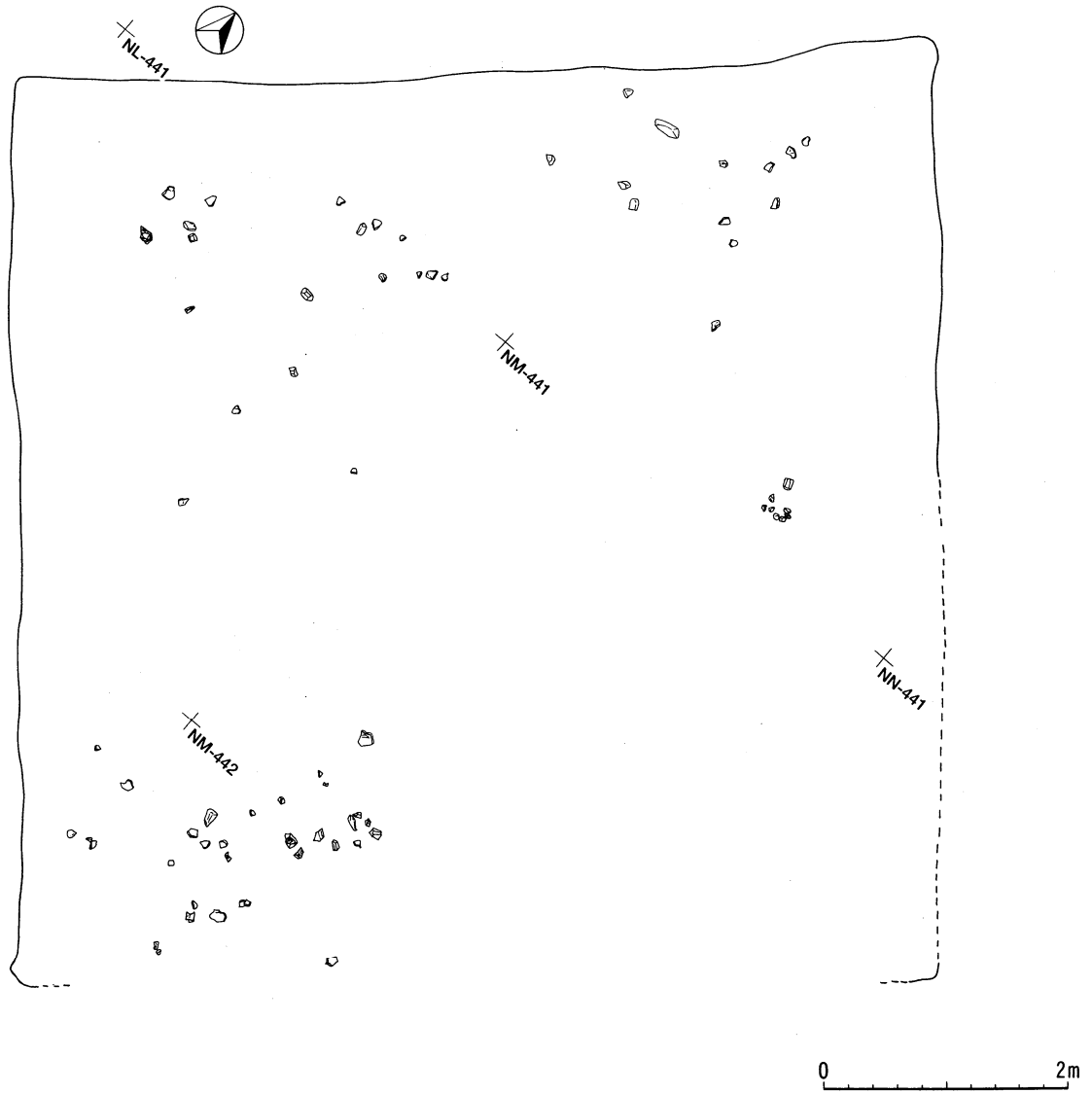
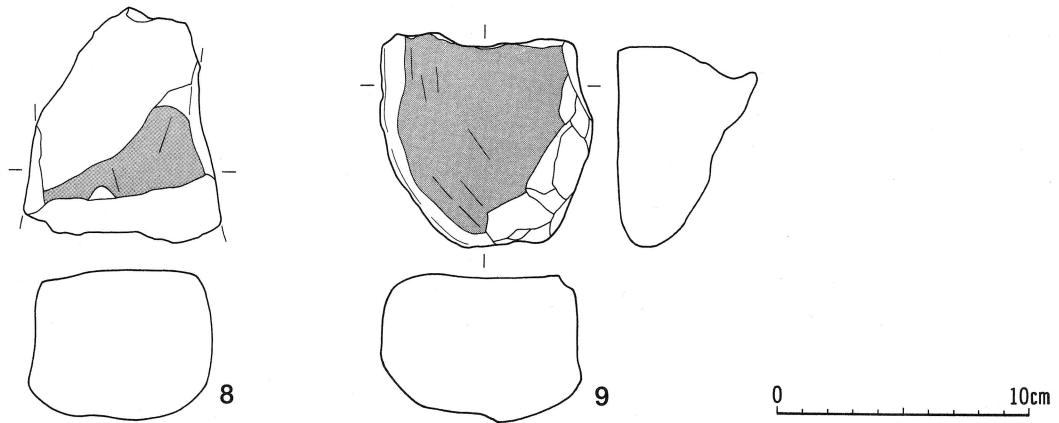


图128 第342号竖穴住居跡 (3)・出土遺物 (1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	床直	12.0	5.5	4.8	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転糸切り	B I b	内面黒色処理 P-17
2	土師器	甕	床直	—	(5.1)	(7.0)	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	輪積痕 P-3
3	土師器	甕	フク土	—	(2.8)	(8.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-4
5	須恵器	壺	フク土	—	(5.4)	—	—	—	ヘラナデ ケズリ	—	—	ロクロ	菊花文	—	P-6
6	土師器	甕	床直	—	—	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-27
7	土師器	甕	床直	—	—	—	ヨコナデ	ヘラケズリ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	幅	厚さ				
8	フク土	8.9	7.3	5.9	460	流	砥石	S-5 被熱 炭化物付着
9	Pit6フク土	8.5	8.0	5.3	468	流	砥石	

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
4	床直	(14.9)	(7.9) × (4.6)	—	(395)	不明	ナデ	羽口-5

図129 第342号竪穴住居跡出土遺物 (2)

第342号竪穴住居跡 (図126～図129)

[位置] 調査区北東部のNL～NN-440～442グリッドに位置する。

[重複] 認められなかった。

[平面形・規模] 斜面のため南東側が削平されており、東壁は (7 m60cm)、西壁 7 m30cm、北壁 7 m50cm、南側のピットの列から南壁 (7 m50cm) で、平面形はほぼ方形と考えられる。床面積は約 53. 30㎡で、主軸方位は不明である。

[壁・床面] 壁高は、東壁22cm、西壁20～70cm、北壁57cmで床面からほぼ垂直に立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] ピットが33個検出された。主柱穴はピット19 (68cm)、ピット20 (61cm)、ピット24 (32 cm)、ピット30 (30cm) で、壁際のピット (深さ10～41cm) は壁柱穴と考えられる。

[カマド] 南壁西側に火床面のみ検出しただけで、煙道などの構造は不明である。

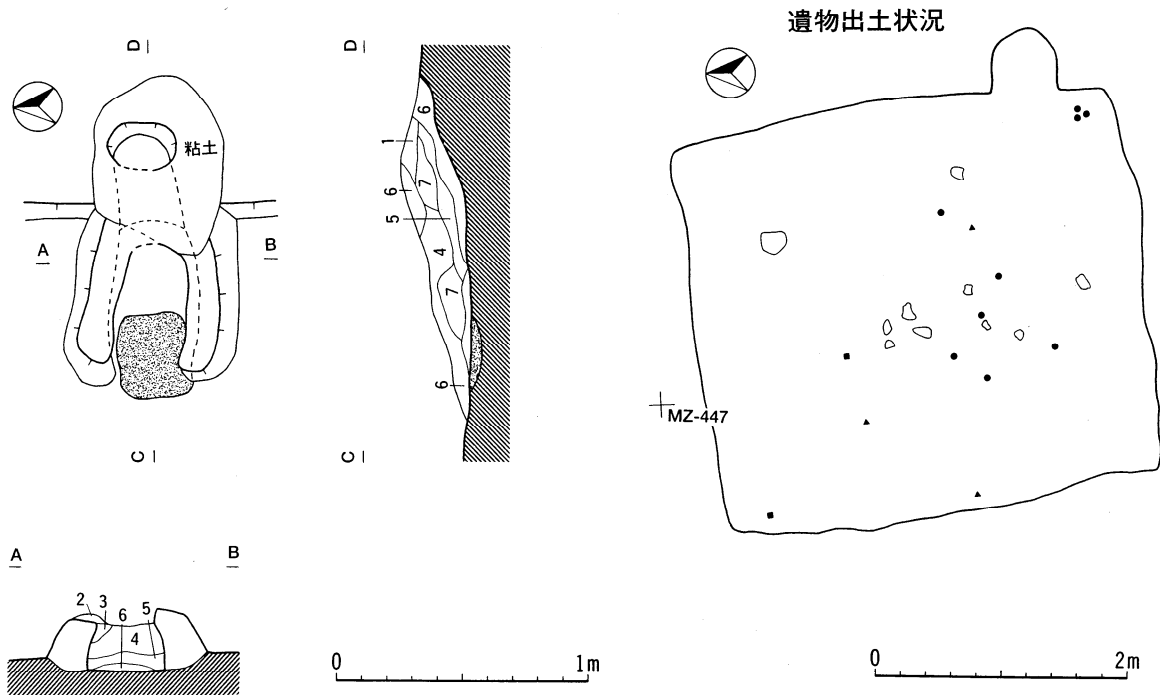
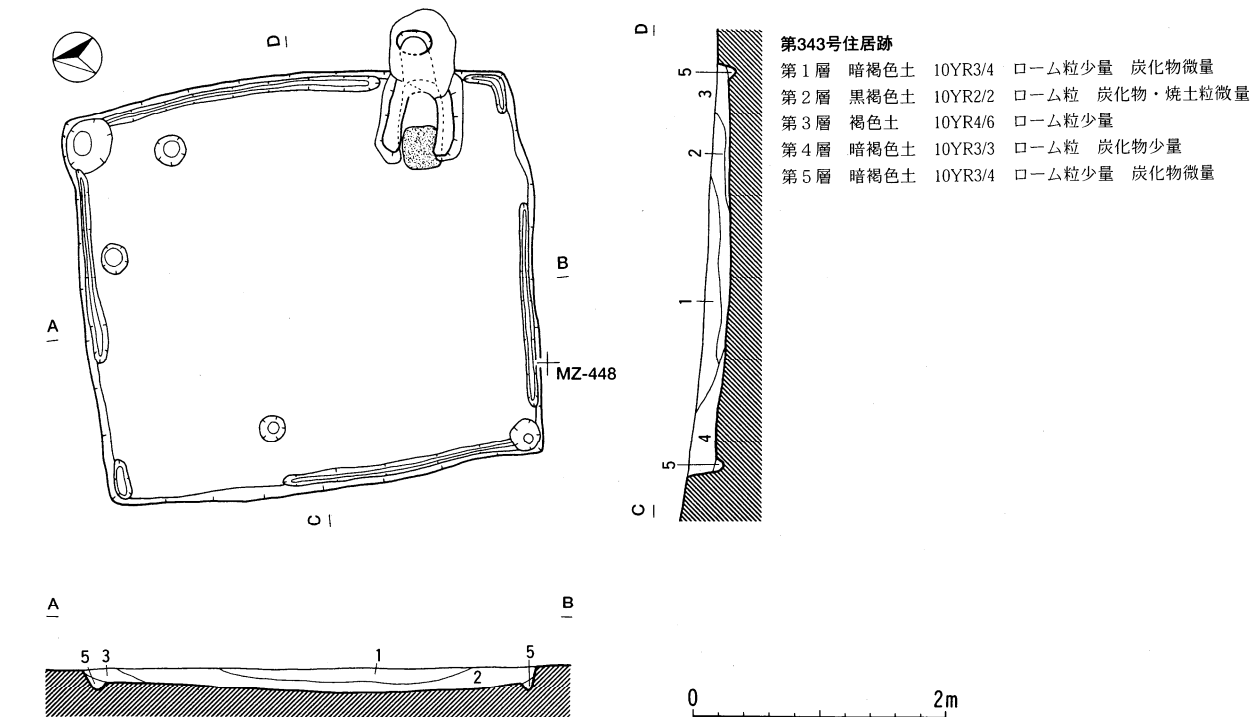
[その他の施設] 西壁南側にクランク状の段差 (5～8 cm) が確認された。

[堆積土] 堆積土は10層に分層され、4層上面にB-Tm火山灰が混入している。

[出土遺物] 覆土から土師器や須恵器の坏、甕のほか羽口、砥石などが出土している。(図128)

[時期] 火山灰の堆積状況や出土遺物から、10世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

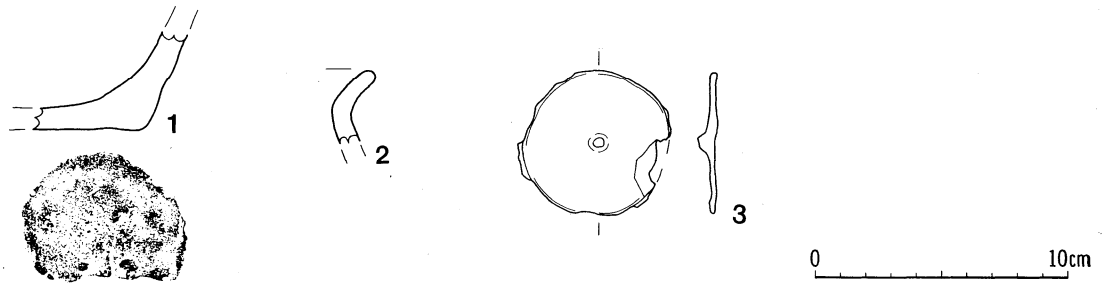
(中嶋友文)



カマド

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒 炭化物・焼土粒少量
第2層	暗褐色土	10YR3/3	L.B.・ローム粒多量
第3層	にぶい黄褐色	10YR3/4	焼土粒中量
第4層	暗褐色土	10YR3/4	焼土粒中量
第5層	黒褐色土	10YR2/2	炭化物・焼土粒少量
第6層	褐色土	10YR4/4	炭化物・焼土粒微量
第7層	赤褐色土	5YR4/6	焼土層

図130 第343号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	床直	—	—	—	—	—	ハラケズリ	—	—	ハラナデ	砂底	A	P-8
2	土師器	甕	カマド フク土	—	—	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	P-15

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
3	フク土	5.7	5.5	0.7	19.6	紡錘車	Fe-1

図131 第343号竪穴住居跡出土遺物

第343号竪穴住居跡 (図130・図131)

[位置] 調査区中央部のMY・MZ-447・448グリッドに位置する。

[重複] 認められなかった。

[平面形・規模] 東壁3m55cm、西壁3m45cm、南壁3m5cm、北壁3m8cmのほぼ方形である。床面積は約10.73㎡で、主軸方位はN-88°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁10cm、西壁20cm、南壁15cm、北壁13cmで床面から急に立ち上がる。床面はやや起伏がみられる。

[周溝] 幅6~12cm、深さ2~17cmの周溝がカマドのある東側を除いて断片的に検出された。

[ピット] 検出されたピットは5個であるが、いずれも柱穴とは考えられない。

[カマド] 東壁南側に粘土を用いて構築されている。煙道は半地下式で上部は粘土で覆われ、住居跡外に50cmほど延びる。煙道底面は煙出部に向かって緩やかに立ち上がる。

[堆積土] 堆積土は5層に分層される。

[出土遺物] 覆土から土師器の甕のほか鉄製の紡錘車 (図131-3) などが出土している。

[時期] 出土遺物から、9世紀前半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

遺物出土状況

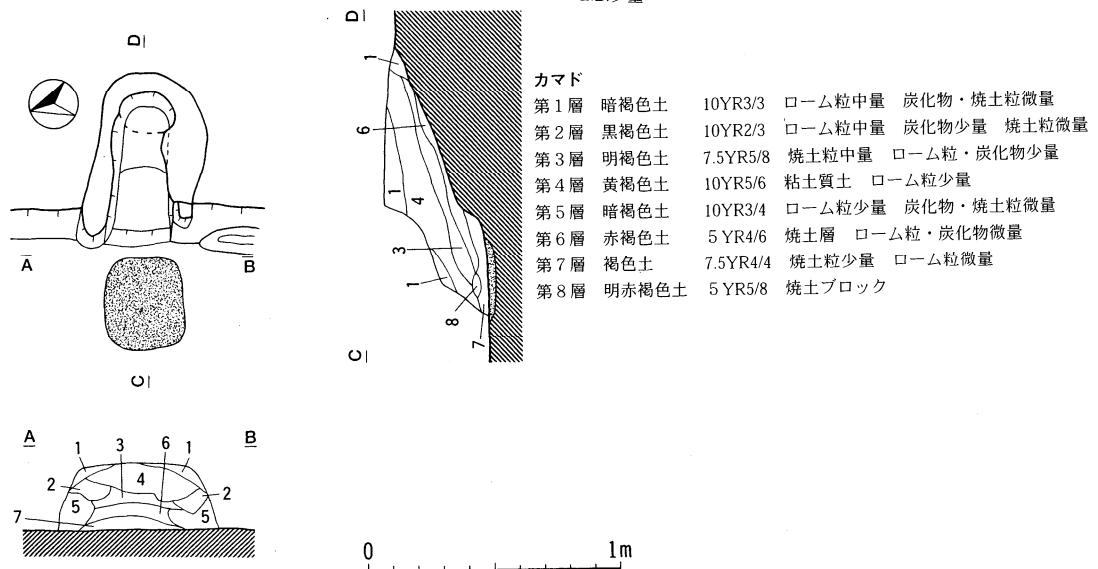
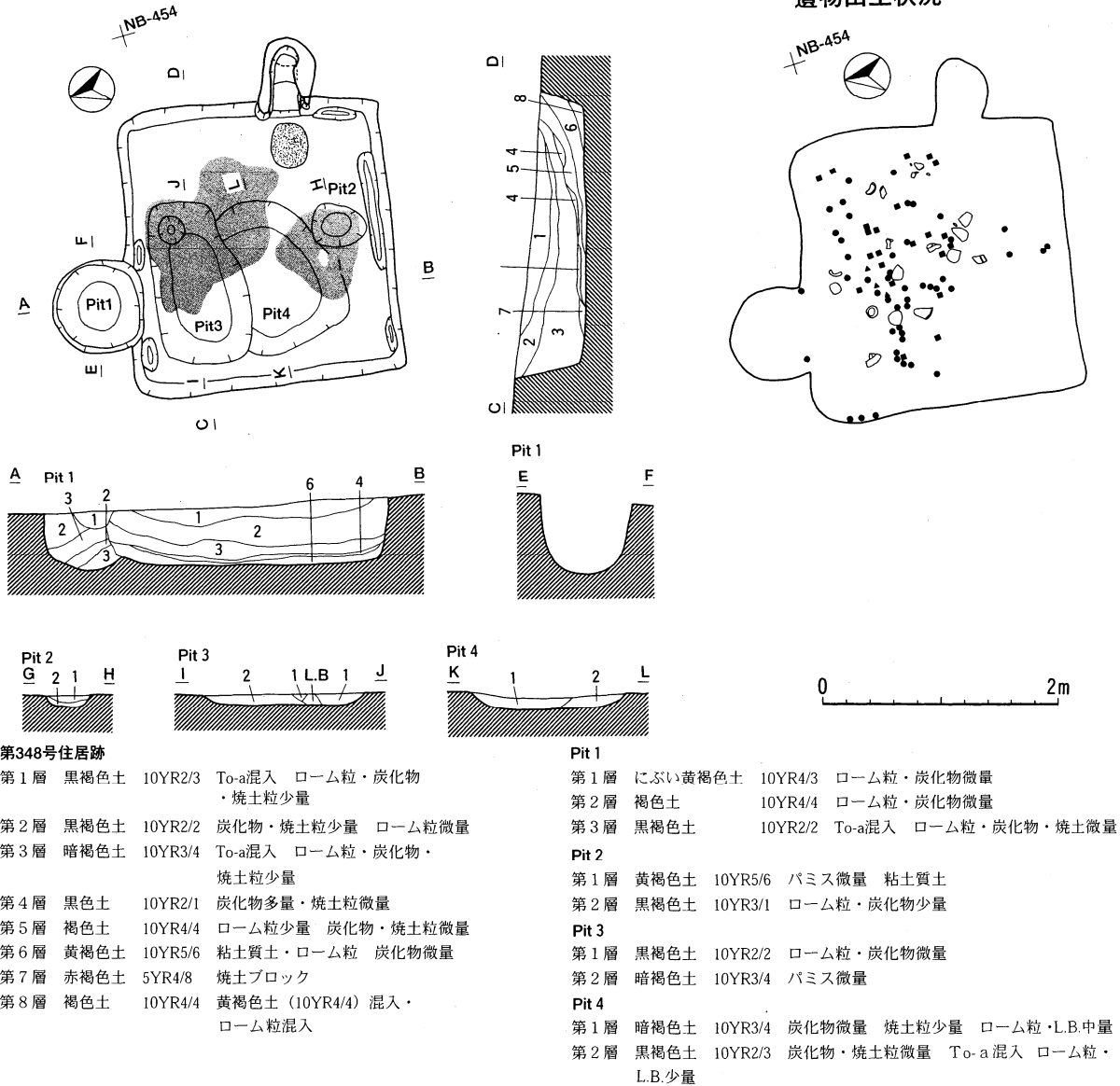
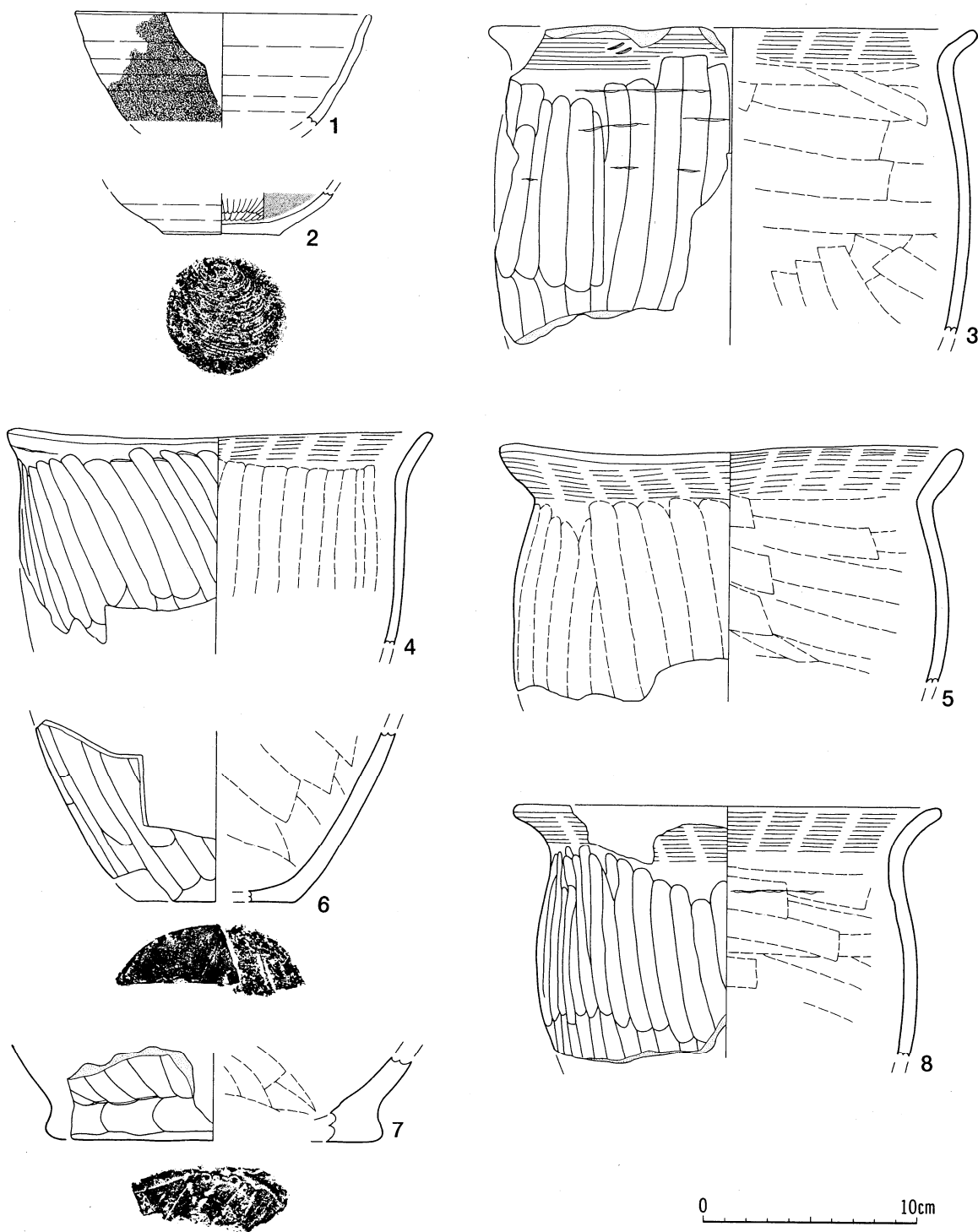
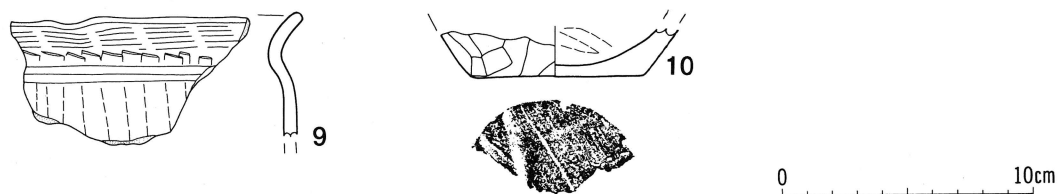


図132 第348号竪穴住居跡



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	杯	フク土	(14.0)	(5.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II b	外面スス状炭化物付着 P-35
2	土師器	杯	フク土	—	(2.0)	5.6	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	回転糸切	B I b	
3	土師器	甕	フク土	(23.0)	(15.0)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヨコナデ	—	—	A	外面輪積痕 P-56
4	土師器	甕	フク土	(20.0)	(10.1)	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-30, 31, 32
5	土師器	甕	フク土	21.8	12.1	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-50, 30
6	土師器	甕	フク土	—	(8.4)	(9.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-30
7	土師器	甕	フク土	—	(4.4)	(16.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-21
8	土師器	甕	フク土	(20.0)	(12.1)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-24, 28, 47

図133 第348号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
9	土師器	甕	フク土	(13.6)	(5.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-34
10	土師器	甕	カマド	—	(1.9)	(7.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-4

図134 第348号竪穴住居跡出土遺物 (2)

第348号竪穴住居跡 (図132～図134)

[位 置] 調査区中央部のNA・NB-453・454グリッドに位置する。

[重 複] 認められなかった。

[平面形・規模] 東壁2m20cm、西壁2m30cm、南壁2m30cm、北壁2m34cmでほぼ方形である。床面積は約4.54㎡で、主軸方位はN-103°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁34cm、西壁60cm、南壁58cm、北壁37cmで床面から急に立ち上がる。床面はやや起伏がみられる。

[周 溝] 幅10～15cm、深さ5～10cmの周溝が東壁、南壁、北壁の一部に検出された。

[ピット] ピットは、2個検出されたが、いずれも柱穴とは考えられない。

[カマド] 東壁南側に構築され、火床面と煙道部、ソデの一部が残存している。煙道は半地下式で上部を粘土で覆われ、住居跡外に50cmほど延び、底面は煙出部に向かって緩やかに立ち上がる。

[その他の施設] 北壁を掘り込んで、径80cm、深さ45cmのピットを検出したが、用途及び住居跡に伴うものかは不明である。

[堆積土] 堆積土は5層に分層される。1層と3層にT o - a火山灰が混入している。

[出土遺物] 覆土から土師器の坏、甕などが出土している。

[時 期] 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀前半～中葉に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)

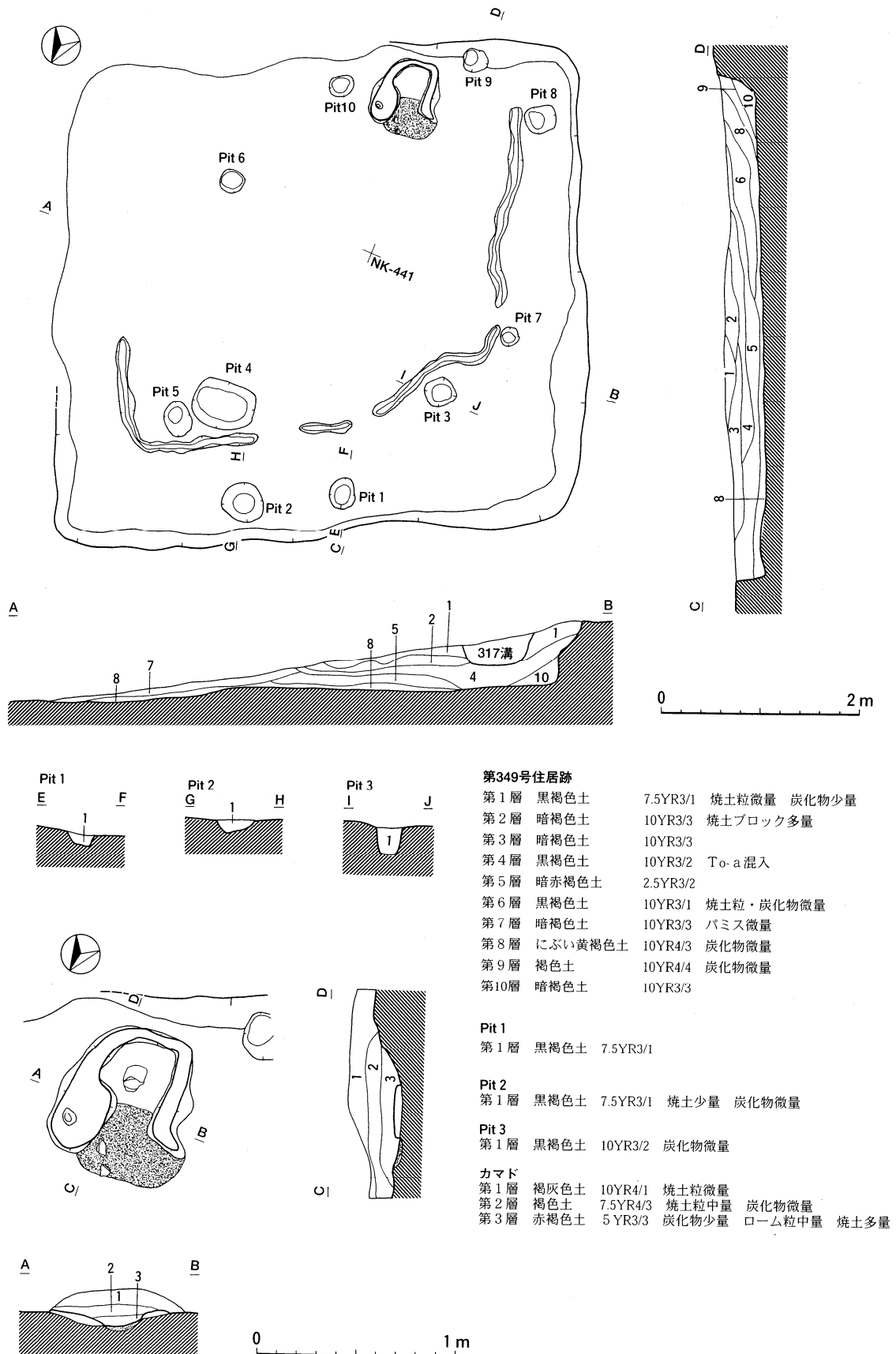
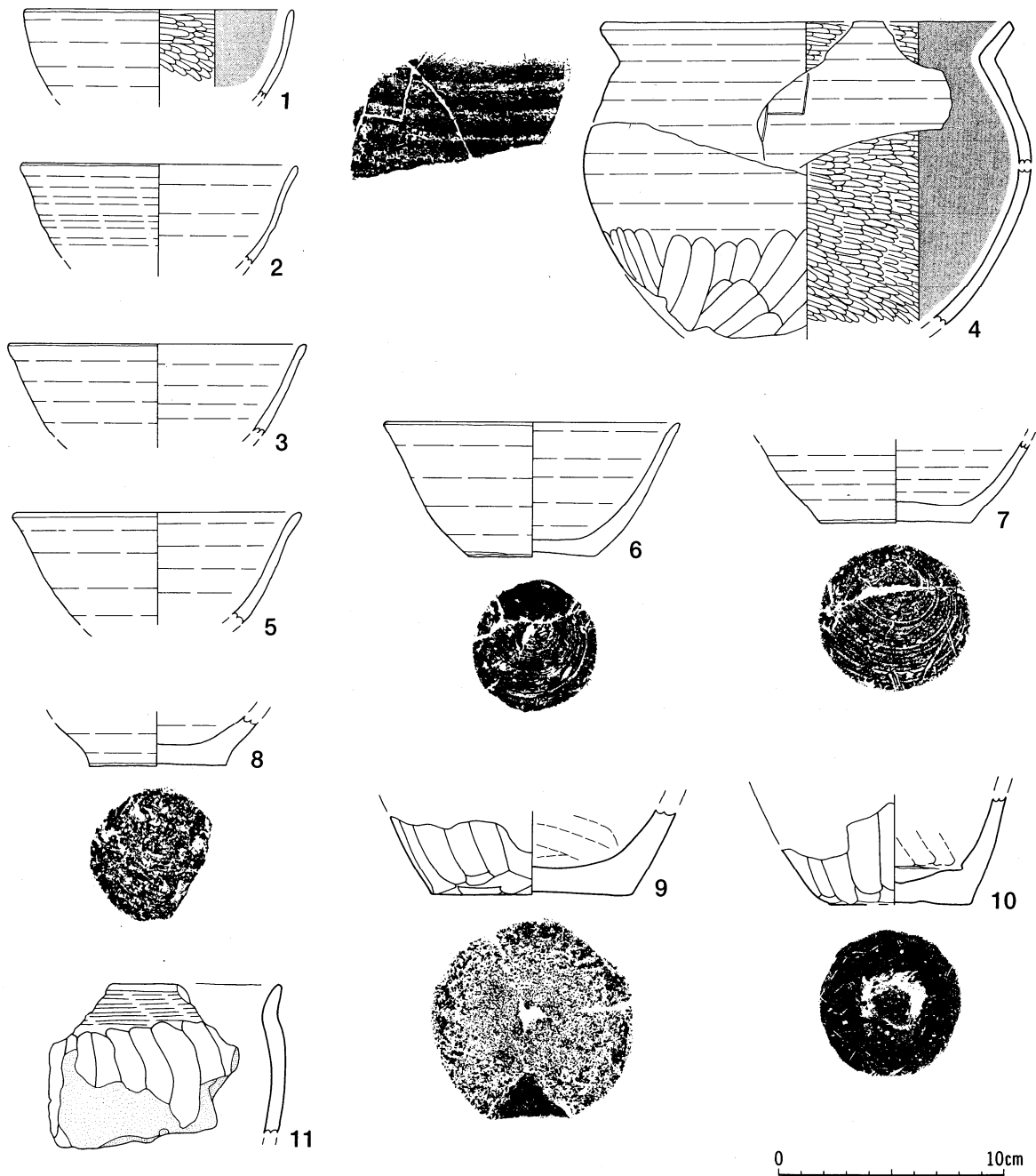
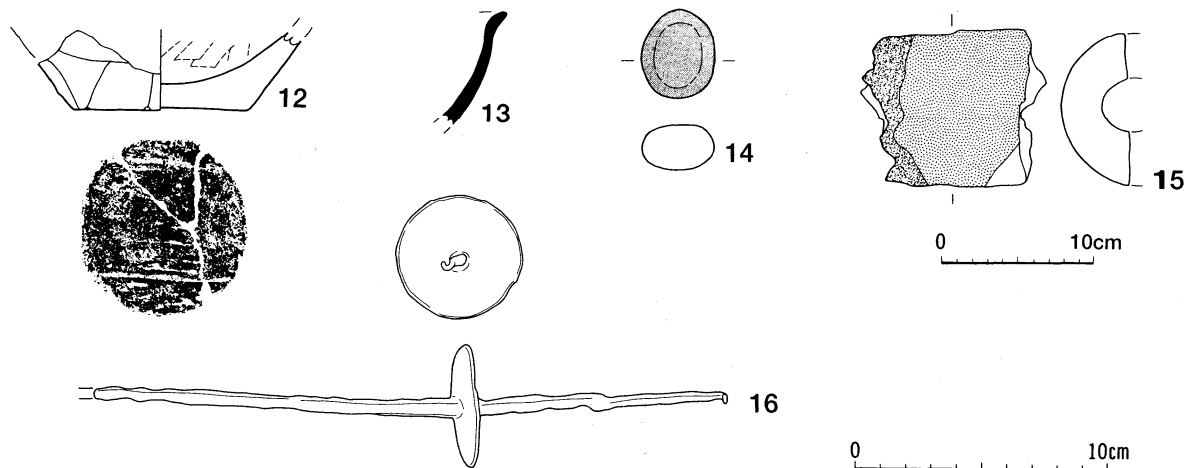


図135 第349号竪穴住居跡



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	(12.0)	(4.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	B I	内面黒色処理 P-9
2	土師器	坏	フク土	(12.4)	(4.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	
3	土師器	坏	Pit 1 フク土	(13.2)	(4.2)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	
4	土師器	甕?	フク土	(18.2)	(14.0)	—	ロクロ	ロクロ ヘラケズリ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	B	内面黒色処理 刻書 P-4
5	土師器	坏	フク土	(13.0)	(5.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	
6	土師器	坏	フク土	(13.2)	6.0	(5.6)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切	B II b	P-2, 3
7	土師器	坏	フク土	—	(3.7)	6.7	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	回転糸切 後なでつけ	B II	P-3
8	土師器	甕?	フク土	—	(2.3)	(6.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り 後なでつけ	B	P-1
9	土師器	甕	カマド	—	(3.7)	(9.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂 底	A	
10	土師器	甕	Pit 7 フク土	—	(4.9)	(6.7)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ?	A	内面輪積痕 P-1
11	土師器	甕	フク土	(13.0)	(7.0)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面一部剥落

図136 第349号 竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
12	土師器	甕	フク土	—	(3.2)	7.0	—	—	ハラケズリ	—	—	ハラナデ	ハラナデ?	A	
13	須恵器	坏	フク土	—	(4.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	外面火だすき痕

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	外径	内径				
14	フク土	3.6	2.9	1.8	21	凝	磨石 S-31	

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
15	フク土	(12.2)	(10.0)×(4.5)	—	(450)	不明		

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
16	フク土	25.7	4.9	5.5	※52.0	紡錘車 Fe-1	

図137 第349号竪穴住居跡出土遺物 (2)

第349号竪穴住居跡 (図135～図137)

[位置] N J・NK-440・441グリッドに位置する。

[重複] 第317号溝と重複し、本住居跡が古い。

[平面形・規模] 第317号溝により東壁南側と南壁東側が削平され、西壁4 m74cm、北壁5 m14cm、東壁(1m26cm)、南壁(1 m76cm)でほぼ方形である。床面積は、22.89㎡である。主軸方位はN-155°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、西壁62cm、南壁38cm、北壁30cmで床面から緩やかに立ち上がる。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] 10個検出された。いずれも柱穴とは考えられない。

[カマド] 南壁西側に構築され、焚き口部のみ残存する。羽口を芯材として転用し、粘土で覆って構築している。煙道部の構造は不明である。

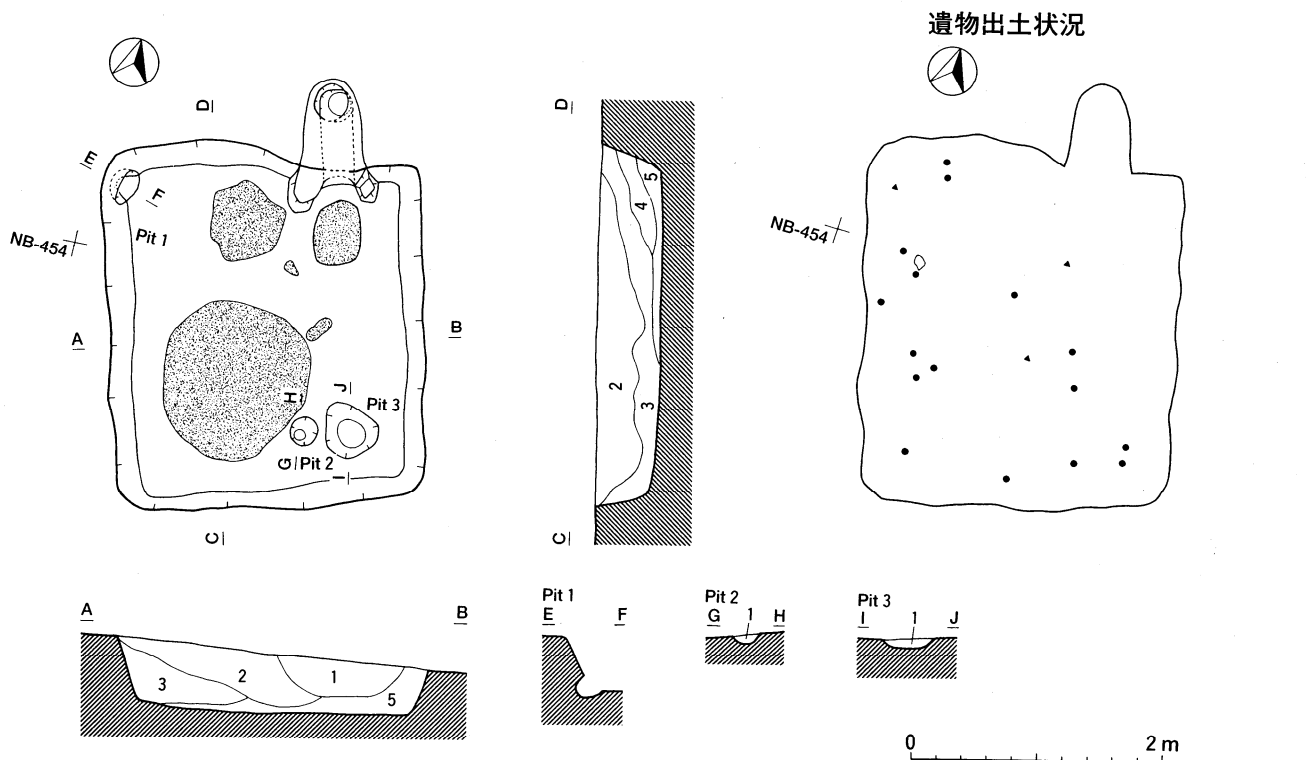
[その他の施設] 北壁から100～166cm内側に、幅6～14cm、長さ3 m86cm、西壁から54～98cm内側に幅6～16cm、長さ2 m46cm、東壁から62cm内側に、幅10～16cm、長さ、1 m 8 cmの溝が検出された。

[堆積土] 堆積土は層に10分層され、4層にT o - a火山灰が堆積している。また、2層に焼土ブロックが多量に含まれる。

[出土遺物] 土師器の甕や坏のほか、須恵器の坏、羽口、磨石、鉄製紡錘車（図189-16）などが出土している。

[時 期] 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

（齋藤由美子）



第350号住居跡

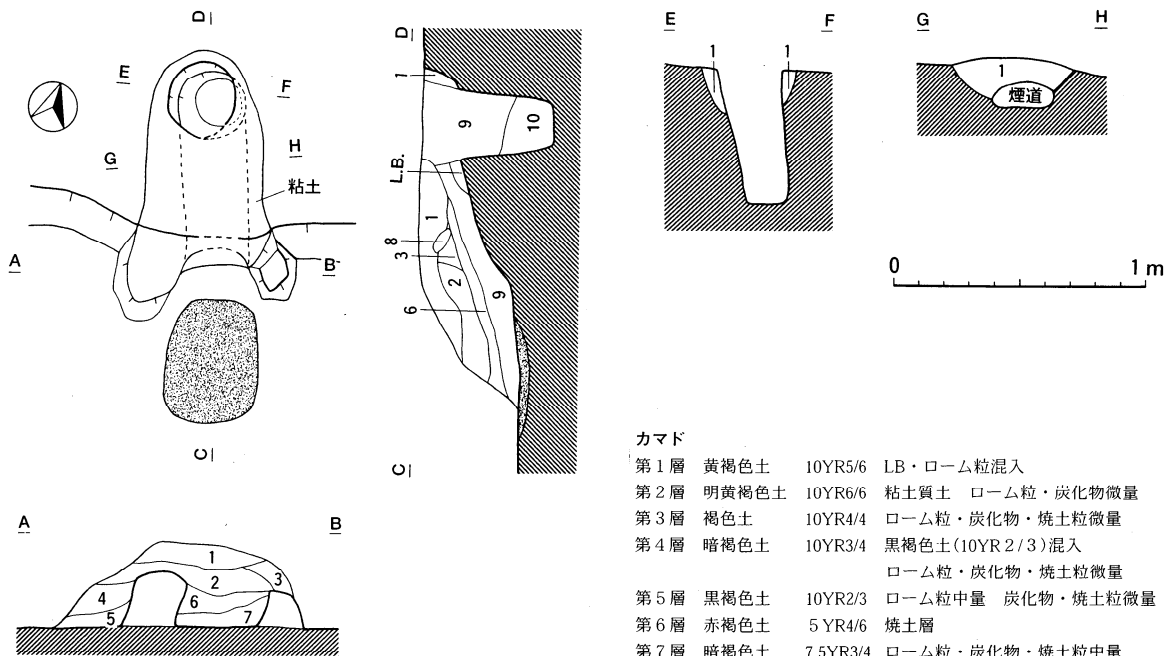
- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 To-a混入 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
- 第2層 黄褐色土 10YR5/6 褐色土(10YR4/4)混入 ローム粒混入 炭化物少量
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒・炭化物・焼土粒少量
- 第4層 褐色土 10YR4/4 粘土質土 ローム粒・炭化物少量
- 第5層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒・炭化物・焼土粒少量

Pit 2

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒少量 炭化物・焼土粒微量

Pit 3

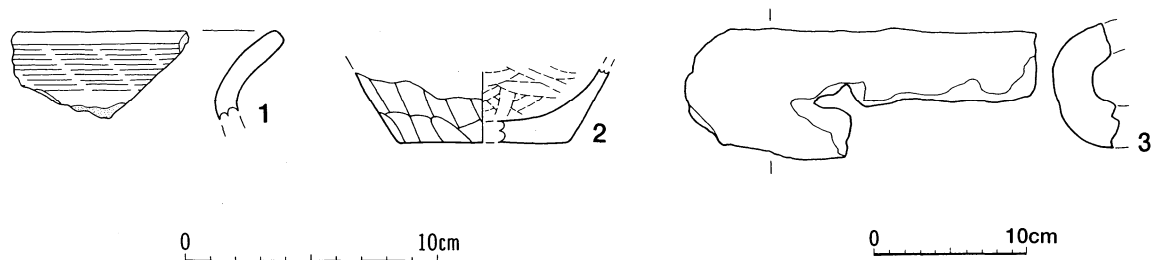
- 第1層 褐色土 10YR4/4 ローム粒混入 炭化物・焼土粒微量



カマド

- 第1層 黄褐色土 10YR5/6 LB・ローム粒混入
- 第2層 明黄褐色土 10YR6/6 粘土質土 ローム粒・炭化物微量
- 第3層 褐色土 10YR4/4 ローム粒・炭化物・焼土粒微量
- 第4層 暗褐色土 10YR3/4 黒褐色土(10YR2/3)混入
ローム粒・炭化物・焼土粒微量
- 第5層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量 炭化物・焼土粒微量
- 第6層 赤褐色土 5YR4/6 焼土層
- 第7層 暗褐色土 7.5YR3/4 ローム粒・炭化物・焼土粒中量
- 第8層 暗褐色土 10YR3/4 焼土粒少量 ローム粒・炭化物微量
- 第9層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒・炭化物少量 焼土粒微量
- 第10層 黒褐色土 10YR3/2 炭化物微量

図138 第350号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	—	(3.0)	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	P-9
2	土師器	甕	フク土	(23.0)	(3.0)	(6.8)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-18

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	分類	調整	備考
		長さ	外径	内径				
3	カマドフク土	(23.3)	(8.2)×(4.4)	—	(640)	B	ナデ、ケズリ	

図139 第350号竪穴住居跡出土遺物

第350号竪穴住居跡 (図138・図139)

[位置] 調査区中央部のNB・NC-453・454グリッドに位置する。

[重複] 認められなかった。

[平面形・規模] 東壁は2m85cm、西壁は2m60cm、南壁2m50cm、北壁2m45cmで、南壁やや張り出す方形である。床面積は5.31㎡で、主軸方位は、N-8°-Wである。

[壁・床面] 壁高は東壁35cm、西壁56cm、南壁40cm、北壁95cmで床面からやや急に立ち上がる。床面はやや起伏がみられる。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] 検出されたピットは3個であるが、いずれも柱穴とは考えられない。

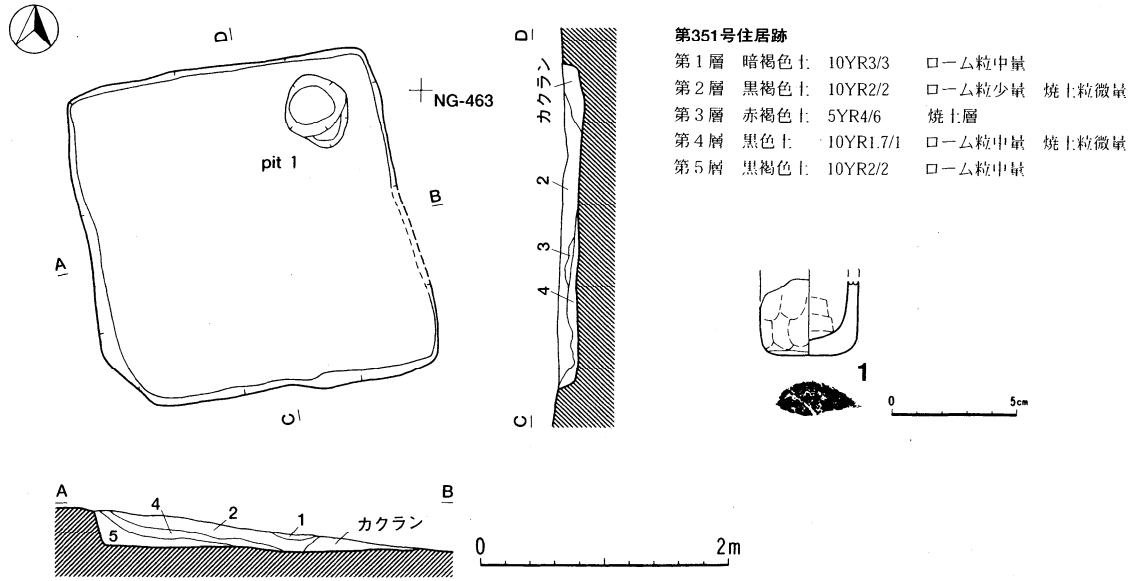
[カマド] 南壁西側に構築され、煙道は上面が粘土で覆われた地下式で、住居跡外に70cmほど延び煙道底面は、煙出部に向かって緩やかに上がり、煙出でピット(深さ105cm)につながって、ほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 堆積土は5層に分層され、1層にT o - a火山灰が混入している。

[出土遺物] 覆土から土師器の甕のほか、羽口などが出土している。(図138)

[時期] 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀中葉～後半に構築されたと考えられる。

(中嶋友文)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	小型土器	Pit1 フク土	—	(3.1)	(3.0)	—	—	ユビナデ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ (ユビナデ)	—	

図140 第351号竪穴住居跡・出土遺物

第351号竪穴住居跡 (図140)

[位置] NF・NG-462・463グリッドに位置する。

[重複] 認められなかった。

[平面形・規模] 東壁2m61cm、西壁2m32cm、南壁2m50cm、北壁2m45cmの南北にやや長い長方形である。床面積は6.15㎡である。

[壁・床面] 壁高は、東壁1cm、西壁30cm、南壁15cm、北壁18cmである。ロームと黒褐色土が混入する掘り方を踏みしめて床面としており、ほぼ平坦である。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] ピットが1つ検出されたが、柱穴とは考えられない。

[カマド] 検出されなかった。

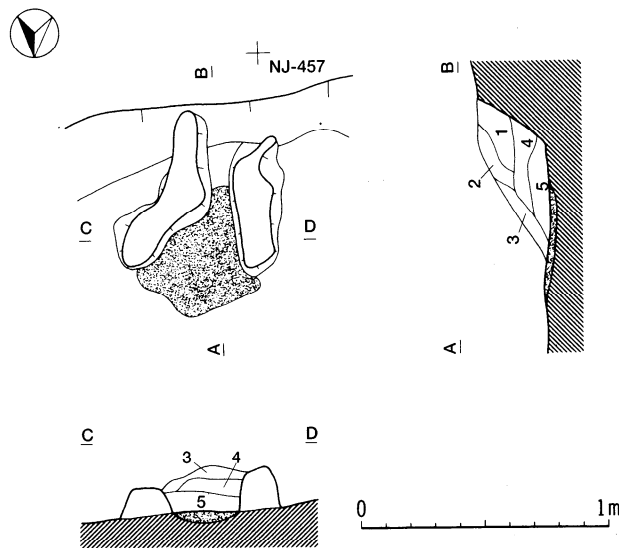
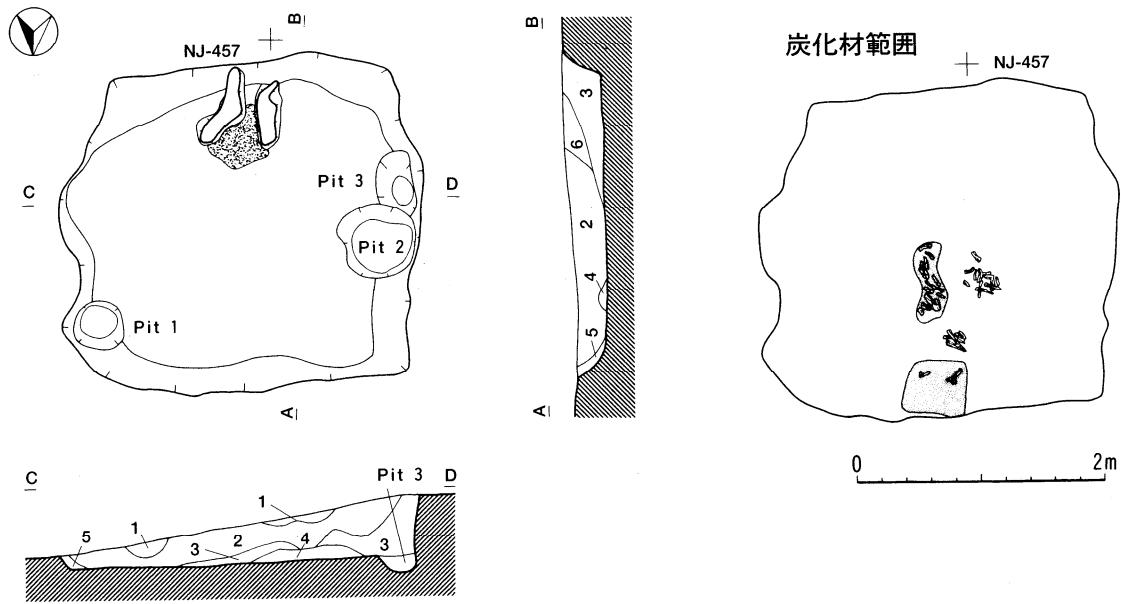
[その他の施設] 北東隅に64×54cm、深さ20cmの不整な楕円形のピット1が検出された。

[堆積土] 5層に分層され、3層は焼土層である。自然堆積である。

[出土遺物] 覆土から小型土器が出土している。

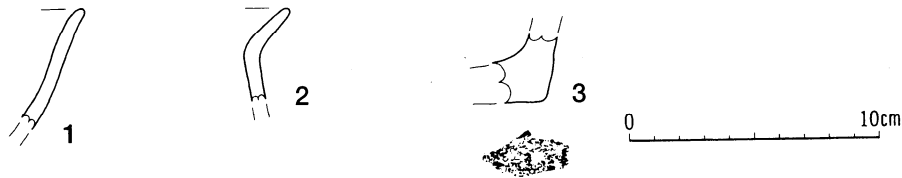
[時期] 時期は不明である。

(田中珠美)



第352号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量 炭化物・焼土粒微量
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 炭化物・焼土粒微量
- 第3層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量
- 第4層 黒色土 10YR1.7/1 炭化物層 焼土粒少量
- 第5層 明黄褐色土 10YR6/8 ローム粒中量
- 第6層 暗褐色土 10YR3/3 焼土粒中量 ローム粒・炭化物微量
- カマド
- 第1層 暗褐色土 10YR3/3 黒褐色土混入
- 第2層 明黄褐色土 10YR6/8 焼土粒中量
- 第3層 黒褐色土 10YR2/3 黒色土混入 焼土粒少量
- 第4層 黄褐色土 10YR5/6 焼土少量
- 第5層 明褐色土 7.5YR5/6 焼土粒中量



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	—	(4.8)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	
2	土師器	甕?	フク土	—	(3.7)	—	—	—	ヘラケズリ?	—	—	ヘラナデ?	砂底?	A	
3	土師器	甕	フク土	—	(2.4)	(1.7)	ヨコナデ	不明	—	ヨコナデ	不明	—	—	A	

図141 第352号竪穴住居跡出土遺物

第352号竪穴住居跡（図141）

〔位置〕 NI・NJ-456グリッドに位置する。

〔重複〕 認められなかった。

〔平面形・規模〕 東壁2 m40cm、西壁2 m50cm、北壁2 m40cm、南壁2 m28cmの不整な方形を呈する。床面積は5.15㎡である。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁12cm、西壁44cm、南壁28cm、北壁26cmである。床面は南西隅から北東隅にやや傾斜している。

〔周溝〕 検出されなかった。

〔ピット〕 ピットは3つ検出されているが、いずれも浅く、柱穴とは考えられない。

〔カマド〕 南壁ほぼ中央に構築されているが、残存状況はきわめて悪い。芯材は用いられず、粘土で築かれている。煙道は残存しないが、半地下式と考えられる。

〔その他の施設〕 住居跡北東隅に径40cm、深さ10cmの円形のピット1、西壁ほぼ中央に径60cm、深さ10cmの不整な円形のピット2、50cm×30cm、深さ12cmの不整な楕円形のピット3が検出された。

〔堆積土〕 6層に分層され、4層は炭化物層である。

〔出土遺物〕 土師器の坏・甕が出土している。

〔時期〕 時期は不明である。

（田中珠美）

第353号竪穴住居跡（図142～図146）

〔位置〕 NF～NH-459・460グリッドに位置する。

〔重複〕 第389号土坑と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 東壁6 m43cm、西壁6 m40cm、南壁6 m60cm、北壁6 m45cmの方形である。床面積は41.21㎡である。主軸方位はN-79°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁16cm、西壁64cm、南壁50cm、北壁56cmである。床面は地山粘土を堅く踏みしめており、中央部に段差があり、1～8cm低い。

〔周溝〕 幅9～19cm、深さ1～29cmの周溝が壁直下をほぼ一巡する。

〔ピット〕 ピットは床面で6つ、貼床下から5つ検出されている。それぞれのピットの検出面からの深さを図中の（ ）に示す。住居北側ほぼ中央に位置するピット1の覆土から土師器が出土している。

〔カマド〕 東壁南側に構築されている。残存状況はきわめて悪く、袖に用いられたと考えられる粘土と火床面が残るのみである。

〔その他の施設〕 南壁から80cm～1 m10cm、東壁から1 m60cm～2 m離れて段差があり、2～8cm低い。段差の内側の規模は東西2 m90cm、南北2 m70cmである。貼床下からは幅12～16cm、深さ3～10cmの周溝が検出され、本住居は拡張されたと考えられる。この住居の規模は、南壁5 m40cm、東壁3 m10cm、西壁4 mである。この周溝は南東隅ではかみあわず、90cm重複する。周溝内の東壁北側の床面が焼けており、拡張前の住居の火床面と考えられる。

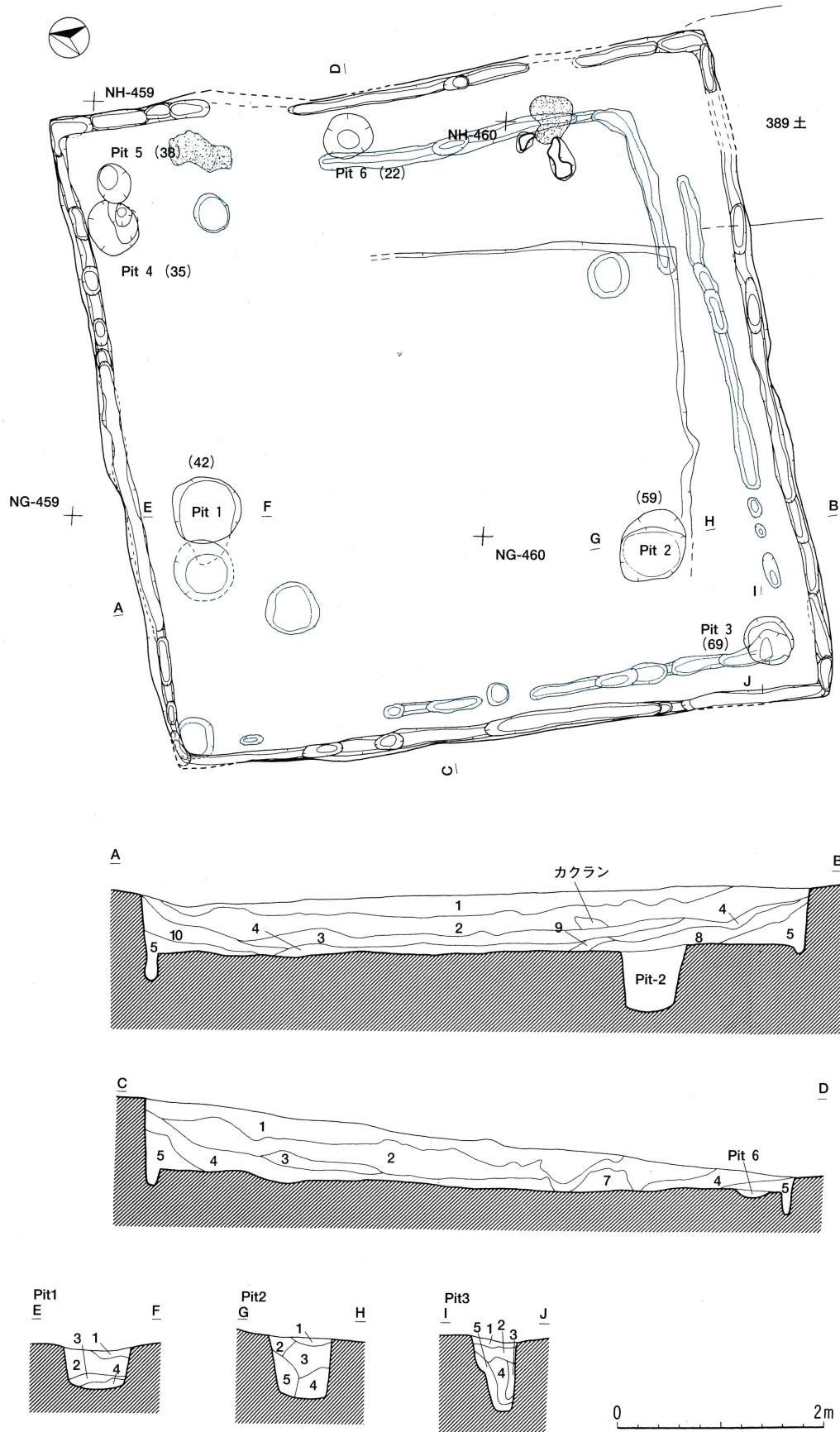


図142 第353号竪穴住居跡 (1)

第353号住居跡

第1層	黒褐色土	10YR2/2	ローム粒少量 焼土粒極微量
第2層	暗褐色土	10YR3/3	炭化物微量 焼土粒極微量 黄褐色土混入
第3層	黄褐色土	10YR5/6	炭化物・焼土粒微量
第4層	暗褐色土	10YR3/4	黄褐色土混入
第5層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	炭化物微量 黄褐色土混入
第6層	黒褐色土	10YR2/3	炭化物微量 焼土粒極微量 明褐色土混入
第7層	褐色土	10YR4/6	炭化物・焼土粒極微量 黄褐色土混入
第8層	褐色土	10YR4/6	ローム粒極微量 黒色土・明褐色土混入
第9層	暗褐色土	10YR3/4	黄褐色土混入
第10層	褐色土	10YR4/6	ローム粒極微量 黒色土・黄褐色土混入

Pit 1

第1層	褐色土	10YR4/4	L.B.多量 炭化物中量
第2層	褐色土	10YR4/6	炭化物・焼土粒少量 ローム質土混入
第3層	褐色土	7.5YR4/4	ローム質土混入
第4層	褐色土	10YR4/6	炭化物多量 焼土粒微量

Pit 2

第1層	暗褐色土	10YR3/4	L.B.少量 炭化物微量 ローム質土
第2層	褐色土	7.5YR4/6	細礫混入 ローム質土
第3層	褐色土	7.5YR4/4	細礫混入 ローム質土
第4層	明褐色土	7.5YR5/8	細礫混入 ローム質土
第5層	褐色土	7.5YR4/4	細礫混入 ローム質土

Pit 3

第1層	暗褐色土	10YR3/4	L.B.多量 炭化物・焼土粒混入
第2層	褐色土	10YR4/4	L.B.中量 炭化物少量
第3層	暗褐色土	10YR3/4	L.B.多量
第4層	褐色土	10YR4/6	褐色土(10YR4/4)混入
第5層	褐色土	7.5YR4/4	しまりあり

遺物出土状況

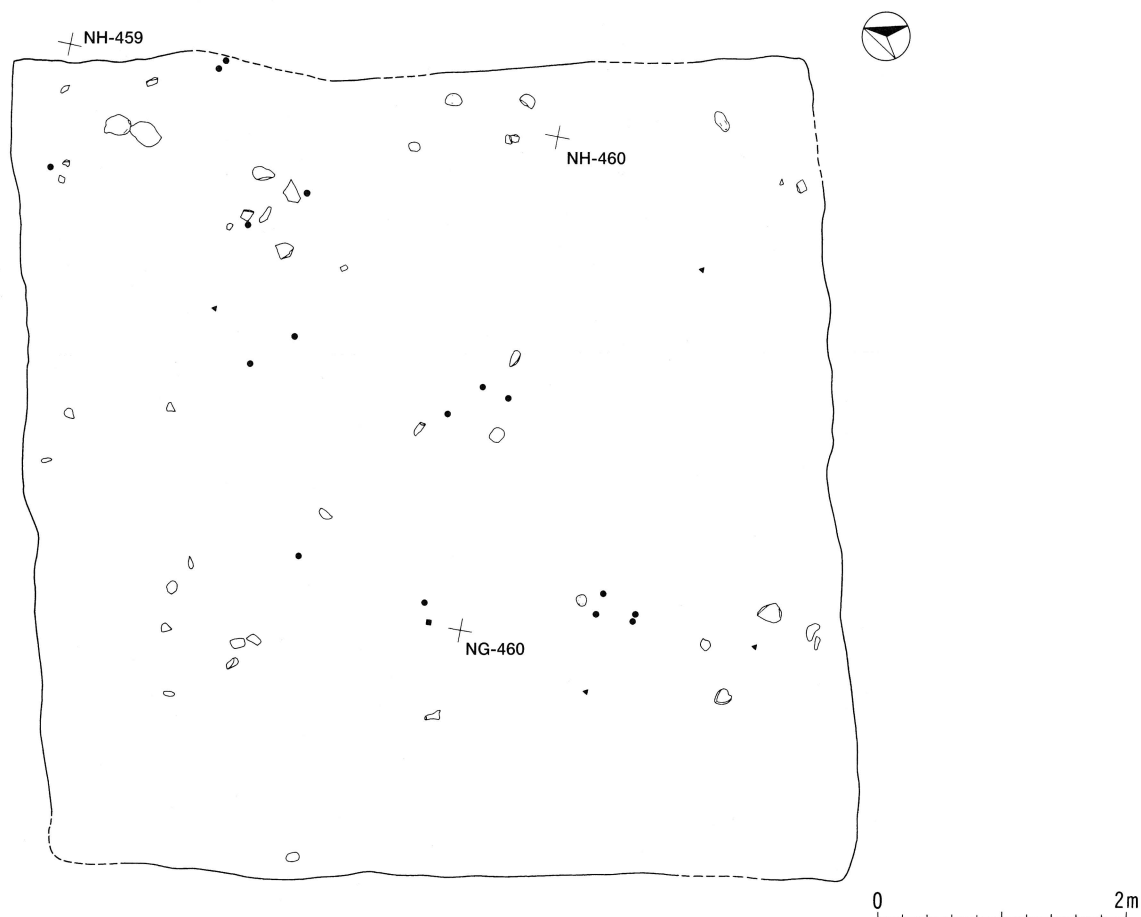


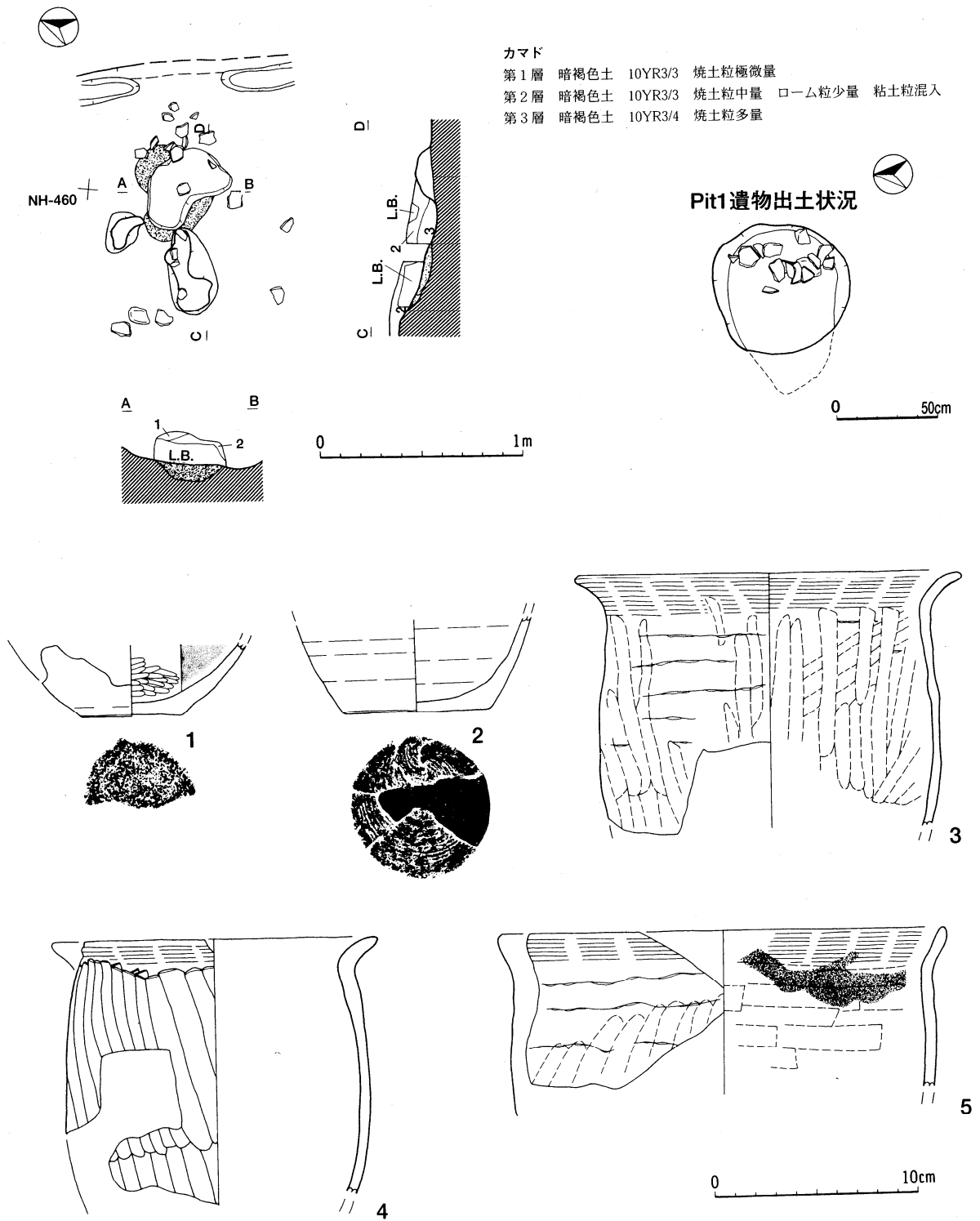
図143 第353号竪穴住居跡(2)

〔堆積土〕 8層に分層される。黒褐色土・暗褐色土を主体とし、褐色土が混入する。自然堆積である。

〔出土遺物〕 土師器の坏・甕、須恵器の坏・壺のほか、砥石や台石・凹石、不明石製品が出土している。

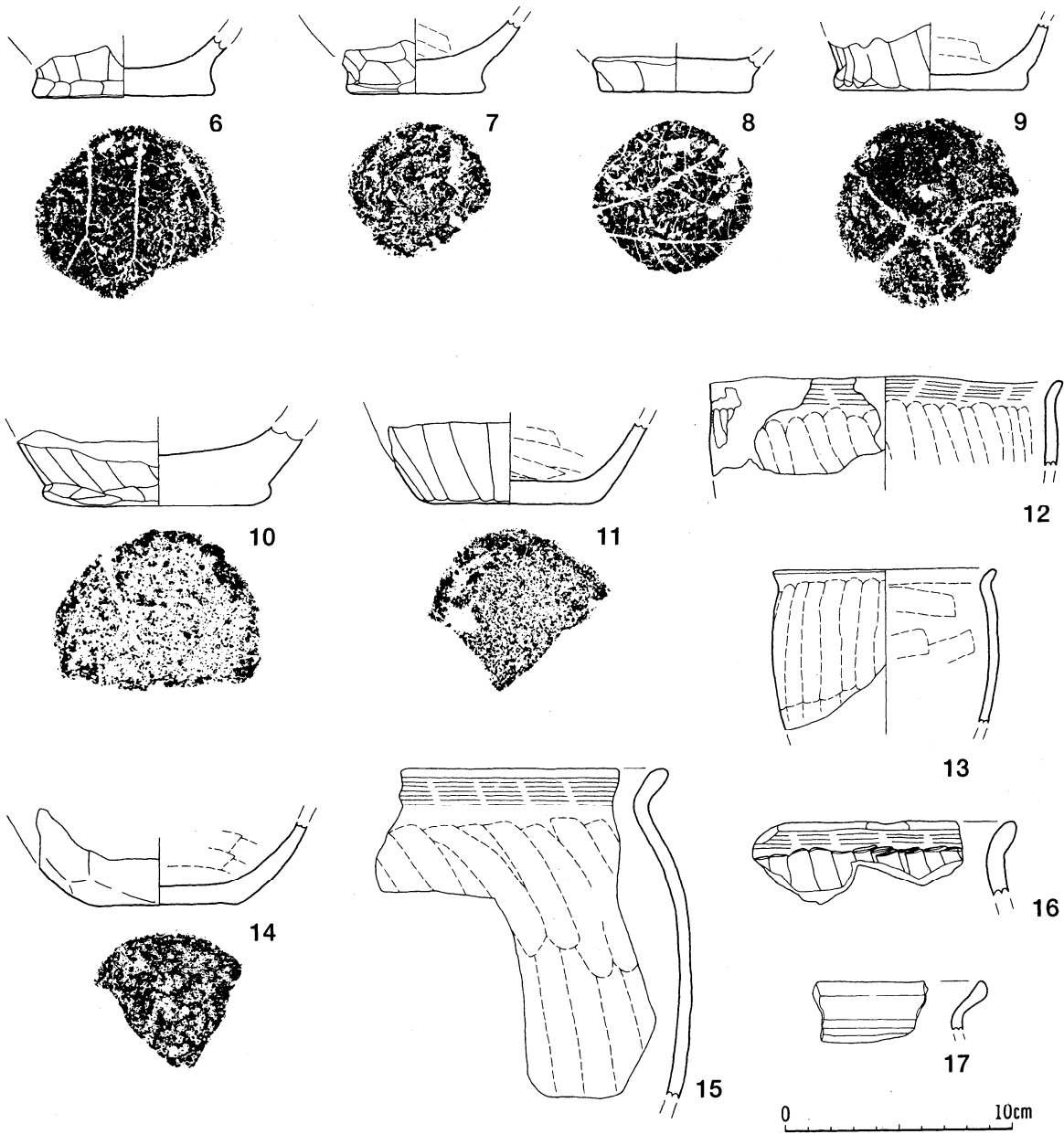
〔時期〕 出土遺物から、9世紀後半から10世紀前半に構築されたと考えられる。

(田中珠美)



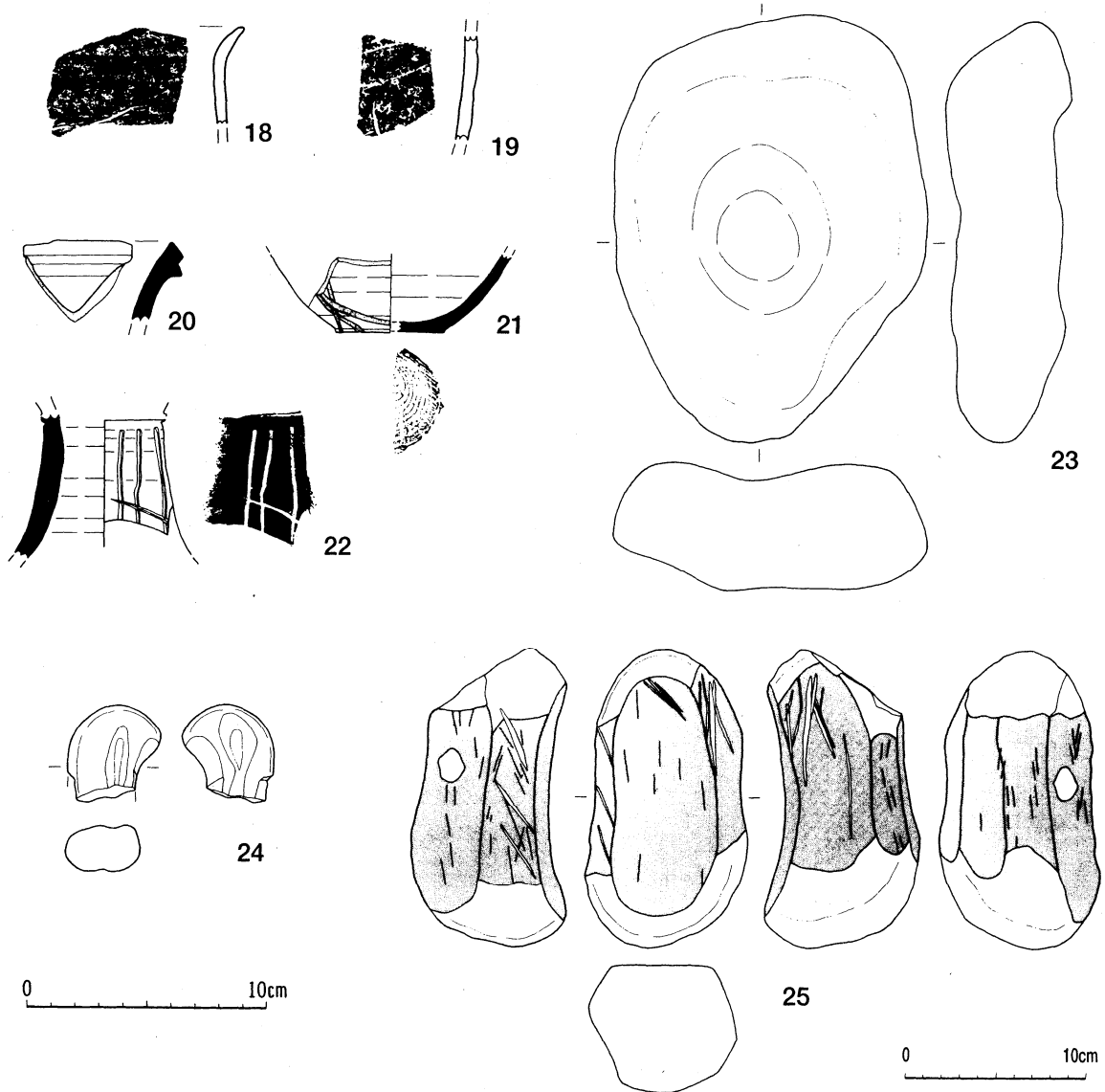
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏?	フク土	—	(3.4)	(5.0)	—	—	不明	—	—	ハラミガキ	砂底?	B I	内面黒色処理
2	土師器	甕	貼床下床面	—	(4.5)	7.0	—	—	ロクロ?	—	—	ロクロ?	回転系切り	B II	P-51、52
3	土師器	甕	Pit 2 3層 Pit 3 フク土 Pit 4 フク土	18.9	(12.5)	—	ヨコナデ	ハラナデ	—	ヨコナデ	ハラナデ	—	—	A	P-4、11 輪積痕
4	土師器	甕	Pit 2 3層	(16.0)	(12.7)	—	ヨコナデ	ハラケズリ	—	不明	不明	—	—	A	P-7、8
5	土師器	甕	Pit 10 フク土	(22.0)	(7.8)	—	ヨコナデ	ハラナデ	—	ヨコナデ	ハラナデ	—	—	A	外面輪積痕 内面入炭灰化物付着 P-1

図144 第353号竪穴住居跡(3)・出土遺物(1)



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
6	土師器	甕	床直	—	(2.7)	8.0	—	—	—	—	—	不明	木葉痕	A	P-23
7	土師器	甕	1層	—	(3.2)	6.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-4
8	土師器	甕	床面	—	(1.6)	6.6	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ?	木葉痕	A	P-19
9	土師器	甕	フク土	—	(3.0)	8.4	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	木葉痕	A	P-20
10	土師器	甕	フク土	—	(10.0)	—	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
11	土師器	甕	カマド フク土	—	(4.0)	7.2	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-39
12	土師器	甕	カマドフク土 Pit 3 4層	(15.6)	(4.3)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-8, 22, 33 外面剥落
13	土師器	甕	Pit 10フク土	(10.0)	(7.0)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A III	P-3, 4
14	土師器	甕	カマド フク土	—	(3.7)	(8.0)	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-45
15	土師器	甕	Pit 2 3層	(22.0)	(14.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-9, 3
16	土師器	甕	フク土	(22.0)	(3.3)	—	ヨコナデ ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	—	—	—	A	
17	土師器	甕	フク土	(20.0)	(2.3)	—	ヨコナデ	—	—	ヨコナデ	—	—	—	A	P-15

図145 第353号竪穴住居跡出土遺物 (2)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
18	土師器	甕	Pt3 1層	(15.6)	(4.0)	—	ロクロ	—	—	不明	—	—	—	B	P 21 刻書
19	土師器	甕	フク土	—	(4.2)	—	ロクロ	—	—	—	ロクロ	—	—	B	刻書
20	須恵器	甕?	フク土	—	(3.3)	—	ロクロ	—	—	—	ロクロ	—	—	—	—
21	須恵器	坏	Pt3 2層	—	(3.3)	(4.5)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切	—	P-23 外面火ダスキ痕
22	須恵器	長頸壺	床直	—	(5.8)	—	—	ロクロ	—	—	—	ロクロ	—	—	外面刻書 肩部隆帯 P-7

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	外径	内径				
23	床直	23.5	17.4	5.9	3,690	石安	台石・凹石 S-13	
24	貼床下	3.8	3.6	1.9	38	頁	石製品 S-38	
25	フク土	16.6	8.2	7.1	1,330	流	砥石 S-28	

図146 第353号竪穴住居跡出土遺物 (3)

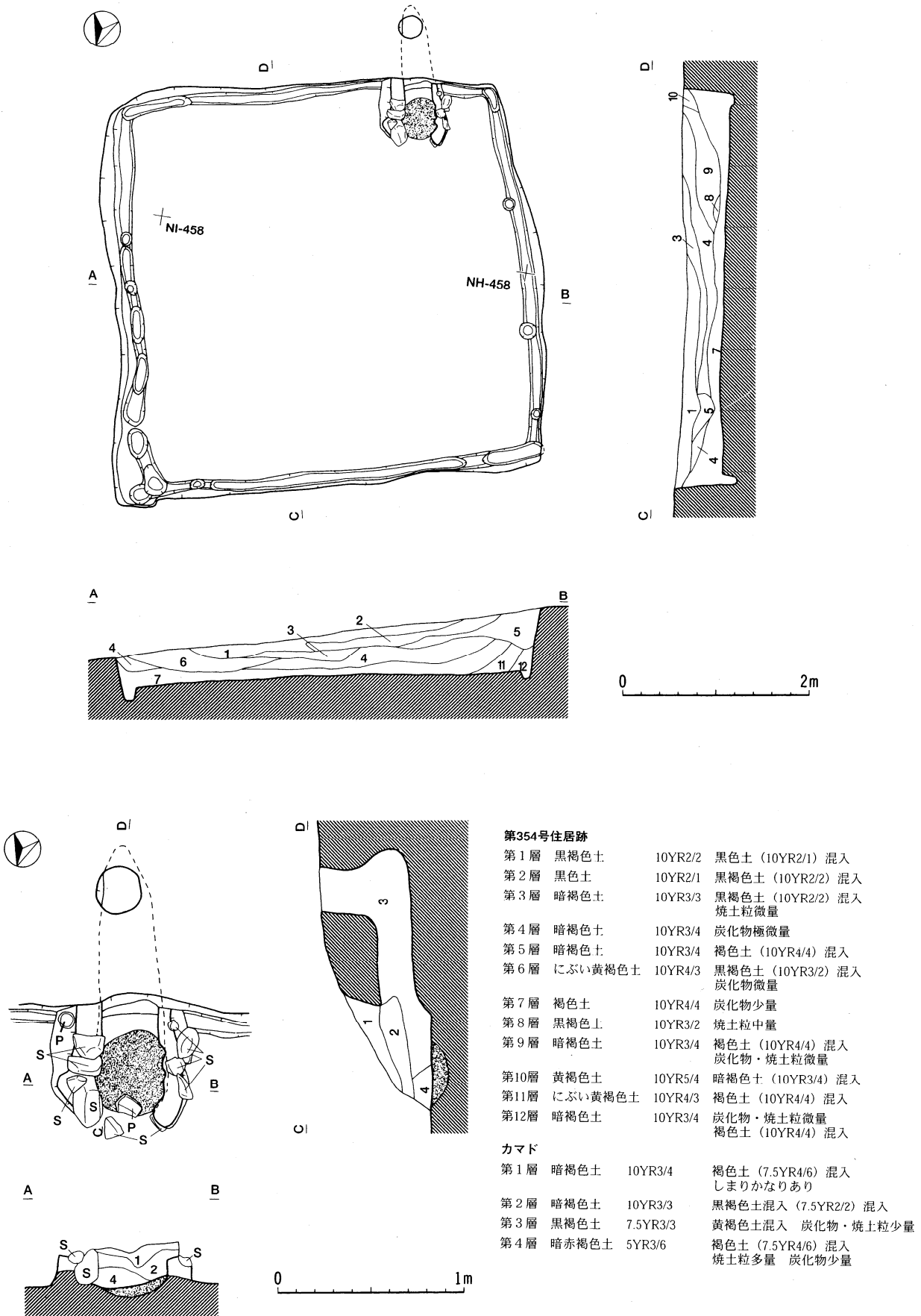
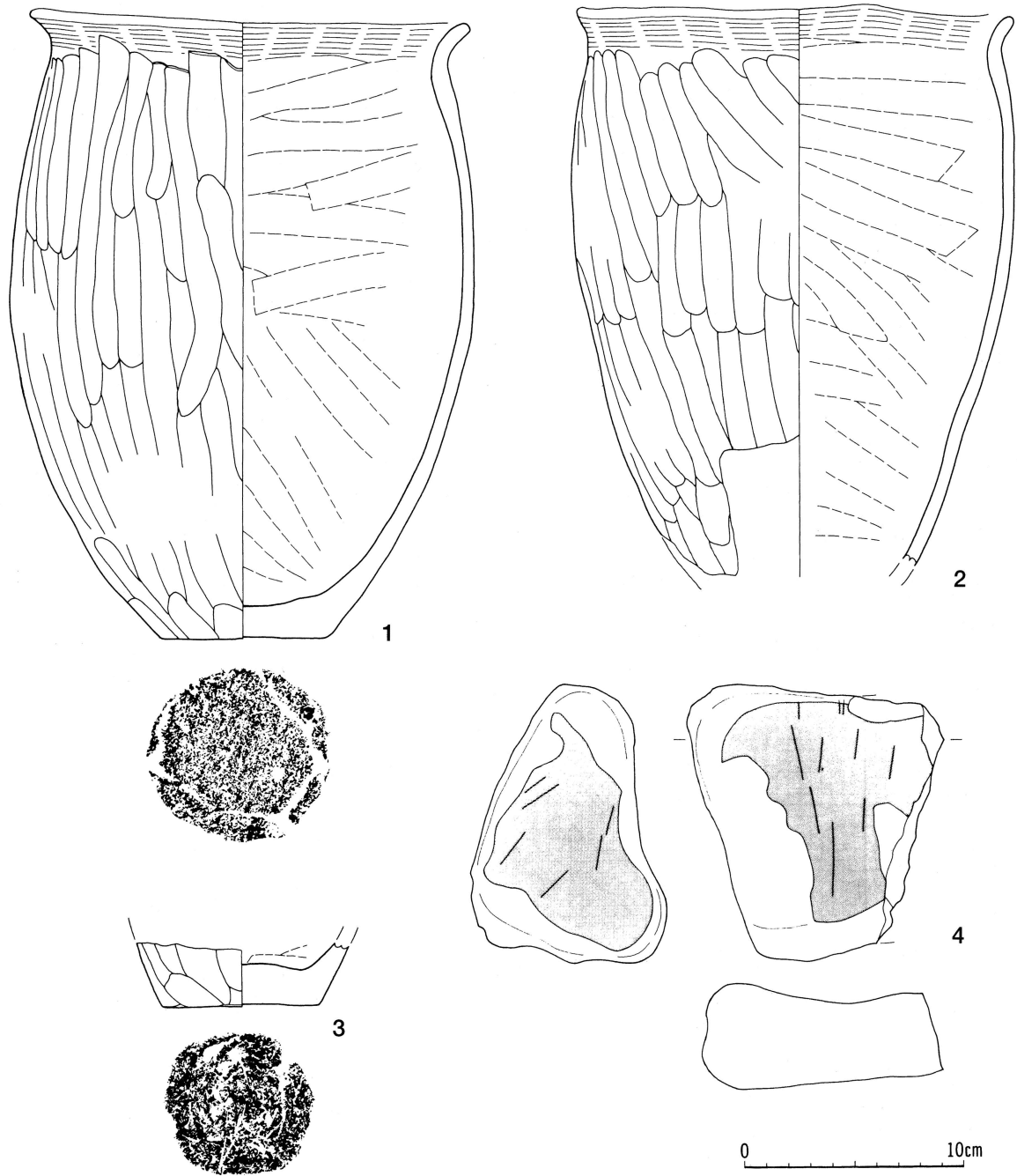


図147 第354号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	床面	20.2	28.8	7.4	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	A1d	P-13、15、16
2	土師器	甕	床面	20.0	(26.0)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A1d	P-15、16
3	土師器	甕	フク土	—	(2.9)	7.2	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	外径	内径				
4	床直	11.5	12.4	4.8	1430	流	砥石	S-1、被熱 炭化物付着

図148 第354号竪穴住居跡出土遺物

第354号竪穴住居跡 (図147・図148)

[位置] NI・NJ-457・458グリッドに位置する。

[重複] 認められない。

[平面形・規模] 東壁4m30cm、西壁4m14cm、南壁4m20cm、北壁4m65cmのほぼ方形である。床面積は18.69㎡である。主軸方位はN-79°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁30cm、西壁70cm、南壁50cm、北壁50cmである。床面は、東側が西側に比べて10cm程度低い。

[周溝] 幅8~22cm、深さ3~19cmの周溝が一巡する。西・南・北壁では壁直下を巡るが、東壁では、一部壁から離れている。

[ピット] 検出されなかった。

[カマド] 南壁西側に構築されている。礫を芯材とし、粘土で覆って築かれている。煙道は地下式で、住居外に1m60cm伸びる。煙道底面は平坦である。

[その他の施設] 検出されなかった。

[堆積土] 12層に分層される。黒褐色土・暗褐色土を主体とし、炭化物・焼土が堆積土全体にわずかに含まれる。

[出土遺物] 土師器の甕、砥石が出土している。

[時期] 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀中葉に構築されたと考えられる。

(田中珠美)

第355号竪穴住居跡 (図149・図150)

[位置] ND・NE-462・463グリッドに位置する。

[重複] 第310号溝と重複し、本住居跡が古い。

[平面形・規模] 南壁は第310号溝との重複により残存せず、東壁4m、西壁4m60cmが残存する。北壁は3m40cmである。

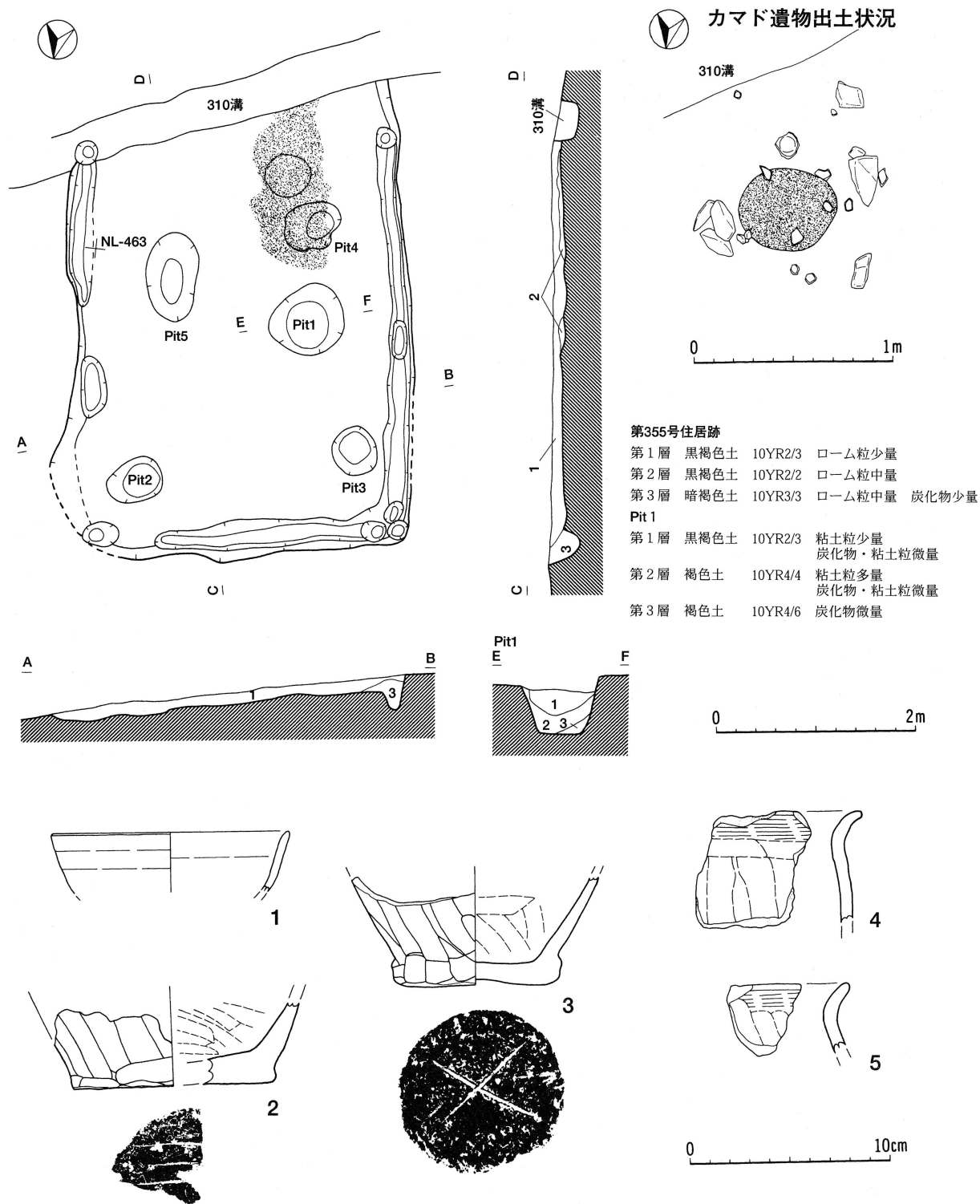
[壁・床面] 壁高は、東壁6cm、西壁23cm、北壁16cmである。黒褐色土とロームが混入した貼床が施され、床面は西側から東側にやや傾斜する。

[周溝] 幅14~30cm、深さ7~30cmの周溝が断片的に巡る。

[ピット] ピットは4つ検出されたが、柱穴とは考えられない。このほかに周溝内の四隅に径20~26cm、深さ14~44cmのピットが検出され、柱穴と考えられる。

[カマド] 南壁西側に位置するが、第310号溝との重複により火床面と芯材と考えられる礫のみが残存する。

[その他の施設] 住居西側中央部に径70cm、深さ60cmの不整な円形のピット1、北東隅に54×43cm、深さ32cmの楕円形のピット2、北西隅に径48cm、深さ17cmの円形のピット3、焼土の下に61×48cm、深さ29cmの不整な楕円形のピット4、ほぼ中央に89×52cm、深さ18cmの楕円形のピット5が検出された。



カマド遺物出土状況

310溝

0 1m

第355号住居跡

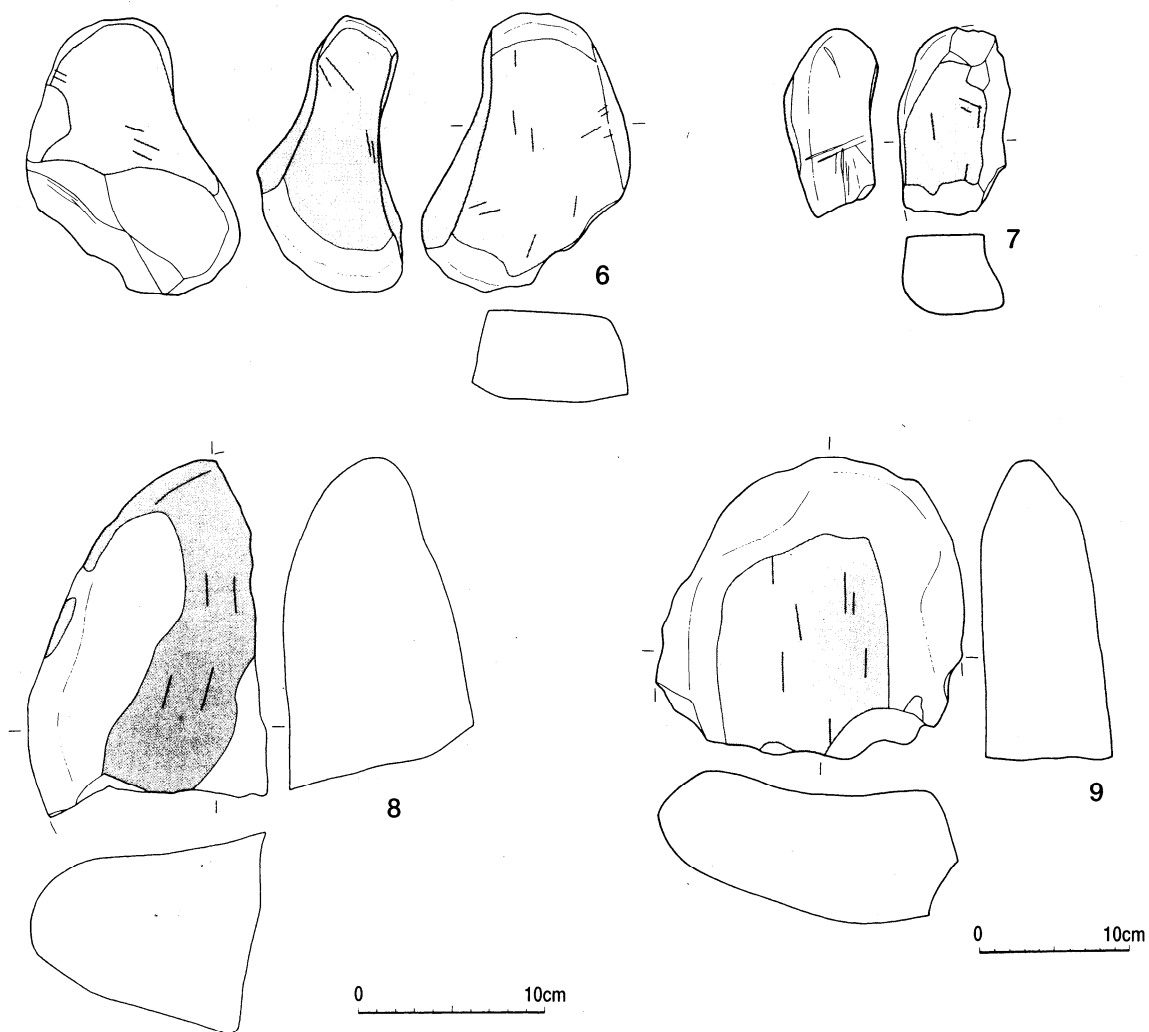
第1層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒少量
 第2層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量
 第3層 暗褐色土 10YR3/3 ローム粒中量 炭化物少量

Pit 1

第1層 黒褐色土 10YR2/3 粘土粒少量
 炭化物・粘土粒微量
 第2層 褐色土 10YR4/4 粘土粒多量
 炭化物・粘土粒微量
 第3層 褐色土 10YR4/6 炭化物微量

図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	(12.0)	(3.0)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	
2	土師器	甕	Pit1 フク土	—	(4.2)	(10.0)	—	—	ハラナデ	—	—	ハラナデ	木葉痕	A	
3	土師器	甕	フク土	—	5.3	8.0	—	—	ハラナデ	—	—	ハラナデ	ハラナデ	A	底面ハラ書き
4	土師器	甕	カマド フク土	(20.5)	—	(5.5)	ヨコナデ	ハラナデ	—	ハラナデ	ハラナデ	—	—	A	P-9
5	土師器	甕	Pit1 フク土	—	(3.5)	—	ヨコナデ	ハラナデ	—	ハラナデ	ハラナデ	—	—	A	

図149 第355号竪穴住居跡(1)・出土遺物(1)



図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	外径	内径				
6	カマドフク土	14.8	10.5	4.8	1,120	凝	砥石	S-1、炭化物付着
7	確認面	10.1	5.7	4.3	360	流	砥石	S-2
8	確認面	17.7	12.6	10.2	2,723	安	磨石	S-2
9	確認面	19.9	20.0	8.1	5,520	安	磨石	S-1

図150 第355号竪穴住居跡出土遺物 (2)

[堆積土] 3層に分層される。全体的にロームが混入する。

[出土遺物] 土師器の坏・甕のほかに砥石・磨石が出土している。

[時期] 時期は不明である。

(田中珠美)

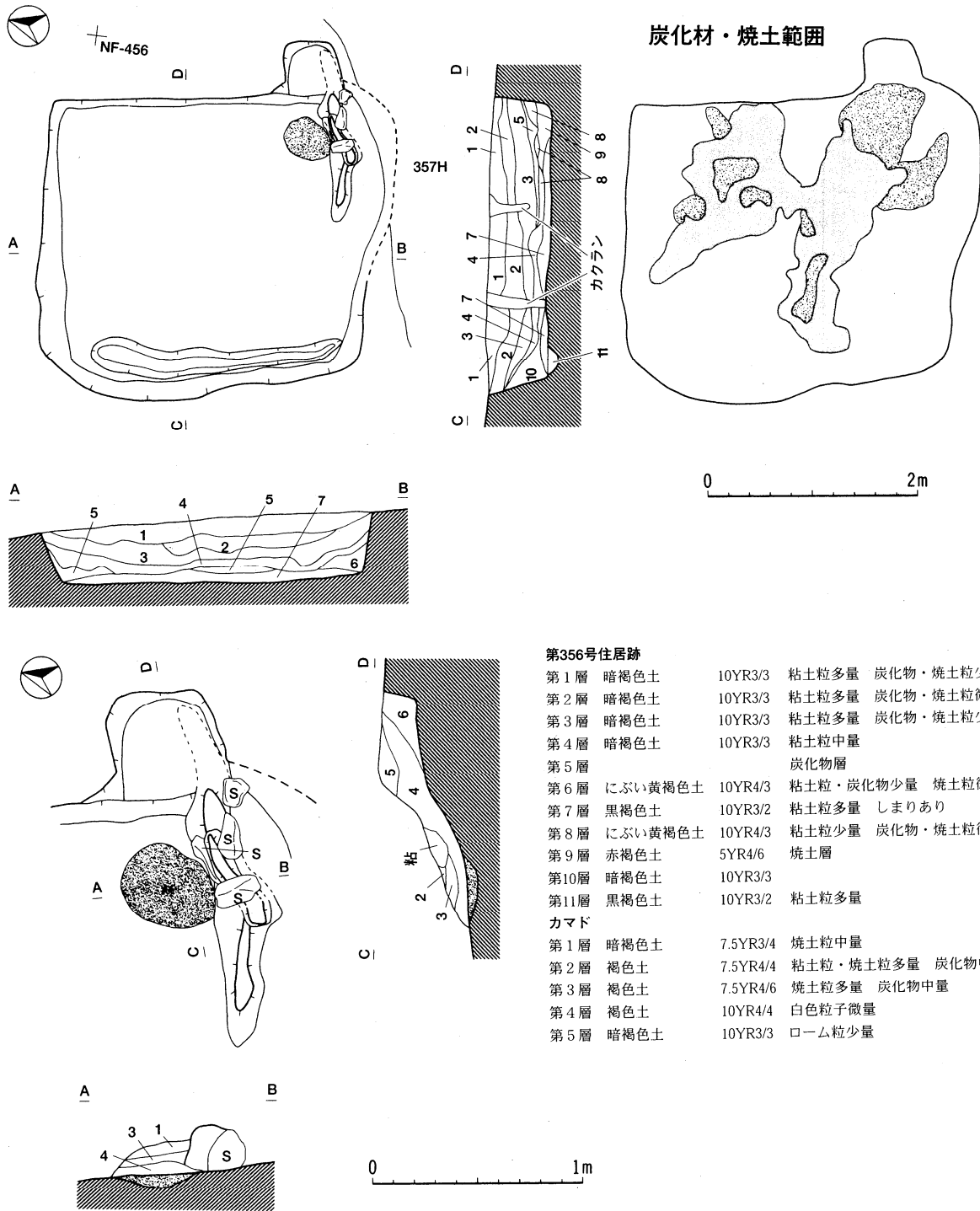
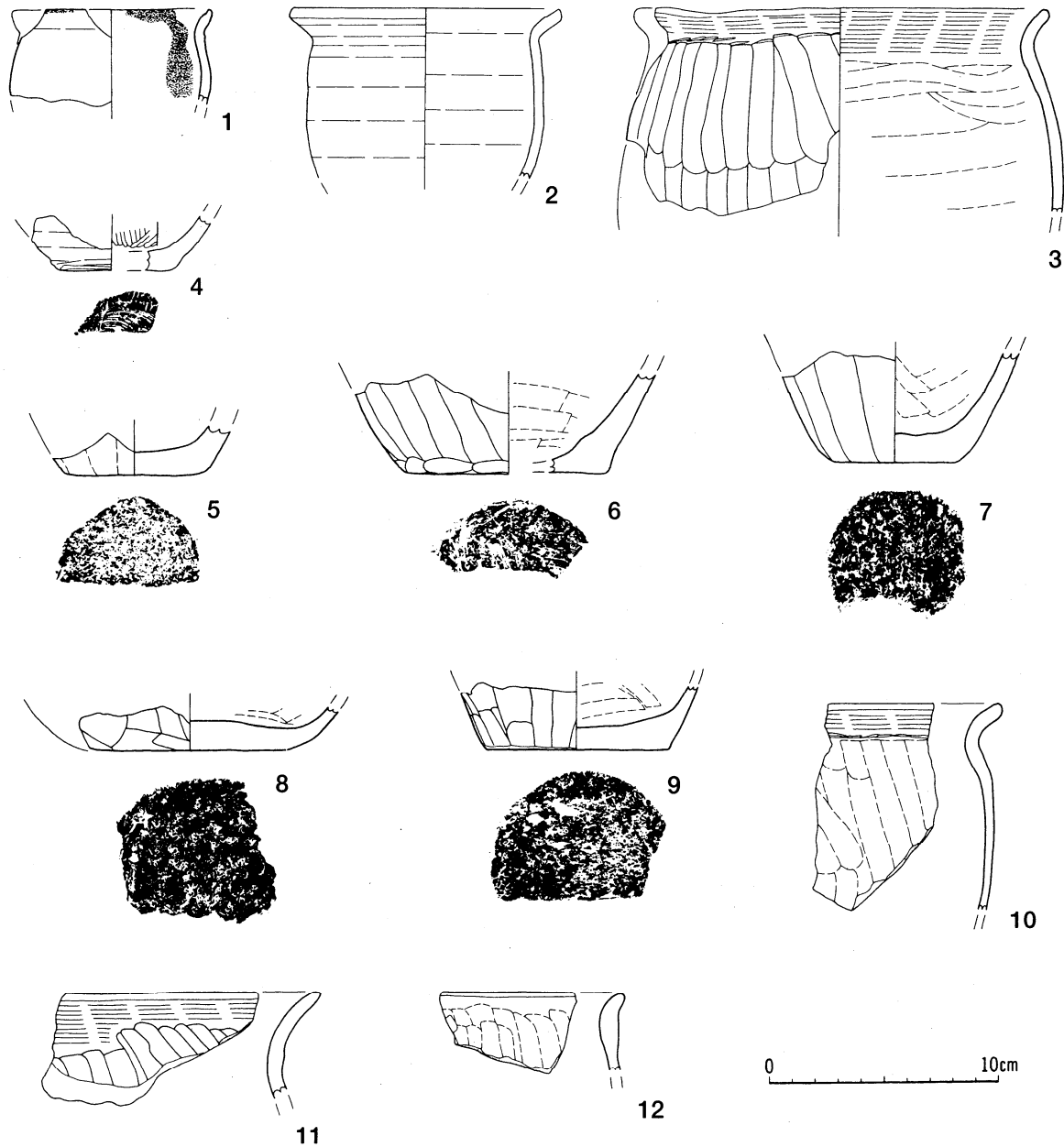
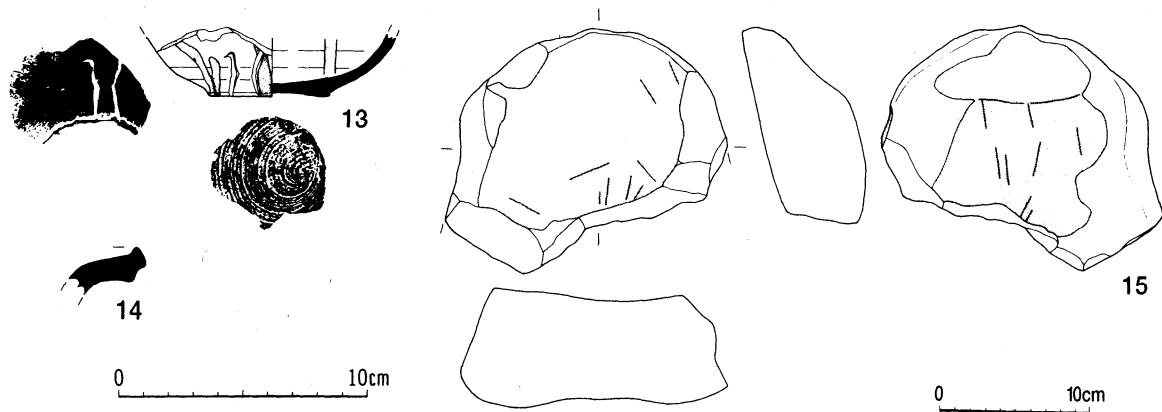


図151 第356号竪穴住居跡（1）



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	カマド フク土	(8.8)	(4.3)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A	内外面スス状炭化物付着
2	土師器	甕	炭化材層下	(12.0)	(7.5)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B	
3	土師器	甕	フク土	(18.0)	(9.0)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
4	土師器	坏?	フク土	—	(2.4)	(5.0)	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ 回転系切り ヘラナデ	BI	内面黒色処理	
5	土師器	甕	フク土	—	(2.2)	(6.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	不明	砂底	A	
6	土師器	甕	フク土	—	4.4	(8.6)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
7	土師器	甕	フク土	—	(5.0)	(6.0)	—	—	ヘラケズリ?	—	—	ヘラナデ	砂底	A	磨減 P-1
8	土師器	甕?	フク土	—	(2.0)	(9.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
9	土師器	甕	フク土	—	(2.9)	(8.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底→ ヘラナデ	A	初痕(底部)
10	土師器	甕	カマド フク土	(17.0)	(9.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-2
11	土師器	甕	フク土	—	(4.9)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
12	土師器	甕	フク土	(16.0)	(3.5)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	

図152 第356号竪穴住居跡出土遺物(1)



図版番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
13	須恵器	坏	フク土	—	(2.5)	4.8	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転系切り	—	外面刻書 内外面火ダスキ痕
14	須恵器	壺	フク土	—	(1.9)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	

図版番号	出土層位	計 測 値 (cm)			重さ(g)	石 質	分 類	備 考
		長 さ	外 径	内 径				
15	フク土	15.2	17.9	7.8	2,628	凝	砥石	S-2、炭化物付着

図153 第356号竪穴住居跡出土遺物（2）

第356号竪穴住居跡（図151～図153）

〔位 置〕 NE・NF-455・456グリッドに位置する。

〔重 複〕 第357号竪穴住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

〔平面形・規模〕 東壁3m15cm、西壁3m、南壁2m70cm、北壁2m45cmのほぼ方形である。床面積は7.39㎡である。主軸方位はN-83°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁11cm、西壁56cm、南壁56cm、北壁23cmである。床面は、暗褐色土と粘土が混入した掘り方を踏みしめた床面で、あまり堅緻ではなく、凹凸がある。

〔周 溝〕 西壁から1～12cmはなれて幅14～30cm、深さ1～6cmの周溝が検出された。

〔ピット〕 検出されなかった。

〔カマド〕 東壁南側に構築されている。礫を芯材とし、粘土を覆って築いている。煙道は半地下式で、住居外に50cmのびる。煙道底面は煙出し方向に急勾配で上昇する。

〔その他の施設〕 検出されなかった。

〔堆積土〕 11層に分層される。暗褐色土を主体とし、にぶい黄褐色土の層が混入する。住居跡の南側では、第357号住居跡から流れ込んだ白頭山火山灰がごくわずかに混入する。5層は炭化物層、9層は焼土層で、焼失家屋の可能性がある。

〔出土遺物〕 土師器の甕、須恵器の坏・壺のほか砥石が出土している。

〔時 期〕 重複関係や出土遺物から、10世紀前半以後に構築されたと考えられる。

（田中珠美）

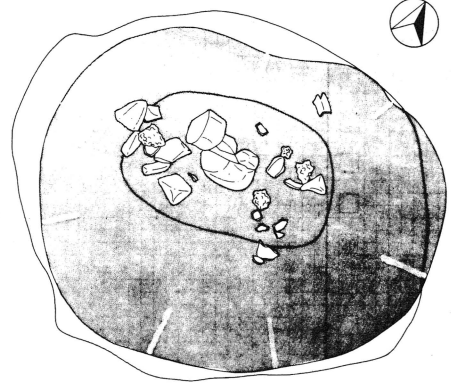
Pit1火山灰 (B-Tm) 上面遺物出土狀況

Pit 1

- 第1層 黑褐色土 10YR3/2 粘土粒多量
- 第2層 黑褐色土 10YR3/2 粘土粒中量
- 第3層 黑褐色土 10YR3/2 粘土粒多量 B-Tm混入
- 第4層 暗褐色土 10YR3/3 燒土粒中量 炭化物少量
- 第5層 褐色土 7.5YR4/4 燒土粒中量 炭化物少量 粘土質土
- 第6層 炭化物層 燒土粒少量
- 第7層 黑褐色土 10YR3/2 炭化物・粘土粒多量
- 第8層 褐色土 7.5YR4/6 粘土層 燒土粒中量
- 第9層 炭化物層 燒土粒少量

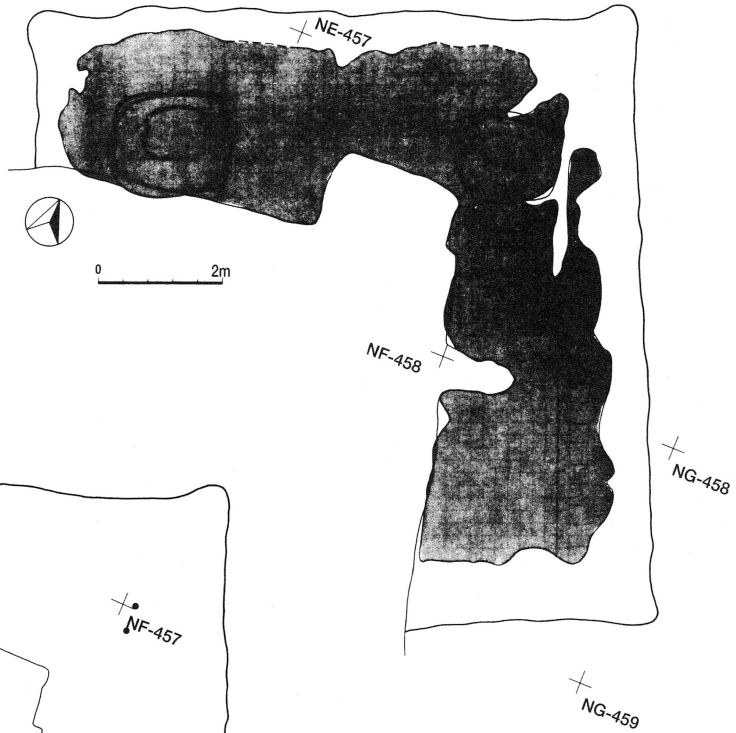
Pit 2

- 第1層 黑褐色土 10YR3/2 粘土粒中量 B-Tm混入
- 第2層 黑褐色土 10YR3/2 粘土粒少量 B-Tm混入
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 粘土粒中量 B-Tm混入
- 第4層 黑褐色土 10YR3/2 粘土粒中量 褐色土 (7.5YR4/4) 混入
- 第5層 褐色土 7.5YR4/4 燒土粒中量 炭化物少量 粘土質土
- 第6層 炭化物層 燒土粒少量
- 第7層 褐色土 7.5YR4/4 粘土層



0 1m

B-Tm範圍



遺物出土狀況

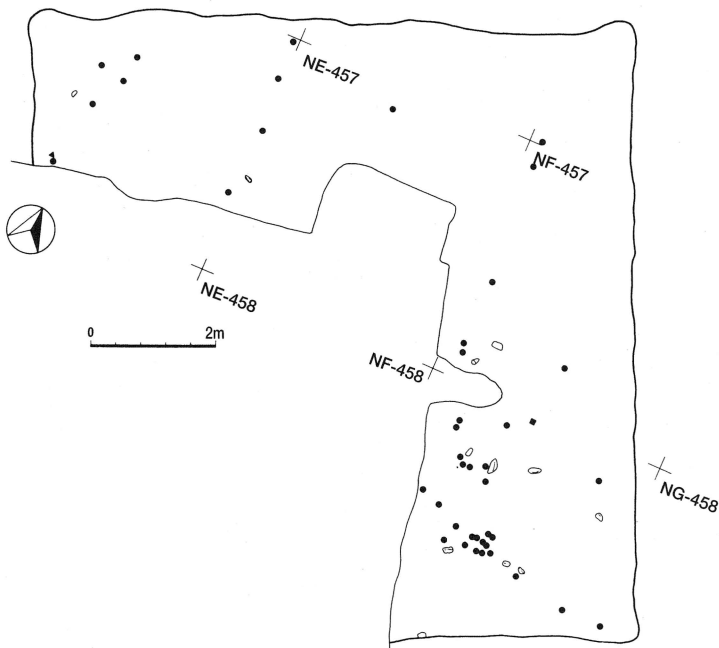
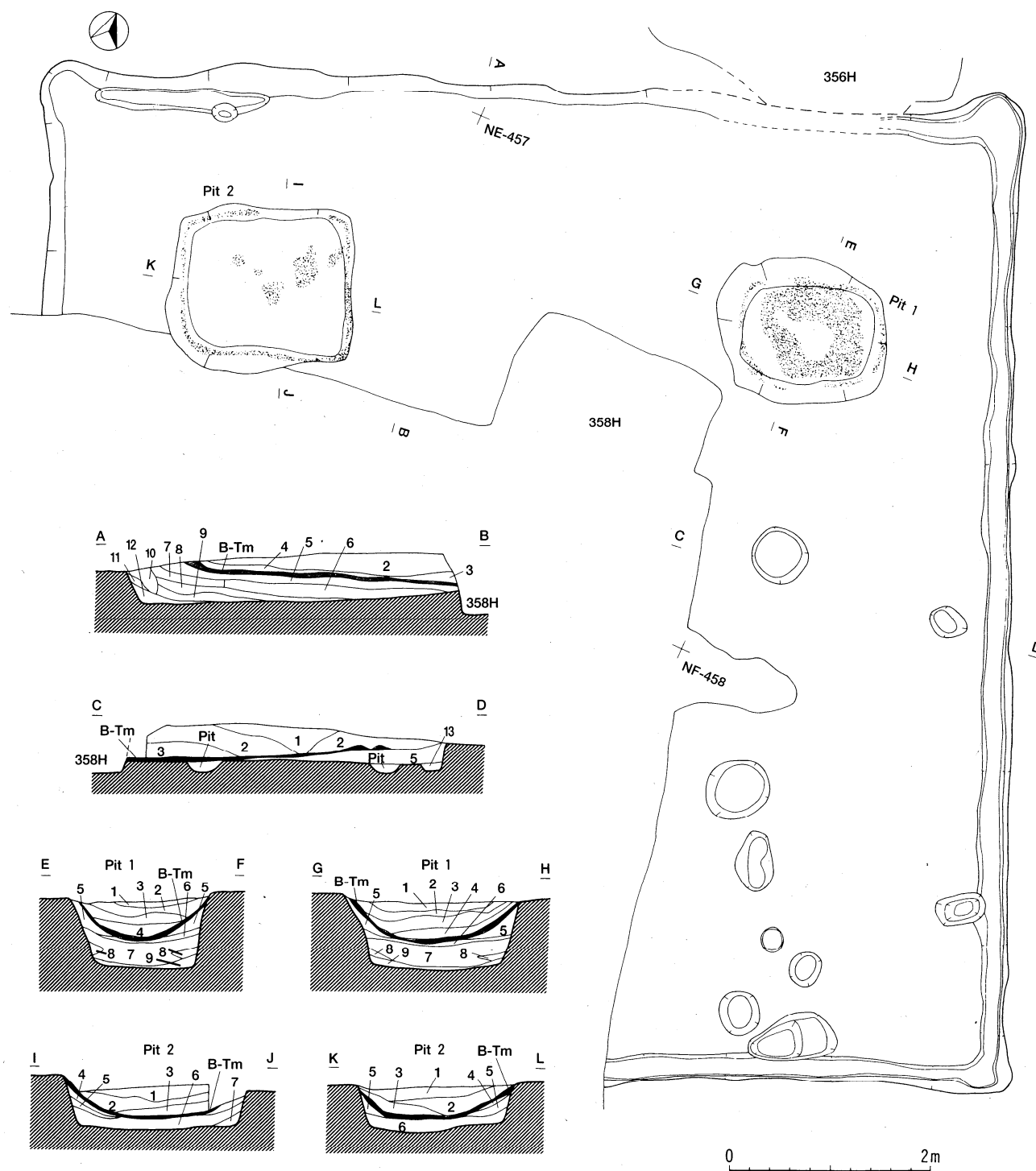


図154 第357号竪穴住居跡 (1)

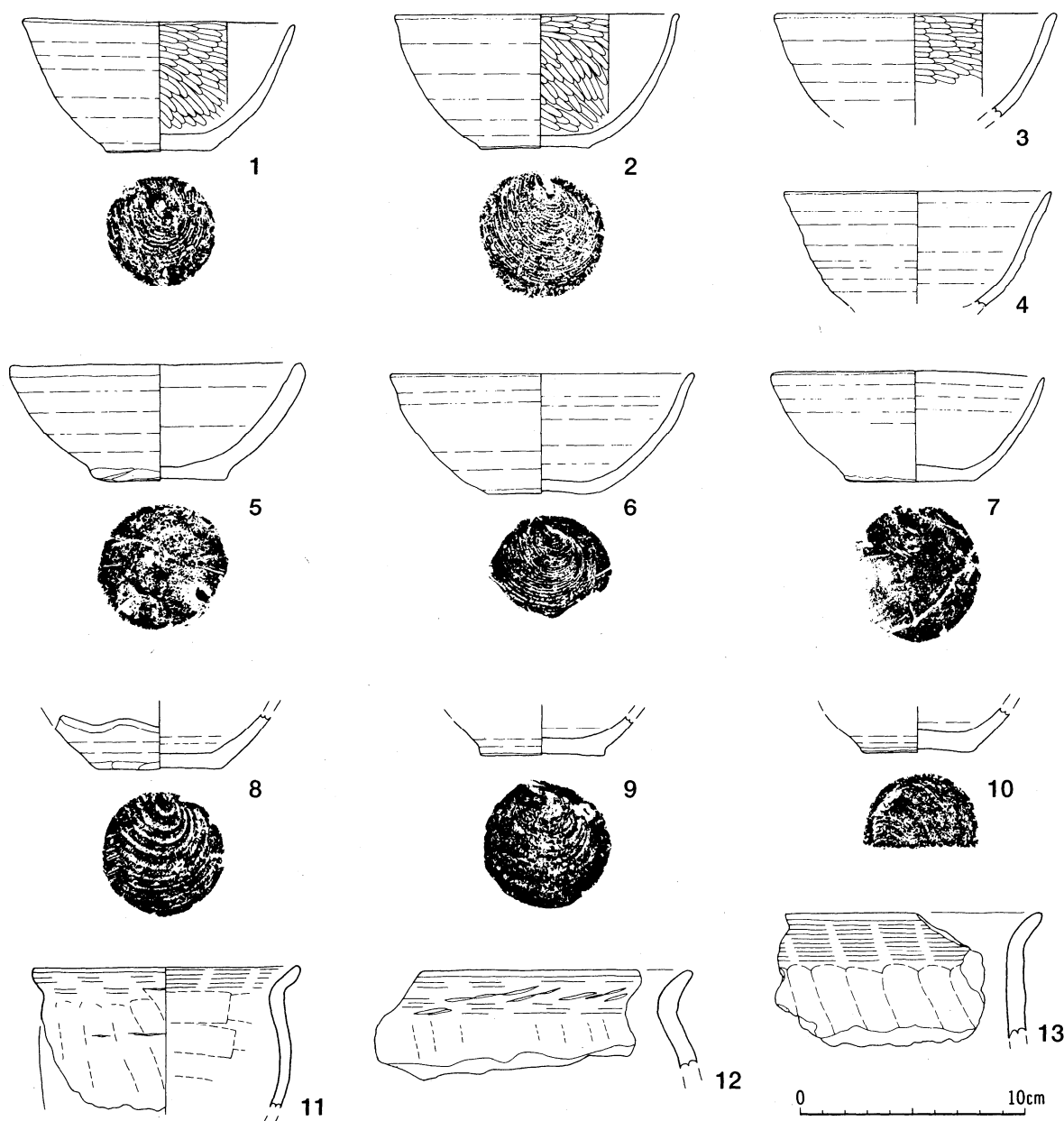


第357号住居跡

第1層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒多量	焼土粒中量	炭化物微量
第2層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量	炭化物少量	
第3層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量	炭化物少量	B-Tm混入
第4層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	粘土粒少量	B-Tm混入	
第5層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	粘土粒多量	焼土粒少量	炭化物微量
第6層	にぶい黄褐色土	10YR5/4	しまりあり	粘土層	炭化物微量

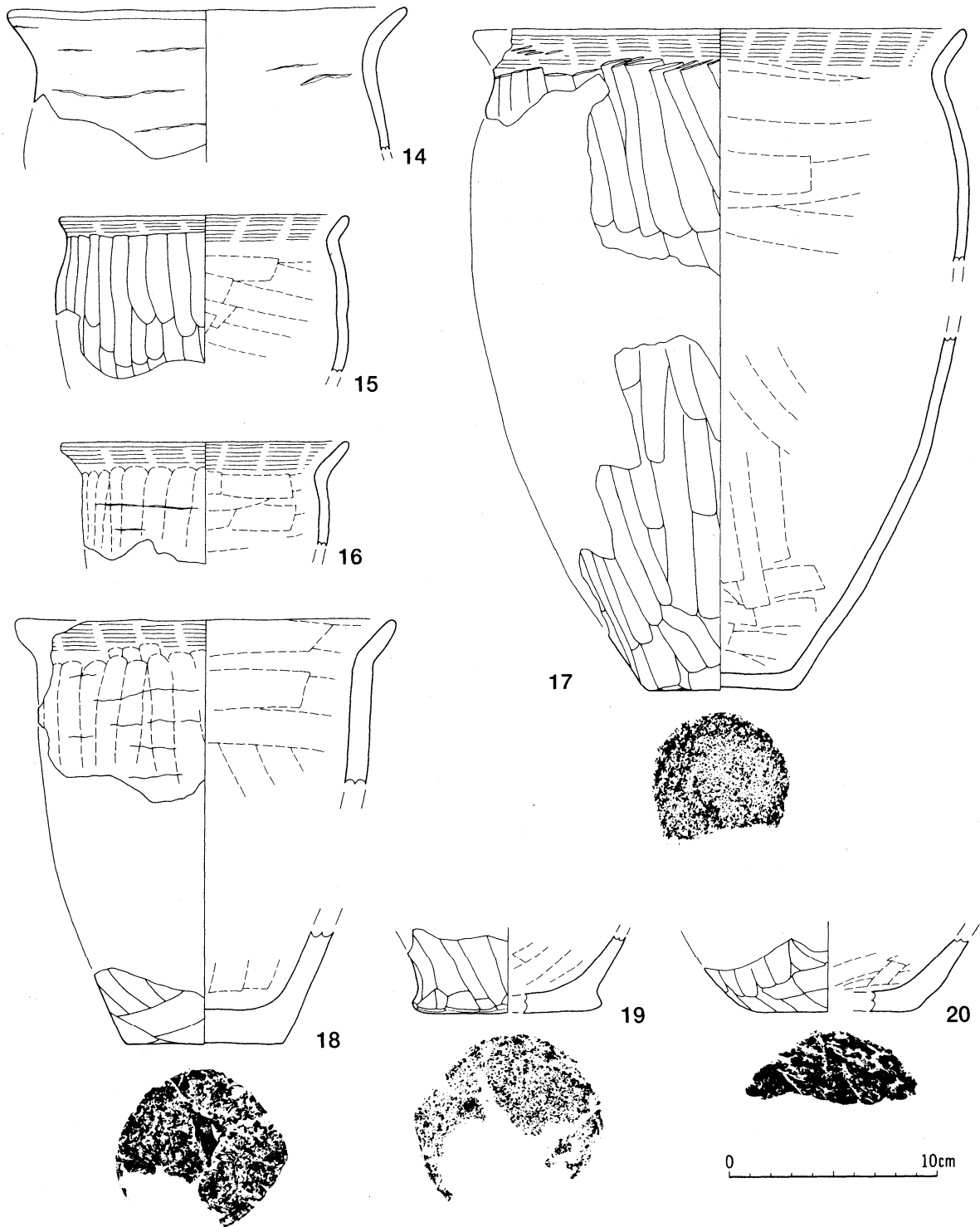
第7層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	粘土粒多量		
第8層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒多量	炭化物少量	
第9層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	粘土粒多量	炭化物少量	
第10層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒多量		
第11層	黒褐色土	10YR2/2			
第12層	暗褐色土	10YR3/4	粘土粒多量		
第13層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	粘土粒多量		

図155 第357号竪穴住居跡 (2)



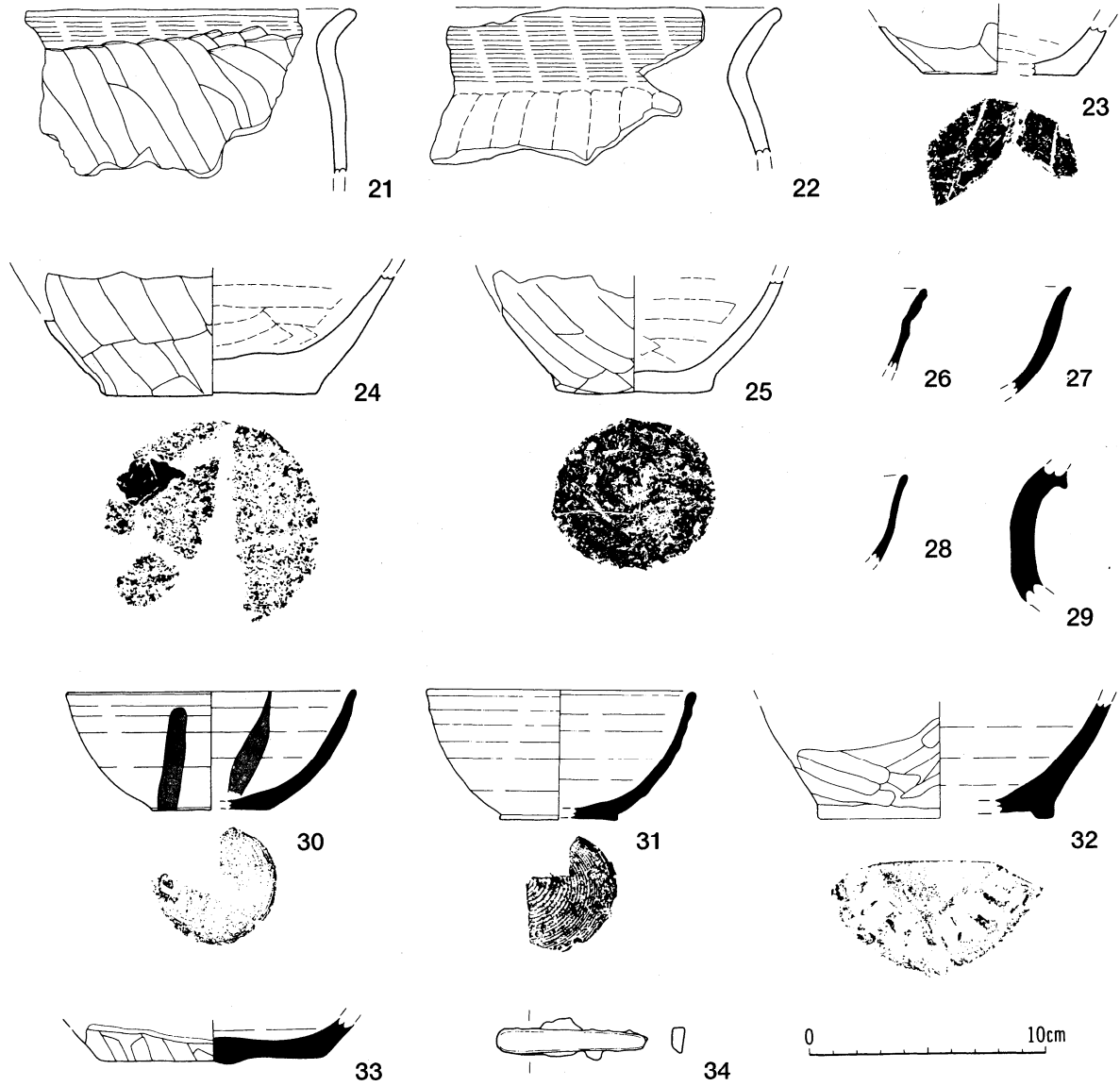
図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	火山灰下層	12.1	6.1	4.8	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転糸切り	B I b	内面黒色処理 P-39
2	土師器	坏	Pit 1 火山灰上層	12.6	6.0	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転糸切り	B I b	内面黒色処理 P-15
3	土師器	坏	Pit 2 火山灰上層	(12.6)	(4.6)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	B I	内面黒色処理
4	土師器	坏	火山灰上層	(12.0)	(5.1)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	B II	
5	土師器	坏	火山灰上層	(13.0)	5.8	5.2	ロクロ?	ロクロ?	ロクロ?	ロクロ?	ロクロ?	ロクロ?	ヘラ切り後 ナデツケ	B II	P-35
6	土師器	坏	火山灰上層	(13.6)	5.0	5.3	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II b	
7	土師器	坏	火山灰下層	12.2	4.9	5.8	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II	
8	土師器	坏?	トレンチ フク土	—	(2.4)	5.4	—	ロクロ	ヘラナデ	—	ロクロ	ロクロ	糸切り	B II a	
9	土師器	坏	火山灰上層	—	(1.7)	5.7	—	—	ロクロ?	—	—	ロクロ?	回転糸切り	B II	P-5
10	土師器	坏	火山灰上層	—	(1.9)	5.2	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	B II	
11	土師器	甕	火山灰下層	(12.0)	(6.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕 P-37
12	土師器	甕	Pit 1 火山灰上層	—	(4.9)	—	ヨコナデ?	ヘラケズリ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-24
13	土師器	甕	火山灰上層	—	(6.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-19

図156 第357号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
14	土師器	甕	Pit 2 火山灰上層	(19.4)	(7.3)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A	輪積痕
15	土師器	甕	火山灰下層	(14.2)	(7.9)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
16	土師器	甕	Pit1 火山灰上層	14.0	(5.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面輪積痕
17	土師器	甕	Pit1 火山灰上層	(23.6)	(32.0)	7.2	ヨコナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	A I d	P-28、33
18	土師器	甕	火山灰上層	(18.6)	(20.5)	7.6	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラケズリ	ヘラナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	A II	外面輪積痕、胎土に砂粒多量 P-26
19	土師器	甕	火山灰上層	—	4.0	8.4	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
20	土師器	甕	フク土	—	(3.5)	(7.6)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	

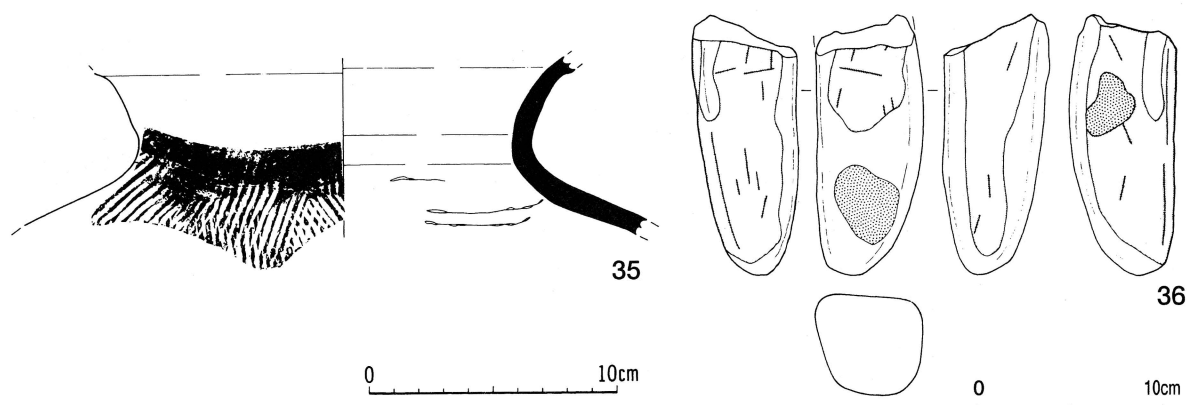
図157 第357号竪穴住居跡出土遺物 (2)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
21	土師器	甕	Pit 1 火山灰上層	—	(7.2)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-13、24
22	土師器	甕	Pit 1 火山灰上層	—	(6.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-7
23	土師器	甕	火山灰下層	—	(2.2)	(6.6)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ (ナデツケ)	A	
24	土師器	甕	床面	—	(5.3)	9.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
25	土師器	甕	床面	—	(5.3)	6.6	—	ヘラケズリ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	ナデツケ	A	P-43
26	須恵器	坏	確認面	—	(3.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内外面火ダスキ痕
27	須恵器	坏	火山灰下層	—	(4.6)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内外面火ダスキ痕
28	須恵器	坏	火山灰下層	—	(3.6)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内外面火ダスキ痕
29	須恵器	甕	フク土	—	(5.8)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
30	須恵器	坏	フク土	(12.2)	5.0	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切	—	内外面火ダスキ痕
31	須恵器	坏	火山灰上層	(11.2)	5.5	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切	—	P-16
32	須恵器	壺	火山灰上層	—	(4.9)	(10.0)	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	菊花文	—	
33	須恵器	壺	火山灰上層	—	(1.5)	(9.5)	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	切離後 ケズリ	—	

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
34	床直	6.4	1.1	0.6	10.1	棒状	Fe-3

図158 第357号竪穴住居跡出土遺物 (3)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
35	須恵器	甕	Pit 2 火山灰上層	—	(7.2)	—	—	タタキ目	—	—	あて具痕	—	—	—	P-5 内面輪積痕

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	外径	内径				
36	火山灰下層	12.9	5.7	5.3	610	流	砥石	S-7、炭化物付着

図159 第357号竪穴住居跡出土遺物 (4)

第357号竪穴住居跡 (図154～図159)

〔位置〕 NC～NF-456～459グリッドに位置する。

〔重複〕 第356号・第358号竪穴住居跡と重複し、本住居跡が古い。

〔平面形・規模〕 西壁と南壁は第358号竪穴住居跡と重複し、西壁2m57cm、南壁4m3cmが残存し、東壁は9m92cm、北壁は9m84cmである。方形を呈すると考えられる。床面積は44.43㎡である。

〔壁・床面〕 壁高は、東壁17cm、北壁は36cmである。床面は地山粘土を踏みしめたもので、ほぼ平坦である。

〔周溝〕 南壁・東壁・北壁の一部に幅18～26cm、深さ2～12cmの周溝が検出された。

〔ピット〕 ピットは9つ検出されたが、いずれも浅く、柱穴とは考えられない。

〔カマド〕 検出されなかった。

〔その他の施設〕 住居跡の北東隅・北西隅に長方形のピット (ピット1・2) が検出された。どちらも白頭山火山灰層上面で確認できた。北東隅で検出されたピット1は、長軸1m62cm、短軸1m50cm、深さ66cmの東西にやや長い長方形を呈し、底面は平坦である。底面・壁面は一部焼けて赤変している。堆積土は9層に分層され、4層と5層の間には白頭山火山灰が均一に堆積している。6層と9層は、0.5～3cmの消し炭状の炭化物の層である。火山灰層上面で土師器・礫・鉄滓がまとまって出土している。北西隅で検出されたピット2は長軸1m76cm、短軸1m62cm、深さ42cmの東西にやや長い長方形を呈し、底面は平坦である。底面・壁面は一部焼けて赤変している。堆積土は7層に分層され、3層と4層の間に白頭山火山灰が堆積している。6層は0.5～3cmの消し炭状の炭化物の層である。このピット1と2は検出状況や堆積土・堆積状況が同じで、ほぼ同時に廃棄・埋没したと考えられる。一方で、ピット1では焼土層・炭化物層が2層ずつあるのに対し、ピット2では1層しかない、ピット1の火山灰層上面で遺物がまとまって出土しているのに対し、ピット2では遺物が出土していないなどの相違点があげられる。なお、この炭化物の放射性炭素年代測定をおこなっているので、後章を参照されたい。

〔堆積土〕 13層に分層され、4層と5層の間には白頭山火山灰が1～3cm堆積している。火山灰は

床面をも一部覆っていることが東西セクションからわかる。火山灰を面的に捉えることが難しい他の遺構に比べ、本住居跡では一定の厚さで遺構内のほぼ全面に堆積している。さらに、ピット1・ピット2ではレンズ状ではなく、均一に堆積していることから、自然堆積ではなく人為的に敷かれた可能性も考えられる。この火山灰は蛍光X線分析で白頭山火山灰であることが明らかになっている。分析については後章を参照されたい。

[出土遺物] 土師器の坏・甕、須恵器の坏・壺・甕のほか、砥石、棒状鉄製品が出土している。

[時期] 火山灰の堆積状況や出土遺物から、9世紀後半から10世紀前半に構築されたと考えられる。

(田中珠美)

第358号(A) 竪穴住居跡 (図160～図172)

[位置] ND～NF-457～459グリッドに位置する。

[重複] 第357号・第358号(B) 竪穴住居跡と重複し、本住居跡が新しい。

当初は1軒の住居跡として調査したが、2軒の住居跡が重複していることがわかったので、第358号(A)・第358号(B)住居跡とした。

[平面形・規模] 東壁7m57cm、西壁7m38cm、南壁7m60cm、北壁7m50cmで、北側に東壁80cm、西壁1m15cm、北壁2m2cmの張り出しをもつ。床面積は57.10㎡である。主軸方位はN-76°-Eである。

[壁・床面] 壁高は重複により不明である。地山粘土をかたく踏みしめて床面にしており、平坦で、かなり堅緻である。第358号(B)住居跡の床面より3cm程度低く、古い住居の床面をそのまま利用したのではなく、わずかではあるが、掘りくぼめて床面としたと考えられる。

[周溝] 幅8～26cm、深さ1～15cmの周溝が一巡する。

[ピット] ピットは20検出され、このうちピット2・ピット3が支柱穴と考えられる。このほかにピット1・ピット4が支柱穴の可能性もある。貼床下からはピットが20検出されている。それぞれのピットの深さを図中に()で示す。

[カマド] 東壁北側に構築されている。袖は礫を芯材とし、粘土で覆って築かれている。天井部には板状に成形した粘土板が残存していた。袖の周辺にもつぶれた粘土板が散乱しており、天井部以外にも使用されていたと考えられる。この粘土板は「焼成粘土板」とは違い、厚さ2～3cmと薄く、被熱によりかなりもろくなっている。煙道は半地下式で、住居外に1m15cmのびる。煙道底面はほぼ平坦である。フク土からはクリなどの炭化物が大量に出土している。

[その他の施設] 北側に張り出しをもつ。

[堆積土] 7層に分層される。第358号住居跡の堆積土の1～7層が本住居跡の堆積土である。5層に炭化物・焼土が大量に含まれ、床面では炭化材が出土している。さらに、床面中央部が赤く焼けている。これらのことから本住居跡は焼失家屋と考えられる。

[出土遺物] 土師器・須恵器の他にも石器・鉄製品など多量の遺物が出土している。

[時期] 重複関係や出土遺物から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

(田中珠美)

第358号（B）竪穴住居跡（図160～図172）

〔位置〕 NC～NF-458・459グリッドに位置する。

〔重複〕 第357号・第358号（A）竪穴住居跡と重複し、第358号（A）住居跡より古く、第357号住居跡より新しい。

〔平面形・規模〕 重複により東壁は残存しない。南壁は6 m54cm、北壁は1 m50cm残存する。西壁は7 m64cmである。南側に西壁1 m30cm、東壁88cm、南壁2 m25cmの張り出しをもつ。床面積は12.77 m²である。主軸方位はN-164°-Eである。

〔壁・床面〕 壁高は、西壁95cm、南壁79cmである。床面は第358号（A）住居跡の床面同様、地山粘土を堅くふみしめており、平坦で堅緻である。第358号（A）住居跡の床面より3 cm程度高い。

〔周溝〕 幅11～25cm、深さ1～8 cmの周溝が、張り出し部分を除いて一巡する。第358号（A）住居跡の貼床下からは本住居跡の周溝は検出されなかった。床面を作る際に削平されたと考えられる。

〔ピット〕 第358号（A）住居跡と重複しているため、本住居跡にどのピットがともなうかは不明である。

〔カマド〕 南壁西側に構築されている。袖は残っていなかったが、芯材の掘り方と考えられる落ち込みが検出された。火床面は床面よりやや低い位置で検出された。煙道は地下式で、住居外に1 m36 cmのびる。煙道底面はほぼ平坦である。

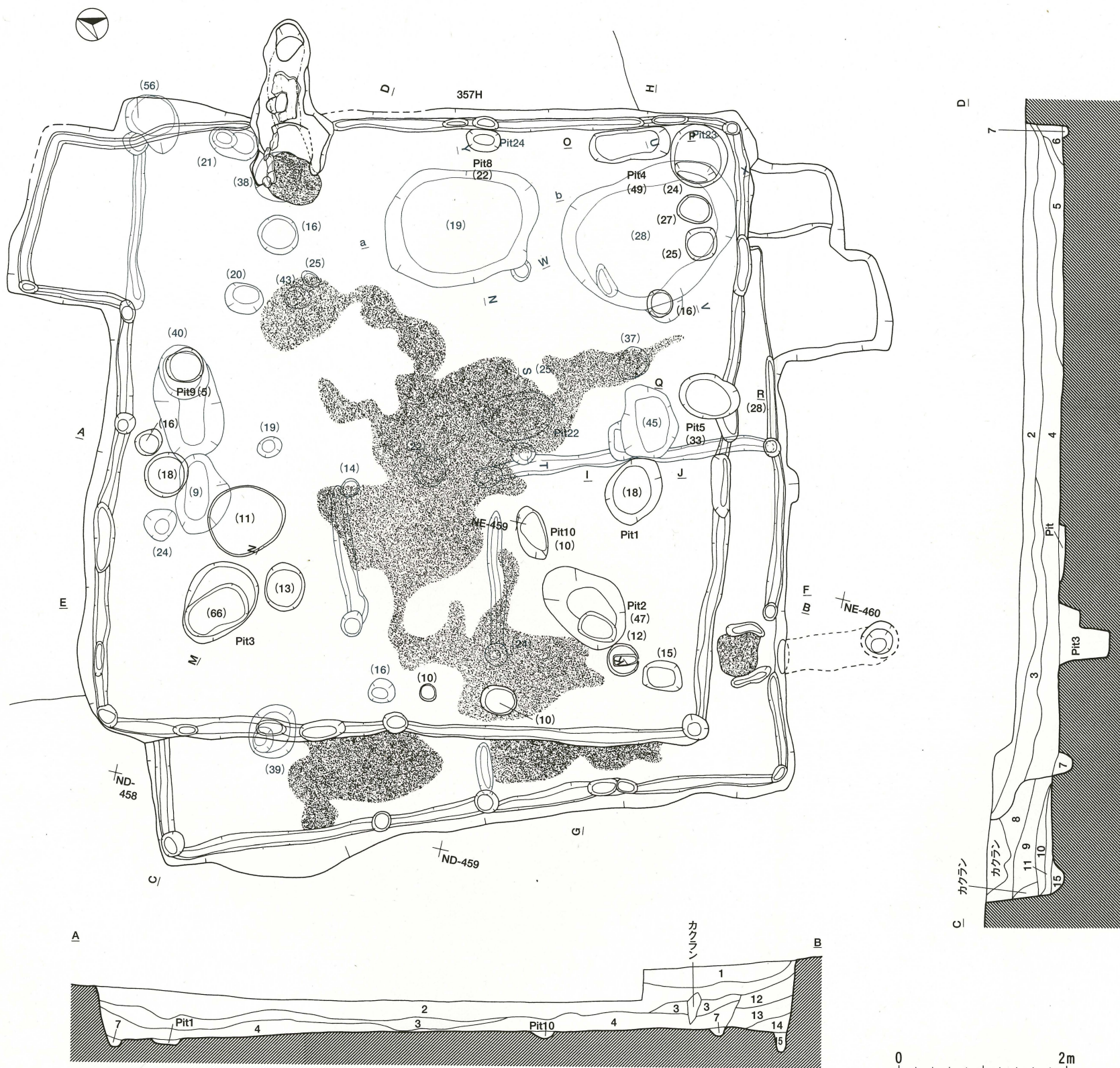
〔その他の施設〕 南壁東側に張り出しが検出された。張り出し部の床面は本体部より10cm程度高く、張り出し内にも5 cm程度の段差がある。住居と重複する土坑の可能性も考えられるが、住居内を一巡する周溝が張り出し部で途切れることから、この施設が住居に伴うものであると考えた。

カマドの構築されている南西隅の床面直下で径15～20cm、深さ20～37cmの柱穴が6つ、これらを巡る周溝が検出された。これらは本住居跡が拡張される前の住居跡というよりは、住居内の間仕切りと考えられる。

〔堆積土〕 8層に分層される。第358号住居跡堆積土の8～15層が本住居跡の堆積土である。東西セクションでは含有物が少なく、しまりのない本住居跡の堆積土と、全体的に焼土が混入する第358号（A）住居跡堆積土がはっきり分層でき、壁が確認できた。一方、南北セクションでは粘土が混入する本住居跡の堆積土との違いがあまり明確ではなかった。各セクションでの堆積土は含有物に若干の違いがみられる以外はかなり似ており、短時間に堆積した可能性も考えられる。

〔時期〕 重複関係から、10世紀前半に構築されたと考えられる。

（田中珠美）



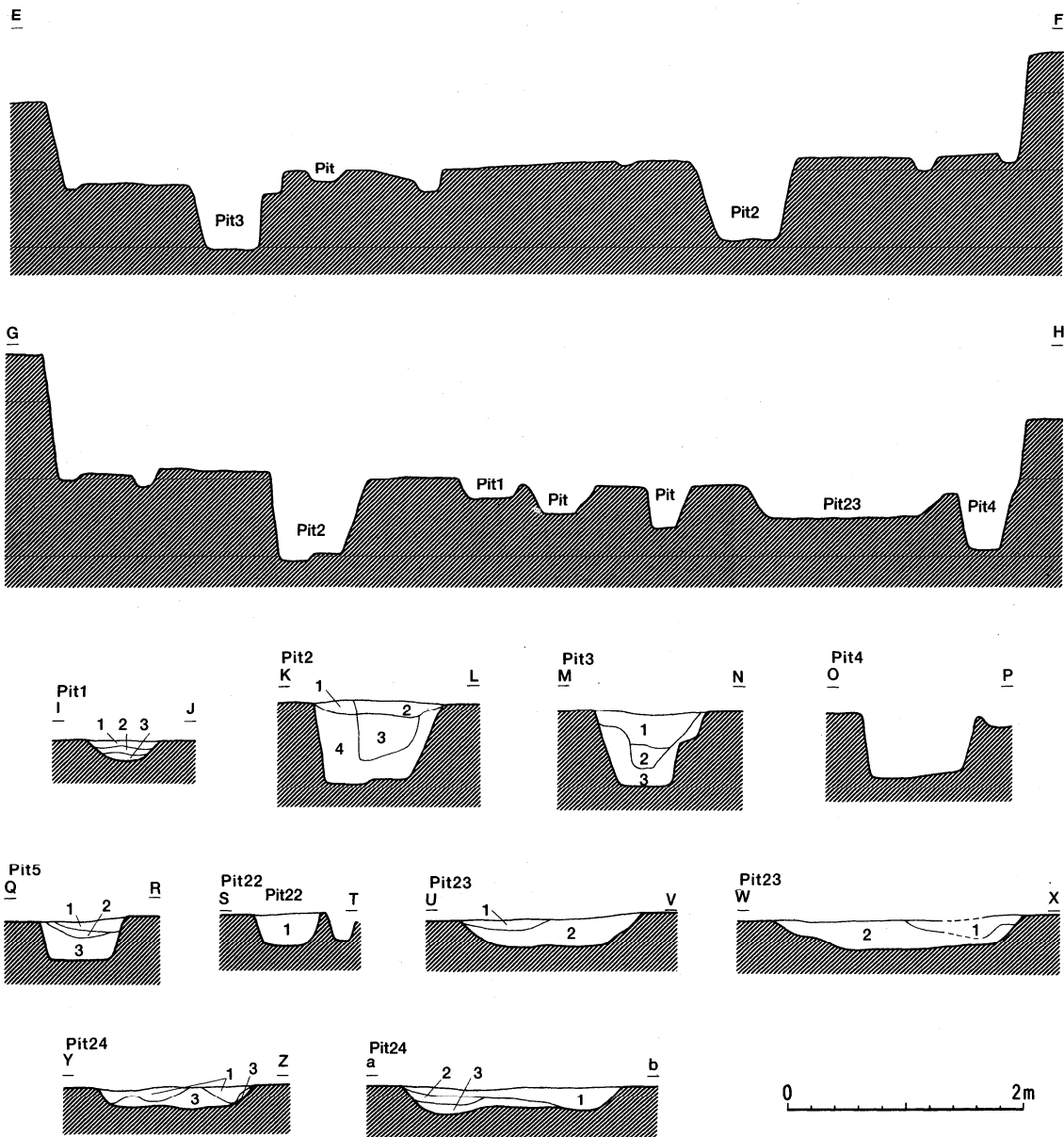
第358号住居跡

- 第1層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒少量 焼土粒微量
- 第2層 黒褐色土 10YR3/2 粘土粒・焼土粒少量
- 第3層 暗褐色土 10YR3/3 粘土粒多量 焼土粒中量 炭化物少量
- 第4層 暗褐色土 10YR3/3 粘土粒多量 焼土粒中量 炭化物少量
- 第5層 暗褐色土 7.5YR3/4 炭化物と焼土の層

- 第6層 暗褐色土 7.5YR3/4 焼土粒中量
- 第7層 暗褐色土 10YR3/3 粘土粒中量 炭化物・焼土粒少量
- 第8層 黒褐色土 10YR2/3 粘土粒中量
- 第9層 黒褐色土 10YR2/3 ローム粒中量 炭化物少量
- 第10層 黒褐色土 10YR2/2 ローム粒中量

- 第11層 赤褐色土 5YR4/8 焼土層
- 第12層 黒褐色土 10YR3/2 粘土粒多量 炭化物・焼土粒微量
- 第13層 黒褐色土 10YR3/2 粘土粒中量
- 第14層 黒褐色土 10YR3/2 粘土粒多量
- 第15層 黒褐色土 10YR3/2 粘土粒多量

図160 第358号竪穴住居跡(1)



Pit 1				
第1層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒少量	
第2層	黒褐色土	10YR3/2	粘土ブロック中量	
第3層	黒褐色土	10YR3/2	粘土ブロック少量	
Pit 2				
第1層	黒褐色土	10YR3/2	焼土粒少量	
第2層	暗褐色土	10YR3/3	焼土粒多量 炭化物少量	
第3層	黒色土	10YR2/1	炭化物層 焼土粒微量	
第4層	明褐色土	7.5YR5/6	粘土層 焼土粒中量	
Pit 3				
第1層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量 炭化物・焼土粒微量	
第2層	明褐色土	7.5YR5/6	粘土粒多量	
第3層	明褐色土	7.5YR5/6	粘土ブロック多量	
Pit 5				
第1層	暗褐色土	10YR3/3	粘土粒多量 炭化物・焼土粒少量	
第2層	黒褐色土	10YR3/2	粘土粒多量 炭化物・焼土粒中量	
第3層	にぶい黄褐色土	10YR4/3	粘土粒多量	
Pit22				
第1層	暗褐色土	7.5YR3/4	焼土粒多量 粘土粒・炭化物少量	
Pit23				
第1層	褐色土	7.5YR4/6	粘土粒多量 炭化物・焼土粒少量	
第2層	褐色土	7.5YR4/3	粘土粒・炭化物・焼土粒多量	
Pit24				
第1層	褐色土	7.5YR4/3	粘土粒・炭化物・焼土粒多量	
第2層	褐色土	7.5YR4/4	粘土粒中量 炭化物・焼土粒少量	
第3層	褐色土	7.5YR4/4	粘土層 焼土粒微量	

図161 第358号竪穴住居跡(2)

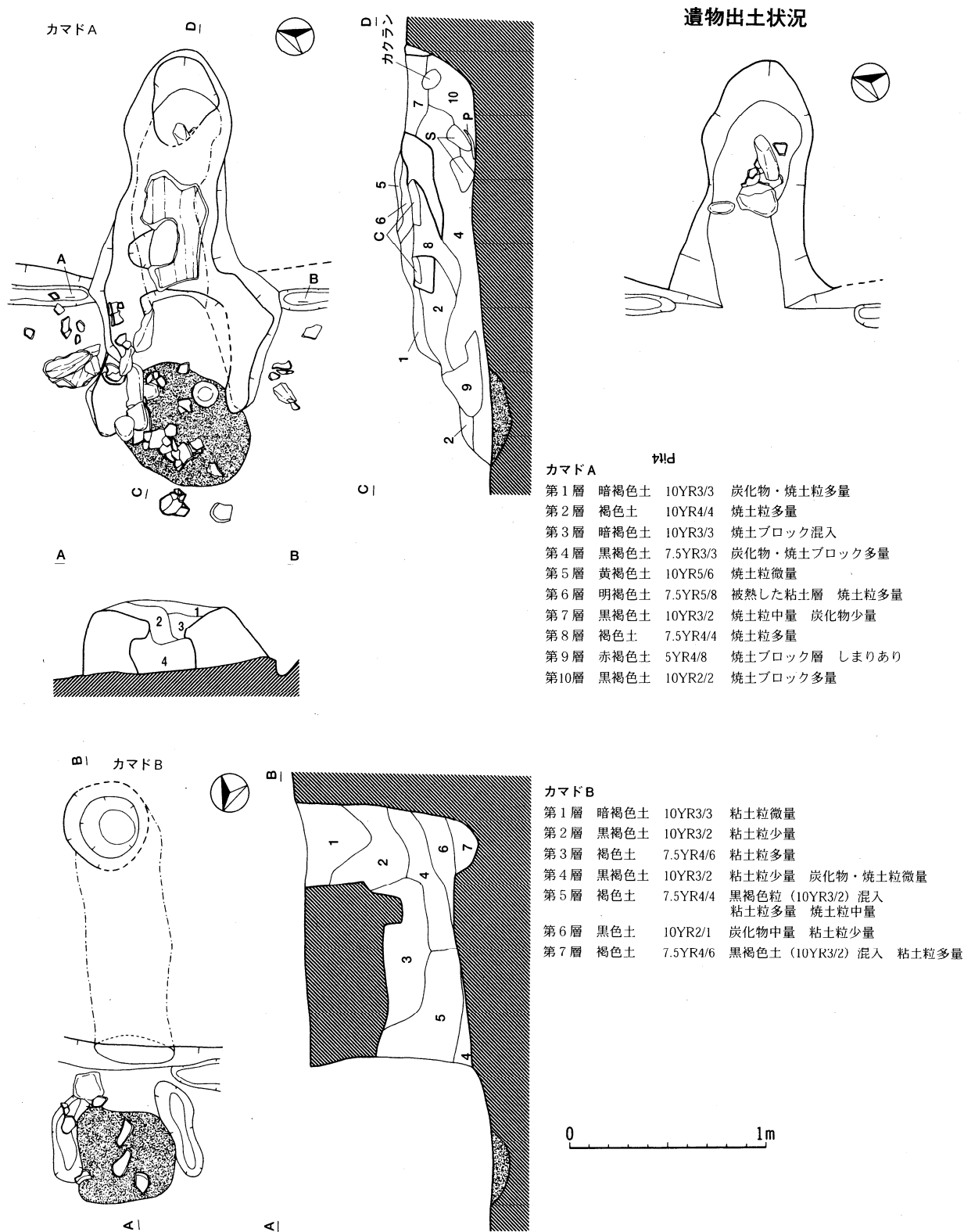
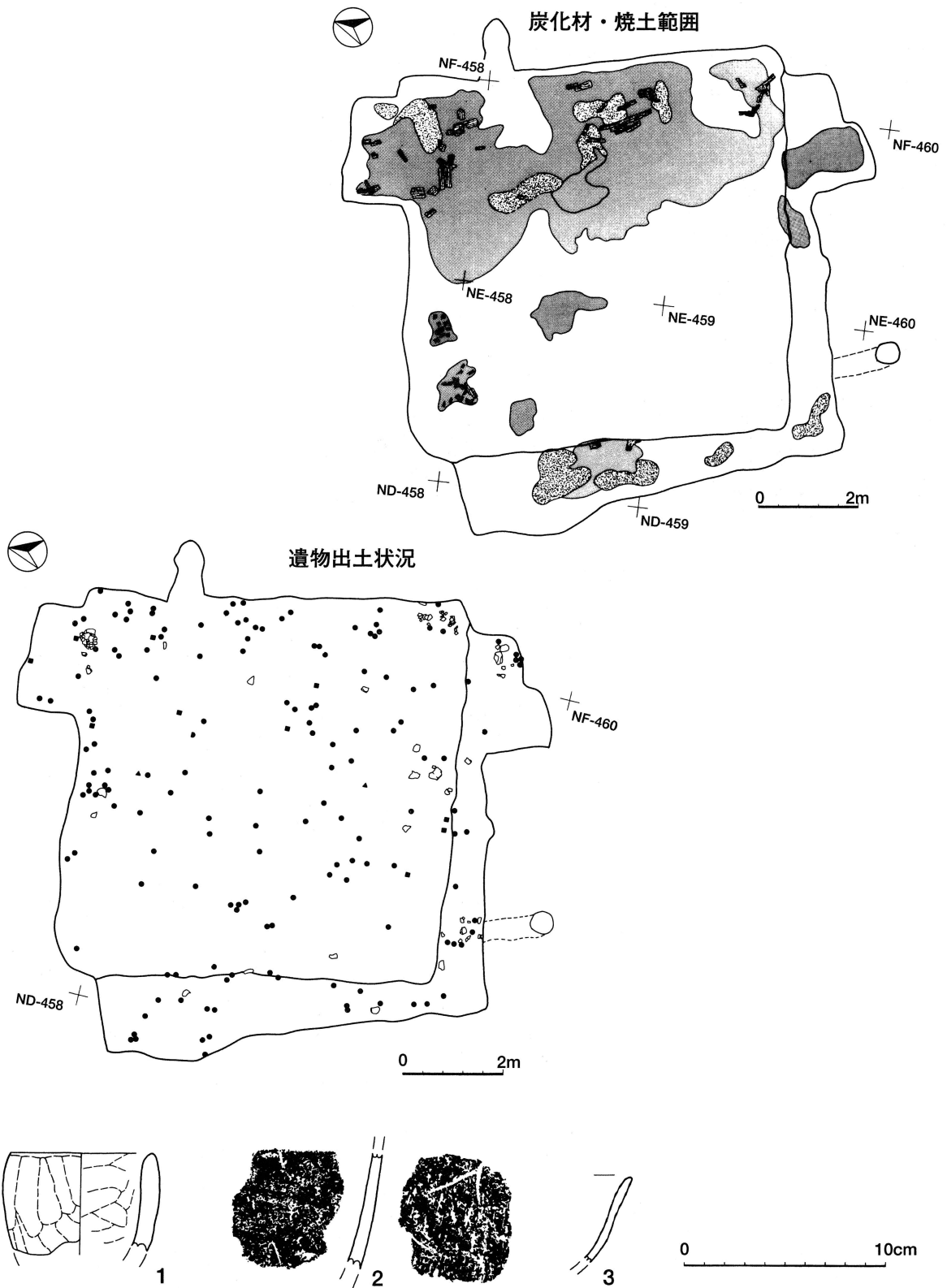
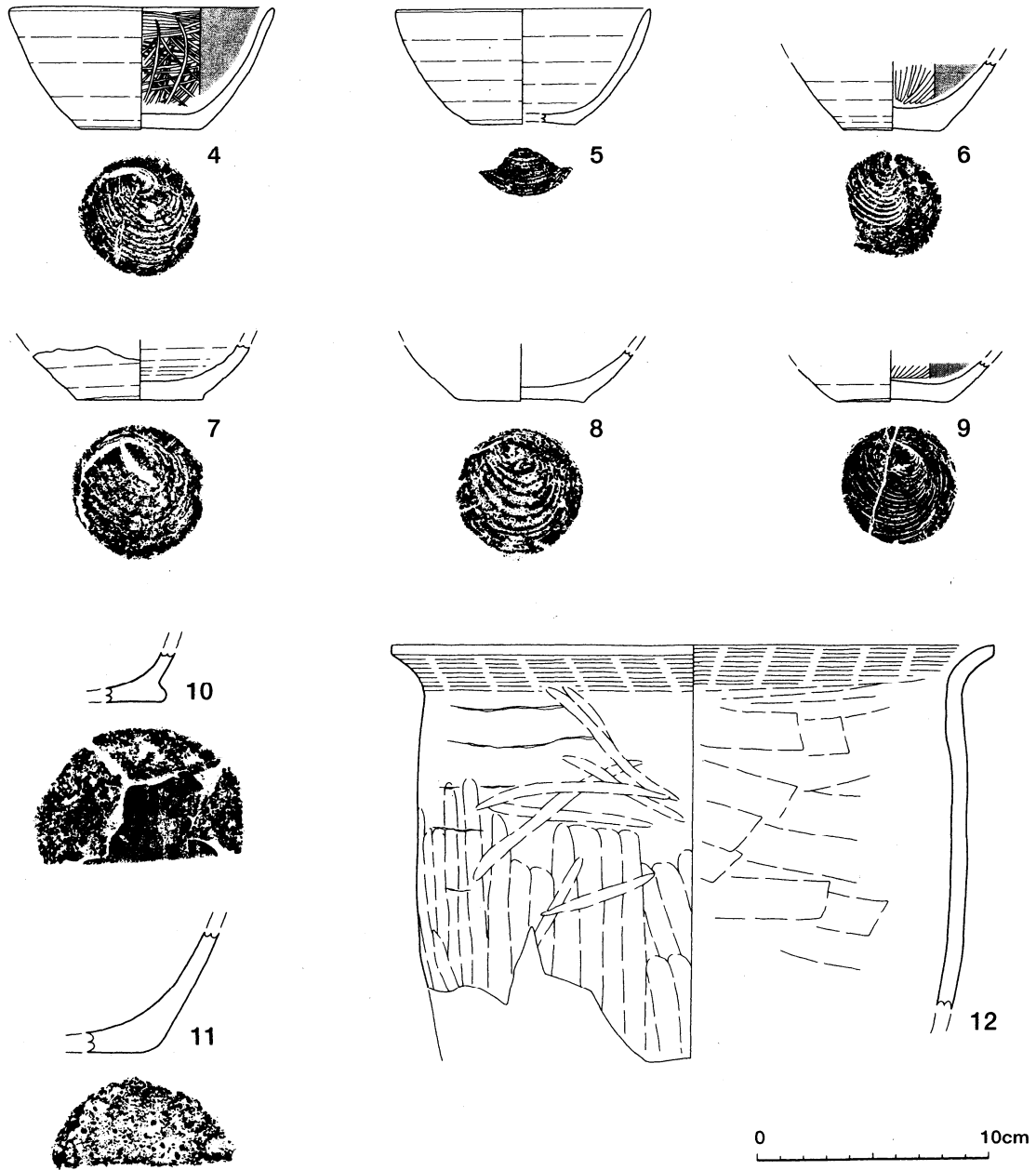


図162 第358号竪穴住居跡 (3)



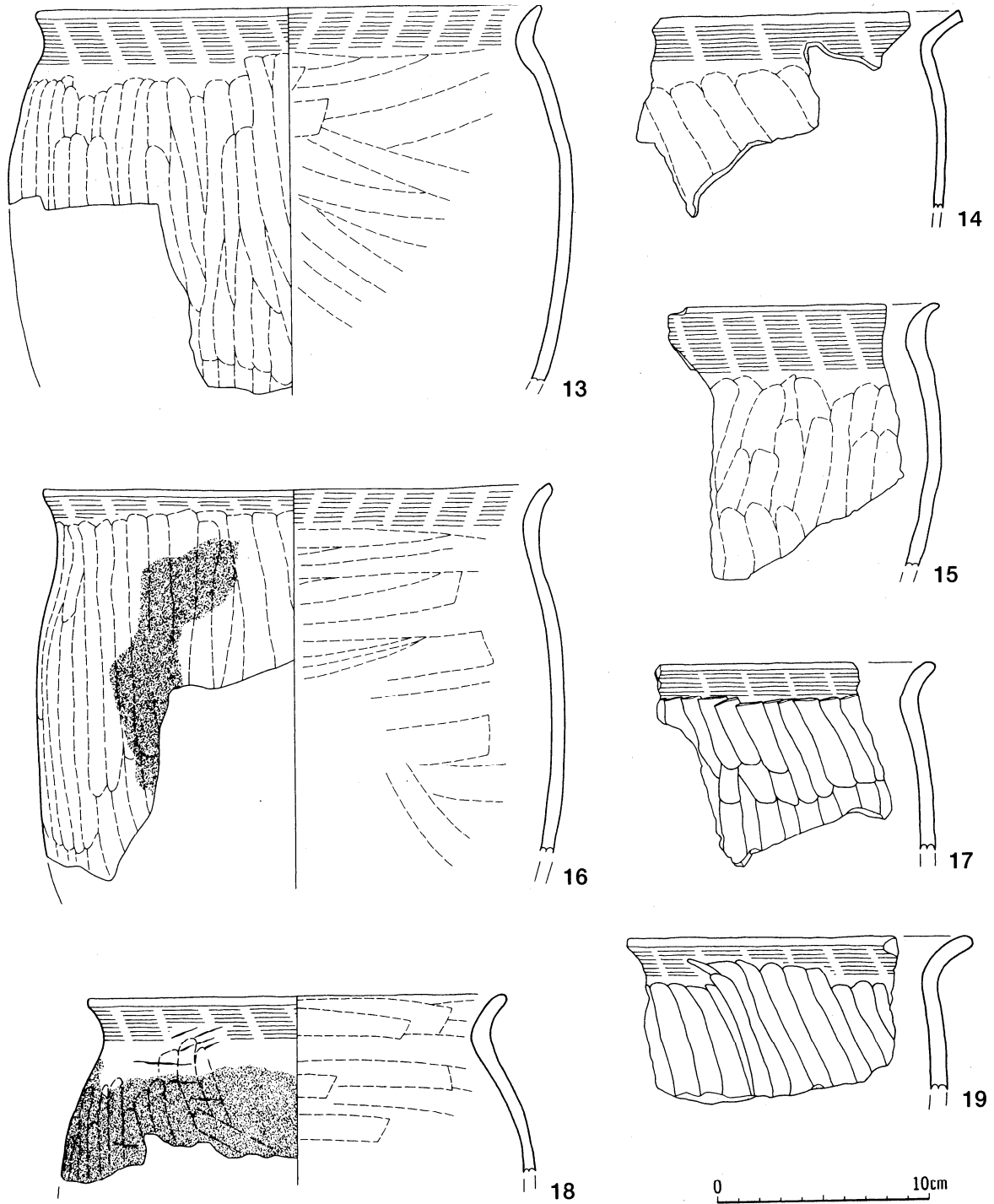
図版 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	小型土器	フク土	(7.0)	(5.0)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	—	
2	土師器	甕	フク土	—	—	—	—	ヘラケズリ?	—	—	ヘラナデ	—	—	—	刻書?
3	土師器	坏	フク土	(12.0)	(4.2)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	—	

図163 第358号竪穴住居跡(4)・出土遺物(1)



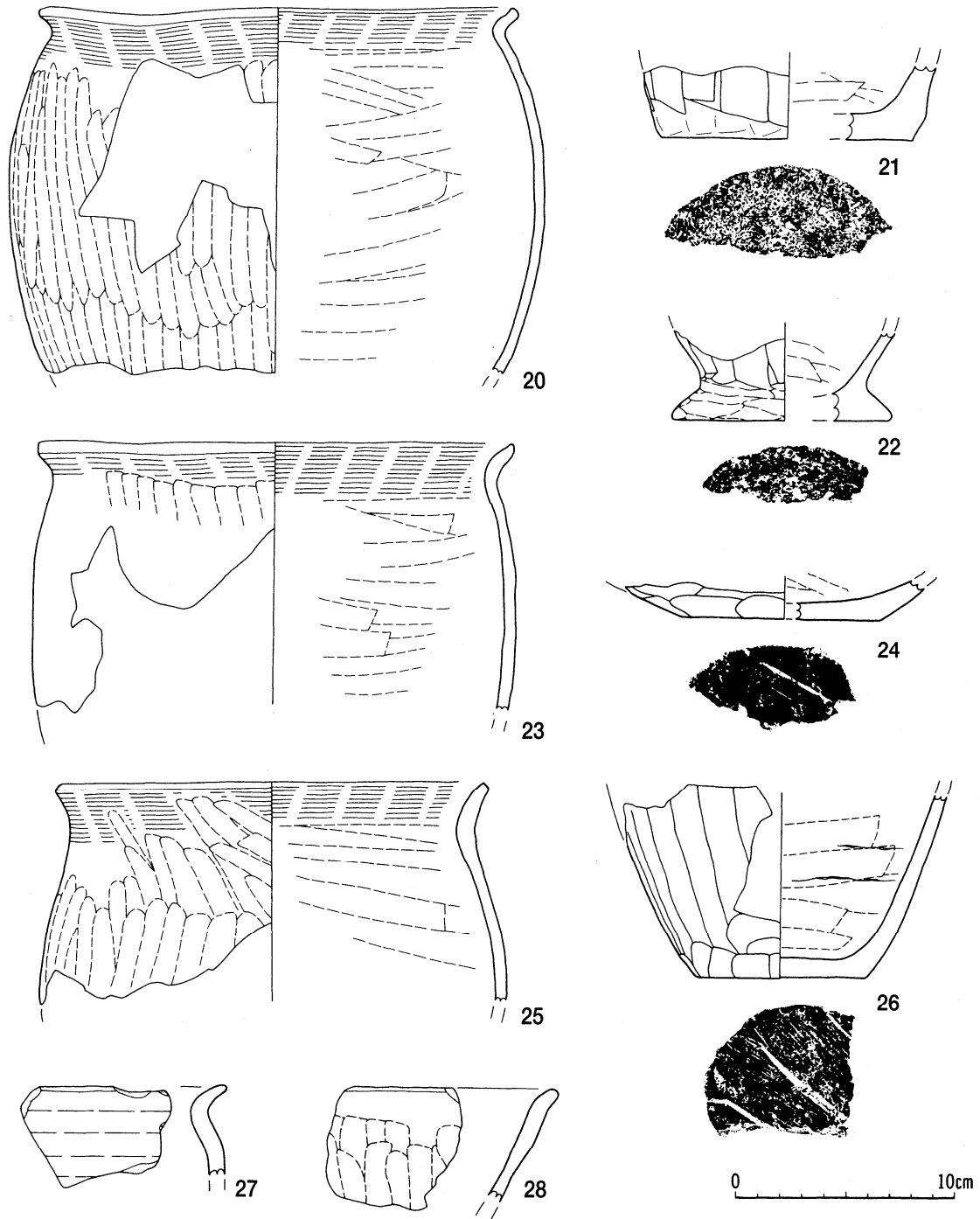
図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
4	土師器	坏	床面	(11.4)	5.3	5.2	ロクロ?	ロクロ?	ロクロ?	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	回転糸切り	B I b	内面黒色処理 P-146
5	土師器	坏	貼床面	(11.0)	5.0	(4.6)	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転糸切り	B II	
6	土師器	坏	フク土	—	(3.0)	4.2	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	回転糸切り	B I	内面黒色処理
7	土師器	坏	フク土	—	(2.3)	(5.6)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	B II	P-99
8	土師器	坏	フク土	—	(2.5)	5.6	—	—	ロクロ?	—	—	不明	糸切り	B II	P-176
9	土師器	坏	フク土	—	(1.7)	5.0	—	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	回転糸切り	B I	内面黒色処理
10	土師器	甕	フク土	—	(9.0)	(2.1)	—	—	不明	—	—	不明	ナデツケ	A	磨減
11	土師器	甕	フク土	—	(5.0)	(8.0)	—	—	不明	—	—	不明	—	A	磨減 P-4
12	土師器	甕	床面	(26.0)	(18.0)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A I	P-190, 604 内面黒色処理

図164 第358号竪穴住居跡出土遺物(2)



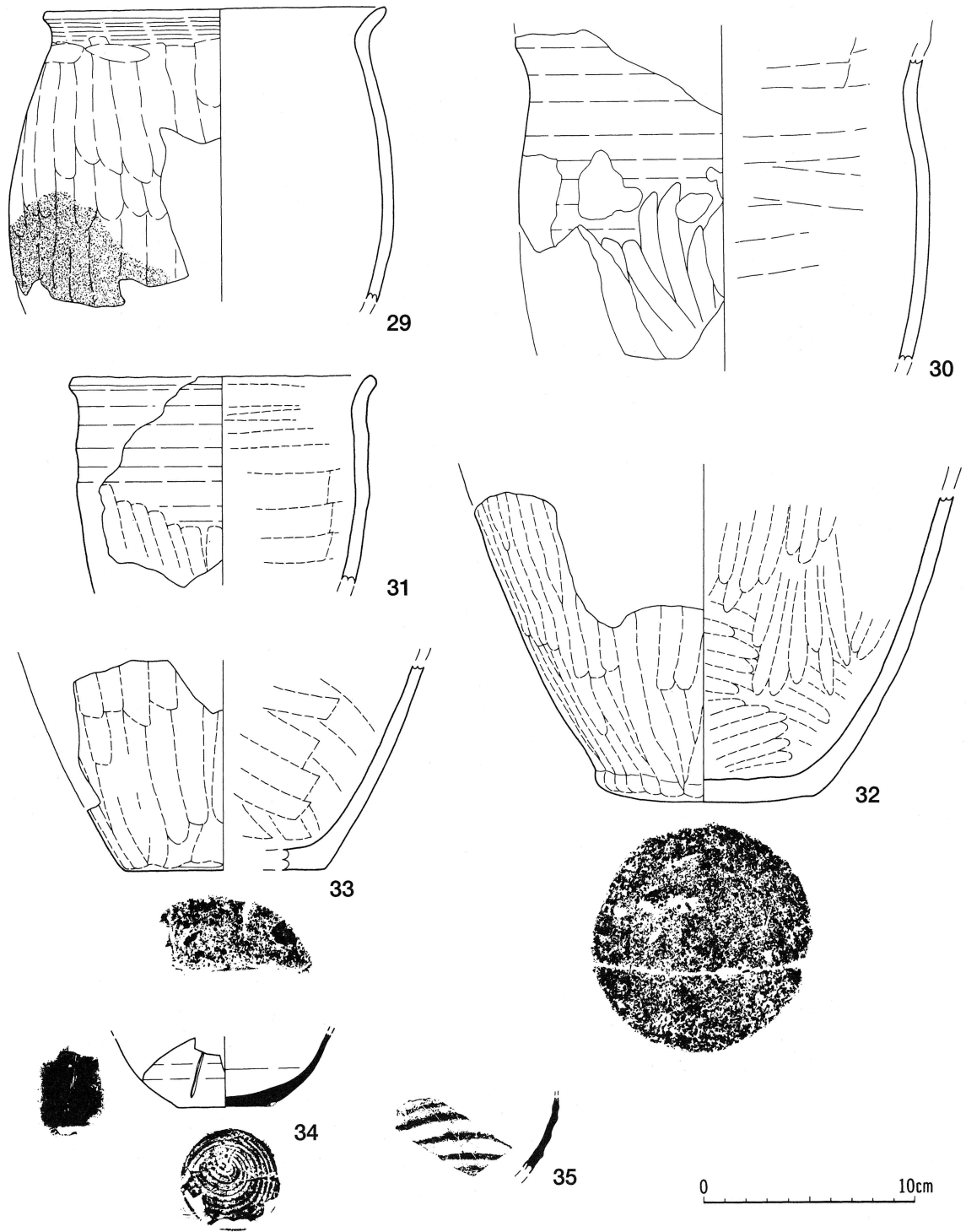
図版 番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
13	土師器	甕	カマドAフク土	(24.0)	(18.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A I	P-152、518、927
14	土師器	甕	カマドB火床面	—	(9.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-602
15	土師器	甕	カマド フク土	(14.2)	(7.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-518
16	土師器	甕	フク土	(24.2)	(18.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A I	外面粘土付着 P-50
17	土師器	甕	床面	—	(9.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-103
18	土師器	甕	フク土	(20.0)	(8.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面輪積痕、粘土付着 P-14、P-140
19	土師器	甕	フク土	—	(7.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-147

図165 第358号竪穴住居跡出土遺物 (3)



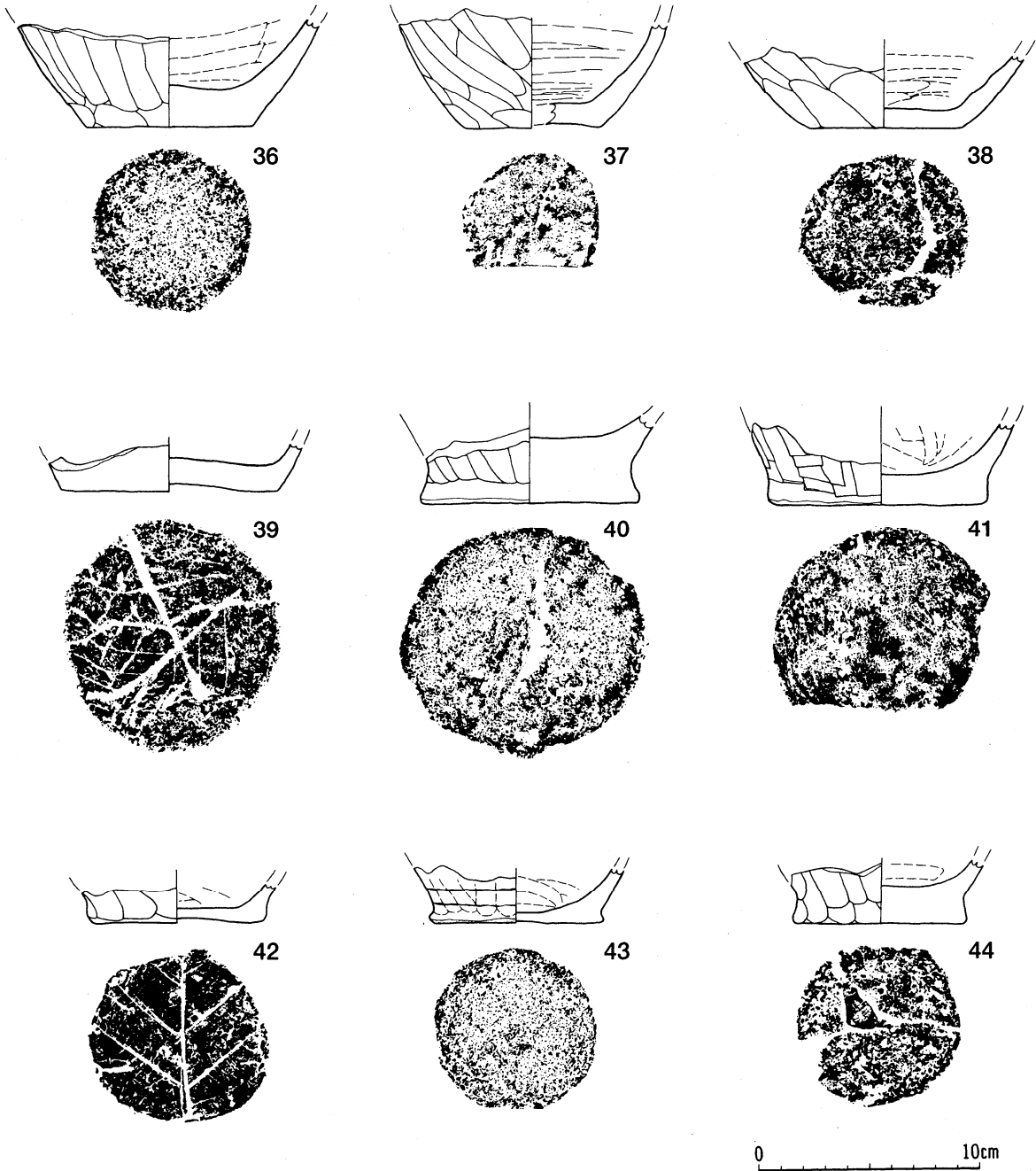
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
20	土師器	甕	カマド フク土	(22.2)	17.0	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A I	P-320, 528
21	土師器	甕	フク土	—	(3.4)	(11.6)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ナデツケ	A	
22	土師器	甕	フク土	—	(4.1)	(10.0)	—	—	ヘラケズリ ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底→ ナデツケ	A	P-24
23	土師器	甕	フク土	(22.0)	(12.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A I	外面剥落 P-50
24	土師器	甕	貼床下	—	(1.8)	(9.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	
25	土師器	甕	フク土	(20.0)	(10.1)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-91
26	土師器	甕	床直	—	(8.9)	8.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	内面輪積痕 P-116 磨減 P-4
27	土師器	甕	フク土	—	(5.0)	(8.0)	—	—	不明	—	—	不明	—	B?	
28	土師器	鍋?	フク土	(22.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	—	—	—	—	

図166 第358号竪穴住居跡出土遺物 (4)



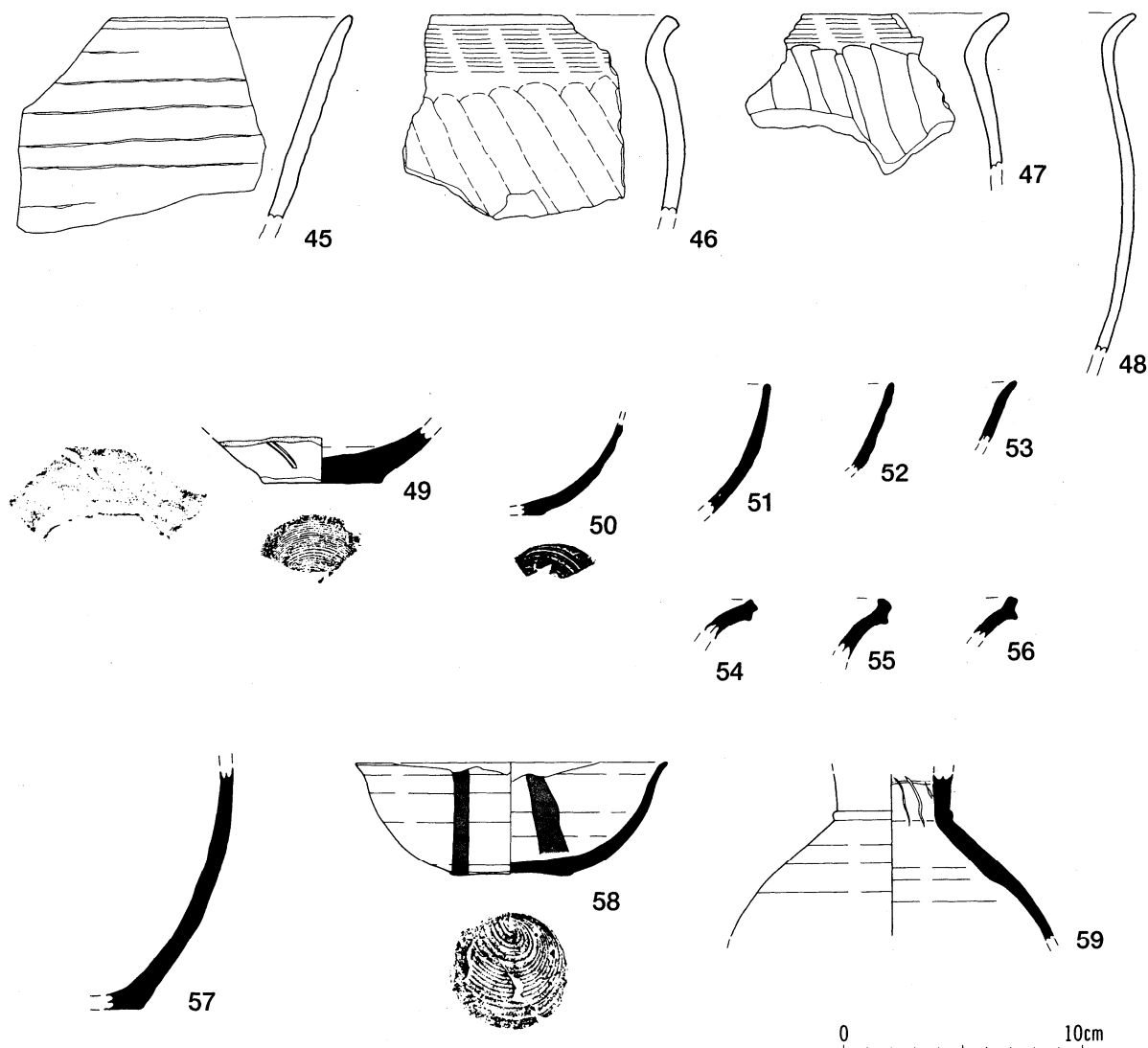
図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
29	土師器	甕	カマド フク土	(16.0)	(14.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	不明	不明	—	—	A	外面粘土付着 P-519
30	土師器	甕	フク土	—	(15.2)	—	—	ロクロ ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	—	—	B	P-22
31	土師器	甕	カマド フク土	(14.4)	(10.0)	—	ロクロ	ロクロ ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	B	P-524
32	土師器	甕	フク土	—	(14.8)	10.6	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底→ ヘラナデ	A	P-50
33	土師器	甕	床面	—	(9.6)	(10.0)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-103、117、188
34	須恵器	坏	フク土	—	(3.4)	4.6	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転糸切り	—	外面刻書 P-12
35	須恵器	坏	フク土	—	(3.6)	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	外面刻書 P-12

図167 第358号竪穴住居跡出土遺物 (5)



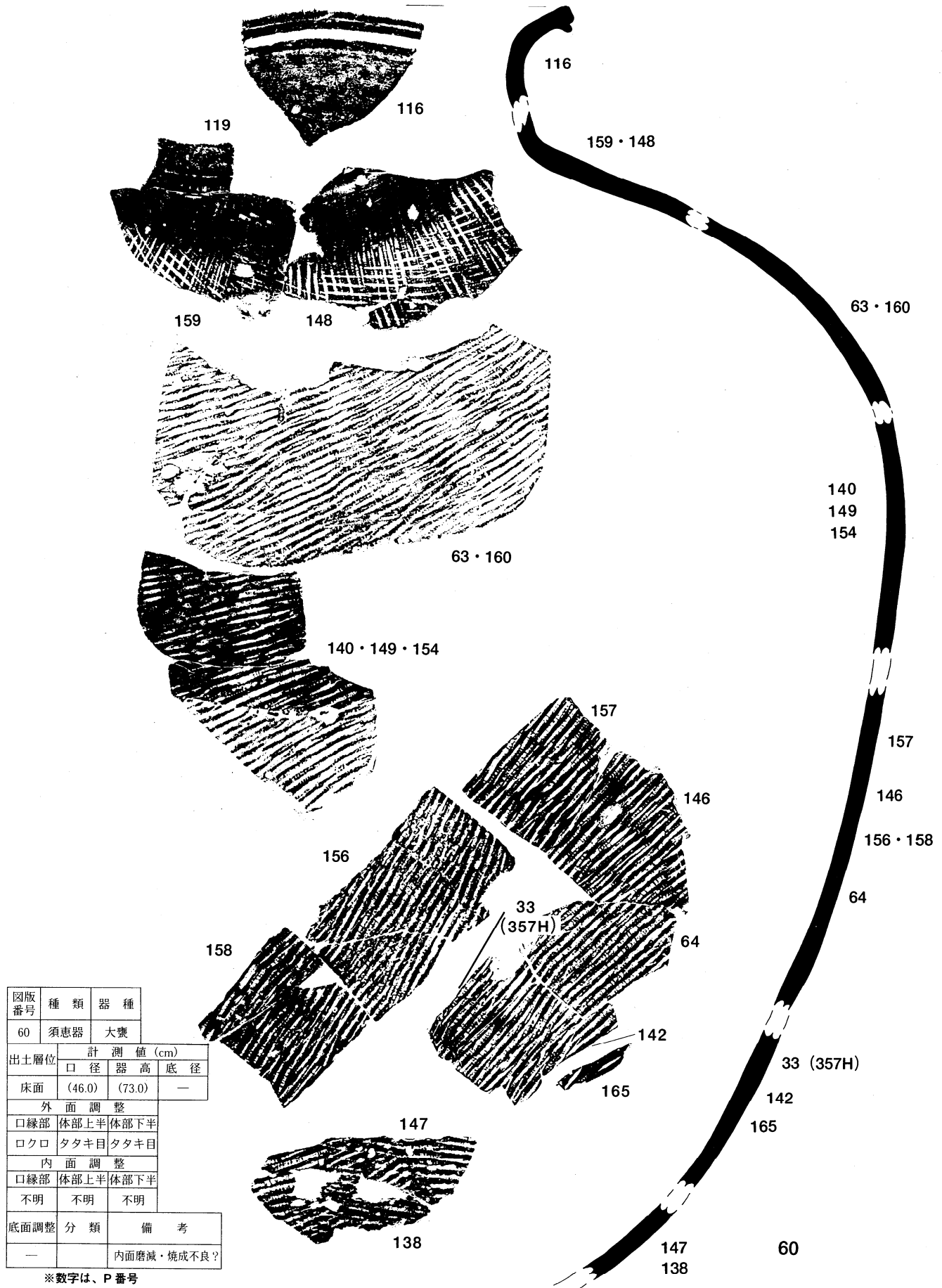
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
36	土師器	甕	フク土	—	(4.7)	(7.4)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-25
37	土師器	甕	貼床下	—	(6.4)	(5.5)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-516
38	土師器	甕	カマドA フク土	—	(3.7)	7.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底→ ナデツケ	A	P-505
39	土師器	甕	カマド フク土	—	(2.1)	(10.0)	—	—	不明	—	—	不明	木葉痕	A	P-520 底部ヘラ書き
40	土師器	甕	フク土	—	(10.0)	(3.8)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-18
41	土師器	甕	フク土	—	(3.8)	10.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-149
42	土師器	甕	フク土	—	(2.6)	8.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	木葉痕	A	P-51
43	土師器	甕	カマドB フク土	—	(2.6)	8.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-601
44	土師器	甕	フク土	—	(2.8)	8.0	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ?	砂底	A	P-171

図168 第358号竪穴住居跡出土遺物 (6)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
45	土師器	塀?	フク土	—	(9.0)	—	不明	不明	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	—	外面輪積痕 P-74
46	土師器	甕	フク土	—	(8.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-9
47	土師器	甕	床直	—	(6.8)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	不明	不明	—	—	A	P-81
48	土師器	甕	床直	(26.0)	(14.3)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	A?	P-120
49	須恵器	坏	フク土	—	(2.3)	5.0	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転系切り	—	外面刻書
50	須恵器	坏	フク土	—	(3.8)	—	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	回転系切り	—	
51	須恵器	坏	フク土	—	(5.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	
52	須恵器	坏	フク土	—	(3.7)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	内外面火ダスキ痕
53	須恵器	坏	フク土	—	(2.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
54	須恵器	壺	フク土	—	(1.6)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
55	須恵器	壺	フク土	—	(2.5)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
56	須恵器	壺	フク土	—	(1.6)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	
57	須恵器	壺	フク土	—	(10.0)	—	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	切り離し後 ケズリ	—	自然軸
58	須恵器	坏	床直 Pit6 フク土	(13.0)	4.7	5.0	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	ロクロ	回転系切り	—	内外面火ダスキ痕 P-97、129
59	須恵器	壺	貼床下	—	(6.9)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	外面肩部、隆帯

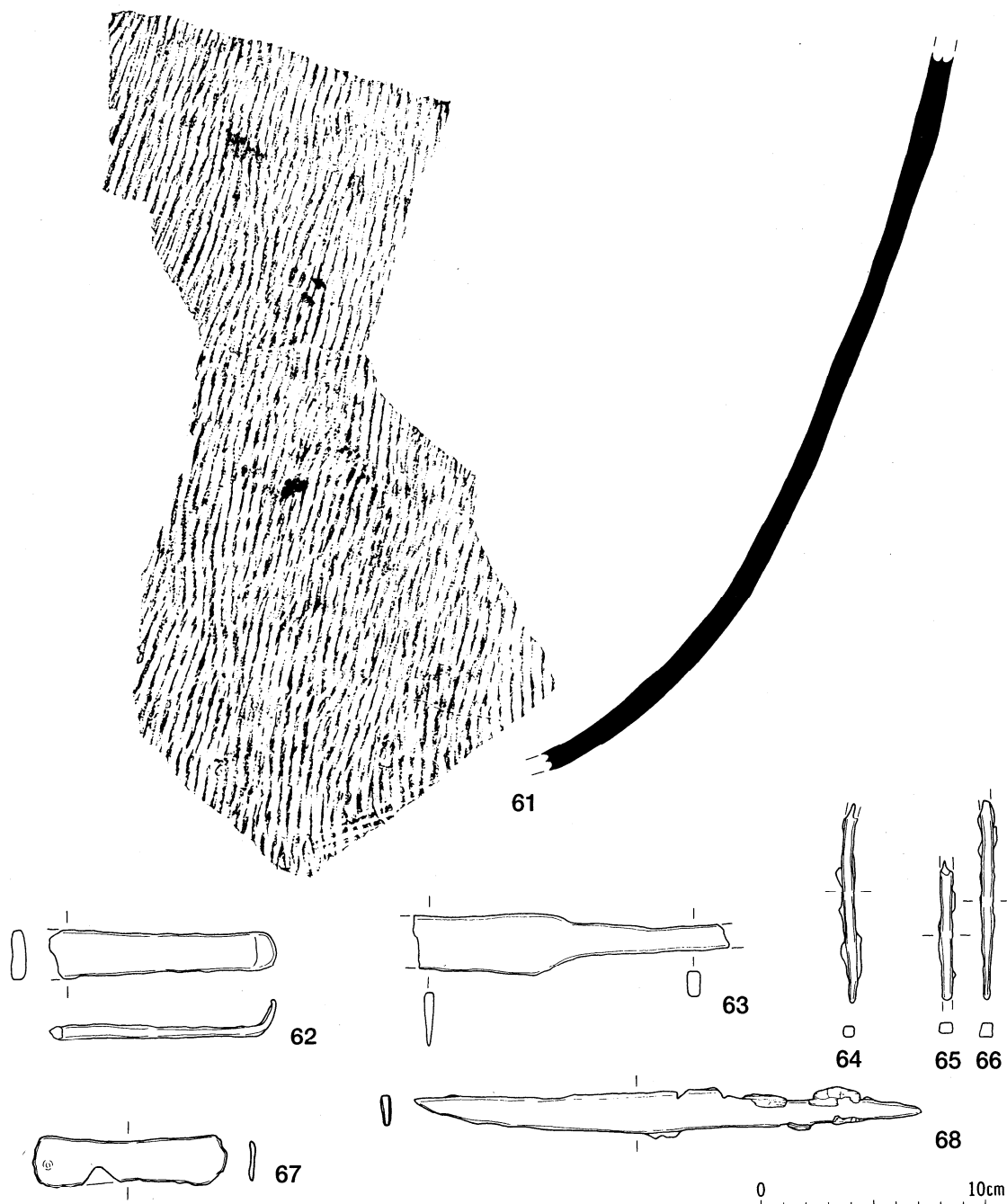
図169 第358号竪穴住居跡出土遺物 (7)



図版番号	種類	器種
60	須恵器	大甕
出土層位	計測値 (cm)	
	口径	器高 底径
床面	(46.0)	(73.0) —
外面調整		
口縁部	体部上半	体部下半
口ク口	タタキ目	タタキ目
内面調整		
口縁部	体部上半	体部下半
不明	不明	不明
底面調整	分類	備考
—		内面磨減・焼成不良?

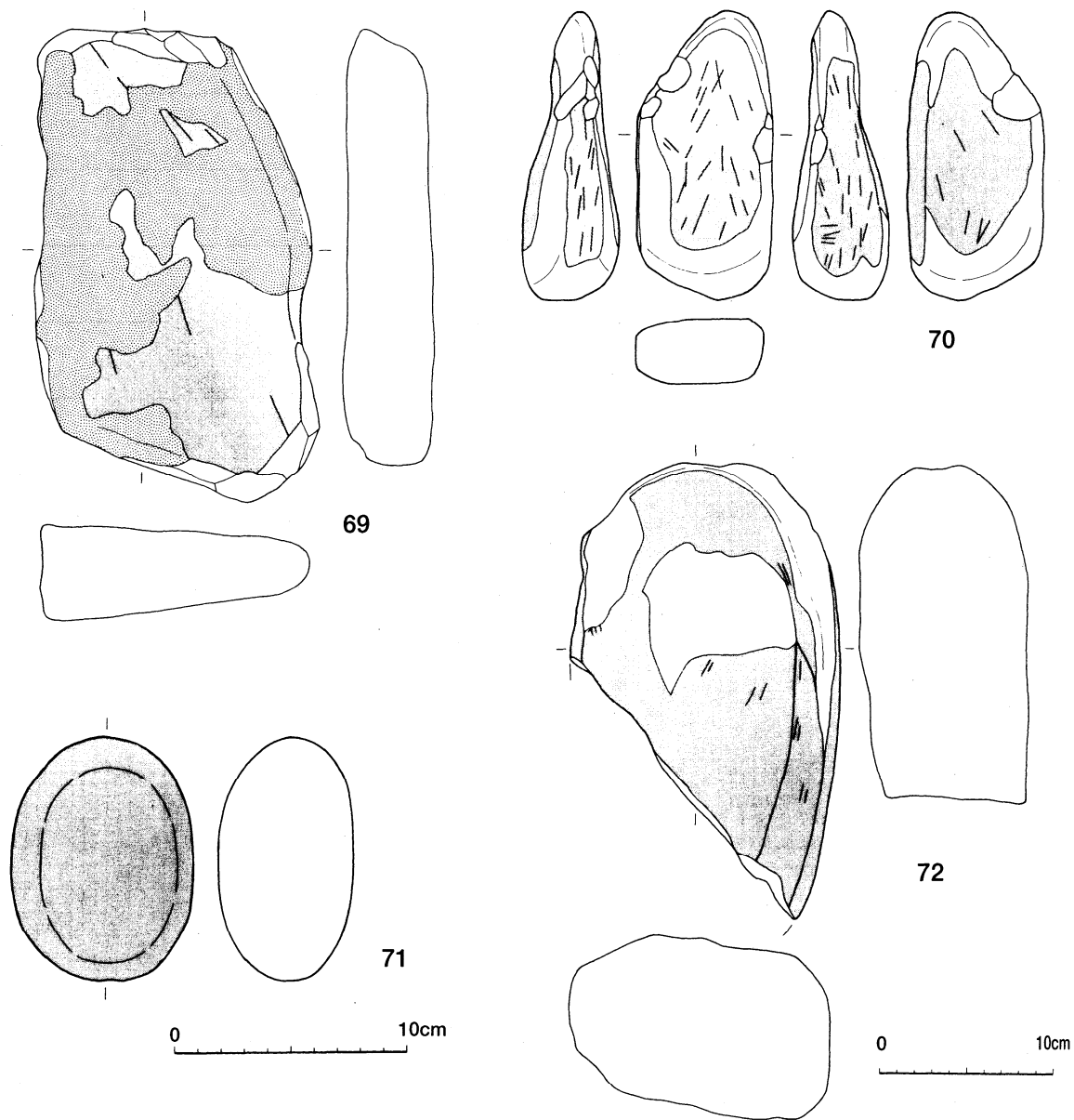
※数字は、P番号

図170 第358号竪穴住居跡出土遺物 (8)



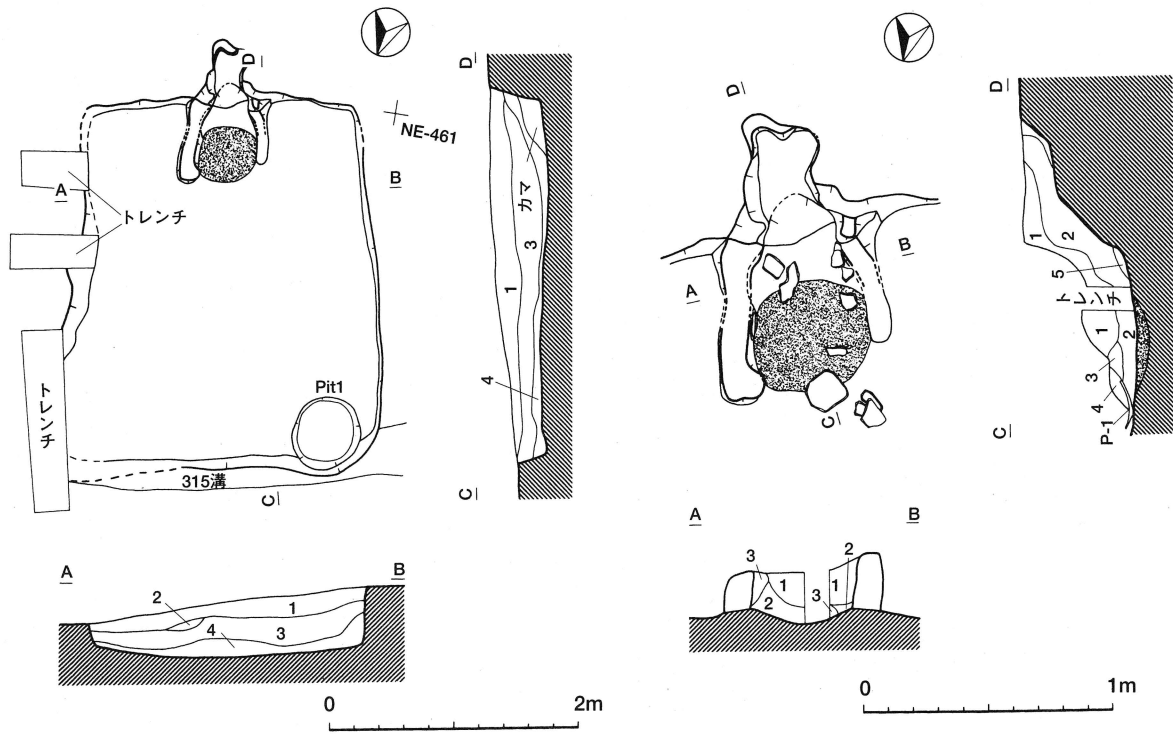
図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
61	須恵器	甕	フク土	—	(31.9)	—	—	平行タタキ目	—	—	アテ具痕	—	—	—	P-7
図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考								
		長さ	外径	内径											
62	フク土	10.1	2.2	0.7	27.5	刀	Fe-4								
63	床面	14.0	2.4	0.4	43.4	小刀	Fe-5								
64	フク土	8.9	0.5	0.5	8.7	棒状	Fe-9								
65	フク土	6.3	0.6	0.5	4.5	棒状									
66	フク土	8.9	0.6	0.6	5.8	棒状									
67	フク土	8.2	1.7	0.2	9.3	索引金	Fe-3								
68	フク土	23.7	1.3	0.5	32.0	小刀	Fe-1、木質部残存								

図171 第358号竪穴住居跡出土遺物 (9)



図版 番号	出土層位	計 測 値 (cm)			重さ(g)	石 質	分 類	備 考
		長 さ	外 径	内 径				
69	床直	19.5	11.6	4.0	1,680	安	台石・砥石	S-14、被熱
70	フク土	16.6	7.9	3.8	740	凝	砥石	S-3、被熱
71	床面	10.5	8.0	5.9	623	凝	磨石	S-22
72	床面	26.0	15.5	9.7	3,754	緑凝	砥石	S-20

図172 第358号竪穴住居跡出土遺物 (10)

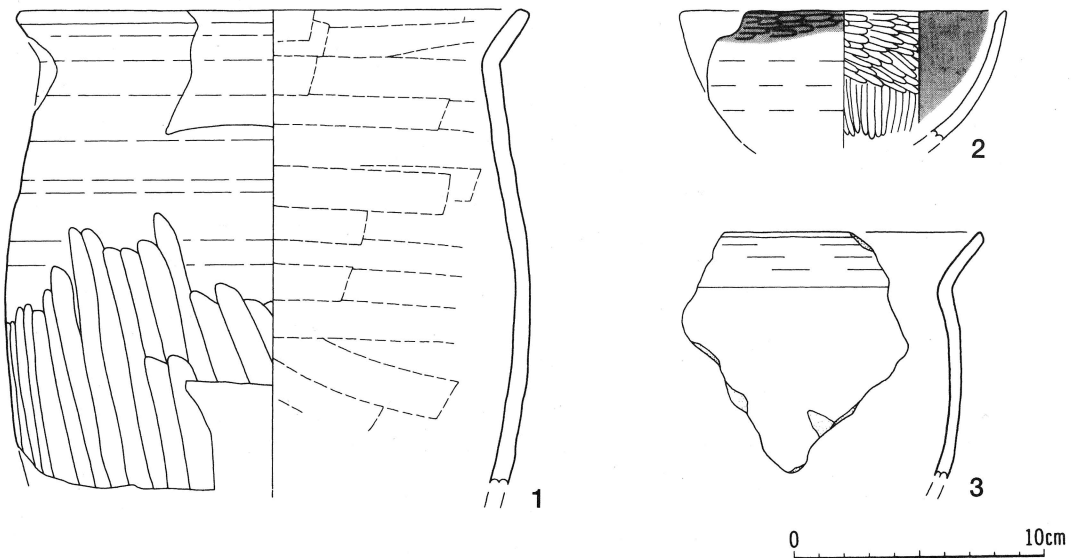


第359号住居跡

- 第1層 灰黄褐色土 10YR5/2 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 混入
- 第2層 黒褐色土 10YR3/2 黒褐色土 (10YR2/2) 混入
- 第3層 にぶい黄褐色土 10YR5/4 黒褐色土 (10YR2/2) 混入
- 第4層 黒褐色土 10YR3/2 にぶい黄褐色土 (10YR5/4) 混入

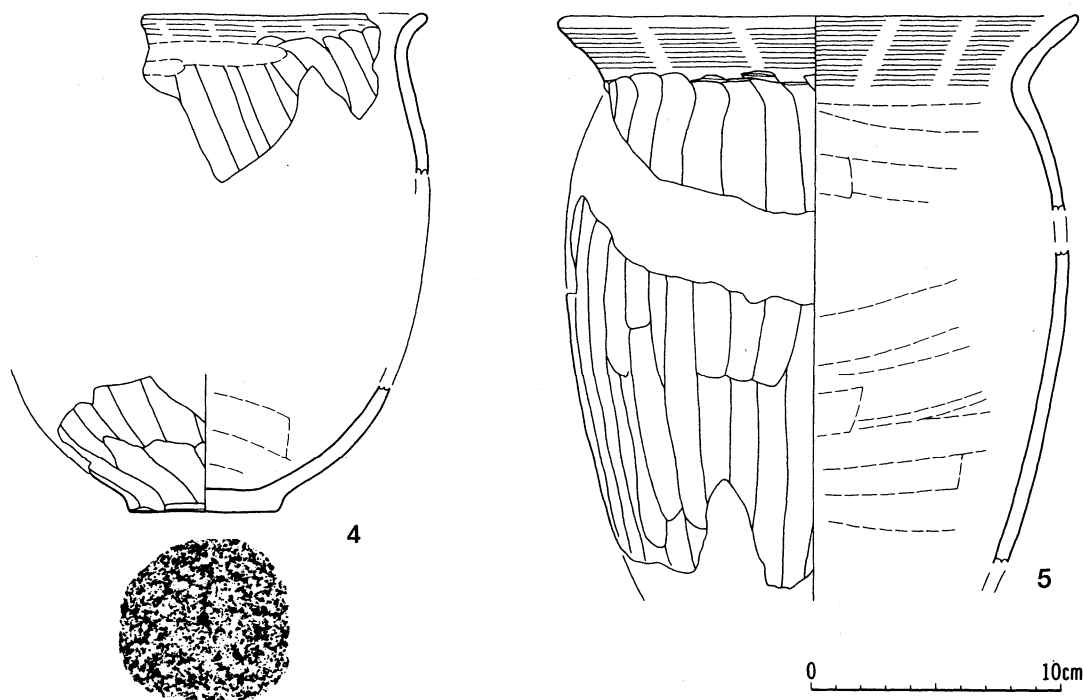
カマド

- 第1層 暗褐色土 10YR3/3
- 第2層 黒褐色土 10YR2/2 明赤褐色土 (5YR5/6) 混入
- 第3層 明赤褐色土 5YR5/8 粘土層 しまりあり
- 第4層 黄褐色土 10YR5/6 粘土層 しまりあり
- 第5層 褐色土 10YR4/6 含有物なし



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	カマド フク土	(20.6)	(19.2)	—	ロクロ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	B I	P-4
2	土師器	坏	フク土	(13.0)	(5.2)	—	ヘラミガキ	ロクロ?	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	B I	内面黒色処理
3	土師器	甕	カマド火床面	(13.0)	(9.5)	—	不明	不明	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面磨減激しい P-12

図173 第359号竪穴住居跡・出土遺物 (1)



図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
4	土師器	甕	床面	(18.0)	(20.8)	6.0	ヨコナデ ヘラナデ	ヘラケズリ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	A	P-1
5	土師器	甕	床面 フク土	(21.0)	(23.0)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A I	P-2

図174 第359号竪穴住居跡出土遺物(2)

第359号竪穴住居跡(図173・図174)

[位 置] ND・NE-460・461グリッドに位置する。

[重 複] 第315号溝と重複し、本住居跡が古い。

[平面形・規模] 東壁は根による攪乱・掘り過ぎのため明確には確認できなかった。完全に残っている西壁は3mで、東壁は3m、南壁は2m30cm、北壁は2m60cmと推定される。床面積は6.64㎡である。主軸方位はN-171°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁18cm、西壁39cm、南壁37cm、北壁15cmである。床面は地山の粘土を踏みしめており、ほぼ平坦である。

[周 溝] 検出されなかった。

[ピット] ピットは1つ検出されたが、柱穴とは考えられない。

[カマド] 南壁ほぼ中央に構築されている。袖は芯材を用いず、粘土で築かれている。煙道は半地下式で、住居外に45cmのびる。煙道底面は、煙出し方向に向かって急勾配で上昇する。3・4層はカマド構築材の崩落である。

[その他の施設] 住居北西隅に径56cm、深さ20cmのほぼ円形のピット1が検出された。

[堆積土] 4層に分層され、黒褐色土とにぶい黄褐色土が混在する。

[出土遺物] 土師器の坏・甕が出土している。

[時 期] 出土遺物から、9世紀後半から10世紀前半に構築されたと考えられる。

(田中珠美)

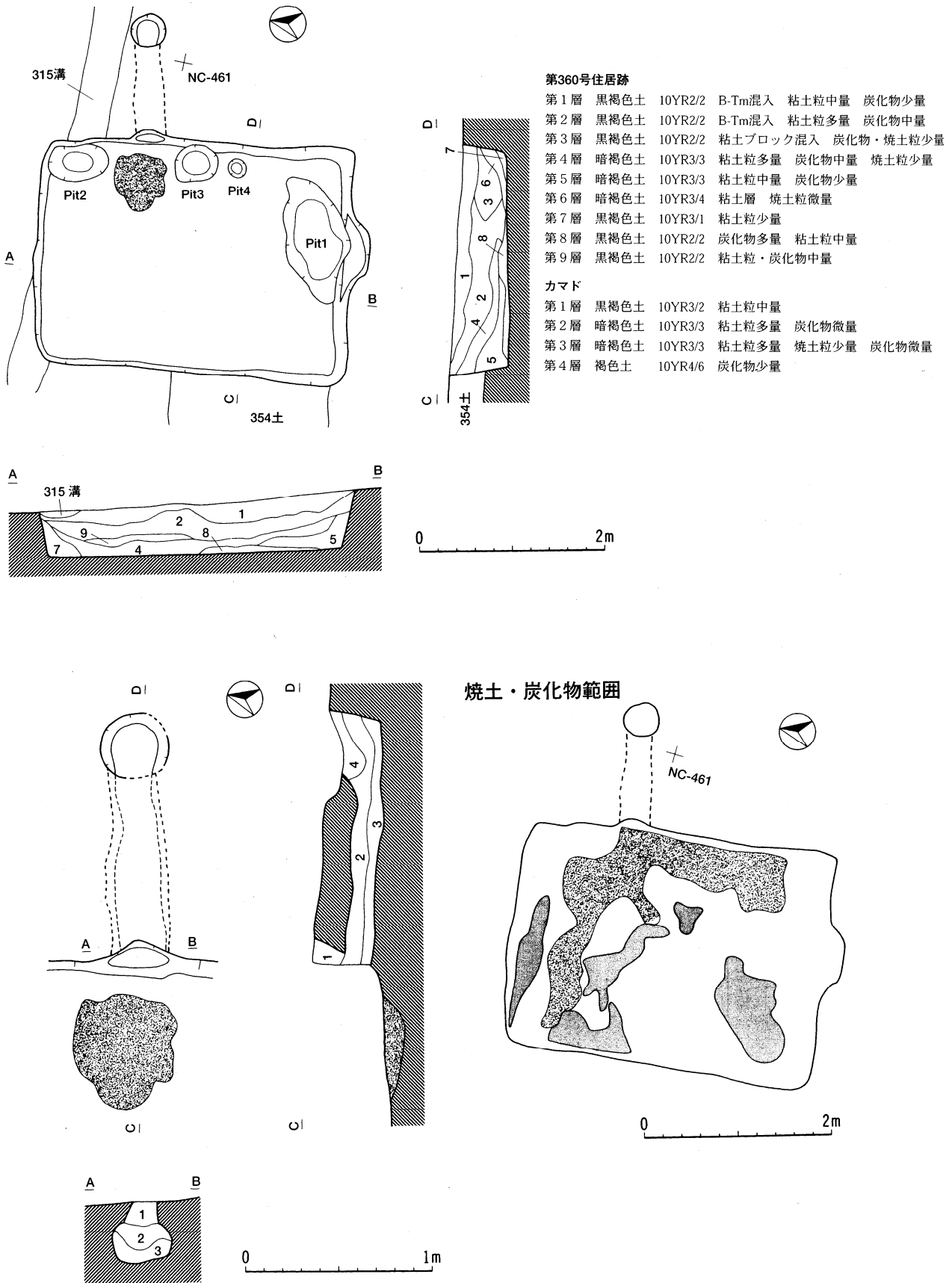
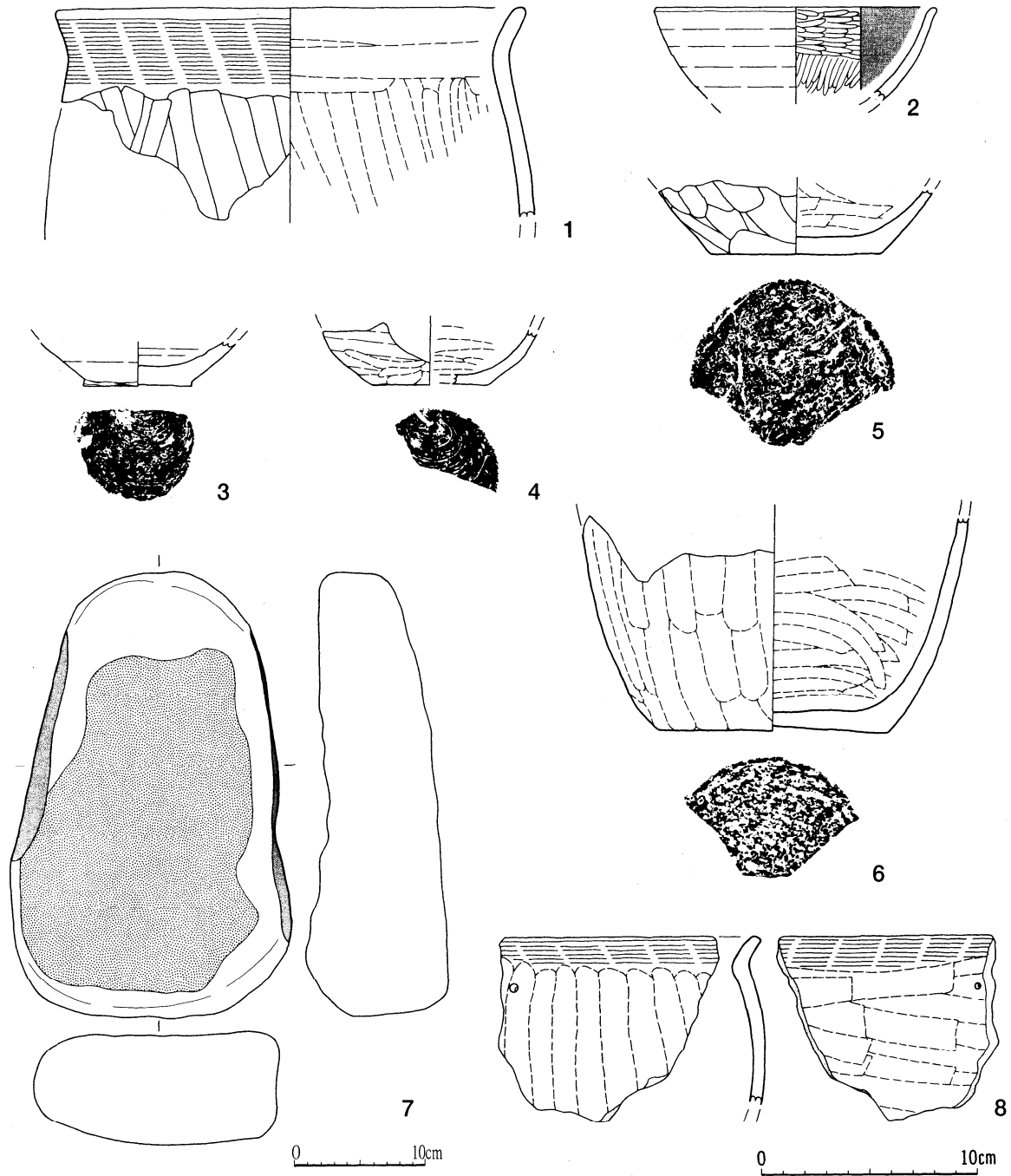


図175 第360号竪穴住居跡



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土床直	(22.0)	(9.8)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-3
2	土師器	坏	フク土	(130)	(4.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	B I	内面黒色処理
3	土師器	坏	フク土	—	(2.0)	(5.0)	—	—	ロクロ	—	—	ロクロ?	回転糸切り	B II	
4	土師器	坏	フク土	—	(2.9)	(5.4)	—	—	ロクロ ヘラナデ	—	—	ヘラナデ?	回転糸切り	B II a	
5	土師器	甕	フク土	—	(3.4)	(8.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	ヘラナデ	A	P-2
6	土師器	甕	床直	—	(9.0)	(10.6)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底→ ナデツケ	A	P-4、8
8	土師器	甕	床直	(14.0)	(8.5)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-10、補修孔あり

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	石質	分類	備考
		長さ	外径	内径				
7	床直	34.3	21.3	8.5	9,200	安	台石 S-1、炭化物付着	

図176 第360号竪穴住居跡出土遺物

第360号竪穴住居跡 (図175～図176)

[位置] NB・NC-460・461グリッドに位置する。

[重複] 第363号竪穴住居跡・第354号土坑・第315号溝と重複し、第363号竪穴住居跡・第354号土坑より新しく、第315号溝より古い。

[平面形・規模] 東壁3m30cm、西壁3m30cm、南壁2m55cm、北壁2m37cmの南北に長い長方形である。床面積は7.38㎡である。主軸方位はN-83°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁46cm、西壁64cm、南壁64cm、北壁48cmである。床面は地山粘土を踏みしめており、堅く締まっている。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] 4つ検出されたが、柱穴とは考えられない。

[カマド] 東壁やや北側に構築されている。袖は残存せず、煙道と火床面のみが検出された。煙道は地下式で、住居外に1m20cmのびる。煙道底面はほぼ平坦である。

[その他の施設] 南壁中央が幅90cm、奥行き24cmで床面より20cm高く、住居外に張り出している。南壁の東側に1m40cm×70cm、深さ18cmの不整な楕円形のピット1、北東隅に64×38cm、深さ12cmの楕円形のピット2、東壁ほぼ中央に径40cm、深さ10cmの不整な楕円形のピット3、径20cm、深さ15cmの円形のピット4が検出された。

[堆積土] 堆積土は8層に分層される。床面に焼土・炭化物が堆積し、焼失家屋の可能性はある。

[出土遺物] 土師器の坏・甕、台石が出土している。

[時期] 出土遺物から、9世紀後半から10世紀前半に構築されたと考えられる。

(田中珠美)

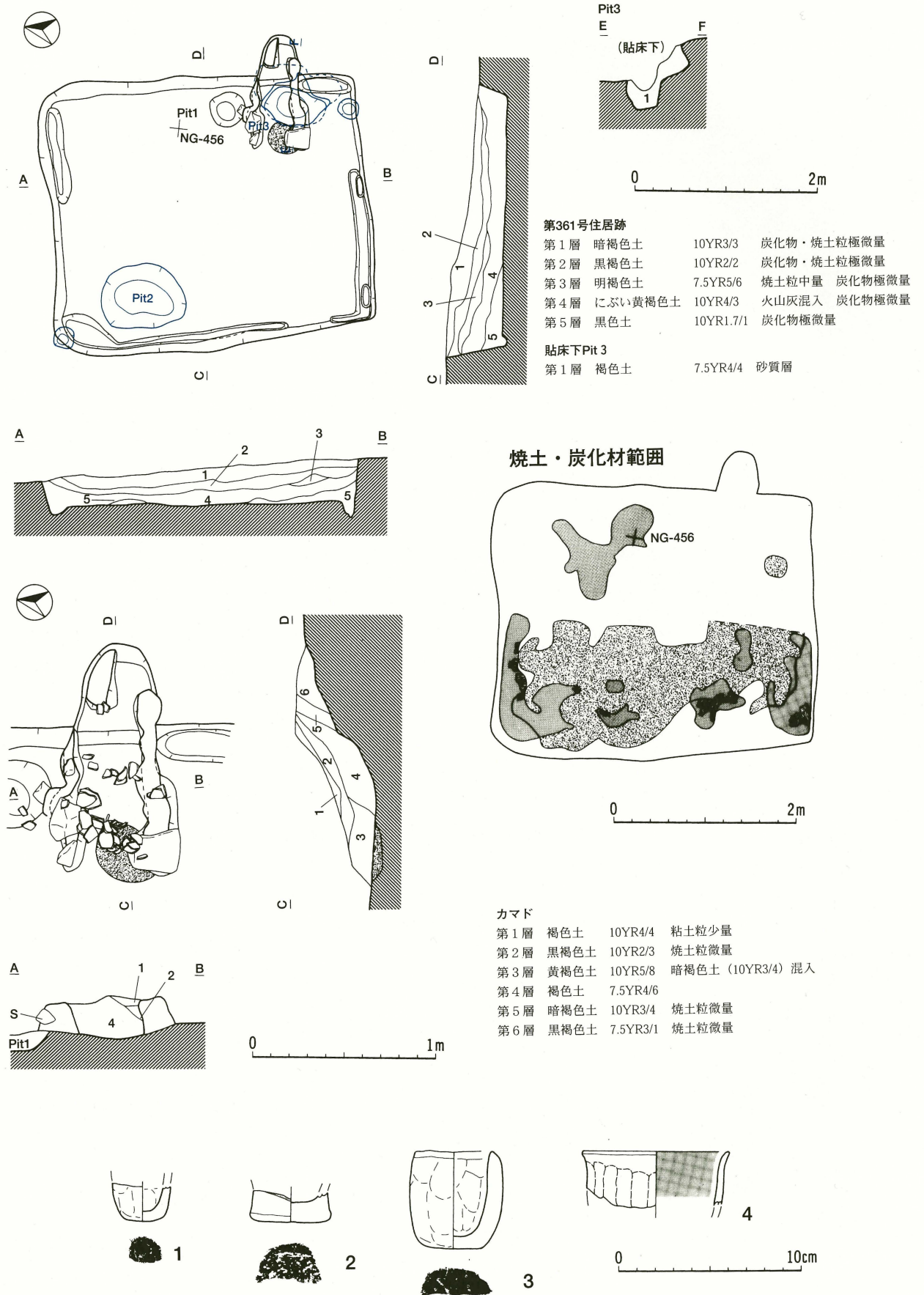
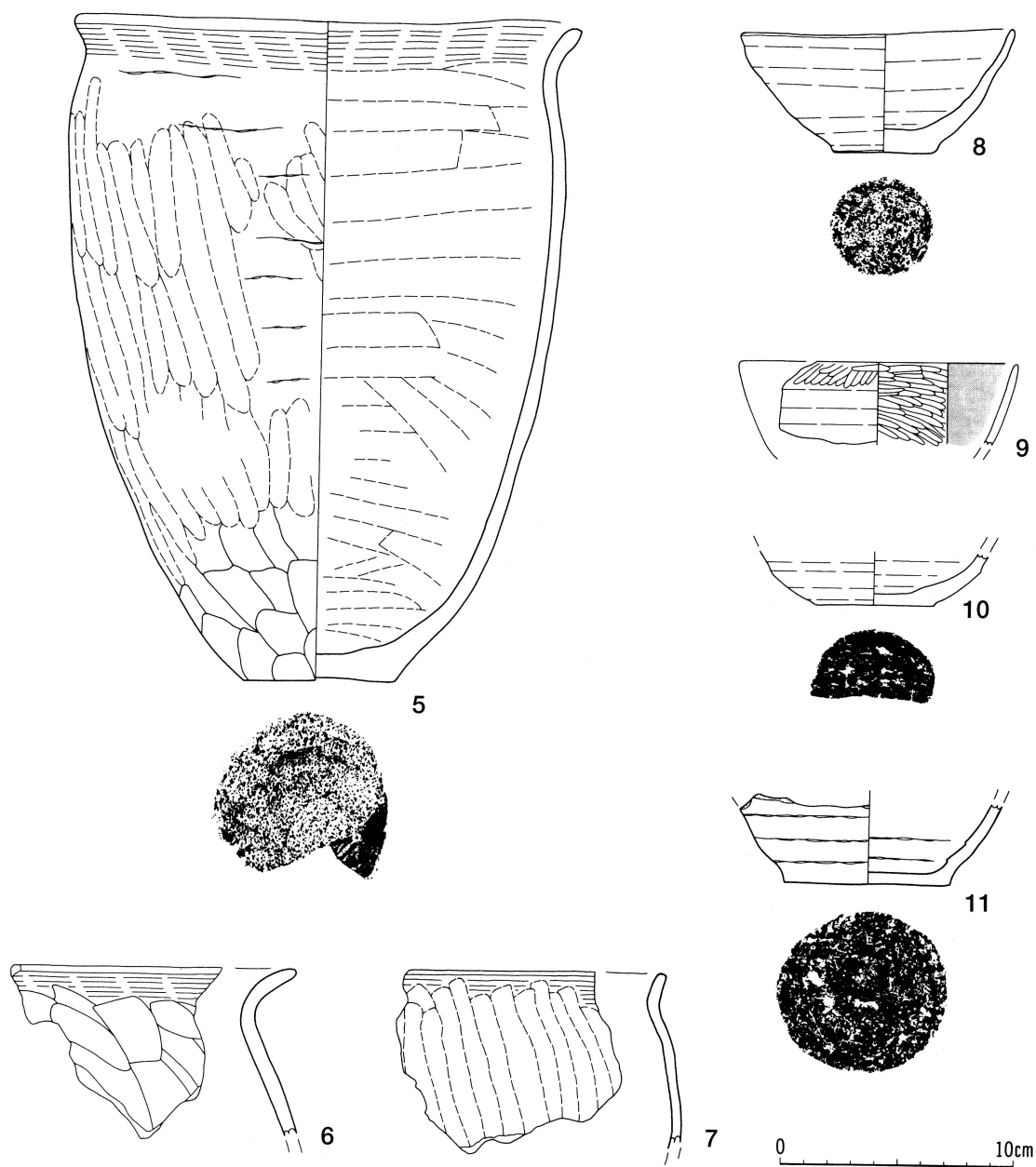
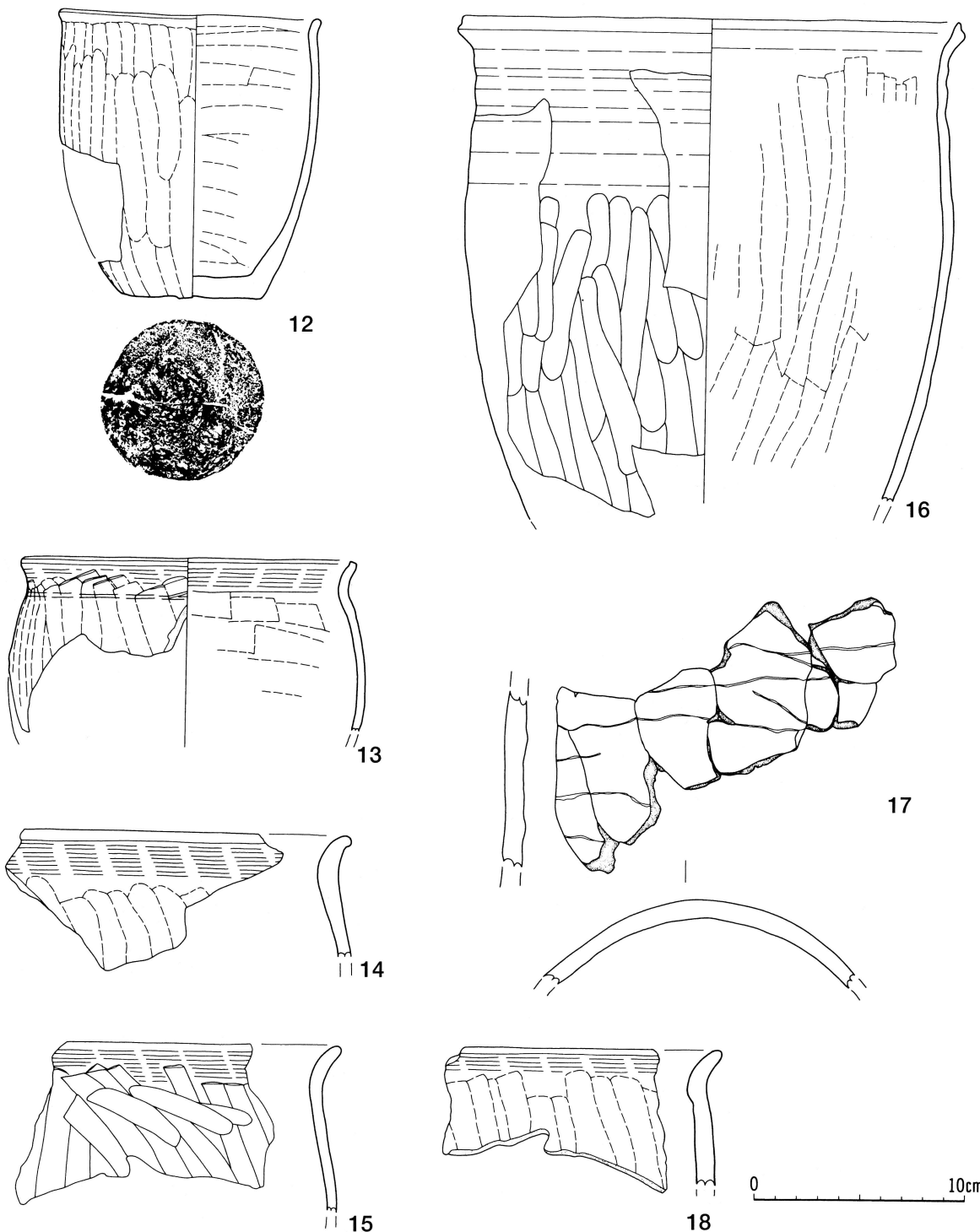


図177 第361号竪穴住居跡出土遺物(1)



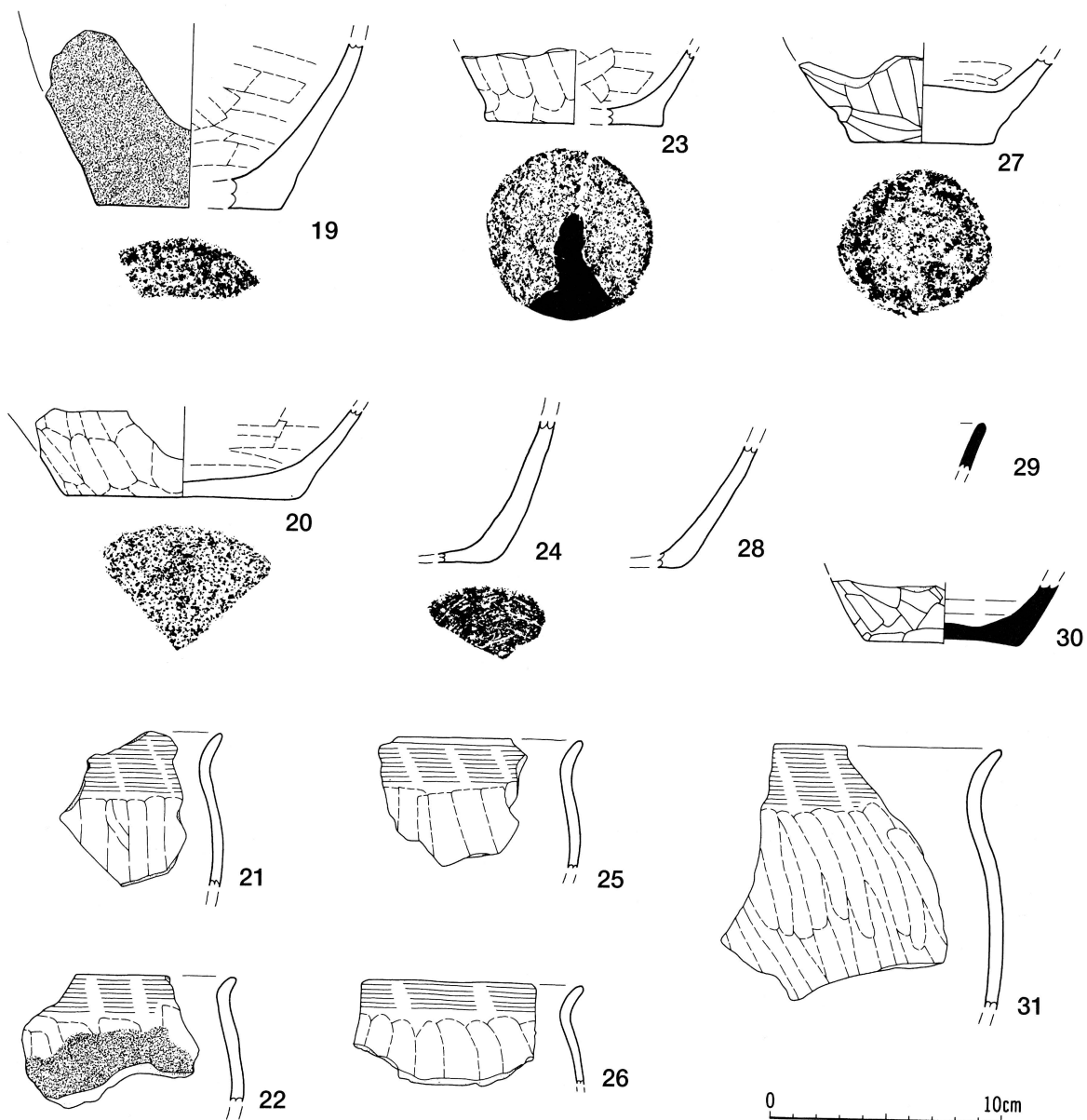
図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	小型土器	フク土	—	(2.1)	(2.2)	—	ユビ圧痕	ユビ圧痕	—	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	—	
2	土師器	小型土器	フク土	—	(1.7)	(4.4)	—	—	ユビ圧痕	—	—	ユビ圧痕	砂底 →ナデ	—	
3	土師器	小型土器	フク土	(4.2)	5.4	(3.0)	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ユビ圧痕	ナデ	—	
4	土師器	甕	フク土	(4.0)	(3.1)	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	不明	不明	—	—	A III	
5	土師器	甕	フク土	22.0	28.7	6.4	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラケズリ	ヨコナデ	ヘラナデ	ヘラナデ	砂底	A I d	
6	土師器	甕	カマド フク土	(20.0)	(7.2)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
7	土師器	甕	3層	—	(7.9)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-9
8	土師器	坏	床面	11.8	5.4	4.4	ロクロ?	ロクロ?	ロクロ?	ロクロ?	ロクロ?	ロクロ	不明	B II b	外面磨減が激しい
9	土師器	坏	フク土	(12.0)	(3.5)	—	ヘラミガキ	ロクロ	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	B I	内面黒色処理
10	土師器	坏	フク土	—	(5.0)	(2.3)	—	—	ロクロ?	—	—	ロクロ?	不明	B II	P-43
11	土師器	坏	カマドフク土 床面	—	(3.8)	(7.2)	—	—	不明	—	—	不明	ナデツケ	A	内外面輪積痕 P-16、25

図178 第361号竪穴住居跡出土遺物(2)



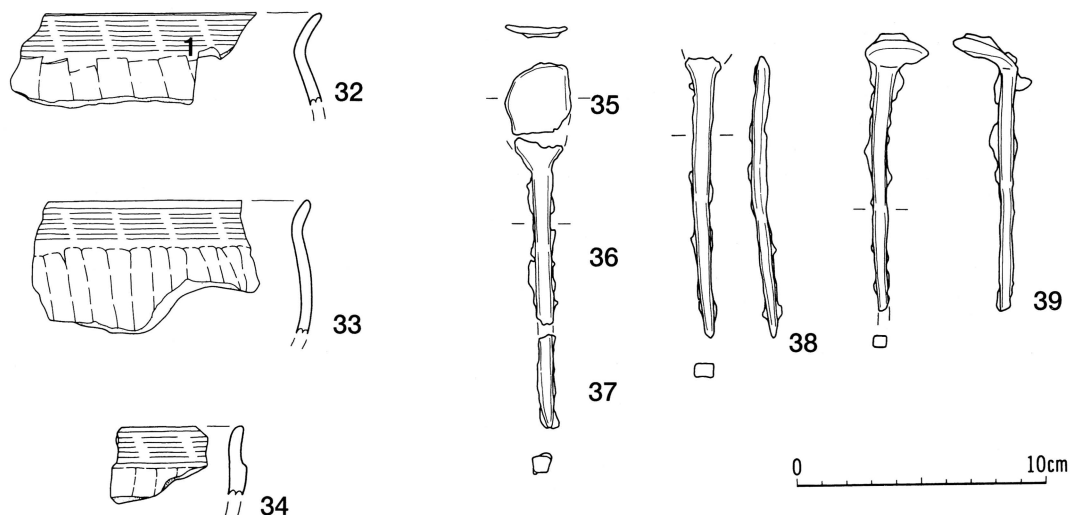
図版 番号	種 類	器 種	出土層位	計 測 値 (cm)			外 面 調 整			内 面 調 整			底面調整	分 類	備 考
				口 径	器 高	底 径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
12	土師器	甕	カマド フク土	12.4	13.4	6.6	ハラナデ	ハラナデ	ハラナデ	ハラナデ	ハラナデ	ハラナデ	砂底 一部剥落	All e	
13	土師器	甕	フク土	(16.0)	(8.4)	—	ヨコナデ	ハラナデ	—	ヨコナデ	ハラナデ	—	—	A	
14	土師器	甕	フク土	(18.0)	(5.8)	—	ヨコナデ	ハラナデ	—	ハラナデ	ハラナデ	—	—	A	
15	土師器	甕	カマド フク土	(20.2)	(7.9)	—	ヨコナデ	ハラケズリ	—	ヨコナデ	ハラナデ	—	—	A	P-27、34
16	土師器	甕	2層・3層	(23.6)	(23.8)	—	ロクロ	ロクロ ハラケズリ	—	ロクロ	ハラナデ	—	—	B I	P-3、4、10
17	土師器	甕	フク土	—	(13.2)	—	—	不明	—	—	不明	—	—	—	製塩土器
18	土師器	甕	カマド フク土	(20.0)	(6.7)	—	ヨコナデ	ハラナデ	—	ヨコナデ	ハラナデ	—	—	A	

図179 第361号竪穴住居跡出土遺物 (3)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
19	土師器	甕	フク土	—	(7.5)	(8.0)	—	—	不明	—	—	ヘラナデ	砂底	A	外面粘土附着
20	土師器	甕	カマド フク土	—	(3.9)	10.0	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-29
21	土師器	甕	フク土	—	(6.7)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
22	土師器	甕	1層	(15.0)	(5.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ?	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	外面粘土附着 P-6
23	土師器	甕	カマド フク土	—	(3.2)	(7.6)	—	—	ヘラナデ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P5、7
24	土師器	甕	フク土	—	(6.1)	(7.0)	—	—	ヘラナデ?	—	—	ヘラナデ?	ヘラナデ	A	
25	土師器	甕	フク土	(12.0)	(5.6)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	輪積痕
26	土師器	甕	3層	(18.0)	(4.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	
27	土師器	甕	カマド フク土	—	(3.7)	6.2	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	P-11
28	土師器	甕	フク土	—	(5.2)	(10.0)	—	—	ヘラケズリ	—	—	ヘラナデ	砂底	A	
29	須恵器	坏	フク土	—	(2.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	外面火ダスキ痕
30	須恵器	壺	1層	—	(2.6)	6.5	—	—	ケズリ	—	—	ロクロ	切離し ヘラナデ	—	底部内面ヘラケズリ痕 P-35
31	土師器	甕	フク土	(10.0)	(11.2)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	

図180 第361号竪穴住居跡出土遺物(4)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
32	土師器	甕	カマド フク土	—	(3.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
33	土師器	甕	1層	(14.0)	(5.4)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヘラナデ	ヘラナデ	—	—	A	P-1
34	土師器	甕	フク土	—	(3.0)	—	ヨコナデ ヘラナデ	—	—	ヘラナデ?	—	—	—	A	

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
35	3層	7.4	0.7	0.7	11.2	釘	Fe-2
36	3層	3.8	0.6	0.7	2.2	釘	Fe-2
37	3層	2.8	2.5	0.5	4.2	釘	Fe-2
38	1層	11.3	0.8	0.6	12.1	釘	Fe-3
39	2層	11.1	0.6	0.5	15.6	釘	Fe-1

図181 第361号竪穴住居跡出土遺物 (5)

第361号竪穴住居跡 (図177～図181)

[位置] NF・NG-455・456グリッドに位置する。

[重複] 認められなかった。

[平面形・規模] 東壁 3 m40cm、西壁 3 m54cm、南壁 2 m70cm、北壁 2 m90cmの南北に長い長方形である。床面積は9.09㎡である。主軸方位はN-84°-Eである。

[壁・床面] 壁高は、東壁32cm、西壁56cm、南壁48cm、北壁28cmである。床面はほぼ平坦である。

[周溝] 幅9～33cm、深さ3～15cmの周溝が西壁・南壁の一部に断片的に巡る。

[ピット] ピットは床面で1つ、床下で2つ検出されたが、柱穴とは考えられない。

[カマド] 東壁南側に構築されている。礫を芯材とし、粘土で覆って築かれている。煙道は半地下式で、住居外に1 mのびる。煙道底面は煙出しに向かって急勾配で上昇する。カマドの下に74×30cm、深さ50cmの砂利が堆積する不整な楕円形のピット3が検出された。

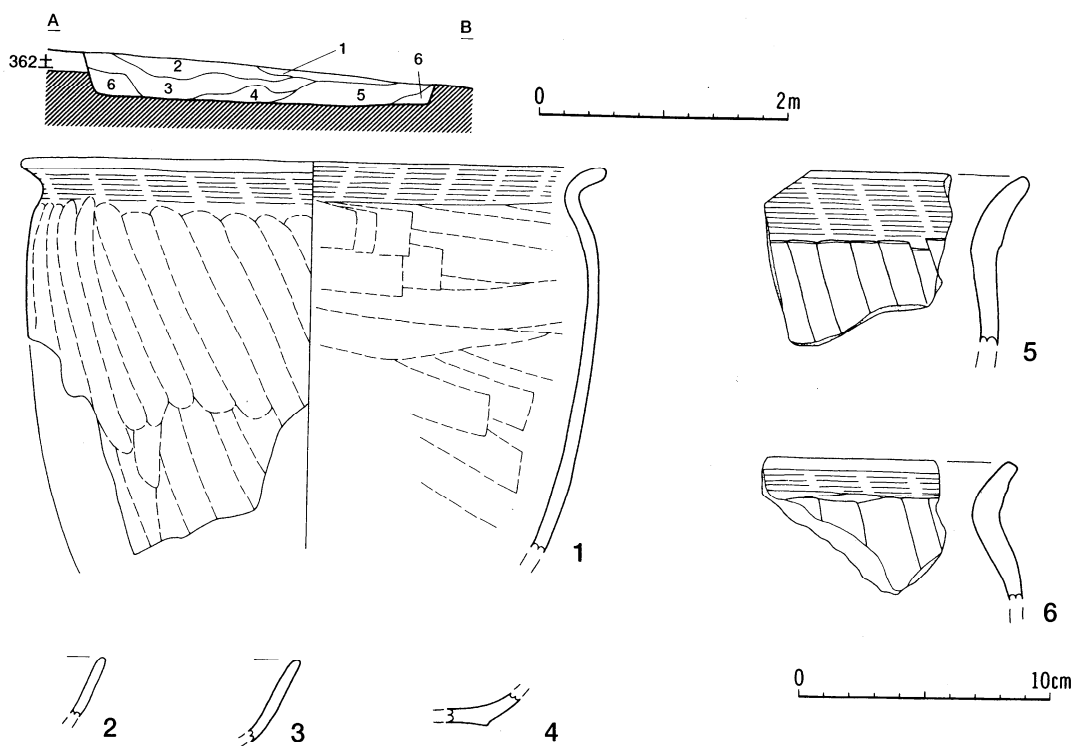
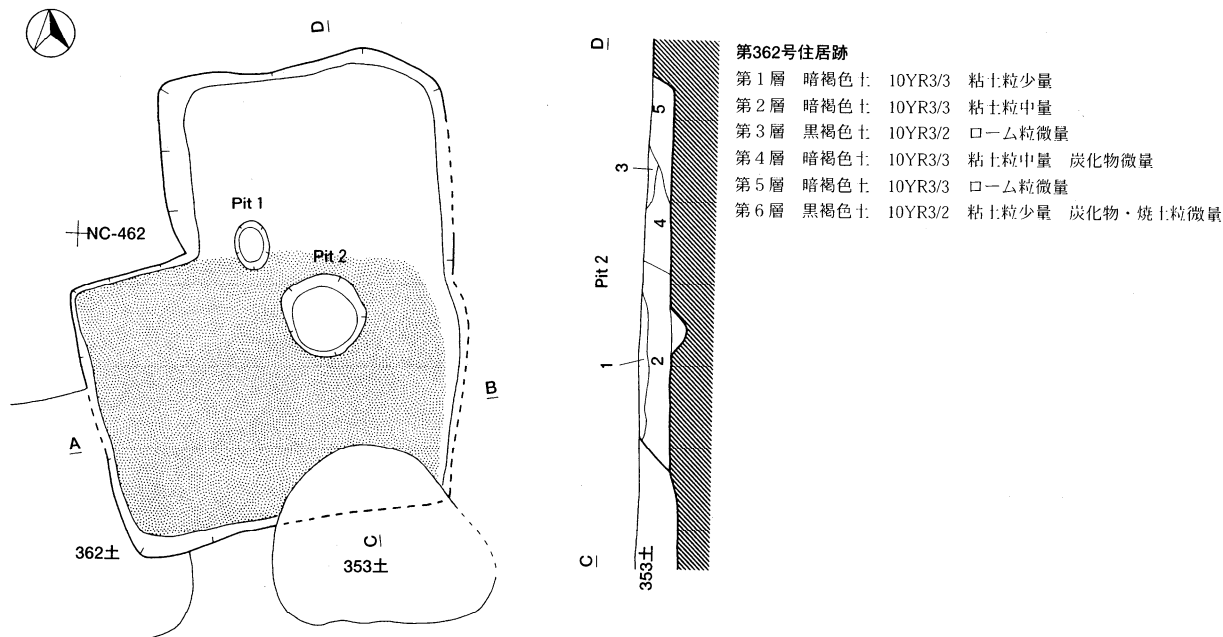
[その他の施設] 東壁やや南側に径36cm、深さ10cmの円形のピット1が検出された。床下から96×72cm、深さ13cmの不整な楕円形のピット2が検出された。

[堆積土] 5層に分層され、5層は焼土を多く含む層である。床面直上で焼土・炭化物が検出されており、焼失家屋の可能性はある。

[出土遺物] 土師器の坏・甕・小型土器、須恵器の坏・壺のほかに釘が3点出土している。

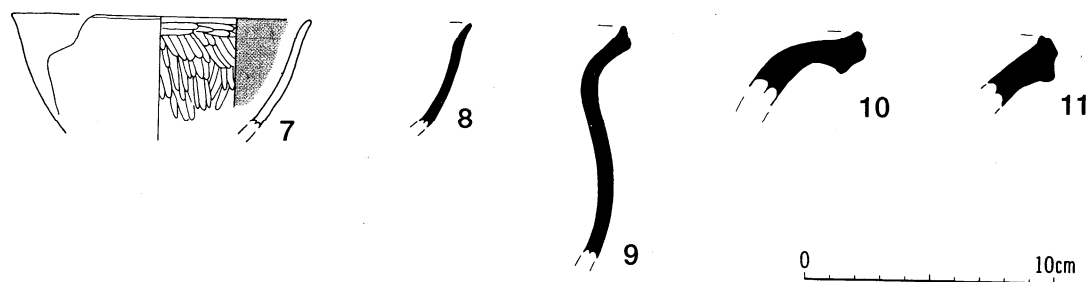
[時 期] 出土遺物から、9世紀後半から10世紀前半に構築されたと考えられる。

(田中珠美)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	甕	フク土	(23.4)	(15.8)	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	ヨコナデ	ヘラナデ	—	—	A	
2	土師器	坏	フク土	—	(2.5)	—	ロクロ	—	—	ヘラミガキ	—	—	—	B I	内面黒色処理
3	土師器	坏	フク土	—	(3.3)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	B II	
4	土師器	坏	フク土	—	(1.3)	—		ロクロ?	—	—	—	ロクロ?	回転糸切り	B II	
5	土師器	甕	フク土	—	(7.0)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ?	ヘラナデ	—	—	A	
6	土師器	甕	フク土	(21.0)	(5.5)	—	ヨコナデ	ヘラケズリ	—	ヨコナデ?	ヘラナデ	—	—	A	

図182 第362号竪穴住居跡出土遺物 (1)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
7	土師器	坏	フク土	(12.0)	(4.5)	—	不明	不明	—	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	—	B1?	内面黒色処理
8	須恵器	坏	フク土	—	(4.3)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	外面火ダスキ痕
9	須恵器	甕	フク土	—	(9.4)	—	ロクロ	ロクロ	—	ロクロ	ロクロ	—	—	—	内面に繊維附着 P-7
10	須恵器	甕	フク土	—	(3.0)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	P-3
11	須恵器	甕	フク土	—	(2.9)	—	ロクロ	—	—	ロクロ	—	—	—	—	自然釉

図183 第362号竪穴住居跡出土遺物 (2)

第362号竪穴住居跡 (図182・図183)

[位置] NC-461・462グリッドに位置する。

[重複] 第353号・第362号土坑と重複し、第362号土坑より新しく、第353号土坑より古い。

[平面形・規模] 東壁 2 m30cm、西壁 2 m20cm、南壁 2 m55cm、北壁 3 m 5 cmのL字形を呈する。床面積は8.12㎡である。床面に若干の違いがみられ、張り出しをもつ住居跡ではなく、2つの土坑(竪穴遺構)が重複している可能性も考えられる。

[壁・床面] ほぼ平坦である。南側の床面はややしまりがあるが、北側ではあまりしまりがない。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] ピットは2つ検出されたが、柱穴とは考えられない。

[カマド] 検出されなかった。

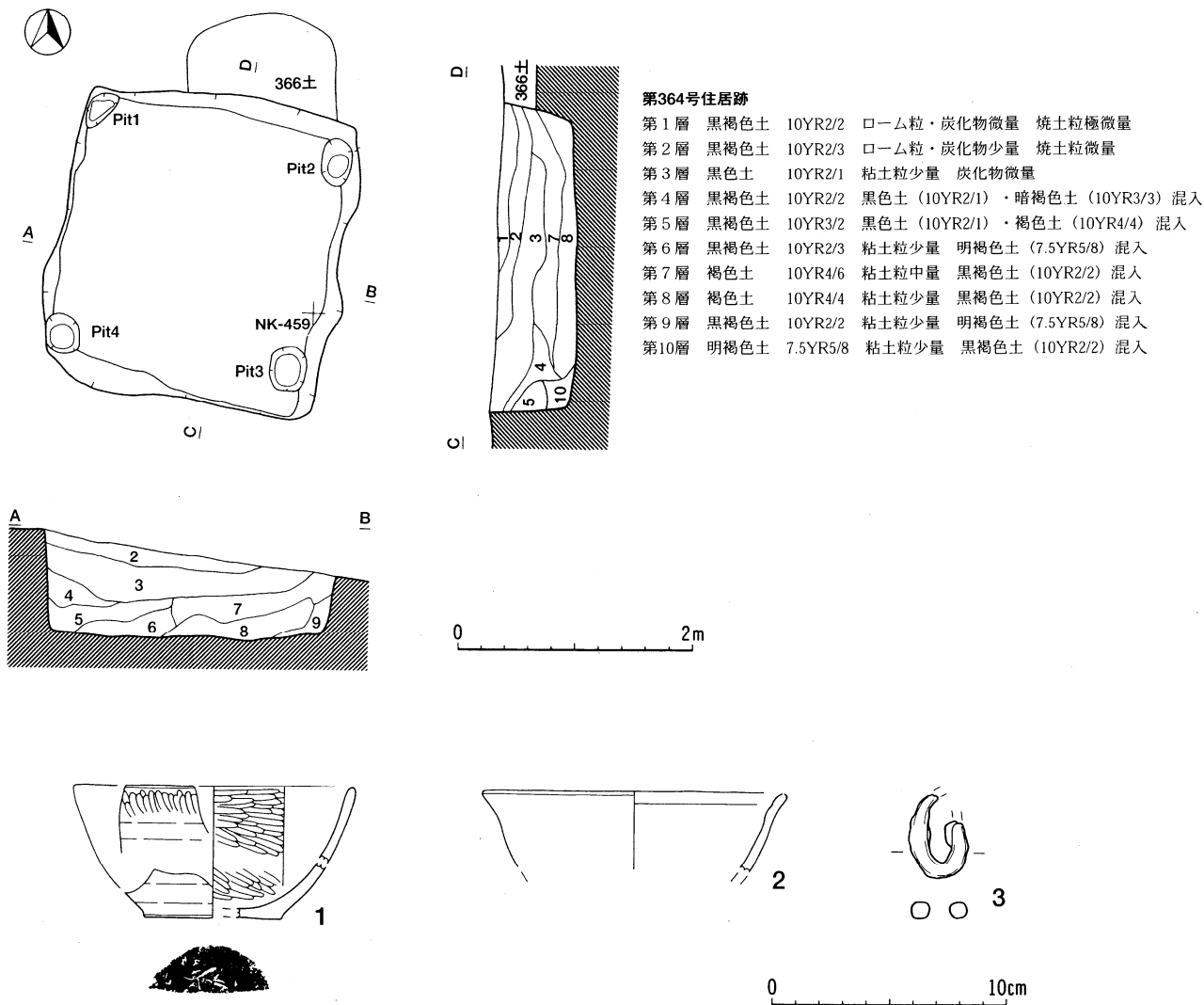
[その他の施設] 住居ほぼ中央に38×27cm、深さ13cmの楕円形のピット1、径35cm、深さ17cmも不整な円形のピット2が検出された。

[堆積土] 10層に分層される。暗褐色土を主体とし、全体的に粘土が混入する。

[出土遺物] 土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕・小型甕が出土している。

[時期] 出土遺物から、9世紀後半から10世紀前半に構築されたと考えられる。

(田中珠美)



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	(12.0)	(5.6)	(5.8)	ヘラミガキ	ロクロ	ロクロ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	ヘラミガキ	—	B1b	内面黒色処理
2	土師器	坏	フク土	(13.0)	(3.4)	—	不明	不明	—	不明	不明	—	—	B11?	

図版番号	出土層位	計測値 (cm)			重さ (g)	種類	備考
		長さ	幅	厚さ			
3	フク土	3.5	2.5	0.7	6.9	鈎状	

図184 第364号竪穴住居跡・出土遺物

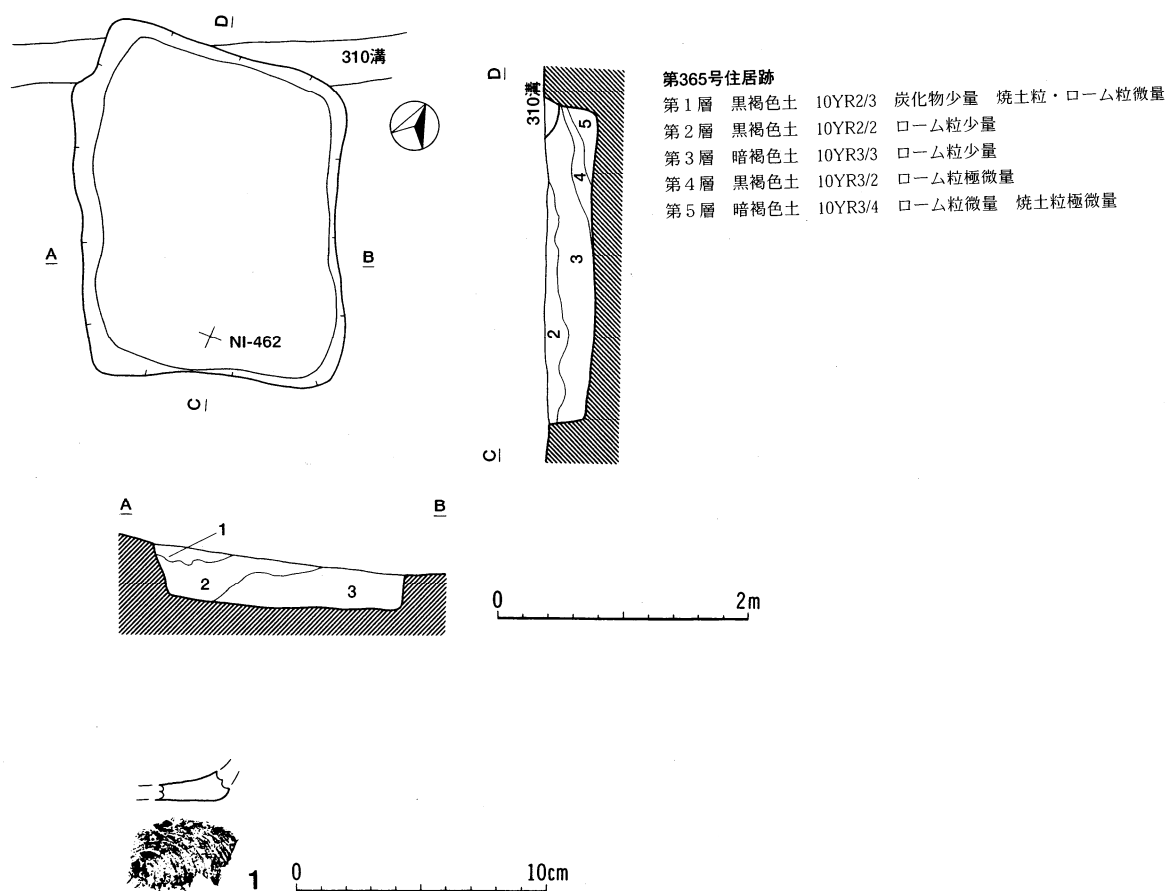
第364号竪穴住居跡 (図184)

[位置] NK・NL-459・460グリッドに位置する。

[重複] 第366号土坑と重複し、本住居跡が新しい。

[平面形・規模] 東壁2m55cm、西壁2m40cm、南壁2m23cm、北壁2m30cmのほぼ方形である。床面積は5.23㎡である。

[壁・床面] 壁高は、東壁47cm、西壁86cm、北壁62cm、南壁68cmである。床面は粘土の貼床が施され、ほぼ平坦である。



図版番号	種類	器種	出土層位	計測値 (cm)			外面調整			内面調整			底面調整	分類	備考
				口径	器高	底径	口縁部	体部上半	体部下半	口縁部	体部上半	体部下半			
1	土師器	坏	フク土	—	—	—	—	—	不明	—	—	ロクロ	糸切り	B II	

図185 第365号竪穴住居跡・出土遺物

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] 四隅に径25~40cm、深さ15~30cmのピットが検出され、柱穴と考えられる。

[カマド] 検出されなかった。

[その他の施設] 検出されなかった。

[堆積土] 10層に分層される。黒褐色土を主体とするが、褐色土が混在する。堆積土全体にロームが多く含まれ、人為堆積である。

[出土遺物] 覆土から土師器の坏、環状鉄製品が出土している。

[時期] 出土遺物から、9世紀後半に構築されたと考えられる。

(田中珠美)

第365号竪穴住居跡 (図185)

[位置] NH・NI-461・462グリッドに位置する。

[重複] 第310号溝と重複し、本住居跡が古い。

[平面形・規模] 東壁2m35cm、西壁2m80cm、南壁2m、北壁1m97cmの北西隅が張り出した南北に長い長方形である。床面積は4.43㎡である。

[壁・床面] 壁高は、東壁26cm、西壁45cm、南壁34cm、北壁42cmである。床面はロームと粘土が混じった掘り方を踏みしめており、西から東へやや傾斜している。

[周溝] 検出されなかった。

[ピット] 検出されなかった。

[カマド] 検出されなかった。

[その他の施設] 検出されなかった。

[堆積土] 5層に分層され、黒褐色土を主体とする。人為堆積である。

[出土遺物] 覆土から土師器の坏が出土している。

[時期] 時期は不明である。

(田中珠美)

青森県埋蔵文化財調査報告書 第264集

野 木 遺 跡 II (第1分冊)

青森中核工業団地整備事業に伴う遺跡発掘調査報告

発行年月日 平成11年3月31日

発 行 青森県教育委員会

〒030-0801

青森市新町2丁目3番1号

電話0177-22-1111 (代表)

編 集 青森県埋蔵文化財調査センター

〒038-0042

青森市新城字天田内152-15

電話0177-88-5701 FAX. 0177-88-5702

印 刷 所 青森コロニー印刷

〒030-0943

青森市幸畑字松元62-3

電話0177-38-2021 FAX. 0177-38-6753



活彩あおもり
—輝くあおもり新時代—